公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（35）

東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

細山田段（ほそやまだだん）遺跡２

（鹿屋市串良町・曽於郡大崎町）

縄文時代前・中期編

第１分冊

2021年３月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター



遺跡全景



細山田段遺跡出土土器



細山田段遺跡出土土器（575）

序　　文

この報告書は，鹿屋市串良町細山田及び曽於郡大崎町持留に所在する細山田段遺跡の縄文時代前期～中期の発掘調査の記録です。遺跡は東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）の建設に伴って，鹿児島県立埋蔵文化財センターが平成24年度に確認調査を行い，平成25～27年度にかけて公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施し，平成26～28・30・31年度（令和元年度）・令和２年度に整理作業と報告書作成を行いました。

細山田段遺跡は，縄文時代早期～古墳時代の複合遺跡ですが，なかでも，縄文時代前期～中期の遺構・遺物はきわめて充実しており，出土した深浦式土器は第一級の資料とされ，南九州の縄文時代研究において当該期の文化と社会を解明する手掛かりとなるものと期待されています。

本報告書が県民の皆様や研究者をはじめとした多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心と御理解をいただくとともに，文化財保護の一助となれば幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書刊行まで御協力をいただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所，地元の教育委員会等の関係機関並びに発掘調査や報告書刊行において御指導をいただきました方々に対しまして厚くお礼申し上げます。

令和３年３月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
センター長　　中原　　一成

報　告　書　抄　録

ふりがな	ほそやまだだんいせき２　じょうもんじだいぜん・ちゅうきへん
書名	細山田段遺跡２（縄文時代前・中期編）
副書名	東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第35集
編集者名	平木場秀男　森えりこ
編集機関	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576
発行年月	西暦2021年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
ほそやまだだんいせき 細山田段遺跡	かごしまけん 鹿児島県 かのやし 鹿屋市 くしらちょう 串良町 そおぐん 曽於郡 おおさきちょう 大崎町	46203 46468	203-304 468-52	31° 26′ 43″	130° 57′ 11″	確認調査 2012.8.20～ 2012.12.14 本調査 ①2013.9.17～ 2014.3.14 ②2014.5.8～ 2015.2.25 ③2015.5.8～ 2015.10.28	15,450	東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
細山田段遺跡	散布地	縄文時代前期		曽畑式土器	
		縄文時代前期末～中期	土坑　178基 土器集中　18か所	深浦式土器，野久尾式土器 大歳山式土器 船元式土器 阿高式土器 石鏃，石匙，石錐，楔形石器 スクレイパー 二次加工剥片，玦状耳飾 磨製石斧，打製石斧，石錘 磨石・敲石，石皿，砥石 石核，原石 炭化種実	

遺跡の概要

本遺跡は縄文時代早期～古墳時代の複合遺跡で，各時代の貴重な遺構や遺物が確認されている。

今回報告する縄文時代前期・中期については，170を超える土坑が検出され，大量の深浦式土器が出土するなど当該時期の遺構・遺物が充実している。深浦式土器は日木山・石峰・鞍谷の各段階が確認でき，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土するなど，当時の遠隔地交流の一端が明らかになった。本遺跡は南九州の縄文時代前期・中期研究にとってきわめて重要な位置を占める遺跡である。


大崎町
東串良町
細山田段遺跡
大佐土原
上持留
黒石
二子塚
持留
中持留
下持留
山王段
西持留
平瀬
下中
山堀
下之段
東新堀
露島神社
下原
中野
岩弘上
大崎町
鹿屋市
鹿児島県
0
100km
0
1000km
0
(1:25000)
1km

細山田段遺跡位置図

例　言

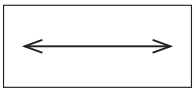
1　本書は，東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う細山田段遺跡（縄文時代前・中期）の発掘調査報告書である。
2　細山田段遺跡は，鹿児島県鹿屋市串良町細山田及び曽於郡大崎町持留に所在する。
3　細山田段遺跡は，発掘調査当時は「京の塚遺跡」と呼称して取り扱っていた。しかし，平成27年度に鹿児島県教育庁文化財課が実施した県内遺跡の見直しを踏まえて，名称を「京の塚遺跡」から「細山田段遺跡」に変更し，報告書を刊行した。
4　調査は，国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所から鹿児島県教育委員会が受託し，公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，「埋文調査センター」という。）へ調査委託を行い，埋文調査センターが実施した。
5　発掘調査事業は，平成25年度から平成27年度まで埋文調査センターが実施した。
6　整理・報告書作成事業は，平成26年度・平成28年度及び平成30年度～令和２年度に埋文調査センター第一整理作業所で実施した。
7　掲載遺物番号は通し番号であり，本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
8　掲載遺構番号は遺構の種類毎に番号を付し，本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。
9　遺物注記等で用いた遺跡記号は，発掘調査当時は「京の塚遺跡」と呼称していたことから「ＫＹＤ」としてある。
10　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。
11　本書で使用した方位は，全て磁北である。
12　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，主として調査担当者が行い，遺構実測の一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し，調査担当者が監修した。また，空中写真の撮影は，有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
13　本書に係る遺構図・遺物出土状況図及びトレースは元田順子・三垣恵一・立神倫史・森えりこが整理作業員の協力を得て作成した。
14　本書に係る出土遺物の実測・トレースは，立神・相良典隆・森が整理作業員の協力を得て行った。また，遺物実測の一部を大福コンサルタント株式会社，株式会社パスコ，国際文化財株式会社，株式会社イビソクに委託し，元田・三垣・鶴田静彦・森が監修した。
15　出土遺物の写真撮影は，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，「県立埋文センター」という。）写場にて，埋文調査センターの西園勝彦，黒川忠広，加世田尊が行った。
16　自然科学分析は，放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボ，株式会社加速器分析研究所，パリノ・サーヴェイ株式会社，安定同位体比測定分析を株式会社パレオ・ラボに，種実同定を株式会社加速器分析研究所，石材産地推定を株式会社パレオ・ラボ，有限会社遺物材料研究所に委託した。赤色顔料分析は，県立埋文センター分析室にて武安雅之が行った。
17　本書の編集は平木場秀男・森が担当し，執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ～Ⅲ章			平木場
第Ⅳ章	第１節		森
	第２節	１	森
		２	森・相良
	第３節	１	立神
		２	森・平木場
第Ⅴ章			平木場
第Ⅵ章			立神・森

18　本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は埋文センターで保管し，展示・活用を図る予定である。

凡　例

1　本報告書掲載の遺構配置図・遺物出土状況図は１グリッド（１マス）が10m四方であり，各図に縮尺を提示してある。
2　遺構
（1）遺構図の縮尺は，以下のとおりである。
　　土坑：１/30　　土器集中：１/20
（2）遺構図の断面については，平面図と同縮尺とした。
（3）遺構番号については，各遺構ごとの通し番号とし，調査時の番号から報告書掲載順に付け替えた。
3　掲載遺物の縮尺は，土器が１/３，石器は石鏃など小型のものを１/１，石斧など中型のものを１/２，礫石器など大型のものを１/３または１/４を基本としたが，詳細は各図に提示してある。
4　石器の石材については，第Ⅲ章第４表のとおり分類した。なお，石材分類及び産地比定は肉眼観察をもとに行った。
5　石器実測図の表現については，以下のとおりである。


礫石器：磨面の範囲

総目次

【第１分冊】

巻頭図版１
巻頭図版２
巻頭図版３
序文
報告書抄録
細山田段遺跡位置図
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯
　第２節　整理・報告書作成業務
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
　第３節　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡
第Ⅲ章　調査の方法と層序
　第１節　調査の方法
　第２節　層序
第Ⅳ章　発掘調査の成果
　第１節　縄文時代前・中期の調査
　第２節　遺構
　　１　土坑
　　２　土器集中

【第２分冊】

　第３節　遺物
　　１　土器
　　２　石器
第Ⅴ章　自然科学分析
　第１節　自然科学分析の概要
　第２節　放射性炭素年代測定
　第３節　放射性炭素年代測定及び安定同位体比分析
　第４節　種実同定
　第５節　蛍光Ｘ線分析
　第６節　石材産地推定
　第７節　細山田段遺跡出土の赤色顔料について
第Ⅵ章　総括
　第１節　遺構
　第２節　遺物
　第３節　放射性炭素年代測定
　第４節　まとめ

【第３分冊】

写真図版

第１分冊目次

巻頭図版１
巻頭図版２
巻頭図版３
序文
報告書抄録
細山田段遺跡位置図
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　発掘調査の経過…… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯…… 1
　第２節　整理・報告書作成業務…… 1
　　１　整理・報告書作成体制…… 3
　　２　整理・報告書作成作業の内容…… 3
　　３　整理・報告書作成作業の経過…… 4
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境…… 6
　第１節　地理的環境…… 6
　第２節　歴史的環境…… 6
　第３節　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡…… 10
第Ⅲ章　調査の方法と層序…… 15
　第１節　調査の方法…… 15
　　１　発掘調査の方法…… 15
　　２　遺構の認定と検出方法…… 15
　　３　整理・報告書作成作業の方法及び内容…… 16
　　４　出土遺物の分類…… 17
　第２節　層序…… 20
第Ⅳ章　発掘調査の成果…… 26
　第１節　縄文時代前・中期の調査…… 26
　　１　調査の概要…… 26
　第２節　遺構…… 26
　　１　土坑…… 26
　　２　土器集中……179

挿図目次

第１図　年度別調査範囲図…… 2
第２図　周辺遺跡位置図…… 8
第３図　東九州自動車道関連遺跡位置図…… 14
第４図　土器分類一覧表１…… 17
第５図　土器分類一覧表２…… 18
第６図　基本土層図…… 20
第７図　土層断面位置図…… 20
第８図　土層断面図１（Ｇ～Ｉ－13区）…… 21
第９図　土層断面図２（Ｇ～Ｊ－17区①）…… 21
第10図　土層断面図３（Ｇ～Ｊ－17区②）…… 22
第11図　土層断面図４（Ｉ－14～16区）…… 22
第12図　土層断面図５（Ｊ－18～22区）…… 23
第13図　土層断面図６（Ｈ－４～７区）…… 24
第14図　土層断面図７（Ｅ－16～20区①）…… 24
第15図　土層断面図８（Ｅ－16～20区②）…… 25
第16図　土層断面図９（Ｅ－21～24区）…… 25
第17図　土坑の各部の名称…… 26
第18図　縄文時代前・中期全遺構配置図…… 27
第19図　縄文時代前・中期土坑配置図①…… 28
第20図　縄文時代前・中期土坑配置図②…… 29
第21図　縄文時代前・中期土坑配置図③…… 30
第22図　土坑１（１号・２号）…… 32
第23図　土坑２（３号・４号）…… 33
第24図　土坑３（５号）…… 34
第25図　土坑４（６号・７号・８号）…… 35
第26図　土坑５（９号）…… 36
第27図　土坑６（10号・11号）…… 37
第28図　土坑７（12号・13号・14号・15号）…… 39
第29図　土坑８（16号・17号）…… 40
第30図　土坑９（18号）…… 41
第31図　土坑10（19号）…… 42
第32図　土坑11（20号・21号・22号）…… 43
第33図　土坑12（23号・24号）…… 44
第34図　土坑13（25号・26号・27号・28号）…… 45
第35図　土坑14（29号・30号・31号）…… 46
第36図　土坑15（31号出土遺物①）…… 47
第37図　土坑16（31号出土遺物②）…… 48
第38図　土坑17（32号・33号）…… 50
第39図　土坑18（34号・35号・36号）…… 51
第40図　土坑19（37号・38号・39号）…… 52
第41図　土坑20（40号・41号・42号）…… 53
第42図　土坑21（43号・44号）…… 54
第43図　土坑22（44号出土遺物）…… 55
第44図　土坑23（45号・46号）…… 57
第45図　土坑24（47号・48号・49号）…… 58
第46図　土坑25（50号・51号）…… 59
第47図　土坑26（51号出土遺物）…… 60
第48図　土坑27（52号・53号・54号）…… 62
第49図　土坑28（55号・56号）…… 64
第50図　土坑29（57号）…… 65
第51図　土坑30（57号出土遺物）…… 66
第52図　土坑31（58号）…… 67
第53図　土坑32（59号・60号）…… 68
第54図　土坑33（60号出土遺物）…… 69
第55図　土坑34（61号）…… 70
第56図　土坑35（62号）…… 71
第57図　土坑36（63号）…… 73
第58図　土坑37（64号・65号）…… 74
第59図　土坑38（66号・67号・68号）…… 75
第60図　土坑39（69号・70号）…… 76
第61図　土坑40（71号・72号・73号）…… 77
第62図　土坑41（74号）…… 78
第63図　土坑42（75号）…… 79
第64図　土坑43（76号）…… 80
第65図　土坑44（76号出土遺物）…… 81
第66図　土坑45（77号）…… 82
第67図　土坑46（77号出土遺物）…… 83
第68図　土坑47（78号）…… 84
第69図　土坑48（79号）…… 85
第70図　土坑49（80号・81号）…… 87
第71図　土坑50（82号・83号）…… 88
第72図　土坑51（84号）…… 89
第73図　土坑52（85号・86号・87号・88号）…… 90
第74図　土坑53（85号・86号・87号・88号出土遺物）　91
第75図　土坑54（89号）…… 92
第76図　土坑55（90号・91号）…… 93
第77図　土坑56（92号・93号・94号）…… 95
第78図　土坑57（95号）…… 96
第79図　土坑58（95号出土遺物）…… 97
第80図　土坑59（96号・97号）…… 98
第81図　土坑60（98号・99号）…… 99
第82図　土坑61（100号・101号）……100

第83図　土坑62（102号・103号）……102
第84図　土坑63（104号・105号）……103
第85図　土坑64（106号・107号）……104
第86図　土坑65（108号・109号・110号）……105
第87図　土坑66（111号・112号・113号・114号）……106
第88図　土坑67（115号・116号）……107
第89図　土坑68（117号・118号）……108
第90図　土坑69（119号）……109
第91図　土坑70（119号出土遺物）……110
第92図　土坑71（120号・121号・122号・123号）……111
第93図　土坑72（124号・125号・126号・127号・128号）113
第94図　土坑73（129号・130号）……114
第95図　土坑74（131号・132号）……115
第96図　土坑75（133号）……116
第97図　土坑76（134号）……117
第98図　土坑77（135号・136号）……118
第99図　土坑78（137号・138号・139号）……119
第100図 土坑79（140号・141号）……120
第101図 土坑80（141号出土遺物）……121
第102図 土坑81（142号）……123
第103図 土坑82（143号・144号）……124
第104図 土坑83（145号・146号・147号）……125
第105図 土坑84（148号）……126
第106図 土坑85（149号・150号・151号・152号）……127
第107図 土坑86（152号出土遺物）……129
第108図 土坑87（153号）……130
第109図 土坑88（153号出土遺物）……131
第110図 土坑89（154号）……133
第111図 土坑90（155号・156号）……134
第112図 土坑91（155号・156号出土遺物）……135
第113図 土坑92（157号）……136
第114図 土坑93（157号出土遺物）……138
第115図 土坑94（158号・159号）……139
第116図 土坑95（158号・159号出土遺物）……140
第117図 土坑96（160号）……141
第118図 土坑97（161号・162号）……142
第119図 土坑98（163号・164号・165号）……144
第120図 土坑99（166号）……145
第121図 土坑100（167号・168号）……146
第122図 土坑101（169号・170号）……148
第123図 土坑102（169号・170号出土遺物①）……149
第124図 土坑103（169号・170号出土遺物②）……150
第125図 土坑104（169号・170号出土遺物③）……151
第126図 土坑105（169号・170号出土遺物④）……152
第127図 土坑106（171号）……153
第128図 土坑107（172号）……154
第129図 土坑108（172号出土遺物①）……155
第130図 土坑109（172号出土遺物②）……156
第131図 土坑110（173号・174号）……157
第132図 土坑111（175号）……158
第133図 土坑112（175号出土遺物）……159
第134図 土坑113（176号・177号）……160
第135図 土坑114（178号）……161
第136図 土器集中エリア別配置図１……180
第137図 土器集中エリア別配置図２……181
第138図 土器集中１（１～４号土器集中）……182
第139図 土器集中２（１・２号土器集中出土土器）…183
第140図 土器集中３（３号土器集中出土土器）……184
第141図 土器集中４（４号土器集中出土土器）……186
第142図 土器集中５（５・６号土器集中）……187
第143図 土器集中６（５号土器集中出土土器①）……188
第144図 土器集中７（５号土器集中出土土器②）……189
第145図 土器集中８（５号土器集中出土土器③）……190
第146図 土器集中９（６号土器集中出土土器①）……191
第147図 土器集中10（６号土器集中出土土器②）……192
第148図 土器集中11（６号土器集中出土土器③）……193
第149図 土器集中12（７号土器集中）……194
第150図 土器集中13（７号土器集中出土土器①）……195
第151図 土器集中14（７号土器集中出土土器②）……196
第152図 土器集中15（７号土器集中出土土器③）……197
第153図 土器集中16（８・９号土器集中）……198
第154図 土器集中17（８号土器集中出土土器①）……199
第155図 土器集中18（８号土器集中出土土器②）……200
第156図 土器集中19（９号土器集中出土土器①）……201
第157図 土器集中20（９号土器集中出土土器②）……202
第158図 土器集中21（10～13号土器集中）……203
第159図 土器集中22（10・11号土器集中出土土器）…204
第160図 土器集中23（12・13号土器集中出土土器）…205
第161図 土器集中24（14～16号土器集中）……206
第162図 土器集中25（14号土器集中出土土器）……207
第163図 土器集中26（15・16号土器集中出土土器）…208
第164図 土器集中27（17・18号土器集中）……209
第165図 土器集中28（17号土器集中出土土器）……210
第166図 土器集中29（18号土器集中出土土器①）……211
第167図 土器集中30（18号土器集中出土土器②）……212

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 9
第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡…… 10
第３表　石器分類表…… 19
第４表　石材分類表…… 19
第５表　土坑計測表１……162
第６表　土坑計測表２……163
第７表　土坑計測表３……164
第８表　土坑出土土器観察表１……165
第９表　土坑出土土器観察表２……166
第10表　土坑出土土器観察表３……167
第11表　土坑出土土器観察表４……168
第12表　土坑出土土器観察表５……169
第13表　土坑出土土器観察表６……170
第14表　土坑出土土器観察表７……171
第15表　土坑出土土器観察表８……172
第16表　土坑出土土器観察表９……173
第17表　土坑出土土器観察表10……174
第18表　土坑出土土器観察表11……175
第19表　土坑出土土器観察表12……176
第20表　土坑出土石器観察表１……177
第21表　土坑出土石器観察表２……178
第22表　土器集中出土土器観察表１……213
第23表　土器集中出土土器観察表２……214
第24表　土器集中出土土器観察表３……215

第Ⅰ章　発掘調査の経過

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会（以下，「県教委」という。）は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は，東九州自動車道の建設を計画し，志布志ＩＣ～末吉財部ＩＣ区間の事業の実施に先立って，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下，「文化財課」という。）に照会した。

この照会に伴い文化財課は，平成11年１月に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間を，平成12年２月には志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の埋蔵文化財の分布調査を実施し，50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。

この結果をもとに，事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所，鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室，文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，「県立埋文センター」という。）の４者で協議を重ね対応を検討している最中に日本道路公団民営化の政府方針が提起され，事業の見直しと建設コストの削減も検討することとなった。

このような社会情勢の変化に伴い，遺跡の緻密な把握が要求されることとなり，埋蔵文化財の詳細分布調査，試掘調査，確認調査が実施されることとなった。

そこで，県教委は，平成13年１月29日から２月６日に調査の利便性や面積等を考慮して宮ヶ原遺跡，加治木堀遺跡，石綴遺跡，十三塚遺跡の試掘調査を実施した。さらに，平成13年７月10日から７月26日に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間の工事計画図をもとに33の遺跡について詳細分布調査と，平成13年９月17日から10月26日，平成13年12月３日から12月25日の２期間にわたり各遺跡の調査範囲及び遺物包含層の層数を把握するための試掘調査を実施した。

これらの詳細分布調査や試掘調査に加えて，既に合意されていた本線工事用道路及び側道部分の確認調査も実施することとなり，関山西遺跡，関山遺跡，狩俣遺跡の３遺跡を対象に平成13年10月１日から平成14年３月22日にかけて確認調査を実施した。

平成14年４月及び平成15年11月に志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡について，再度分布調査を実施した。

その後，日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定，平成15年11月に暫定２車線施行に伴う議事確認書締結，同年12月に大隅ＩＣ（平成21年４月28日，「曽於弥五郎ＩＣ」へ名称変更）から末吉財部ＩＣ間の発掘調査協定書締結，平成16年３月に国土交通省九州地方整備局長，日本道路公団九州支社長，鹿児島県知事の間で新直轄方式施行に伴う確認書締結が行われ，工事は日本道路公団が国土交通省から受託し，発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に委託することとなり，これまでの確認書，協定書はそのまま継続するということになった。ただし，日本道路公団からの委託は曽於弥五郎ＩＣまでで終了し，曽於弥五郎ＩＣからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

平成24年度に国土交通省は，平成25年度から東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）の建設工事をさらに推進する意向を示し，発掘調査期間の短縮を要請してきた。

このような状況に対応するため，県教委は関係機関で協議を重ね，職員確保や予算運用が柔軟にでき，発掘調査を円滑的かつ効率的に実施できる財団の設置を決定した。これを受けて，平成25年４月，公益財団法人鹿児島県文化振興財団に埋蔵文化財調査センター（以下，「埋文調査センター」という。）を設置し，国事業に関する業務を鹿児島県文化振興財団へ委託し，県立埋文センターから業務を引き継ぎ実施することとなった。

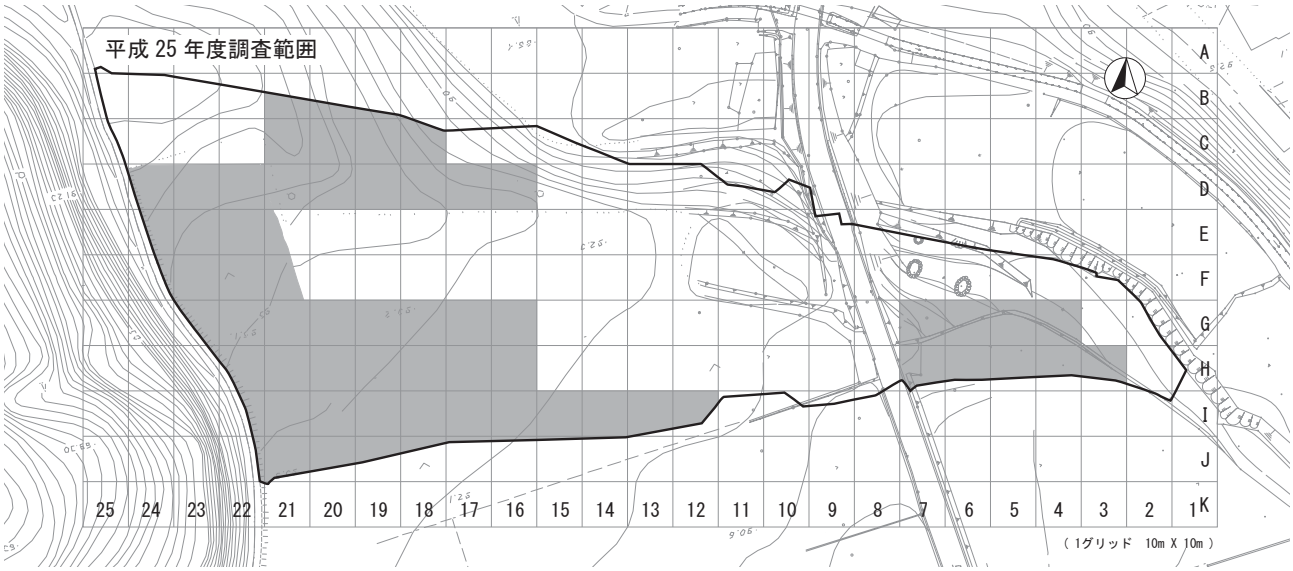
細山田段遺跡の主な発掘調査の経過は，以下のとおりである。

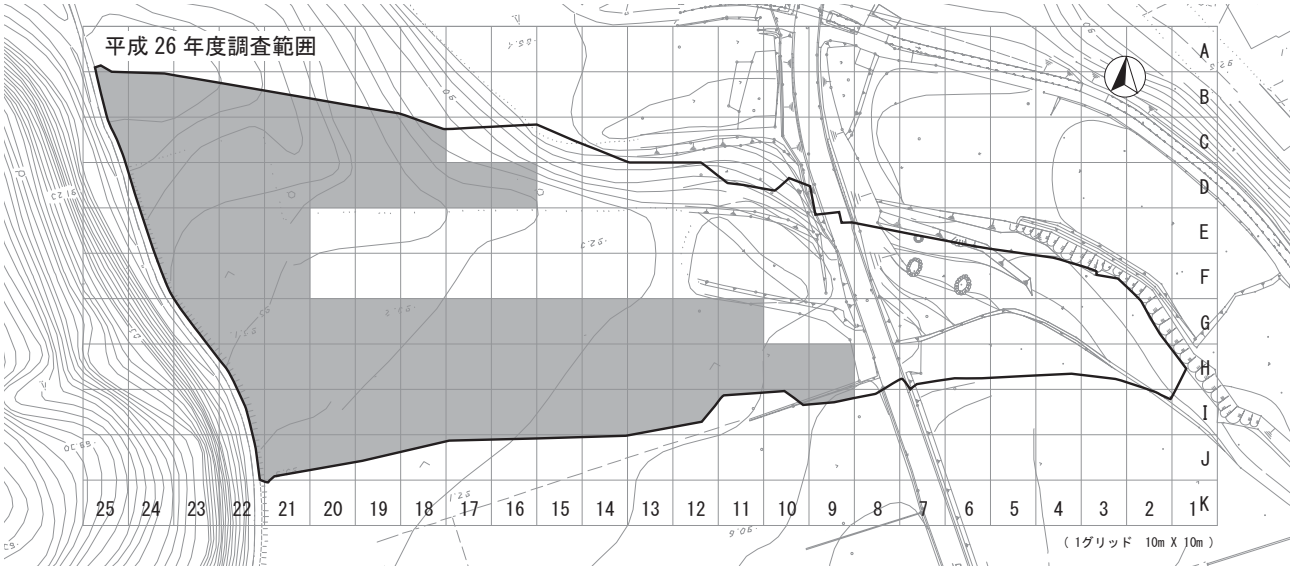
１　分布調査：平成12年２月・平成14年４月・平成15年11月
２　確認調査：平成24年8月～12月
３　本 調 査：平成25年９月～平成26年３月
　　平成26年５月～平成27年２月
　　平成27年５月～10月

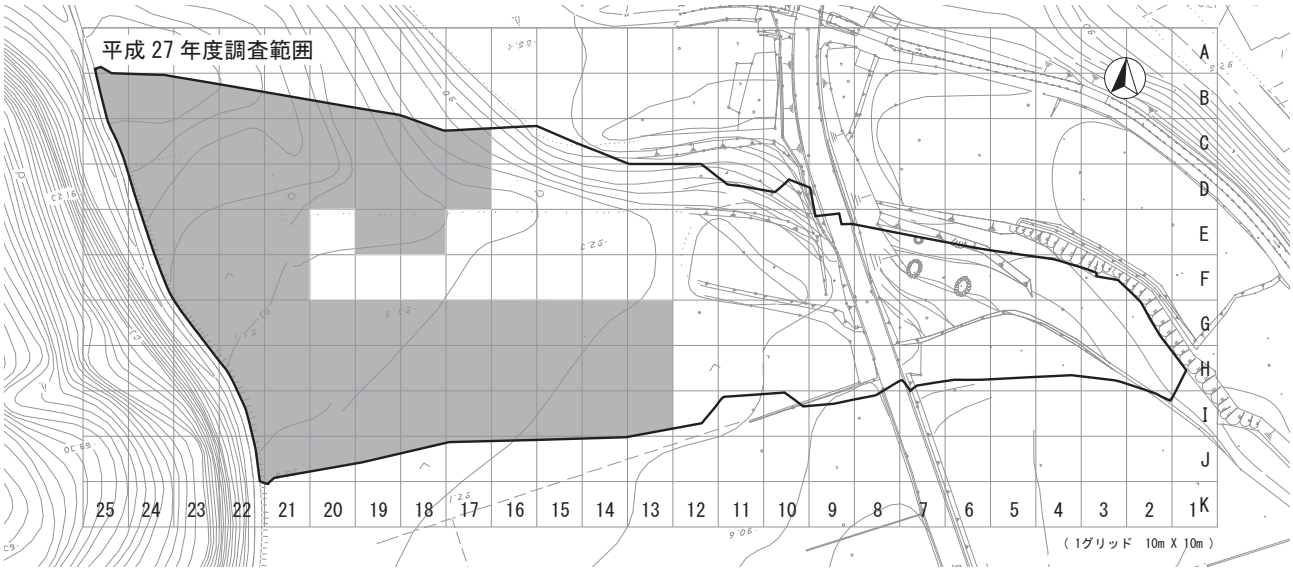
本調査の年度毎の調査範囲は第１図に示した。なお，事前調査及び本調査の詳細や調査体制については，令和元年12月に刊行した「細山田段遺跡１　縄文時代早期及び縄文時代後期以降編」を参照していただきたい。

第２節　整理・報告書作成業務

本報告書に伴う整理・報告書作成業務は県教委から受託した埋文調査センターが平成26・28・30・31年度（令和元度）・令和２年度に埋文調査センター第一整理作業所において実施した。これまでに令和元年12月に「細山田段遺跡１　縄文時代早期及び縄文時代後期以降編」を刊行しており，これらの整理・報告書作成に係る作業体制や作業内容は既刊を確認していただきたい。以下に本編に係る各年度の作成体制等を記す。







第 1 図　年度別調査範囲図

1　整理・報告書作成体制

（1）平成26年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　センター長　堂込　秀人
作成企画　〃　総務課長兼総務係長　山方　直幸
　　〃　調査課長　八木澤一郎
　　〃　調査第一係長　中村　和美
作成担当　〃　調査第一係長　中村　和美
　　〃　文化財専門員　元田　順子
事務担当　〃　主査　岡村　信吾
遺物指導　志布志市教育委員会主任主査　相美伊久雄

（2）平成28年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　センター長　堂込　秀人
作成企画　〃　総務課長兼総務係長　有村　貢
　　〃　調査課長　八木澤一郎
　　〃　調査第一係長　中村　和美
作成担当　〃　文化財専門員　三垣　恵一
　　〃　文化財調査員　宮田　大之
　　〃　文化財専門員　倉元　良文
　　(H28.12～H29.3)
　　〃　文化財調査員　森　えりこ
　　(H28.12～H29.3)
　　〃　〃　樋口めぐみ
　　(H28.12～H29.3)
事務担当　〃　主査　荒瀬　勝己
遺物指導　志布志市教育委員会主任主査　相美伊久雄
　　都城市教育委員会主幹　栗畑　光博

（3）平成30年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　センター長　前迫　亮一
作成企画　〃　総務課長兼総務係長　中村伸一郎
　　〃　調査課長　中原　一成
　　〃　調査第二係長　福永　修一
作成担当　〃　文化財専門員　鶴田　静彦
　　〃　文化財調査員　森　えりこ
事務担当　〃　主査　小牧　智子
遺物指導　同志社大学文学部教授　水ノ江和同

（4）平成31年度（令和元年度）

事業主体　国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　センター長　中原　一成
作成企画　〃　総務課長兼総務係長　中島　治
　　〃　調査課長　寺原　徹
　　〃　調査第三係長　横手浩二郎
作成担当　〃　調査第三係長　横手浩二郎
　　〃　文化財専門員　立神　倫史
　　〃　文化財専門員　相良　典隆
　　(R1.10～R2.3)
　　〃　文化財調査員　森　えりこ
事務担当　〃　事業推進員　川﨑　麻衣
遺物指導　立命館大学大学院文学研究科教授　矢野　健一
　　同志社大学文学部教授　水ノ江和同
　　京都大学文化財総合研究センター助教　冨井　眞
　　志布志市教育委員会主任主査　相美伊久雄

（5）令和２年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　センター長　中原　一成
作成企画　〃　総務課長兼総務係長　中島　治
　　〃　調査課長　寺原　徹
　　〃　調査第三係長　黒川　忠広
作成担当　〃　文化財専門員　平木場秀男
　　〃　文化財調査員　森　えりこ
事務担当　〃　事業推進員　塩屋奈諸美

2　整理・報告書作成作業の内容

（1）整理作業

①　遺構
　実測図と図面台帳との照合，遺構別に実測図の仕分け，注記の確認，トレースへ向けての下図面作成等
②　遺物
　ア　土器・石器共通

水洗い，遺構内出土遺物と包含層出土遺物との仕分け，遺物と遺物台帳や遺構実測図との照合

イ　土器

注記，分類，接合，実測する土器の選別

ウ　石器

石器と一般礫の仕分け，分類，実測する石器の選別

（２）報告書作成作業

①　遺構図のデジタルトレース，遺構配置図の作成，レイアウト，原稿執筆，報告書掲載用写真選別

②　土器の実測及び実測委託，拓本，トレース，レイアウト，観察表の作成，遺物分布図の作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

③　石器の実測及び実測委託，トレース，レイアウト，観察表の作成，遺物分布図の作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

３　整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成作業の経過については，日誌抄を月毎に集約して記した。

（１）平成26年度

平成26年４月

土器・石器の水洗・注記。

平成26年５・６月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別。

平成26年７月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図作成。

平成26年８月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図確認，石器実測委託。

平成26年９月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図確認，遺構データ入力，遺構図トレース。

平成26年10月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺構データ入力，遺構図トレース，科学分析委託。

平成26年11・12月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図作成，遺構データ入力，遺構図トレース。

平成27年１月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図作成，遺構図トレース。

平成27年２月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図作成，遺構図トレース，科学分析成果品の校正，データ処理。

平成27年３月

土器・石器の水洗・注記・接合，遺物台帳点検，石材選別，遺物出土状況図作成，遺構図トレース，遺物収納。

（２）平成28年度

平成28年４月

遺物分類・整理，土器・石器の水洗，土坑内出土遺物の注記，実測図点検。

平成28年５月

遺物分類・整理，土器・石器の水洗，土坑内出土遺物の注記，実測図・トレース図点検，遺物台帳点検。

平成28年６月

遺物分類・整理，土器・石器の注記，遺物台帳点検，石器の石材分類，石器実測，実測図・トレース図点検。

平成28年７月

土器の接合，遺物分類・整理，遺物台帳点検，石器の石材分類・実測。土層断面図，地形図下図面作成，実測図トレース。

平成28年８月

土器の接合，遺物分類・整理，出土遺物の注記，石器の石材分類。

平成28年９月

土器の接合，石器の実測，データ処理，石器実測委託，科学分析用の石器抽出。

平成28年10月

土器の接合，遺物の注記，トレース図点検，データ処理。

平成28年11月

土器の接合，遺構出土土器の注記，実測図点検，データ処理。

平成28年12月

土器の接合・復元，遺物台帳・実測図点検，データ処理。

平成29年１月

土器の接合・復元，遺物台帳・実測図点検，土層断面図トレース，データ処理。

平成29年２月

土器の接合，遺物台帳チェック，データ処理，土層断面図等トレース。

平成29年３月

石器の抽出，原稿執筆，遺物収納。

（３）平成30年度

平成30年４・５月

土器の接合・復元，遺構図点検。

平成30年６月
　土器の接合・復元・拓本，遺構図トレース，石器実測委託。
平成30年７月
　土器の復元・拓本，遺構図トレース，炭化物の選別。
平成30年８月
　土器の復元・拓本，遺構図トレース，年代測定・種実同定の委託。
平成30年９・10月
　土器の復元・拓本，遺構図トレース。
平成30年11月
　土器の復元・拓本，土器実測委託準備。
平成30年12月
　土器の復元・拓本，土器実測委託。
平成31年１・２月
　土器の復元・拓本，データ処理。
平成31年３月
　遺構図点検。

（４）平成31年度（令和元年度）
平成31年４月
　土器の実測・拓本・復元，石器計測，遺構図点検。
令和元年５月
　土器の実測・拓本・復元，土坑出土遺物整理。
令和元年６月
　土器の実測・拓本・復元，土器集中遺物整理，科学分析委託準備。
令和元年７月
　土器の実測・拓本・復元・科学分析試料採取。
令和元年８月
　土器の実測・拓本・復元・トレース。図面整理。台帳チェック。
令和元年９月
　土器の実測・拓本・復元・トレース。図面整理。台帳チェック。自然科学分析委託。資料調査。
令和元年10月
　土器の実測・拓本・復元・トレース。図面整理。台帳チェック。遺構図・遺物挿図仮レイアウト。
令和元年11月
　土器の実測・拓本・復元・トレース。図面整理。台帳チェック。遺構図仮レイアウト。
令和元年12月
　土器の復元・拓本・実測・トレース。図面整理。台帳チェック。遺構図・遺物挿図仮レイアウト。
令和２年１月
　土器の復元・拓本・実測・トレース。図面整理。台帳チェック。遺構図・遺物挿図仮レイアウト，原稿執筆。
令和２年２月
　土器の復元・拓本・実測・トレース。図面整理。台帳チェック。遺構図・遺物挿図仮レイアウト，原稿執筆。
令和２年３月
　原稿執筆，編集，遺構図・遺物挿図仮レイアウト。

（５）令和２年度
令和２年４月
　原稿執筆，編集，レイアウト，土器の復元，写真整理，現場写真選別，データ整理。
令和２年５月
　原稿執筆，編集，レイアウト，土器の復元，現場写真選別，データ整理。
令和２年６月
　原稿執筆，編集，レイアウト，土器の復元，実測・拓本・トレース，遺物写真選別，データ整理。
令和２年７月
　原稿執筆，編集，レイアウト，土器の復元，実測・拓本・トレース，遺物写真選別，写真撮影，データ整理。
令和２年８月
　原稿執筆，編集，レイアウト，遺物写真選別，写真撮影，観察表作成，データ整理，分布図作成。
令和２年９～11月
　原稿執筆，編集，レイアウト，遺物写真撮影，観察表作成，データ整理，入札準備，分布図作成。
令和２年12月
　報告書入札，校正作業，遺物・図面・写真等収納準備。
令和２年12月～令和３年２月
　校正作業，遺物・図面・写真等収納準備。
令和３年３月
　報告書納品，遺物・図面・写真等収納。

第１回報告書作成指導委員会
　令和２年６月２日実施　　寺原課長ほか６名
第１回報告書作成検討委員会
　令和２年６月11日実施　　センター長ほか５名
第２回報告書作成指導委員会
　令和２年８月５日実施　　寺原課長ほか６名
第２回報告書作成検討委員会
　令和２年８月11日実施　　センター長ほか５名
第３回報告書作成指導委員会
　令和２年10月７日実施　　寺原課長ほか６名
第３回報告書作成検討委員会
　令和２年10月13日実施　　センター長ほか５名
第４回報告書作成検討委員会
　令和２年10月27日実施　　センター長ほか５名

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

細山田段遺跡は，鹿屋市串良町細山田から曽於郡大崎町持留にかけて所在する。鹿屋市は大隅半島東南部のほぼ中央に位置し，東西20㎞，南北41㎞で総面積448.33㎢を測る。大崎町は鹿屋市串良町の東側に位置し，東西８㎞，南北に約18㎞の範囲にあり，総面積は100.82㎢である。

遺跡が立地する大隅半島の地形は，九州山地の延長をなす東西の山地と，その間の丘陵，台地及び低地帯から形成されている。東側の山地は，志布志湾北部から宮崎県に突出した形で北から南へ延びている鰐塚山地（南那珂山地ともいう）である。主峰は宮崎県内の鰐塚山（1,119m）で中生層からなっている。西側の山地は，北部の霧島火山の分脈から湾奥に形成された姶良カルデラのカルデラ壁を含み南部の高隈連山へと連なっている。高隈山地は，北部の白尾岳・荒磯岳など500～600m級の山々と，南部の大篦柄岳（1,236m）を主峰に横岳・御岳など1,000m級の山から成る山地で，山容は急峻で深い森林に覆われている。

地質は，高隈山周辺に分布している新生代古第３紀の日南層群が大隅半島の基盤をなしている。山地間を埋めるような形で，洪積世の火山活動による火砕流が堆積し，丘陵や台地が広く分布した典型的なシラス地形となっている。この火砕流は，南西部の鹿児島湾口に形成された阿多カルデラの火砕流や，湾奥に形成された姶良カルデラの入戸火砕流である。火砕流堆積物は，堆積後現在に至るまで大小多くの河川で開析されている。大隅半島中央部の地形は，断片的な台地を残すだけの丘陵状地形や原面がほとんど浸食されず残った広大な台地で形成されている。一方，低地は，高隈山地や鰐塚山地などに水源を持つ大小の河川が走り，志布志湾，鹿児島湾などに注いでいる。この河川は，上・中流域で狭い谷底平野を形成し，また幾段かの河岸段丘も認められる。

遺跡の大半は大崎町が占め，発掘調査区域の西端をほぼ南北に市町境が走る。大崎町は，南部と北部で地形が異なる。南部は，海岸線に向かい緩やかな傾斜をなす起伏が少ない平坦な地形である。北部は標高150mから200mの丘陵地帯であり，北端部では谷間の多い起伏の激しい地形である。台地上には黒色火山灰土壌が多く形成され，畜産や畑作が営まれている。さらに，本遺跡の西側を南流する串良川の流域には狭小な水田が続く。本遺跡は南部の平坦面が丘陵地帯に変わる付近にある。また，肝属平野を貫流する肝属川の支流である串良川と，志布志湾に注ぐ直前で田原川と合流する持留川に挟まれたシラス台地の西端で，標高は90～100ｍである。

周辺には，同じ台地上の東側に東九州自動車道建設に伴う発掘調査が実施された永吉天神段遺跡・荒園遺跡，西側には小牧遺跡，串良川を挟んで川久保遺跡・町田堀遺跡などが存在する。

第２節　歴史的環境

細山田段遺跡は，串良町（現鹿屋市）教育委員会と大崎町教育委員会が農用地総合整備事業（大隅中央区域農業用道路建設）を起因とした発掘調査を平成15年度に実施している。縄文時代後・晩期の土坑や柱穴，丸尾式土器・北久根山式土器・西平式土器・御領式土器・中岳式土器・入佐式土器等が確認されている。弥生時代では土坑や古道，古墳時代では竪穴状遺構が検出されている。上記の発掘調査地点と，今回埋文調査センターが発掘調査を実施した地点は，直線距離にして約200ｍ離れる。今回の調査では縄文時代前期末から中期の遺構・遺物が遺跡の主体をなすことから，同じ遺跡内であっても主体をなす時期に違いが見られた。

また，細山田段遺跡内には京の塚古墳も所在する。昭和30年頃までは高塚古墳が十数基存在していたが，昭和40年代後半には１基しか残存していないとの記載が鹿児島県埋蔵文化財調査報告書にある。京の塚古墳の周辺には串良川に沿って宮留古墳群・石塚古墳・牧内古墳・北原古墳群が所在する。

当該地域の歴史的様相は，近年，東九州自動車道建設に伴う発掘調査の成果から，次第に明らかになりつつある。志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の東九州自動車道建設に伴う発掘調査の成果は次節で記載し，ここではそれ以外の成果をまとめることとする。

旧石器時代

本遺跡から北に約2.5㎞離れた二子塚Ａ遺跡（大崎町）で薩摩火山灰の下層から黒曜石等のフレークが確認されている。また，小牧遺跡（鹿屋市串良町）では細石刃やフレーク・チップが出土し，川久保遺跡（鹿屋市串良町）では礫群が検出され，ナイフ形石器や畝原型細石核が確認されているなど，近年の東九州自動車道建設に伴う発掘調査でこの地域における旧石器時代の様相が徐々に明らかになりつつある。

縄文時代

遺跡の南西に位置する益畑遺跡（鹿屋市串良町）で，早期の竪穴住居跡２軒，連穴土坑16基が検出され，前平

式土器・加栗山式土器・石坂式土器等が出土している。二子塚Ａ遺跡では，早期の集石と吉田式土器・石坂式土器・桑ノ丸式土器・押型文土器等が報告されており，晩期では土坑１基と入佐式土器や石斧等が確認されている。本遺跡から東へ約３㎞に位置する下堀遺跡（大崎町）では早期の集石・土坑が検出され，前平式土器・加栗山式土器・下剥峯式土器等が出土している。また，後期では指宿式土器等が出土している。

細山田段遺跡は縄文時代前期末から中期の遺構・遺物が主体をなすが，周辺で同時期の遺構・遺物を確認した遺跡は少ない。僅かに，東九州自動車道建設に伴い調査を実施した小牧遺跡（鹿屋市串良町）で中期の遺物が出土している。

弥生時代

平成11年に発掘調査を実施した沢目遺跡（大崎町）では住居跡53軒・約20基の土坑・約180基の柱穴が検出されており，入来Ⅰ・Ⅱ式土器・山ノ口Ⅰ・Ⅱ式土器等や鉄製品・軽石製加工品が出土している。下堀遺跡からは山ノ口Ⅱ式土器のほか，須玖式土器を伴う直径８ｍの円形大型住居跡２軒・掘立柱建物跡５棟が検出されている。麦田下遺跡（大崎町）からは土器溜りが検出されており，高付式土器・西南四国系土器・瀬戸内系土器等の搬入品や模倣品を含む外来系の土器が多く出土している。

鹿屋市串良町内の遺跡は，７割程度が弥生時代の遺跡である。本遺跡周辺にも多くの弥生時代の遺跡が存在する。東九州自動車道関連の十三塚遺跡では張り出しのある竪穴住居跡８軒が検出され，住居内からは様々な遺物が確認された。また，掘立柱建物跡３棟も検出されている。

古墳時代

志布志湾沿いは，唐仁大塚古墳群・横瀬古墳・岡崎古墳群など，南九州では数少ない前方後円墳をはじめとした古墳群が分布している。

大崎町内では高塚古墳として横瀬古墳・神領古墳群・飯隈古墳群・田中古墳群・後迫古墳群が知られ，地下式横穴墓として飯隈地下式横穴墓群・鷲塚地下式横穴墓群が知られている。横瀬古墳は昭和18年９月に国史跡に指定された古墳時代中期（５世紀前半）の前方後円墳である。隣接する肝属郡東串良町の唐仁大塚古墳に次いで県内第２の規模を誇る。平成22～23年に町が行った範囲確認調査では，これまで確認されていた周溝の北側と南側の外側にも幅約４ｍの周溝が廻っていることが確認された。新たに発見された外溝までを範囲とすれば，全長は約180ｍに及ぶ。昭和53年に県が行った確認調査では，周溝から伽耶系陶質土器及び大阪府陶邑産の須恵器が出土し，墳丘からは円筒埴輪片や形象埴輪片が出土している。

鹿屋市串良町内では岡崎古墳群・上小原古墳群が知られている。岡崎古墳群は18基の高塚墳と数基の地下式横穴墓が確認されている。平成元年の調査では，高塚墳の周溝を利用した地下式横穴墓の存在が明らかになった。また，平成14・15年度に鹿児島大学総合研究博物館が実施した岡崎18号墳の調査では，地下式横穴墓が３基確認され，初期須恵器・鉄延・Ｕ字型鍬先などが発見された。

古代・中世以降

古代の遺跡としては，天神段遺跡で古代の掘立柱建物跡や土坑が確認されている。また，下堀遺跡では土師器が確認されている。

大崎町及び鹿屋市串良町内の中世の遺跡はほとんどが山城である。金丸城跡（大崎町）からは焼土を伴う土坑や溝状遺構が検出され，龍泉窯系及び同安窯系の青磁・東播系須恵器・白磁・青花・瓦質土器・備前焼擂鉢・天目茶碗などが出土した。下堀遺跡からは溝状遺構・畝跡・青磁・青花・中国陶器などが確認されている。天神段遺跡からは掘立柱建物跡・溝状遺構・土坑墓・土坑が多く検出され，土師器・須恵器・青磁・白磁・天目茶碗・鉄製品・青銅製品・鉄滓・砥石・滑石製石鍋片などが出土した。稲村城跡（鹿屋市串良町）は16基の近世墓のほか，青白磁・染付・備前焼等が出土している。

参考・引用文献

大崎町　1975『大崎町史（明治百年）』

大崎町教育委員会

2005『金丸城跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

2005『下堀遺跡・大崎細山田段遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（５）

2014『麦田下遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）

鹿児島県教育委員会　1977『大隅地区埋蔵文化財分布調査概報』鹿児島県埋蔵文化財調査発掘報告書（６）

鹿児島県教育委員会・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

2016『田原迫ノ上遺跡１』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（５）

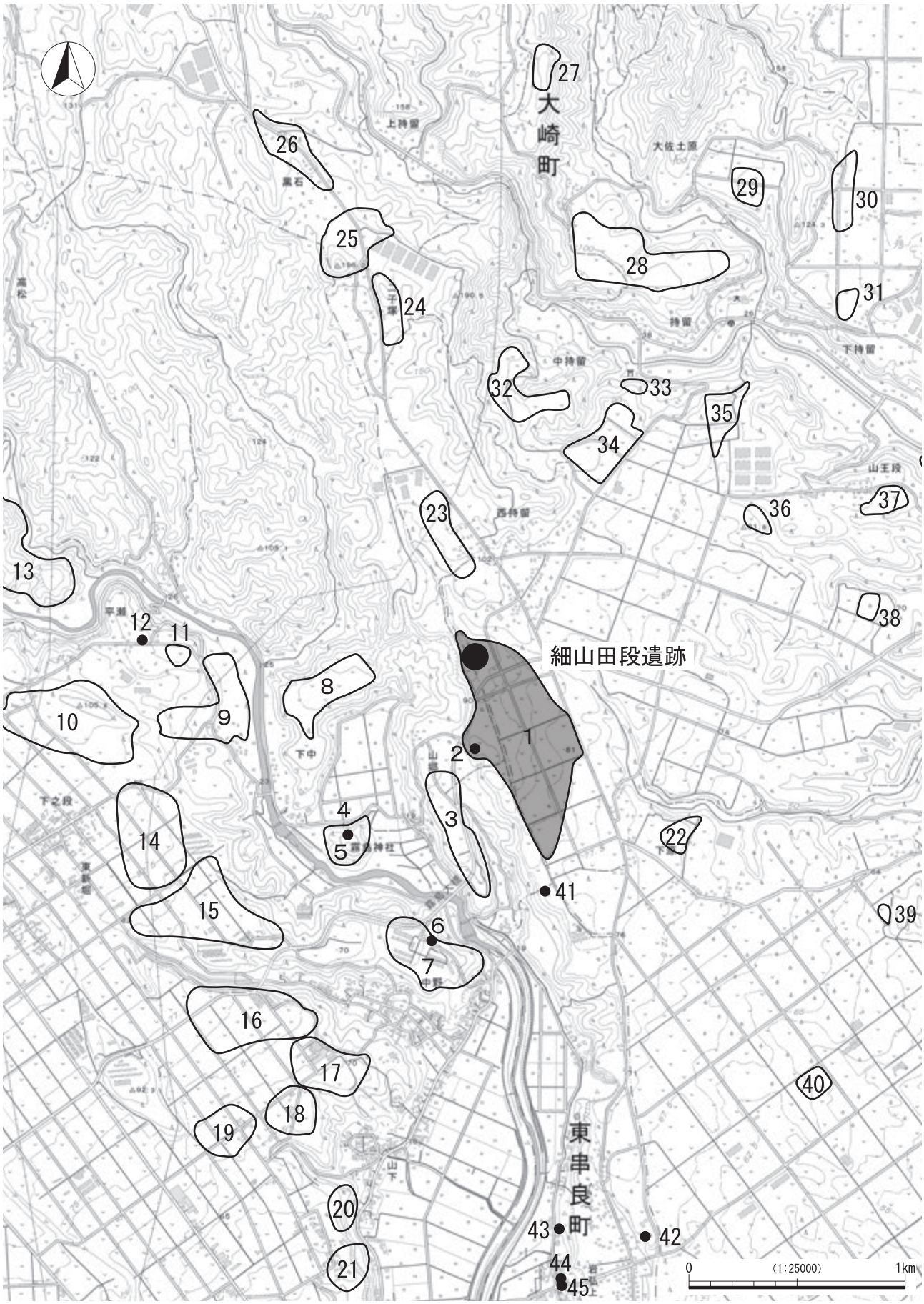
2016『町田堀遺跡』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（７）

鹿児島大学総合研究博物館　2008『大隅串良 岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館研究報告№３

串良町教育委員会

2005『益畑遺跡』串良町埋蔵文化財発掘調査報告書（11）

2005『細山田段遺跡・瓜々良蒔遺跡』串良町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）


細山田段遺跡
大崎町
東串良町
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
0
(1:25000)
1km

第２図　周辺遺跡位置図

第１表　周辺遺跡一覧表

	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	細山田段遺跡	鹿屋市串良町細山田下中京の塚，曽於郡大崎町細山田段・茶ノ木	台地	縄文，弥生，古墳		本報告書
2	京の塚古墳	鹿屋市串良町細山田下中京の塚	台地	古墳		円墳
3	益畑遺跡	鹿屋市串良町細山田益畑	台地	縄文，弥生	前平式・加栗山式・吉田式・石坂式・下剥峯式・桑ノ丸式土器，磨製石鏃，石匙，成川式土器，土師器，石鏃，轜の羽口	H15本調査（町）
4	ホンドンガマ遺跡	鹿屋市串良町細山田下中	洞穴	縄文	市来式土器，石匙，打製石斧	
5	霧島城跡	鹿屋市串良町細山田下中	丘陵	中世		
6	石塚古墳	鹿屋市串良町有里石塚	台地	古墳		円墳
7	石塚遺跡	鹿屋市串良町有里石塚	台地	弥生		
8	小牧遺跡	鹿屋市串良町細山田小牧	台地	縄文，弥生，古墳，古代，中世，近世		H27～29本調査（県）
9	川久保遺跡	鹿屋市串良町細山田川久保	台地	弥生		H26～30本調査（県）
10	町田堀遺跡	鹿屋市串良町細山田アタゴ山	台地	縄文，弥生，古墳，古代		H25～28本調査（県）
11	北原古墳群	鹿屋市串良町細山田北原	台地	古墳		円墳，板碑
12	北原墓地逆修古石塔群	鹿屋市串良町細山田北原	台地	鎌倉		逆修宝塔５基他
13	北原城跡	鹿屋市串良町細山田生栗須	丘陵	南北朝		
14	新堀遺跡	鹿屋市串良町細山田新堀	台地	縄文		
15	是ヶ迫遺跡	鹿屋市串良町細山田是ヶ迫	台地	縄文，弥生		
16	瓜々良蒔遺跡	鹿屋市串良町有里瓜々良蒔	台地	弥生	土器	H12本調査（町）
17	永田堀遺跡	鹿屋市串良町有里永田堀	台地	弥生，古墳		
18	桝場遺跡	鹿屋市串良町有里桝場	台地	弥生		
19	熊ヶ鼻遺跡	鹿屋市串良町有里熊ヶ鼻	台地	縄文，弥生	石鏃	
20	宮留古墳群	鹿屋市串良町有里	台地	古墳		円墳
21	柿木迫古墳	鹿屋市串良町有里柿木迫	台地	古墳		円墳
22	下原遺跡	曽於郡大崎町持留下原	台地	縄文，弥生，古墳	指宿式・市来式土器，弥生土器，土師器，磨製石斧	H11農政分布調査
23	茶ノ木遺跡	曽於郡大崎町持留茶ノ木上1406-2ほか	台地	古墳		
24	二子塚Ｃ遺跡	曽於郡大崎町持留二子塚	台地	弥生		
25	二子塚Ｂ遺跡	曽於郡大崎町持留・野方二子塚	台地	縄文，弥生		
26	二子塚Ａ遺跡	曽於郡大崎町野方二子塚	台地	旧石器，縄文，弥生，古墳	吉田式・石坂式・桑ノ丸式・押型文土器	H11本調査（町）
27	大佐土原遺跡	曽於郡大崎町野方大佐土原	山地	弥生		
28	佐土原遺跡	曽於郡大崎町野方佐土原4715-2ほか	台地	縄文，古墳	土器	H12農政分布調査
29	大久保Ｂ遺跡	曽於郡大崎町持留大久保73・野方鍋山4769-2ほか	台地	縄文	土器	H12農政分布調査
30	大久保Ａ遺跡	曽於郡大崎町持留鳥越	台地	縄文	指宿式・市来式土器，石斧	
31	赤野堀遺跡	曽於郡大崎町持留赤野堀	台地	弥生，古墳	土器	H11農政分布調査
32	桝山城跡	曽於郡大崎町持留桝山	台地	弥生，古墳，中世		
33	川上神社	曽於郡大崎町持留貫ノ下	山腹段斜面	縄文	指宿式・市来式土器	
34	持留牧遺跡	曽於郡大崎町持留牧･東尾ノ花	台地	縄文，古墳	磨製石斧，成川式土器	H9農政分布調査
35	西ノ上遺跡	曽於郡大崎町持留西ノ上2271-1ほか	台地	弥生		H18分布調査
36	桝木段遺跡	曽於郡大崎町永吉桝木段	台地	弥生，古墳	土器	H11農政分布調査
37	永迫遺跡	曽於郡大崎町永吉永迫	台地	縄文，弥生，古墳	土器	H11農政分布調査
38	船迫遺跡	曽於郡大崎町永吉船迫	台地	弥生，古墳		H11農政分布調査
39	椎木段遺跡	曽於郡大崎町永吉椎木段2279-1ほか	台地	縄文，中世	磨製石斧，成川式土器	H18分布調査
40	大迫遺跡	曽於郡大崎町永吉大迫	台地	弥生，古墳		H11農政分布調査
41	牧内古墳	肝属郡東串良町岩弘		古墳		
42	上市ノ園古墳群	肝属郡東串良町岩弘		古墳		
43	岩弘上偶善寺跡古石塔	肝属郡東串良町岩弘上共同墓地		室町		五輪塔７基他
44	岩弘上新興寺跡古石塔群	肝属郡東串良町岩弘上共同墓地	平地	鎌倉，南北朝，室町		五輪塔４基他
45	島津氏久の逆修宝塔	肝属郡東串良町岩弘上墓地		南北朝		

第３節　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

東九州自動車道の志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間には，第２表に示すとおり26か所の遺跡が存在する。発掘調査は平成30年度で終了しており，ここでは各遺跡の概要を記載する。詳細については各報告書等を参照していただきたい。

第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
1	見帰	志布志市 志布志町 志布志 台地上 標高約 70 m	H 28 年度 終了 H 25・30 年度に埋文センター調査（隣接地）	H 30 年度 刊行 R２年度 隣接地刊行予定	旧石器	—	ナイフ形石器，細石刃，使用痕剥片，磨石，叩石，敲石
					縄文早期	土坑	石坂式，押型文，下剥峯式，石鏃，磨石，石皿
					縄文前・中期	落とし穴，土坑	
					縄文後・晩期	—	磨消縄文，丸尾式，西平式，中岳Ⅱ式，磨石，敲石
		縄文時代を中心とした遺跡である。旧石器時代はナイフ形石器文化期及び細石刃文化期に比定される。縄文時代早期は，土器に比して石器の出土が極めて少ない。前～中期の落とし穴が２基検出されている。溝状遺構１号は時期不詳であるが縄文時代後期の可能性がある。					
2	宮ノ上	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約 45 m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
3	安良	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約 30 m	H 28 年度 H 29 年度 終了	H 30 年度 R元年度 刊行	縄文早・後期	土坑，集石	小牧３Ａ，西平式，丸尾式
					弥生中期	竪穴建物跡	山ノ口式
					古墳時代	竪穴建物跡，地下式横穴墓，溝状遺構	笹貫式，鉄鏃，鉄鐸，須恵器
					古代～中世	帯状硬化面，掘立柱建物跡，竪穴建物跡，土坑，土坑墓，柱穴他	土師器，須恵器，青磁，白磁，滑石製石鍋，炭化米塊
					近世	土坑，柱穴	—
		古墳時代後半期と中世を中心とした遺跡である。中世前半の炭化米塊は県内最古の事例として注目される。					
4	水神松	志布志市 志布志町 安楽 安楽川左岸 標高約３m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
5	安楽小牧Ｂ	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約 50 m	H 27 年度 H 28 年度 終了	H 30 年度 R元年度 刊行	旧石器	—	ナイフ形石器，細石刃核，細石刃
					縄文草創期	集石	土器片，黒曜石剥片，磨石，敲石，石皿
					縄文早期	集石	吉田式，妙見・天道ヶ尾式，塞ノ神Ａ式，塞ノ神Ｂ式，苦浜式，耳栓，石鏃，磨石，異形石器
					弥生	—	弥生土器，石包丁
		起伏のある地形に立地し，縄文時代早期を中心に旧石器時代，縄文時代草創期も出土した複合遺跡である。縄文時代早期の集石は検出層によって構成礫の大きさに差が認められる。また，塞ノ神式土器の壺形土器や，耳栓，異形石器，円盤状石器等が出土している。古墳群として遺跡登録されているが，これまでの調査では痕跡を含め古墳は確認されていない。※遺跡ＧＩＳの変更に伴い，遺跡名を「小牧古墳群」から「安楽小牧Ｂ」に変更。					
6	次五	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部標高約 50 m	H 26 年度 H 27 年度 終了 ※志布志市教育委員会調査	H 29 年度 刊行 ※志布志市教育委員会刊行	旧石器	—	畝原型細石刃核，細石刃，剥片
					縄文早期	落とし穴，連穴土坑，土坑，集石，磨石集積	前平式，加栗山式，吉田式，札ノ元Ⅶ類，石坂式，中原Ⅴ式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，塞ノ神Ｂ式，打製・磨製石鏃，石錘，局部磨製石斧
		旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代は，細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期前葉に該当する遺構や遺物が多く確認された。特に注目されるのは被熱破砕礫が多量に出土した点である。					
7	大代	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部 標高約 40 m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
8	木森	志布志市 有明町 野井倉 河岸段丘 標高約 30 m	H 26 年度 H 30 年度 終了		縄文早期	竪穴建物跡，集石，土器集中，連穴土坑，土坑	前平式，加栗山式，吉田式，石坂式，下剥峯式，押型文，石鏃，石匙，磨石，敲石
					縄文中・後期	—	春日式，凹線文系土器
					古墳～古代	—	須恵器
					中世	掘立柱建物跡，杭列状遺構	須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品，鉄滓
		縄文時代早期と中世を中心とする遺跡である。遺構では縄文時代早期の竪穴建物跡，連穴土坑，集石，中世の掘立柱建物跡等が発見され，遺物では縄文時代早期の土器，石器，石匙，磨石・敲石の他，中・後期の土器，古墳～古代の須恵器，土師器，中世の青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品等が出土している。鬼界カルデラ噴火による液状化現象（噴砂跡）が確認されている。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
9	田尾下	志布志市 有明町 野井倉 菱田川右岸 標高約５m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
10	春日堀	志布志市 有明町 蓬原 河岸段丘 標高約 30 m	H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 H 30 年度 終了	H 30 年度 R元年度 (1) 刊行 R２年度 作業中	縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，集石，土坑，土器集中，炭化物集中，落とし穴	前平式，加栗山式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，塞ノ神式，打製石鏃，打製・環状石斧，トロトロ石器，磨石，台石，石皿，砥石，穿孔円礫
					弥生	竪穴建物跡	山ノ口式
					古墳～飛鳥	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，溝状遺構，土坑，棒状礫集積遺構	甕（東原式，笹貫式），壺，坩，高坏，須恵器高坏，棒状礫，磨製石鏃片
					古代～中世	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑墓，杭列跡，焼土跡	土師器
					近世	土坑，溝状遺構，古道，遺物集中	陶器，磁器
		縄文早期から中世を中心とする遺跡である。遺構は縄文時代早期の竪穴建物跡，連穴土坑，集石，落とし穴，弥生時代の竪穴建物跡，古墳・飛鳥時代の竪穴建物跡（焼失住居跡含む），掘立柱建物跡，溝状遺構，中世の掘立柱建物跡，堀跡が検出された。遺物は縄文時代早期の土器，打製石斧，環状石斧，トロトロ石器等をはじめ，弥生時代から中近世の遺物が出土している。また鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）の痕跡も確認されている。					
11	牧ノ上B	志布志市 有明町 野井倉 台地上 標高約 47 m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
12	稲荷堀	曽於郡 大崎町 菱田 台地上 標高約 50m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
13	平良上C	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約 40 m	H 26 年度 H 27 年度 終了	H 28 年度 刊行	縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，集石，埋設土器，チップ集中	吉田式，石坂式，下剥峯式，押型文，平栫式，石鏃，石匙，打製・磨製石斧，扁平打製石斧 ，磨石，石皿，礫石器，石核
		縄文時代早期を中心とする遺跡である。遺構は竪穴建物跡，連穴土坑，集石，土坑が検出されている。遺物は，縄文時代早期の土器，石鏃，石匙，打製石斧，磨製石斧等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。					
14	宮脇	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約 40 m	H 27 年度 H 28 年度 終了	H 30 年度 R元年度 刊行	旧石器	礫群	ナイフ形石器，三稜尖頭器，台形石器，細石器，石核，スクレイパー，掻器，使用痕剥片，磨石，叩石
					縄文早期	集石，土坑，土器集中	加栗山式，小牧３A，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，打製石鏃，磨石
					近世	—	薩摩焼，寛永通宝
		旧石器時代･縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代では，石器製作に関連すると考えられる石核，フレーク，チップ等が出土している。縄文時代早期では，集石，土坑，土器集中，ピットと土器，石器等が出土している。鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の噴砂跡も確認されている。					
15	堂園堀	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約 45 m	文化財課の試掘調査及び埋文センターの確認調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
16	荒園	曽於郡 大崎町 仮宿 台地縁辺部 標高約 50 m	H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 H 30 年度 終了 ※H 24 年度は埋文センター調査	H 28 年度 （第１地点） 刊行 H 30 年度 R元年度 R２年度 （第２地点） （第３地点） 作業中	旧石器	—	畝原型細石核・細石刃，敲石
					縄文早期	集石，土坑，剥片・チップ集中	前平式，吉田式，加栗山式，下剥峯式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，条痕文，壺形土器，石鏃，スクレイパー，石匙，耳栓，打製・磨製石斧，磨石，石皿
					弥生中期	竪穴建物跡，土坑	吉ヶ崎式，山ノ口式，磨製石鏃未製品，砥石
					古墳	竪穴建物跡	成川式，須恵器，砥石
					古代以前	片薬研堀溝状遺構	—
					中世	掘立柱建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面	土師器，東播系須恵器，備前焼，陶器，青磁，華南三彩
					近世以降	帯状硬化面	薩摩焼
		縄文時代早期から古墳時代を中心とする遺跡である。遺構は，縄文時代早期の集石，弥生時代・古墳時代の竪穴建物跡，古代以前の片薬研堀，中世の掘立柱建物跡等が検出され，遺物は縄文時代早期の土器，石器，弥生時代･古墳時代の土器，土師器，陶器，磁器等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
17	永吉天神段	曽於郡 大崎町 永吉 台地縁辺及び河岸段丘 標高 30 ～ 50m	H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 終了 ※H 24 年度は埋文センター調査	H 27 年度 (第 1 地点) 刊行 H 28 年度 (第 2 地点 1) 刊行 H 29 年度 (第 2 地点 2) 刊行 H 30 年度 (第 3 地点) 刊行 R 元年度 (第 2 地点 3) 刊行	旧石器	礫群，ブロック	尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片
					縄文早期	集石，土器埋設遺構	前平式，加栗山式，吉田式，手向山式，下剥峯式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，条痕文，石鏃，石匙，石斧，磨石，敲石，石皿
					縄文前期	—	曽畑式
					縄文後期	—	岩崎上層式，北久根山式，中岳Ⅱ式
					縄文晩期	竪穴建物跡，落とし穴，土坑	入佐式，黒川式，刻目突帯文，管玉，打製石斧
					弥生	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，円形周溝墓，土坑墓群，土坑	入来式，山ノ口式，黒髪式，鉄鏃，磨製石鏃，管玉
					古墳	竪穴建物跡，土坑	成川式，須恵器
					古代	掘立柱建物跡，土坑	須恵器，土師器
					中世	掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬土坑，土坑	白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼， 湖州六花鏡，砥石，石塔，古銭
					近世	近世墓	薩摩焼，染付，寛永通宝，石臼
					時期不明	掘立柱建物跡	—
		旧石器時代から近世までの遺跡である。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から，国内では最古級となる鉄鏃が出土した。中世では白磁，青磁，瓦質土器，東播系須恵器等が多量に出土した。また，地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も発見された。					
18	細山田段	曽於郡 大崎町 西持留 鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約 95 m	H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 終了	H 26 年度 H 28 年度 H 30 年度 R 元年度 (1) 刊行 R 2 年度 (2) 刊行	縄文早期	集石，埋設土器	吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，中原式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，右京西式，打製石鏃，石匙，磨・敲石，石核
					縄文前期～中期初頭	土坑，土器集中	曽畑式，深浦式，大歳山式，鷹島式，船元式，打製石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石核
					縄文後期	土坑	辛川式，丸尾式，西平式，中岳Ⅱ式，打製石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，磨・敲石，打製石斧，磨製石斧，石皿
					縄文晩期	—	入佐式，黒川式
					弥生前期	—	高橋式
					古墳	—	成川式
					時期不明	溝状遺構	—
		縄文時代前期から中期初頭を中心に，縄文時代早期から近世までを含む遺跡である。縄文中期では 170 基を超える土坑が検出されたほか，在地系土器の深浦式土器，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土し，当時の遠隔地交流の一端が明らかとなった。					
19	小牧	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約 60 m	H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 終了	H 30 年度 R 元年度 (1) 刊行 R 2 年度 (2) 刊行 作業中	旧石器	—	細石刃
					縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石	前平式，吉田式，石坂式，下剥峯式，平栫式，条痕文，石匙，磨石，石皿
					縄文前期	—	曽畑式，深浦式，磨石
					縄文後期	竪穴建物跡，石皿立石遺構，伏甕，石斧集積遺構，集石，土坑	阿高式系，岩崎上層式，指宿式，市来式，石鏃，横刃型石器，打製石斧，磨石，石皿，大珠
					縄文晩期	—	入佐式，黒川式，刻目突帯文
					弥生中期	—	入来式，山ノ口式，砥石
					古墳	竪穴建物跡，礫集積，土器溜，土坑	東原式，辻堂原式，布留系土器，須恵器，鉄鏃，鉄製品，敲石，勾玉，軽石加工品
					古代	掘立柱建物跡，焼土跡，溝状遺構，土坑	土師器，須恵器，墨書土器，鉄器，土錘，焼塩土器，土製紡錘車
					中世以降	掘立柱建物跡，土坑，石組遺構，溝状遺構，杭列	土師器，東播系須恵器，白磁，青磁，墨書土器，石鍋，合子，鞴羽口，刀子，鉄製紡錘車，焙烙，古銭，薩摩焼
		旧石器時代から近世までの遺跡である。縄文時代早期前半から中葉の集落，後期の石皿遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。この他，古墳時代の花弁形住居跡を伴う集落や古代・中世の掘立柱建物跡群も発見されている。周辺の遺跡を含めて串良川沿岸における人間活動の変遷を追うことができる遺跡である。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
20	川久保	鹿屋市 串良町 細山田 河岸段丘 標高 30 ～ 50m	H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 H 30 年度 終了	H 27 年度 H 29 年度 H 30 年度 （C 地点） 刊行 R 元年度 （B・D 地点） 刊行 R 2 年度 （A 地点） (1)(2) 刊行 作業中	旧石器	礫群	剥片尖頭器，ナイフ形石器，畝原型細石核
					縄文早期	竪穴建物跡，集石，土坑	岩本式，前平式，志風頭式，加栗山式，吉田式，倉園Ｂ式，石坂式，下剥峯式，押型文，塞ノ神式，苦浜式，轟Ａ式，石鏃，打製石斧，石皿
					縄文前期	集石	曽畑式，磨製石斧
					縄文後期	—	中岳式
					縄文晩期	集石	入佐式，黒川式，刻目突帯文
					弥生前期	—	高橋式
					弥生中期	竪穴建物跡	下城式，山ノ口式
					古墳	竪穴建物跡，鍛冶関連建物跡，竪穴状遺構，溝状遺構，道跡	成川式，鞴羽口，高坏脚転用鞴羽口，鉄鏃，鉄滓，勾玉，管玉
					古代	掘立柱建物跡	須恵器，土師器
					中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，道跡	青磁，白磁，瓦器椀
		旧石器時代から中世までの遺跡である。特に古墳時代では，集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺物を伴う遺構が発見されているほか，専用の鞴の羽口も出土している。古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。					
21	町田堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約 90 m	H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 終了	H 27 年度 (1) 刊行 H 29 年度 (2) 刊行	縄文早期	集石	下剥峯式，平栫式
					縄文後期	竪穴建物跡，埋設土器，落とし穴，土坑，石斧集積遺構	中岳Ⅱ式，石刀，石鏃，打製・磨製石斧，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉
					縄文晩期	—	黒川式，刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡	入佐式，山ノ口式，土製勾玉
					古　墳	竪穴建物跡，地下式横穴墓，円形周溝墓，溝状遺構	成川式，人骨，鉄剣，鉄鏃，刀子，ヤリ鉋，異形石器
					古　代	焼土跡，道跡	土師器，須恵器
		縄文時代早期から古代までの遺跡である。古墳時代の地下式横穴墓が 92 基発見され，円形周溝を伴う例も初めて確認されている。立小野堀遺跡や下堀遺跡等と類似性が想定され，高塚墳と共存する志布志湾沿岸部の地下式横穴墓との比較が可能になり，大隅半島の古墳時代像解明に必須の遺跡である。このほか，縄文時代後期の竪穴建物跡から，橿原文を施す完全な石刀が出土している。					
22	牧山	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約 110m	H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 終了	H 28 年度 （A 地点 1） 刊行 H 30 年度 R 元年度 R 2 年度 (A 地点 2, B，C，D 地点) 作業中	旧石器	—	剥片
					縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，石器製作跡	吉田式，石坂式，下剥峯式，辻タイプ，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石匙，スクレイパー，磨石
					縄文前期	埋設土器（轟式）	轟式，条痕文
					縄文後期	土坑，落とし穴状遺構，埋設土器，石器集中部	市来式，丸尾式，西平式，太郎迫式，三万田式，中岳Ⅱ式，打製・磨製石斧，磨石，剥片，石核，台石，石冠
					縄文晩期	土坑	入佐式，刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑	山ノ口式，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅鑿
					中・近世	古道跡	青磁，白磁，薩摩焼
		旧石器時代から中世にかけての遺跡である。特に，縄文時代後期の建物跡を構成していた可能性のある柱穴群が環状に発見されており注目される。また，同時期のものと考えられる複数の埋設土器と石冠が１点出土している。弥生時代中期の青銅製鑿の出土も特筆される。					
23	田原迫ノ上	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約 120m	H 22 年度 H 23 年度 H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 H 28 年度 H 30 年度 終了 ※H 22 ～ 24 は埋文センター調査	H 26 年度 (1) 刊行 H 27 年度 H 28 年度 (2) 刊行 R 元年度 (3) 作業中 ※H 23 ～ 24 は埋文センター作業	縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，集石，落とし穴，土坑，石器製作跡	前平式，吉田式，倉園Ｂ式，石坂式，下剥峯式，辻タイプ，桑ノ丸式，中原式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，石槍，石鏃，石匙，磨石，敲石，石皿，打製石斧
					縄文後期	落とし穴，礫集積	指宿式，市来式，石鏃，磨石
					縄文晩期	—	黒川式
					弥生中期	竪穴建物跡，大型建物跡，掘立柱建物跡，円形・方形周溝	山ノ口式・中溝式，擬凹線文系壺，土製勾玉，鉄器，磨製石鏃，石匙，砥石，敲石，台石
					古墳時代以降	溝状遺構，畝状遺構	土師器碗，薩摩焼
		縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした遺跡である。弥生時代中期では，ベッド状遺構を伴う方形・円形の大型竪穴住居跡，棟持柱をもつ掘立柱建物跡２棟を含む建物跡群，柱穴列や円形・方形の周溝などが検出されており，大隅半島中央部における当該期の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。このほか，縄文時代早期の竪穴住居跡，連穴土坑などの遺構が多数発見されていることも注目される。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
24	立小野堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約 125m	H 22 年度 H 23 年度 H 24 年度 H 26 年度 H 30 年度 終了 ※H 22 ～ 24 は埋文センター調査	H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 (1) 刊行 R 3 年度以降 (2) 作業 ※H 24 は埋文センター作業	縄文前・中期	—	深浦式
					縄文後期	—	指宿式，市来式，西平式
					弥生中期	—	山ノ口式
					古　墳	地下式横穴墓，土坑墓，溝状遺構	成川式，須恵器，鉄器（刀・剣・槍・鉾・刀子・鏃等），青銅鈴，人骨
					時期不詳	溝状遺構	—
		縄文時代前期から古墳時代までの遺跡である。特筆すべきは，古墳時代の地下式横穴墓が約 200 基発見されたことである。玄室内には鉄鏃や鉄剣等の鉄器，青銅製鈴等の副葬品と人骨が多数残っていたほか，墓周辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鈴をはじめ，多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は，南九州の古墳時代墓制の様相全体を解明していく上で貴重な資料である。					
25	十三塚	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約 140m	H 20 年度 H 21 年度 終了 ※埋文センター調査	H 22 年度 刊行 ※埋文センター作業	縄文早期	—	石坂式
					縄文後期	—	凹線文，市来式，三万田式
					縄文晩期	—	黒川式
					弥生中期	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑	山ノ口式，土製勾玉，打製・磨製石鏃，棒状敲具，鉄鏃
					古　墳	—	成川式
					中世～近世	道路状遺構	洪武通寶（加治木銭）
		弥生時代中期を中心とする遺跡である。花弁形・方形・円形を呈する竪穴建物跡が発見された。出土遺物等から，王子遺跡や前畑遺跡等と同時期の集落跡と考えられる。また，集石が竪穴建物跡内から発見されている。７号住居跡の埋土内から，松木薗遺跡や永吉天神段遺跡から出土した鉄鏃と類似する無茎の鉄鏃が出土した。					
26	石縁	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約 140m	H 20 年度 H 21 年度 終了 ※埋文センター調査	H 22 年度 刊行 ※埋文センター作業	縄文早期	集石，土坑	岩本式，前平式，志風頭式，石坂式，平栫式，貝殻条痕文，鎌石橋式，轟Ａ式，打製石鏃，磨石，敲石
					弥生中期	—	山ノ口式，須玖式
		縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡である。鎌石橋式土器１個体と轟Ａ式土器が２個体出土し，両型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。					



第３図　東九州自動車道関連遺跡位置図

第Ⅲ章　調査の方法と層序

第１節　調査の方法

本節では，発掘調査の方法，遺構の認定と検出方法等，整理・報告書作成作業の方法について簡潔に述べる。

１　発掘調査の方法

細山田段遺跡の発掘調査は，平成25年度から平成27年度の３年にわたり実施した。調査対象表面積は6,500㎡，調査対象延面積は15,450㎡である。

調査区割り（グリッド）は，計画された道路のセンターライン上の「STA141」と「STA142」の２点を結ぶ線を基軸に10ｍ間隔で，東側から西側に向かって１，２，３・・・，北側から南側に向かってＡ，Ｂ，Ｃ・・・と設定した。

このグリッドを基にして，遺構・遺物の測量作業を行うこととした。また，トータルステーションで測量作業を行う場合，測量座標はＡ－１区の右上を原点（０，０）とし，縦軸をＸ，横軸をＹとした。

発掘調査は，基本的に重機で表土から遺物包含層上面まで除去した後，確認調査の結果に基づき，遺物包含層については人力で掘り下げを行った。無遺物層，火山灰の硬化層については，一部重機を用いて慎重に掘り下げた。検出遺構については，移植ごて等の遺構の検出に適した道具を用いて慎重に調査し，実測，写真撮影等を行い，出土遺物については，平板実測，またはトータルステーション等で取り上げを行った。地形測量は，Ⅴ層上面及びⅧ層上面を平板実測で行った。

なお，平成26・27年度において，遺構実測や出土遺物の取り上げのため遺構実測支援システムを導入し，一部の遺構については遺構実測図作成業務委託を行った。

各年度の発掘調査の方法は，以下のとおりである。

（１）平成25年度

確認調査の結果を受け，本調査は平成25年９月17日から平成26年３月14日まで，調査対象延面積は3,750㎡で行った。本遺跡の東側にあたるＧ・Ｈ－３～７区では，縄文時代早期及び前・中期の調査を行った。その後，下層確認のためシラス上面までトレンチ調査を行ったが，旧石器時代の遺構・遺物は確認されず，東側の調査はすべて終了した。西側の調査区では，Ｃ・Ｄ－16～24区（Ｃ－16・17・22～24区を除く），Ｅ～Ｊ－20～24区（Ｅ・Ｆ－20区を除く），さらにＧ～Ｊ－16～19区，Ｉ－12～15区で行った。Ｃ・Ｄ－16～24区及びＥ～Ｊ－20～24区は圃場整備等でⅣ層まで削平を受けていたが，残存しているⅣ層からは縄文時代前・中期の遺構・遺物が多く発見された。一部範囲区では縄文時代前・中期の調査を終了したが，残存範囲区は次年度以降の調査へ引き継ぐこととした。

（２）平成26年度

調査期間は平成26年５月８日から平成27年２月25日まで，調査対象延面積は6,900㎡で行った。縄文時代早期～前期末の調査をＢ～Ｅ－22・23区，Ｂ～Ｄ－24区，Ｄ－16・17区，Ｇ・Ｈ－10～12区，Ｈ－９区，Ｉ－12区で行った。また，縄文時代前期末～中期前半の遺構の調査をＤ・Ｅ－18～21区，Ｇ～Ｊ－18～20区（Ｈ～Ｊ－18区を除く），Ｆ～Ｈ－21～23区（Ｈ－23区を除く），同じく遺物包含層の調査をＨ－18・19区，Ｇ～Ｉ－13～17区で行った。Ⅷ層上面まで遺物包含層の有無を確認し，調査終了部分は埋め戻しや排水対策，安全対策を施し，調査を終了した。

（３）平成27年度

調査期間は，平成27年５月８日から平成27年10月28日まで，調査対象延面積は4,800㎡で行った。縄文時代早期～前期末の調査をＧ～Ｉ－20区で行い，縄文時代早期の調査をＧ～Ｉ－13区，Ｅ～Ｊ－21区，Ｆ～Ｊ－22区，Ｇ－23区，Ｂ－20・21区，Ｃ・Ｄ－18～21区，Ｅ－18・19区で行った。Ⅷ層上面まで包含層の有無を確認した後，埋め戻しや排水対策，安全対策を施し，本遺跡の本調査のすべてを終了した。

２　遺構の認定と検出方法

本遺跡で検出された遺構の認定と検出方法については，以下のとおりである。

（１）遺構の認定

検出面，埋土状況，規模等を踏まえ，担当職員が総合的に検討したうえで遺構の認定を行った。本書掲載の主な遺構の認定は以下のとおりである。

土坑は，人為的に掘り込まれたやや小型の竪穴遺構で，検出面，埋土状況，規模等により総合的に判断した。

（２）遺構の検出方法

遺構の検出については，各年度とも共通の調査方法として，当時の掘り込み面に限りなく近い位置での検出を目指して調査を進めたが，判別のしやすい地層上面における検出が多くなったことは否めない。そのため，縄文時代前期末～中期の遺構はＶａ層上面で掘り込み面を確

認しているものが多い。土坑はⅢ～Ⅵ層が入り交じり，掘り込み面の検出が困難な場合もあり，ミニトレンチの設定などで対応した。しかし，掘りすぎのものもあり，「検出面からの深さ」にばらつきがあったので，調査のあり方を検討し，今後の調査に生かしたい。

３　整理・報告書作成作業の方法及び内容

整理・報告書作成作業は，平成26・28・30・31年度，令和２年度に実施した。各年度の整理・報告書作成作業の方法は，以下のとおりである。

（１）平成26年度

平成25年度及び平成26年度の一部の発掘調査成果品の整理を行った。

図面類は，遺構実測図，遺物出土分布図，土層断面図，地形図等に仕分けし，台帳や遺物との照合を行った。

遺物の水洗は，未洗い遺物や発掘現場で行った水洗いが不十分な遺物について行った。その際，遺物に付着している重要な情報を除去することがないように注意を払い，微細な剥片石器等は，超音波洗浄機を使用した。

注記は，水洗いと並行して順次行った。注記を行う際，薬品を使用するため換気に注意しながら手作業で進めた。これまで刊行された遺跡の記号と重複しないようにデータを管理している県立埋文センター南の縄文調査室に確認を取った。発掘調査時の遺跡名を表す記号の「ＫＹＤ」を頭に，包含層などから出土した遺物には続けて「区」・「層」・「取り上げ番号」もしくは「一括」を併せて記入した。また，遺構内出土遺物には「区」・「遺構名」・「取り上げ番号」を記入した。注記作業の効率化を図るため，ジェットマーカーも使用した。

土器は，遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け，包含層出土遺物については出土層位ごとに分類した。その後，土器の文様や胎土等で分類・接合を行った。

石器は，遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け，包含層出土遺物については出土層位ごとに剥片石器と礫石器に分けた後，器種及び石材別に分類した。出土石器については，作業の効率化を図るため，一部石器実測委託を行った。

遺物出土分布図は，平板実測で取り上げた情報はデジタイザーを用いてデータ化し，トータルステーションで取り上げたデータと統合し，図化ソフトを使用して作成した。

遺構の認定・分類は，実測図や写真等を用いて，発掘担当者を含めた職員で再検討し，確定した。掲載スケールを決定し，点検・修正後，デジタルトレースを行った。

遺構配置図，地形図は，点検・修正後，デジタルトレースを行った。

（２）平成28年度

平成26年度の整理作業を引き継ぎ，加えて平成27年度の発掘調査成果品の整理を行った。

平成27年度の成果品も平成25・26年度の整理作業と同様に注意を払いながら水洗い・注記を行った。

縄文時代前期～中期の土器は，遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け，土器の文様や胎土等で分類を行った。その後，遺構内遺物を中心に接合を行った。

石器については，一部実測委託を行い，石器図面のトレース図チェックを行った。

遺構については，平成27年度の遺構図の点検・修正後，デジタルトレースを行った。土層断面は，下図を作って，適宜図面を統合し，デジタルトレースを行った。

（３）平成30年度

前年度の整理作業を引き継ぎ，縄文時代前期～中期の土器の接合を行った。接合した中から報告書掲載遺物を選別し，実測に必要な部分的復元・補強を行った。

遺構は，前年度に引き続きトレースを行った。

炭化物の点検・選別を行い，年代測定・種実同定の分析委託を行った。

（４）平成31年度（令和元年度）

前年度の整理作業を引き継ぎ，接合・復元を行った。

縄文時代前期～中期の接合した土器の中から報告書掲載遺物を選別し，部分的な補強・復元を行った後，実測，拓本，トレースを行った。なお，本遺跡の縄文前期末～中期の遺構・遺物について，12月９・10日の２日間にわたり検討会を開催した。

検討会の結果を踏まえ，遺構図・遺物挿図の仮レイアウトを行い，一部原稿執筆・編集を行った。

これまでの科学分析結果をまとめ，原稿執筆に反映できるよう集計・整理を行った。

（５）令和２年度

これまでに作成した原稿・図などを編集し，印刷・校正・製本を行った。

修正遺物についての実測・拓本・トレースを行った。

遺構図・遺物挿図のレイアウトを確定し，トレース図・拓本等の確認をしながら原稿執筆・編集を行った。

写真図版については，調査年度ごとの写真整理を行い，空撮・調査状況・遺構別に分け，掲載写真を選別した後，図版レイアウトを行った。

遺物写真は，掲載遺物の中から遺構内遺物を中心に選別し，仮レイアウト終了後，立面・斜俯瞰写真と俯瞰写真に分けて撮影を行った。

原稿執筆，観察表作成，遺構配置図・出土分布図，写真撮影等終了後，印刷・製本を行った。

4　出土遺物の分類

（1）土器

土器の時代・時期の判断は，発掘現場での出土層位を基本とした。さらに，整理作業の段階で，既存の型式等をもとに細分し，時代・時期の確定を行った。なお，各遺物の分類の基準については次のとおりである。

Ⅰ類土器　砲弾形の器形で，底部は丸底と考えられる。外面全体と口縁部内面に沈線，刺突を施す。内外面ともに，丁寧なナデ調整を行う。

Ⅱ類土器　砲弾形の器形で，底部は丸底もしくは尖底である。口縁部は直口するものと，頸部で括れ外反するものとがある。平口縁と主に４単位と考えられる波頂部をもつ波状口縁がある。内外面に貝殻の腹縁部による条痕を施した後，刺突，沈線等を施す。

Ⅱ－１類　突帯を施す一群である。刺突，沈線等の沈文が付加されるものも含む。

①･･･刻目突帯を施す一群

②･･･突帯を施す一群

③･･･上記以外の浮文を施す一群

Ⅱ－２類　刺突，沈線等の沈文のみを施す一群である。

①･･･刺突を施す一群

②･･･貝殻腹縁の押圧のみを施す一群

③･･･上記以外の沈文のみを施す一群

Ⅲ類土器　内外面に条痕のみを施す土器を一括した。

Ⅳ類土器　地文に縄文を施す一群である。

Ⅳ－１類　太い突帯を施す一群である。砲弾型の器形で，底部は丸底もしくは尖底と考えられる。

Ⅳ－２類　突帯にΣ字状の押引を施す一群である。

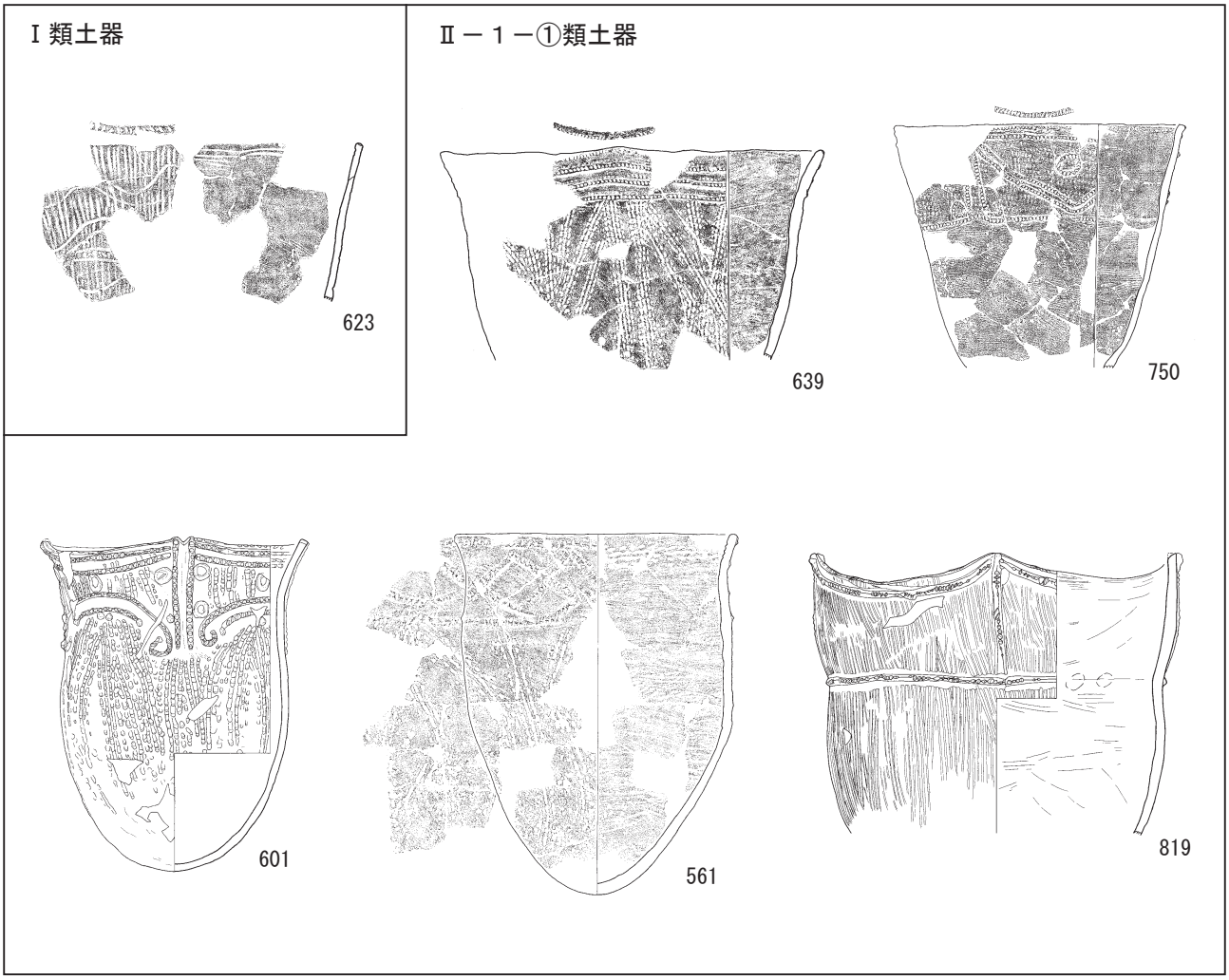
Ⅳ－３類　突帯にC字状の爪形文を施す一群である。

Ⅳ－４類　器面に直接C字状の爪形を施す一群である。

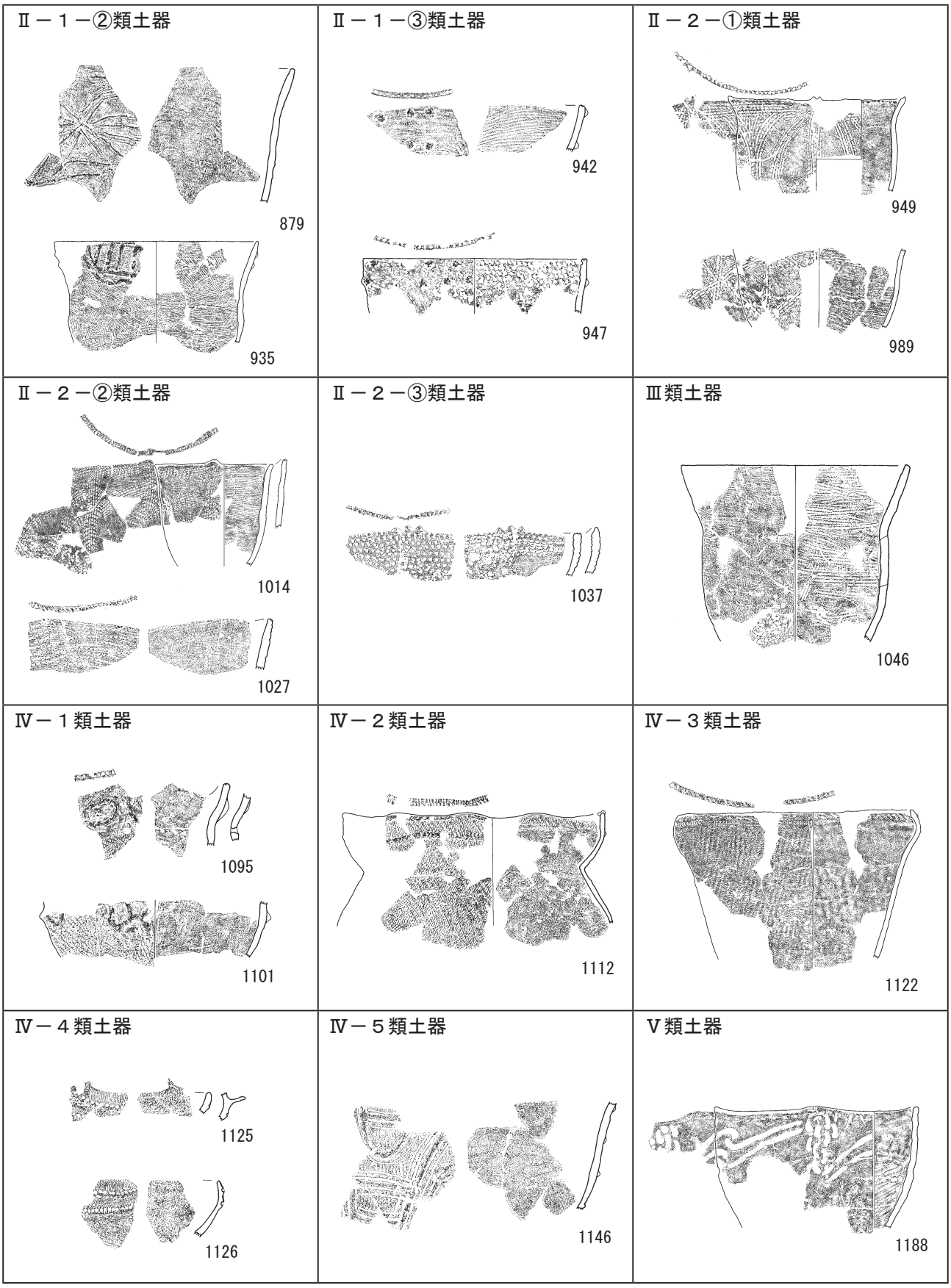
Ⅳ－５類　突帯や細い突帯を施した後，細沈線を施す一群である。

Ⅴ類土器　太形凹線を施す一群である。

Ⅵ類土器　Ⅰ～Ⅴ類に分類できない土器である。



第４図　土器分類一覧表１



※縮尺不同・右下の数字は掲載番号

第５図　土器分類一覧表２

（２）石器

石器については，器種及び石材による分類を行った。石材の分類は肉眼観察を基本とし，質感や不純物の混入具合等をもとに細分した。器種及び石材分類は次のとおりである。

第３表　石器分類表

	器　種	概　　要
剥片石器	打製石鏃	剥片を素材とし，両側縁部に両面から押圧剥離を施した，三角形状の石器。
	石匙	剥片を素材とし，刃部及びつまみ部を作り出す石器。
	スクレイパー	剥片の縁辺に二次加工を加え，片面もしくは両面調整の刃部を作り出した石器。
	石錐	両縁部からの調整で錐状の突出した刃部を作り出した石器。
	楔形石器	ピエス・エスキーユとも称される。上下両端からの平行な剥離が認められるもの。
	二次加工剥片	剥片の縁辺の一部に二次加工が認められるもの。
	使用痕剥片	剥片の縁辺の一部に微細剥離痕等が認められるもの。
石核		剥片剥離によって生じたネガティブな剥離面をもつもの。
礫石器	打製石斧	礫もしくは厚みのある剥片の周縁から剥離調整を加えた，斧型の石器。
	磨製石斧	礫もしくは厚みのある剥片に剥離調整や敲打調整を加えて整形し，砥石で磨いた斧型の石器。
	石錘	扁平な円礫の両端に切り込みを施した石器。
	砥石	砂岩等の礫片で，礫面上に線状の傷や溝状の凹みが残されている石器。
	磨・敲石	磨面や敲打痕，凹みなどが残るもの。
	石皿	盤状の自然礫や大型の剥片を使用し，台形・方形・楕円形などの形状に加工されたもの。
石製品		上記のいずれにも属さないもの。玦状耳飾・異形石器・管玉など。

第４表　石材分類表

		略号	特　　徴	
黒曜石	黒曜石Ⅰ類	OB1	不純物を多く含み，漆黒で全く光を通さないもの。上牛鼻	
	黒曜石Ⅱ類	OB2	不純物を多く含み，光を通すもの。	
			A群	不純物がやや均一で，基質は黒色～アメ色を呈するもの。日東・長谷
			B群	不純物が不均一に入り，径0.5～１㎜程度の石英質の不純物を含む。基質はアメ色を呈するものが多いが，まれにオリーブ灰色～黒色を呈する。三船
	黒曜石Ⅲ類	OB3	A群	不純物を含まないかわずかに含むもので，アメ色～黒色を呈し，透明感度が高いもの。基質はわずかな白濁や流理がみられるものを含む。桑ノ木津留
			B群	プラスチック様のガラス光沢を呈し，漆黒で灰色の球顆を含み，自然面が銀色に風化するもの。石材産地推定で桑ノ木津留第２群と判定されたもの。
	黒曜石Ⅳ類	OB4	不純物をほとんど含まないか石灰質の不純物をわずかに含み，基質は黒色で強いガラス光沢を持つもの。腰岳	
	黒曜石Ⅴ類	OB5	不純物をほとんど含まないか石英質の不純物をわずかに含み，基質は黒灰色～青灰色を呈するもの。針尾	
	黒曜石Ⅵ類	OB6	不純物をほとんど含まないか石英質の不純物をわずかに含み，基質は灰色～オリーブ灰色を呈するもの。椎葉川	
	黒曜石Ⅶ類	OB7	不純物をほとんど含まないもので，基質は灰色～乳白色を呈するもの。姫島	
安山岩	安山岩Ⅰ類	AN1	石英質の不純物を含み，基質はやや滑らかでガラス質に富む質感を呈し，黒灰色を呈する。上牛鼻	
	安山岩Ⅱ類	AN2	不純物をわずかに含み，基質はややざらついた質感を呈し，黒灰色～明灰色を呈するもの。多久	
	安山岩Ⅲ類	AN3	いわゆる多孔質安山岩。	
玉髄	玉髄Ⅰ類	CC1	基質が比較的珪質分に富み，白色系の色調を基調とするもの。石英やオパールも含む。	
	玉髄Ⅱ類	CC2	基質が比較的珪質分に富み，赤色系の色調を基調とするもの。鉄石英	
頁岩	頁岩Ⅰ類	SH1	基調が黒～暗灰色を呈するもの。	
	頁岩Ⅱ類	SH2	基調が灰緑色を呈するもの。	
	頁岩Ⅲ類	SH3	珪質分が非常に富むもの。	
	頁岩Ⅳ類	SH4	シルト質のもの。	

その他の石材については，次の略号を使用する。
チャート：CH，ホルンフェルス：HF，砂岩：SA，凝灰岩：TU，花崗岩：GR

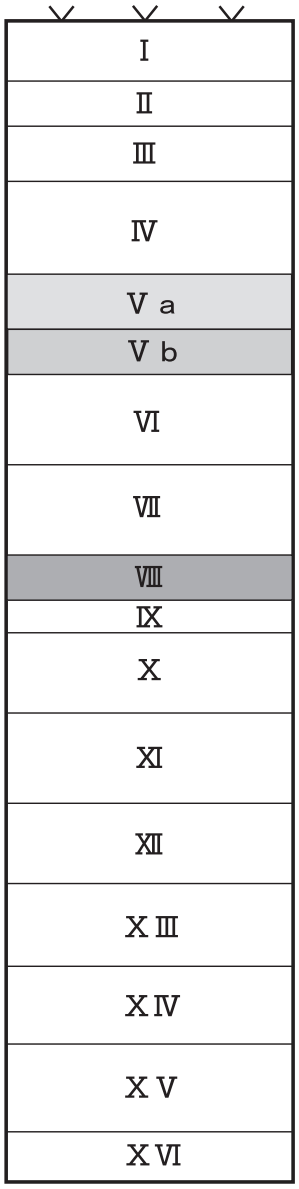
第２節　層序

細山田段遺跡は，広い範囲で圃場整備等による削平が認められ，特にＥ・Ｆ－９～17区では，Ⅷ層より上層が削平され，遺物包含層は確認できなかった。また，液状化現象の痕跡は，本遺跡では確認されなかった。包含層や遺構・遺物の年代を把握する手掛かりの１つとなる。

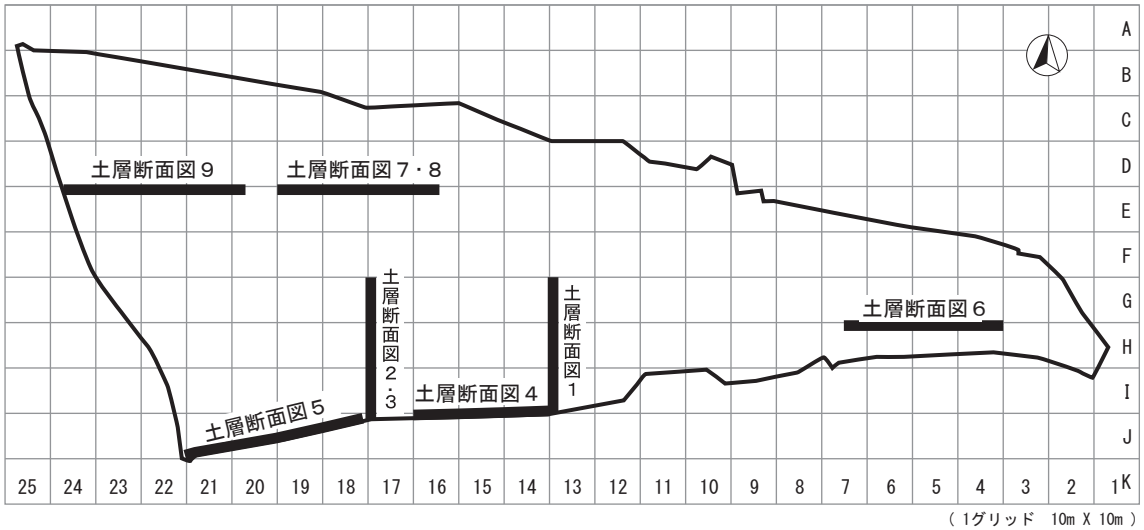
火山灰等の詳細については，以下のとおりである。

Ⅰ 層：表土　20～30㎝
Ⅱ 層：黒色土　縄文時代後・晩期の遺物を含む。10～20㎝
Ⅲ 層：黒褐色土　縄文時代前期末～中期の遺物包含層
　　軽石（約6,400年前池田降下軽石）をわずかに含む。10～20㎝
Ⅳ 層：暗茶褐色土　縄文時代前期～中期の遺物包含層
　　池田降下軽石を多量に含む。10～40㎝
Ⅴa層：黄褐色土　アカホヤ火山灰（約7,300年前，鬼界カルデラ起源）
　　の二次堆積層。10～30㎝
Ⅴb層：褐色土　アカホヤ火山灰一次軽石層　10～20㎝
Ⅵ 層：暗褐色土　縄文時代早期の遺物包含層　20～30㎝
Ⅶ 層：黒褐色土　縄文時代早期の遺物包含層　20～40㎝
Ⅷ 層：黄褐色土　薩摩火山灰（約12,800年前の桜島起源の噴出物）０～20㎝
Ⅸ 層：黒褐色粘質土　５～20㎝
Ⅹ 層：暗褐色粘質土　10～30㎝
ⅩⅠ層：明茶褐色粘質土　10～40㎝
ⅩⅡ層：黒褐色粘質土　20～30㎝
ⅩⅢ層：黄褐色土　硬質。10～40㎝
ⅩⅣ層：明黄褐色土　硬質。10～40㎝
ⅩⅤ層：灰白色砂質土　20～50㎝
ⅩⅥ層：黄褐色土　二次堆積シラスであり，砂礫を含む。
　　ＡＴ（シラス）と呼ばれる約26,000～29,000年前の姶良カルデラ起源の火山灰層となる。

火山灰の年代については，町田洋・新井房夫著　2003『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』pp.108～110　東京大学出版会から引用した。なお，年代は放射性炭素年代測定法で算出され，暦年較正した年代である。

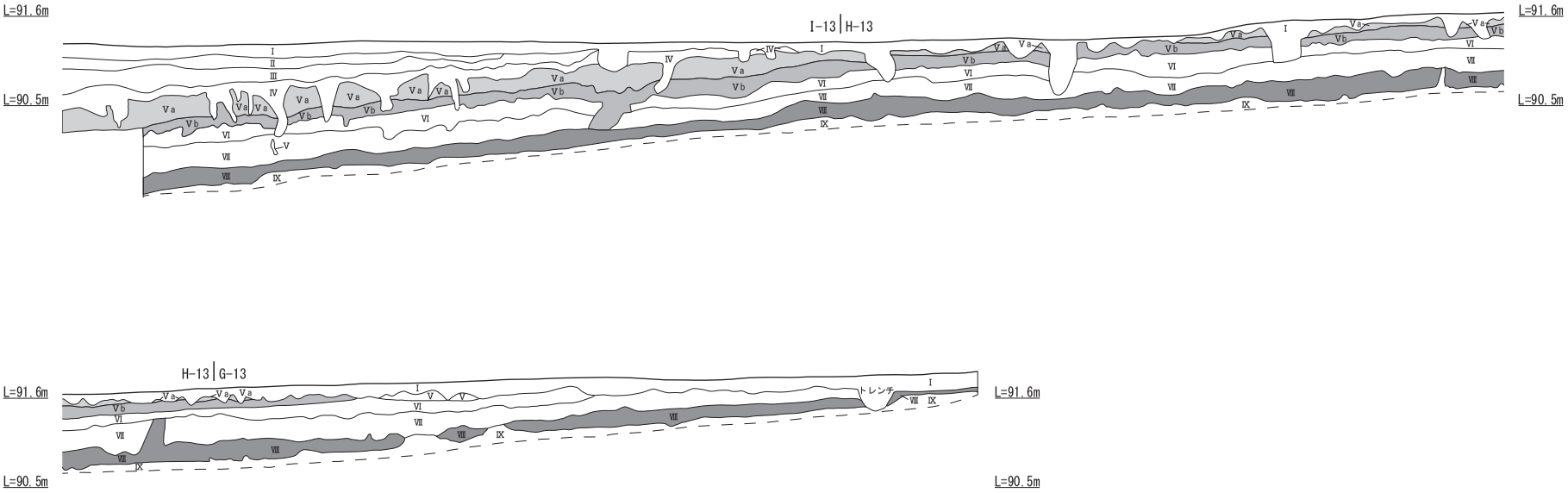


第６図　基本土層図

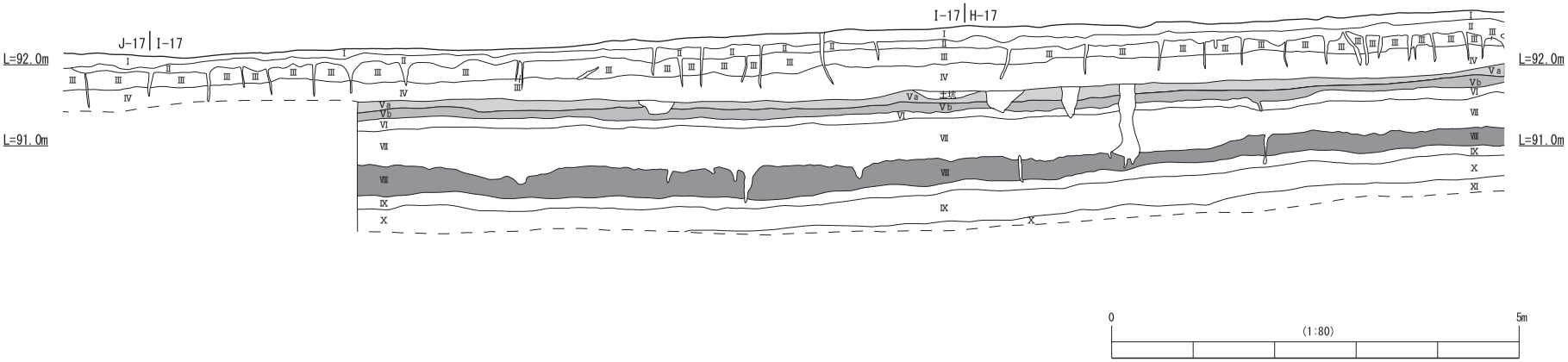


（１グリッド　10m X 10m）

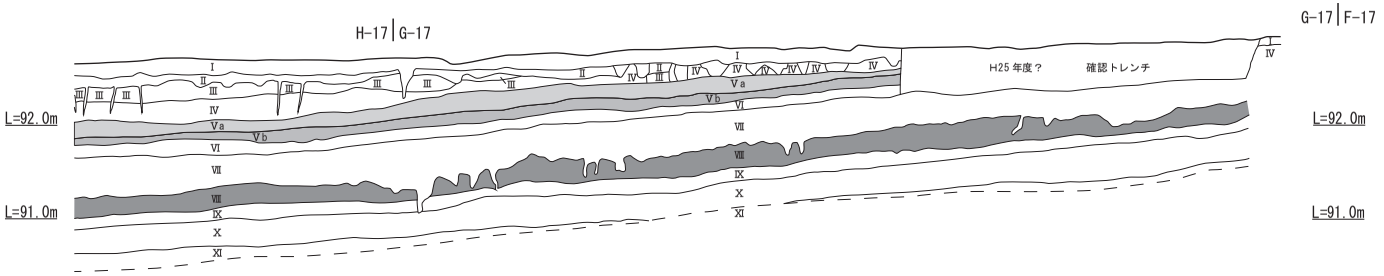
第７図　土層断面位置図



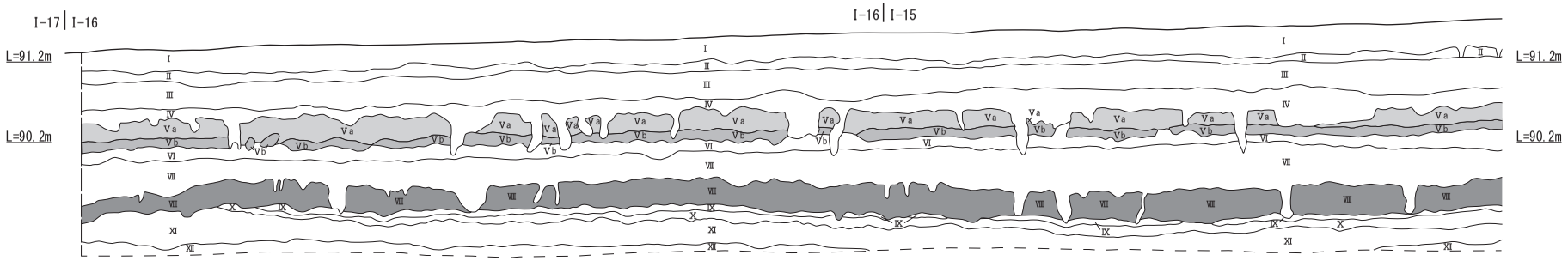
第８図　土層断面図１（Ｇ～Ｉ－13 区）

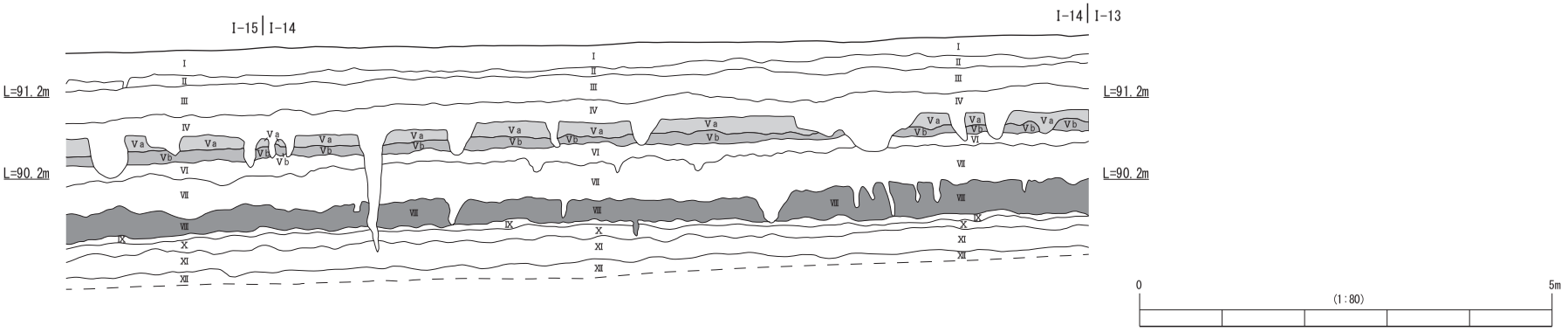


第９図　土層断面図２（Ｇ～Ｊ－17 区①）

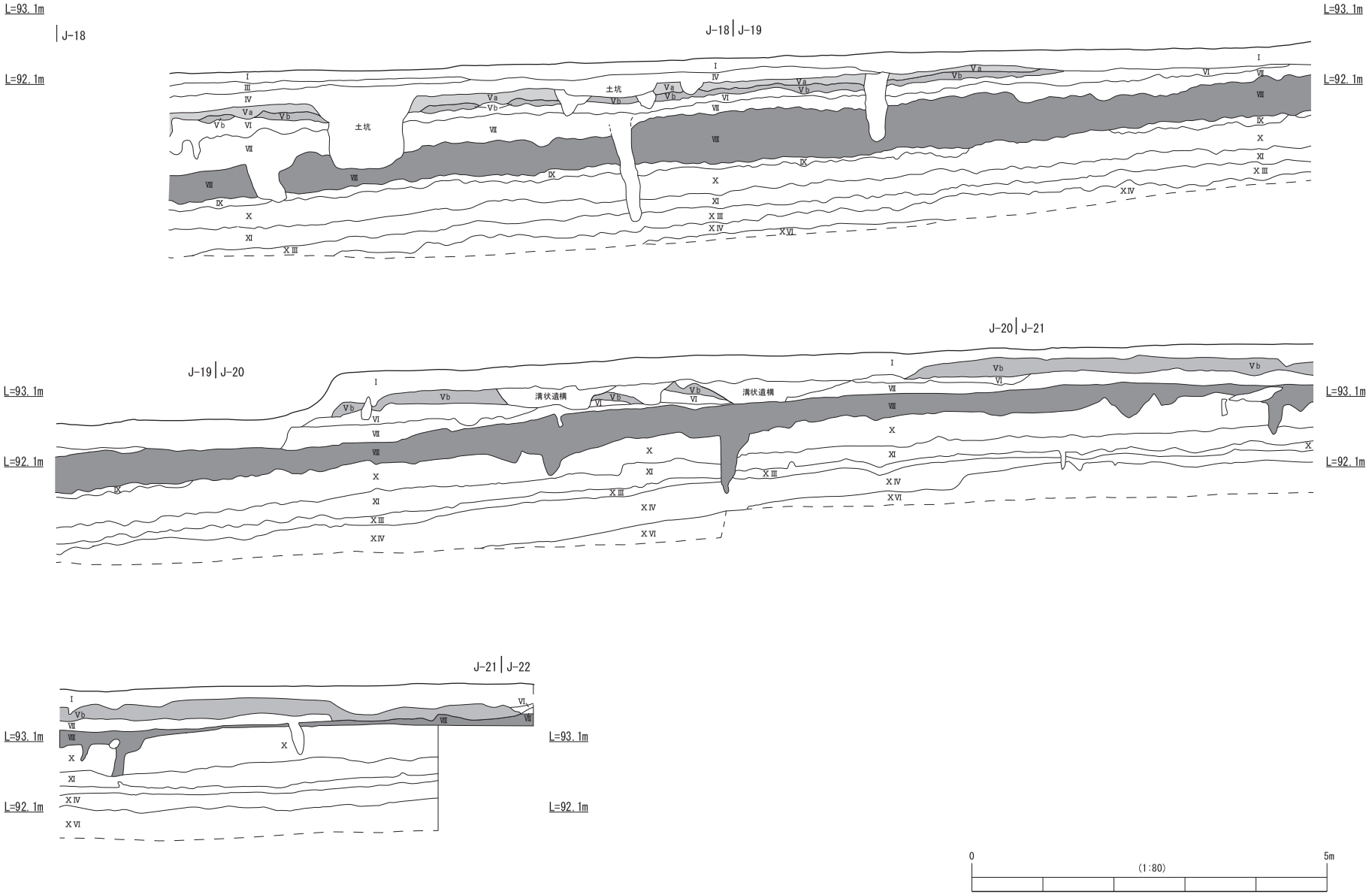


第 10 図　土層断面図３（Ｇ～Ｊ－17 区②）

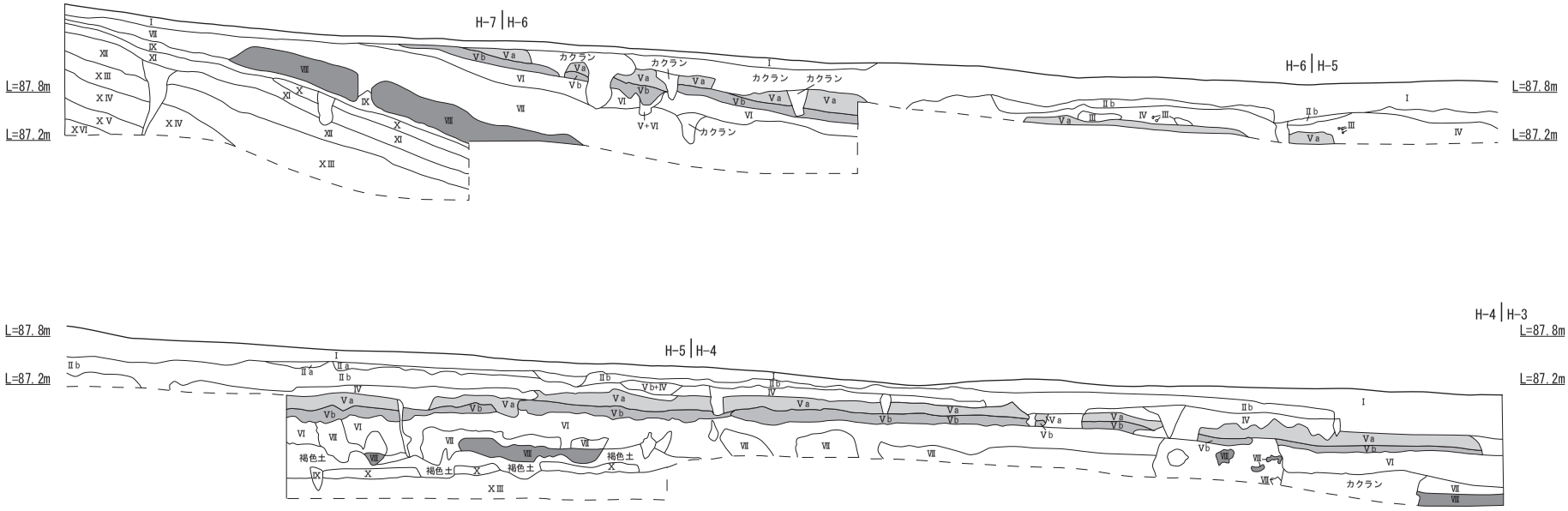




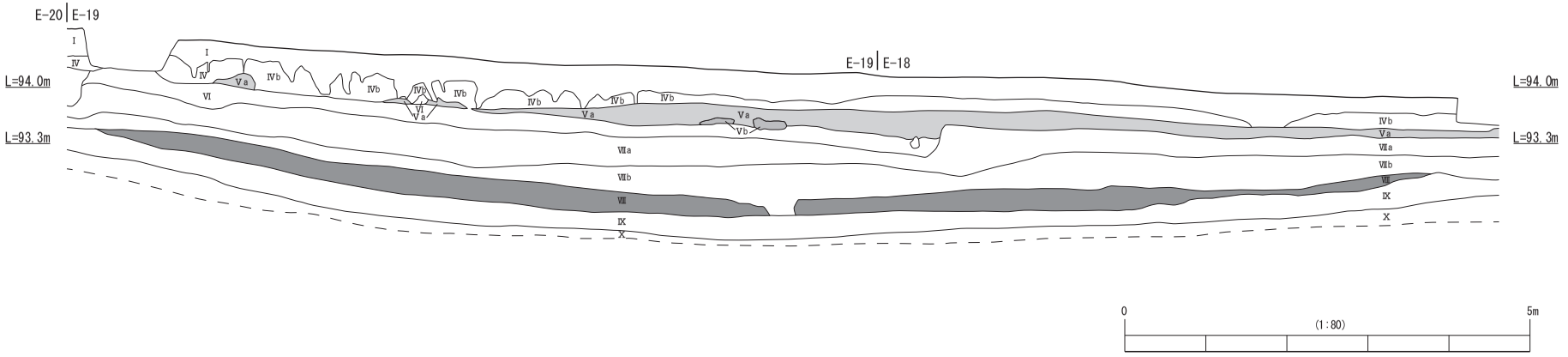
第 11 図　土層断面図４（Ｉ－14 ～ 16 区）



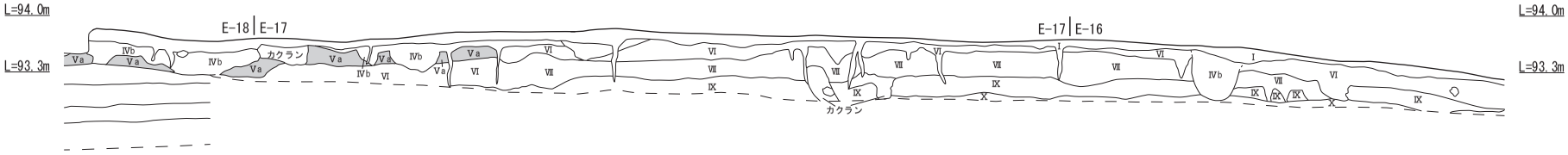
第 12 図　土層断面図５（Ｊ－18 ～ 22 区）



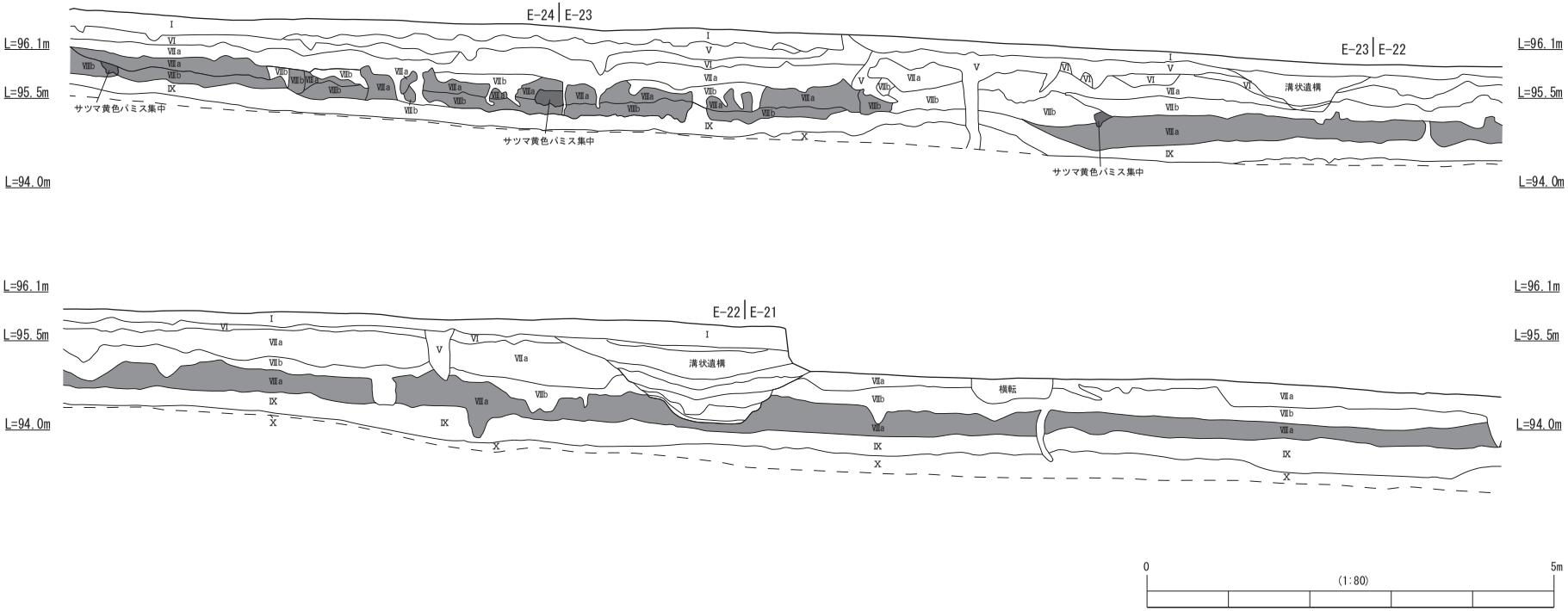
第 13 図　土層断面図６（Ｈ－４～７区）



第 14 図　土層断面図７（Ｅ－16 ～ 20 区①）



第 15 図　土層断面図８（Ｅ－16 ～ 20 区②）



第 16 図　土層断面図９（Ｅ－21 ～ 24 区）

第Ⅳ章　発掘調査の成果

第１節　縄文時代前・中期の調査

１　調査の概要

本遺跡の縄文時代前・中期の該当層はⅢ・Ⅳ層である。Ⅴ層はアカホヤ火山灰（約7,300年前）であり，Ⅲ・Ⅳ層には池田降下軽石（約6,400年前の池田カルデラ形成噴火で噴出した火山噴出物）が含まれる。池田降下軽石は上下約50㎝の幅で散在しており，Ⅲ層よりⅣ層に多く含まれる。そのため，Ⅲ・Ⅳ層の分層は色調及び池田降下軽石が含まれる量により行った。この池田降下軽石が浮遊する現象は，小牧遺跡（鹿屋市串良町）や益畑遺跡（鹿屋市串良町）等でも確認されているが，近隣の遺跡での堆積状況に比べると，浮遊する幅が大きい。本遺跡が池田降下軽石の分布域縁辺部に位置すること以外に，堆積時の環境的要因や生物的要因，人為的要因等が考えられる（成尾英仁氏御教示）。

調査範囲内の地形は，西側が台地の縁辺部にあたり，急崖となる。北西端が最も標高が高く，南東側へ緩やかに傾斜している。調査範囲内は畑地造成のため，広範囲で削平されており，特に調査範囲の中央部に当たるＥ・Ｆ区を中心に，Ⅷ層より上層が消失していた。また，調査範囲の東側にあたるＧ・Ｈ－３～７区や，調査範囲の西端では，Ⅴ層より上層がほとんど消失しており，縄文時代前・中期の遺構は確認できず，遺物も僅少であった。地形は遺物包含層であるⅢ・Ⅳ層を掘削した後，Ⅴ層のアカホヤ火山灰層上面を測量し，図化した。

調査は人力による掘り下げを進めながら，遺構を当時の生活面で可能な限り確認するように努めた。

調査の結果，遺構は土坑178基，土器集中18か所が検出された（第18図）。遺物は多くの土器・石器等が出土した。それぞれの詳細については，次節から説明する。

なお，土器付着炭化物や遺構内出土の炭化物等の中から，合計79点について放射性炭素年代測定を実施した。測定結果の詳細については第Ⅴ章（第２分冊）に掲載するが，本章の本文及び挿図中に出土地点を示し，^{14}Ｃ年代値も記載する。測定結果については，第Ⅵ章（第２分冊）でまとめを行った。土坑からは炭化種実が出土しており，種実同定を実施した。同定結果の詳細については第Ⅴ章に掲載し，本章では挿図中に出土地点を示し，本文及び遺構一覧表に分類群を記載する。また，赤色顔料が塗布された遺物についても，分析結果の詳細は第Ⅴ章に掲載し，本章では分析結果のみを本文及び観察表に記載する。

土器の胎土に黒曜石片や軽石を含むものが確認できた。黒曜石片や軽石の有無については観察表の備考欄に記載する。

第２節　遺構

１　土坑

土坑は178基検出した（第19～21図）。土坑はすべてＨ－11区より西側で検出され，特にＨ・Ｉ－18・19区に集中している。検出面はⅤ層上面のアカホヤ火山灰層であり，一部Ⅵ層上面で検出された。

土坑の分類は，平面形状及び断面形状を基に下記のように行った。

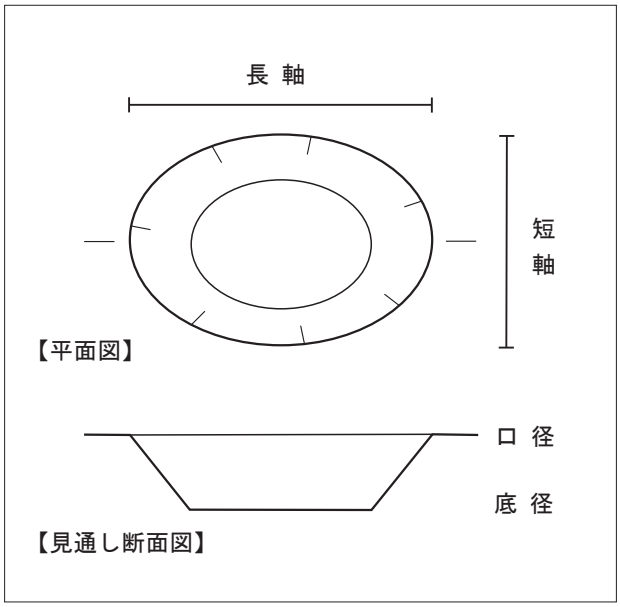
平面形状

Ⅰ類　円形
Ⅱ類　楕円形
Ⅲ類　隅丸方形
Ⅳ類　不定形
Ⅴ類　全形状が把握できないもの

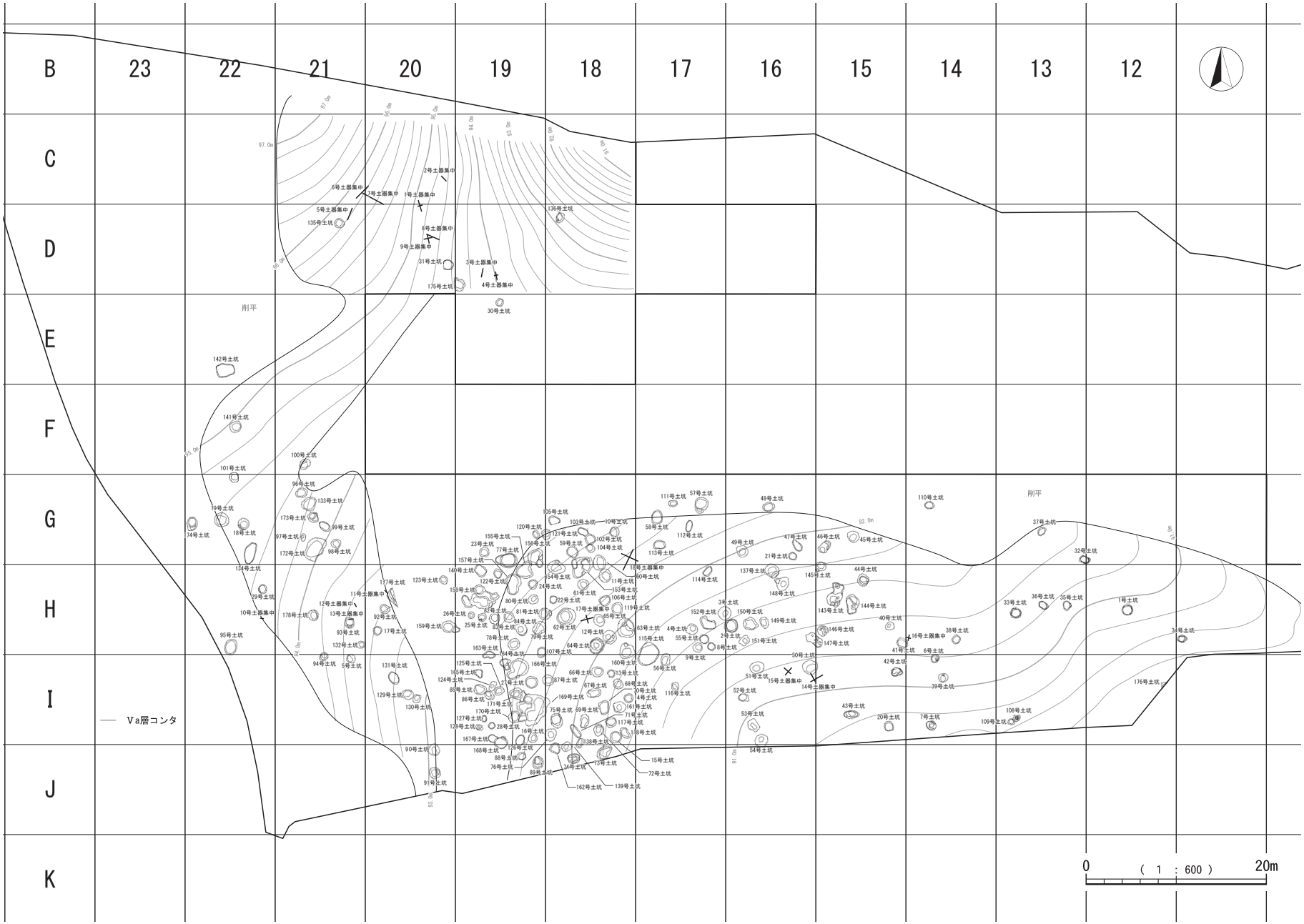
断面形状

袋状　　底径もしくは掘り込みの中位が最大径となるもの
円筒状　口径と底径がほぼ同じ大きさのもの
鉢状　　口径が底径を上回り，深さのあるもの
皿状　　口径が底径を上回り，浅く平たいもの

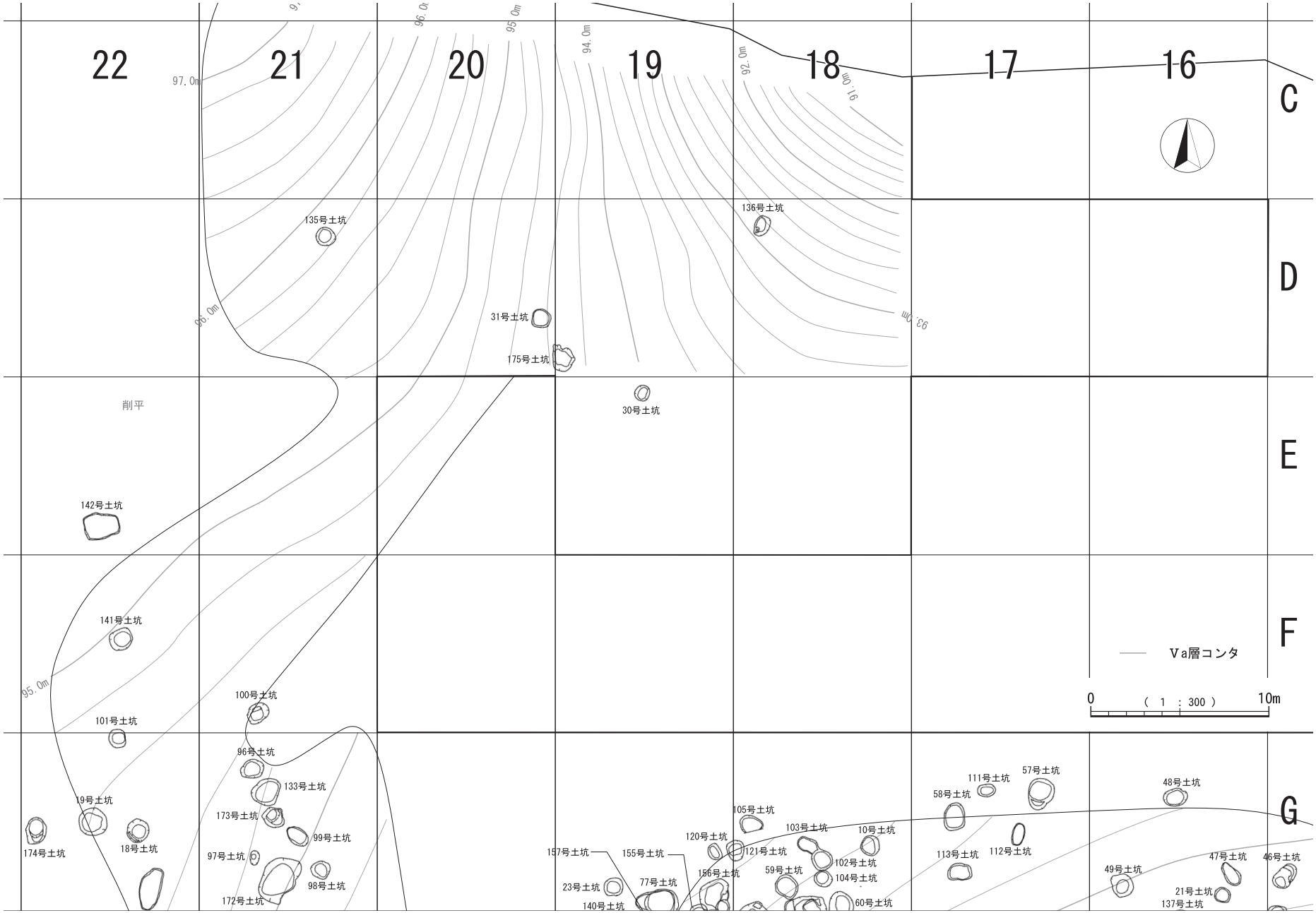
各部の名称については第17図のとおりである。それぞれの遺構図は平面図，見通し断面図（２方向）を掲載し，埋土が分層されたものについては土層断面図も加える。なお，一覧表及び観察表に記載する「ＳＫ」は，土坑の遺構記号である。以下，平面形状別に詳細を述べる。



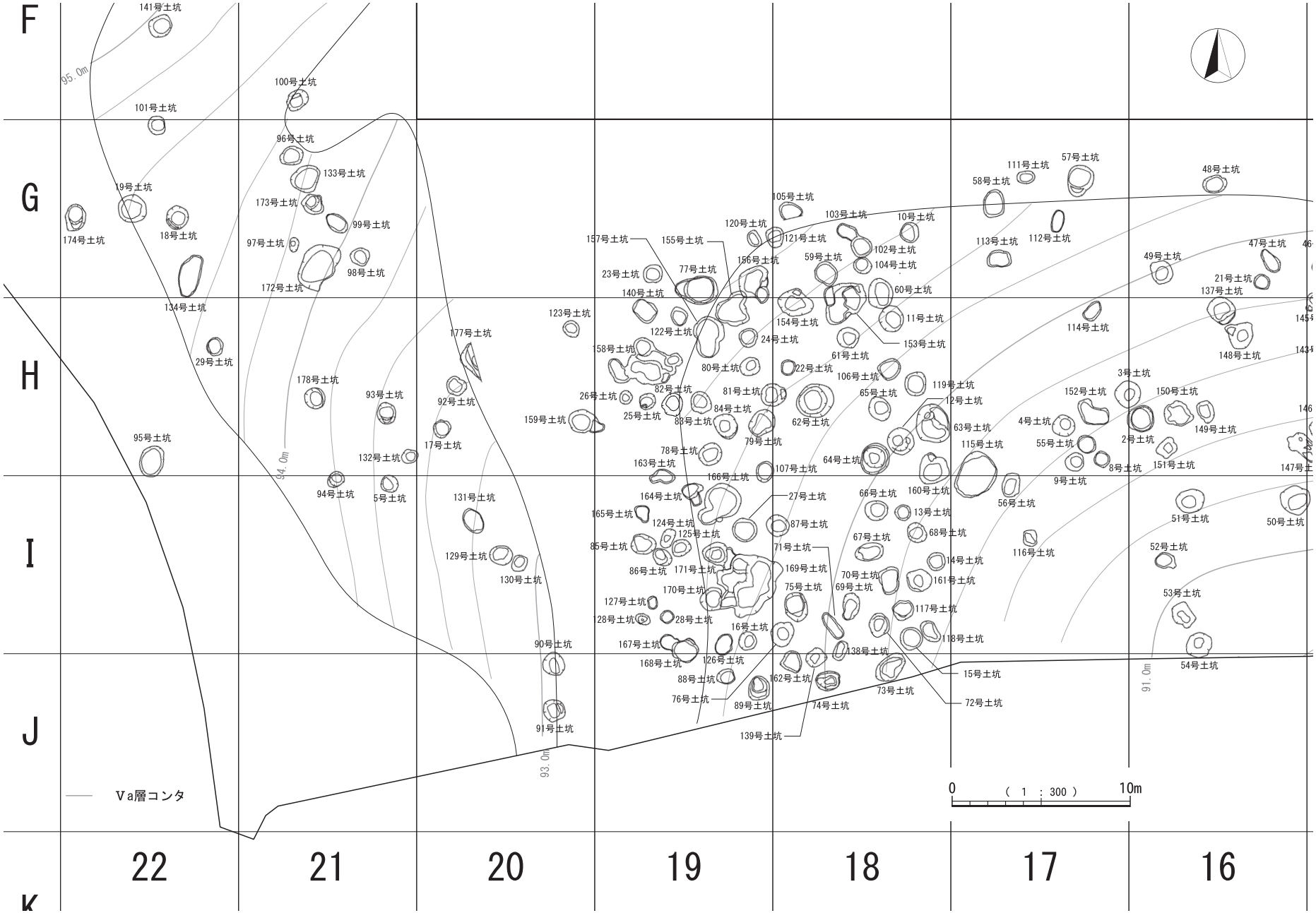
第17図　土坑の各部の名称



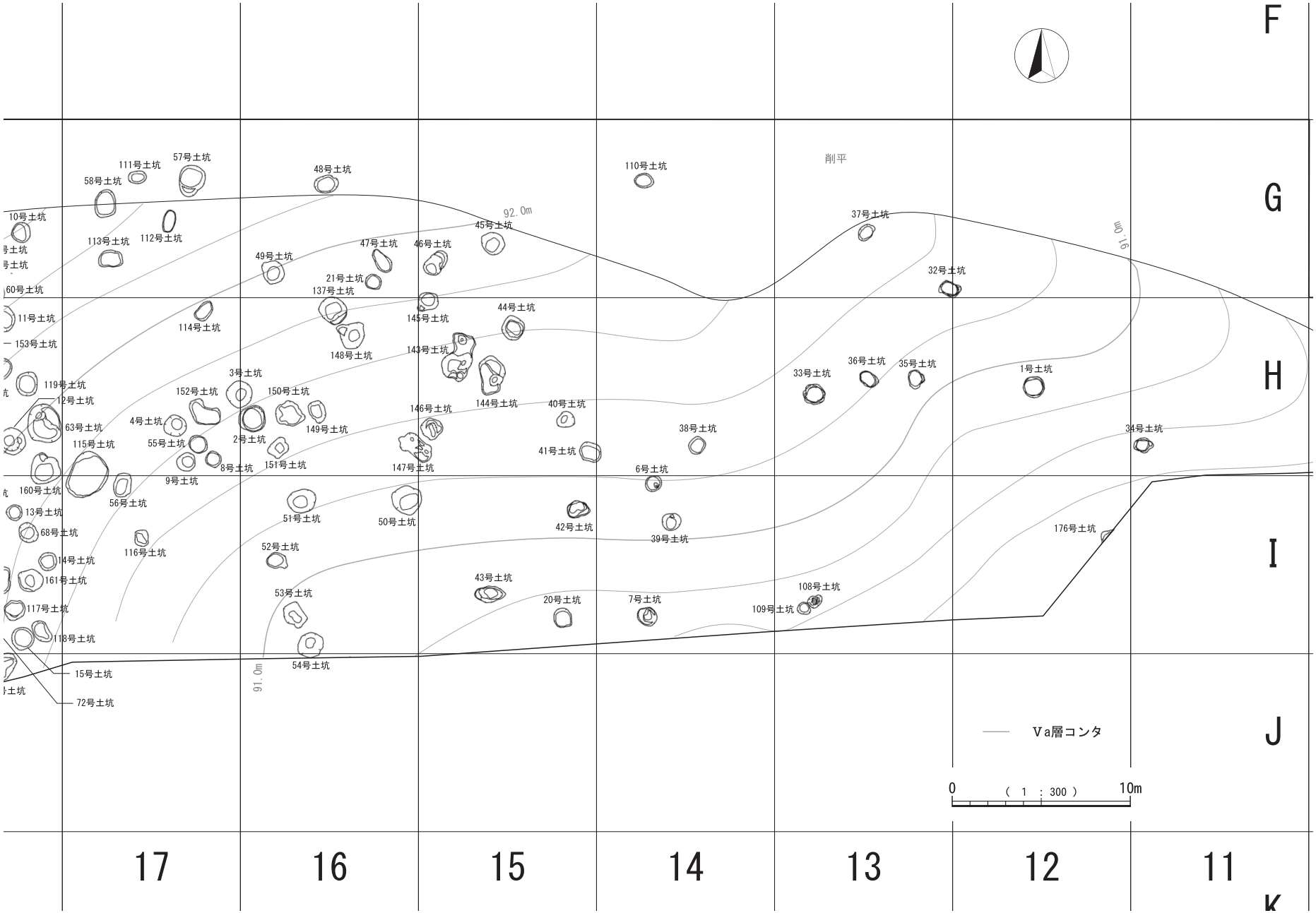
第18図　縄文時代前・中期全遺構配置図



第19図　縄文時代前・中期土坑配置図①



第20図　縄文時代前・中期土坑配置図②



第21図　縄文時代前・中期土坑配置図③

（１）Ｉ類　円形

１号土坑（第22図）

Ｈ－12区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸120cm，短軸116cm，検出面からの深さは82cmを測る。検出面から約20cmのところで緩く屈曲するが，口径と底径がほぼ等しいことから，断面形状は円筒状とした。埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土の中位から下位にかけて土器12点，石器１点，礫２点が出土した。１は先端が丸みを帯びるやや尖底気味の底部である。外面には，縦位の貝殻条痕を施す。胴部下半付近には煤が付着している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

２号土坑（第22図）

Ｈ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸150cm，短軸140cm，検出面からの深さは87cmを測る。西側がやや張り出すが，断面形状は円筒状とした。埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から土器14点，石器１点，フレーク１点，礫５点が出土した。２・３は胴部である。外面には，２は横位，３は縦位の貝殻条痕を施す。内面には，２は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。３は丁寧なナデを行っており，指おさえ痕が確認できる。どちらもⅢ類土器である。

３号土坑（第23図）

Ｈ－16・17区Ｖa層上面で検出した。２号土坑の北側に隣接する。大きさは長軸152cm，短軸143cm，検出面からの深さは60cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から下位にかけて土器13点，石器１点，フレーク・チップ９点，礫４点，炭化物１点が出土した。４は胴部である。外面には，横位の貝殻条痕を施し，一部微隆起線状になっている。内面はナデを行い，擦痕状の調整が確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。

また，埋土上位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4057±28^{14}C BPの値が得られた。

４号土坑（第23図）

Ｈ－17区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸127cm，短軸121cm，検出面からの深さは54cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から中位にかけて土器10点，フレーク・チップ４点，軽石製品１点，礫３点が出土した。５は，口縁部外面に横位の刻目突帯を２段貼り付け，突帯の上端側のみ，突帯に沿うように沈線を施す。それぞれの刻目突帯下には横位の刺突を施す。口唇部には，ヘラ状工具による浅い刻目を施す。口縁部内面は，横位の刺突を施す。器面調整は外面はナデを行っており，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。６は，口縁部内外面に横位の刺突を施す。口唇部は平坦に成形し，上方より棒状工具を当て，長めの刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。７は口縁部～胴部の境付近である。外面には，縦位の突帯を貼り付けた後，横位の突帯を１段貼り付け，縦長の浅い刻目を施す。横位の突帯の上位には，斜位の突帯も確認できる。突帯下には，縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

５号土坑（第24図）

Ｈ・Ｉ－21区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸101cm，短軸96cm，検出面からの深さは55cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から中位にかけて土器27点，石器１点，フレーク・チップ５点，礫７点が出土した。８は波頂部に粘土紐を楕円形状に貼り付けた浮文が確認できる。口縁部外面には，刻目突帯を３段貼り付ける。口縁部内面には，横位の刺突を施す。内外面とも剥落が多い。Ⅱ－１－①類土器である。９は胴部であり，縦位の刻目突帯を貼り付ける。内面には，刺突が確認できる。内外面とも器面調整は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。10は胴部であり，横位の刻目突帯下に，単位は不明だが鋸歯状に沈線を施す。沈線下には横位の刺突を施す。外面から穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。器面調整は，内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。11～14は胴部である。外面は縦位もしくは斜位の刺突を施し，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

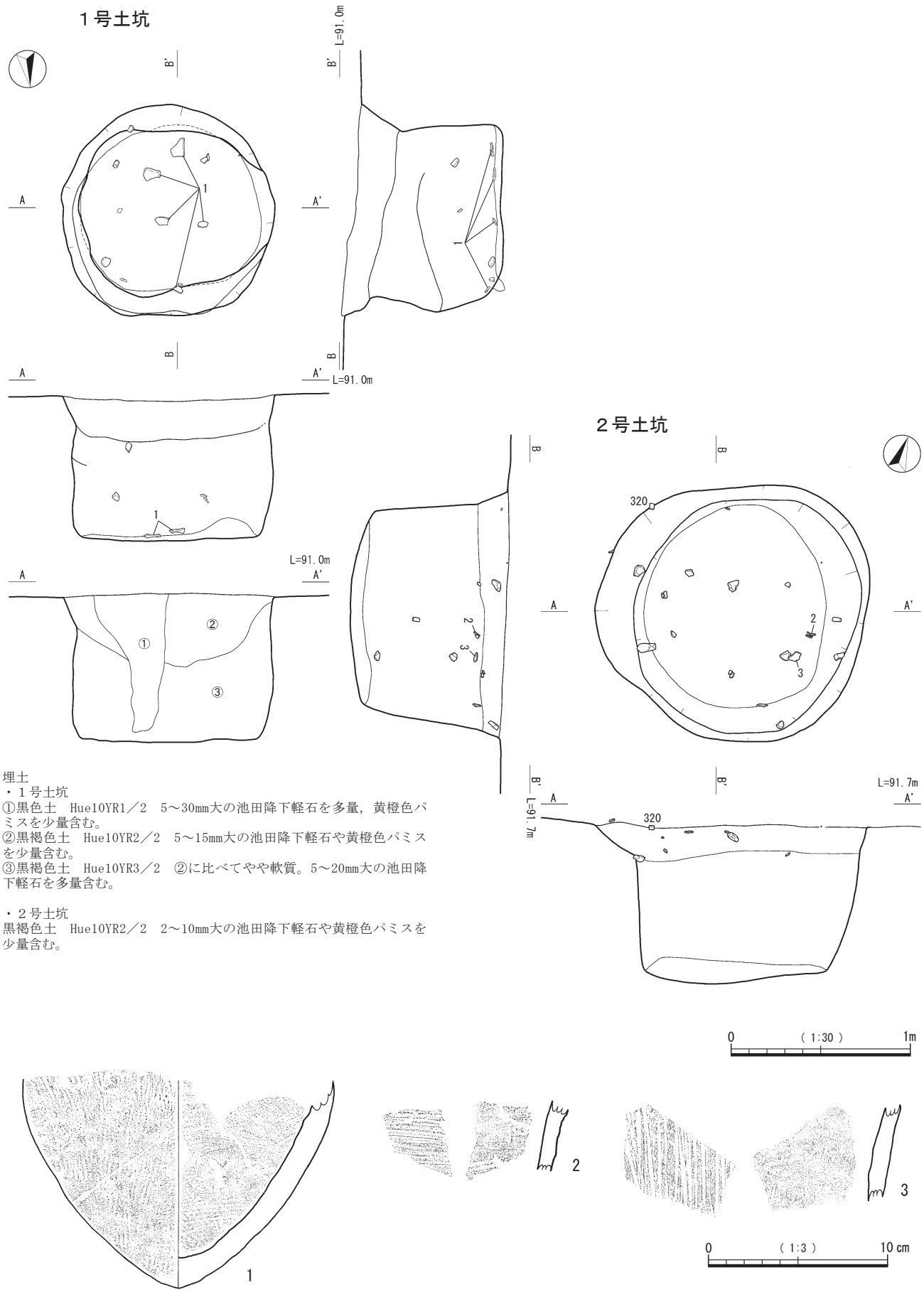
10は外面に赤色顔料が塗布されており，分析したところパイプ状ベンガラであった。

６号土坑（第25図）

Ｈ・Ｉ－14区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸96cm，短軸87cm，検出面からの深さは49cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から下位にかけて土器９点，石器１点，フレーク・チップ３点，炭化物14点が出土した。15は胴部である。外面に縦位の刻目突帯を貼り付け，その両側に斜位の沈線を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

また，埋土下位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4567±31^{14}C BPの値が得られた。

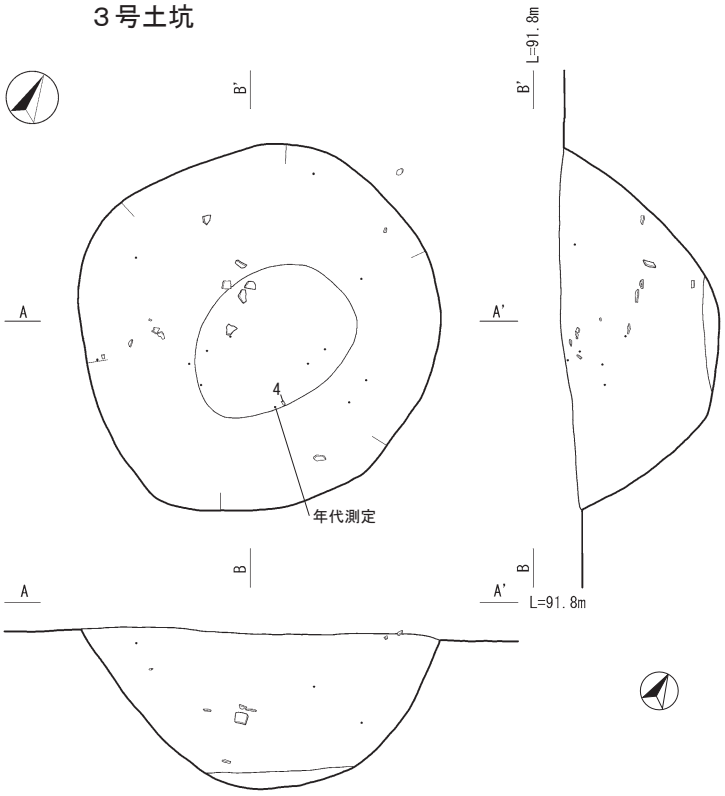


埋土
・１号土坑
①黒色土　Hue10YR1／2　5～30㎜大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。
②黒褐色土　Hue10YR2／2　5～15㎜大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。
③黒褐色土　Hue10YR3／2　②に比べてやや軟質。5～20㎜大の池田降下軽石を多量含む。

・２号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～10㎜大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

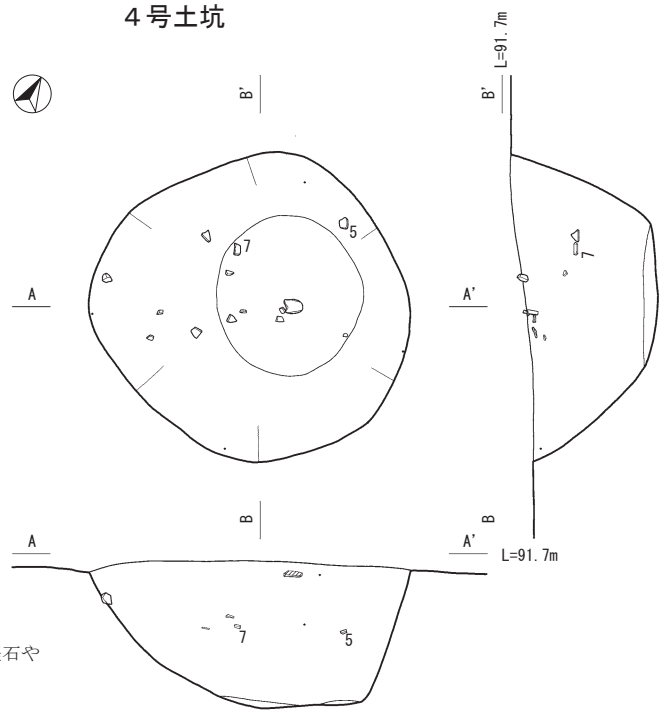
第22図　土坑１（１号・２号）

３号土坑

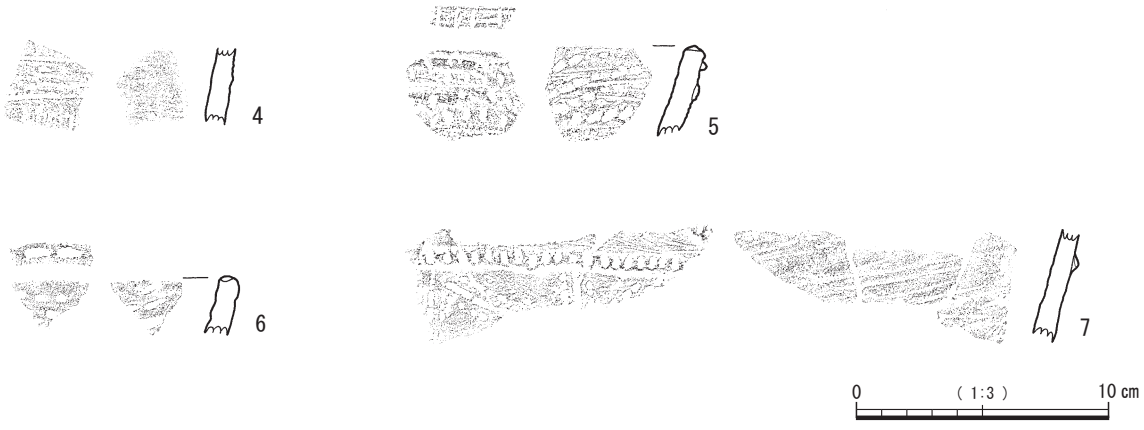


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

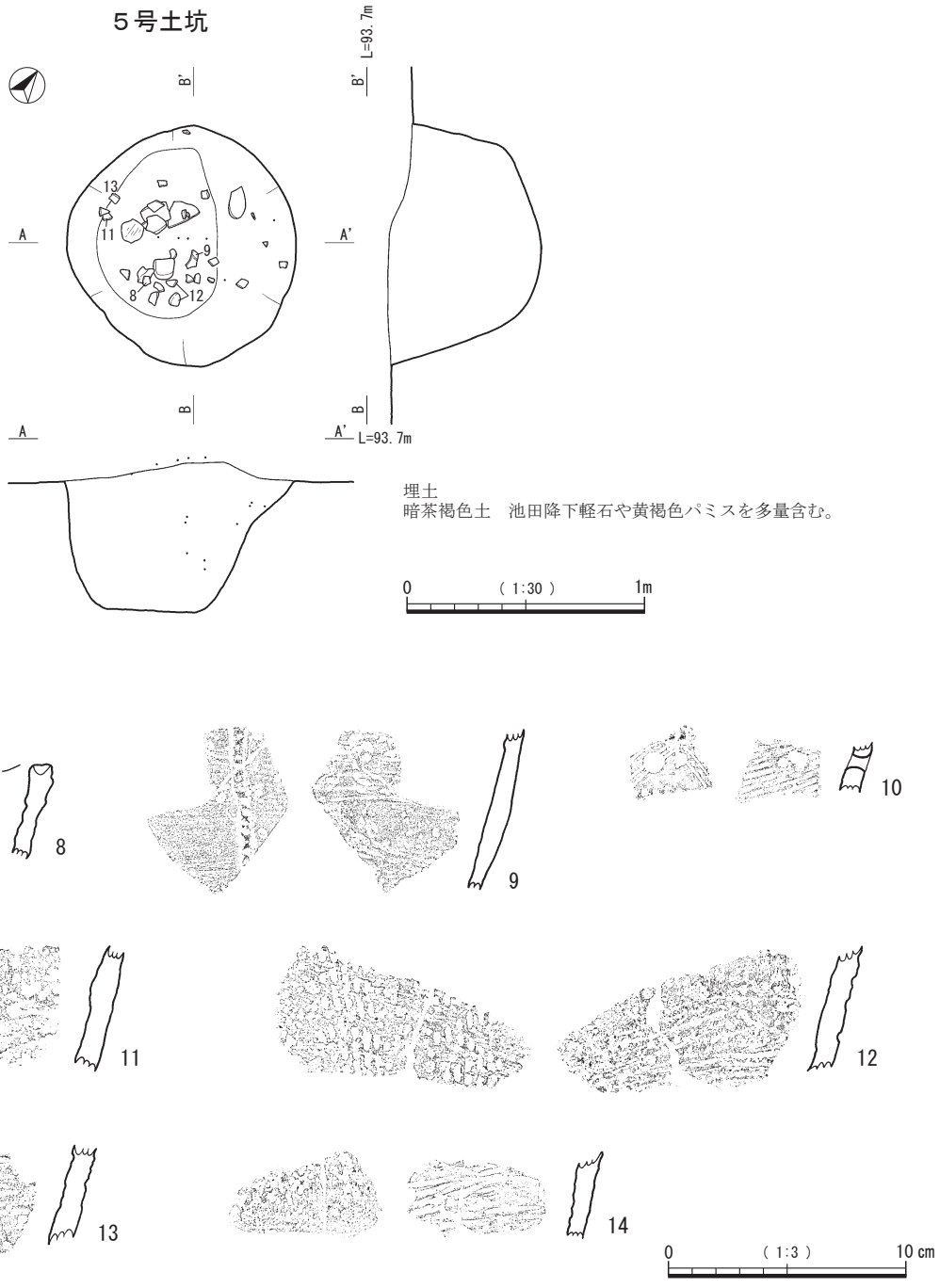
４号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や明黄褐色パミスを少量含む。



第23図　土坑２（３号・４号）



第24図　土坑３（５号）

７号土坑（第25図）

Ⅰ－14区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸112㎝，短軸103㎝，検出面からの深さは42㎝を測る。遺構の中央から東側にかけて一段深くなっているが，断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

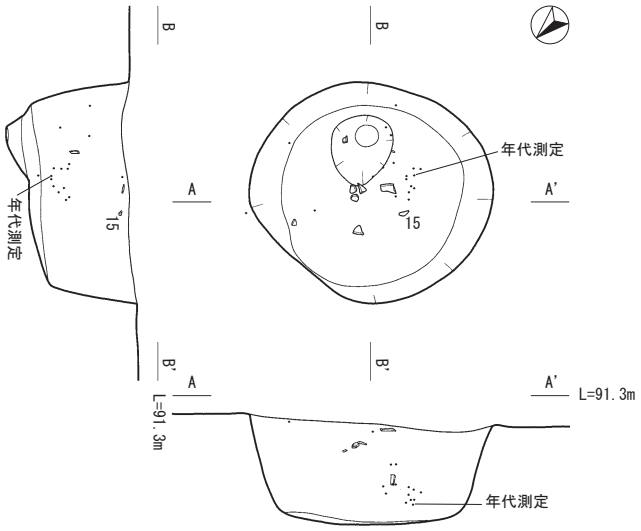
出土遺物は埋土中位から土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

８号土坑（第25図）

Ｈ－17区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸87㎝，短軸82㎝，検出面からの深さは45㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

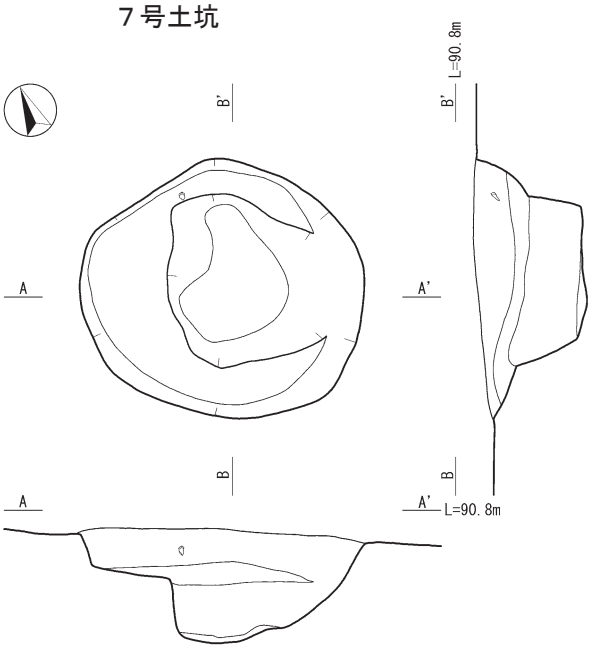
出土遺物は埋土中位から下位にかけて土器６点，フレーク１点が出土した。16は口縁部である。外面に斜位の刻目突帯を２本貼り付ける。口唇部には棒状工具で刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。

６号土坑



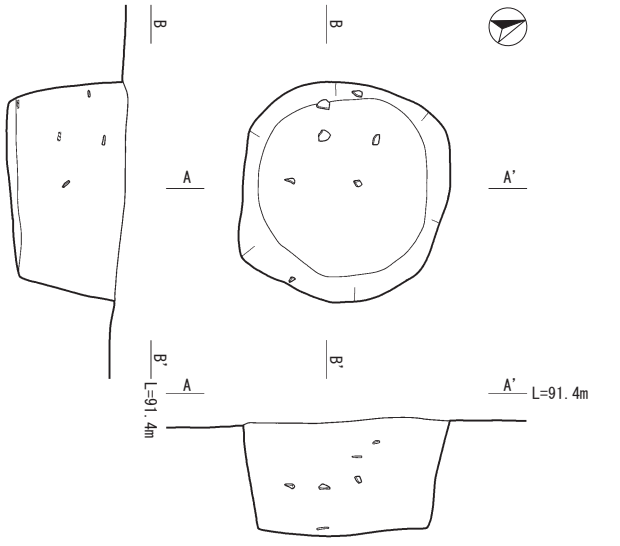
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

７号土坑

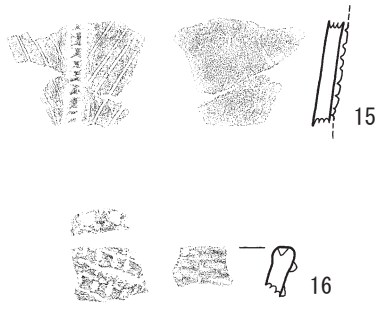


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

８号土坑



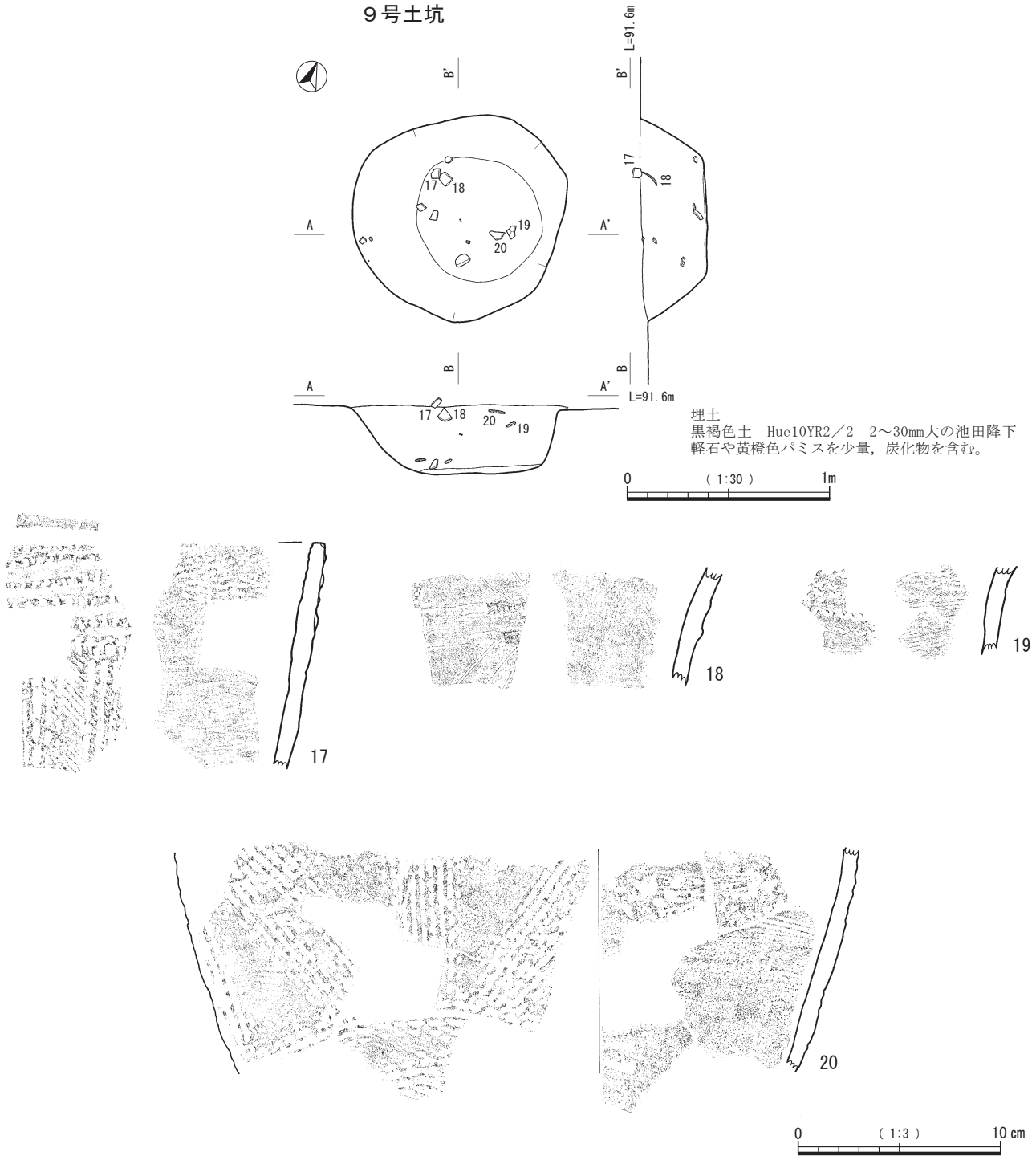
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～20mm大
の池田降下軽石や明黄褐色パミスを
少量含む。



0　（1:30）　1m

0　（1:3）　10cm

第25図　土坑４（６号・７号・８号）



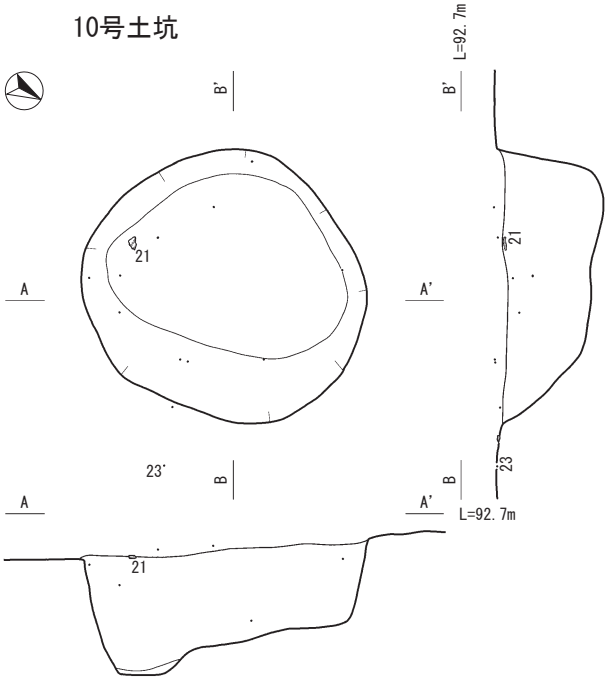
第26図　土坑５（９号）

９号土坑（第26図）

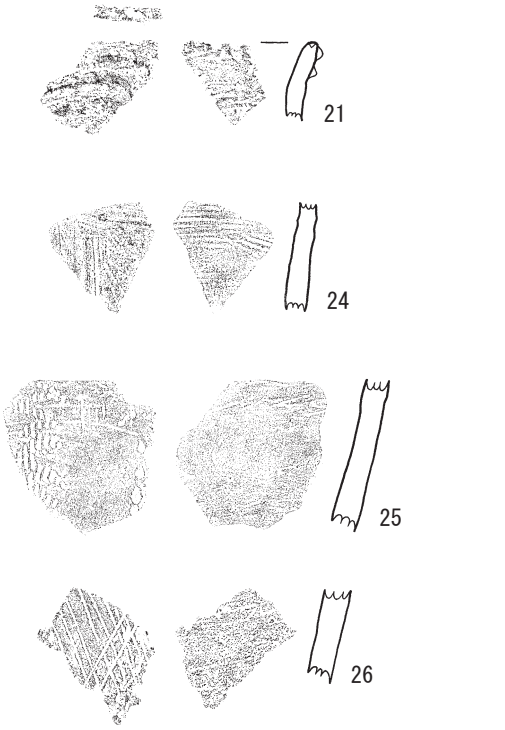
Ｈ－17区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸102cm，短軸100cm，検出面からの深さは33cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器10点，礫１点，炭化物２点が出土した。17は，口縁部外面に横位の刻目突帯を５段施した後，縦位，斜位の刺突を施す。口唇部外端にも浅い刻みを施す。胴部には貝殻条痕調整が明瞭に残る。口縁部内面には，横位の短い刺突と押引状の長い刺突を施す。胴部内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。18は胴部であり，外面に微隆線状の刻目突帯を縦位，横位に施した後，斜位の浅い沈線を施す。横位の刻目突帯が剥離しているため，施文順序は不明である。器面調整は，内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。19は胴部であり，外面は半截竹管による刺突を横位に施す。

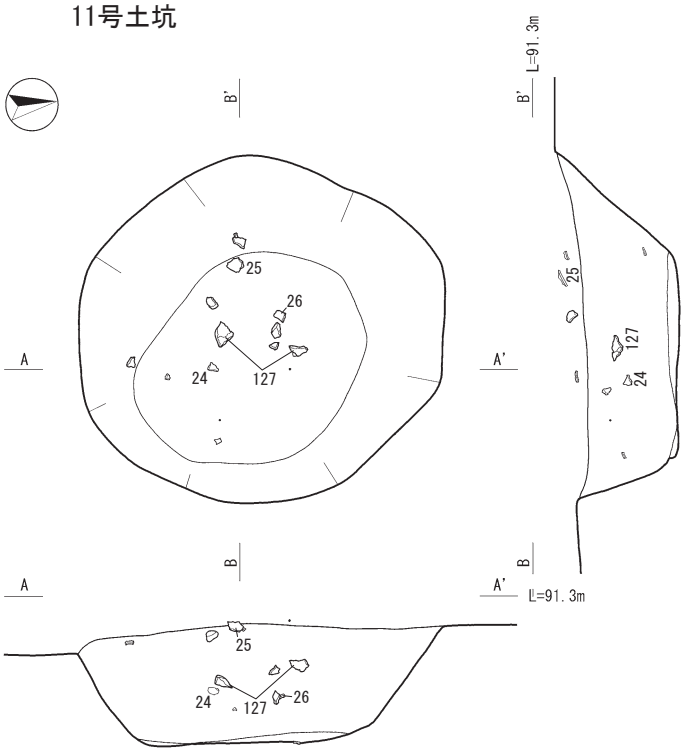
10号土坑



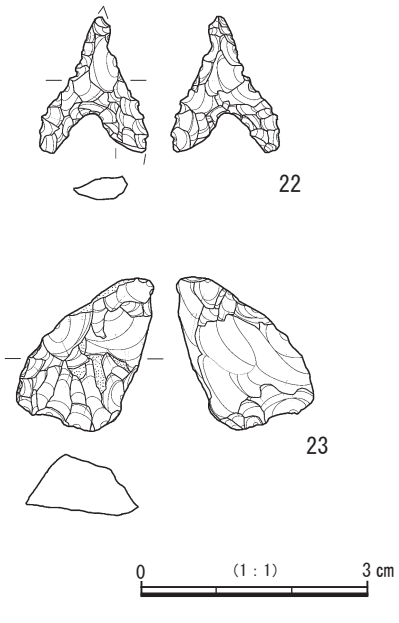
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～35mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。



11号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田
降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。



第27図　土坑６（10号・11号）

内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。20は胴部下半である。後述する14号土器集中で取り上げた土器や包含層出土の土器と接合した。外面には，短い刺突と押引状の長い刺突を組み合わせた刺突列を，横位→縦位・斜位の順に施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

10号土坑（第27図）

Ｇ－18区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸111㎝，短軸103㎝，検出面からの深さは47㎝を測る。底面は南側へ傾斜している。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器２点，石器２点，フレーク・チップ10点が出土した。21は口縁部である。外面には，断面形態が三角形状の突帯を弧状に貼り付ける。口唇部には，棒状工具を用いて斜位に刻みを施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。22は取上時の記録がないため，出土地点は不明である。22は黒曜石Ⅰ類製の石鏃である。全体の形状が二等辺三角形状を呈し，側縁部の中央から脚部にかけて膨らみ，部分的に鋸歯縁加工が施される。基部の抉りは三角形状となる。23は遺構外から出土した。黒曜石Ⅳ類製の二次加工剥片である。表面の上端部及び中央に原礫面が残り，下端部には細かな剥離調整を施している。

11号土坑（第27図）

Ｈ－18区Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸150㎝，短軸145㎝，検出面からの深さは38㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器12点，フレーク２点，礫２点が出土した。24～26は胴部である。24は，外面に微隆線状の突帯を縦位，横位に貼り付ける。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。25は，外面に縦位の刺突を施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。26は，外面に斜格子状の沈線を施す。器面調整は内外面ともナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。

12号土坑（第28図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸147㎝，短軸142㎝，検出面からの深さは43㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器11点，石器２点，フレーク・チップ24点，礫10点，炭化物１点が出土したが，小片が多い。27は無文の胴部である。外面はナデを行っており，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

13号土坑（第28図）

Ⅰ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸88㎝，短軸86㎝，検出面からの深さは44㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器16点，フレーク・チップ３点，礫５点，炭化物６点が出土した。28は波状口縁を呈すると考えられる。外面には横位の突帯を貼り付け，ヘラ状工具を用いて縦長の刻みを施す。口唇部にも同様に刻目を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

14号土坑（第28図）

Ⅰ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸102㎝，短軸99㎝，検出面からの深さは32㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器５点，石器１点，チップ２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

15号土坑（第28図）

Ⅰ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸123㎝，短軸121㎝，検出面からの深さは36㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

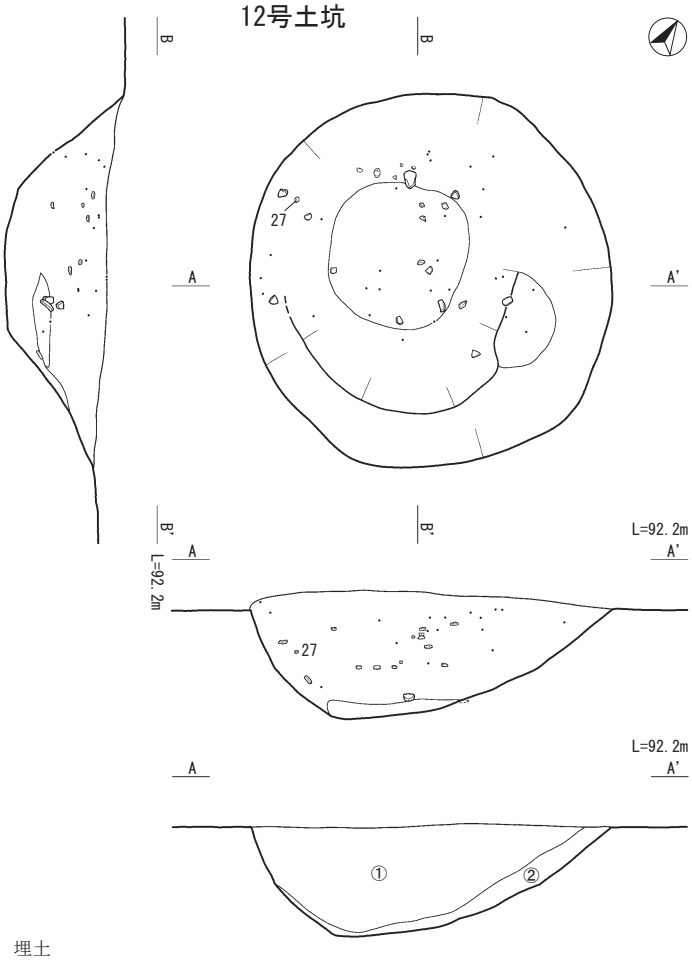
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器13点，フレーク４点，礫２点が出土した。29は胴部である。斜位の微隆線状の突帯に米粒状の刻みを施す。突帯に沿うように浅い沈線を数本施している。器面調整は外面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

16号土坑（第29図）

Ⅰ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸・短軸とも99㎝，検出面からの深さは39㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

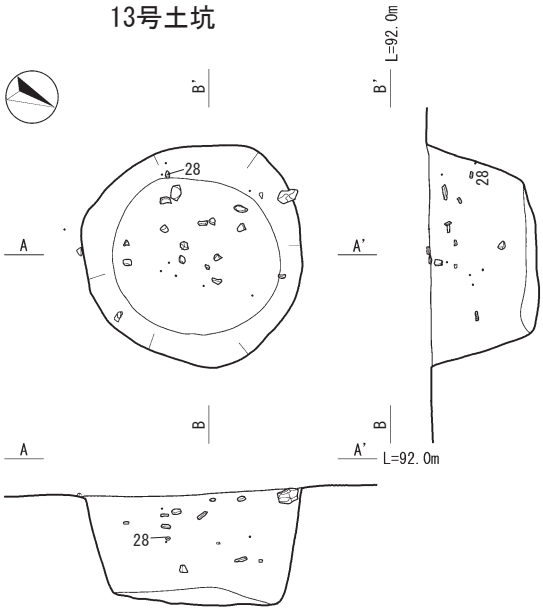
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器５点，フレーク・チップ３点，炭化物１点，赤色顔料２点が出土した。30は口縁部下位～胴部である。口縁部外面には，２本１単位の縦位の突帯を貼り付けた後，２本１単位の斜位の突帯を貼り付ける。突帯にはヘラ状工具による縦長の刻目を施す。胴部には縦位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。31・32は胴部である。31は，外面に二枚貝の腹縁部を器面に対して垂直に当て，支点を変えながら刺突を行う，相交弧文を施している。内面は貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅱ－２－②類土器である。32は縦位の刺突列を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土

12号土坑



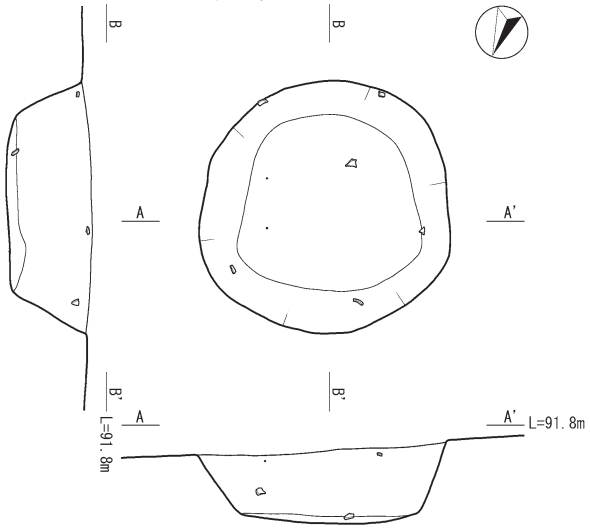
埋土
①暗褐色土　Hue10YR3／3　3～35mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。
②暗褐色土　Hue10YR3／4　やや粘質。2～30mm大の池田降下軽石を少量含む。

13号土坑



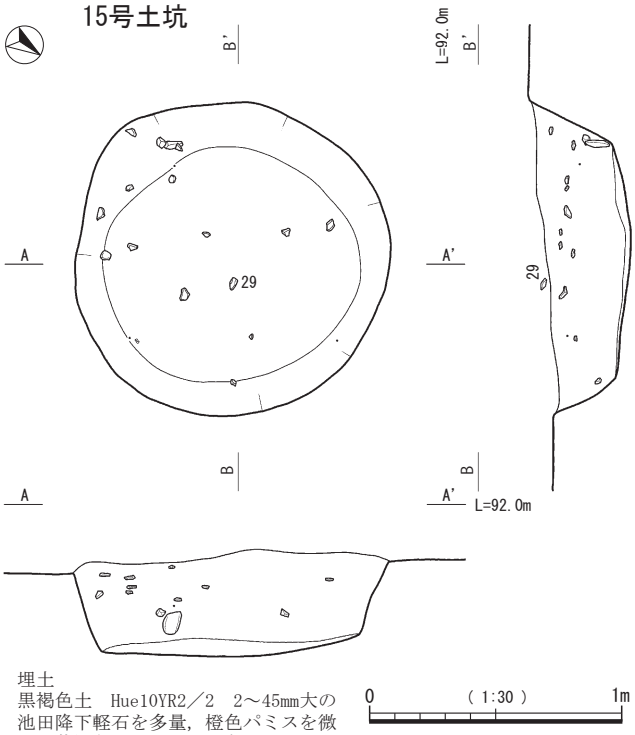
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石を中量，黄橙色パミスを少量含む。

14号土坑

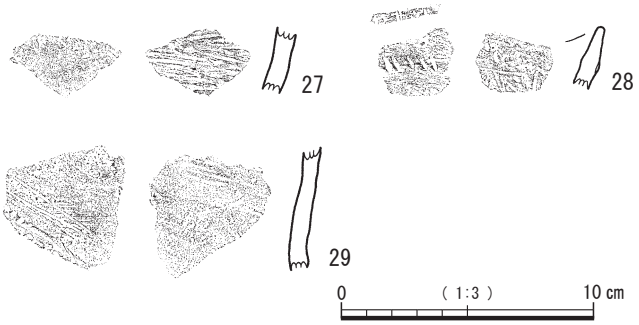


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

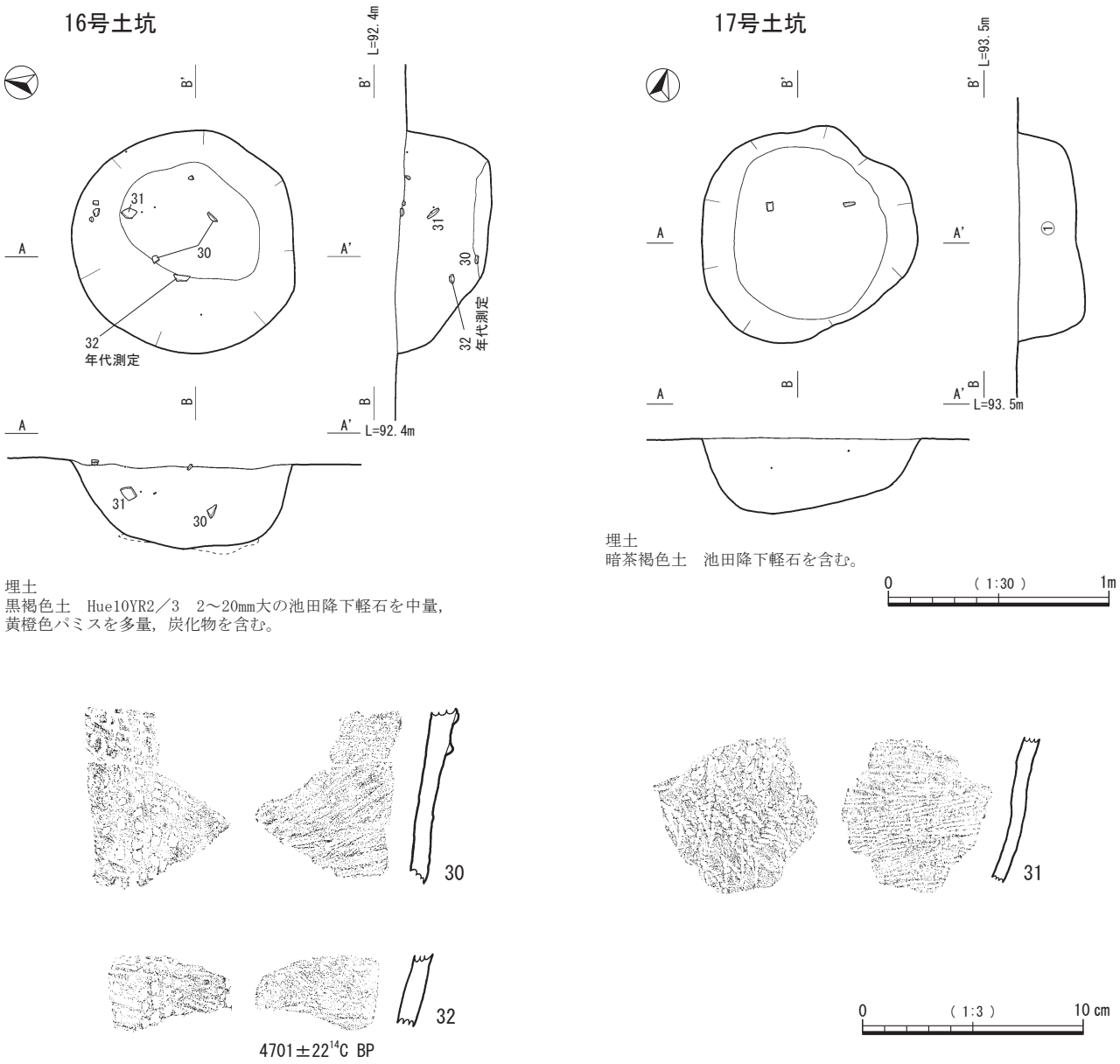
15号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～45mm大の池田降下軽石を多量，橙色パミスを微量，黄橙色パミスを少量含む。



第28図　土坑７（12号・13号・14号・15号）



第29図　土坑８（16号・17号）

器である。

また，32に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4701±22^{14}C BPの値が得られた（YU-9998）。

17号土坑（第29図）

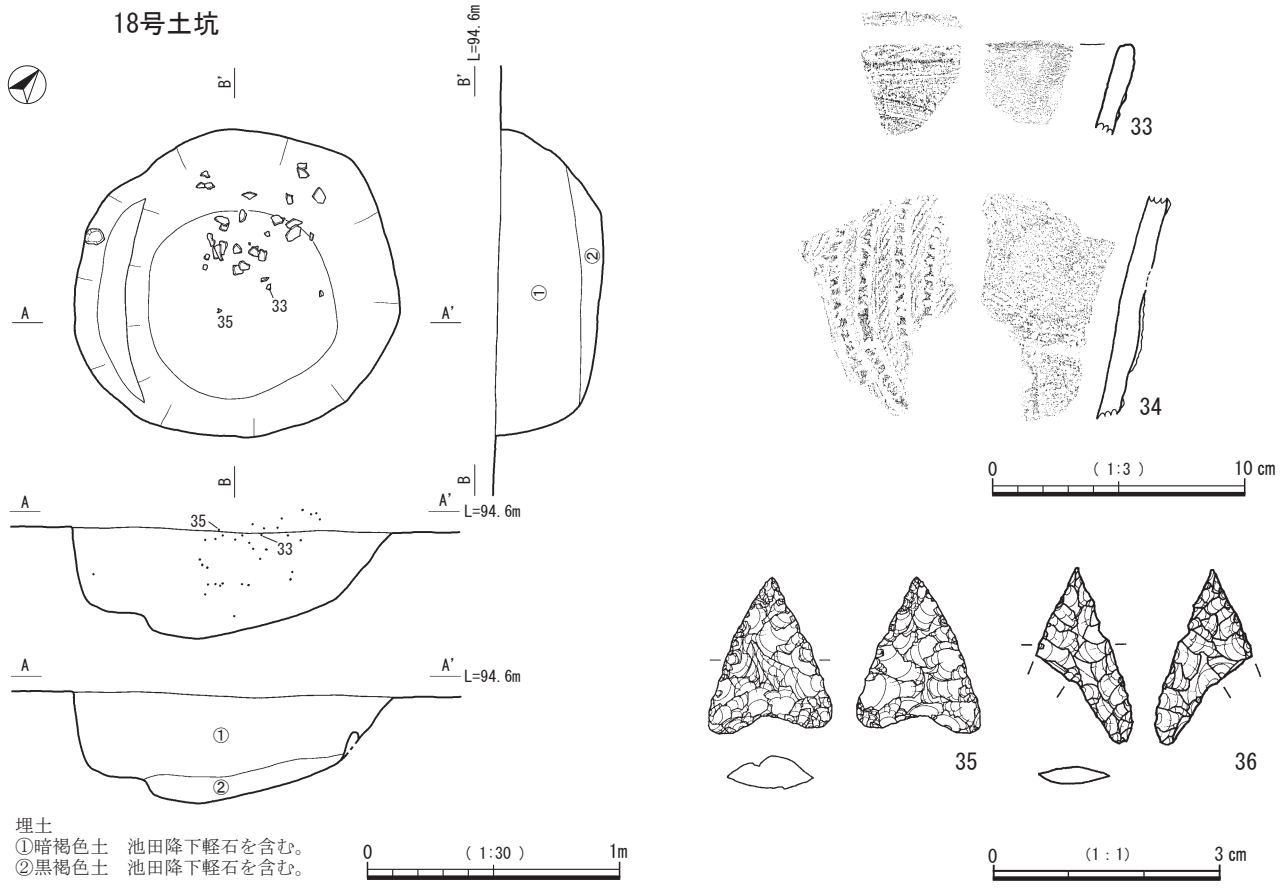
Ｈ－20区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸100cm，短軸93cm，検出面からの深さは35cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

18号土坑（第30図）

Ｇ－22区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸128cm，短軸121cm，検出面からの深さは43cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器35点，石器２点，チップ１点，礫１点が出土した。33は口縁部である。外面には横位の微隆線状の突帯を貼り付ける。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。34は胴部である。外面には刻目突帯を縦長の弧状に施し，刻目突帯間には斜位の沈線を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。35は黒曜石Ｉ類製，36は黒曜石Ｖ類製の石鏃である。全体の形状が二等辺三角形状を呈し，35は基部に浅い抉りをもつ。36は遺構内一括遺物である。左脚部を欠損するが，基部の抉りが深く，脚部の先端を尖らせる。



第30図　土坑９（18号）

19号土坑（第31図）

Ｇ－22区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸162cm，短軸153cm，検出面からの深さは37cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から下位にかけて土器52点，石器２点，フレーク・チップ63点，礫26点，炭化物１点が出土した。37・38は口縁部である。37は，縦位，横位の刺突を施した後，斜位の刺突を施す。口唇部には，棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。38は，外面に横位，斜位の刺突を施す。内面は痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。39・40は胴部である。39は，外面に微隆線状の突帯を横位に貼り付ける。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。40は，外面に斜位の刺突を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。41は安山岩Ⅲ類製の磨・敲石である。表裏面には顕著な磨面が残る。

また，埋土中位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4825±31^{14}C BPの値が得られた。

20号土坑（第32図）

Ｉ－15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸107cm，短軸99cm，検出面からの深さは20cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土下位から礫１点が出土した。

21号土坑（第32図）

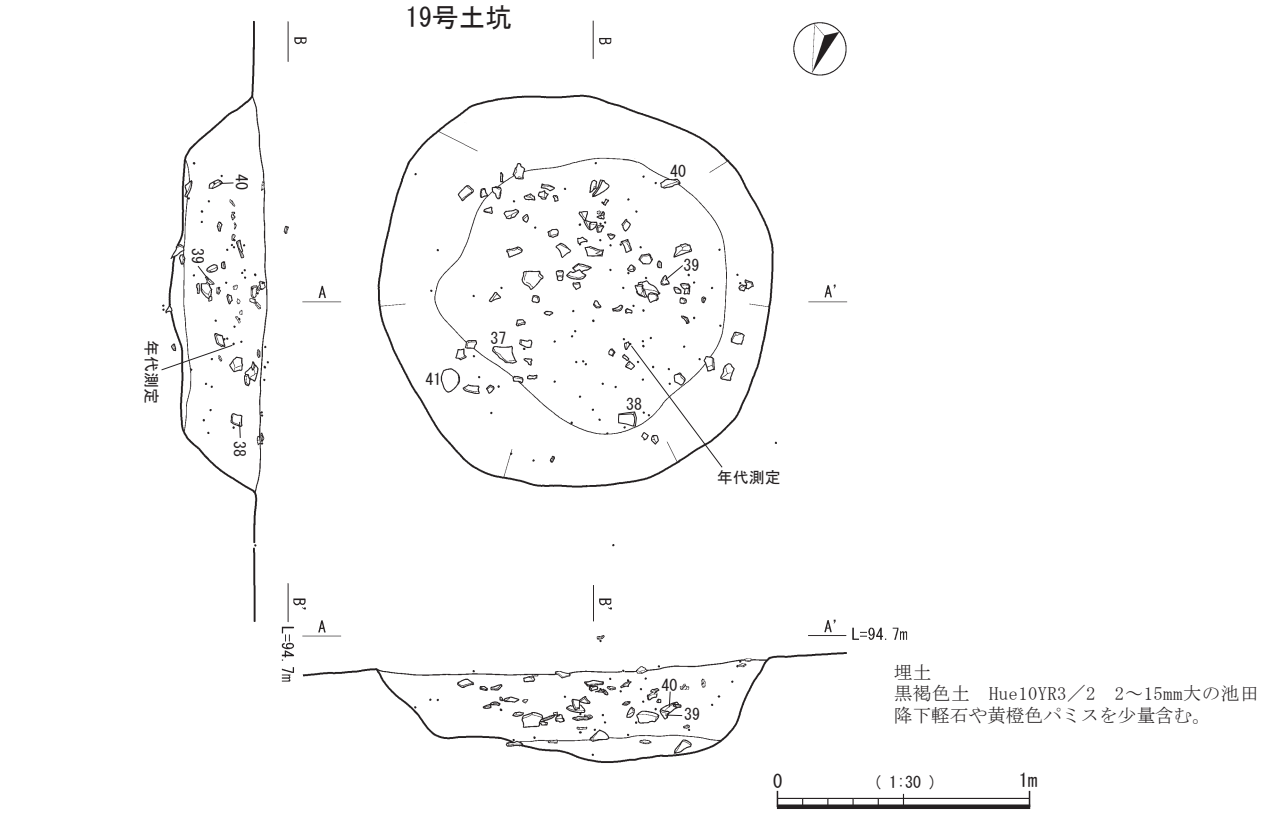
Ｇ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸95cm，短軸85cm，検出面からの深さは28cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

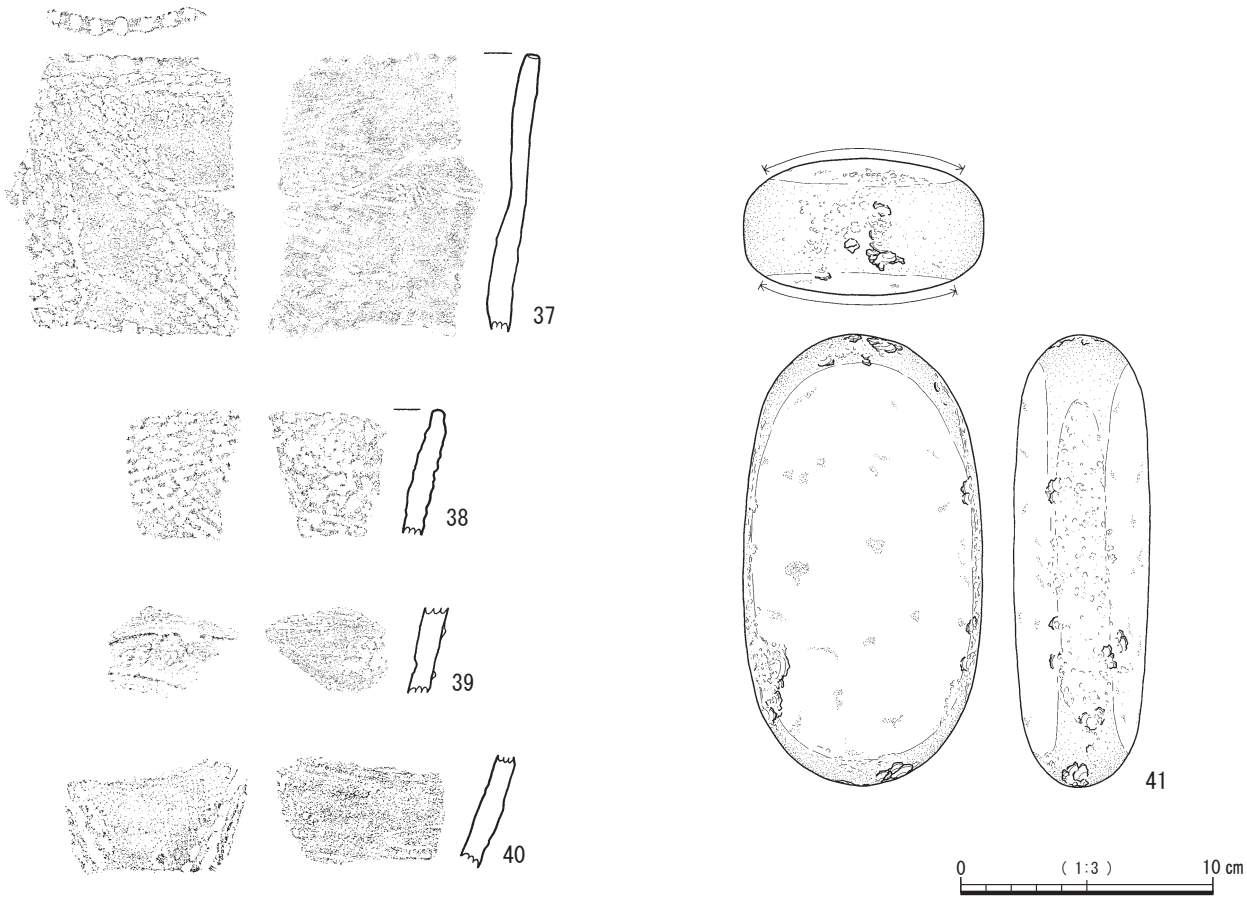
出土遺物は埋土中位から土器３点，フレーク２点が出土した。42は無文の胴部である。外面はナデを行っており，内面は貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅲ類土器である。

22号土坑（第32図）

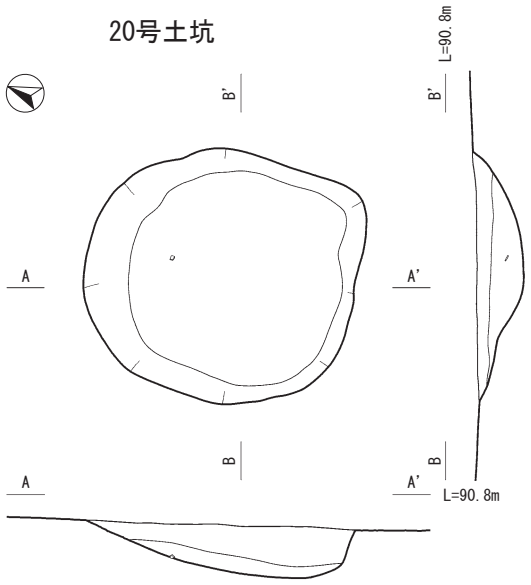
Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸85cm，短軸79cm，検出面からの深さは16cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて石器３点，フレーク・チップ３点，礫３点が出土した。43は黒曜石Ｖ類製のやや小型の石鏃である。右側縁部に部分的に鋸歯縁加工が施される。

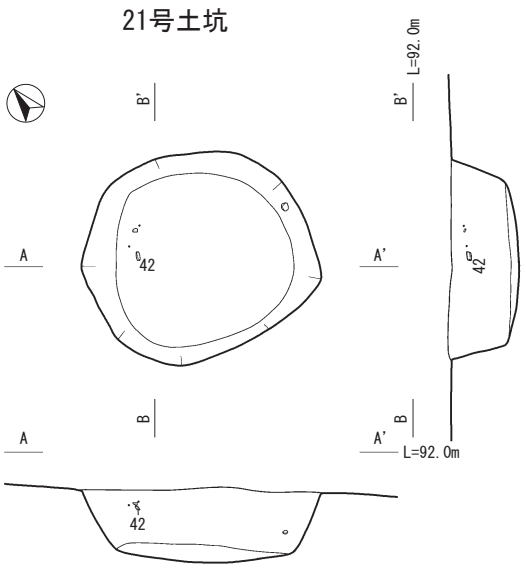




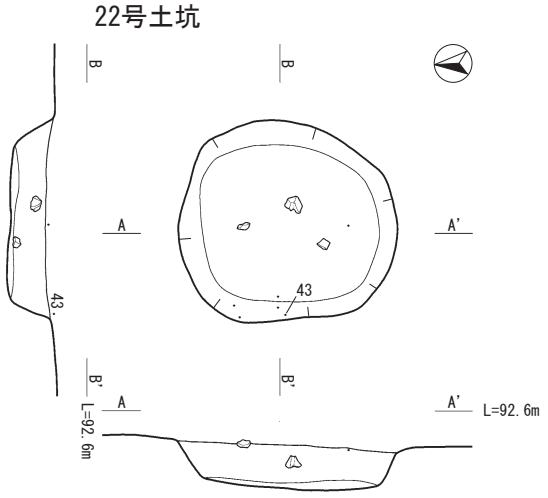
第31図　土坑10（19号）



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

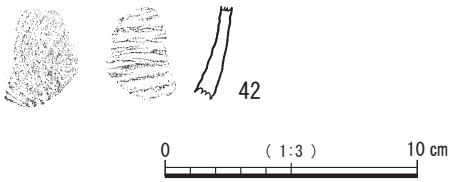


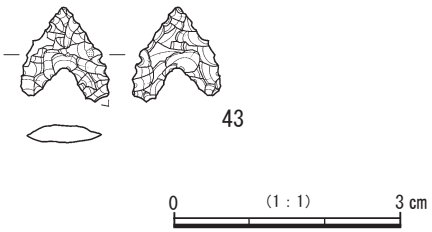
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～10mm大の
池田降下軽石を少量，黄橙色パミスを
中量含む。

0　（1:30）　1m





第32図　土坑11（20号・21号・22号）

23号土坑（第33図）

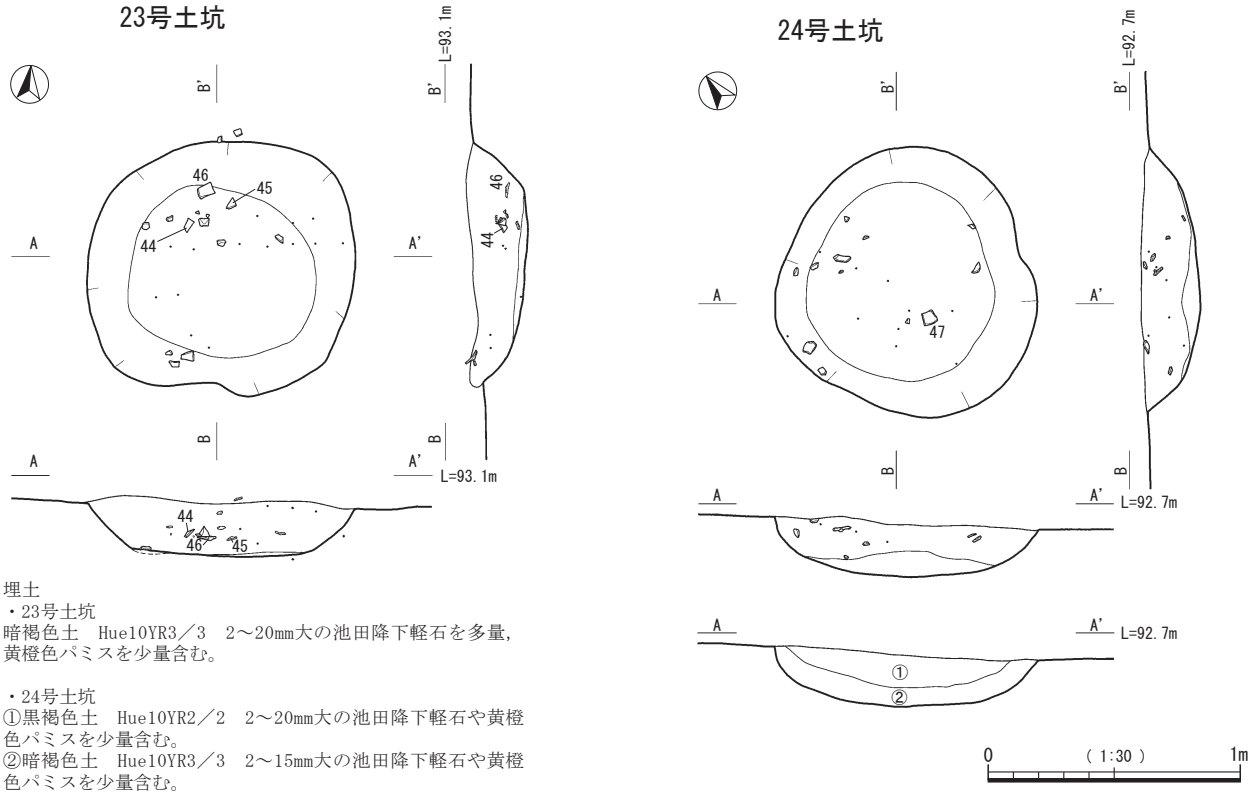
Ｇ－19区Ｖb～Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸105㎝，短軸95㎝，検出面からの深さは20㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器13点，フレーク・チップ13点，礫１点が出土した。44～46は胴部である。44は，幅が約３㎜程度の細い突帯に，ヘラ状工具で浅い刻目を施す。刻目突帯間には数条の沈線を施す。内面は横位の刺突と沈線を施す。Ⅱ－１－①類土器である。45は，外面に二枚貝の腹縁部による押圧を密に施した後，２本１単位の縦位の突帯を貼り付ける。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。46は，外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

24号土坑（第33図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸106㎝，短軸103㎝，検出面からの深さは20㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器９点，フ





第33図　土坑12（23号・24号）

レーク・チップ８点，礫４点，炭化物１点が出土した。47は胴部である。外面に斜位の刺突と，貝殻の腹縁部による刺突線文状の刺突を施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

25号土坑（第34図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸89cm，短軸85cm，検出面からの深さは25cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

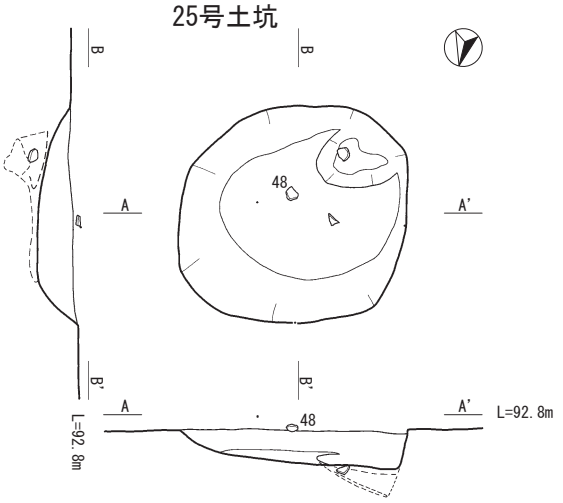
出土遺物は埋土上位から土器３点，フレーク３点が出土した。48は胴部である。外面に斜位の刺突を施し，内面には貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅱ－２－①類土器である。

26号土坑（第34図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸75cm，短軸70cm，検出面からの深さは18cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

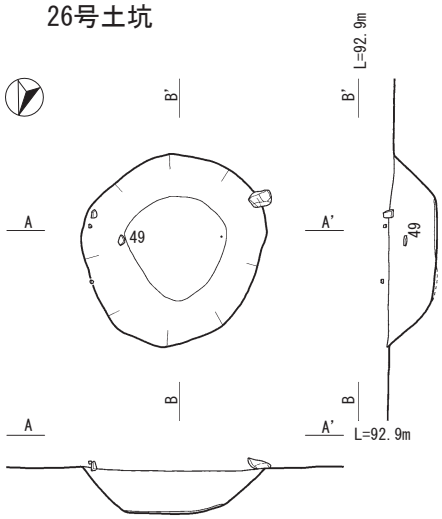
出土遺物は埋土上位から土器４点，礫２点が出土し

25号土坑



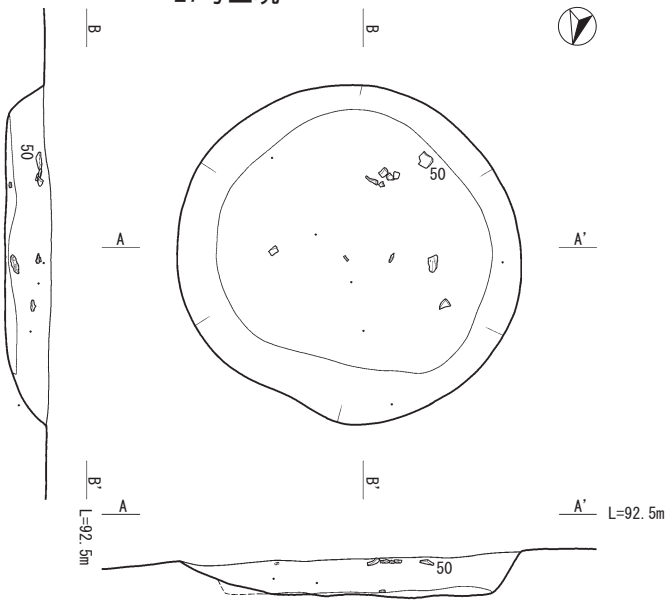
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～10mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

26号土坑



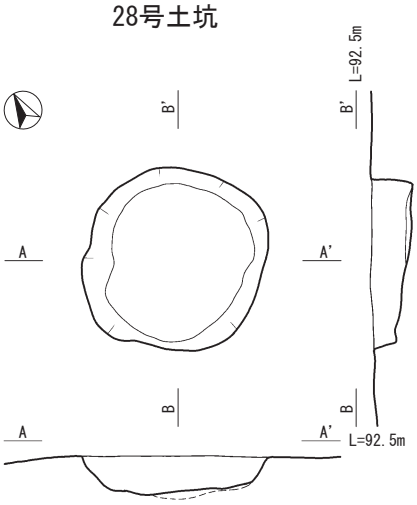
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～40mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

27号土坑



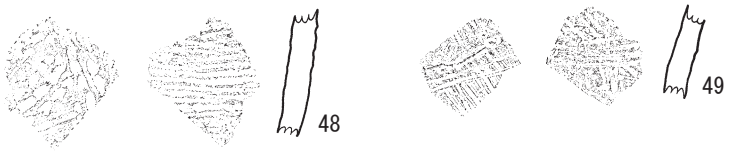
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

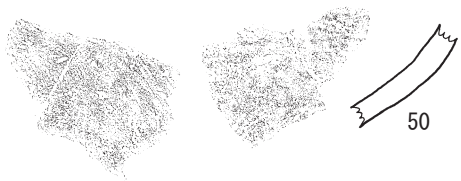
28号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石，
黄橙色パミスを少量含む。炭化物を含む。

0　（1:30）　1m

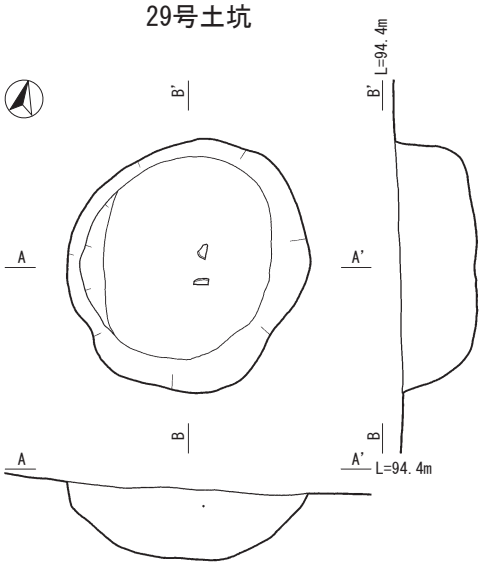




0　（1:3）　10 cm

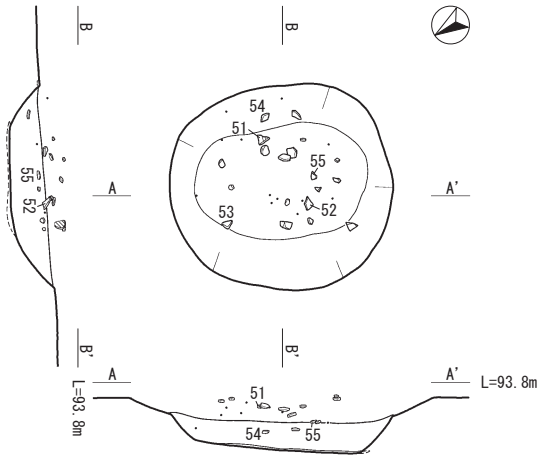
第34図　土坑13（25号・26号・27号・28号）

29号土坑



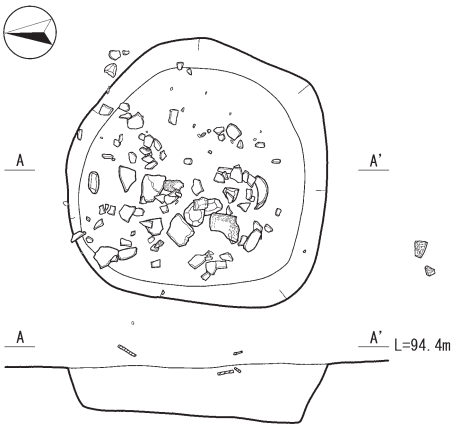
埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を含む。

30号土坑

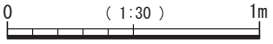


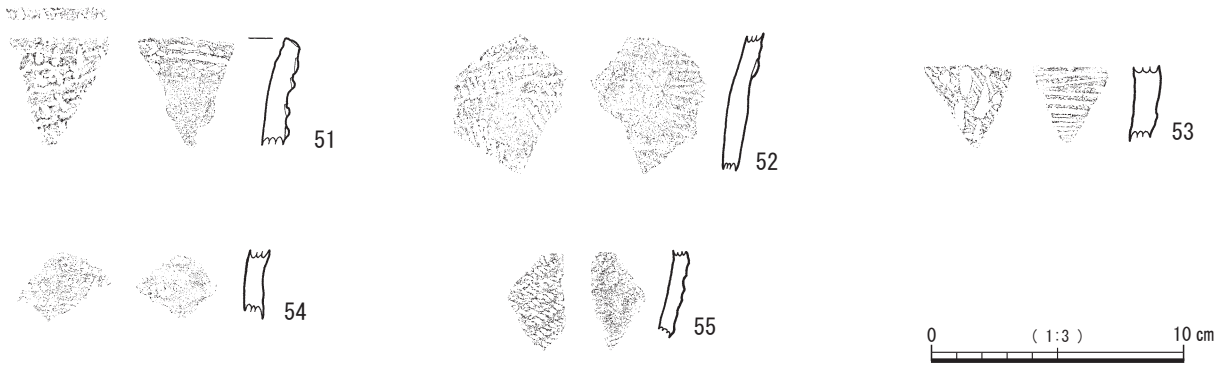
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～30mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

31号土坑

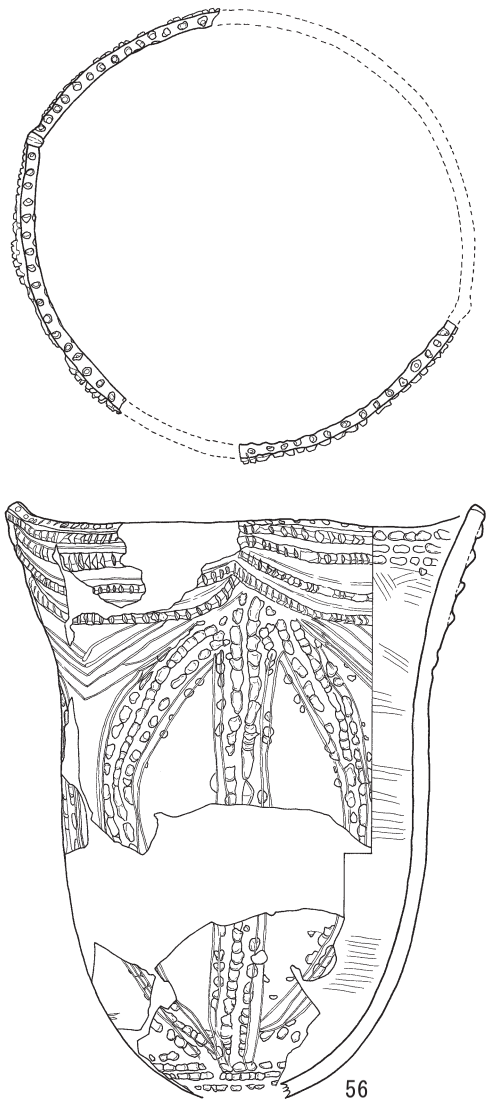


埋土
暗褐色土　池田降下軽石を含む。





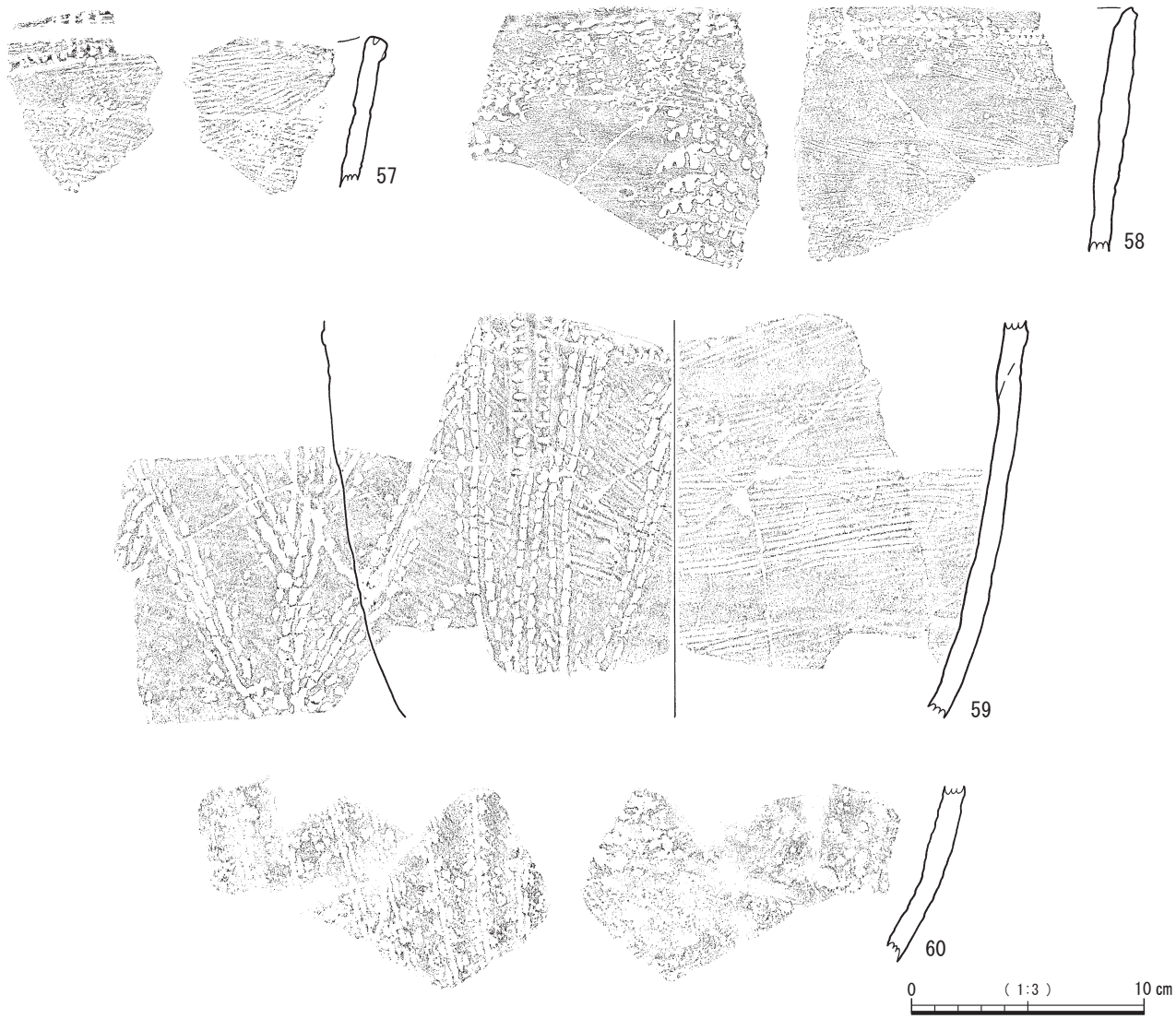
第35図　土坑14（29号・30号・31号）





0 (1:3) 10 cm

第36図　土坑15（31号出土遺物①）



第37図　土坑16（31号出土遺物②）

た。49は胴部である。外面には斜位の条線を施した後，微隆線状の突帯を貼り付けている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

27号土坑（第34図）

Ⅰ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸136㎝，短軸130㎝，検出面からの深さは17㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器７点，チップ５点，礫４点が出土した。50は無文の胴部下半から底部付近である。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅲ類土器である。

28号土坑（第34図）

Ⅰ－19区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸78㎝，短軸74㎝，検出面からの深さは16㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中からチップ１点のみであった。

29号土坑（第35図）

Ｈ－22区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸100㎝，短軸96㎝，検出面からの深さは28㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

30号土坑（第35図）

Ｅ－19区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸88㎝，短軸85㎝，検出面からの深さは17㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器16点，石器２点，フレーク・チップ13点，礫３点，炭化物１点が出土した。51は口縁部である。外面には横位，斜位の刻目突帯を貼り付ける。刻目の上方が一部器面にまで及んでいる。口唇部外端にも刻目を施す。内面には，横位の刺突を施し，器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。52～55は胴部である。52は，幅が６㎜程度の横位の突帯を貼り付け，ヘラ状工具による縦長の刻みを施す。刻目突帯下には斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。53は，外面に縦位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅱ－２－①類土器である。54は，外面に横位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。55は，外面に単節縄文ＲＬを縦方向に施す。内面はナデを行っている。Ⅳ類土器である。

31号土坑（第35～37図）

Ｄ－20区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸110㎝，短軸108㎝，検出面からの深さは23㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。調査時は土器集中として取り上げたが，掘り込みが確認できることから，土坑として掲載した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器84点，石器６点，フレーク・チップ19点，礫４点が出土したが，取上時の記録が無かったため，出土地点は不明である。56はほぼ完形に復元できた。口径18.8㎝であり，口縁部が外反し，胴部下半から底部にかけて窄まり，丸底の底部となる。口唇部の山形突起は１箇所のみ残存しており，残りの口縁部片などを復元したところ，２単位の波頂部をもつ緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。山形突起の中央は棒状工具により刻みが施され，口唇部には棒状工具による刺突が施される。外面は，口縁部に連弧状の突帯を４段施す。突帯にはヘラ状工具による縦長の刻みを施す。胴部には，縦位に刺突を施した後，その左右に円弧状の刺突を施す。それぞれの刺突をなぞるように沈線も描かれる。縦位・円弧状の刺突のセット間には，逆三角形状の沈線を施す。また，底面付近には横位の刺突が施される。連弧状の刻目突帯や縦位・円弧状の刺突のセットは，山形突起を起点とした４単位の割り付けと考えられるが，それぞれの間隔は均等ではない。内面には，横位の刺突が施される。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。57は口縁部である。外面は，口縁部上位に横位の突帯に縦長の刻目を施し，斜位の相交弧文を施す。口唇部には，棒状工具による刺突と，ヘラ状工具による刻目を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。58は口縁部外面には，大ぶりの二枚貝の腹縁部を垂直に当て，横位の刺突を施した後，貝殻の向きを変え，縦位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。59・60は胴部である。59は外面に２本１単位の縦位の突帯を貼り付けた後，横位の突帯を貼り付ける。突帯にはヘラ状工具による縦長の刻みを施し，一部器面に及ぶものもみられる。刻目突帯下には縦位，斜位の刺突列が施される。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。60は外面に縦位の刺突列が施される。内面は痘痕状の剥離が多く確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。

（２）Ⅱ類　楕円形

32号土坑（第38図）

Ｇ－13区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸95㎝，短軸63㎝，検出面からの深さは104㎝を測る。断面形状は袋状を呈し，埋土は３つに分層した。

出土遺物は埋土上位から土器３点，フレーク１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

33号土坑（第38図）

Ｈ－13区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸123㎝，短軸93㎝，検出面からの深さは64㎝を測る。断面形状は袋状を呈し，埋土は３つに分層した。

出土遺物は埋土上位から土器６点，フレーク・チップ６点，礫３点が出土した。61は口縁部である。口唇部は平坦に成形し，口縁部外面には断面形態が三角形状の突帯を弧状に貼り付けると考えられる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

34号土坑（第39図）

Ｈ－11区Ｖa層上面で検出した。当該期の土坑の中で，最も東側で検出された。大きさは長軸110㎝，短軸84㎝，検出面からの深さは70㎝を測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は２つに分層した。

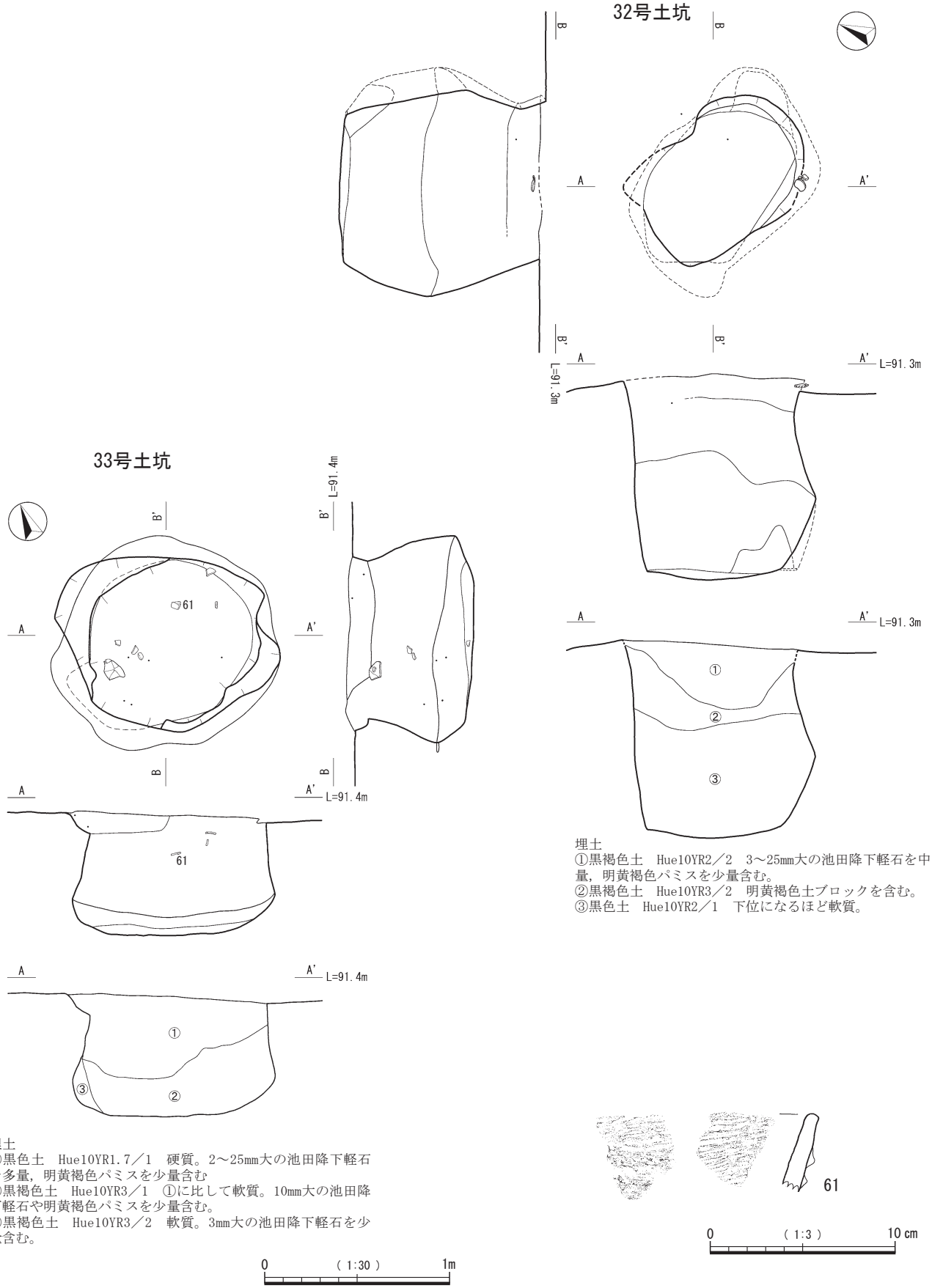
出土遺物は確認されなかった。

35号土坑（第39図）

Ｈ－13区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸106㎝，短軸89㎝，検出面からの深さは59㎝を測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は２つに分層した。

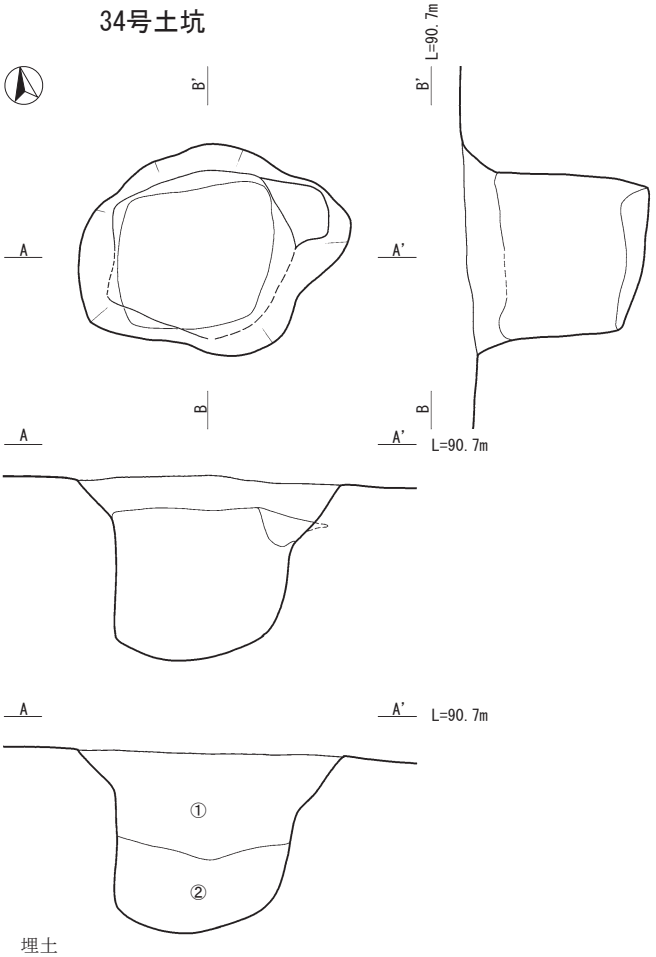
出土遺物は埋土の中位から下位にかけて土器１点，フレーク１点，礫１点，炭化物１点が出土したが，土器は小片のため掲載には至らなかった。

また，埋土下位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4487±29^{14}C BPの値が得られた。



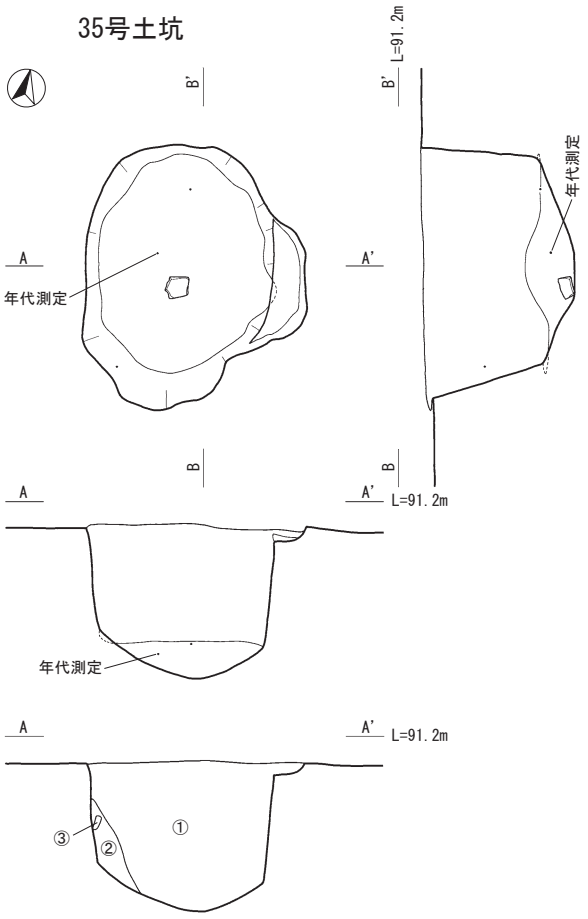
第38図　土坑17（32号・33号）

34号土坑



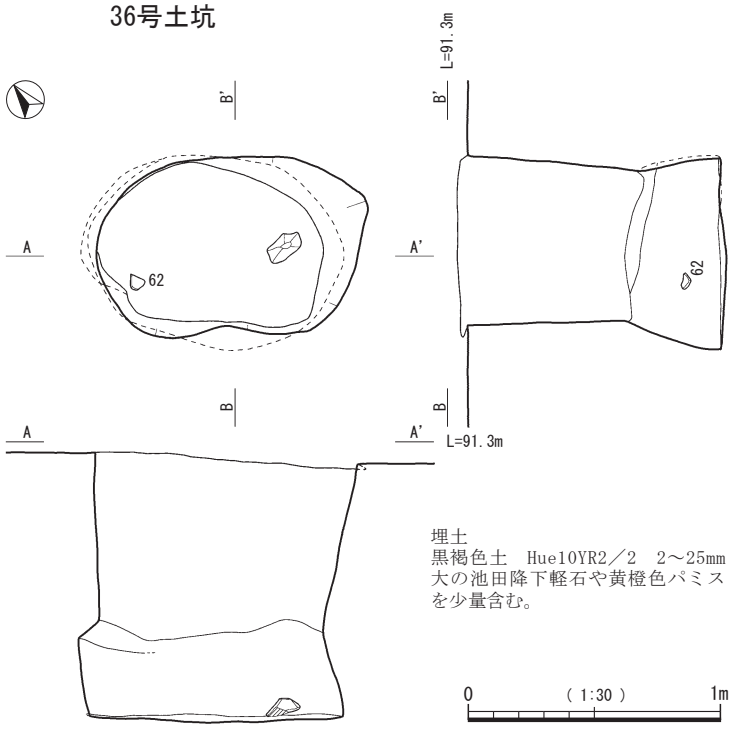
埋土
①黒褐色土　Hue10YR2／2　2～10mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。下位にアカホヤ火山灰二次あり。
②黒褐色土　Hue10YR2／2　やや軟質で弱い粘性あり。2～25mm大の池田降下軽石を少量，黄橙色パミスを多量含む。

35号土坑

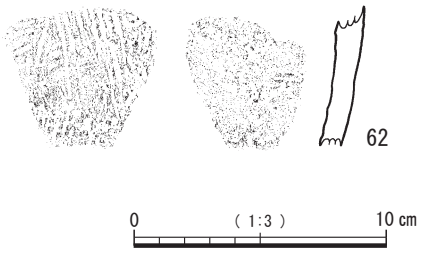


埋土
①黒色土　Hue10YR2／1　2～15mm大の池田降下軽石を多量含む。
②黒褐色土　Hue7.5YR2／2　アカホヤ火山灰二次が混ざる。
③アカホヤ火山灰二次

36号土坑

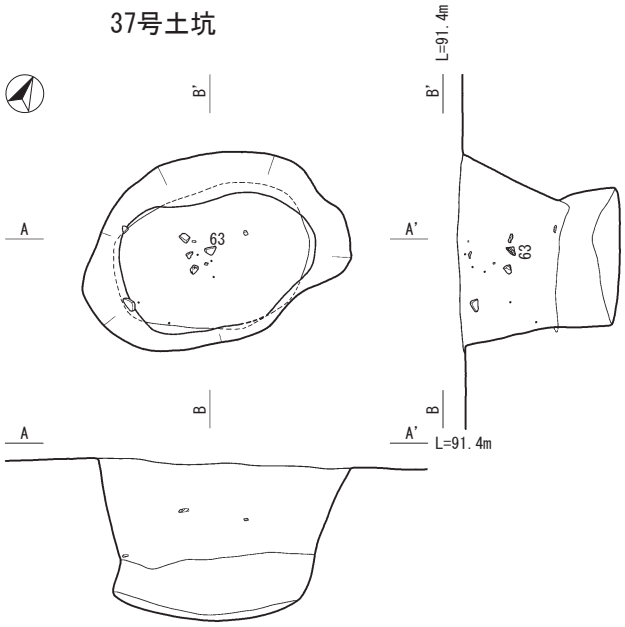


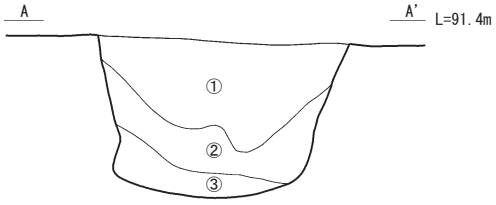
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。



第39図　土坑18（34号・35号・36号）

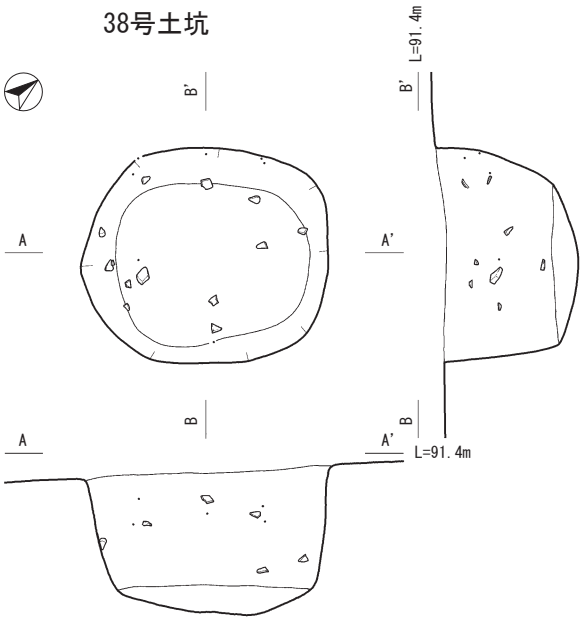
37号土坑





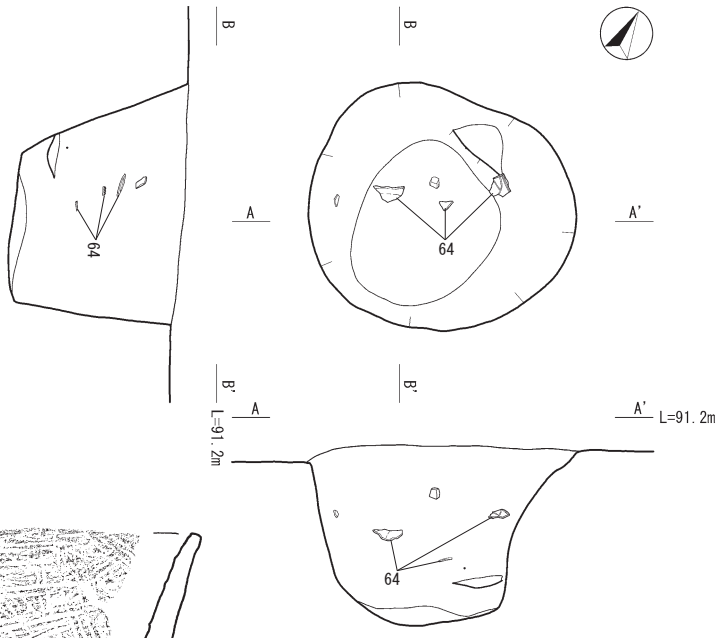
埋土
①黒褐色土　Hue10YR2／3　やや硬質。2～20mm大の池田降下軽石や明黄褐色パミスを多量含む。
②黒褐色土　Hue7.5YR3／2　やや軟質。30mm大の池田降下軽石を微量含む。
③にぶい黄褐色土　Hue10YR4／3　やや軟質。20mm大の池田降下軽石を微量含む。

38号土坑



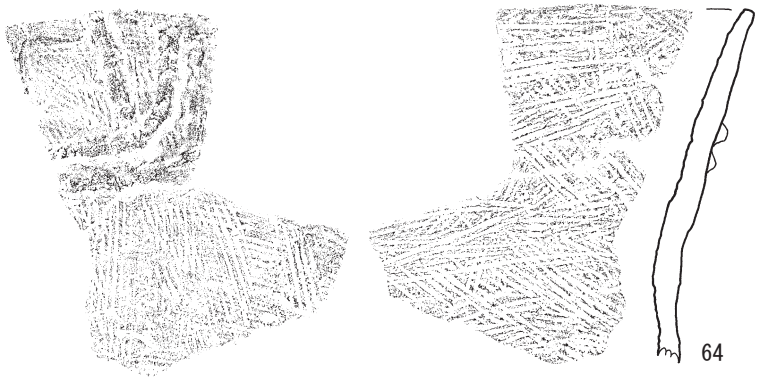
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

39号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～10mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

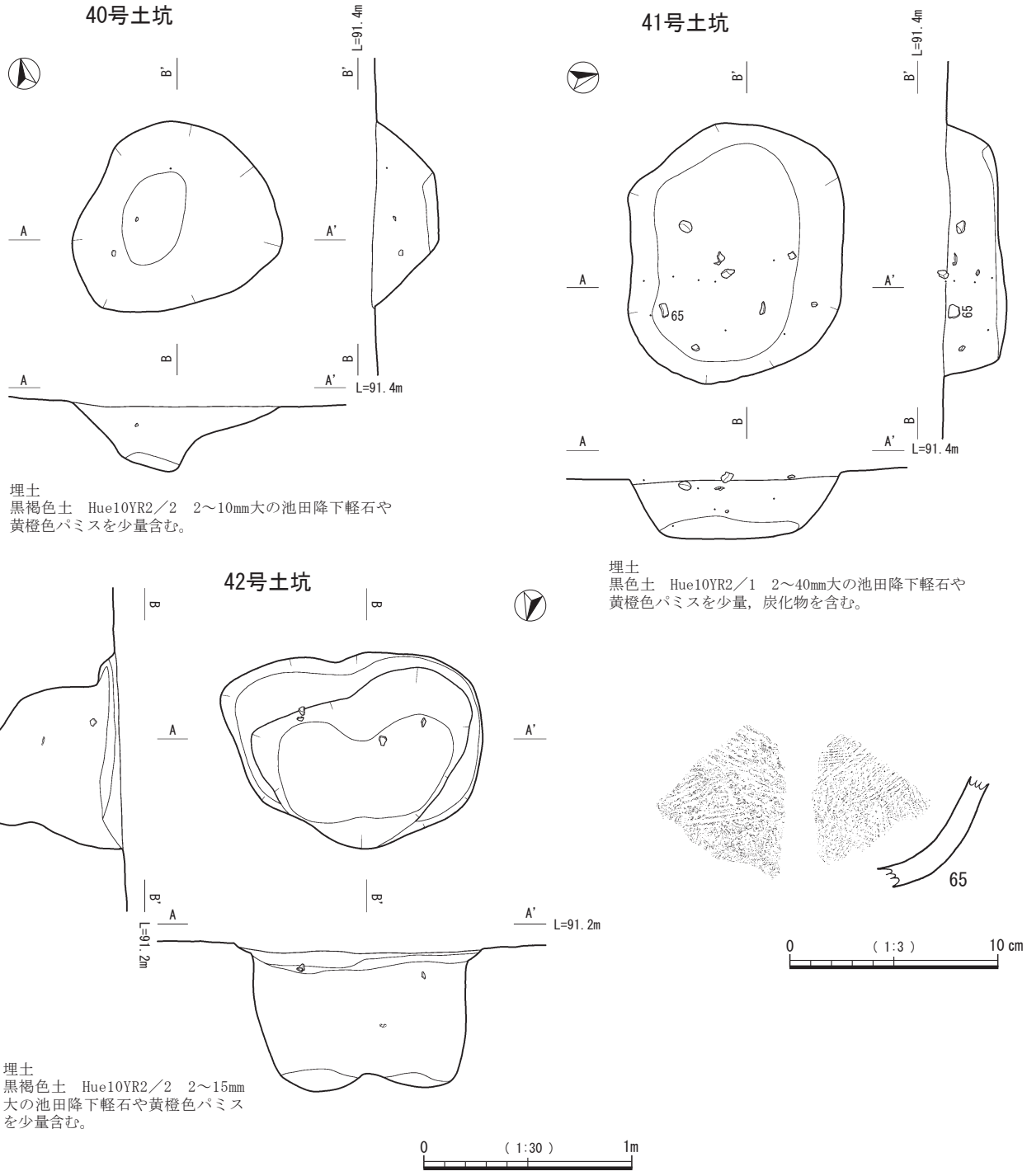




0　（1:3）　10cm

0　（1:30）　1m

第40図　土坑19（37号・38号・39号）



第41図　土坑20（40号・41号・42号）

36号土坑（第39図）

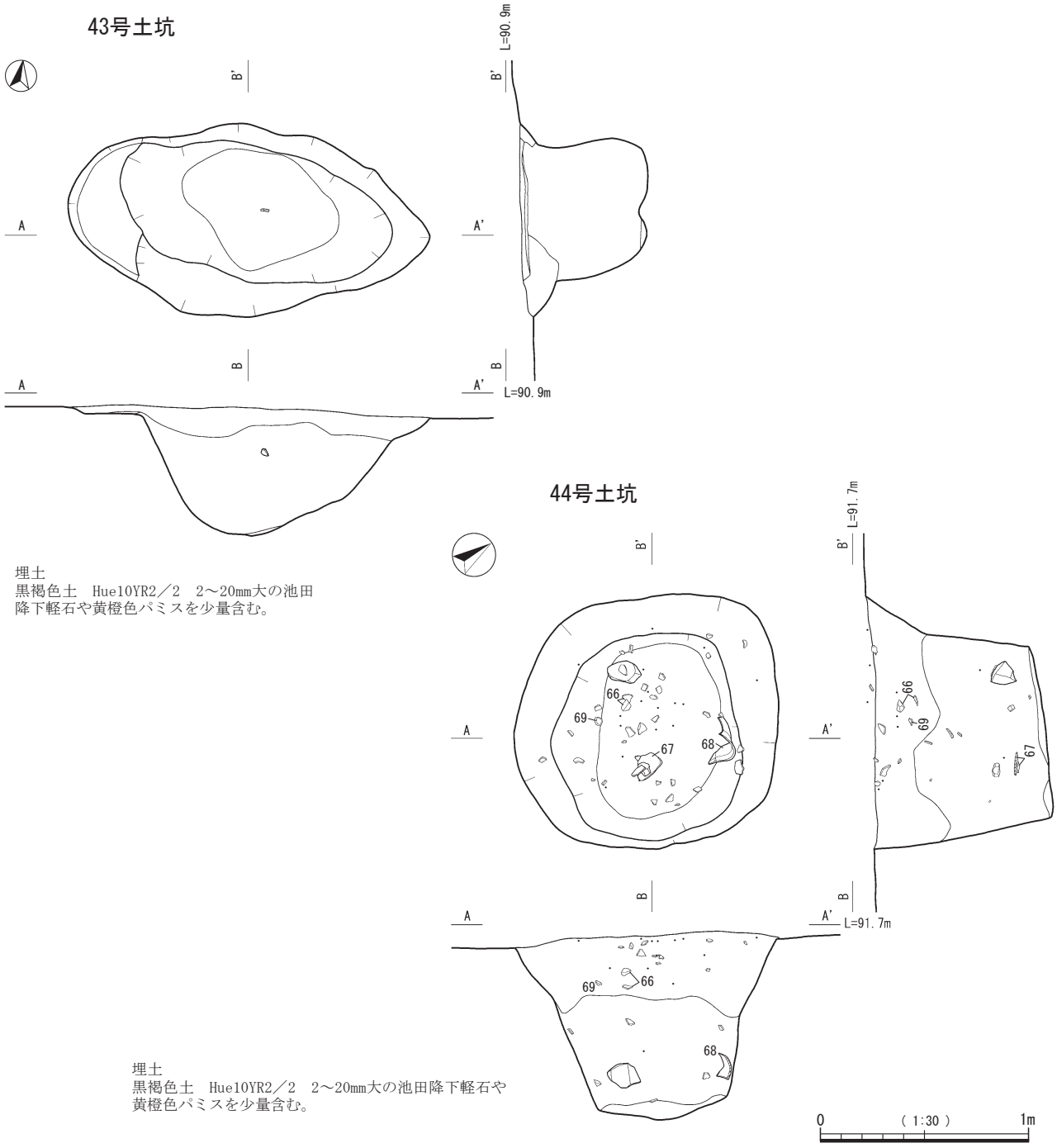
Ｈ－13区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸106cm，短軸70cm，検出面からの深さは103cmを測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土下位から土器１点，礫１点が出土した。62は胴部である。外面は斜位の条痕を施し，内面はナデを行っている。Ⅲ類土器である。

37号土坑（第40図）

Ｇ－13区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸107cm，短軸75cm，検出面からの深さは62cmを測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は３つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器10点，フレーク・チップ４点，礫２点が出土した。63は胴部である。外面には横位の突帯を貼り付ける。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②



第42図　土坑21（43号・44号）

類土器である。

38号土坑（第40図）

Ｈ－14区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸97cm，短軸84cm，検出面からの深さは56cmを測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器10点，フレーク・チップ５点，礫６点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

39号土坑（第40図）

Ｉ－14区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸105cm，短軸96cm，検出面からの深さは67cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器４点，石器１点，フレーク１点が出土した。64は口縁部から胴部上半である。外面には縦位，斜位の貝殻条痕を施した後，口縁部にやや太めの突帯を横長のU字状に貼り付ける。突帯で区画された内部に同様の突帯を縦位に貼り付ける。内面は横位，斜位の貝殻条痕が施される。Ⅱ－１－②類土器である。



第43図　土坑22（44号出土遺物）

40号土坑（第41図）

Ｈ－15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸93cm，短軸89cm，検出面からの深さは31cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器２点，フレーク１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

41号土坑（第41図）

Ｈ－14・15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸125cm，短軸114cm，検出面からの深さは30cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器４点，石器１点，フレーク・チップ６点，礫５点，炭化物１点が出土した。65は，底面は欠損しているが，丸底と考えられる。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

42号土坑（第41図）

Ⅰ－15区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸116㎝，短軸91㎝，検出面からの深さは69㎝を測る。断面形状は円筒状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器３点，チップ１点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

43号土坑（第42図）

Ⅰ－15区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸173㎝，短軸91㎝，検出面からの深さは60㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

44号土坑（第42・43図）

Ｈ－15区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸138㎝，短軸126㎝，検出面からの深さは84㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器31点，石器２点，フレーク・チップ16点，礫７点が出土した。66は，４単位の波頂部をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面には，波頂部より縦位の刻目突帯を２列施す。刻目突帯の下端部は左右対称の蕨状になる。その後，口縁部上位より横位の突帯を５段貼り付け，器面に及ぶような縦長の深い刻みを入れている。横位の刻目突帯の１段目と２段目の間には，２本１単位の沈線を鋸歯状に施す。胴部外面には，縦位の刻目突帯下より縦位，斜位の刺突列を施す。波頂部には，粘土紐を楕円形に貼り付け，口唇部には斜位の刻目を入れている。口縁部内面には，横位の５段２単位の刺突列を施し，胴部は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。67は胴部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に金色の雲母を多く含む。68は胴部下半付近である。外面には縦位，斜位，内面には横位，斜位の貝殻条痕を施す。成形時の輪積み痕や指おさえ痕が多く確認できる。69は底面を欠損しているが，丸底と考えられる。内外面ともナデを行っている。67～69はⅢ類土器である。

45号土坑（第44図）

Ｇ－15区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸136㎝，短軸119㎝，検出面からの深さは49㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器35点，石器７点，フレーク・チップ21点，礫14点が出土した。70は口縁部である。全体的にやや薄い器壁である。外面には断面形態が三角形状の突帯を横位に施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に白色粒子，金色の雲母を含む。Ⅱ－１－②類土器である。71は外面には微隆線状の突帯を斜位に施す。外面より穿孔したと考えられる補修孔の一部が確認できる。内面はナデを行っている。また，外面に赤色顔料が塗布されている。Ⅱ－１－②類土器である。72は黒曜石Ⅴ類製の石鏃である。先端部は欠損するが，両側辺部に鋸歯縁加工が施される。脚部は丸く作り出され，基部の抉りは三角形状を呈する。73は頁岩Ⅳ類製の二次加工剥片である。表面のみ下端部に刃部が作り出される。

46号土坑（第44図）

Ｇ－15区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸154㎝，短軸90㎝，検出面からの深さは64㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器15点，フレーク・チップ４点，礫10点が出土した。74は口唇部は欠損しているが，口縁部付近と考えられる。断面形態が三角形状の突帯を弧状に貼り付ける。内面はナデを行っている。胎土に白色粒子，金色の雲母を含む。Ⅱ－１－②類土器である。75は胴部である。外面は貝殻条痕調整後，丁寧なナデを行っており，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

47号土坑（第45図）

Ｇ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸144㎝，短軸75㎝，検出面からの深さは42㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土の上位から中位にかけて炭化物17点のみ出土した。

埋土中位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4584±31^{14}C BPの値が得られた。

48号土坑（第45図）

Ｇ－16区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸135㎝，短軸98㎝，検出面からの深さは54㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

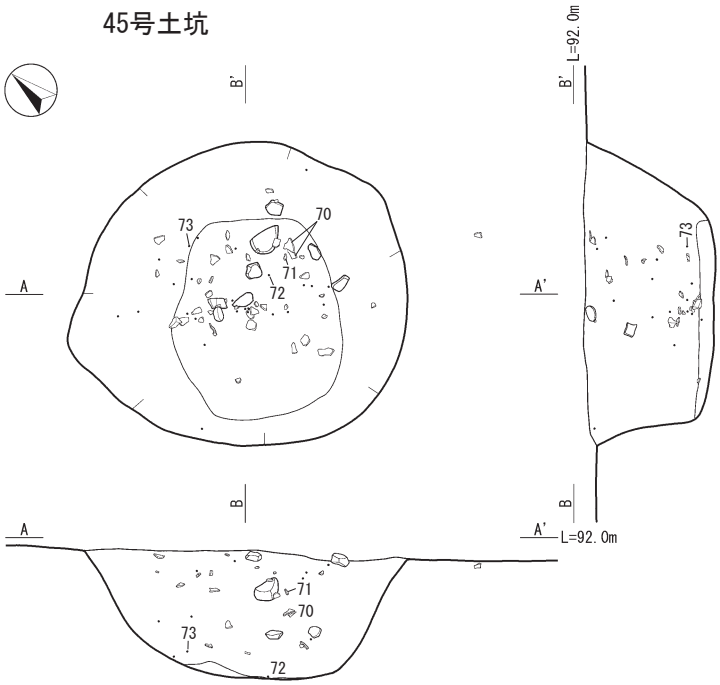
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器21点，石器１点，フレーク・チップ12点，礫４点が出土した。76は口縁部である。外面は丁寧なナデを行っている。内面は横位の刺突を施し，器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。口唇部には，棒状工具を用いて，深くやや大きめの刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。

49号土坑（第45図）

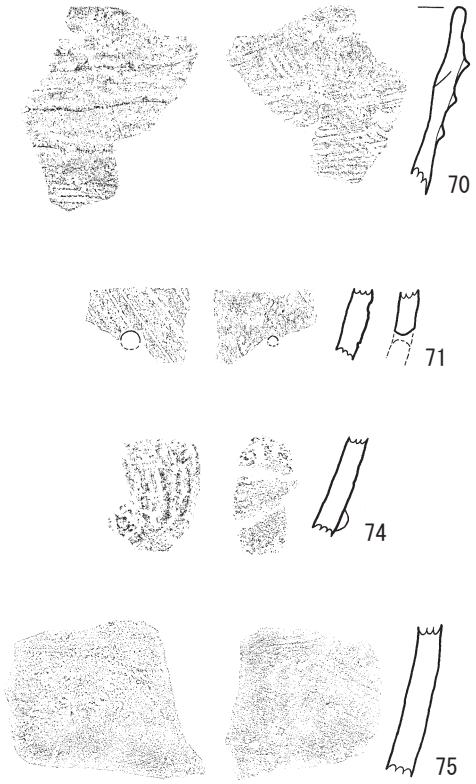
Ｇ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸138㎝，短軸121㎝，検出面からの深さは47㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器29点，石器

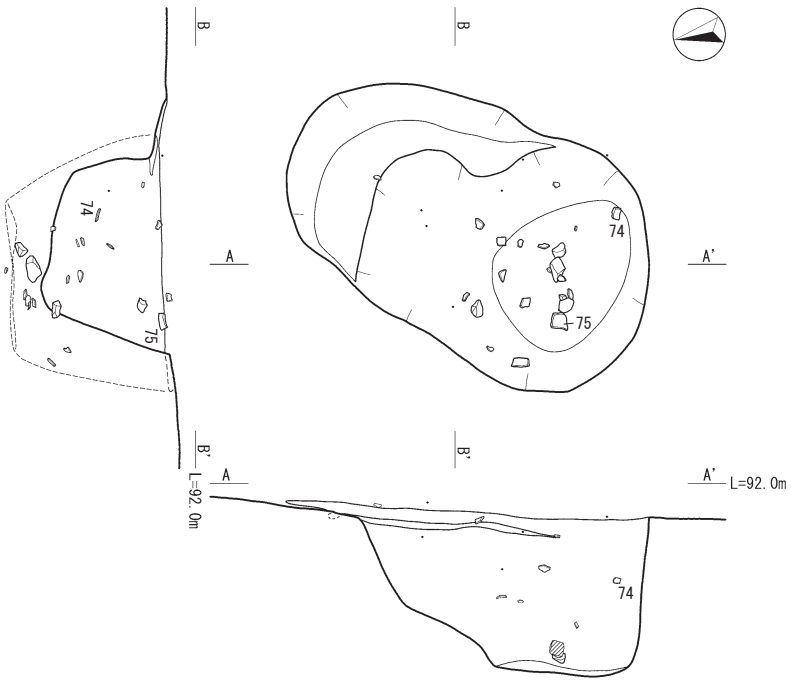
45号土坑



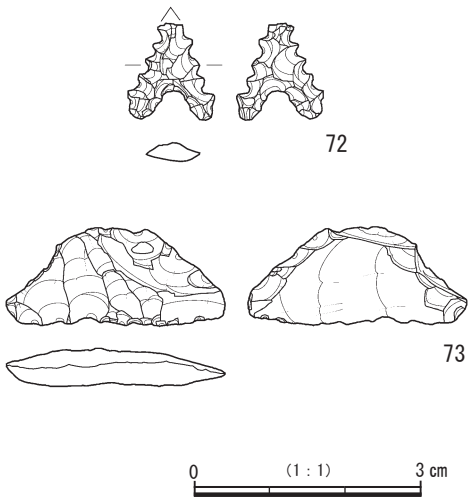
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

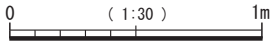


46号土坑



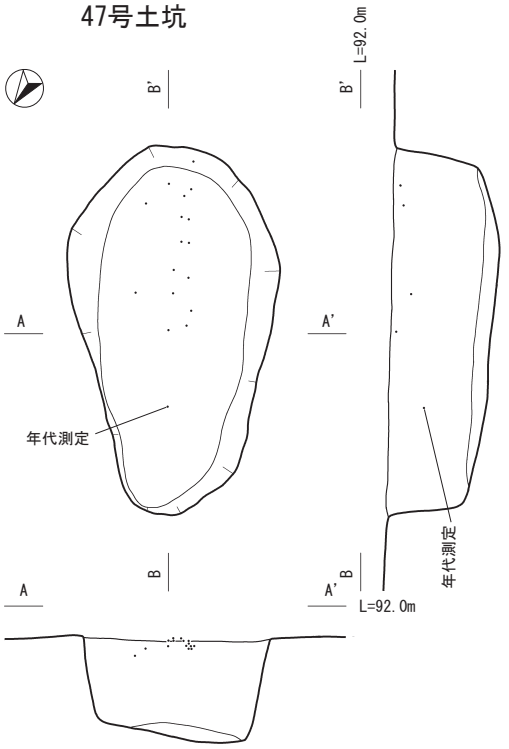
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。





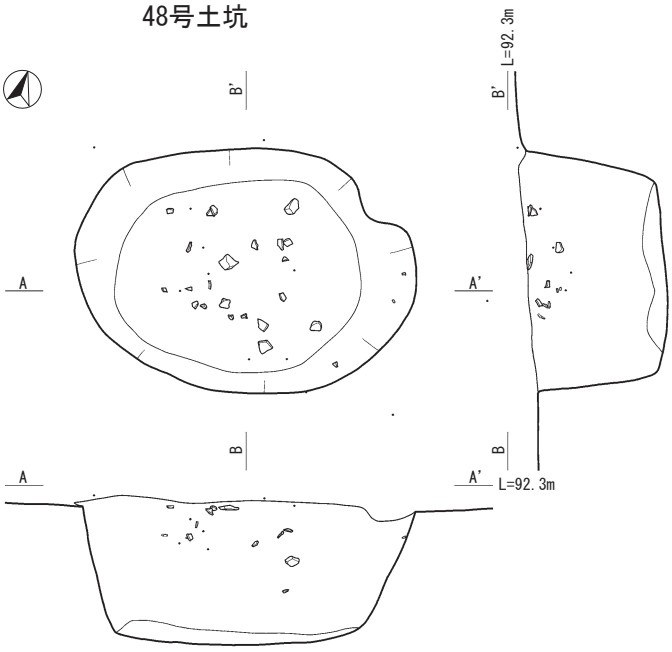
第44図　土坑23（45号・46号）

47号土坑



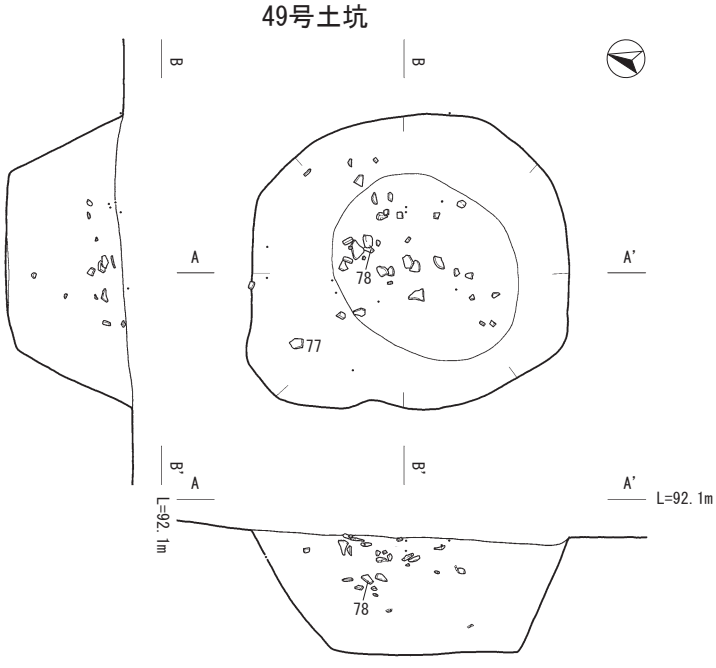
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

48号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

49号土坑

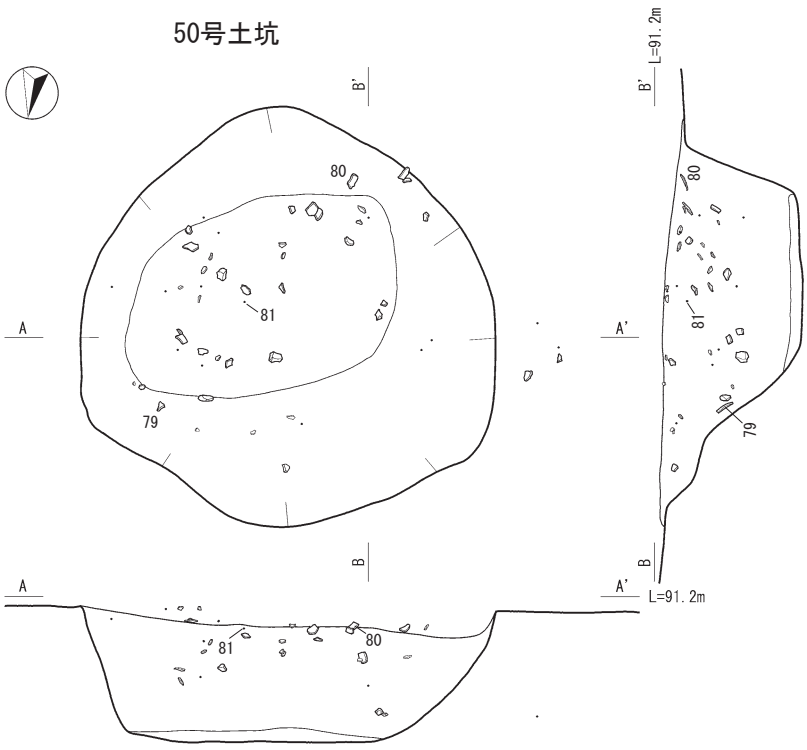




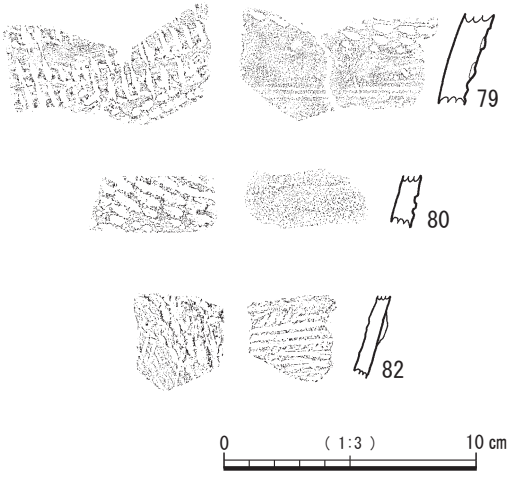
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
明黄褐色パミスを少量含む。

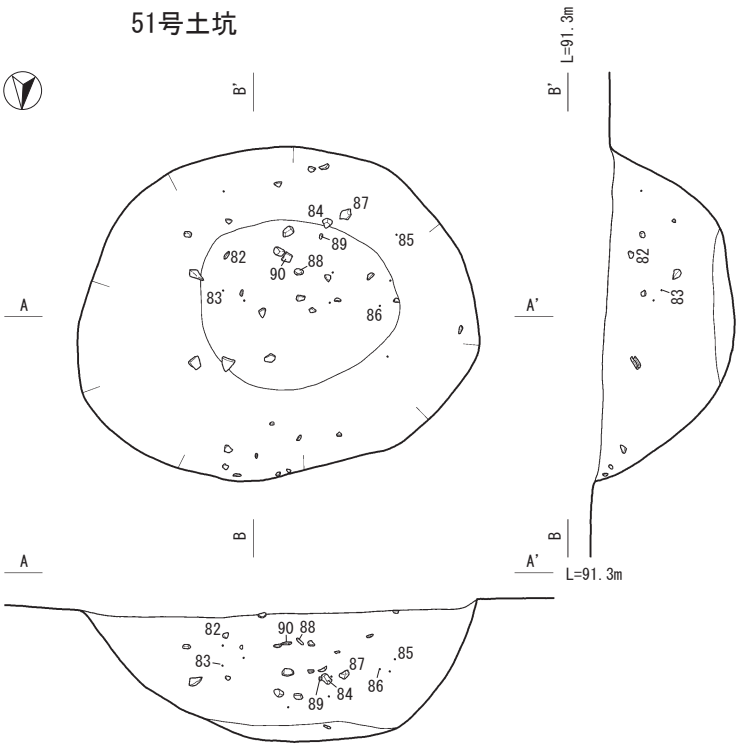
0　(1:30)　1m

第45図　土坑24（47号・48号・49号）

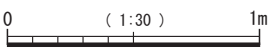


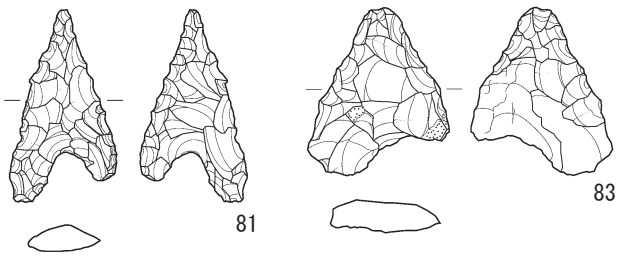
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田
降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。



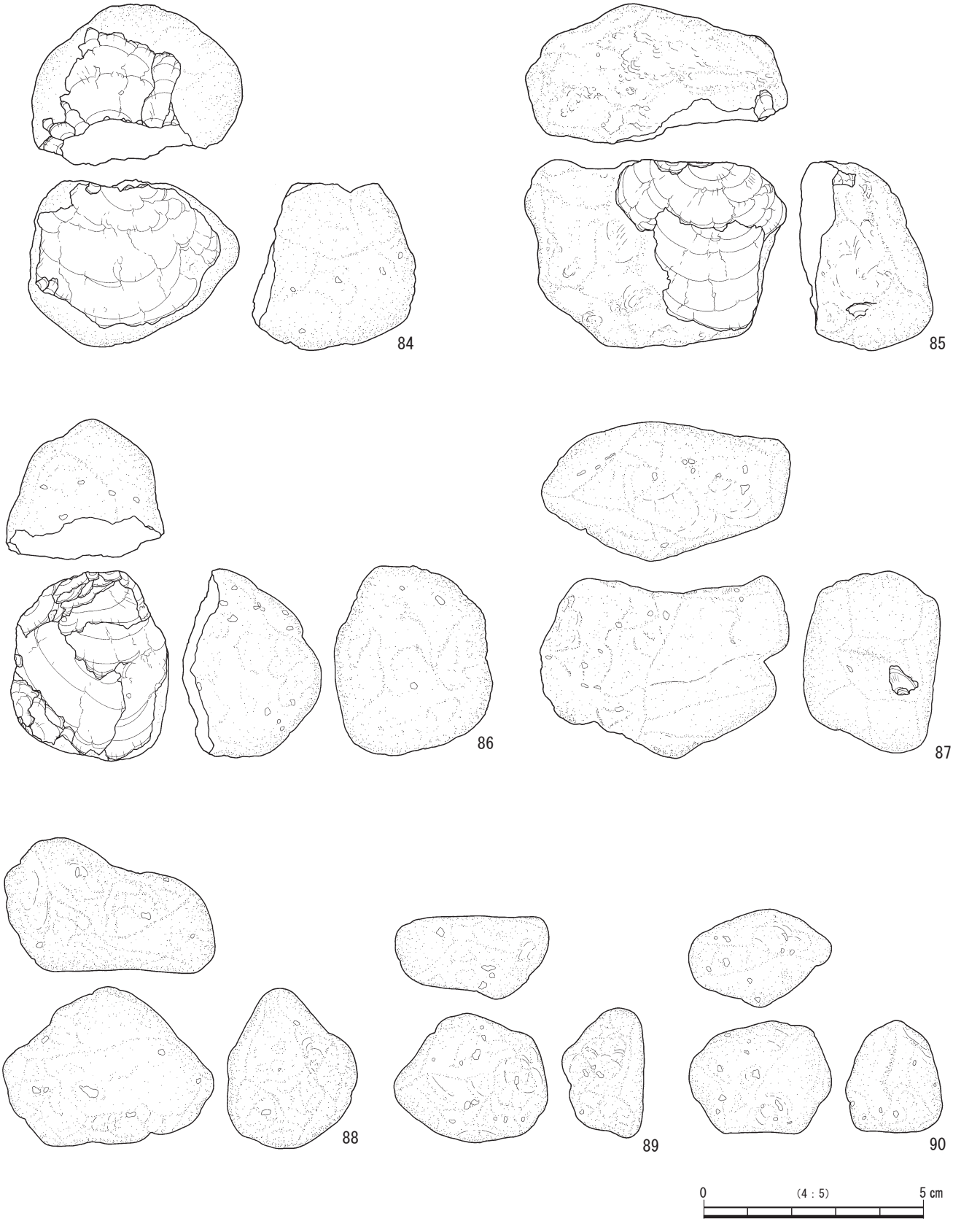


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田
降下軽石や明黄褐色パミスを少量含む。





第46図　土坑25（50号・51号）



第47図　土坑26（51号出土遺物）

２点，フレーク・チップ９点，礫８点が出土した。77は口縁部である。外面には横位の突帯を３段貼り付け，縦長の刻目を入れている。口唇部外端にも同様の刻目を施す。刻目突帯下には斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。78は口縁部である。口唇部は平坦に成形し，口縁部外面には断面形態が三角形状の突帯を，横長の連弧状に施すと考えられる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

50号土坑（第46図）

Ⅰ－15・16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸167㎝，短軸153㎝，検出面からの深さは54㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器32点，石器４点，フレーク・チップ11点，礫６点が出土した。79は，口唇部は欠損しているものの，口縁部下位付近と考えられる。外面は突帯を貼り付けた後，器面に及ぶような縦長の刻目を入れている。突帯下には斜位の刺突も一部確認できる。内面には，上位に横位の刺突を施し，器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。80は胴部である。外面に斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。81は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。全体の形状は二等辺三角形を呈し，脚部は左右非対称である。

51号土坑（第46・47図）

Ⅰ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸158㎝，短軸127㎝，検出面からの深さは53㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器21点，石器12点，フレーク５点，礫７点が出土した。82は胴部である。外面には斜位の突帯を棒状工具を用いて貼り付けている。内面は横位の条痕を施す。胎土に金色の雲母を含む。Ⅱ－１－②類土器である。83は玉髄Ⅰ類製の石鏃未製品である。剥離調整が粗く，身部に厚みが残る。51号土坑からは黒曜石Ⅱ類の石核４点，原石７点が出土した。石核は約５㎝大，原石は約３～５㎝大の亜角礫であり，原礫面は摩滅している。84～86は石核，87～90は原石である。

52号土坑（第48図）

Ⅰ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸117㎝，短軸87㎝，検出面からの深さは37㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から土器１点，石器１点，礫２点が出土した。91は無文の胴部である。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅲ類土器である。

53号土坑（第48図）

Ⅰ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸144㎝，短軸109㎝，検出面からの深さは82㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器５点，フレーク１点，礫２点が出土した。92は胴部である。外面には二枚貝の腹縁部による押圧が確認でき，相交弧文の一部と考えられる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。

54号土坑（第48図）

Ⅰ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸155㎝，短軸135㎝，検出面からの深さは48㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

55号土坑（第49図）

Ｈ－17区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸110㎝，短軸95㎝，検出面からの深さは56㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器５点，石器１点が出土した。93は底部に近い胴部下半付近である。縦位，斜位の刺突を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。94は胴部である。外面は摩耗しているが，縦位の微隆線状の突帯が確認できる。器面調整は内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

56号土坑（第49図）

Ｈ・Ⅰ－17区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸132㎝，短軸97㎝，検出面からの深さは41㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

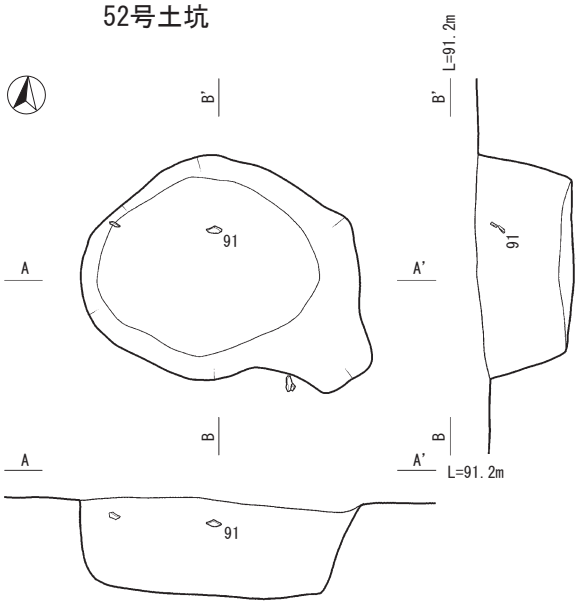
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器10点，フレーク２点，礫７点が出土した。95は口縁部である。外面には横位の突帯を施した後，縦位の突帯を貼り付ける。突帯には米粒状の刻目を入れている。縦位の刻目突帯の左右には粘土紐を円形に貼り付けた後，円形浮文下には刺突が施される。口唇部には貝殻の腹縁部による横位の刺突を施す。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。

57号土坑（第50・51図）

Ｇ－17区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸178㎝，短軸141㎝，検出面からの深さは68㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

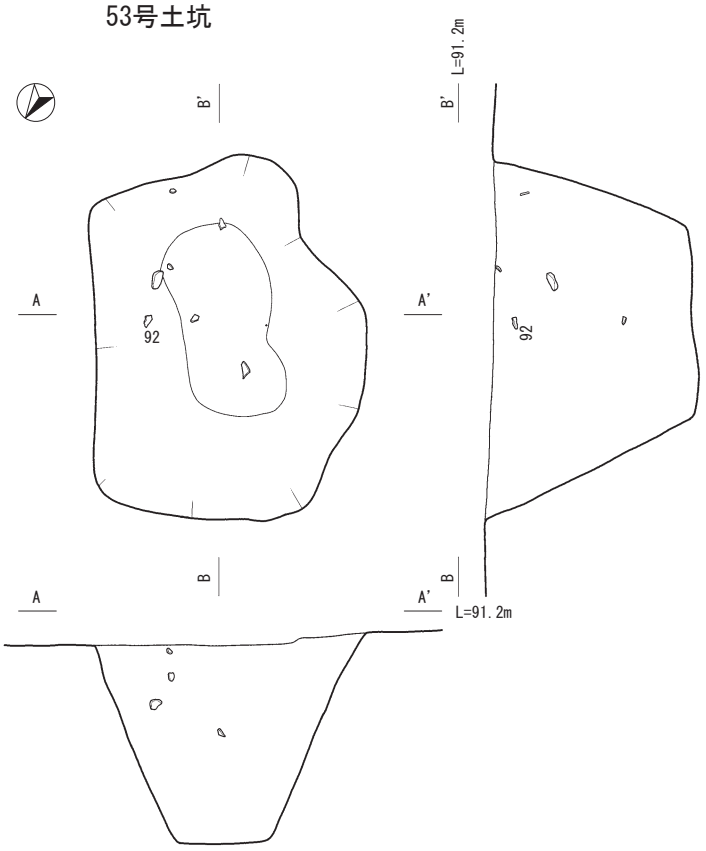
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器118点，石器４点，フレーク・チップ25点，礫20点が出土した。96～

52号土坑



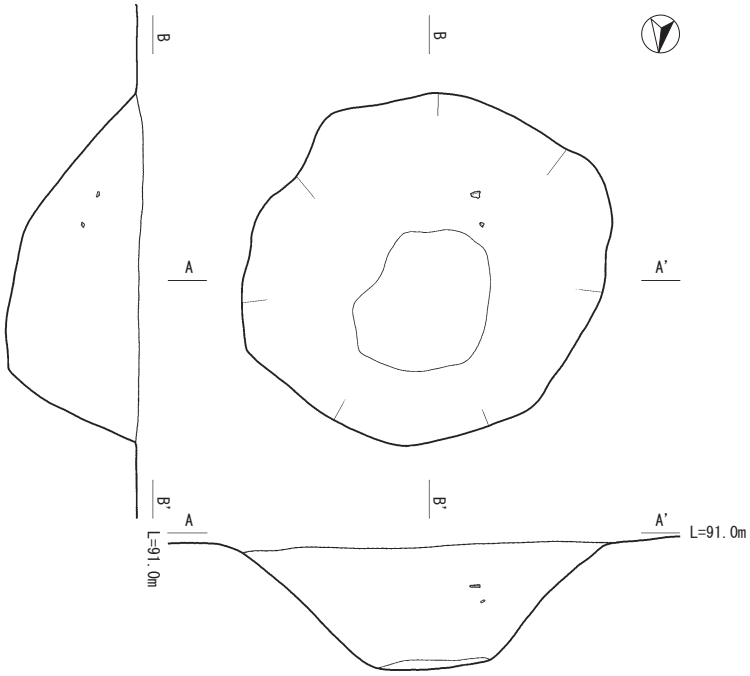
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～30mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

53号土坑

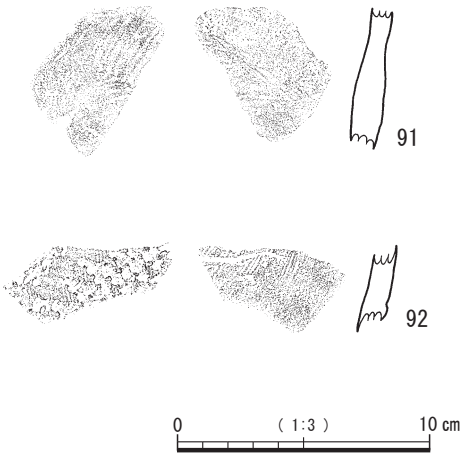


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

54号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。



0　(1:30)　1m

第48図　土坑27（52号・53号・54号）

101は接合はしないが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。口径は36cmであり，口唇部は平坦に成形し，口縁部は直口し，胴部から底部にかけて窄まると考えられる。外面には，口縁部から胴部にかけて，縦位，斜位の刺突列を施した後，口縁部に横位の刻目突帯を４段施す。外面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。96には内外面から穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っているが，胴部以下には横位，斜位の条痕が明瞭に残る。Ⅱ－１－①類土器である。102は口縁部である。外面は斜位の刺突を施した後，横位の突帯を貼り付ける。突帯にはヘラ状工具で斜位の刻目を入れている。Ⅱ－１－①類土器である。103は口縁部である。口唇外端部に縦長の刻目を入れており，外面には横位の刻目突帯を施す。内面は摩耗のため判然としないが，横位の刺突を施していると考えられる。Ⅱ－１－①類土器である。104は口縁部であり，大きく外反する器形である。外面には口縁部のやや下がった位置から縦位，斜位の刺突列を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。105は波状口縁を呈すると考えられる。外面には縦位の相交弧文，内面には横位の相交弧文を施す。口唇部には棒状工具による刺突を入れている。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。105は接合はしないが，119号土坑から出土した320と文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。106は，口縁部下位付近である。外面に横位の刻目突帯を施す。突帯下は丁寧なナデを行っている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。107・108も口縁部下位付近である。外面には，107は横位，108は縦位の突帯を貼り付ける。内面は，107はナデ，108は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。109は胴部である。外面に縦位の突帯を貼り付ける。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。110・111は胴部である。外面に押引状の連続刺突を斜位に施す。111は一部に刺突線文が確認できる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。112は無文の胴部である。外面に炭化物が付着している。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。113は丸底の底部である。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。114は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。両側辺下部で屈曲し，脚部は丸く作り出す。基部の抉りは浅い。

また，埋土上位から出土した112の土器付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4486±22^{14}C BPの値が得られた（YU-9993）。

58号土坑（第52図）

Ｇ－17区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸157cm，短軸117cm，検出面からの深さは34cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器24点，石器６点，フレーク・チップ32点，礫13点が出土した。115は口縁部である。外面に横位，波状の突帯を貼り付ける。口唇部から内面にかけて縦長の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。116は胴部である。外面に縦位の微隆線状の突帯を貼り付ける。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。117は胴部である。外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。118は胴部である。僅かに微隆線状の突帯が確認できる。突帯に沿って沈線も施される。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。119・121は玉髄Ⅰ類製，120は頁岩Ⅰ類製の石鏃である。119は小型の正三角形状を呈し，両側縁部は湾曲する。基部の抉りは三角形状を呈し，脚部は方形に作り出す。120は基部の抉りが深い。121は左脚部を欠損し，表面の剥離はやや粗い。

59号土坑（第53図）

Ｇ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸140cm，短軸125cm，検出面からの深さは31cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

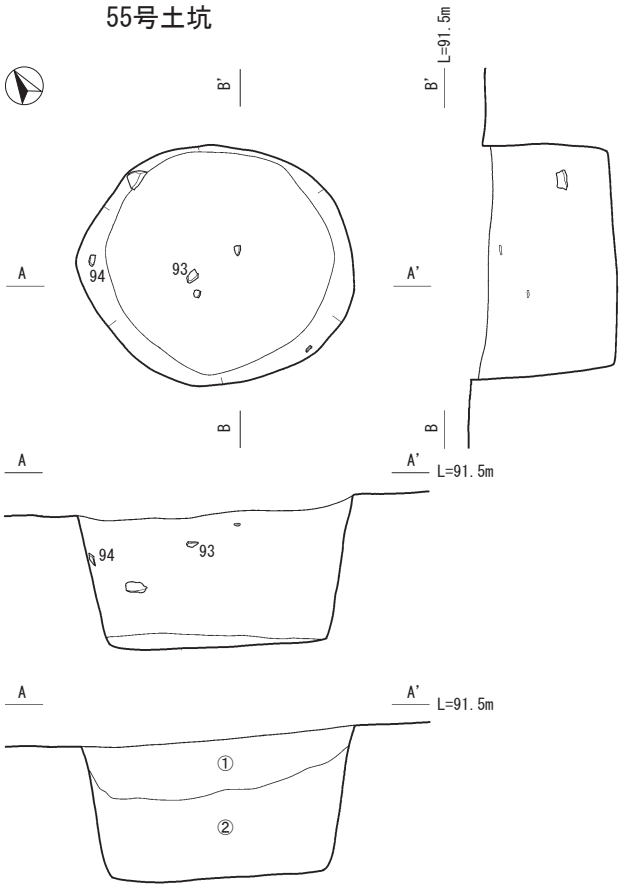
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器28点，フレーク・チップ10点，礫４点が出土した。122～124は胴部である。122は外面に縦位，斜位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っており，痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。123は外面に縦位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。124は内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。

また，埋土中位から出土した123の土器付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4632±22^{14}C BPの値が得られた（YU-9995）。

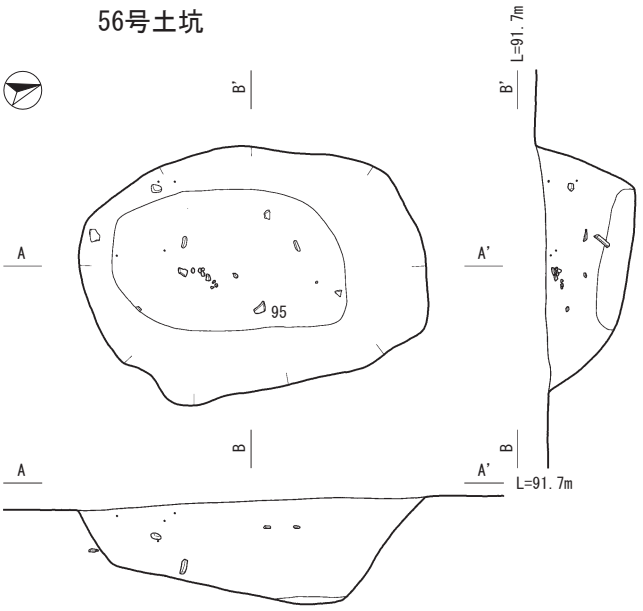
60号土坑（第53・54図）

Ｇ・Ｈ－18区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸163cm，短軸136cm，検出面からの深さは40cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器61点，石器５点，フレーク・チップ22点，礫７点が出土した。125・126は口縁部である。125は外面に横位の突帯を貼り付け，米粒状の刻目を密に入れている。口唇部外端にも刻目を施す。内面には短い刺突と押引状の長い刺突を横位に施す。器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。126は外面に微隆線状の突



埋土
①黒褐色土　Hue10YR2／2　2～10mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。
②黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石を少量，黄橙色パミスを多量含む。



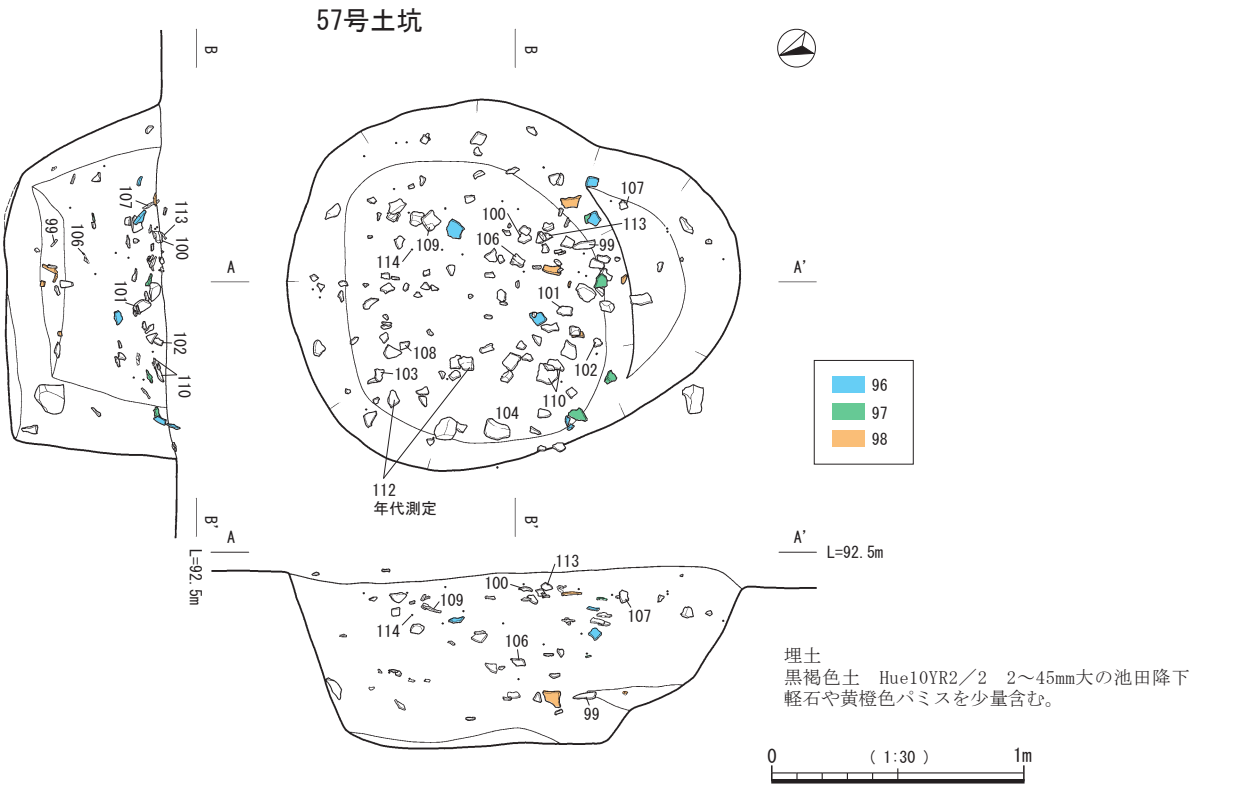
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

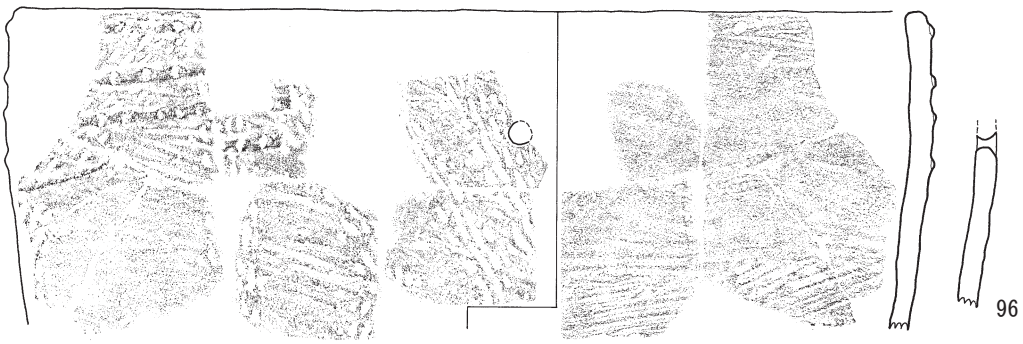
0　（1:30）　1m

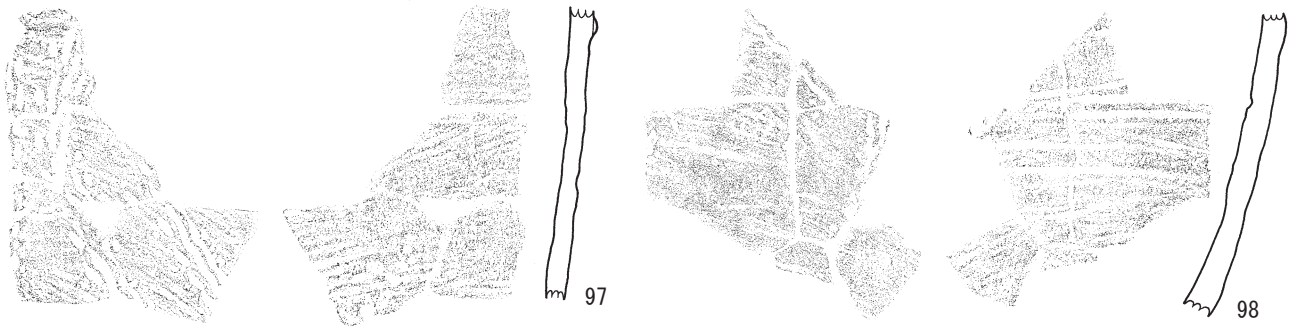


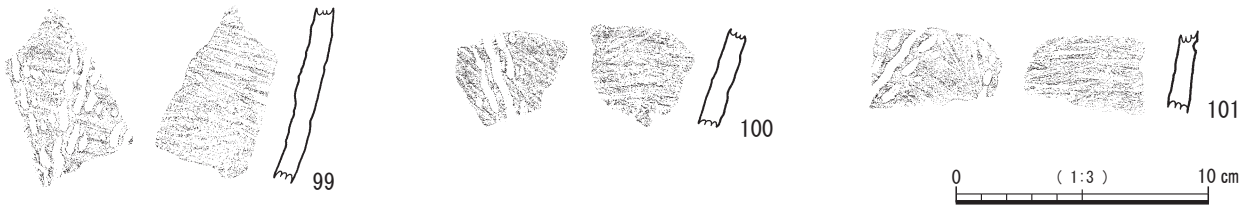
第49図　土坑28（55号・56号）

帯を縦位，弧状に貼り付ける。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。127～135は胴部である。127～129は，外面に縦位や斜位に短い刺突と押引状の長い刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。127は，胎土に小礫のほか，ガラス質で黒色を呈する，黒曜石のような粒を含む。また，11号土坑の出土土器と接合した。130・131は外面に相交弧文を施す。内面は貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅱ－２－②類土器である。132～134は外面に縦位や斜位に浅い沈線を施す。内面は132はナデ，133・134は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。135は外面に斜位，縦位の順に沈線を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。136は黒曜石Ⅰ類製の小型の石鏃である。側縁部から脚部にかけて左右非対称であり，先端部は丸い。

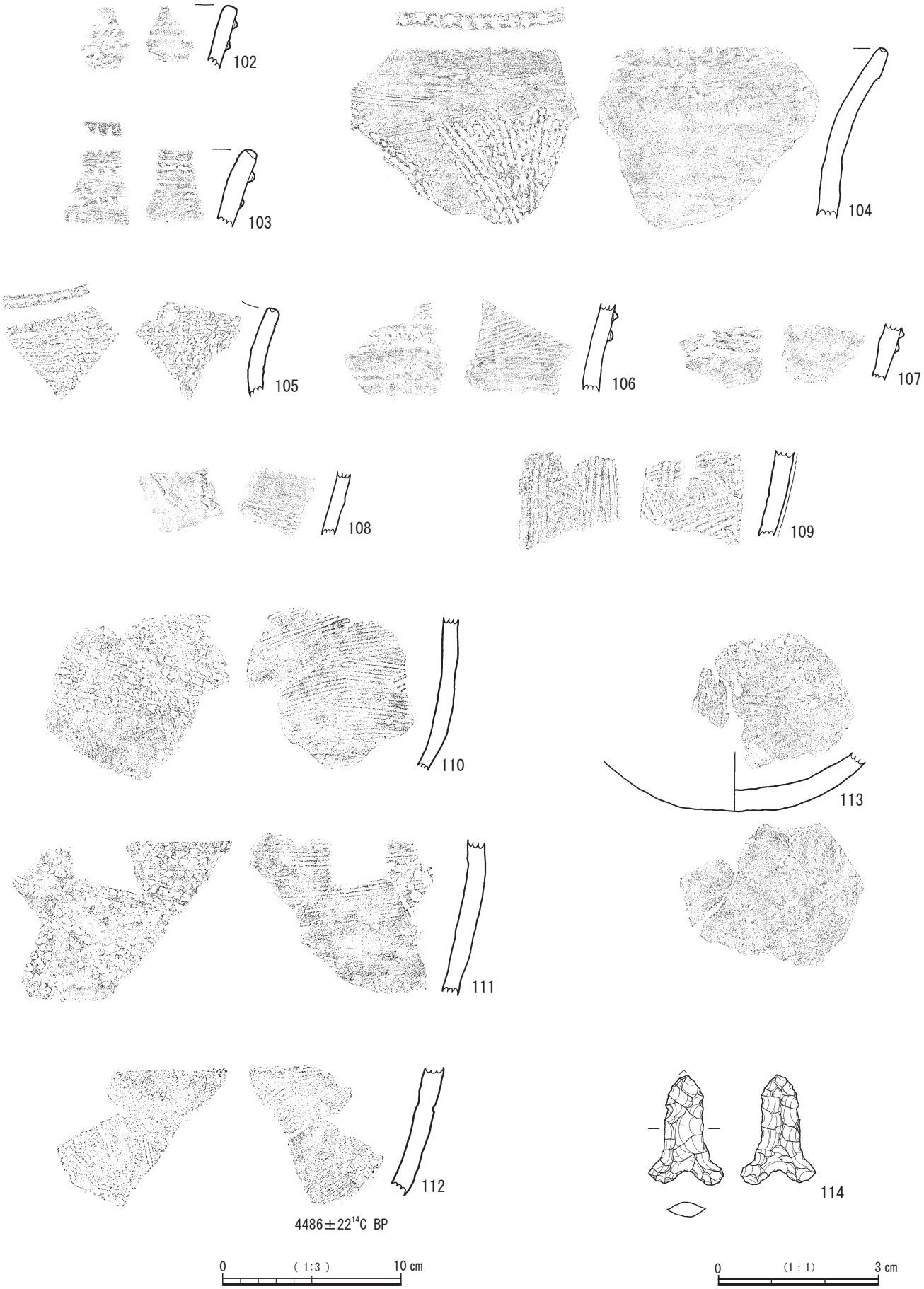




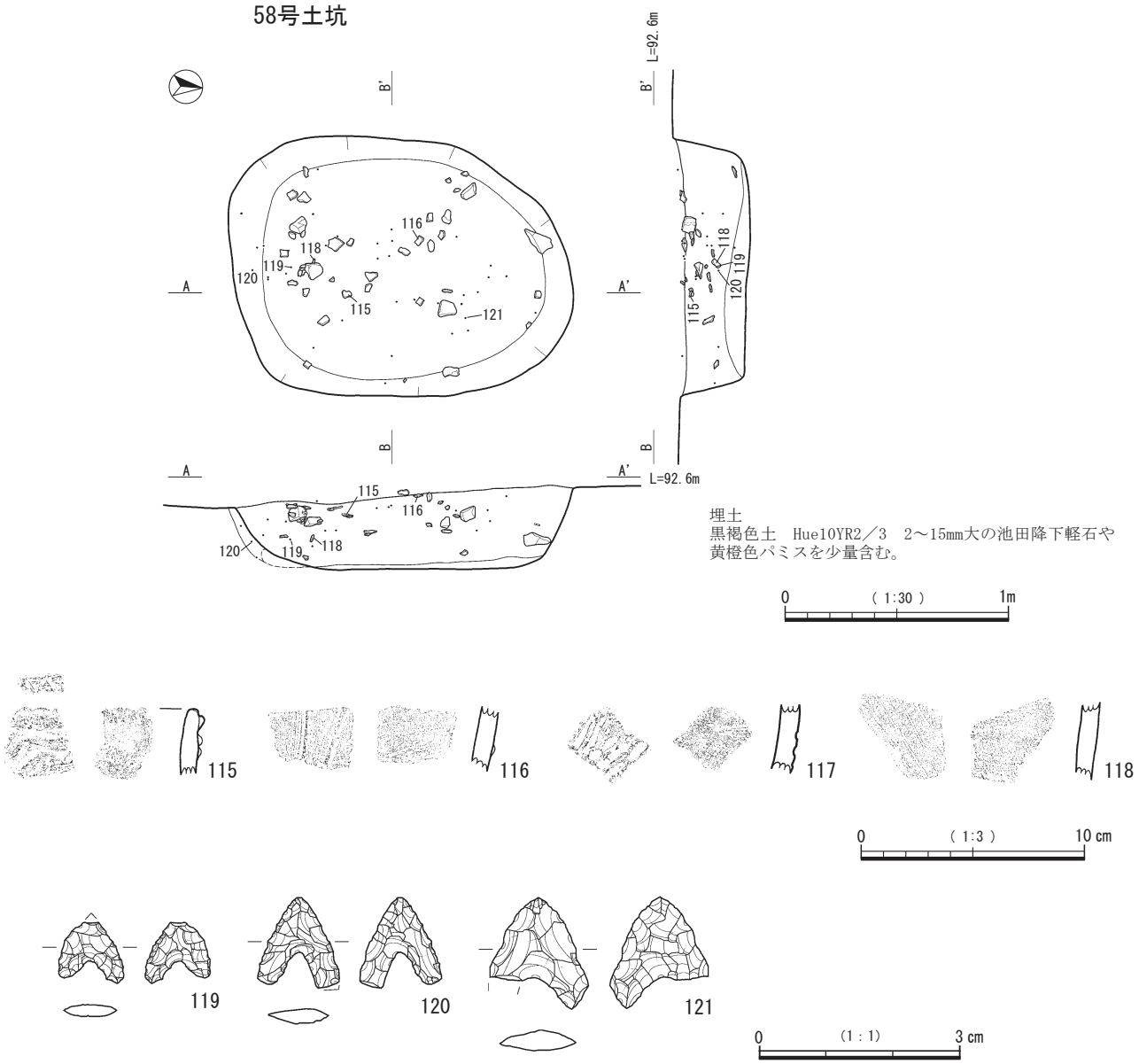




第50図　土坑29（57号）



第51図　土坑30（57号出土遺物）



第52図　土坑31（58号）

61号土坑（第55図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸120cm，短軸113cm，検出面からの深さは43cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

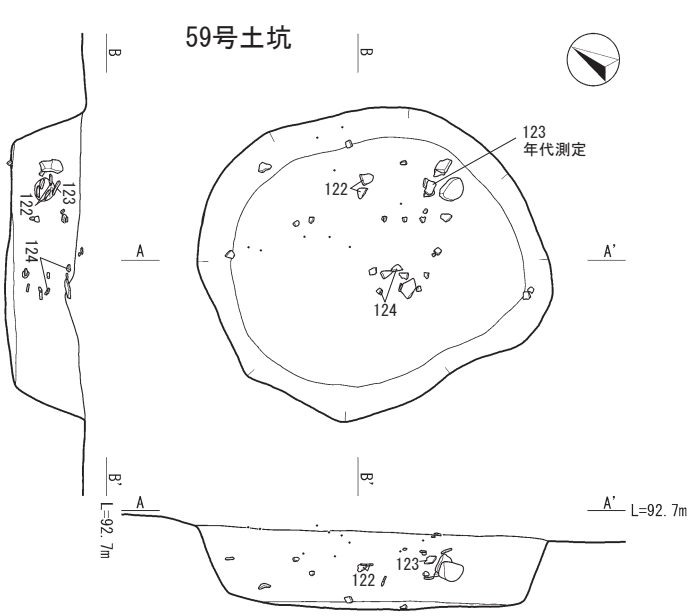
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器22点，石器４点，フレーク・チップ13点，礫７点が出土した。137～141は胴部である。137は外面に縦位の微隆線状の突帯と沈線を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。138～141は外面に縦位や斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。138は外面に炭化物が付着している。140は外面にも貝殻条痕が明瞭に残る。141は外面から穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。すべてⅡ－２－①類土器である。142は丸底の底部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。143は玉髄Ｉ類製の石鏃である。脚部を方形に作り出し，基部の抉りは三角形状になる。

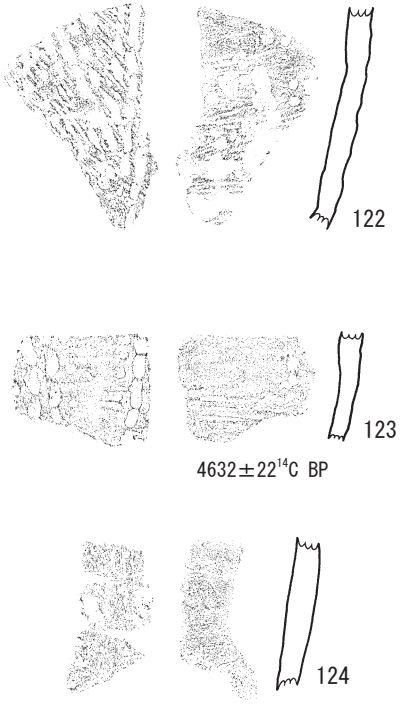
また，埋土上位から出土した138の土器付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4646±25^{14}C BPの値が得られた（YU-9994）。

62号土坑（第56図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸211cm，短軸190cm，検出面からの深さは71cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

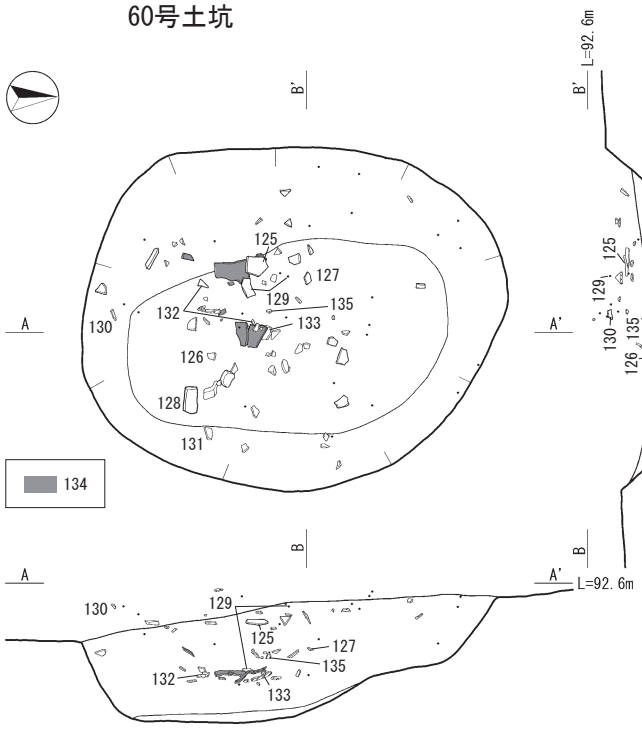
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器65点，石器６点，フレーク・チップ25点，軽石製品２点，礫14点，炭化物２点が出土した。144～146は口縁部であり，外面





埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～25mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

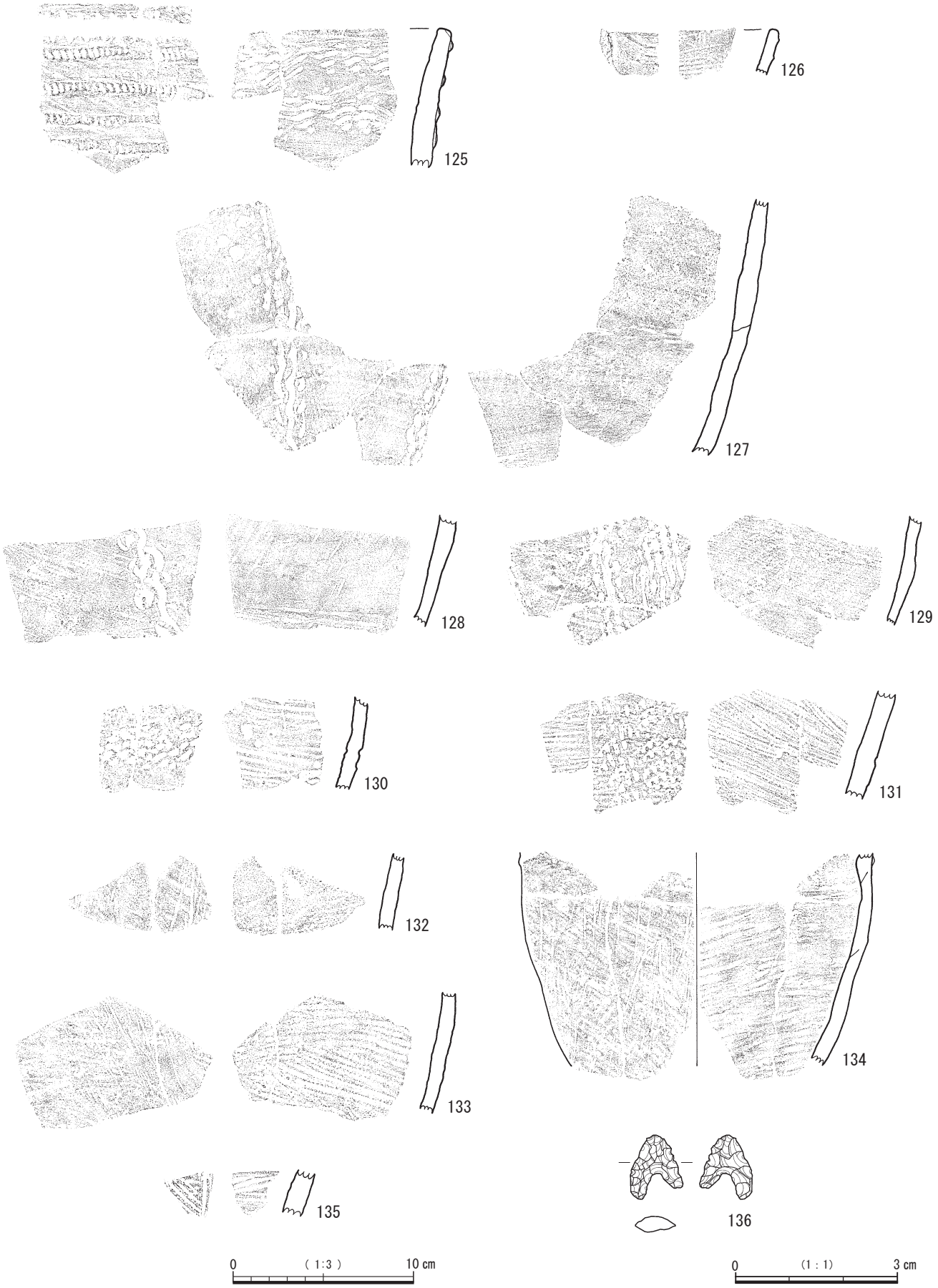
0　(1:3)　10 cm



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

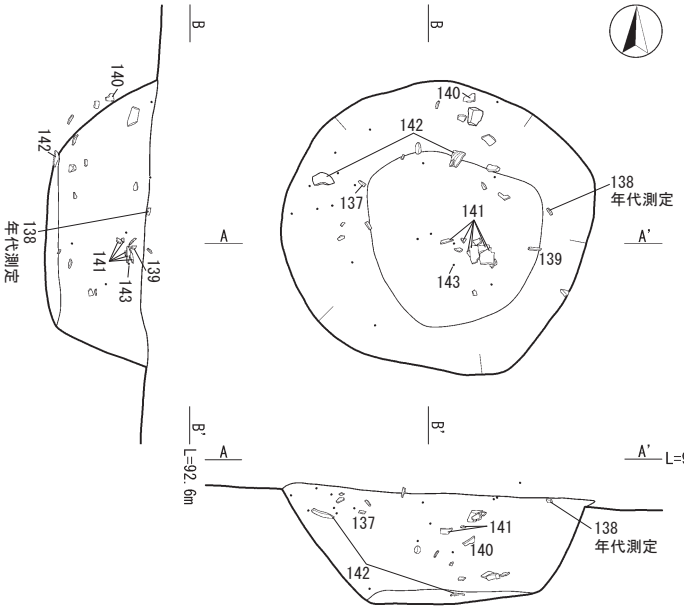
0　(1:30)　1m

第53図　土坑32（59号・60号）



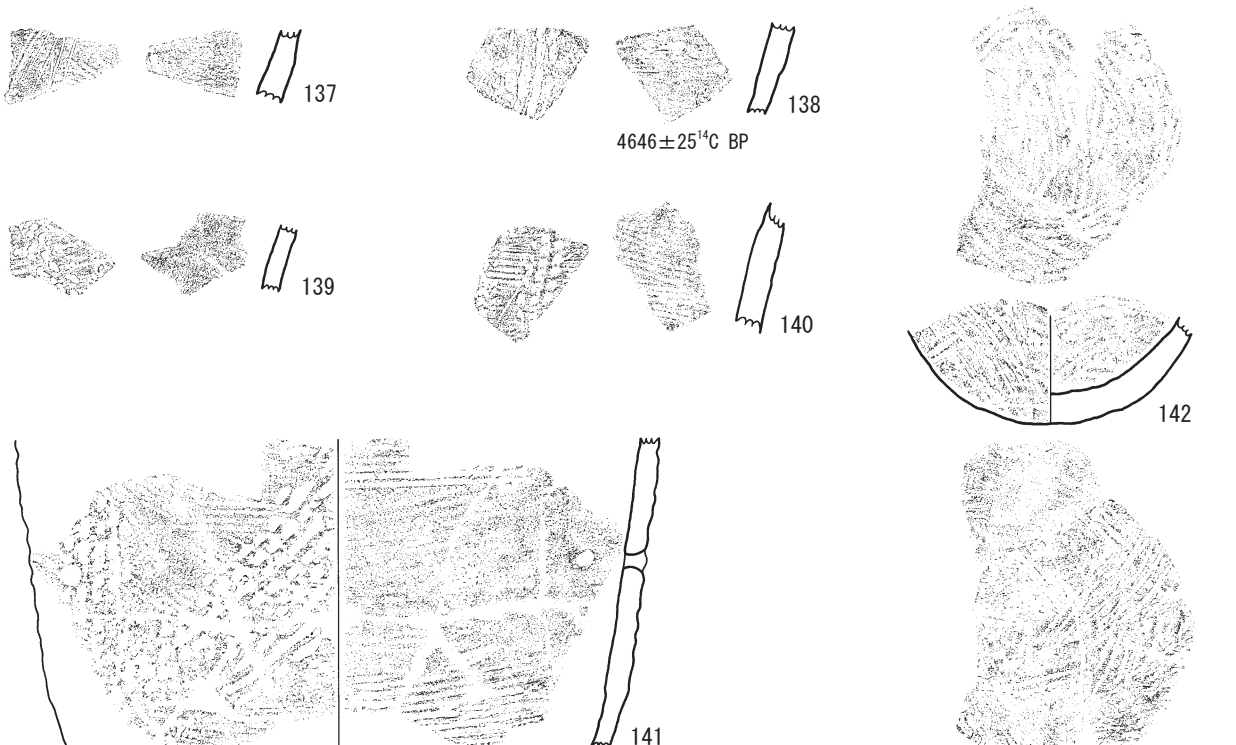
第54図　土坑33（60号出土遺物）

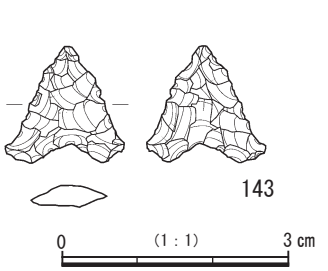
61号土坑



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

0　(1:30)　1m

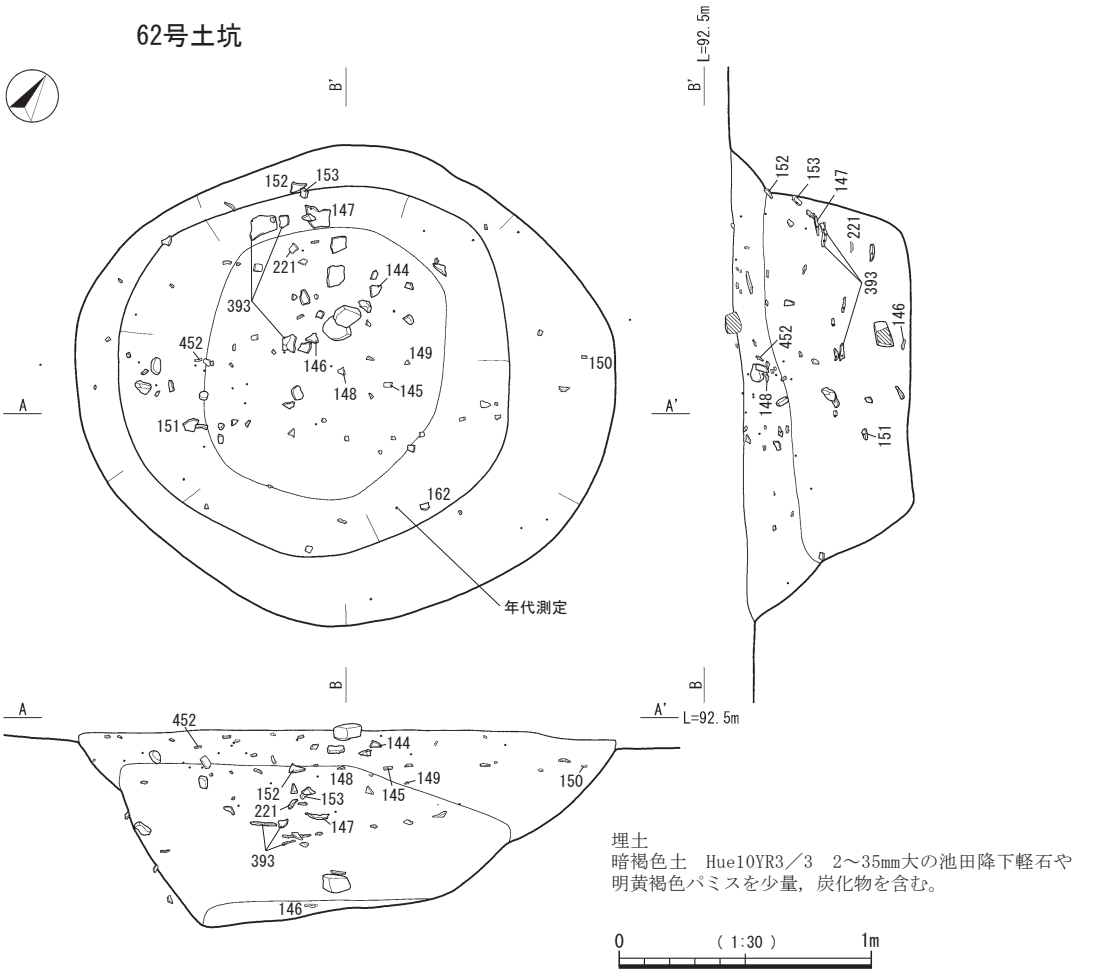


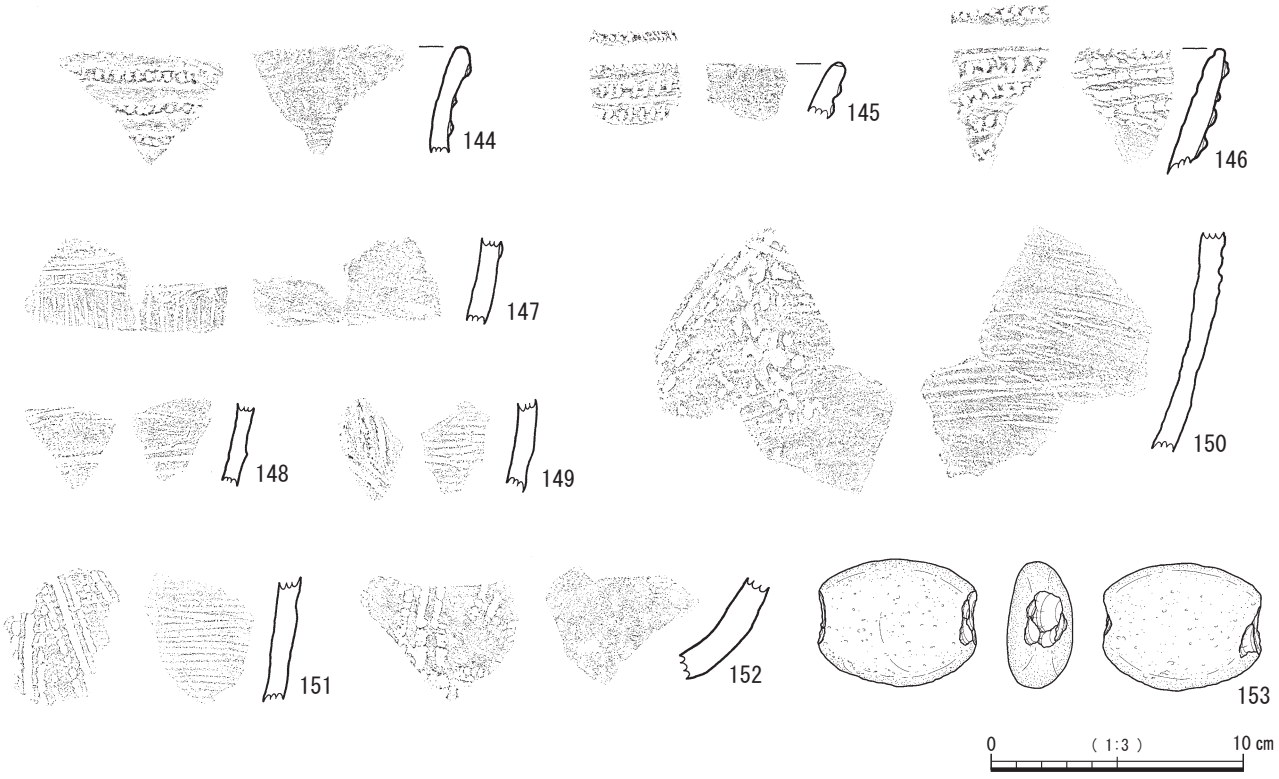


0　(1 : 1)　3 cm

0　(1:3)　10 cm

第55図　土坑34（61号）





第56図　土坑35（62号）

に横位の刻目突帯を施す。144は，口径は復元できなかったが，小型の器形を呈すると考えられる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。145は口唇部には貝殻の腹縁部による刺突を施す。内面はナデを行っている。146は口唇部に棒状工具による刺突を施し，内面には横位の押引状の連続刺突と，貝殻の腹縁部による刺突線文を施す。すべてⅡ－１－①類土器である。147～149は胴部であり，外面に横位や斜位の微隆線状の突帯を施す。147は横位の突帯下に，横位，縦位の沈線を施す。内面は丁寧なナデを行っている。148・149の内面は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。３点ともⅡ－１－②類土器である。150・151は胴部であり，152は底部に近い胴部下半である。外面に斜位の刺突を施し，内面は150・151は貝殻条痕調整後，ナデを行っており，152はナデのみである。３点ともⅡ－２－①類土器である。153は安山岩Ⅲ類製の石錘である。幅が約6.5cm大で，厚さが2.6cmの楕円形の円礫を使用し，両側辺部に打ち欠き痕が残る。

また，埋土上位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4744±31^{14}C BPの値が得られた。

63号土坑（第57図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸221cm，短軸189cm，検出面からの深さは43cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器34点，石器５点，フレーク・チップ37点，礫６点，炭化物６点が出土した。154は119号土坑の出土土器や包含層出土の土器と接合している。口径は37.6cmであり，口縁部は外反する。口縁部外面には刻目突帯を組み合わせて，特徴的なモチーフを描く。２本１単位の縦位の刻目突帯を施し，口縁部上位側は左右に開いている。縦位の刻目突帯で区画された内部には，口縁部上位からＶ字状の刻目突帯，Ｘ字状の沈線を施している。また，縦位の刻目突帯間には，縦位の刻目突帯と短い斜位の刻目突帯を矢羽根状に組み合わせたモチーフを作り出す。刻目突帯を施した後，縦位や格子状の沈線で，器面を充填している。口唇部外端には，縦長の刻目を入れている。外面から穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。内面は，口縁部上位に横位の沈線を施し，器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。155は胴部である。外面には横位の突帯を貼り付けるが，部分的に波状になる。突帯には器面に及ぶような縦長の刻目を入れている。突帯下には縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。156は黒曜石Ｖ類製の石鏃である。脚部の先端を丸く作り出し，基部の抉りは非常に深い。

64号土坑（第58図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸179cm，短軸160cm，検出面からの深さは56cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器33点，フレーク・チップ17点，礫７点，炭化物２点が出土した。157は胴部である。外面に縦位，斜位の微隆線状の突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

65号土坑（第58図）

Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸141cm，短軸117cm，検出面からの深さは51cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器24点，石器１点，フレーク・チップ13点，礫７点，炭化物１点が出土した。158は胴部である。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫，金色の雲母を含む。Ⅱ－２－①類土器である。159は安山岩Ⅱ類製の石鏃である。左脚部は欠損するが，脚部の先端は方形に作り出される。

66号土坑（第59図）

Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸125cm，短軸110cm，検出面からの深さは34cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。なお，底面を掘りすぎた為，断面図上に本来の底面を破線で記す。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器14点，フレーク・チップ５点，礫６点が出土した。160は胴部である。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

67号土坑（第59図）

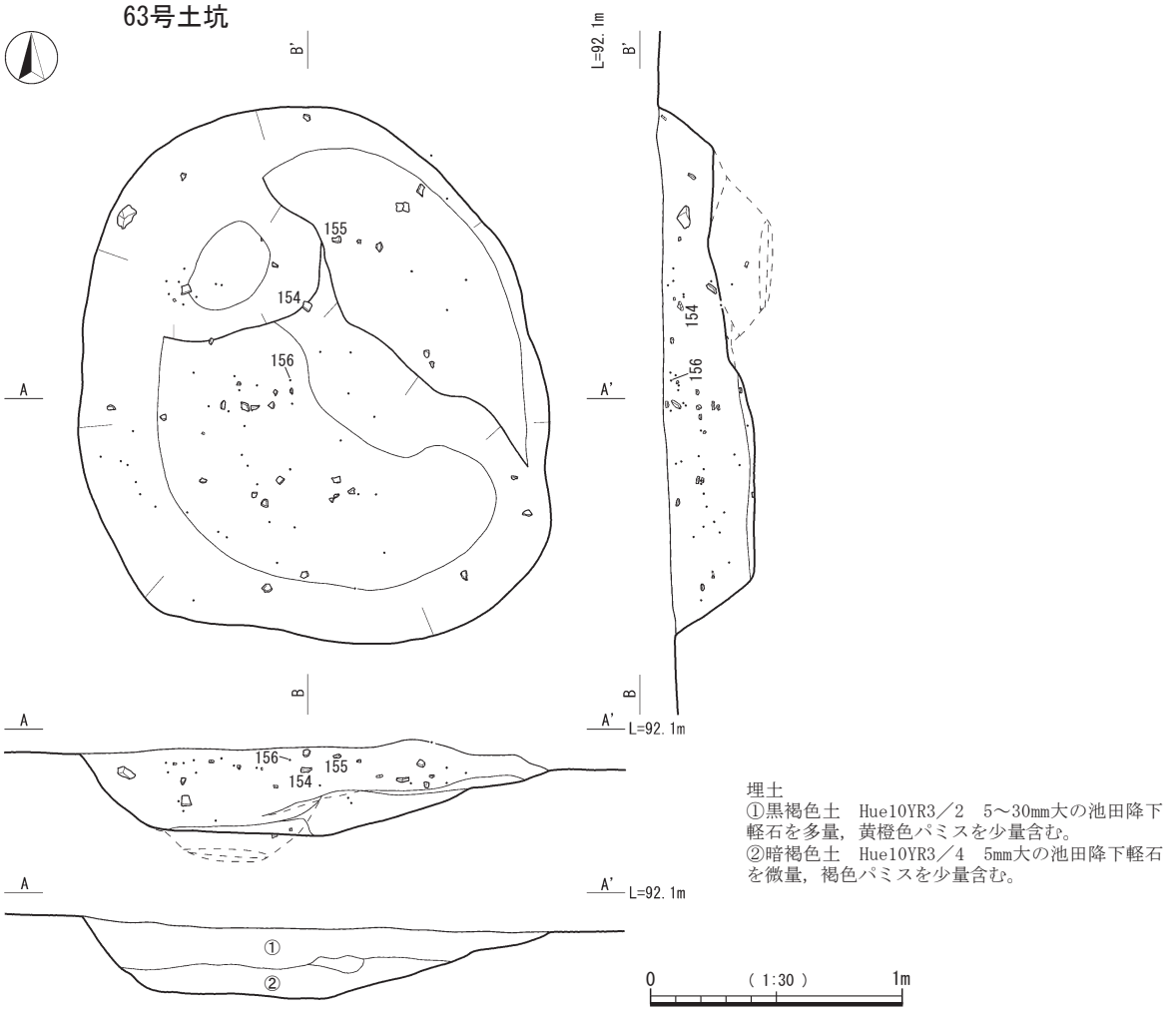
Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸158cm，短軸97cm，検出面からの深さは30cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

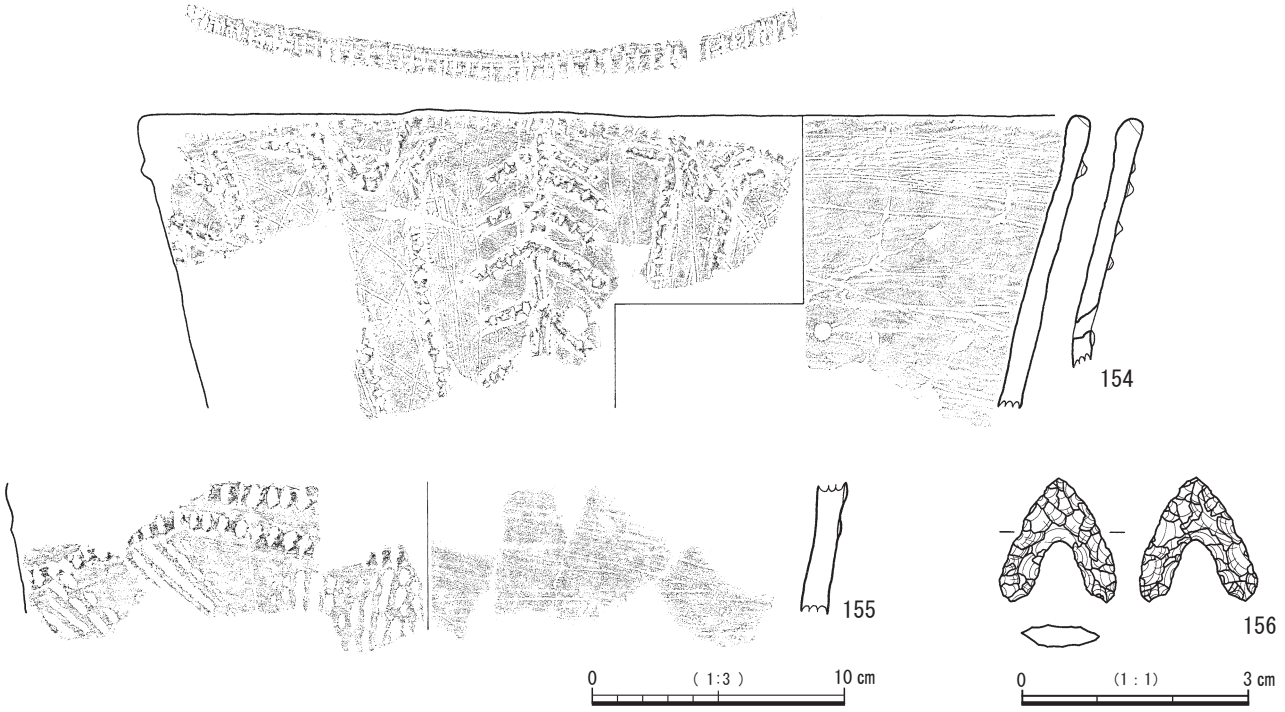
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器５点，フレーク・チップ６点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

68号土坑（第59図）

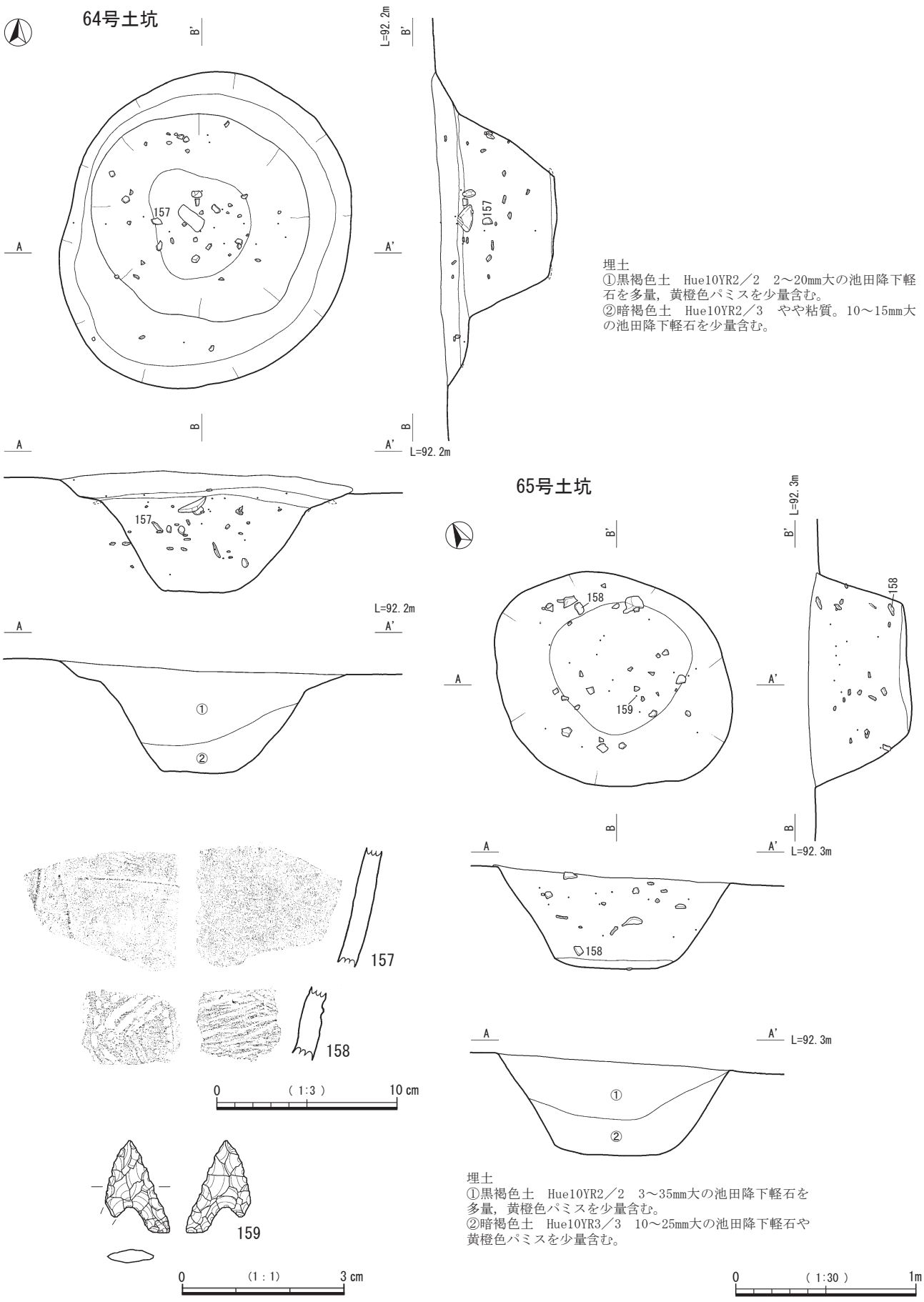
Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸115cm，短軸101cm，検出面からの深さは55cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器14点，石器１点，フレーク・チップ４点，礫２点，炭化物25点が出土した。161は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を１段施し，縦位の刻目突帯も一部確認できる。横位の刻目突帯下には縦位の刺突を施している。器面に貝殻条痕が

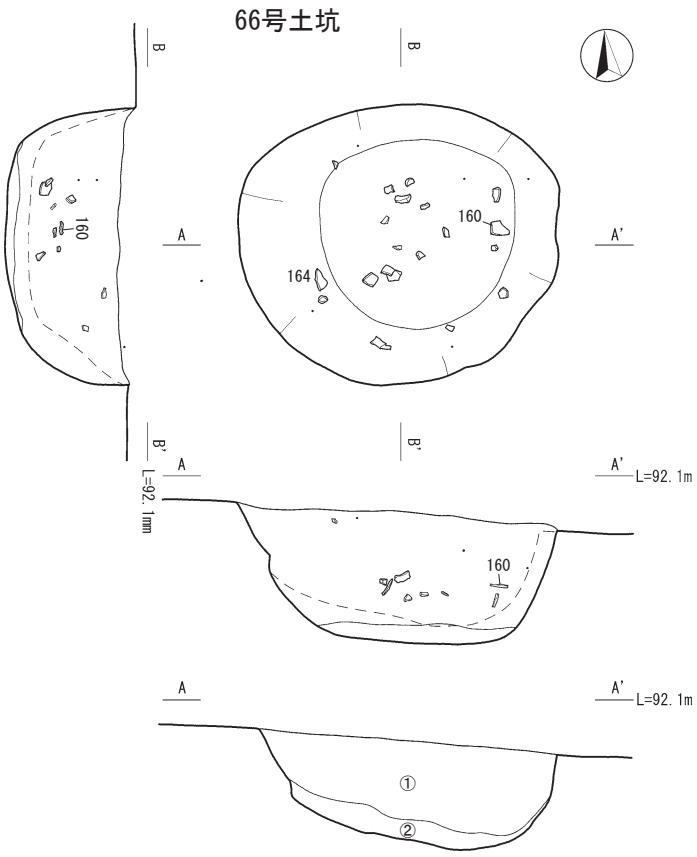




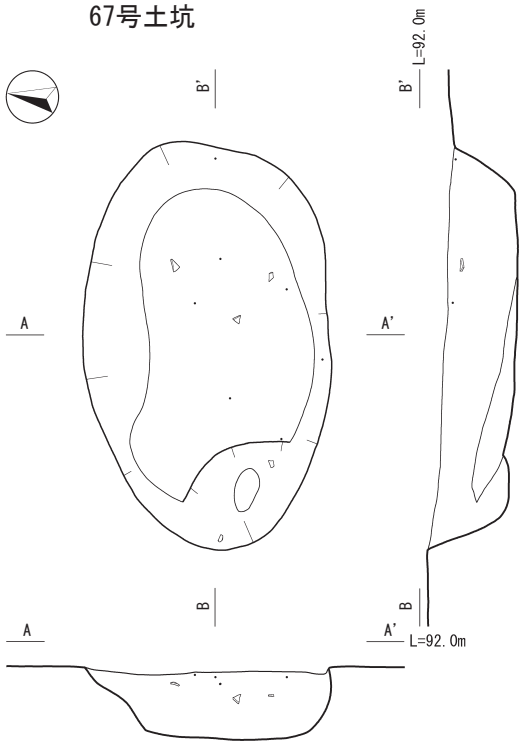
第57図　土坑36（63号）



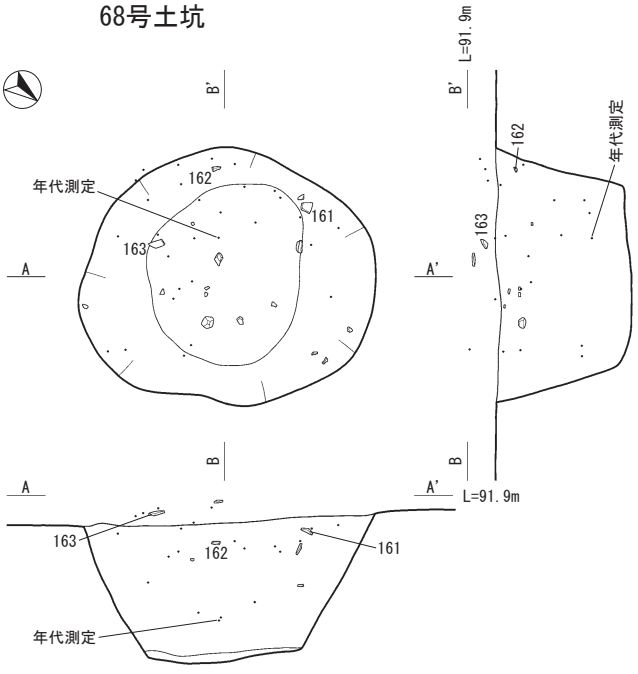
第58図　土坑37（64号・65号）



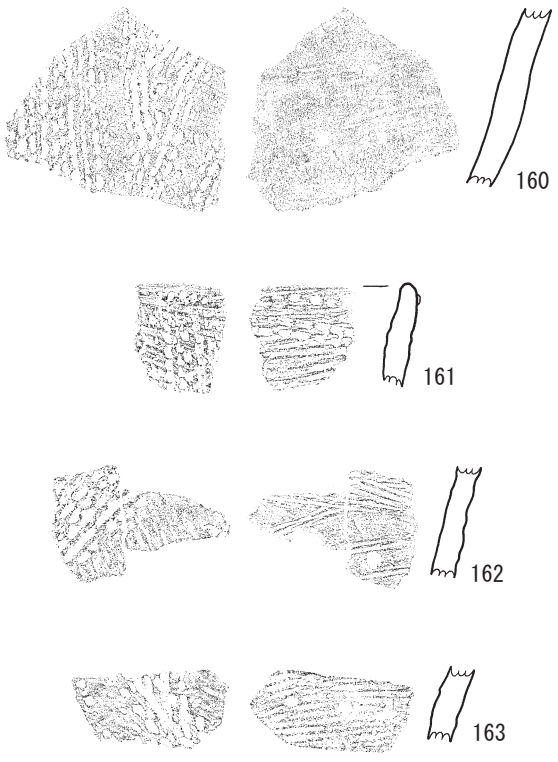
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。炭化物を含む。



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～40mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

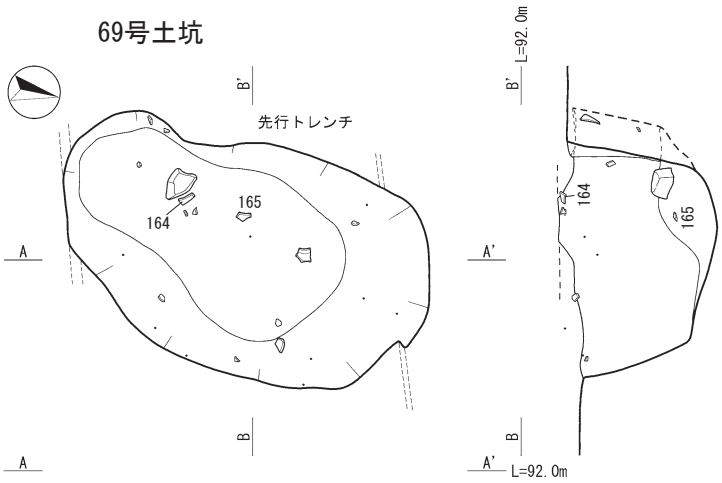


0　（1:30）　1m

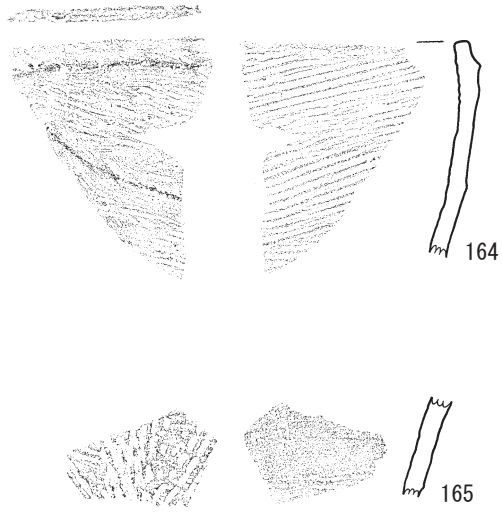
0　（1:3）　10cm

第59図　土坑38（66号・67号・68号）

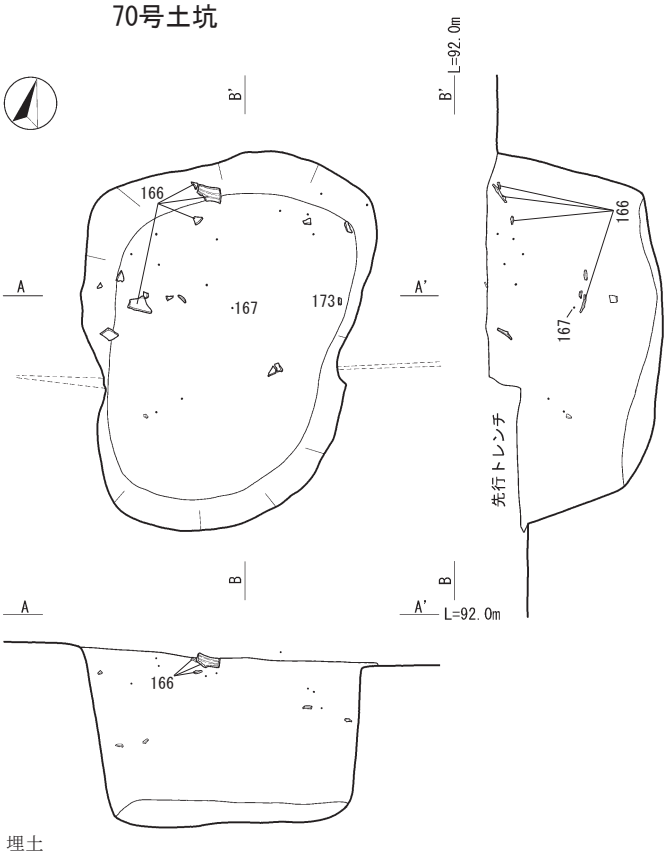
69号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～35mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

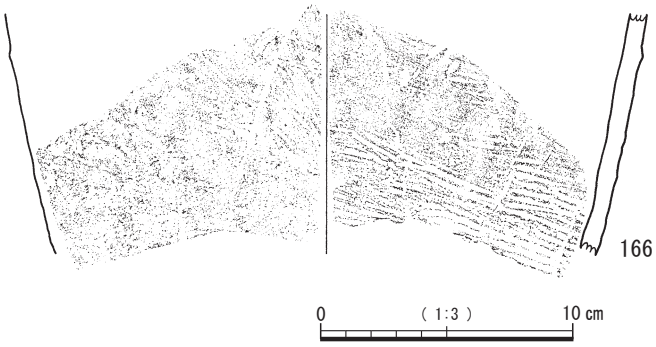


70号土坑

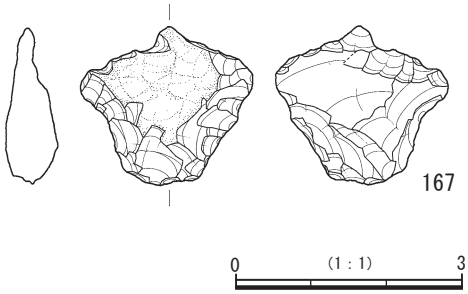


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～10mm大の池田降下軽石を少量,
黄橙色パミスを中量含む。

0　(1:30)　1m

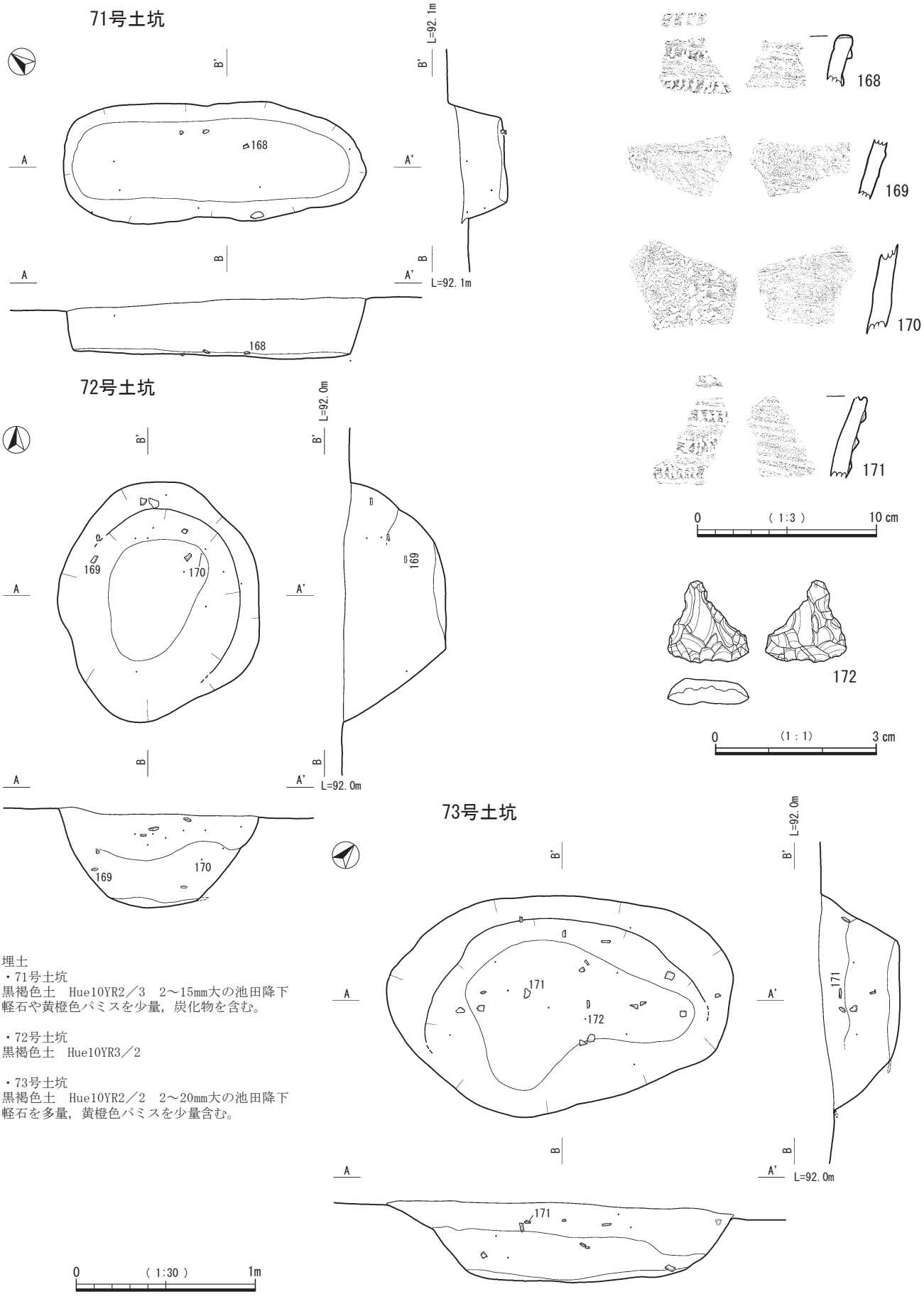


0　(1:3)　10 cm



0　(1 : 1)　3 cm

第60図　土坑39（69号・70号）

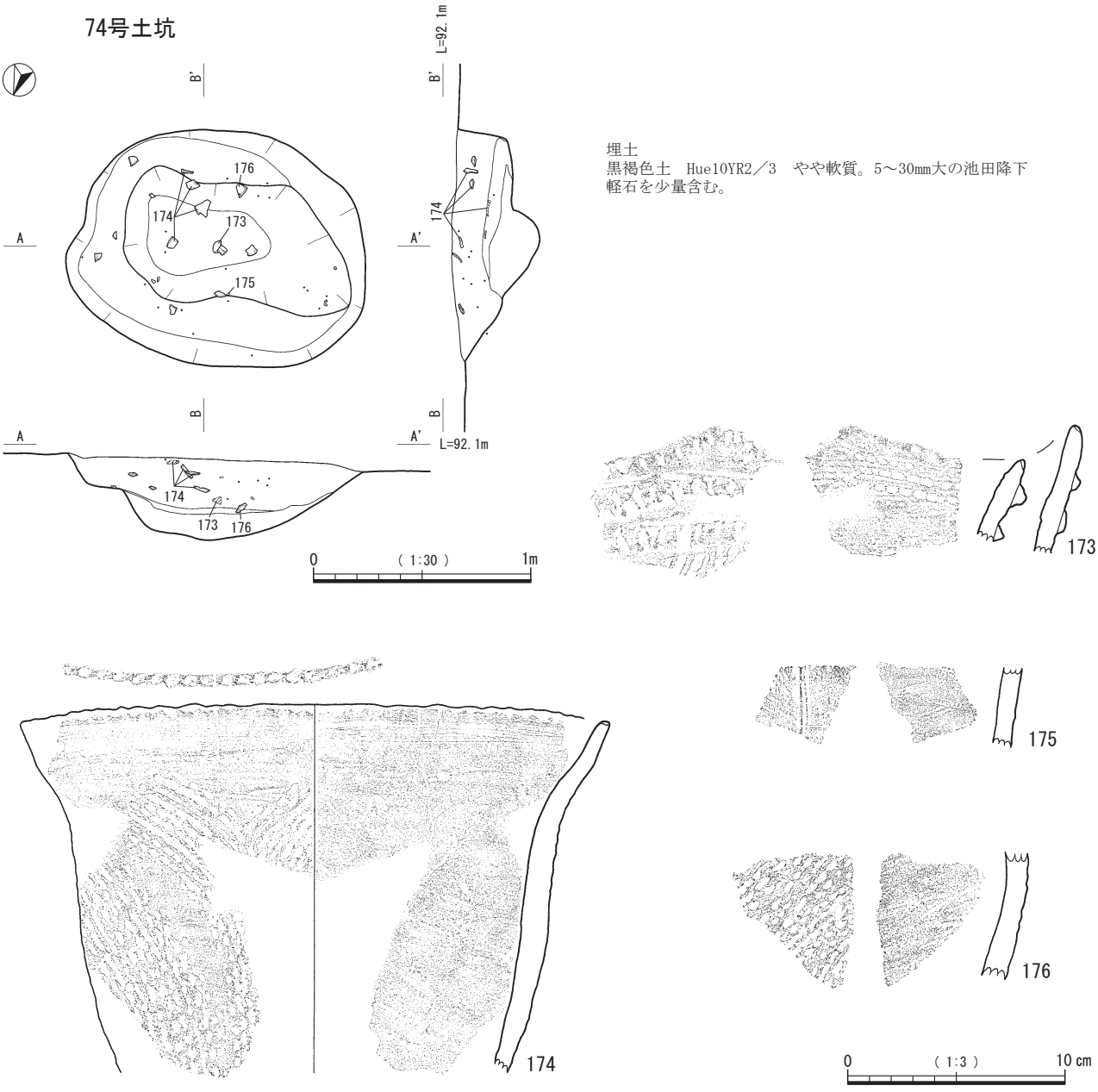


埋土
・71号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

・72号土坑
黒褐色土　Hue10YR3／2

・73号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。

第61図　土坑40（71号・72号・73号）



第62図　土坑41（74号）

明瞭に残る。内面は横位の刺突を施す。器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。162・163は胴部である。外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。なお，162は62号土坑の出土土器と接合した。

また，埋土中位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で7540±34^{14}C BPの値が得られた。

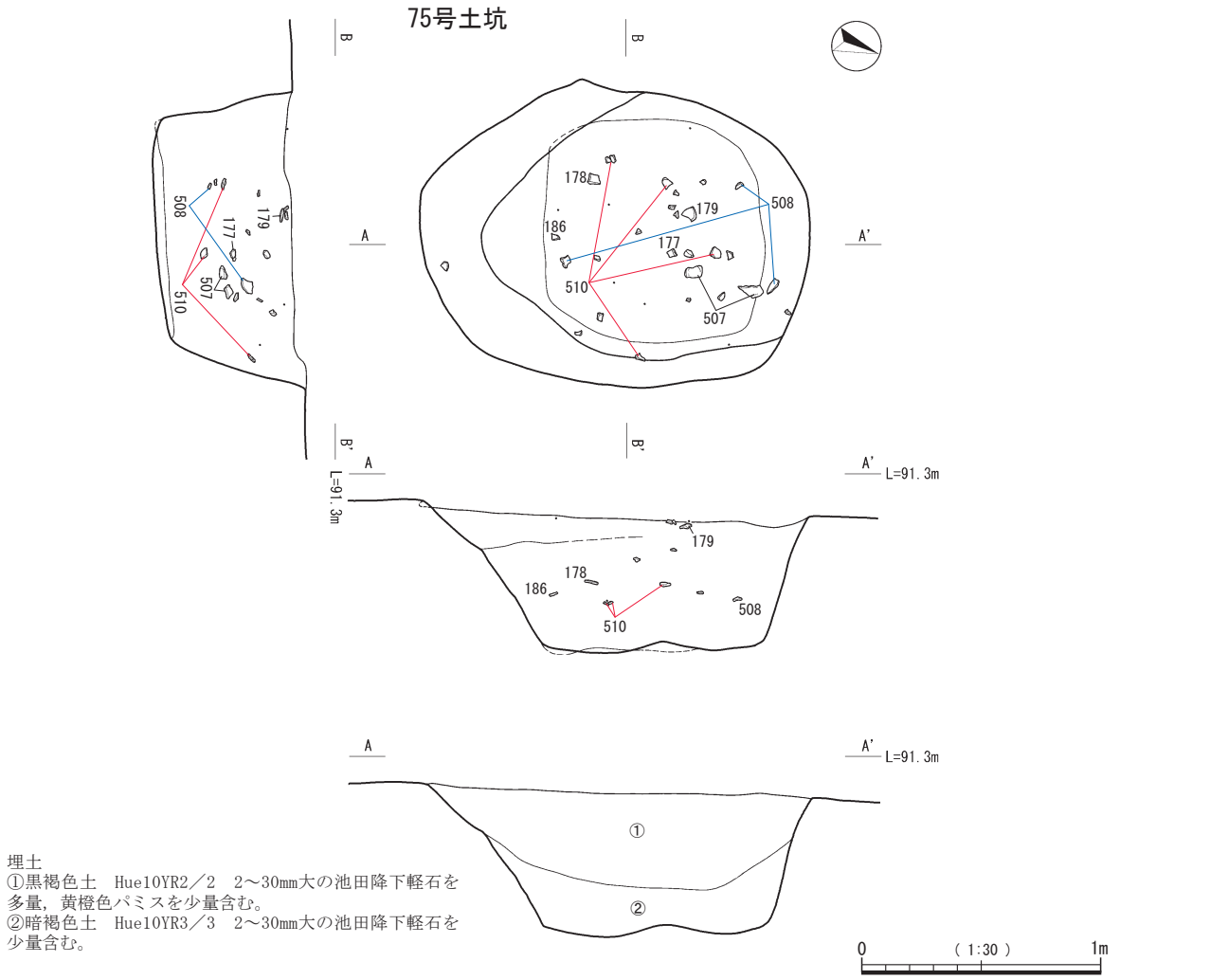
69号土坑（第60図）

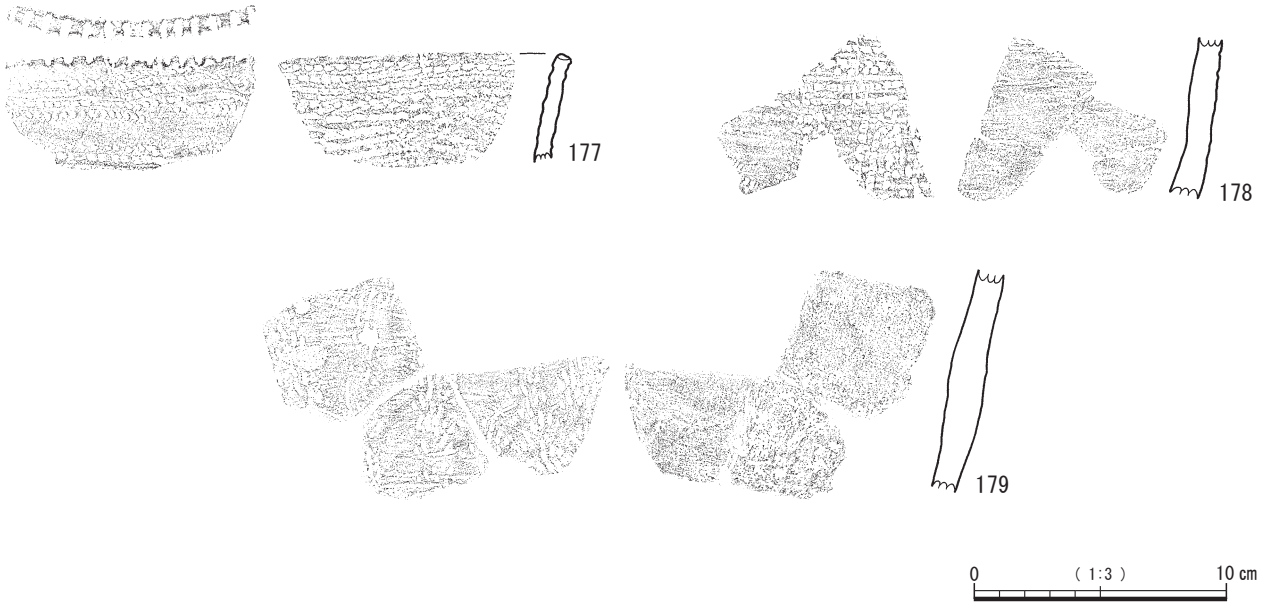
Ⅰ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸155㎝，短軸93㎝，検出面からの深さは65㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。先行トレンチにより，遺構の上部が削られていた。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器12点，石器１点，フレーク・チップ11点，礫１点が出土した。164は66号土坑の出土土器と接合した。口縁部外面に横位，斜位の微隆線状の突帯を施す。内面は貝殻条痕が明瞭に残る。Ⅱ－１－②類土器である。165は胴部である。外面に斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

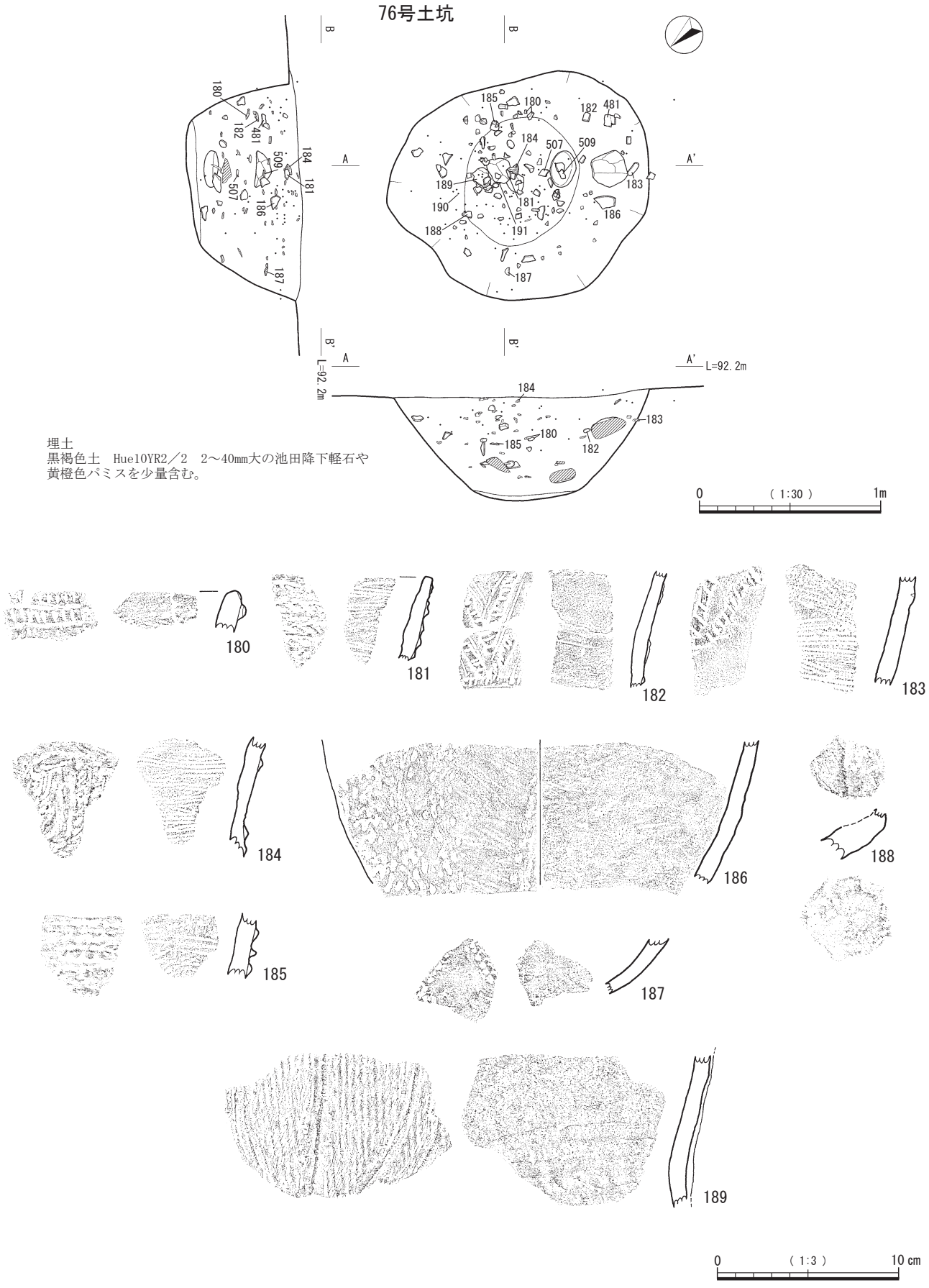
70号土坑（第60図）

Ⅰ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸153㎝，

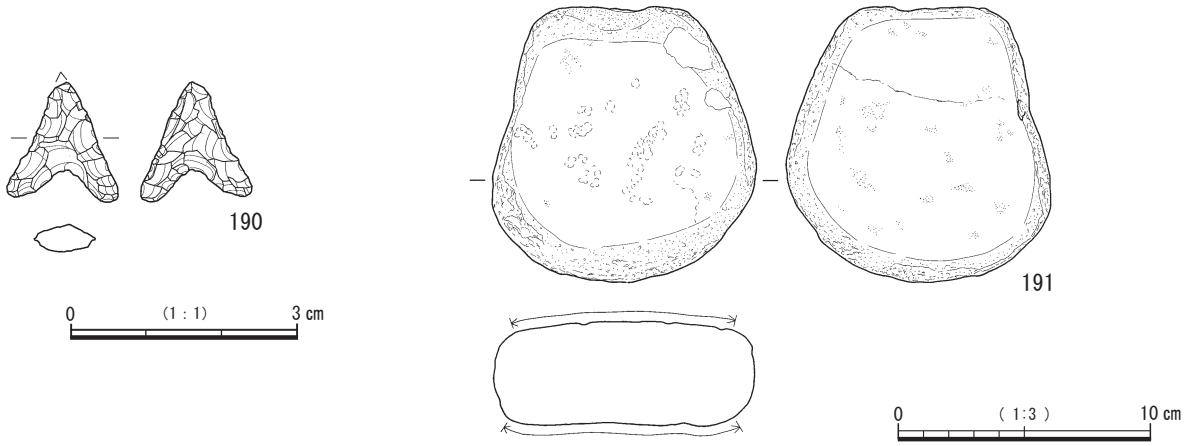




第63図　土坑42（75号）



第64図　土坑43（76号）



第65図　土坑44（76号出土遺物）

短軸105cm，検出面からの深さは69cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。先行トレンチにより，遺構の南側の上部が削られていた。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器14点，石器２点，フレーク・チップ８点，礫３点が出土した。166は161号土坑の出土土器と接合した。底部に向かって緩やかに窄む胴部下半であり，内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。167は頁岩Ⅲ類製の二次加工剥片である。表面に原礫面，裏面に主要剥離面を残し，周縁に剥離調整を加えている。

71号土坑（第61図）

Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸167cm，短軸63cm，検出面からの深さは31cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器３点，石器１点，フレーク・チップ４点，礫１点，炭化物１点が出土した。168は口縁部である。外面に横位の突帯を貼り付け，ヘラ状工具で縦長の刻目を入れている。口唇部にも同様の工具で斜位に刻目を施す。内面には横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。

72号土坑（第61図）

Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸139cm，短軸112cm，検出面からの深さは56cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器15点，フレーク・チップ11点，礫１点が出土した。169・170は胴部である。169は外面に横位の微隆線状の突帯を貼り付ける。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。170は外面に縦位の相交弧文を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。

73号土坑（第61図）

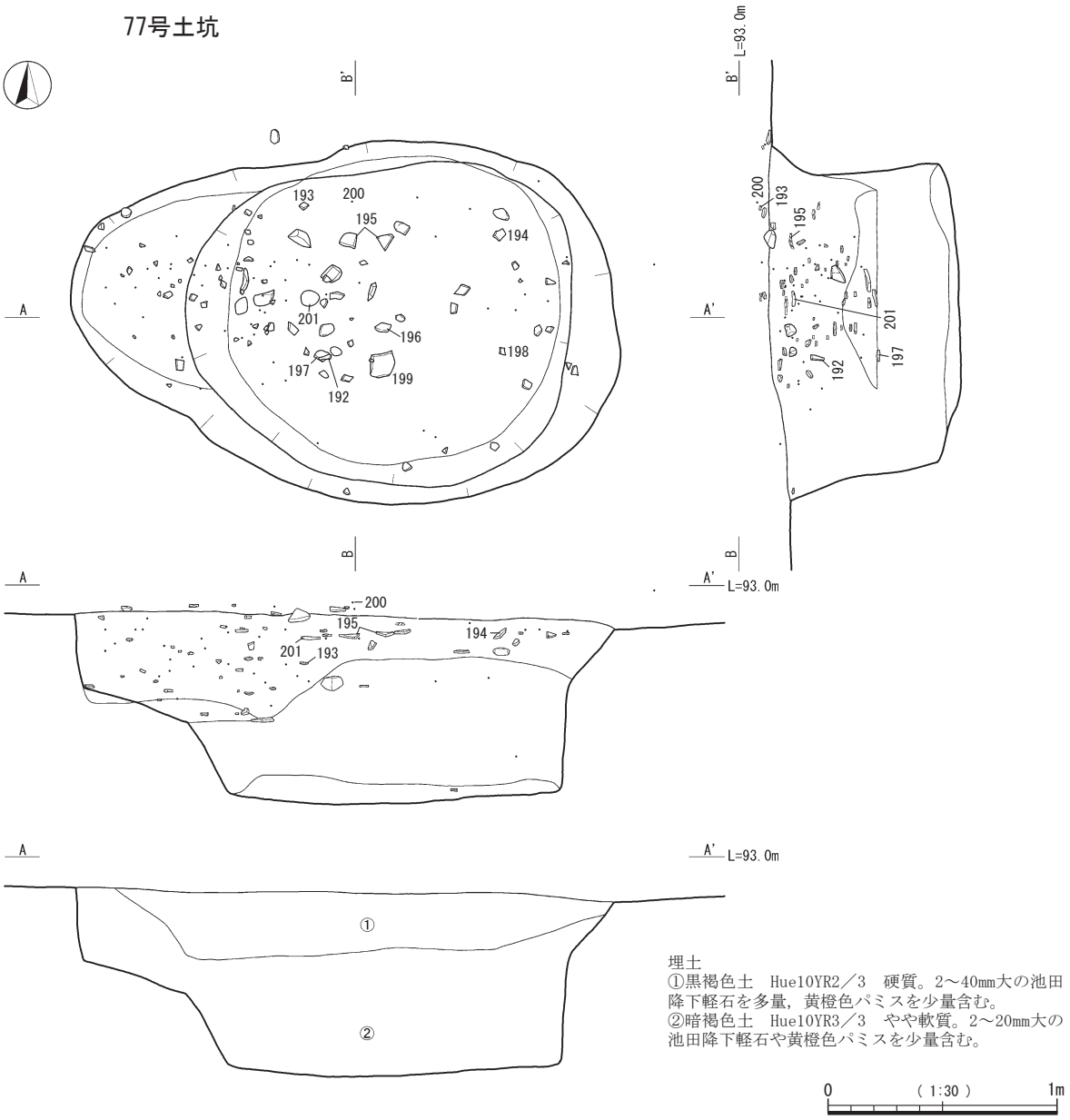
Ｊ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸189cm，短軸118cm，検出面からの深さは40cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器15点，石器２点，フレーク・チップ７点，礫２点が出土した。171は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部には棒状工具による刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。Ⅱ－１－①類土器である。172は頁岩Ⅲ類製の小型の石匙である。全体の形状は横型で，刃部はやや弧状となる。

74号土坑（第62図）

Ｊ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸137cm，短軸107cm，検出面からの深さは38cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器18点，フレーク・チップ18点，礫２点が出土した。173は70号土坑の出土土器と接合した。緩やかな波状口縁を呈し，外面には幅10㎜程の横位の突帯を２段貼り付け，ヘラ状工具で器面に及ぶような縦長の深い刻目を入れている。刻目突帯下には斜位の刺突を施す。口唇部外端にも刻目を施す。内面は横位の刺突を施す。器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に砂粒や石英を含む。Ⅱ－１－①類土器である。174は口径が27cmであり，口縁部が外反し，頸部で緩やかに括れ，胴部中央付近でやや膨らみ，底部に向けて窄まる器形である。外面には，口縁部下位と頸部付近より斜位の刺突でＹ字状のモチーフを描いている。口唇部には先端がＣ字状に加工された工具



第66図　土坑45（77号）

を用いて刺突を施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。175・176は胴部である。175は縦位の微隆線状の突帯を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。176は外面に斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

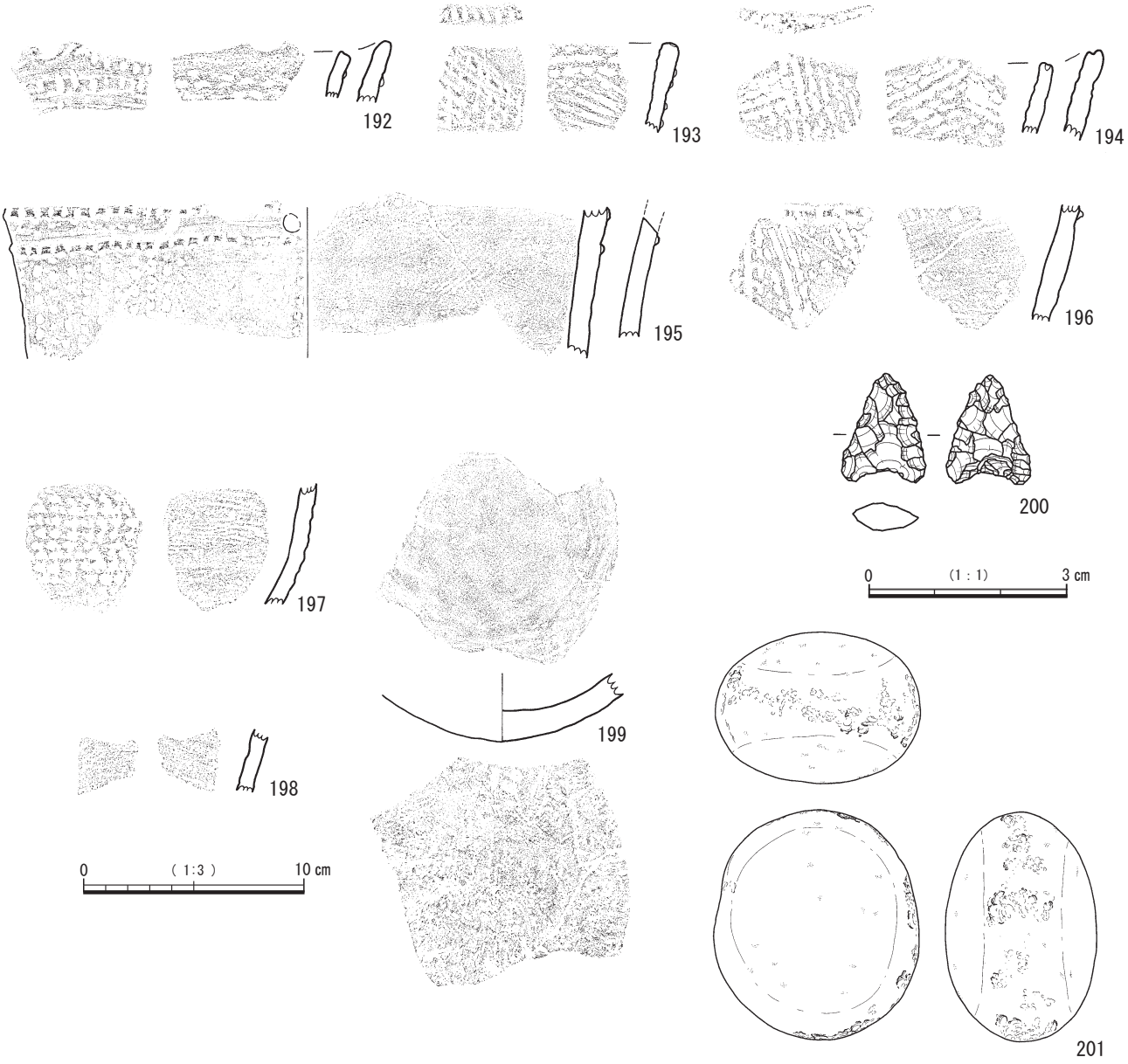
75号土坑（第63図）

Ⅰ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸162㎝，短軸123㎝，検出面からの深さは59㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器24点，石器１点，フレーク・チップ５点，礫２点が出土した。177は口縁部である。外面には横位の刺突を密に施す。２段目は１段目からやや間隔を空けて施している。口唇部には先端が枝分かれした工具を用いて，深い刻目を入れている。内面にも横位の刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。178は胴部である。外面に横位，縦位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。179は胴部下半付近である。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っており，指おさえ痕が確認できる。18号土器集中から出土した土器と接合している。Ⅱ－２－①類土器である。

76号土坑（第64・65図）

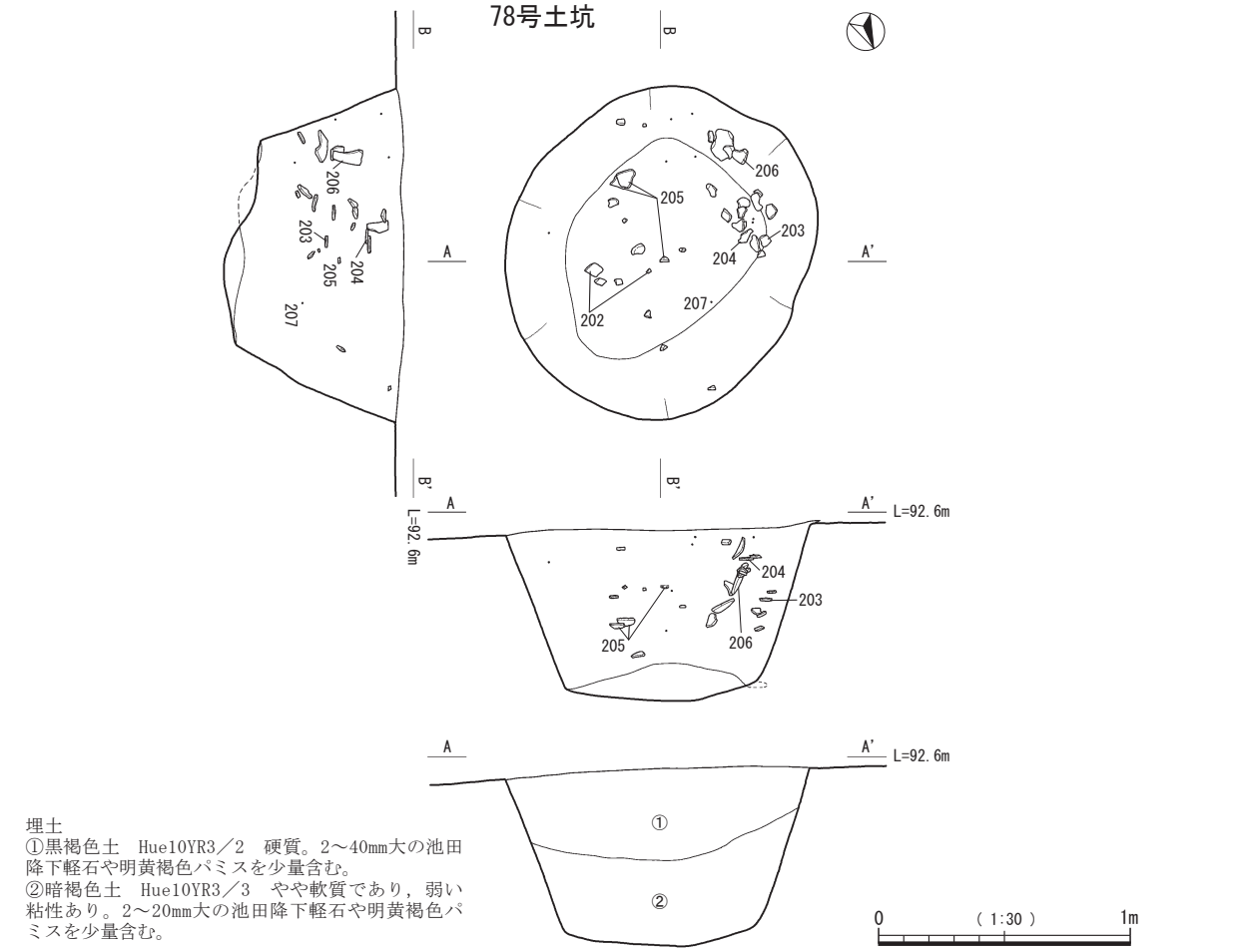
Ⅰ－18・19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸145



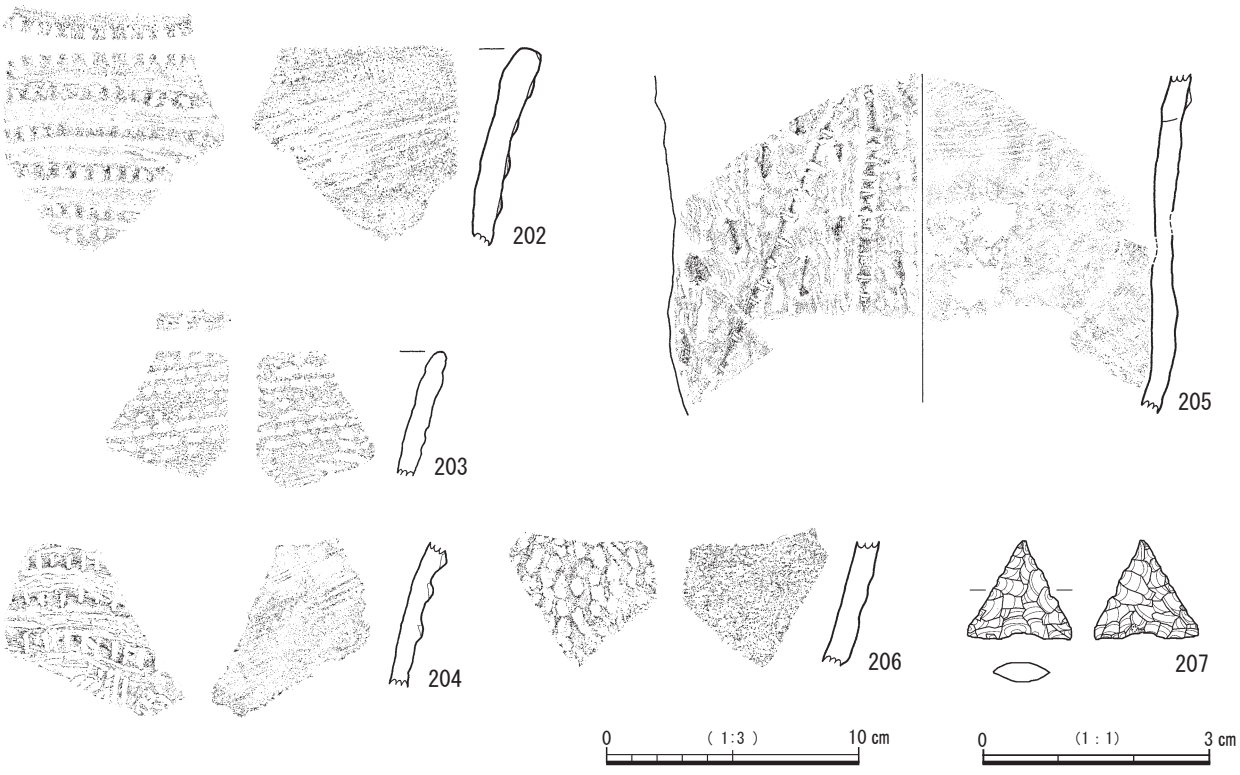
第67図　土坑46（77号出土遺物）

cm，短軸119cm，検出面からの深さは60cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

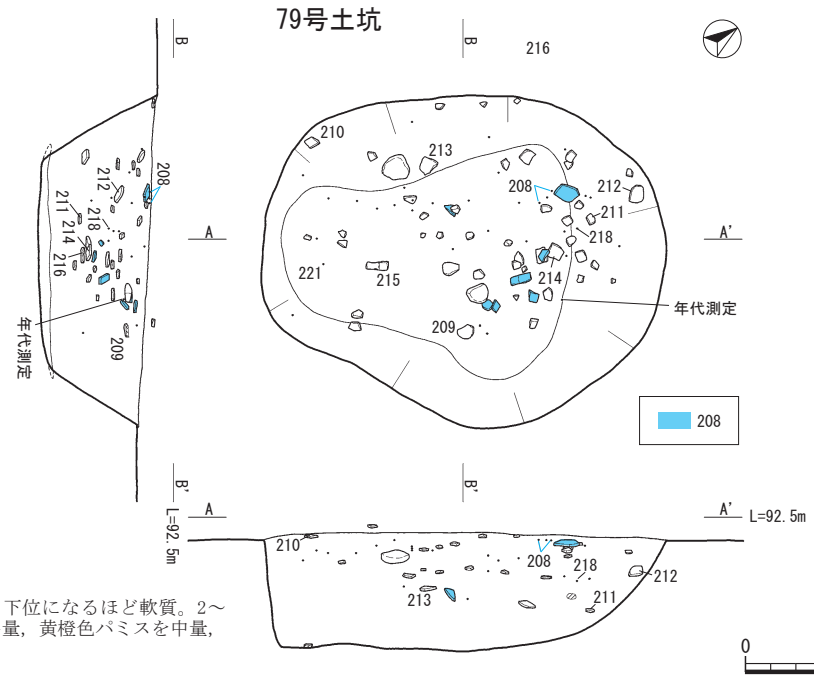
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器95点，石器８点，フレーク・チップ55点，軽石製品２点，礫30点が出土した。180は口縁部である。横位の刻目突帯を施し，口唇部外端にも刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。181は外面に横位の突帯を貼り付ける。突帯の上部は棒状工具で貼り付けを行っている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に金色の雲母，白色粒子を含む。Ⅱ－１－②類土器である。182・183は外面に刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。また，182は169号土坑の出土土器と接合した。184は文様，胎土，焼成等が181と類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。外面に縦位，横位の突帯を組み合わせている。Ⅱ－１－②類土器である。185は胴部である。外面に横位の突帯を貼り付ける。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。186は胴部下半付近である。外面に縦位の刺突列を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。186は75号土坑の出土土器と接合した。187も胴部下半である。外面に斜位の刺突を施し，内面はナデを行っている。186・187はⅡ－２－①類土器である。188は丸底を呈すると考えられる底部である。内外面ともナデが行われている。Ⅲ類土器である。189は節の長い単節縄文ＲＬを横位に施した後，微隆線状の突帯を縦長の弧状に貼り付



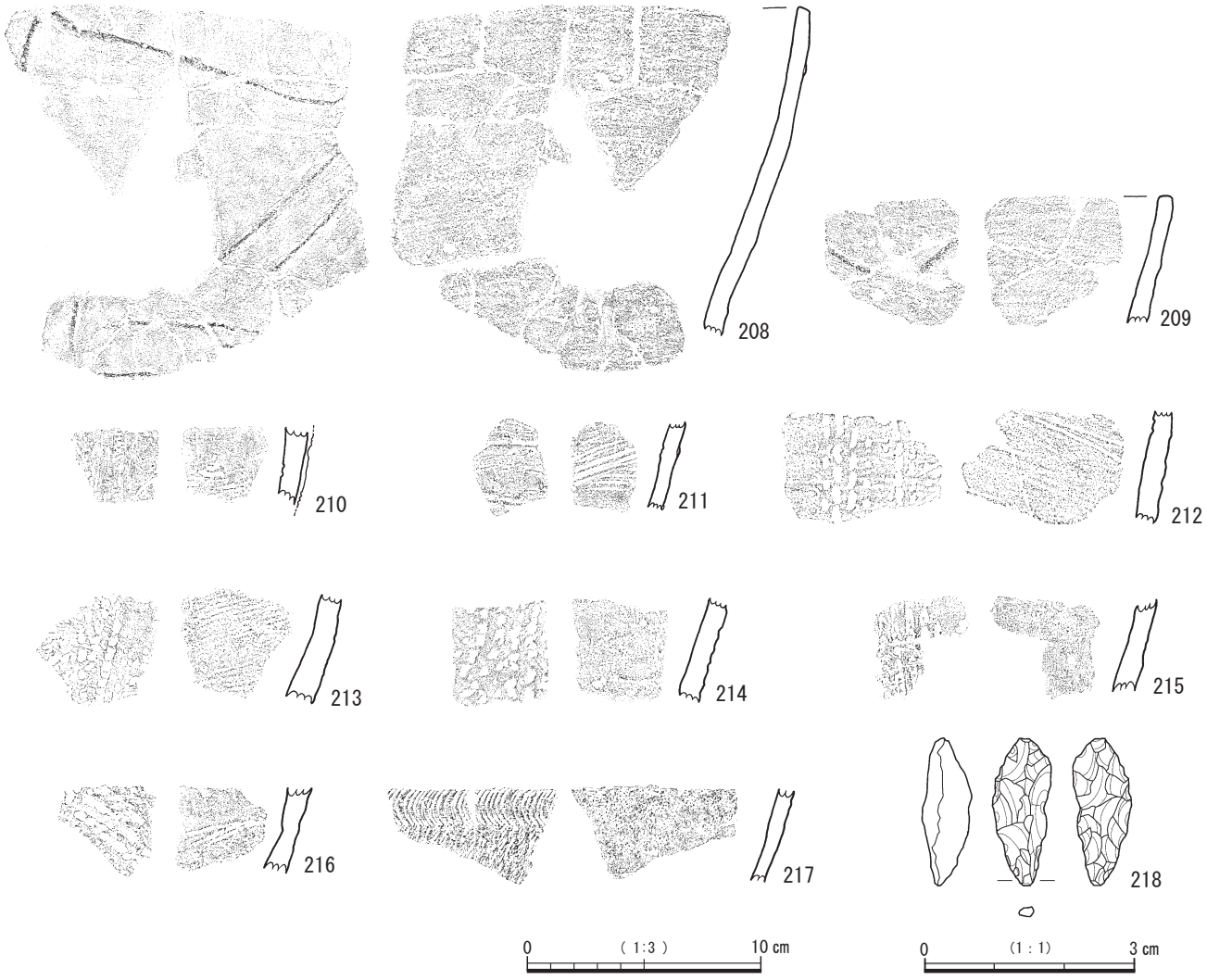
埋土
①黒褐色土　Hue10YR3／2　硬質。2～40mm大の池田降下軽石や明黄褐色パミスを少量含む。
②暗褐色土　Hue10YR3／3　やや軟質であり，弱い粘性あり。2～20mm大の池田降下軽石や明黄褐色パミスを少量含む。



第68図　土坑47（78号）



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　下位になるほど軟質。2～25㎜大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを中量，炭化物を含む。



第69図　土坑48（79号）

けている。内面はナデを行っている。胎土に小礫，白色粒子，石英を多く含む。Ⅳ－５類土器である。190は頁岩Ⅰ類製の石鏃である。脚部の先端は丸く作り出される。191は花崗岩製の磨・敲石である。表裏面に顕著な磨面が残る。

77号土坑（第66・67図）

Ｇ－19区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸240㎝，短軸155㎝，検出面からの深さは80㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器66点，石器３点，フレーク・チップ38点，礫34点，炭化物３点が出土した。192～194は口縁部である。192は２つの山形突起を波頂部とする，緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。外面には横位の刻目突帯を施す。口唇部外端には刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。193は外面に斜位の刻目突帯を施す。口唇部に刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。194は緩やかな波状口縁を呈する。外面は波頂部より縦位の刺突を施した後，横位の刺突を施す。口唇部は棒状工具で刺突を施す。内面は波状口縁に沿って斜位の刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。195～198は胴部である。195は外面に横位の刻目突帯を施し，縦位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。196は外面に横位の刻目突帯を施し，縦位，斜位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。197は外面に横位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。198は外面に赤色顔料が塗布されている。内外面ともに，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。199は丸底の底面であり，内外面ともに丁寧なナデを行っている。Ⅲ類土器である。200は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。基部に浅い抉りをもつ。201は安山岩製の磨・敲石である。約10㎝大の円礫を使用し，上・下及び右側面に敲き痕が確認できる。

78号土坑（第68図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸132㎝，短軸120㎝，検出面からの深さは70㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器24点，石器２点，フレーク・チップ５点，礫９点が出土した。202・203は口縁部である。202は外面に横位の刻目突帯を施した後，口縁部下位より縦位の刺突を施す。口唇部外端に刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。203は内外面ともに，横位の刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。204～206は胴部である。204は外面に横位の刻目突帯を施した後，縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。205は外面に縦位，斜位の刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。206は外面は縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。207は黒曜石Ⅱ類製の石鏃である。正三角形状を呈し，丁寧に押圧剥離が施される。

79号土坑（第69図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸157㎝，短軸125㎝，検出面からの深さは47㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器55点，石器１点，フレーク・チップ25点，礫６点，炭化物１点が出土した。208・209は口縁部であり，接合はしないが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。外面は微隆線状の突帯を縦位，横位，斜位に施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。210～217は胴部である。210は外面に縦位の突帯を貼り付け，浅い刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。211は外面に横位の微隆線状の突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。212～216は外面に縦位や斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。212・213・215・216は胎土に白色粒子，金色の雲母を含む。Ⅱ－２－①類土器である。217は外面に竹管によるＣ字状の爪形文を横位に施す。内面はナデを行っている。胎土に小礫，白色粒子，石英を含む。Ⅳ－４類土器である。218はチャート製の石錐である。先端部に潰れが生じている。

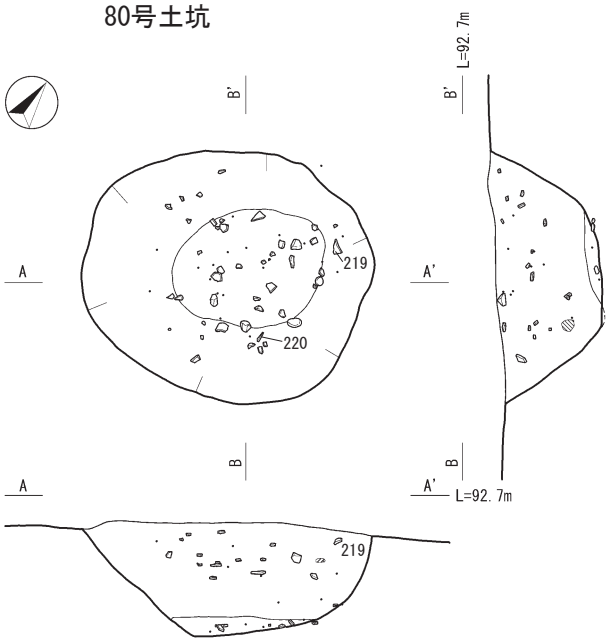
また，埋土上位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4698±30^{14}C BPの値が得られた。

80号土坑（第70図）

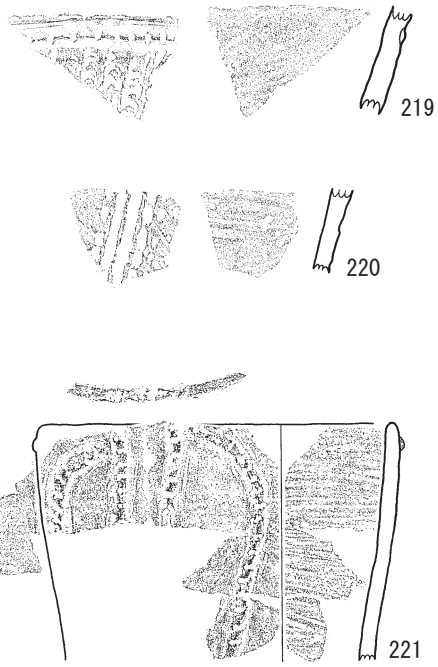
Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸114㎝，短軸99㎝，検出面からの深さは43㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器38点，石器４点，フレーク・チップ８点，礫12点が出土した。219・220は胴部である。219は外面に横位の突帯を貼り付け，器面に及ぶような深い刻目を入れている。突帯下には半截竹管によるＣ字状の刺突を縦位に施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。220は外面に刺突列を斜位に施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

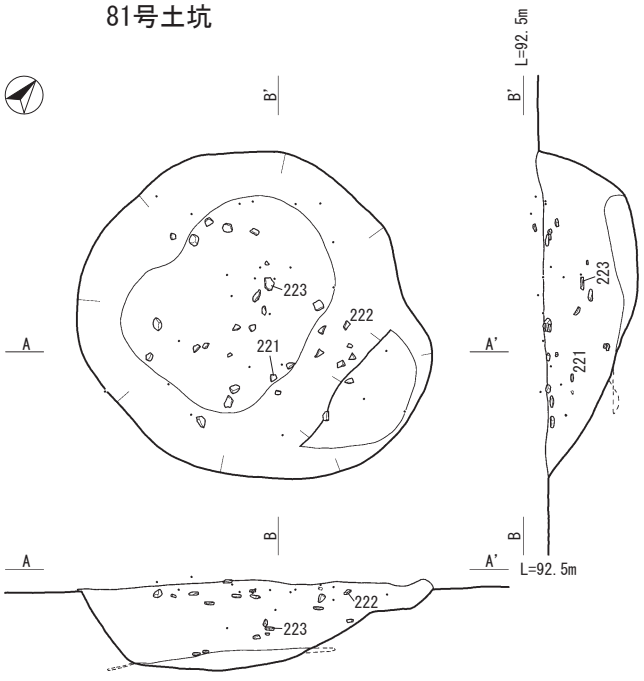
80号土坑



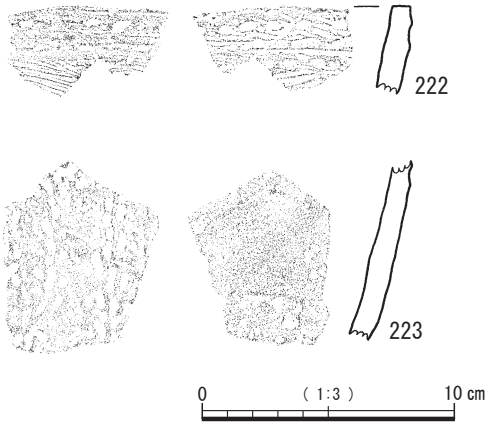
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

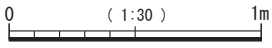


81号土坑

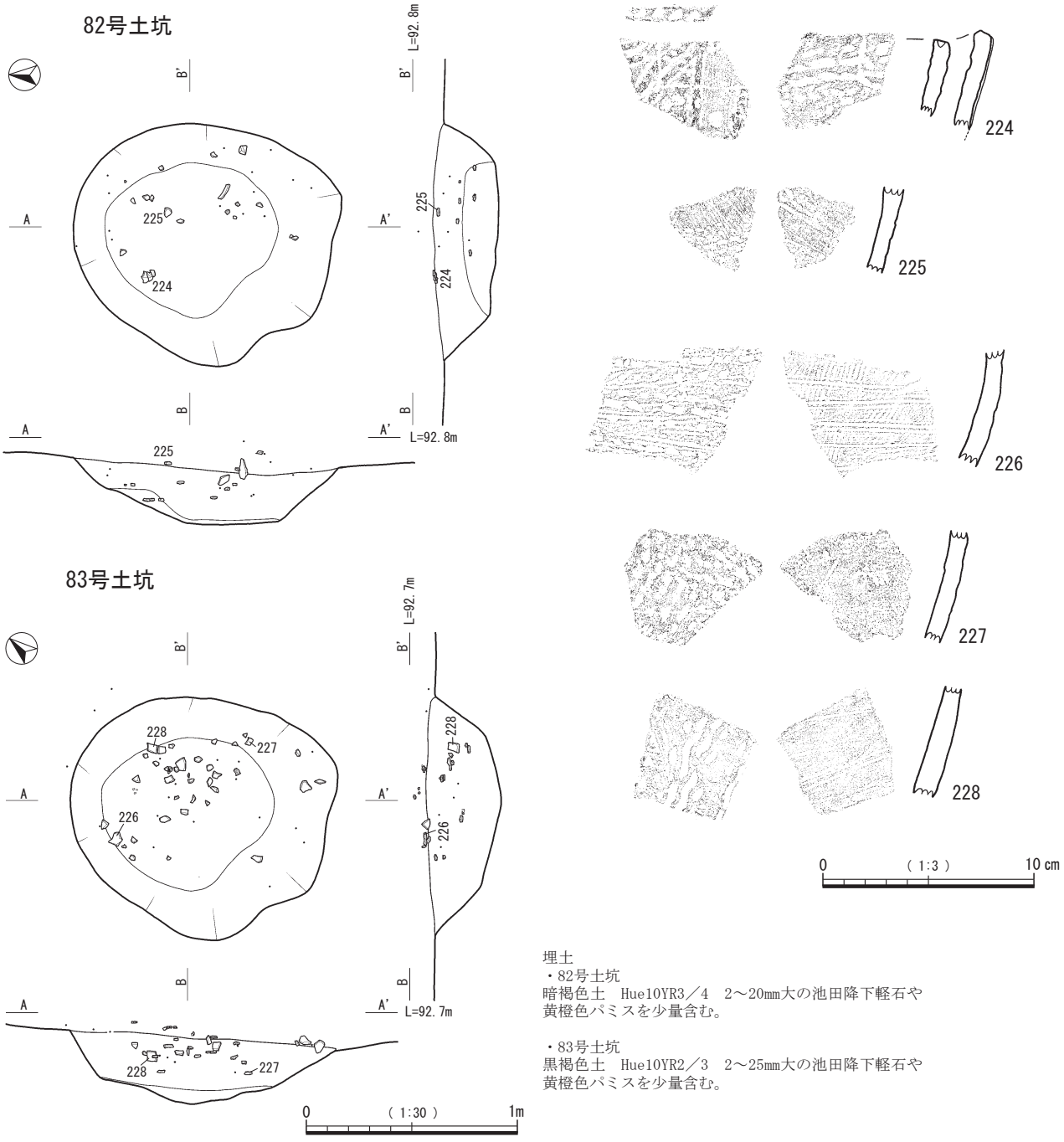


埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　下位になるほど軟質。2～20mm大の池田降下軽石を中量，黄橙色パミスを少量含む。





第70図　土坑49（80号・81号）



埋土
・82号土坑
暗褐色土　Hue10YR3／4　2～20㎜大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

・83号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～25㎜大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

第71図　土坑50（82号・83号）

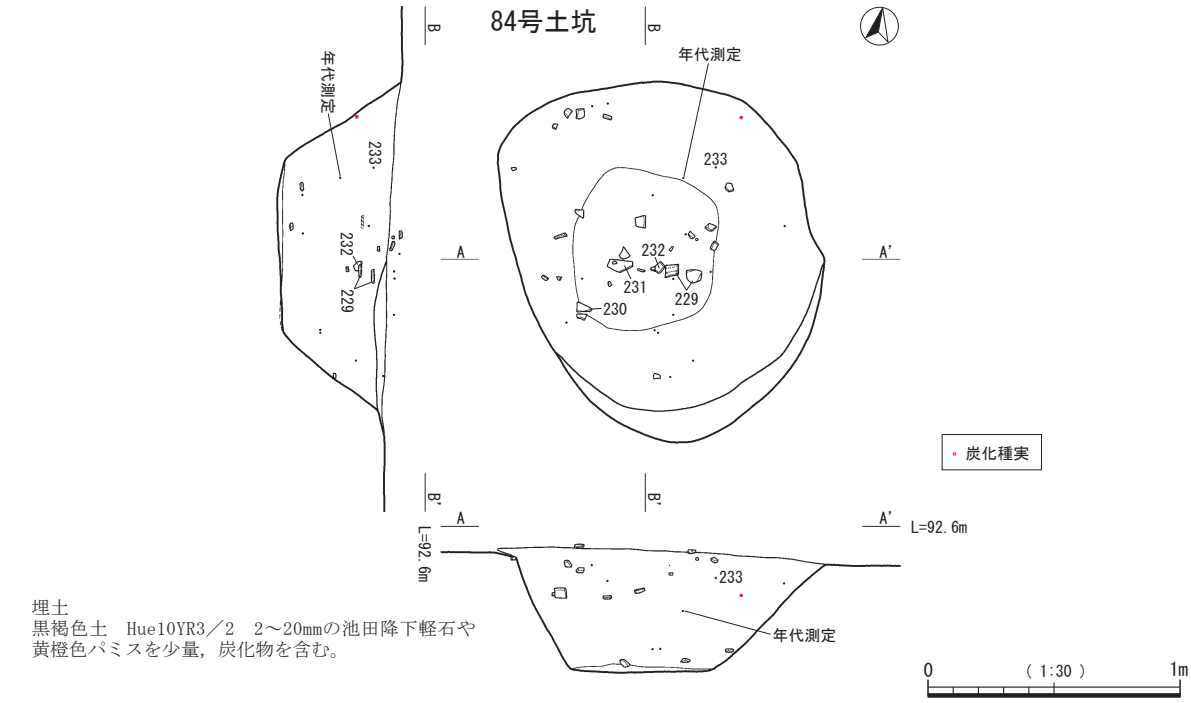
81号土坑（第70図）

Ｈ－18・19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸140㎝，短軸124㎝，検出面からの深さは34㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

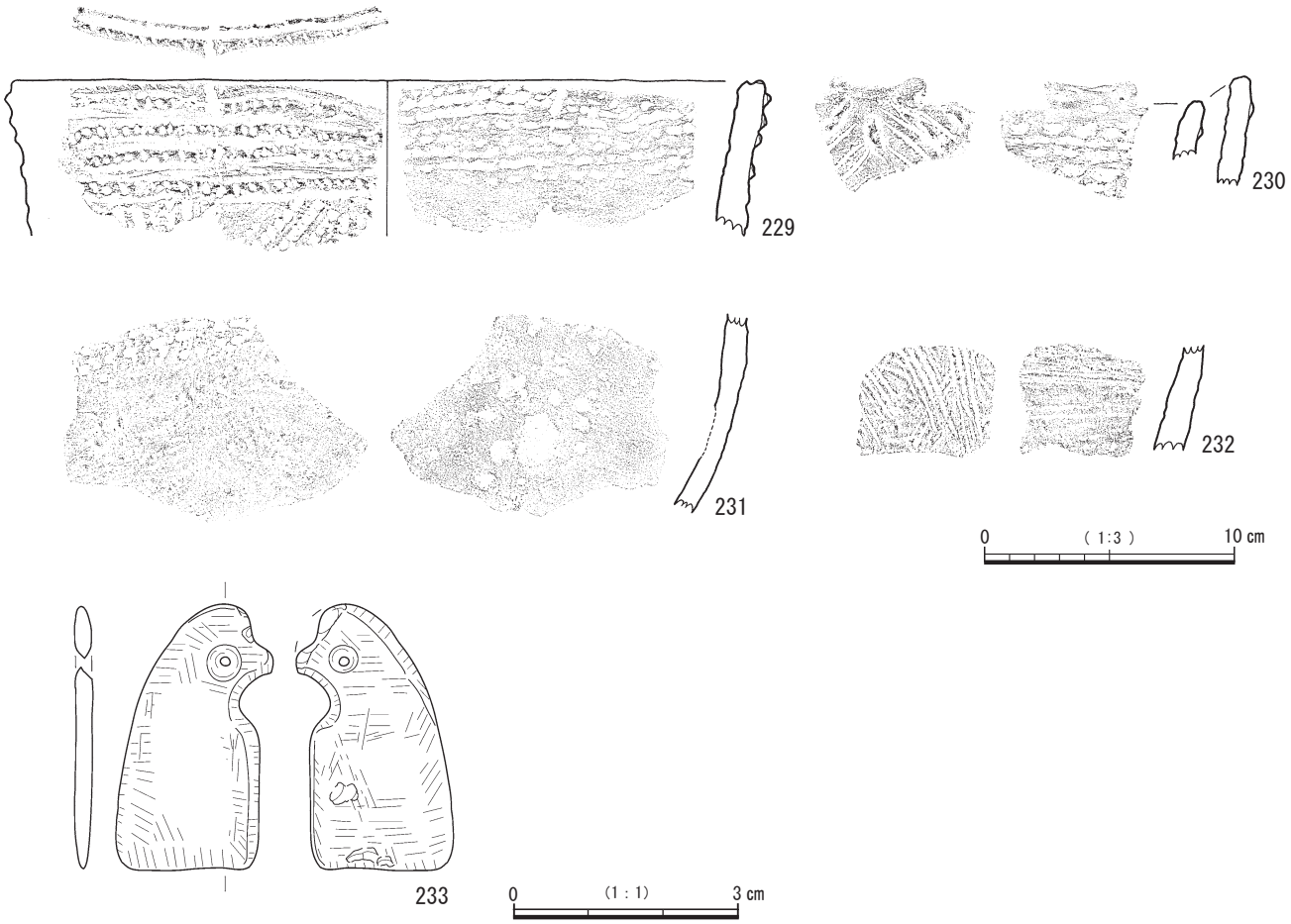
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器28点，フレーク・チップ14点，礫14点が出土した。221は62号土坑及び79号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。221は，口径が約14㎝の小型の器形である。器壁も５㎜前後とやや薄い。縦位の突帯や楕円状に貼り付ける突帯は，先端が２つに割れた工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫，白色粒子を多く含む。Ⅱ－１－①類土器である。222は口縁部である。外面に横位の突帯を貼り付け，内面は横位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。223は外面に縦位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

82号土坑（第71図）

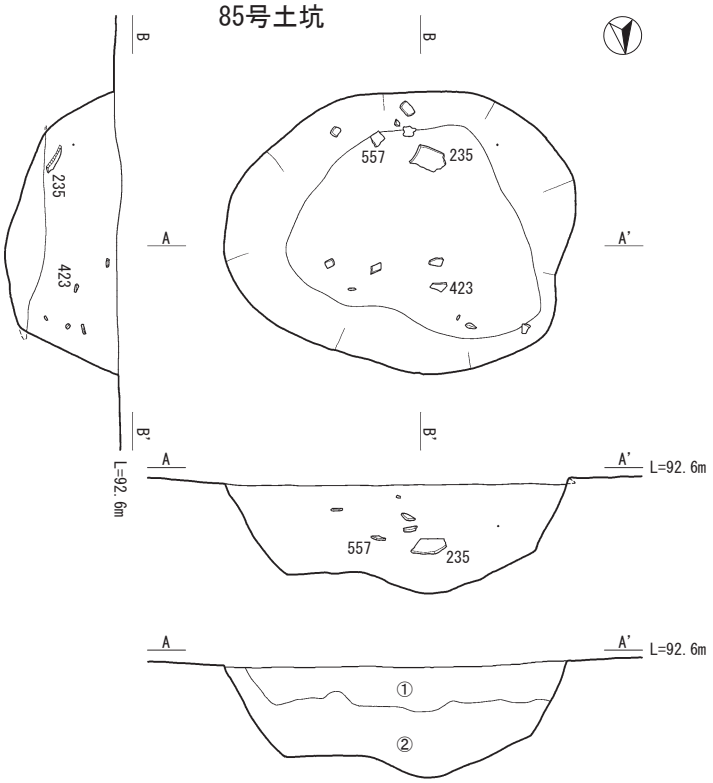
Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸124㎝，



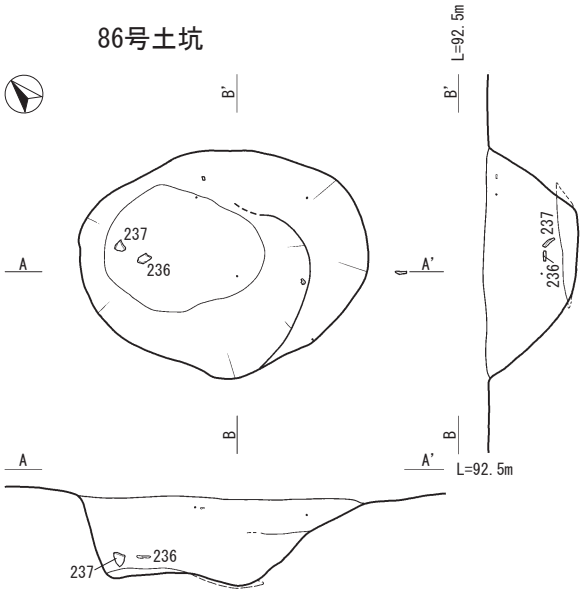
埋土
黒褐色土　Hue10YR3／2　2～20mmの池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。



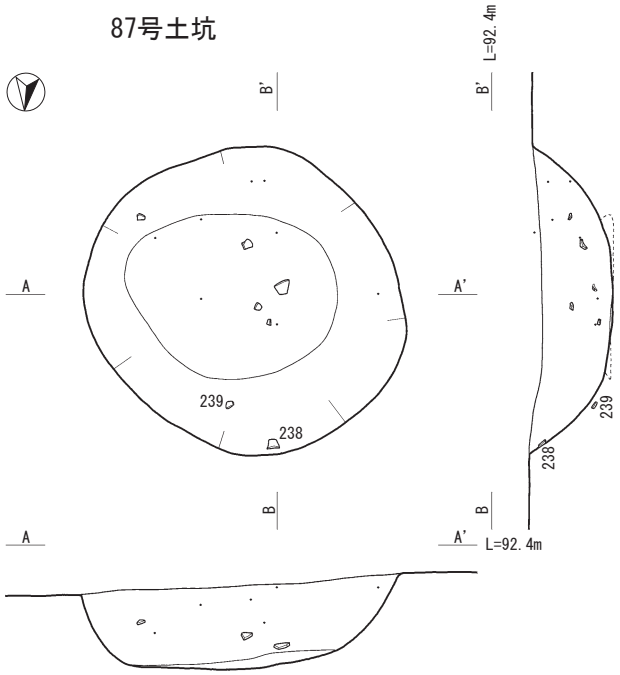
第72図　土坑51（84号）



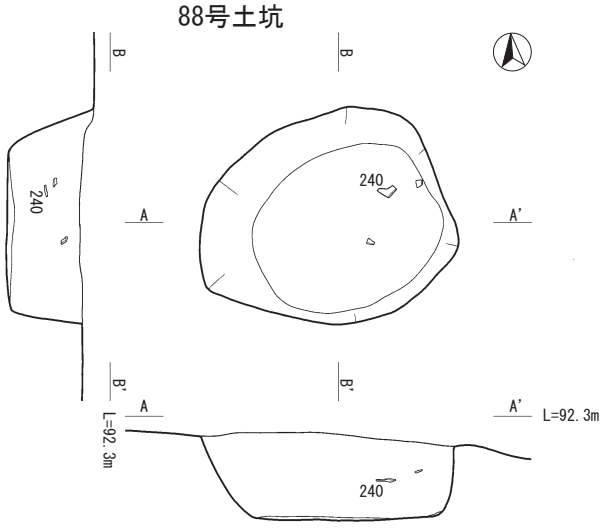
埋土
①黒褐色土　Hue10YR2／3　5～35mm大の池田降下軽石を多量，
黄橙色パミスを微量含む。
②暗褐色土　Hue10YR3／3　5～25mm大の池田降下軽石を少量，
黄橙色パミスを微量含む。



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～20mm大の池田降下軽石を中量，
黄橙色パミスを少量含む。



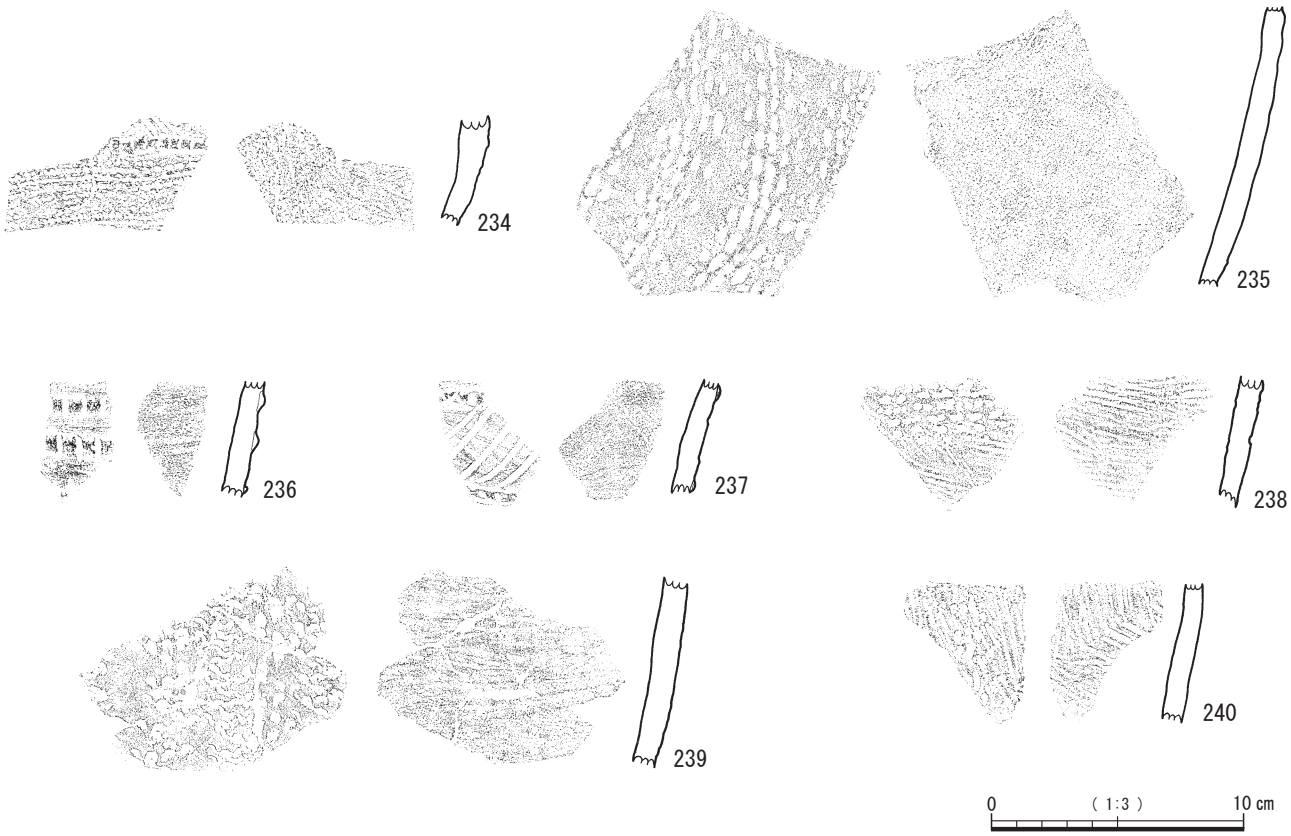
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色
パミスを少量含む。



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色
パミスを少量含む。

0　（1:30）　1m

第73図　土坑52（85号・86号・87号・88号）



第74図　土坑53（85号・86号・87号・88号出土遺物）

短軸106cm，検出面からの深さは31cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器14点，フレーク・チップ15点，礫４点が出土した。224は緩やかな波状口縁を呈する。波頂部より２列の刻目突帯を施した後，斜位の刻目突帯を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面に横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。225は胴部である。外面に横位の刺突を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

83号土坑（第71図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸124cm，短軸107cm，検出面からの深さは31cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

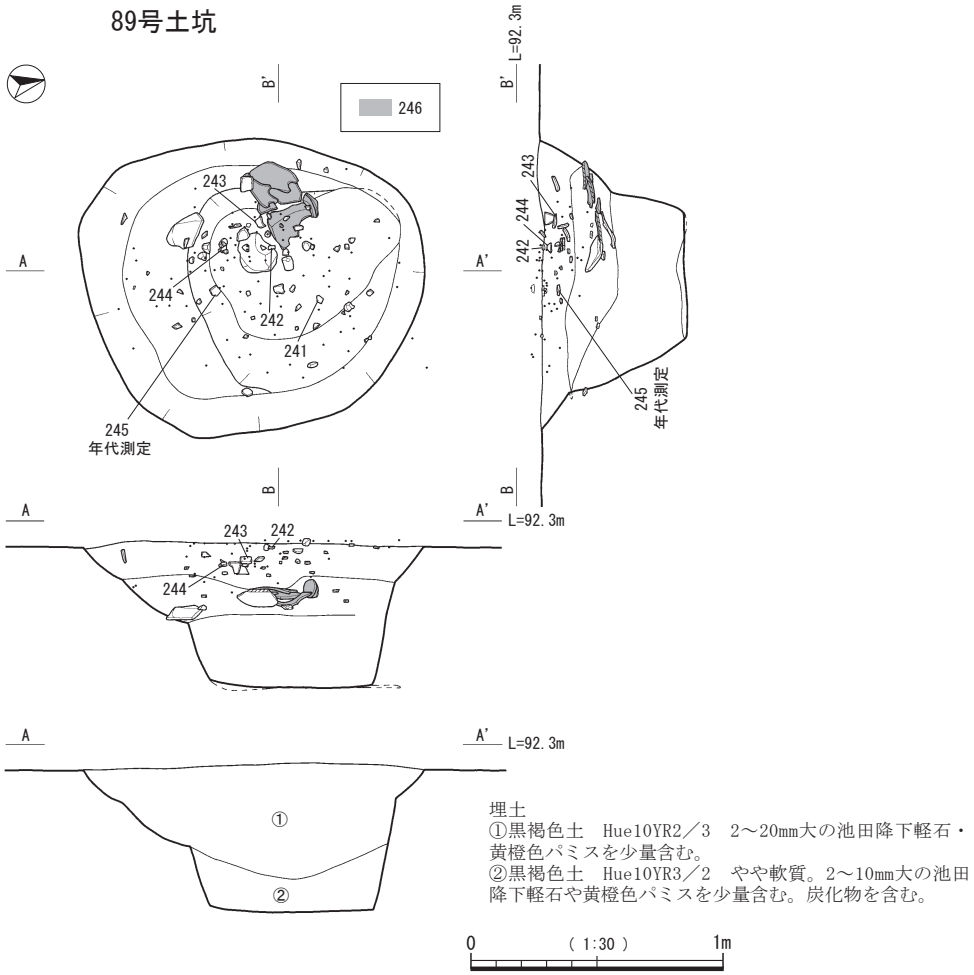
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器38点，石器２点，フレーク・チップ16点，礫１点が出土した。226～228は胴部である。226は外面に横位の刺突を施した後，横位の浅い沈線を施す。内面は斜位の条痕を施した後，横位の沈線を施す。227は外面に斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。228は外面に短い刺突と押引状の長い刺突を斜位に施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。３点ともⅡ－２－①類土器である。

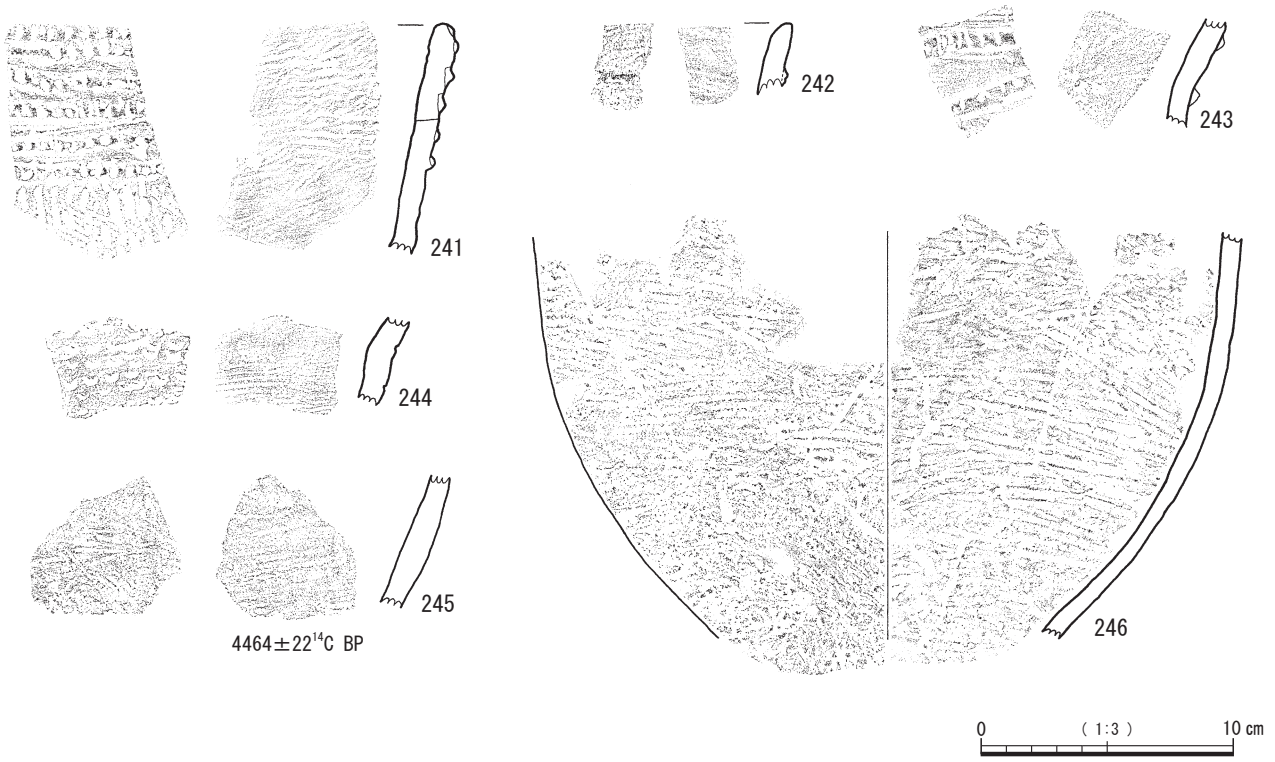
84号土坑（第72図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸140cm，短軸115cm，検出面からの深さは45cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

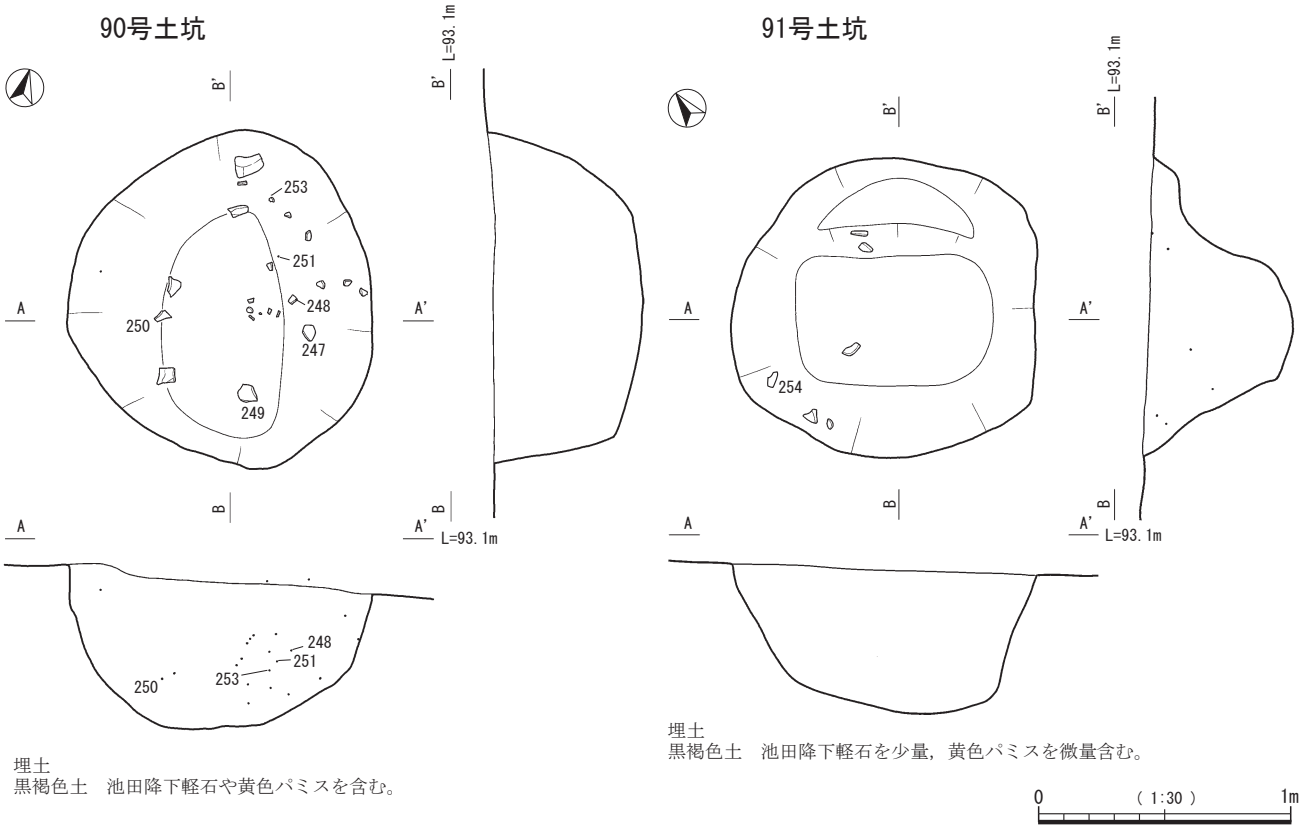
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器23点，石器１点，フレーク・チップ14点，礫６点，炭化物２点が出土した。229・230は口縁部である。229は外面に横位の刻目突帯を施した後，斜位の刺突を施す。口唇部には沈線を施す。内面には横位の刺突を施す。胎土に白色粒子，石英，金色の雲母を含む。Ⅱ－１－①類土器である。230は２つの山形突起を波頂部とする，緩やかな波状口縁を呈する。外面には縦位，斜位の刻目突帯を施した後，斜位の突帯に平行するような沈線を施す。口唇部には浅い刻目を入れている。内面には横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。231・232は胴部である。231は外面に横位の相交弧文を施す。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が一部確認できる。Ⅱ－２－②類土器である。232は外面に縦位，斜位の貝殻条痕を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。233は蛇紋岩製の玦状耳飾である。平面形態は三角形であるが，右側辺部は欠損する。左側辺部の上部には両面から穿孔を施した補修孔が確認される。

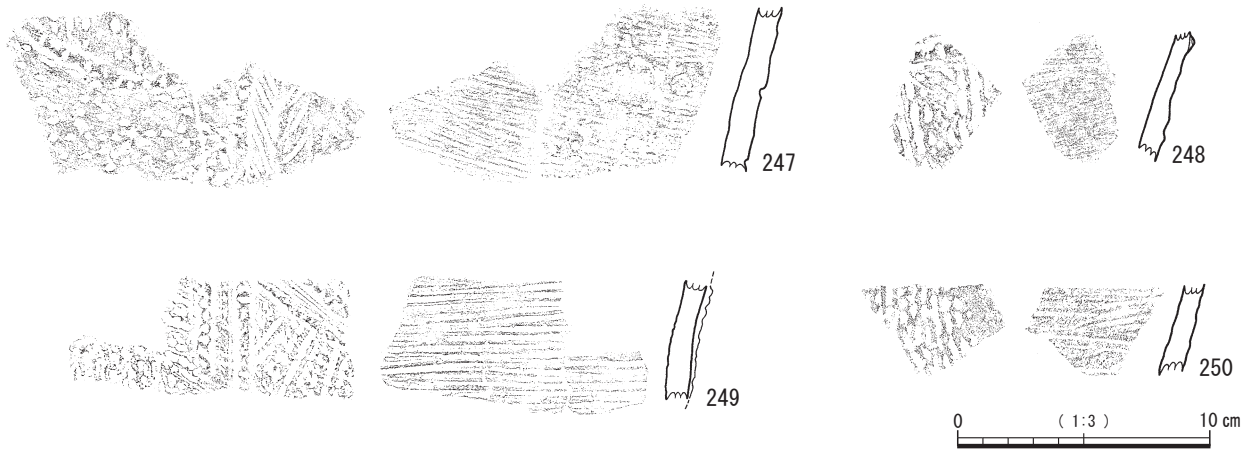
また，埋土上位から出土した炭化材で年代測定を実施

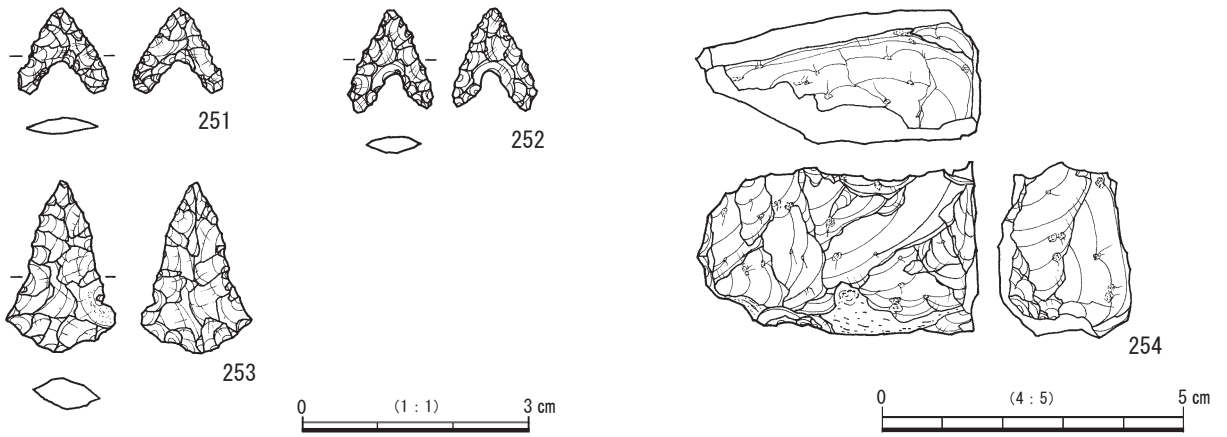




第75図　土坑54（89号）







第76図　土坑55（90号・91号）

したところ，未補正で4641±30^{14}C BPの値が得られた。

埋土中位から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，コナラ属の子葉と考えられる炭化種実が確認された。

85号土坑（第73・74図）

Ⅰ－19区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸137cm，短軸110cm，検出面からの深さは43cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器９点，礫５点，炭化物１点が出土した。234は胴部である。外面に横位の刻目突帯を施し，突帯下に横位の刺突を密に施す。内面はナデを行っている。胎土に白色粒子を含む。Ⅱ－１－①類土器である。235は底部付近の胴下半部である。外面は刺突を弧状に施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

埋土中から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，ホルトノキの核が確認された。

86号土坑（第73・74図）

Ⅰ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸113cm，短軸89cm，検出面からの深さは35cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器３点，石器１点，フレーク・チップ２点，礫３点が出土した。236・237は胴部である。236は外面に横位の刻目突帯を施す。内面はナデを行っている。237は外面に横位の刻目突帯を施した後，突帯間に斜位の沈線を施す。内面はナデを行っている。どちらもⅡ－１－①類土器である。

87号土坑（第73・74図）

Ⅰ－18・19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸125cm，短軸114cm，検出面からの深さは34cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器７点，石器１点，フレーク・チップ５点，炭化物２点が出土した。238・239は胴部である。238は外面に横位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。239は外面に縦位の相交弧文を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。

88号土坑（第73・74図）

Ｊ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸100cm，短軸81cm，検出面からの深さは30cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器３点が出土した。240は内外面ともに，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。外面には一部縦位の刺突も確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。

89号土坑（第75図）

Ｊ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸135cm，短軸115cm，検出面からの深さは56cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器56点，石器２点，フレーク・チップ72点，礫19点が出土した。241・242は口縁部である。241は126号土坑の出土土器と接合した。外面に横位の刻目突帯を施した後，口縁部下位より縦位の刺突を施す。口唇部外端に刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。242は外面に横位の突帯を施す。内面はナデを行っている。胎土に砂粒，金色の雲母を含む。Ⅱ－１－②類土器である。243～245は胴部である。243は外面に横位，斜位の刻目突帯を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。244は外面に半截竹管による横位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。245は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。246は胴部下半から底部付近である。内外面ともに，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

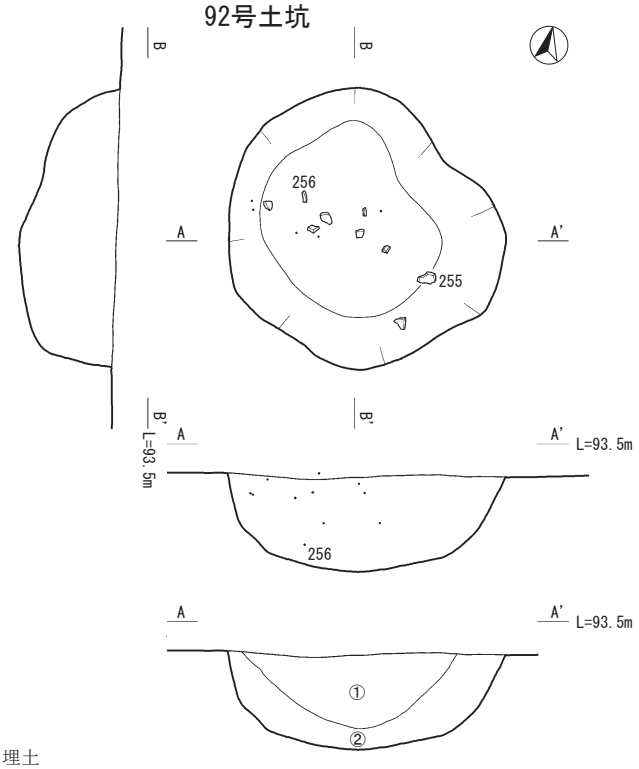
また，埋土上位から出土した245の土器付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4464±22^{14}C BPの値が得られた（YU-9999）。

90号土坑（第76図）

Ｊ－20区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸133cm，短軸120cm，検出面からの深さは58cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

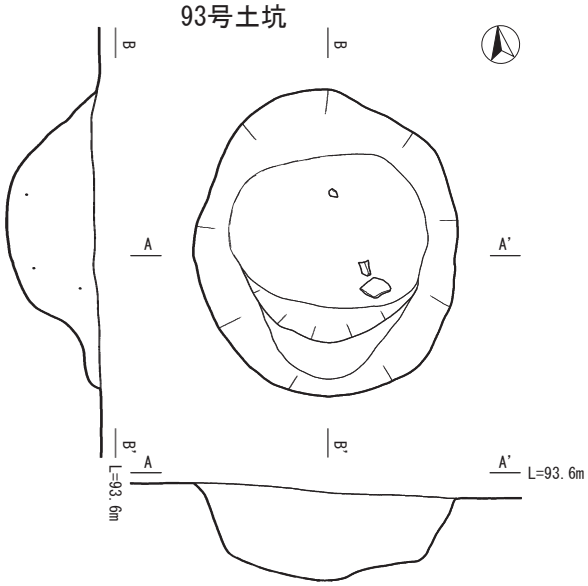
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器18点，石器３点，フレーク・チップ２点，礫４点が出土した。247～250は胴部である。247は外面に縦位の刻目突帯を施した後，横位の弧状の刻目突帯を施す。縦位の刻目突帯の右側は，Ⅴ字状の沈線を，弧状の刻目突帯の上下には，棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。248は外面に横位の刻目突帯を施し，突帯下に縦位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。249は外面に２本１単位の縦位，斜位の刻目突帯を施す。縦位の刻目突帯の左右には，刺突を格子状に施す。内面は明瞭な貝殻条痕が残る。Ⅱ－１－①類土器である。250は外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。251は黒曜石Ⅲ類，252は黒曜石Ⅶ類製の石鏃である。251は正三角形状を呈し，脚部の先端は丸く作り出す。252は遺構内一括遺物である。側縁部に鋸歯縁加工を

92号土坑



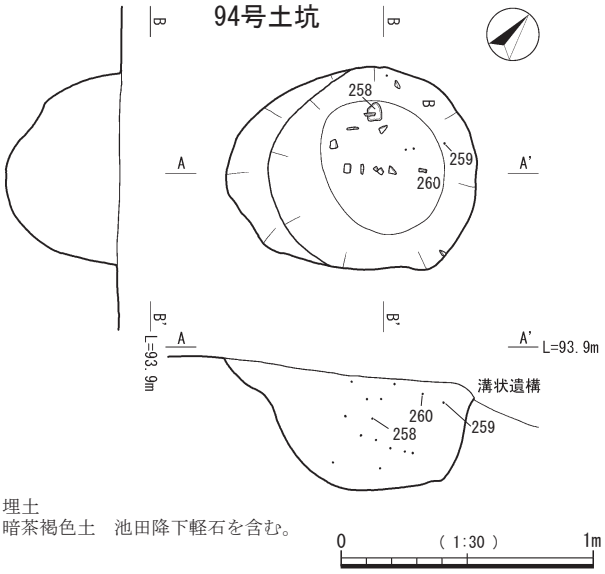
埋土
①黒褐色土　池田降下軽石を含む。
②黒茶褐色土　池田降下軽石を少量含む。

93号土坑



埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を多量含む。

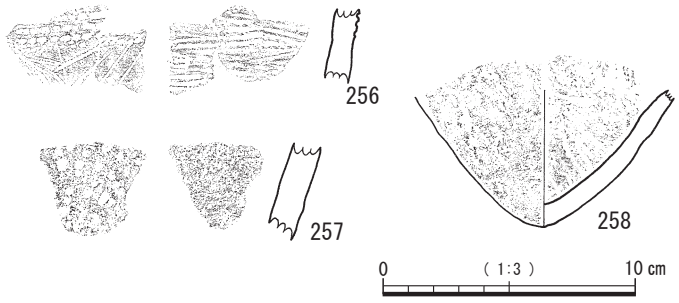
94号土坑



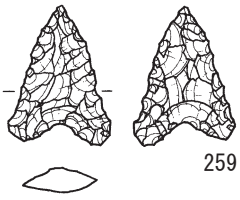
埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を含む。

0　(1:30)　1m

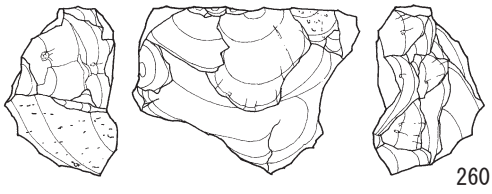


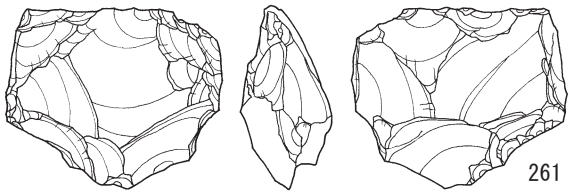


0　(1:3)　10 cm



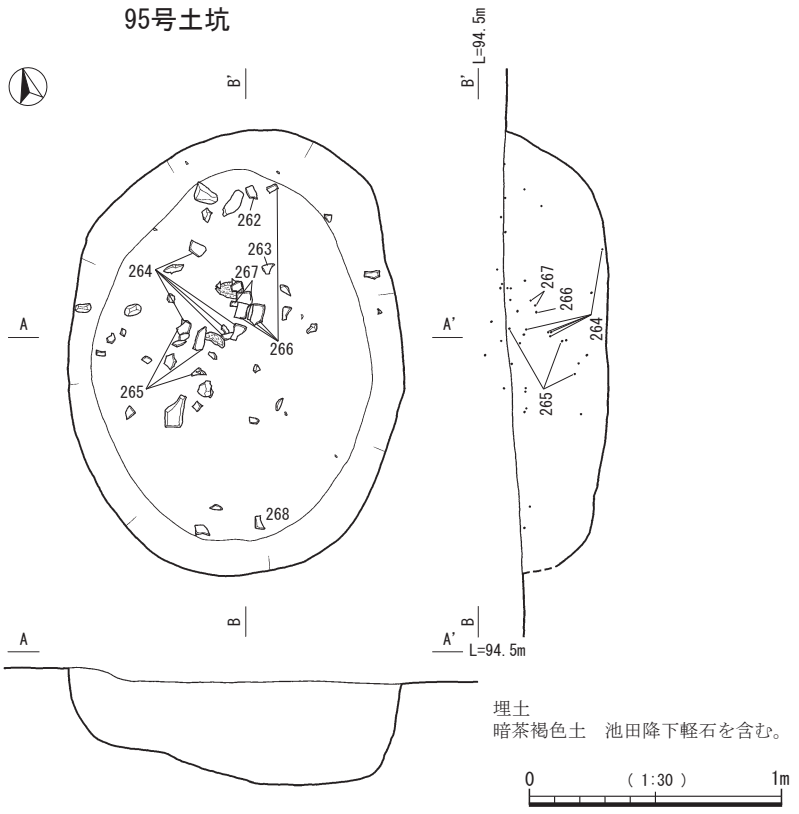
0　(1 : 1)　3 cm

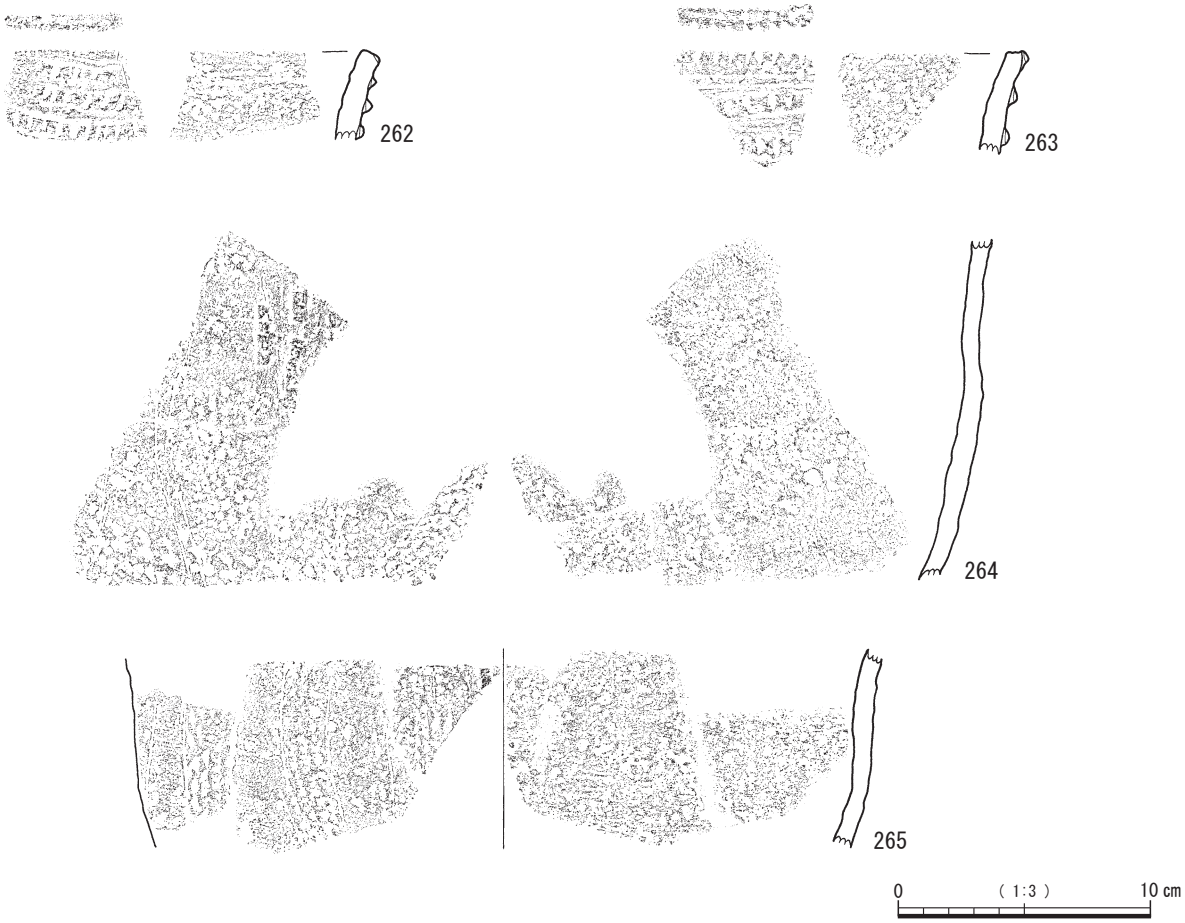




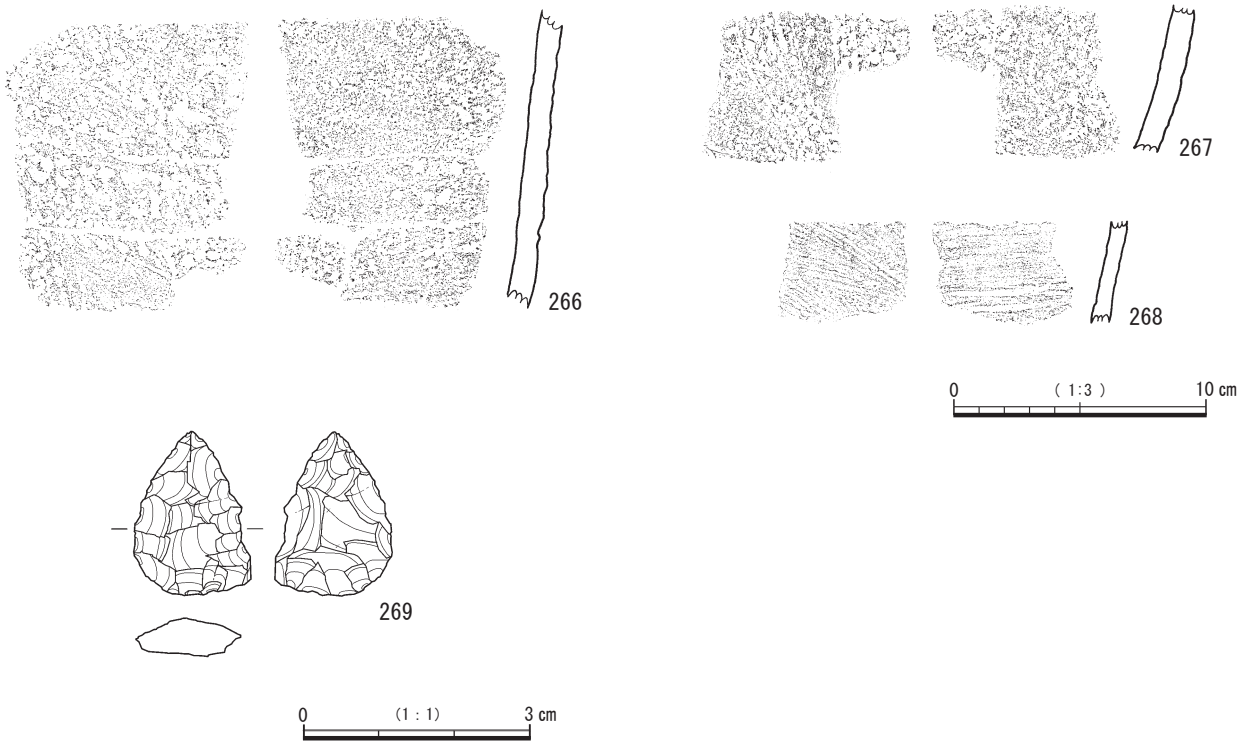
0　(4 : 5)　5 cm

第77図　土坑56（92号・93号・94号）





第78図　土坑57（95号）



第79図　土坑58（95号出土遺物）

部分的に施す。253は玉髄Ⅰ類製の石鏃未製品である。基部は丸みを帯びる。

91号土坑（第76図）

Ｊ－20区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸130cm，短軸121cm，検出面からの深さは57cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から土器２点，石器１点，礫２点が出土した。254は黒曜石Ⅱ類の石核である。下面には原礫面が残る。

92号土坑（第77図）

Ｈ－20区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸110cm，短軸96cm，検出面からの深さは37cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器７点，石器１点，フレーク・チップ２点，礫４点が出土した。255・256は胴部である。255は外面に縦位の刻目突帯を２列施す。一部斜位の刻目突帯を施した箇所も確認できる。縦位の刻目突帯の左右には斜位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。256は外面に横位の刺突を施した後，斜位の沈線を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

93号土坑（第77図）

Ｈ－21区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸121cm，短軸104cm，検出面からの深さは34cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器２点，石器１点が出土した。257は器面が摩耗している。外面には刺突を施していると考えられる。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

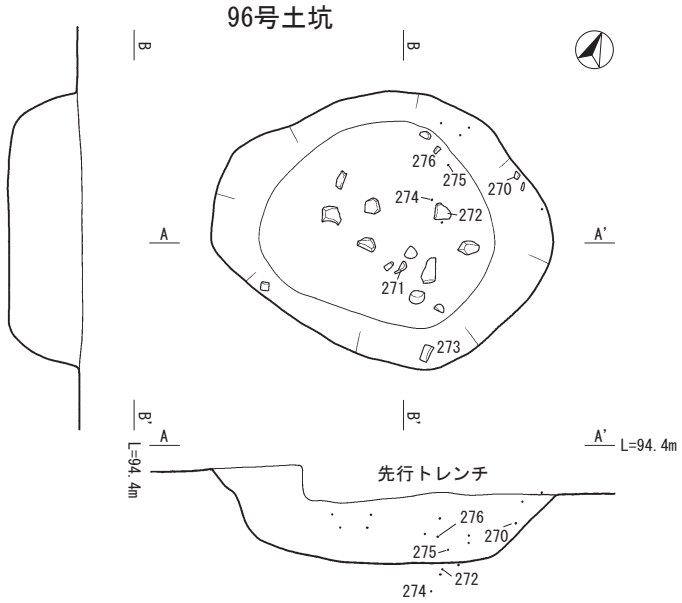
94号土坑（第77図）

Ｈ・Ｉ－21区Ｖa層上面で検出した。北東側が溝状遺構に少し切られている。大きさは長軸99cm，短軸80cm，検出面からの深さは45cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

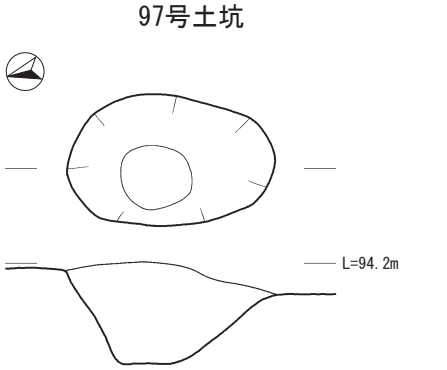
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器10点，石器２点，フレーク・チップ３点，礫２点が出土した。258は尖底の底部である。内外面ともに，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。259は頁岩Ⅱ類製の石鏃である。脚部の先端は方形に作り出し，基部の抉りは三角形状を呈する。260・261は玉髄の石核である。

95号土坑（第78・79図）

Ｈ・Ｉ－22区Ｖa層上面で検出した。調査範囲の最も西側に位置する。大きさは長軸175cm，短軸137cm，検出面からの深さは40cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土

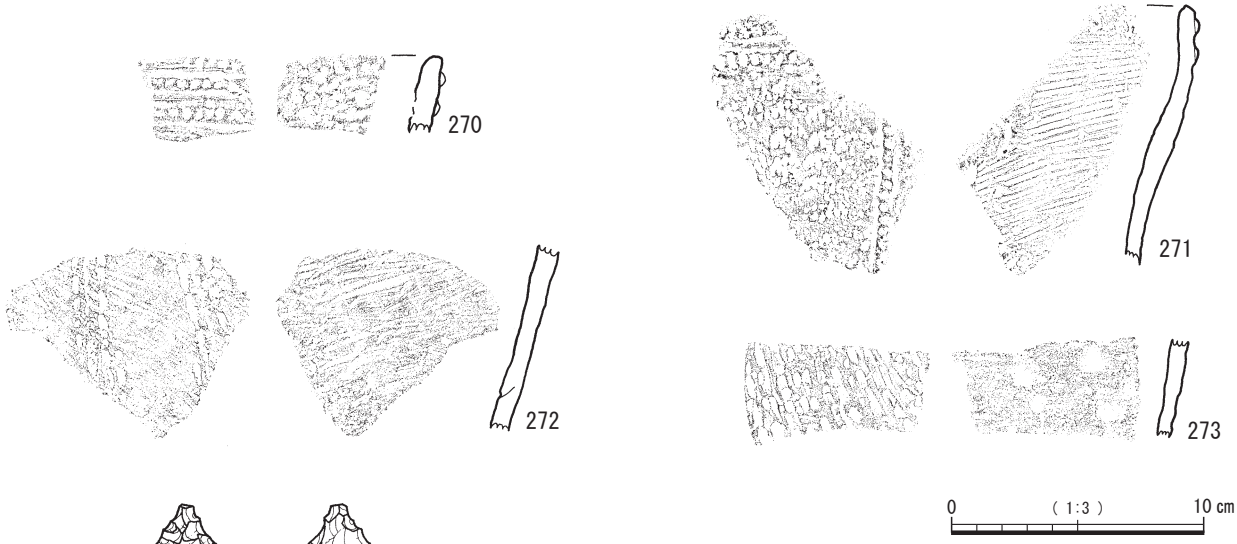


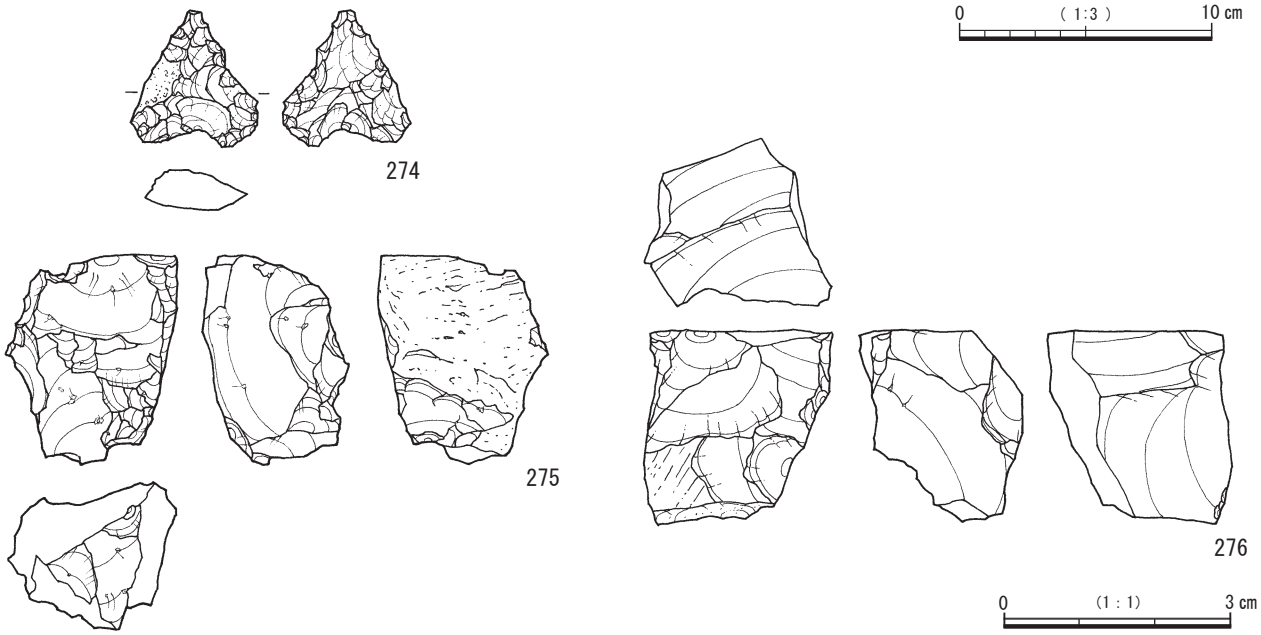
埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を多量含む。



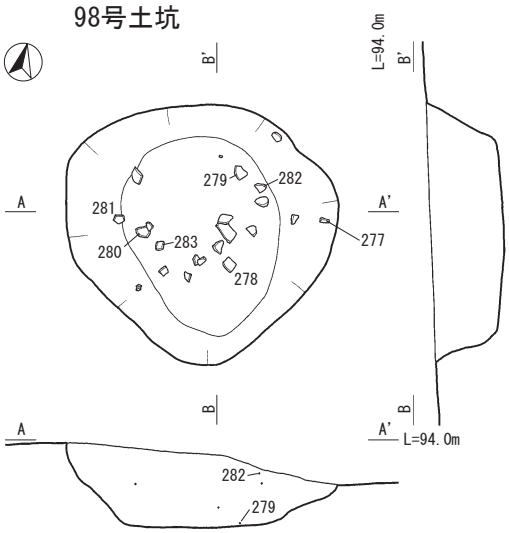
埋土
暗茶褐色土　1～2㎜大の池田降下軽石，1～5㎜大の
黄褐色パミスを含む。

0　（1:30）　1m

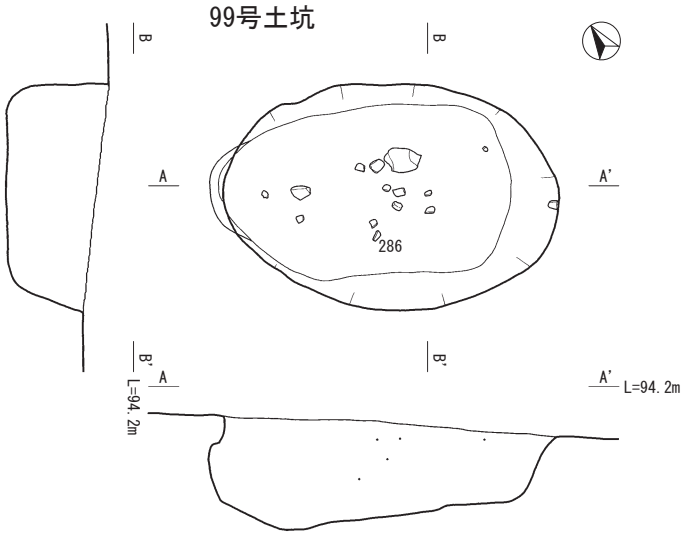




第80図　土坑59（96号・97号）

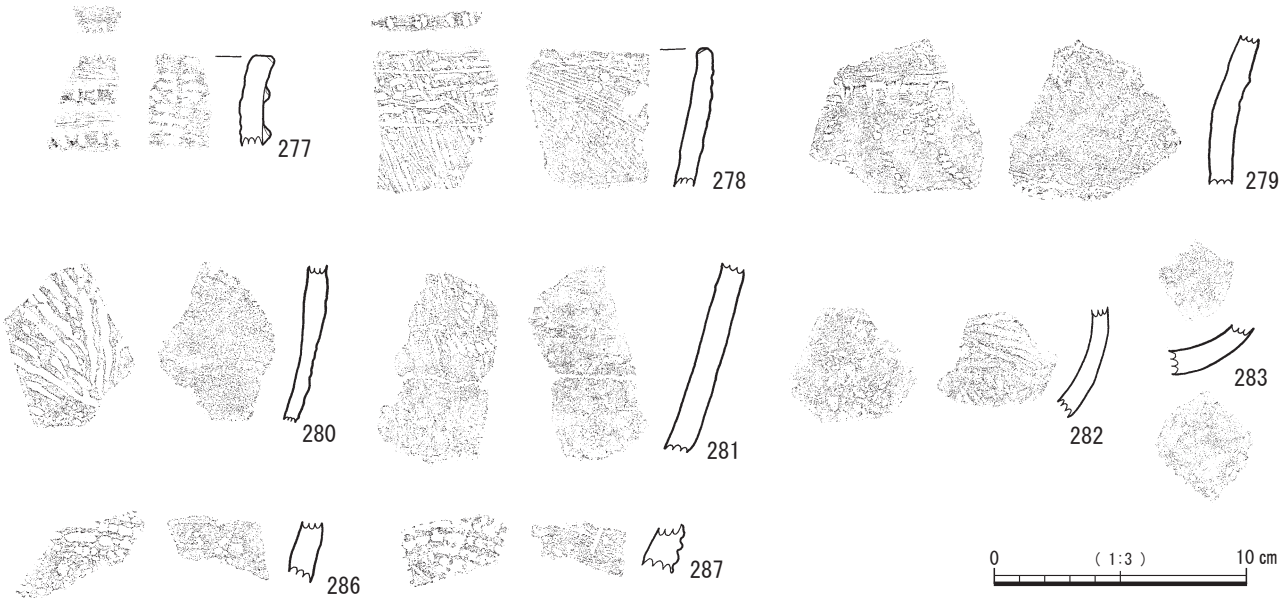


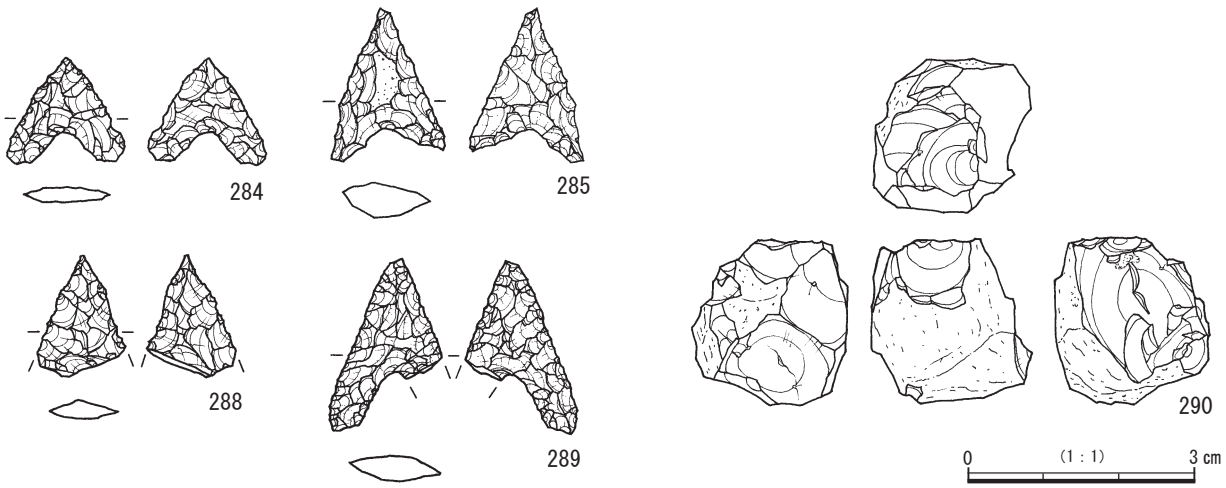
埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を含む。



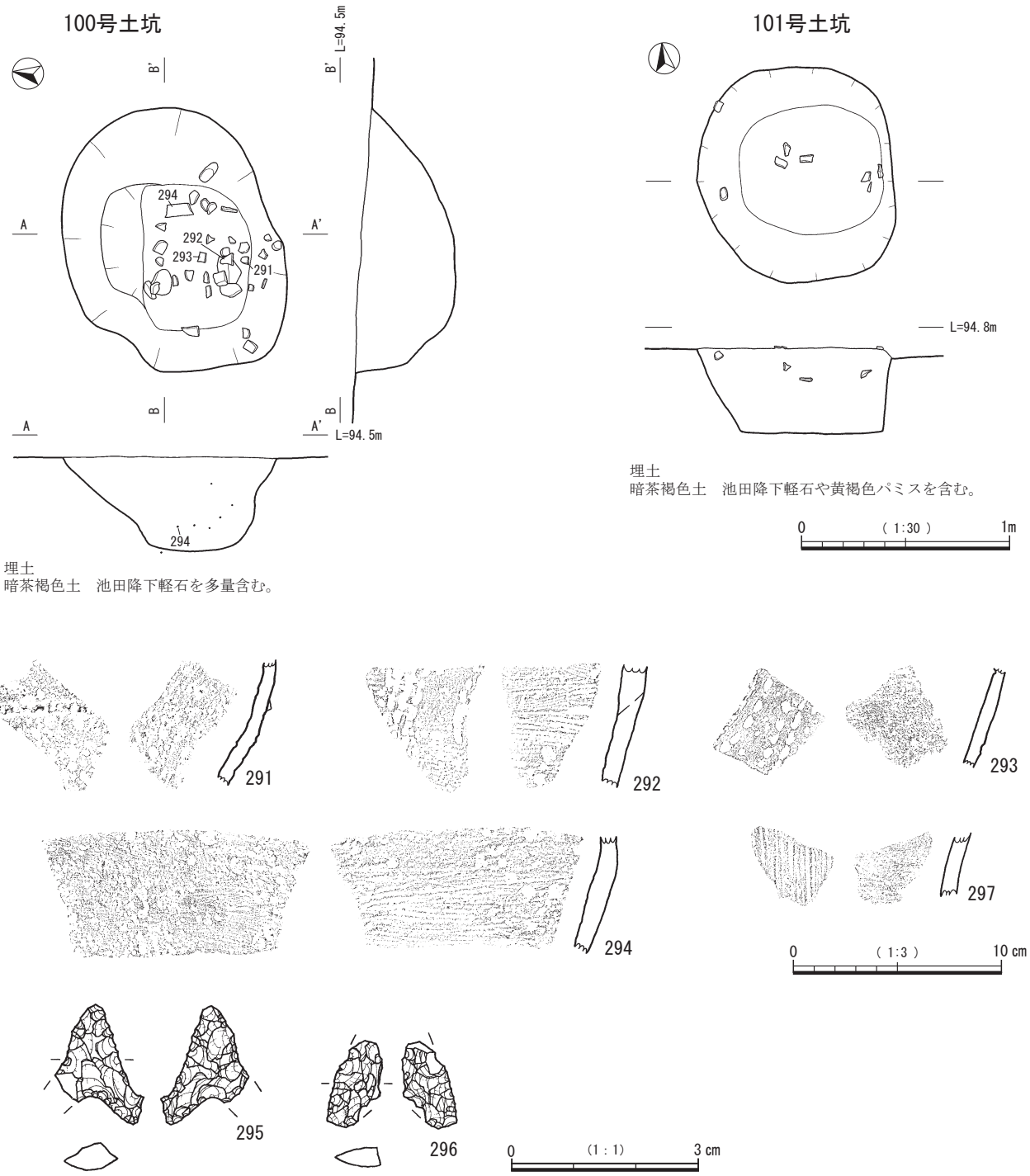
埋土
暗茶褐色土　池田降下軽石を多量含む。

0　(1:30)　1m





第81図　土坑60（98号・99号）



第82図　土坑61（100号・101号）

は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器34点，石器１点，フレーク・チップ12点，礫16点が出土した。262・263は口縁部である。262は外面に横位の突帯を貼り付け，縦長の刻目を入れている。口唇部外端に刻目を入れている。内面は横位の刺突を施しているが，剥落しているため判然としない。Ⅱ－１－①類土器である。263は口唇部との境付近から横位の刻目突帯を施す。内面は剥落しているため判然としない。胎土に白色粒子を含む。Ⅱ－１－①類土器である。264～267は胴部であり，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。264は外面に縦位の刻目突帯を施す。横位，斜位の刺突を施し，斜位の刺突の両端に浅い沈線を施している。265～267は外面に浅い沈線が確認できる。４点とも内面はナデを行っており，痘痕状の剥落が多く確認できる。胎土に白色粒子，金色の雲母を含む。Ⅱ－

１－①類土器である。268は胴部であり，内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。269は遺構内一括遺物であり，玉髄Ⅰ類製の石鏃未製品である。

96号土坑（第80図）

Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸135㎝，短軸107㎝，検出面からの深さは35㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。遺構の北東側は先行トレンチにより上部が削平されていた。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器15点，石器７点，フレーク・チップ５点，礫４点が出土した。270・271は口縁部である。270は外面に横位の突帯を貼り付け，米粒状の刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。271は外面に横位の刻目突帯を２段施している。縦位の刻目突帯の一部も確認できる。口縁部下位から頸部付近には，二枚貝の腹縁部を器面に対して水平に当て，相交弧文を施している。内面は口縁部上位に刺突を施し，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。Ⅱ－１－①類土器である。272・273は胴部である。外面に縦位や斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っており，瘡痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。274はチャート製の石鏃未製品である。275は黒曜石Ⅱ類，276は玉髄Ⅰ類の石核である。

97号土坑（第80図）

Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸81㎝，短軸52㎝，検出面からの深さは34㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中から土器が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

98号土坑（第81図）

Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸107㎝，短軸101㎝，検出面からの深さは30㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器17点，石器１点，礫２点が出土した。277・278は口縁部である。277は外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部外端には，浅い刻目を入れている。内面には横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。278は外面に横位の刺突を施した後，横位の浅い沈線を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。Ⅱ－２－①類土器である。279～281は胴部である。279は外面に横位の微隆線状の突帯を貼り付け，刻目を入れている。その下位には，二枚貝の腹縁部を器面に対して垂直にあて，やや間隔を空けて押圧を行っている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。280は外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。281は外面に相交弧文が確認できる。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。282は底部に近い胴下半部である。外面はナデを行っており，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。283は底面は欠損しているものの，丸底の底部と考えられる。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。284・285は遺構内一括遺物である。頁岩製の石鏃であり，284は頁岩Ⅱ類，285は頁岩Ⅲ類を使用する。284は全体の形状が正三角形状を呈する。285は脚部の先端を尖らせており，身部にやや厚みが残る。

99号土坑（第81図）

Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸132㎝，短軸89㎝，検出面からの深さは44㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器11点，石器１点，礫５点が出土した。286・287は胴部である。外面に横位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。288は黒曜石Ⅴ類製，289はチャート製の石鏃である。288は脚部を欠損し，289は脚部の先端を方形に作り出し，基部の抉りは深い。290は黒曜石Ⅳ類の石核である。約２㎝大の亜円礫を素材とする。なお，289・290は遺構内一括遺物である。

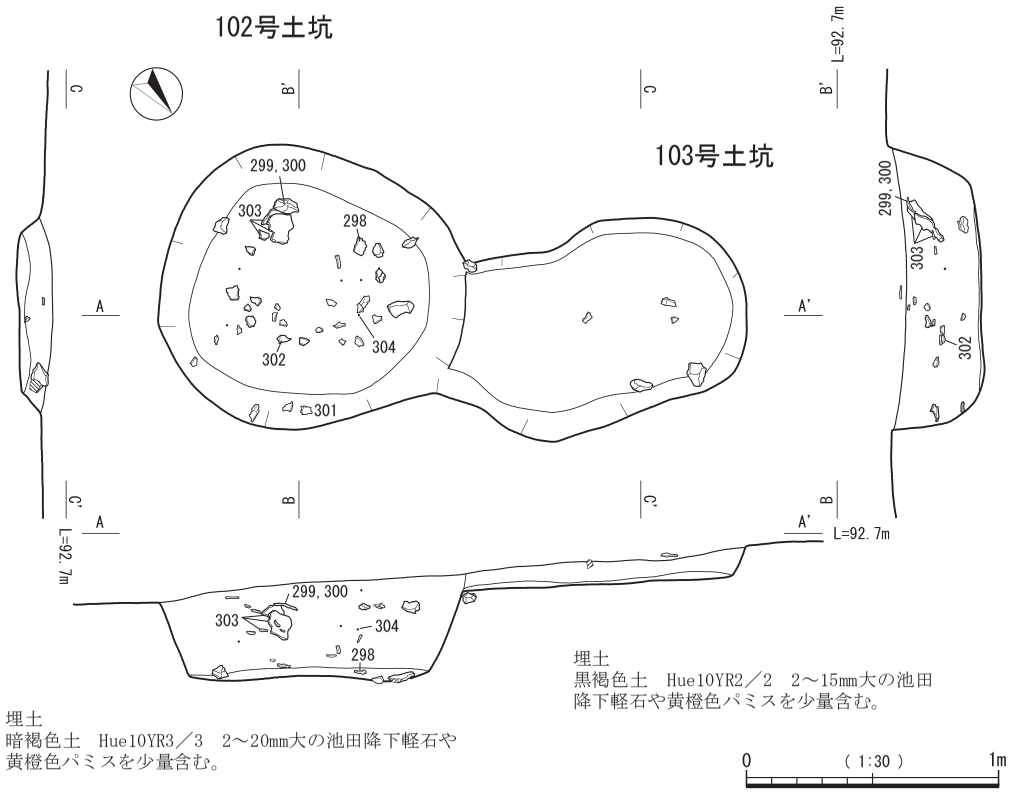
100号土坑（第82図）

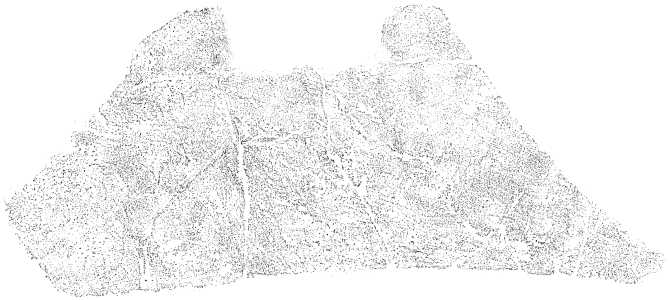
Ｆ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸133㎝，短軸100㎝，検出面からの深さは45㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器21点，石器７点，フレーク・チップ２点，礫６点が出土した。291～294は胴部である。291は外面は横位の刻目突帯を施し，縦位の刺突を施している。内面はナデを行っている。瘡痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。292・293は外面に縦位や斜位の刺突が確認できる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。294は瘡痕状の剥落が多く，文様が判然としない。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。295は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。側縁部の下部で屈曲し，方形の脚部を作り出す。296は黒曜石Ⅴ類製の石鏃の左脚部である。なお，295・296は遺構内一括遺物である。

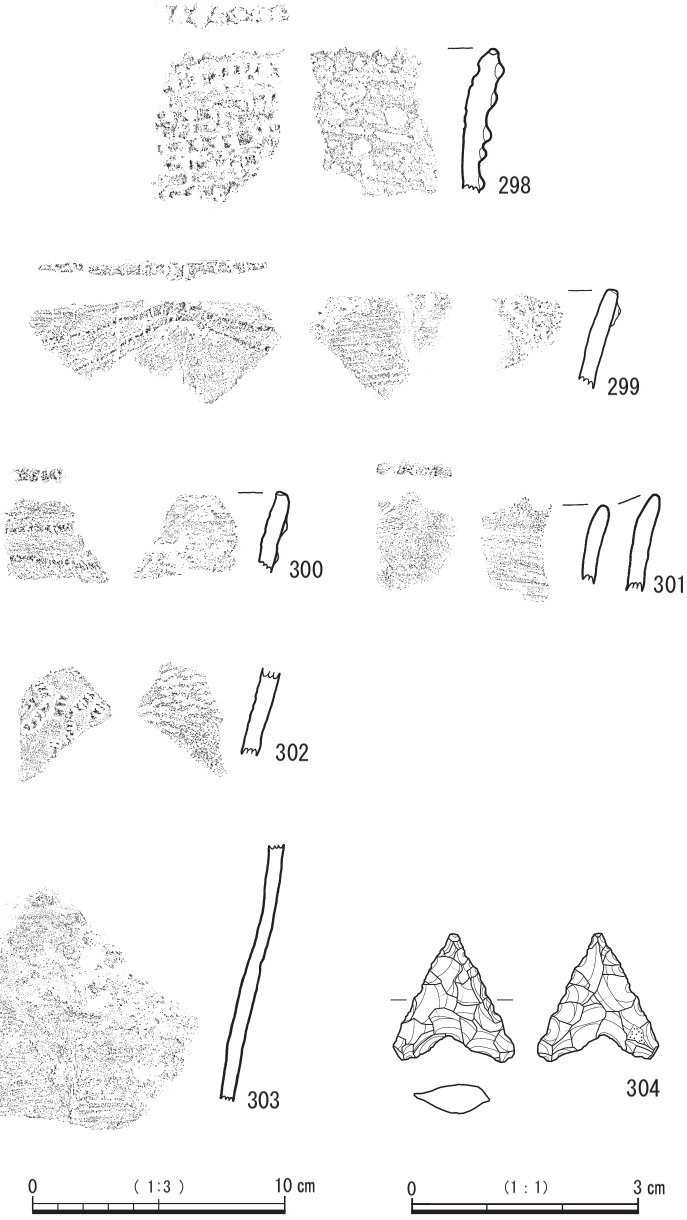
101号土坑（第82図）

Ｇ－22区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸104㎝，短軸94㎝，検出面からの深さは40㎝を測る。断面形状は

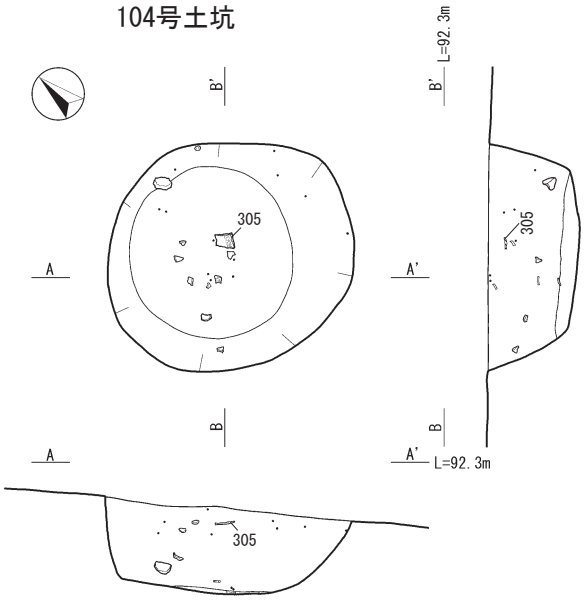




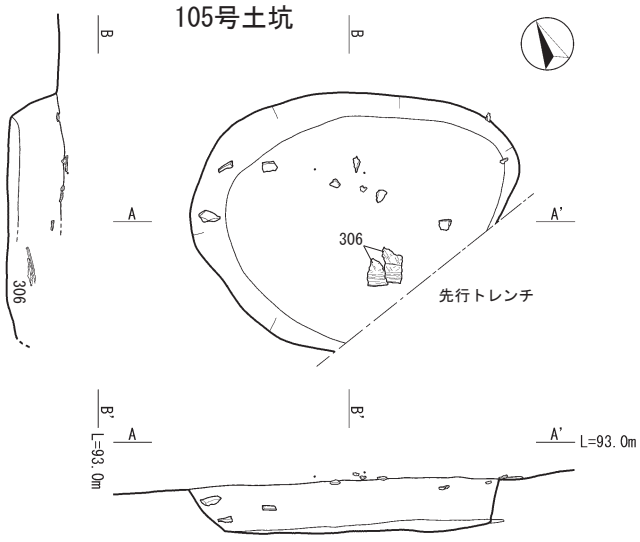




第83図　土坑62（102号・103号）

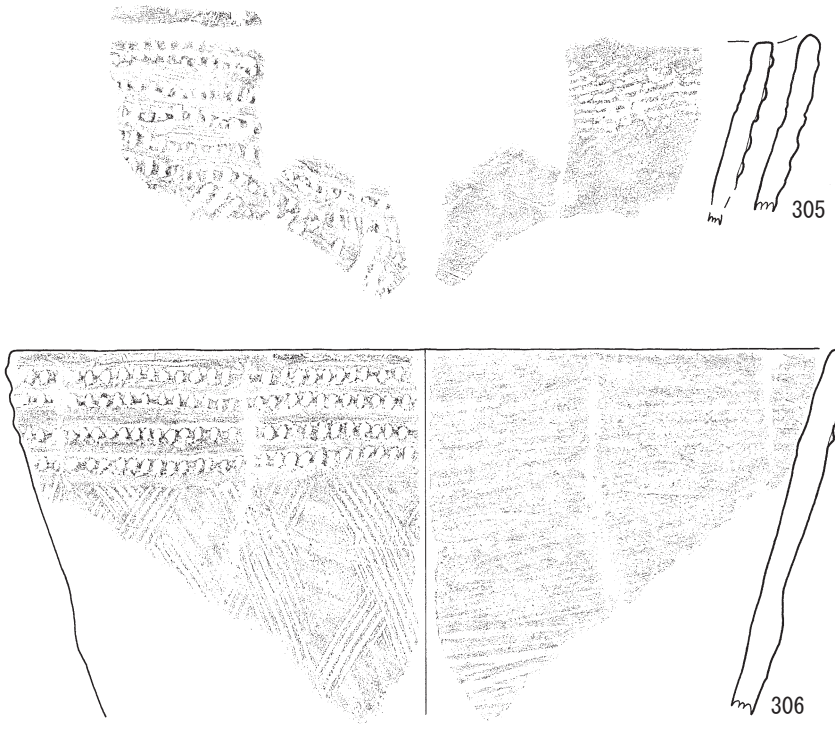


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。



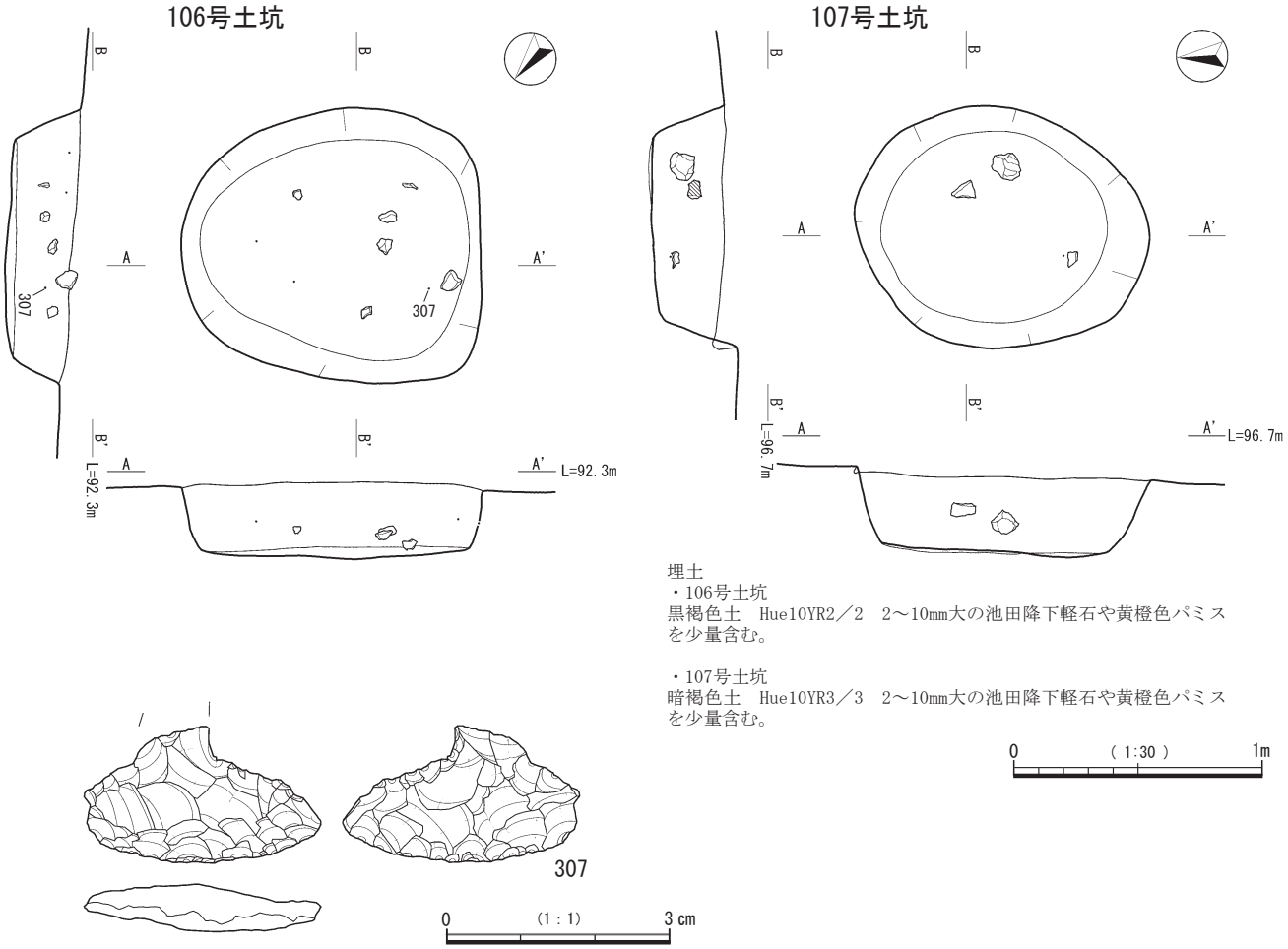
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

0　（1:30）　1m



0　（1:3）　10 cm

第84図　土坑63（104号・105号）



第85図　土坑64（106号・107号）

鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から土器７点，石器１点が出土した。297は外面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内面はナデを行っている。胎土に金色の雲母を含む。Ⅲ類土器である。

102号土坑（第83図）

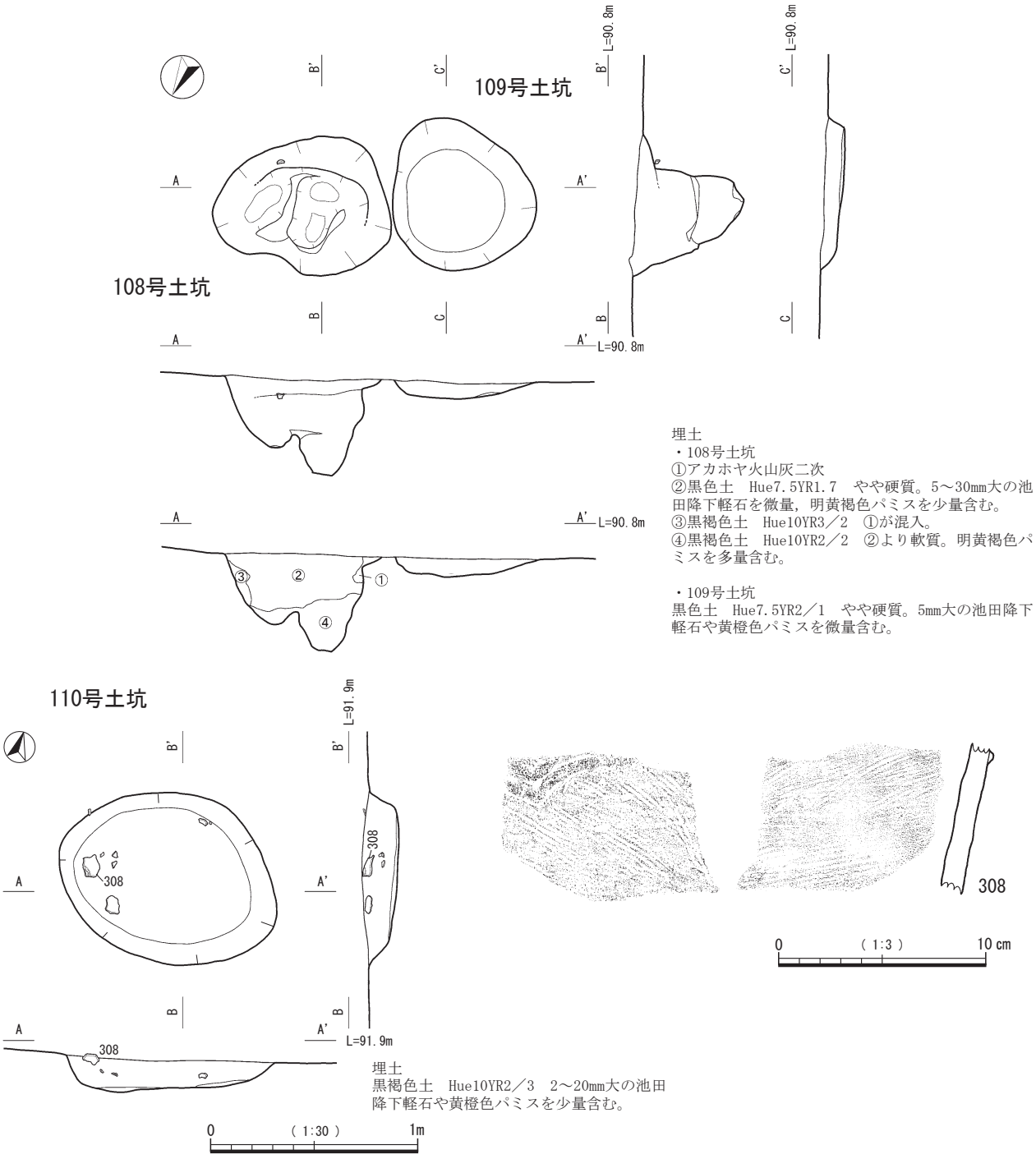
Ｇ－18区Ⅵ層上面で検出した。103号土坑の南東側を切っている。大きさは長軸122cm，短軸112cm，検出面からの深さは40cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器27点，石器１点，フレーク・チップ３点，礫11点が出土した。298～301は口縁部である。298は，外面には横位の刻目突帯を密に施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は横位の刺突を施す。痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。299・300は，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。299は外面に斜位の刻目突帯を施す。口唇部には浅い刻目を入れている。内外面ともナデを行っている。300は外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部には浅い刻目を入れている。内面はナデを行っている。胎土に金色の雲母を含む。Ⅱ－１－①類土器である。301は波頂部に２つの山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。302は口縁部は欠損しているが，口縁部下位付近と考えられる。外面に弧状の刻目突帯を施している。内面は斜位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。303は無文の胴部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に金色の雲母を含む。Ⅲ類土器である。304は頁岩Ⅳ類製の石鏃である。先端部や脚部は尖らせている。

103号土坑（第83図）

Ｇ－18区Ⅵ層上面で検出した。102号土坑に南東側を切られている。大きさは長軸126cm，短軸74cm，検出面からの深さは10cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器３点，礫２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。



第86図　土坑65（108号・109号・110号）

104号土坑（第84図）

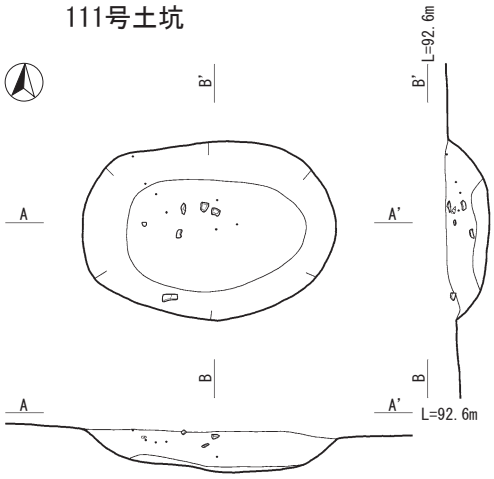
Ｇ－18区Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸100cm，短軸91cm，検出面からの深さは34cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器９点，石器１点，フレーク・チップ11点，礫３点が出土した。305は波頂部に２つの山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。外面には横位の刻目突帯を５段施した後，斜位の刺突を施す。内面に横位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

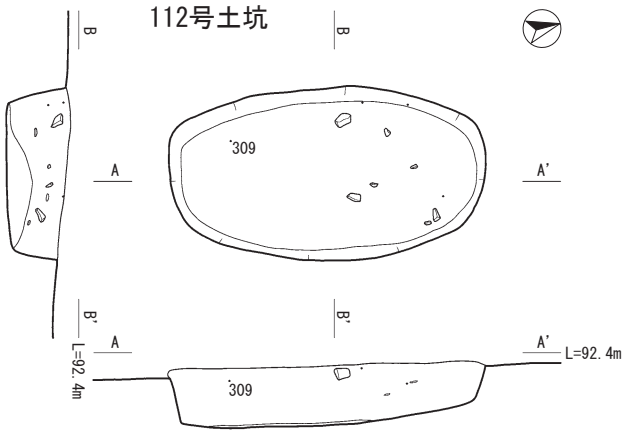
105号土坑（第84図）

Ｇ－18区Ⅵ層上面で検出した。遺構の南側は先行トレンチにより削平されていた。大きさは長軸126cm，短軸89cm，検出面からの深さは21cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

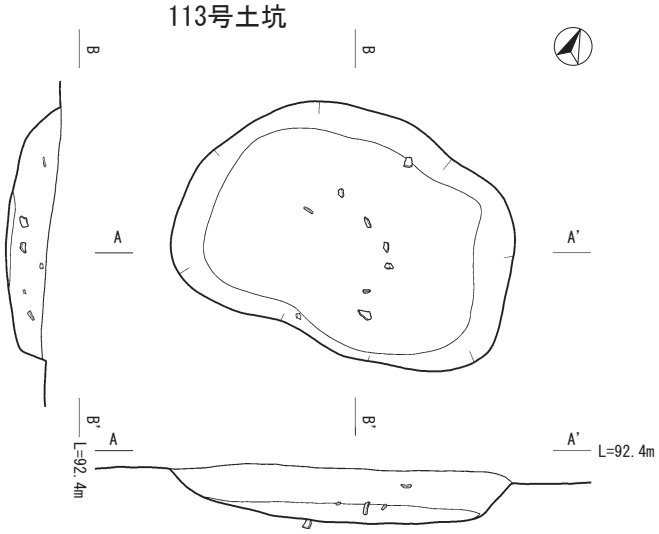
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器10点，フレーク２点，礫２点が出土した。306は口径が32.9cmであ



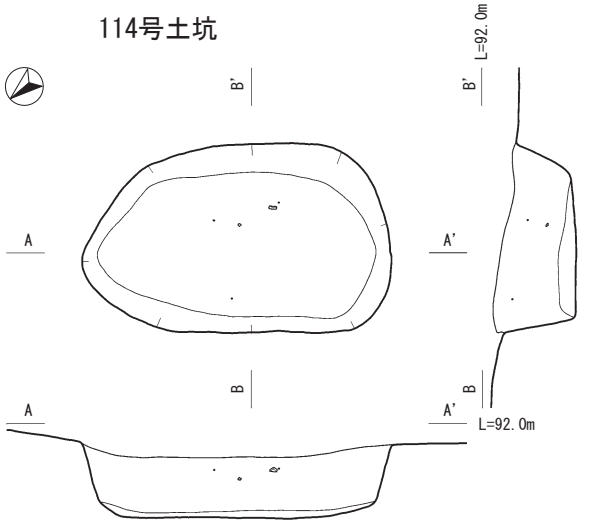
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。



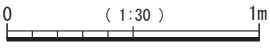
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～40mm大の池田降下軽石や黄橙色
パミスを少量含む。

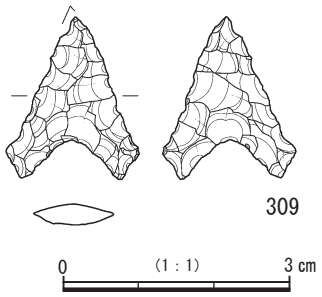


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～20mm大の池田降下軽石を少量,
黄褐色パミスを中量含む。

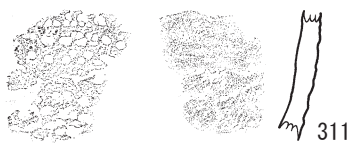


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～10mm大の池田降下軽石や黄橙色
パミスを少量含む。

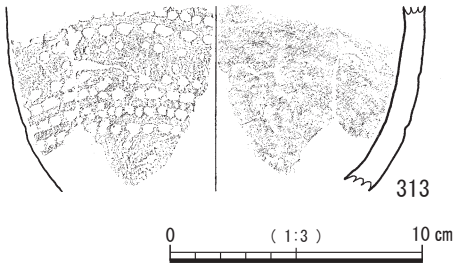




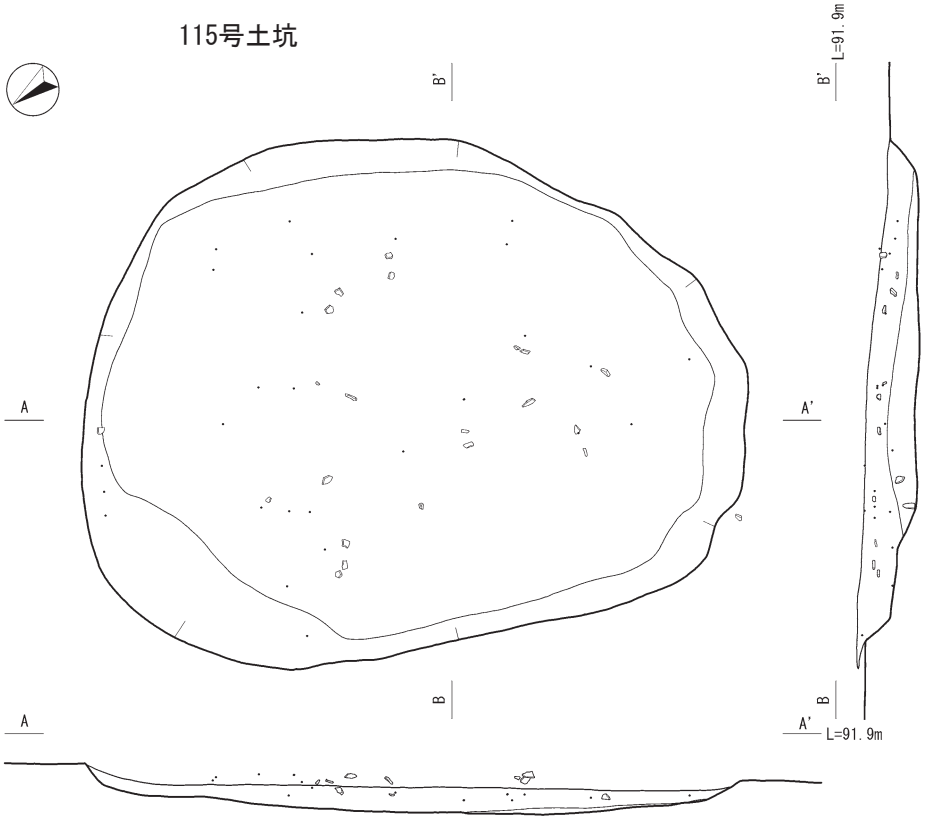




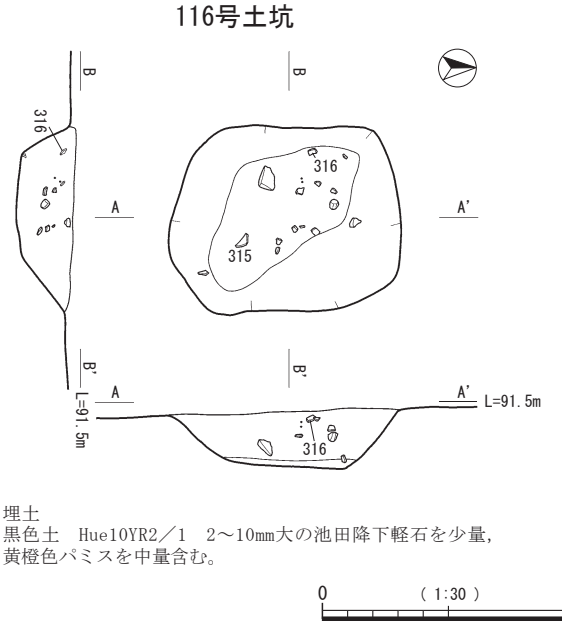




第87図　土坑66（111号・112号・113号・114号）

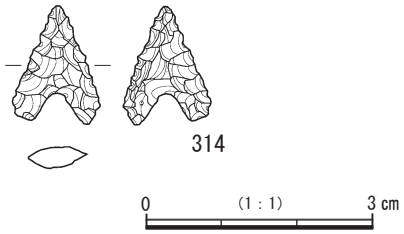


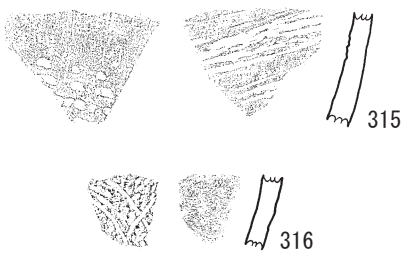
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

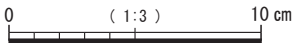


埋土
黒色土　Hue10YR2／1　2～10mm大の池田降下軽石を少量，黄橙色パミスを中量含む。

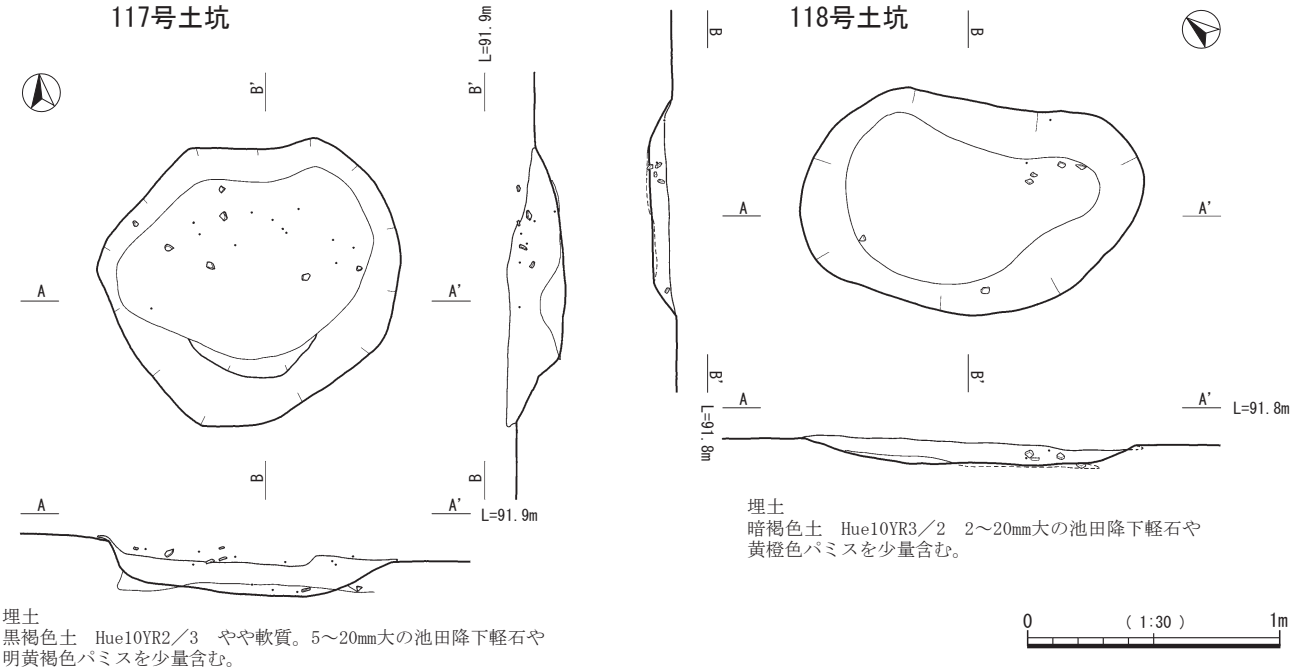








第88図　土坑67（115号・116号）



第89図　土坑68（117号・118号）

り，口縁部は外反する。口縁部外面に横位の刻目突帯を４段施す。胴部は条痕を斜格子状に施す。口唇部に粘土紐を楕円状に貼り付けている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

106号土坑（第85図）

Ｈ－18区Ⅴb～Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸120㎝，短軸107㎝，検出面からの深さは28㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器２点，石器２点，フレーク３点，礫４点が出土した。307は玉髄Ⅰ類製の石匙である。つまみ部は欠損しており，刃部は弧状に作り出す。

107号土坑（第85図）

Ｈ－19区Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸118㎝，短軸97㎝，検出面からの深さは32㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位からフレーク１点，礫３点が出土したが，掲載には至らなかった。

108号土坑（第86図）

Ⅰ－13区Ⅴa層上面で検出した。109号土坑と隣接する。大きさは長軸84㎝，短軸67㎝，検出面からの深さは46㎝を測る。底面には凹凸があるが，断面形状は鉢状に分類した。また，埋土は４つに分層した。

出土遺物は埋土上位から土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

109号土坑（第86図）

Ⅰ－13区Ⅴa層上面で検出した。108号土坑と隣接する。大きさは長軸75㎝，短軸67㎝，検出面からの深さは８㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は確認できなかった。

110号土坑（第86図）

Ｇ－14区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸108㎝，短軸83㎝，検出面からの深さは18㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器７点が出土した。308は胴部である。内外面とも斜位の貝殻条痕を施す。外面には，条痕を施した後，太めの突帯を弧状に施す。Ⅱ－１－②類土器である。

111号土坑（第87図）

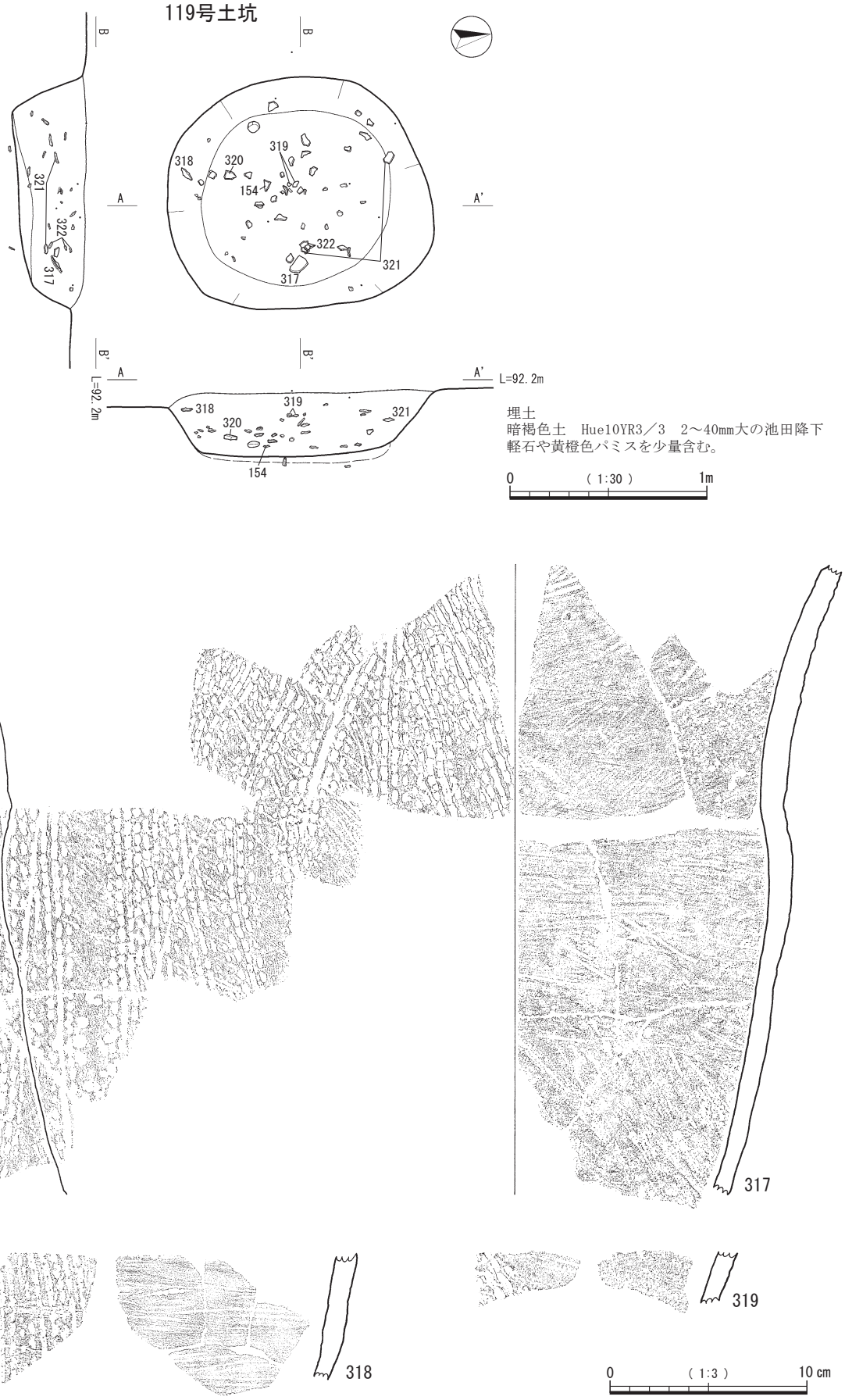
Ｇ－17区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸100㎝，短軸70㎝，検出面からの深さは14㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器２点，石器１点，フレーク・チップ７点，礫３点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

112号土坑（第87図）

Ｇ－17区Ⅴa～Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸124㎝，短軸68㎝，検出面からの深さは23㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

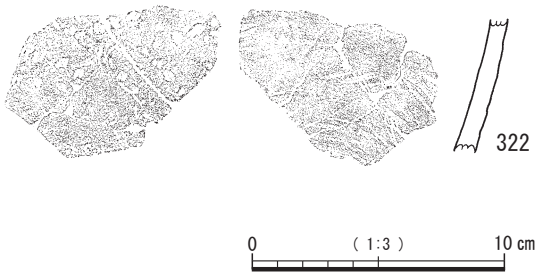
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器１点，石器



第90図　土坑69（119号）





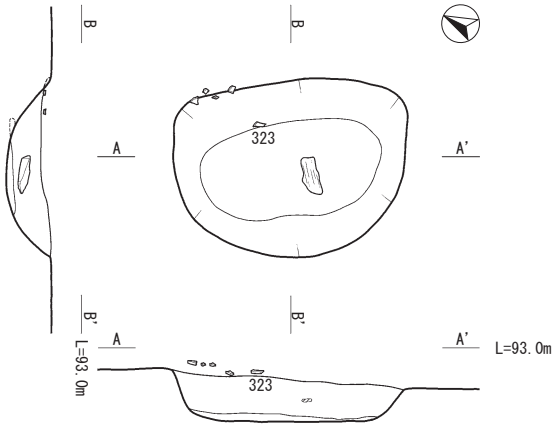




322外面拡大

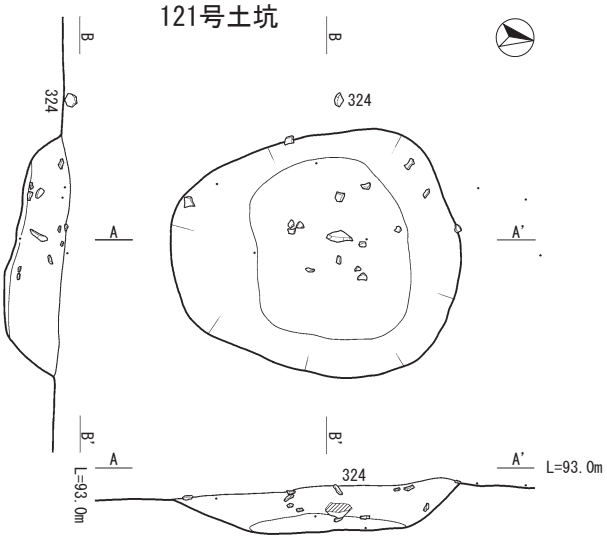
第91図　土坑70（119号出土遺物）

120号土坑



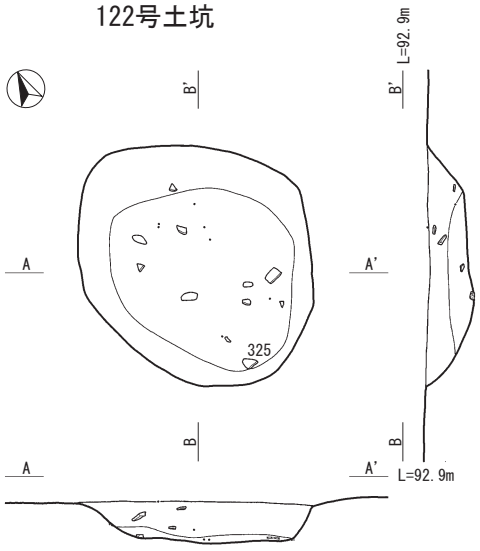
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／4　硬質。3～20mm大の池田降下軽石を中量，黄橙色パミスを少量含む。

121号土坑



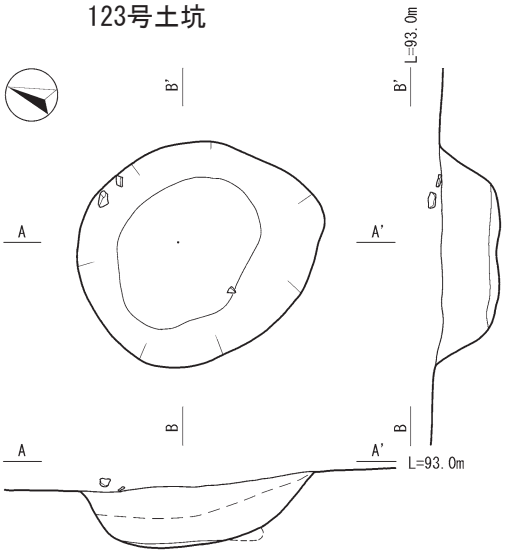
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　硬質。2～30mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。

122号土坑



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

123号土坑



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

0　(1:30)　1m



0　(1:3)　10 cm

第92図　土坑71（120号・121号・122号・123号）

２点，フレーク・チップ３点，礫５点が出土した。309は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。基部に三角形状の抉りをもち，脚部は方形に作り出す。

113号土坑（第87図）

Ｇ－17区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸132㎝，短軸93㎝，検出面からの深さは19㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器８点，フレーク１点が出土した。310は口縁部である。外面は微隆線状の突帯に浅い刻目を入れている。突帯下には刻目と同様の施文具で横位の沈線を施す。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。311・313は接合はしないが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。311・313は丸底の底部に近い胴半部付近と考えられる。外面に横位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。312は外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は斜位の貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

114号土坑（第87図）

Ｈ－17区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸120㎝，短軸75㎝，検出面からの深さは29㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から土器１点，フレーク・チップ３点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

115号土坑（第88図）

Ｈ・Ⅰ－17区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸261㎝，短軸201㎝，検出面からの深さは18㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器21点，石器２点，フレーク・チップ26点，炭化物１点が出土した。土器は小片のため，掲載には至らなかった。314は黒曜石Ⅴ類製の石鏃である。両側縁部に鋸歯縁加工を施す。脚部の先端は方形に作り出す。なお，314は遺構内一括遺物である。

116号土坑（第88図）

Ⅰ－17区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸93㎝，短軸74㎝，検出面からの深さは22㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器11点，石器１点，チップ１点，礫４点が出土した。315・316は胴部である。315は外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。316は原体は判然としないが，外面に縄文を施した後，斜位の沈線を施す。内面はナデを行っている。胎土に小礫，白色粒子，石英を多く含む。Ⅳ－５類土器である。

117号土坑（第89図）

Ⅰ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸121㎝，短軸109㎝，検出面からの深さは17㎝を測る。遺構の北側は先行トレンチにより上部が削平されていた。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器６点，石器１点，フレーク・チップ11点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

118号土坑（第89図）

Ⅰ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸135㎝，短軸86㎝，検出面からの深さは11㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

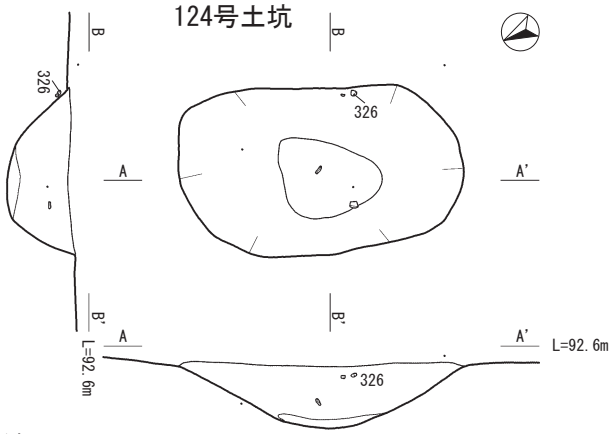
出土遺物は埋土中位から土器６点，チップ２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

119号土坑（第90・91図）

Ｈ－18区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸139㎝，短軸125㎝，検出面からの深さは28㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

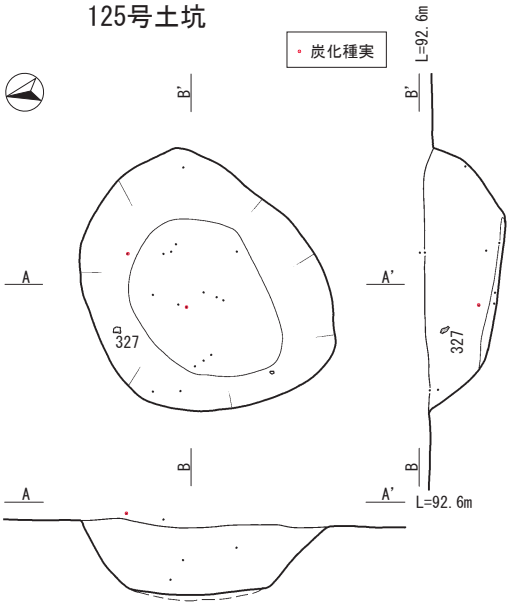
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器47点，石器１点，フレーク・チップ８点，礫３点が出土した。317は16号土器集中の出土土器や包含層出土土器と接合した。口縁部下位から胴下半部付近である。口縁部が外反し，胴部中央付近で膨らみ，底部に向けて直線的に窄まる器形と考えられる。外面は，縦位の刺突を施し，その左右に刺突で縦長の重弧状のモチーフを描いている。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。318・319も外面に縦位や斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。320は２号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。底部を除きほぼ完形に復元することができた。口径31㎝であり，口縁部は外反し，頸部で屈曲し胴部はやや膨らむ。波頂部に山形突起をもつ４単位の波状口縁を呈すると考えられる。外面には，口縁部から胴下半部まで縦位の相交弧文を施している。相交弧文は貝殻の当て方やロッキングの間隔が不規則である。相交弧文は胴下半部から口縁部に向かって施文しており，この縦位の相交弧文を反時計回りに施したと考えられる。また，相交弧文を施文後にナデを行っている。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面には，口縁部に横位の相交弧文を施している。頸部より下位は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。Ⅱ－２－②類土器である。321は胴下半部である。外面は相交

124号土坑



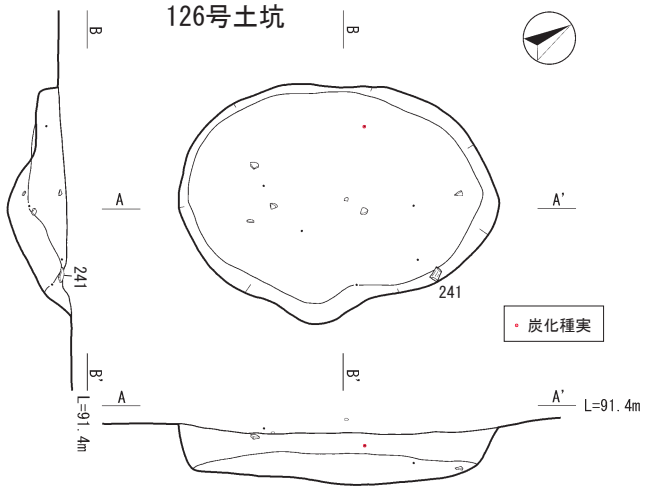
埋土
黒褐色土　Hue10YR3／2　2～10mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量含む。

125号土坑

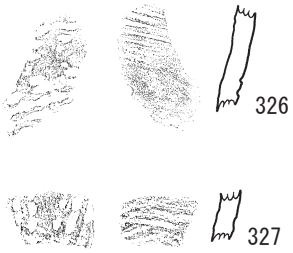


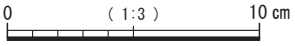
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～40mm大の池田降下軽石を多量，
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

126号土坑

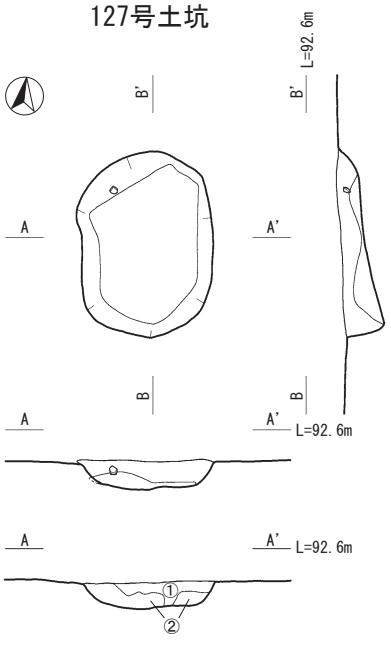


埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～10mm大の池田降下軽石を少量，
黄橙色パミスを中量含む。炭化物を含む。

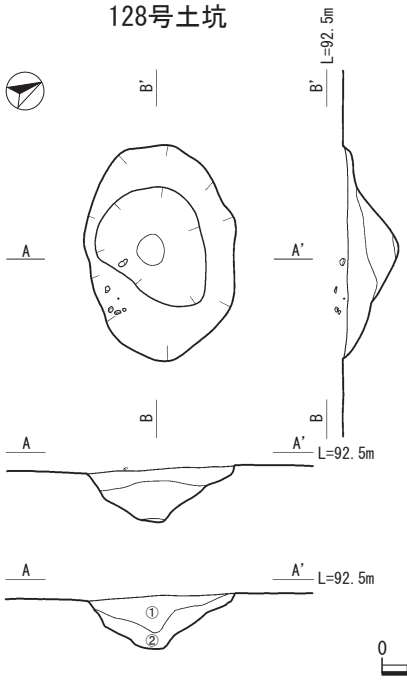




127号土坑

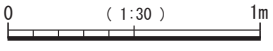


128号土坑

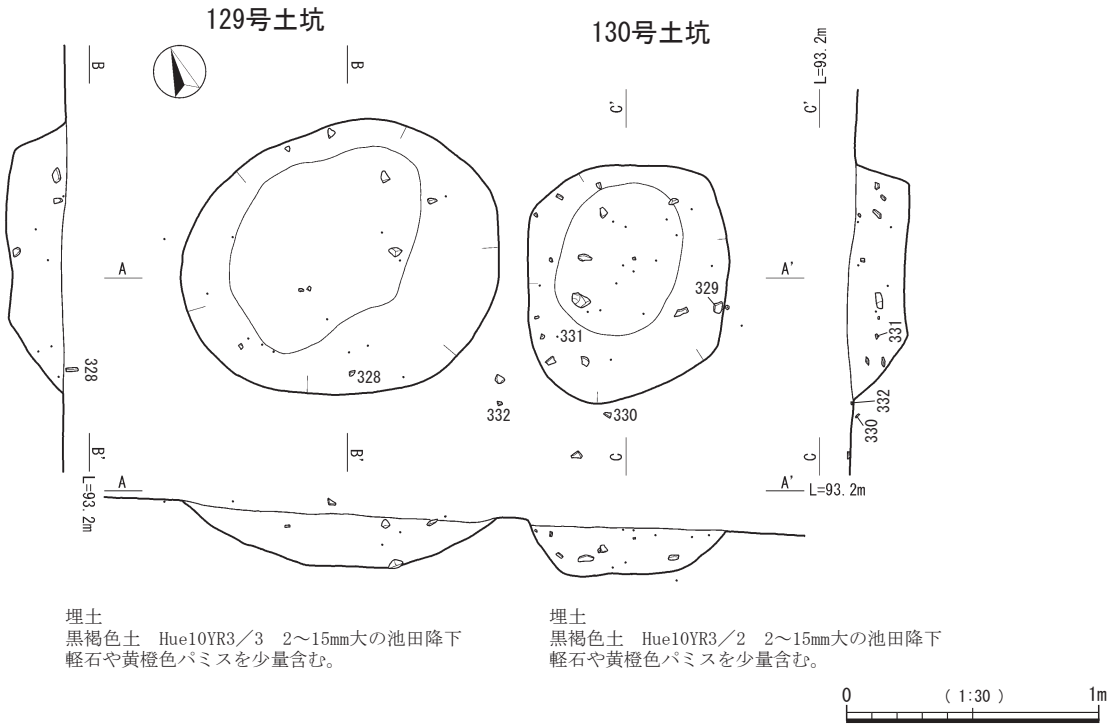


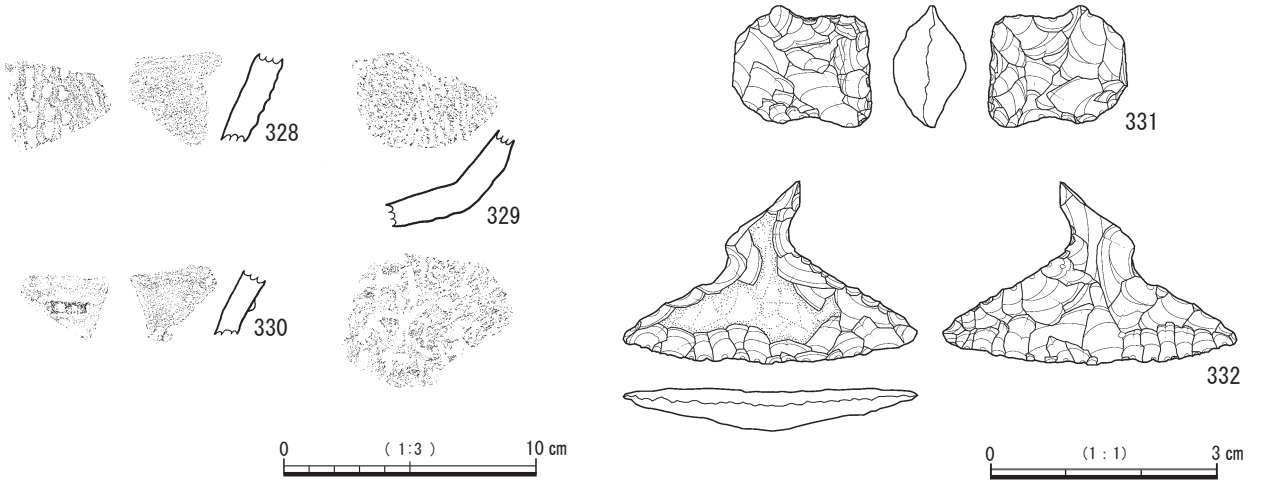
埋土
・127号土坑
①黒褐色土　Hue10YR2／3　2～20mm大の
池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを微
量含む。
②暗褐色土　Hue10YR3／3　2～25mm大の
池田降下軽石を少量，黄橙色パミスを微
量含む。

・128号土坑
①暗褐色土　Hue7.5YR3／3　やや粘質。
2～10mm大の池田降下軽石を少量含む。
②黒褐色土　Hue7.5YR3／2　やや軟質。
10mm大の池田降下軽石を少量含む。



第93図　土坑72（124号・125号・126号・127号・128号）





第94図　土坑73（129号・130号）

弧文を縦位に施し，底部に近い胴下半部付近は横位に施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。322は胴部である。外面にヘナタリなどの巻貝の外唇付近を使用して，幅が５㎜程度で，内部に筋が入る文様を斜位に施している。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅵ類土器である。

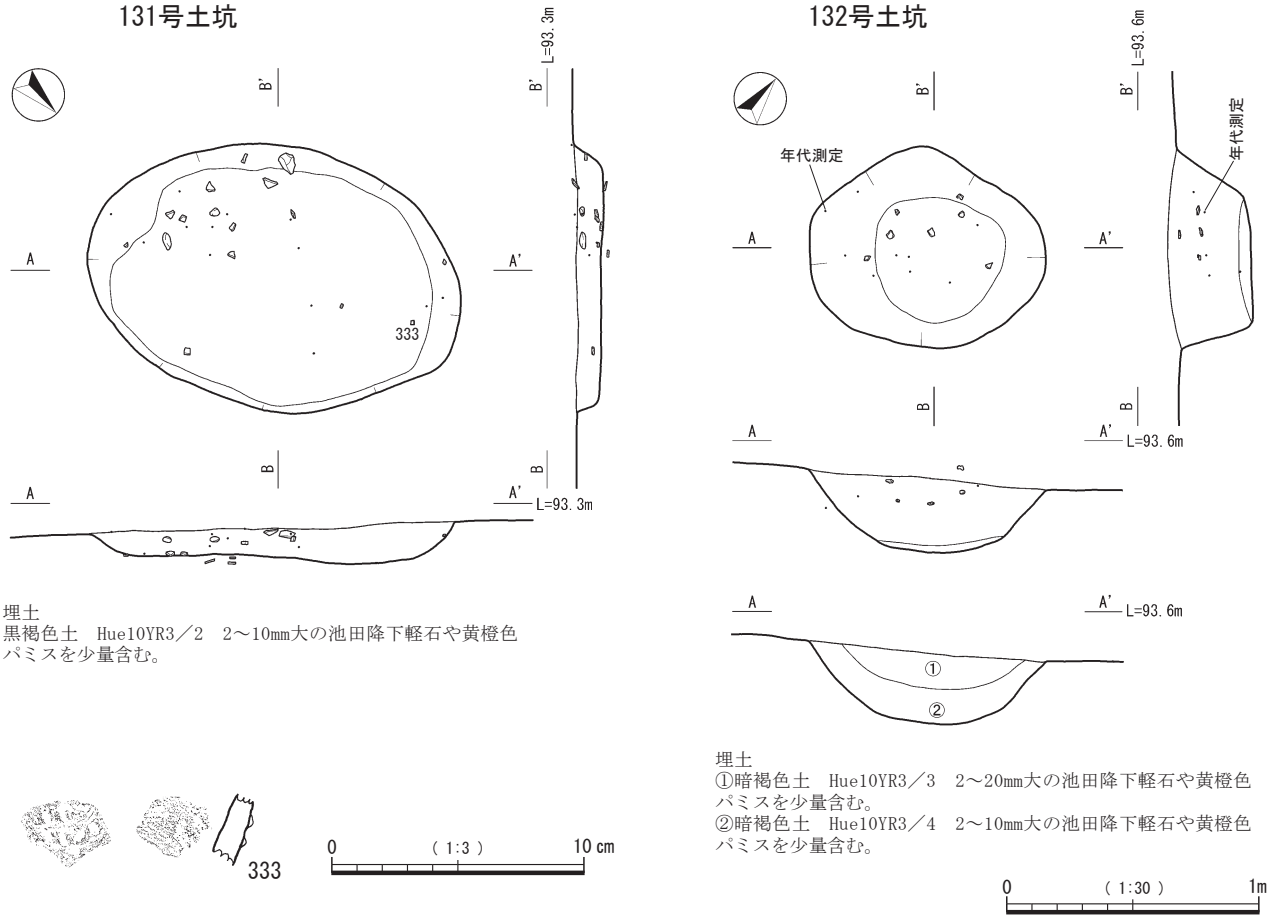
120号土坑（第92図）

Ｇ－19区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸90cm，短軸69cm，検出面からの深さは18cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器６点，フレーク１点，礫２点が出土した。323は胴部であり，外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

121号土坑（第92図）

Ｇ－18区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸114cm，短軸98cm，検出面からの深さは16cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。



第95図　土坑74（131号・132号）

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器16点，フレーク・チップ５点，礫４点が出土した。324は胴部である。外面に斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

122号土坑（第92図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸108cm，短軸91cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器６点，チップ４点，礫５点，炭化物２点が出土した。325は胴部である。外面は微隆線状の突帯に浅い刻目を入れている。突帯の上下には横位の沈線を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。Ⅱ－１－①類土器である。

123号土坑（第92図）

Ｈ－20区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸98cm，短軸84cm，検出面からの深さは24cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。底面を掘りすぎた為，断面で確認した底面を破線で表す。

出土遺物は埋土上位から土器２点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

124号土坑（第93図）

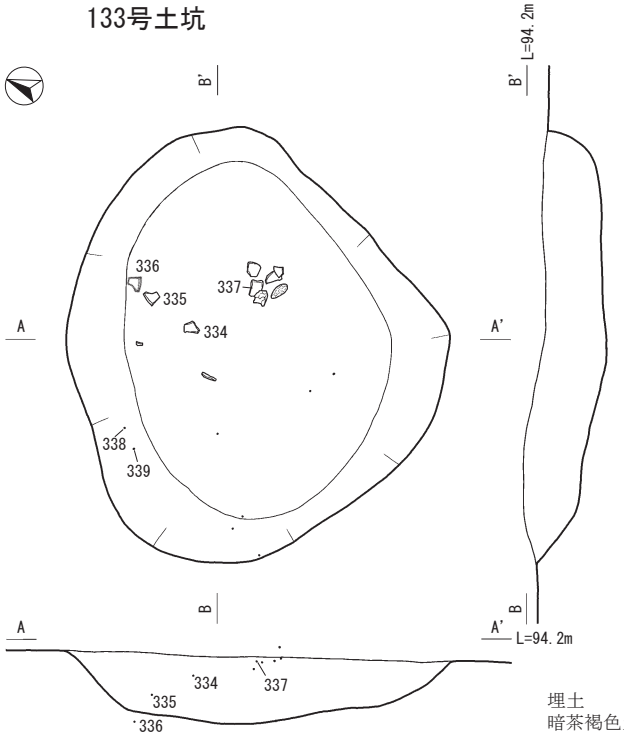
Ｉ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸111cm，短軸65cm，検出面からの深さは25cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

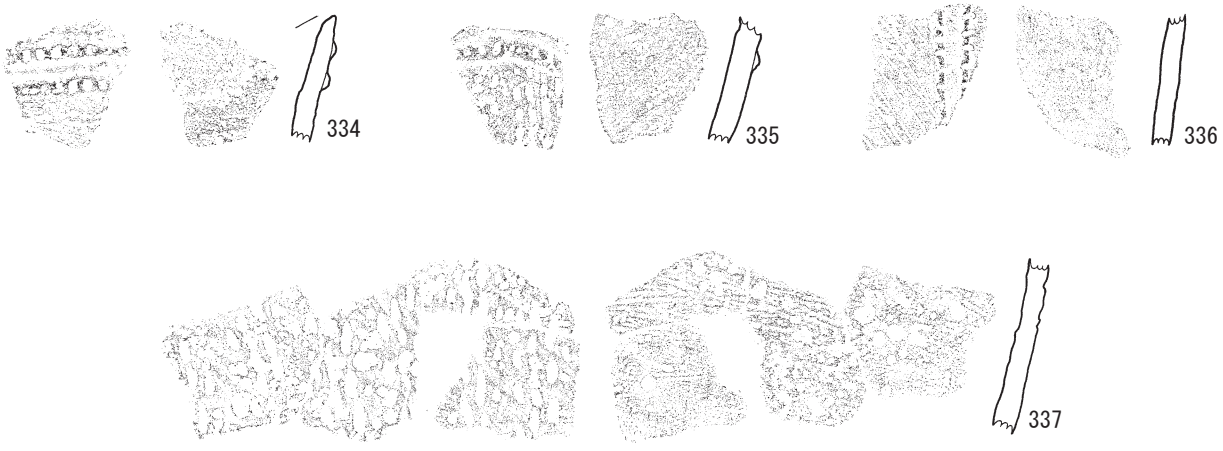
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器４点，フレーク・チップ３点が出土した。326は胴部である。外面は斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

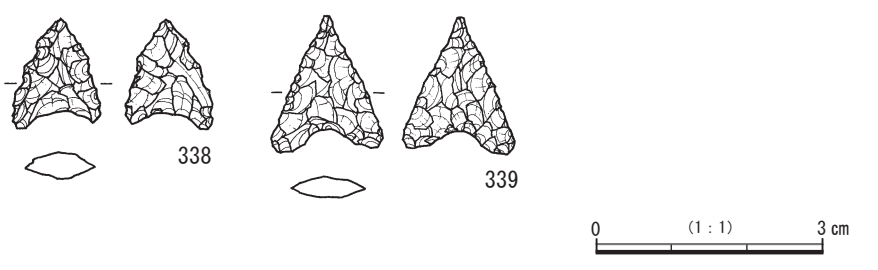
125号土坑（第93図）

Ｉ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸106cm，短軸89cm，検出面からの深さは27cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

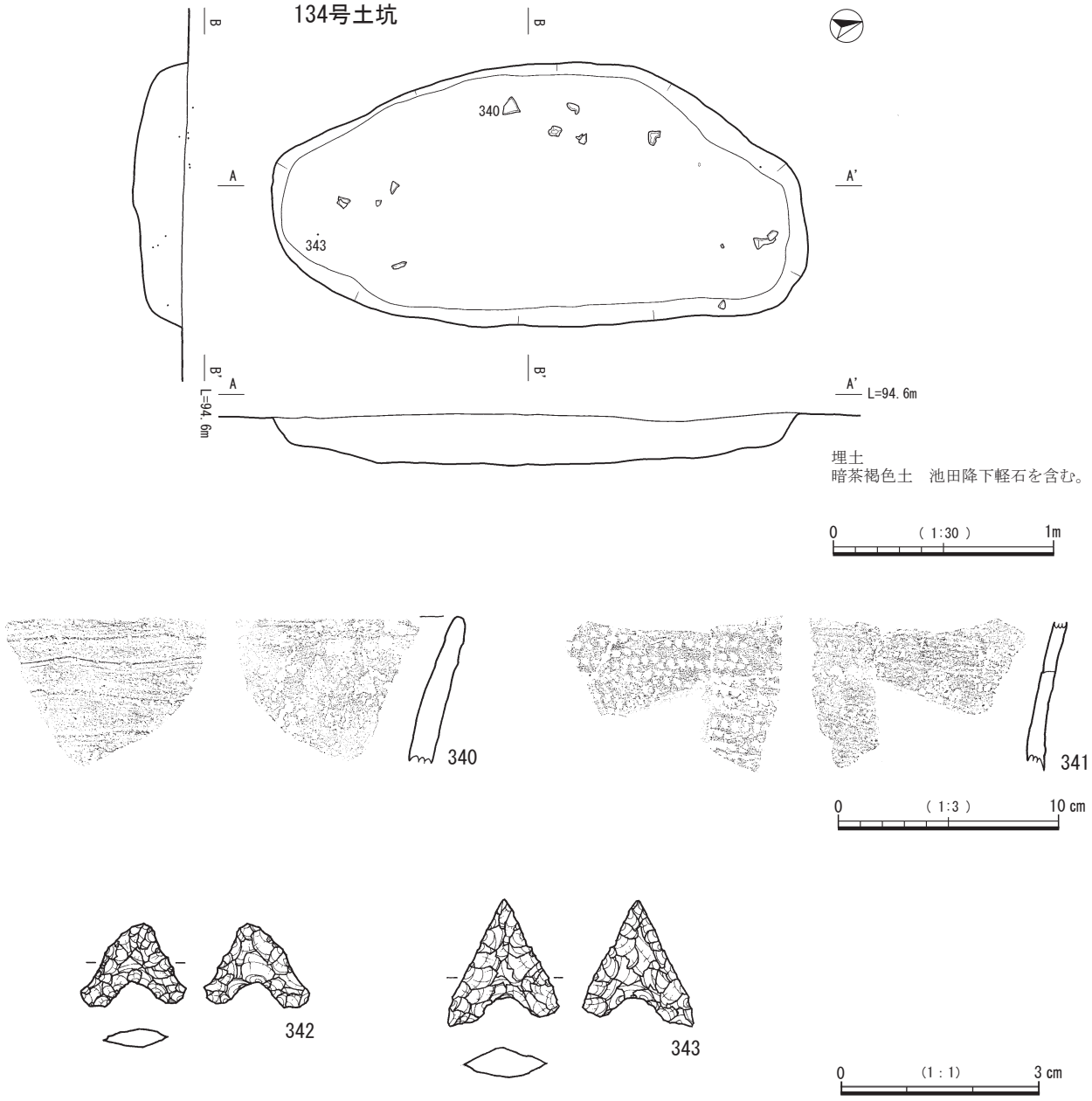
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器２点，フレーク・チップ６点，礫１点，炭化物10点が出土した。327は胴部である。外面は斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕







第96図　土坑75（133号）



第97図　土坑76（134号）

調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

埋土上位及び中位から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，コナラ属の子葉と考えられる炭化種実が確認された。

126号土坑（第93図）

Ⅰ－19区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸126cm，短軸94cm，検出面からの深さは25cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器６点，石器１点，フレーク・チップ３点，礫１点，炭化物１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

埋土中から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，コナラ属の子葉が確認された。

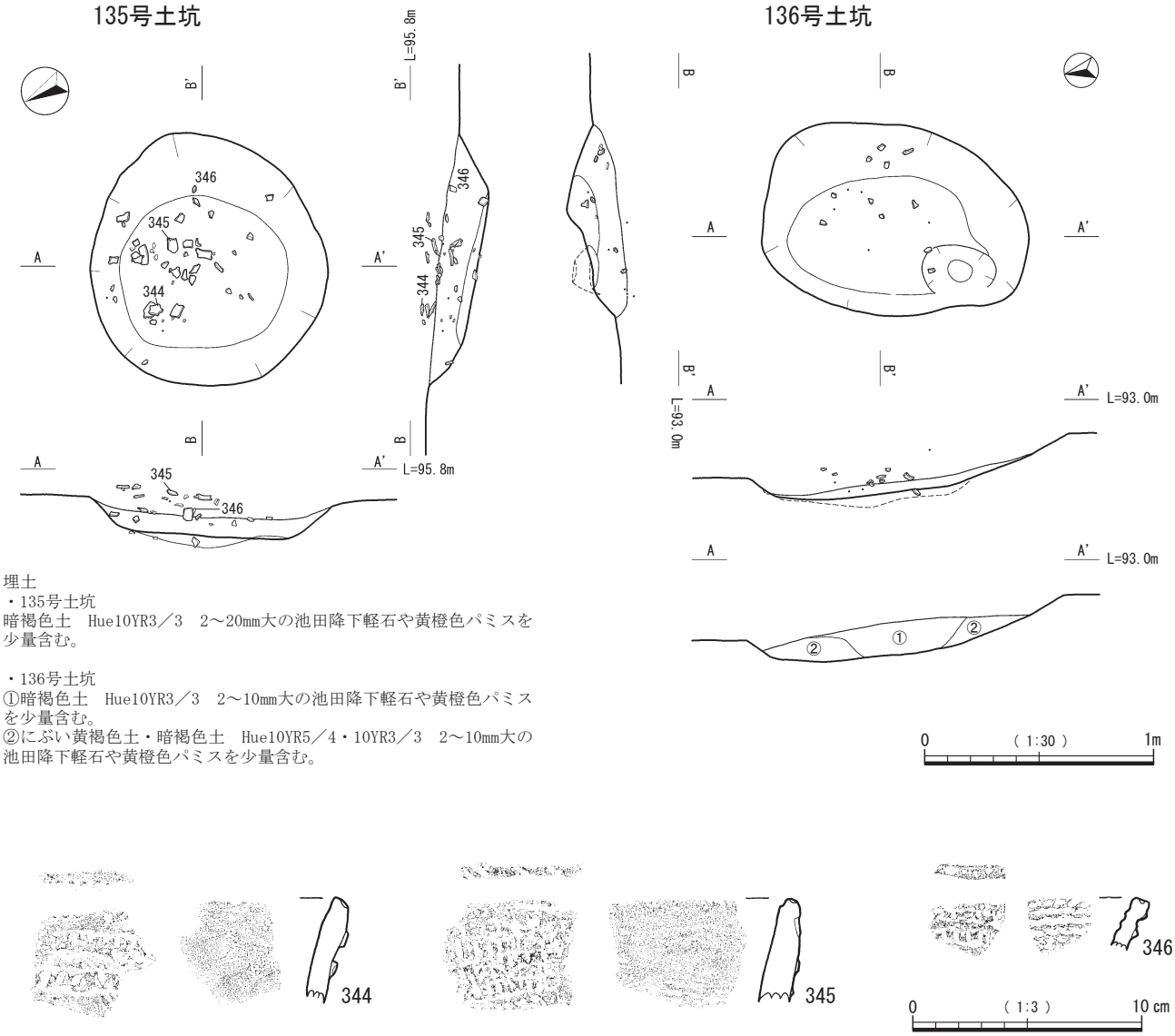
127号土坑（第93図）

Ⅰ－19区Ⅴb～Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸74cm，短軸51cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

128号土坑（第93図）

Ⅰ－19区Ⅴa～Ⅵ層上面で検出した。大きさは長軸85



第98図　土坑77（135号・136号）

cm，短軸60cm，検出面からの深さは21cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位からチップ１点，礫４点が出土したが，掲載には至らなかった。

129号土坑（第94図）

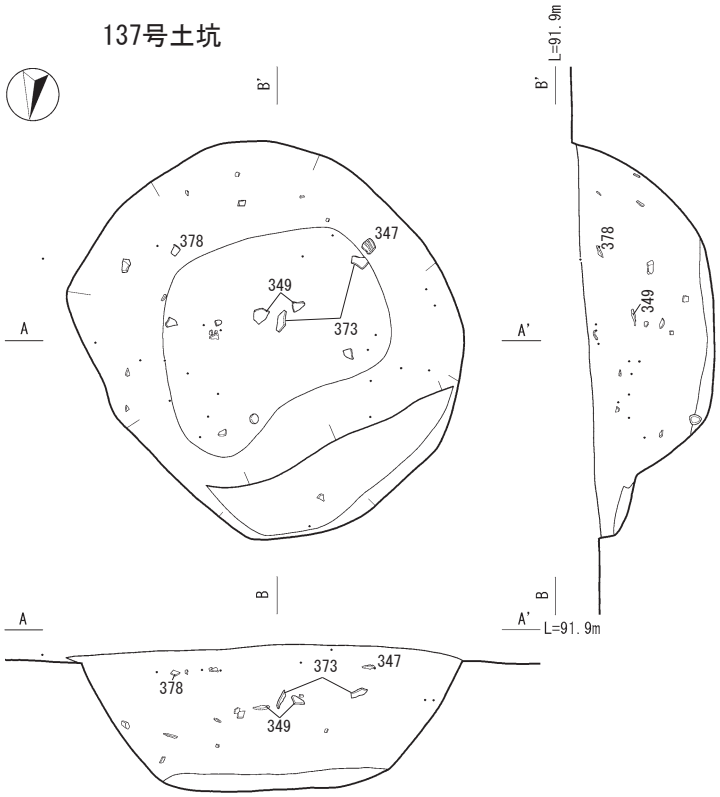
Ⅰ－20区Va層上面で検出した。130号土坑と隣接する。大きさは長軸128cm，短軸106cm，検出面からの深さは23cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器４点，フレーク・チップ12点，礫５点が出土した。328は胴部である。外面は斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。329は丸底の底部付近である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

130号土坑（第94図）

Ⅰ－20区Va層上面で検出した。129号土坑と隣接する。大きさは長軸99cm，短軸80cm，検出面からの深さは22cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

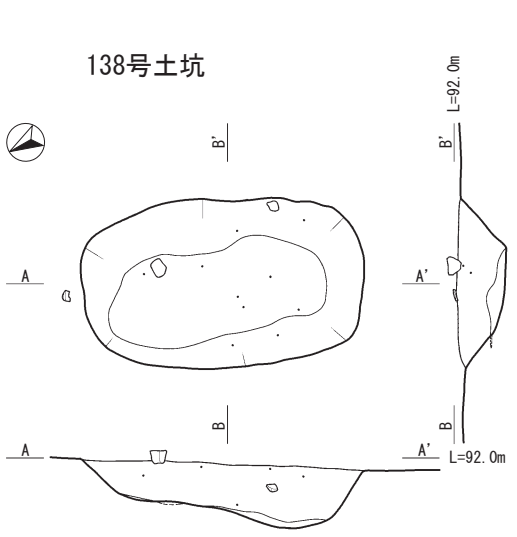
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器９点，石器１点，フレーク・チップ16点，礫５点が出土した。なお，330と332は遺構外から出土している。330は胴部である。外面に横位の刻目突帯を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。331は黒曜石Ⅴ類製の二次加工剥片である。上下両端の中央は括れる。332はチャート製の石匙である。表裏面とも丁寧な押圧剥離が施され，刃部が弧状となる。

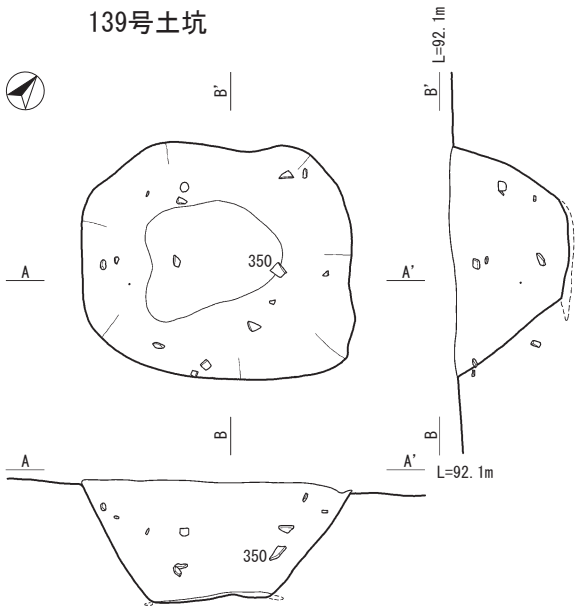


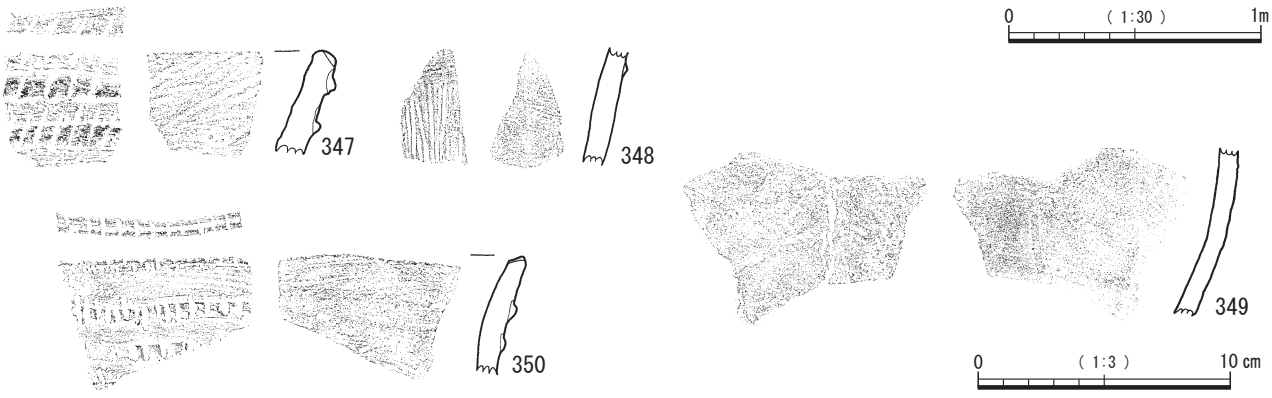
埋土
・137号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～15mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

・138号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～40mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

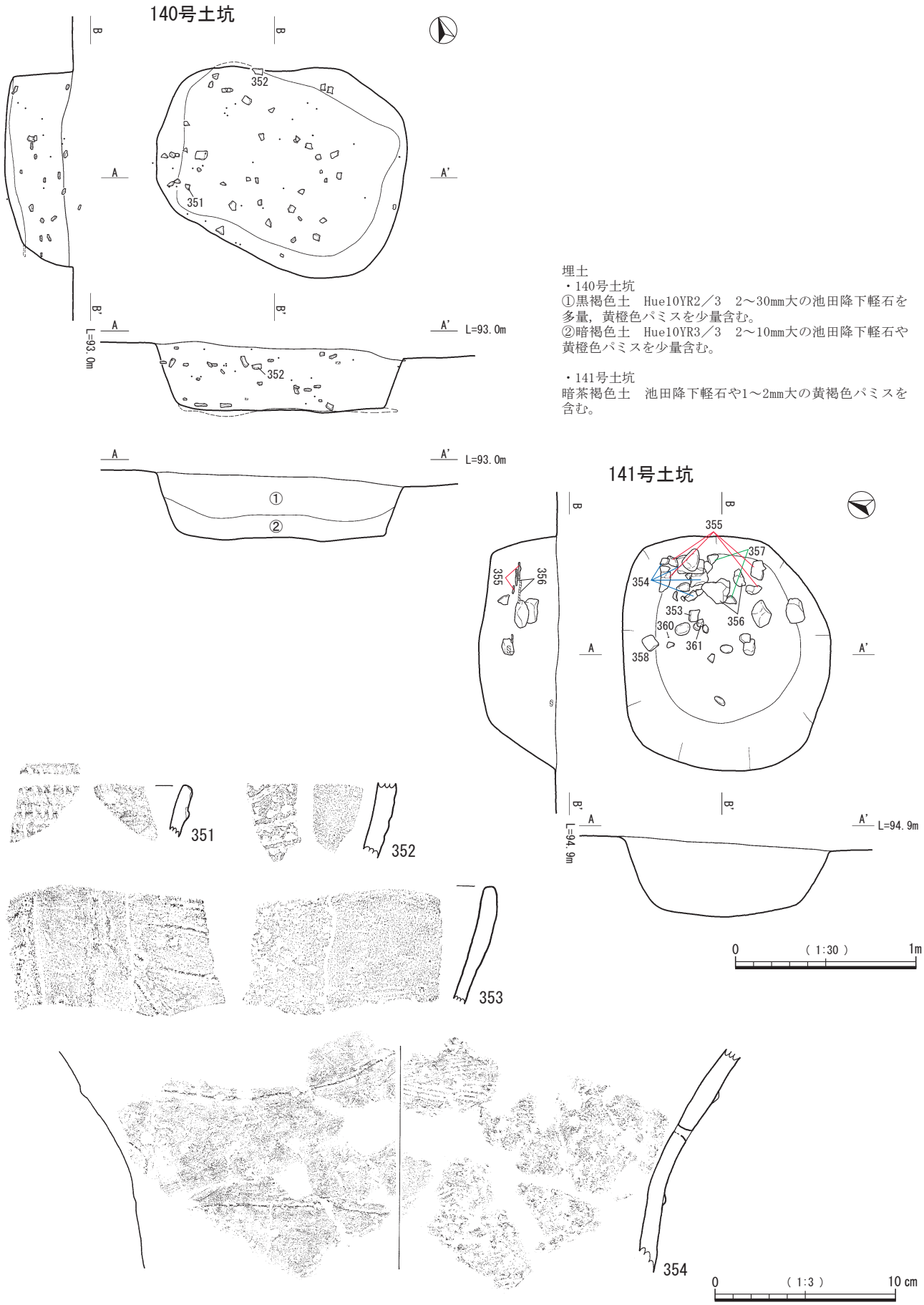
・139号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　3～30mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。



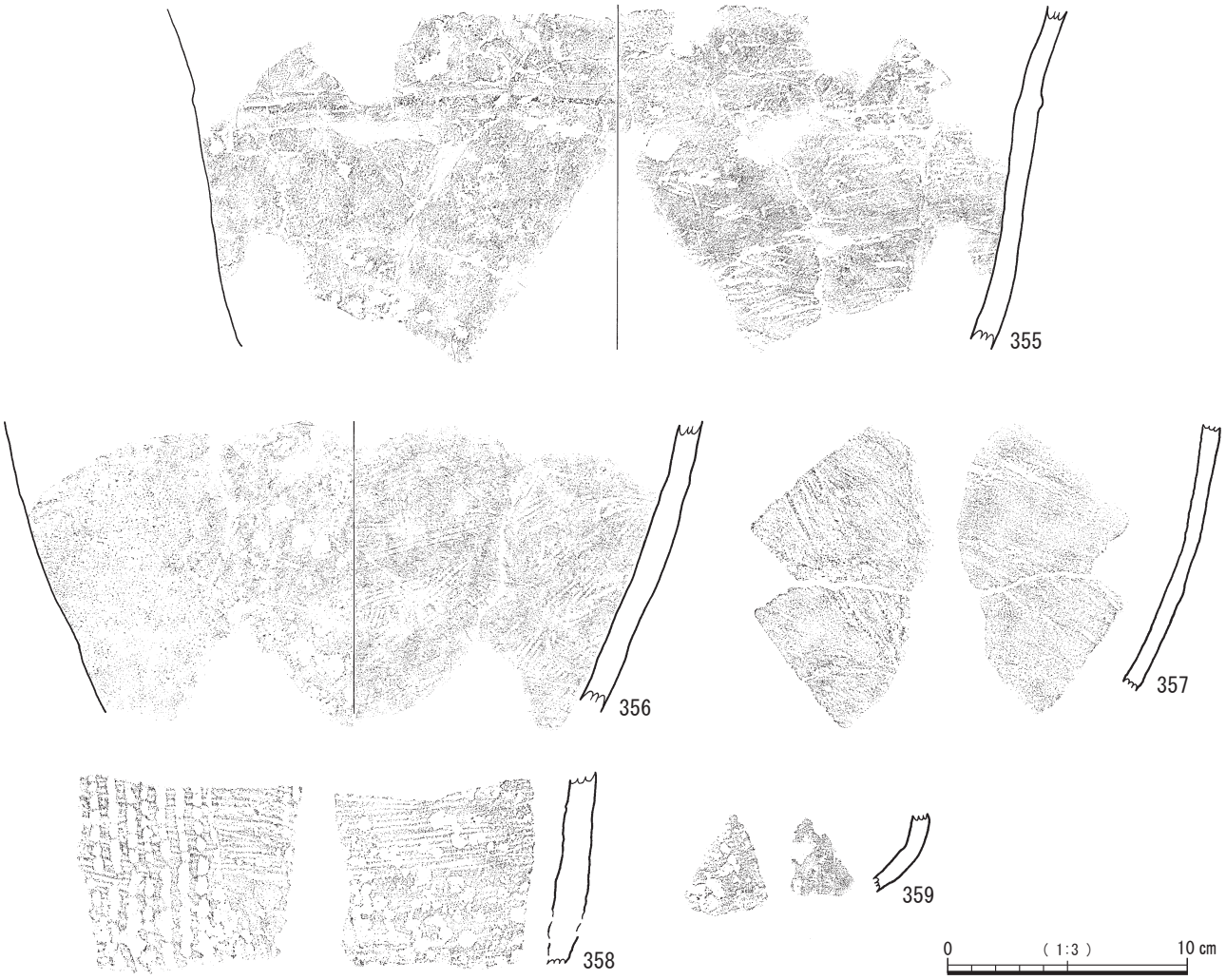


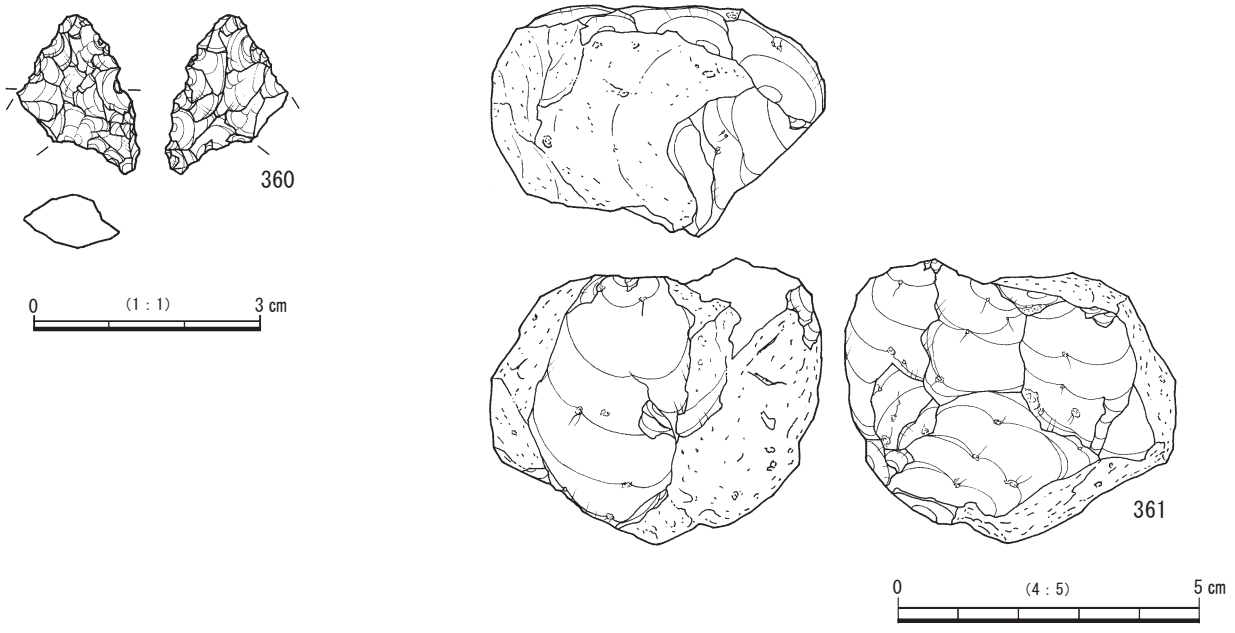


第99図　土坑78（137号・138号・139号）



第100図　土坑79（140号・141号）





第101図　土坑80（141号出土遺物）

131号土坑（第95図）

Ⅰ－20区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸149cm，短軸103cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器12点，石器１点，フレーク・チップ12点，礫４点が出土した。333は胴部である。外面に横位の刻目突帯を施す。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。

132号土坑（第95図）

Ｈ－20・21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸93cm，短軸79cm，検出面からの深さは28cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器６点，フレーク・チップ８点，礫２点，炭化物１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

また，埋土中位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で3856±30^{14}C BPの値が得られた。

133号土坑（第96図）

Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸172cm，短軸151cm，検出面からの深さは26cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器９点，石器２点，フレーク・チップ４点，礫４点が出土した。334は波状口縁を呈すると考えられる。外面には，横位の突帯に米粒状の刻目を入れている。痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。335～337は胴部である。335は外面に横位の刻目突帯を施し，縦位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。336は外面に縦位の刻目突帯を２列施す。その左側に斜位の浅い沈線を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。337は172号土坑の出土土器と接合した。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。338・339は頁岩製の石鏃である。338は頁岩Ⅰ類製であり，左側縁部が鋸歯状となり，基部の抉りは浅い。339は頁岩Ⅳ類製であり，脚部を丸く作り出す。

134号土坑（第97図）

Ｇ－22区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸245cm，短軸120cm，検出面からの深さは23cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器７点，石器３点，チップ２点，礫３点が出土した。340は口縁部外面には，横位の微隆線状の突帯を施す。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。341は胴部である。外面に横位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。342は玉髄Ⅰ類製，343はチャート製の石鏃である。342は側辺部が左右非対称であり，脚部の先端は丸く作り出す。343は側縁部が細かい鋸歯状になる。なお，342は遺構内一括遺物である。

135号土坑（第98図）

Ｄ－21区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸113cm，短軸101cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器41点，フレーク・チップ３点，礫３点が出土した。344～346は口縁部である。344は外面に幅約８㎜程度の横位の突帯に刻目を入れている。口唇部外端にも同様の施文具で刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。345は外面に横位の突帯を貼り付け，器面に及ぶような幅広の深い刻目を入れている。口唇部にも同様のヘラ状工具で刻目を斜位に入れている。内面はナデを行っている。胎土に砂粒，白色粒子を含む。346は外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は横位の刺突を施している。すべてⅡ－１－①類土器である。

136号土坑（第98図）

Ｄ－18区Ⅳ層下で検出した。大きさは長軸116cm，短軸83cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は２つに分層した。

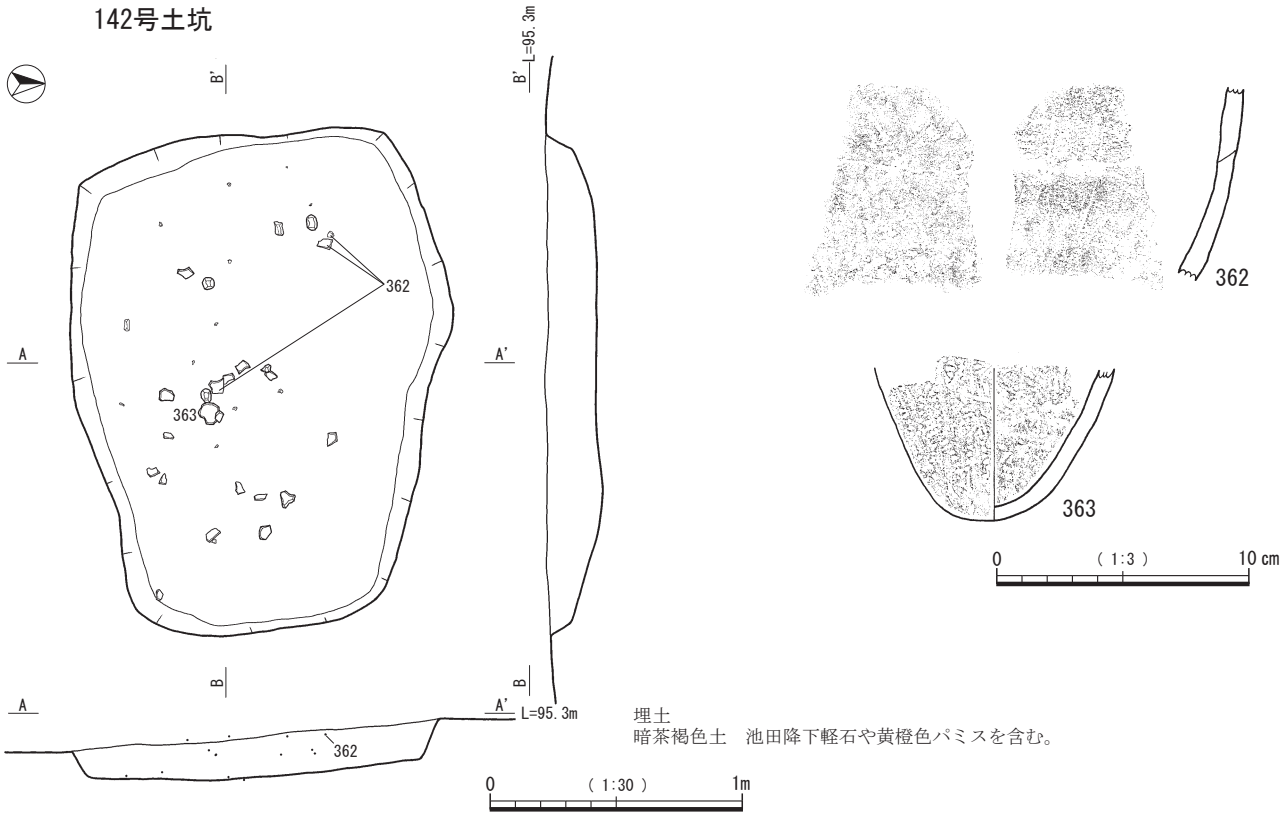
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器11点，フレーク・チップ８点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

（３）Ⅲ類　隅丸方形

137号土坑（第99図）

Ｈ－16区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸155cm，短軸135cm，検出面からの深さは51cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器23点，石器２点，フレーク・チップ19点，礫２点，炭化物１点が出土した。347は口縁部である。外面は横位の突帯に器面に及ぶような幅広の深い刻目を斜位に入れている。口唇部外端にも同様のヘラ状工具で深い刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。348・349は胴部である。348は外面に横位の微隆線状の突帯を施し，その下には縦位の条線を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。349は内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅲ類土器である。



第102図　土坑81（142号）

138号土坑（第99図）

Ｉ・Ｊ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸110㎝，短軸66㎝，検出面からの深さは24㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器２点，石器１点，フレーク・チップ５点，礫３点，炭化物２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

139号土坑（第99図）

Ｉ・Ｊ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸106㎝，短軸91㎝，検出面からの深さは43㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器12点，チップ１点，礫３点が出土した。350は口縁部である。外面には横位の突帯に器面に及ぶような深い刻目を入れている。口唇部の中央には沈線を施しており，刻目突帯と同様の施文具で上面から刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

140号土坑（第100図）

Ｈ－19区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸138㎝，短軸109㎝，検出面からの深さは35㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

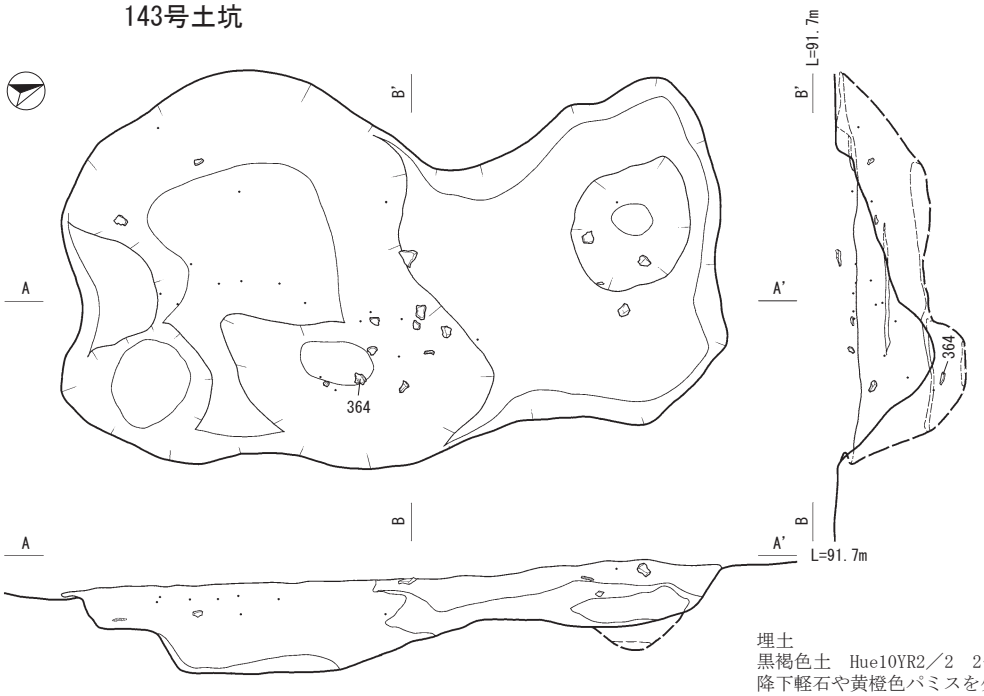
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器35点，石器２点，フレーク・チップ22点，礫９点，炭化物３点が出土した。351は口縁部である。外面は横位の突帯に器面に及ぶような深い刻目を入れている。口唇部にも刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。352は胴部である。外面に横位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

141号土坑（第100・101図）

Ｆ－22区Ｖb層で検出した。大きさは長軸130㎝，短軸115㎝，検出面からの深さは43㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

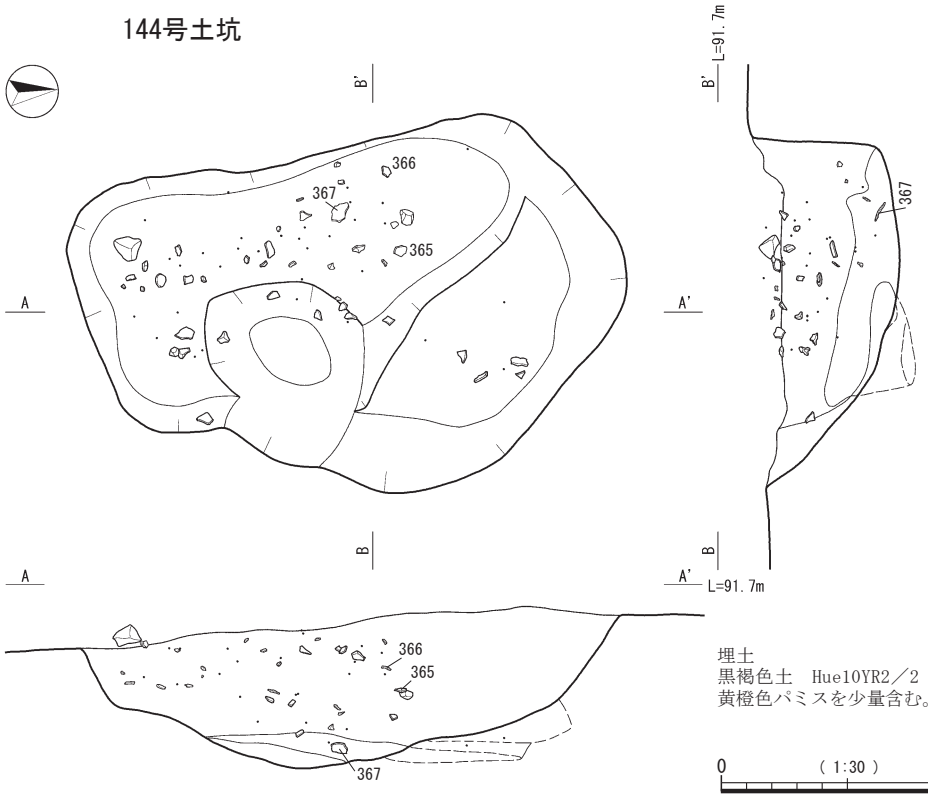
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器20点，石器10点，フレーク・チップ３点，礫３点が出土した。353は口縁部である。外面に縦位，横位の微隆線状の突帯を施している。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が一部確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。354は口縁部下位から頸部付近と考えられる。外面に横位の微隆線状の突帯をやや曲線的に貼り付けている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。補修孔が１箇所確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。355～357は接合はしないが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。355は頸部から胴下半部付近と考えられる。頸部付近に横位の微隆線状の突帯を貼り付

143号土坑



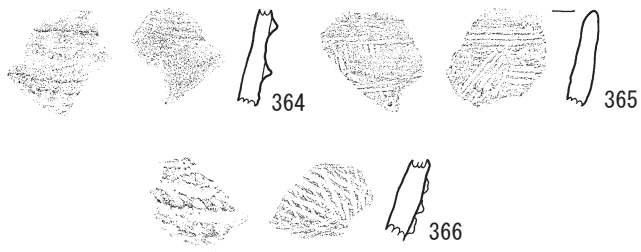
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

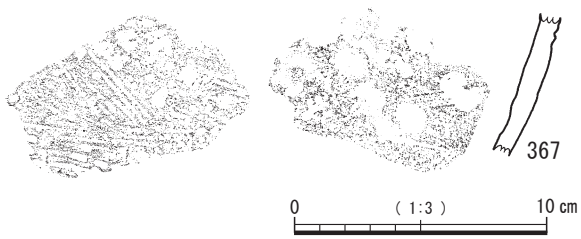
144号土坑



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～20mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

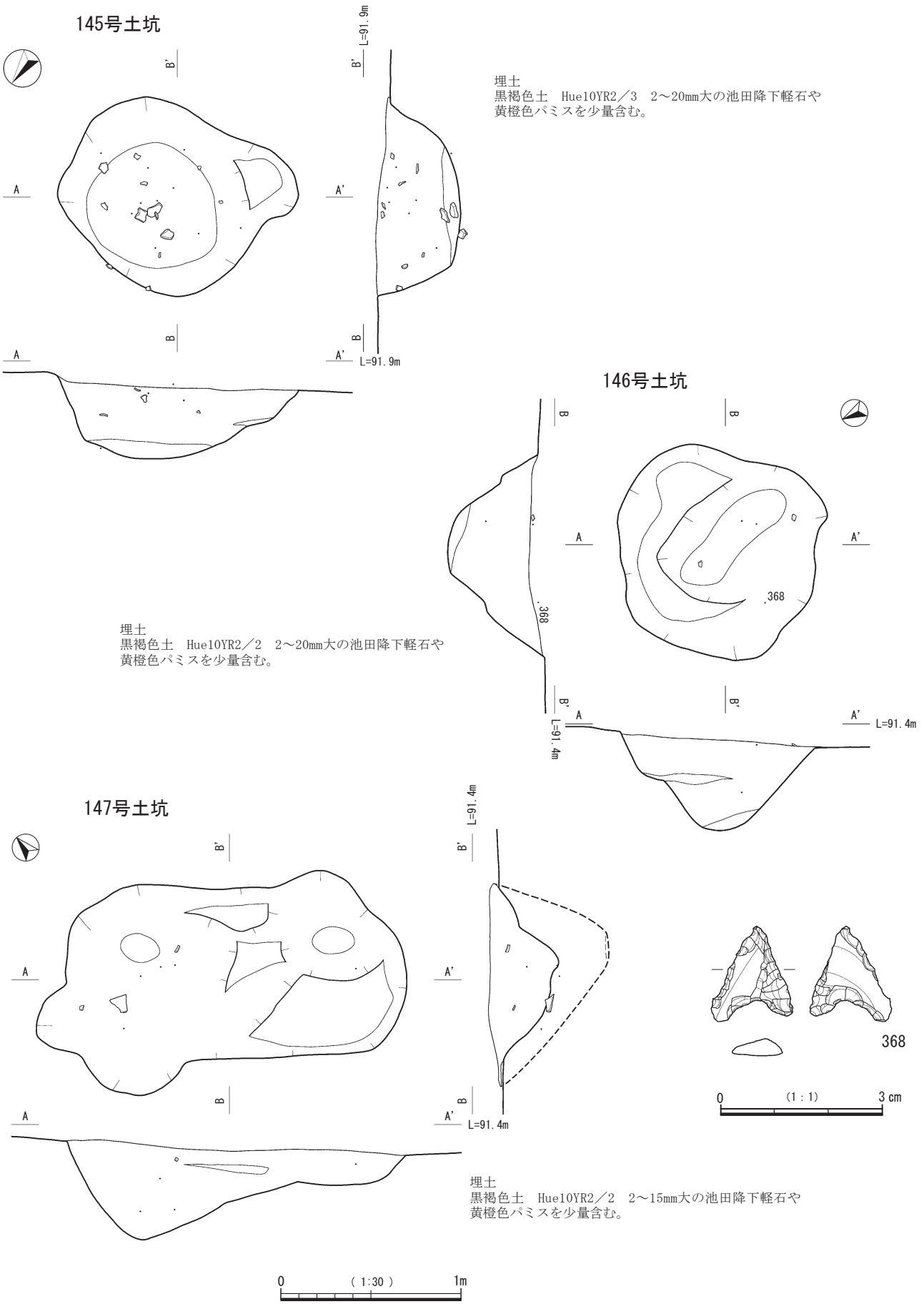
0　（1:30）　1m



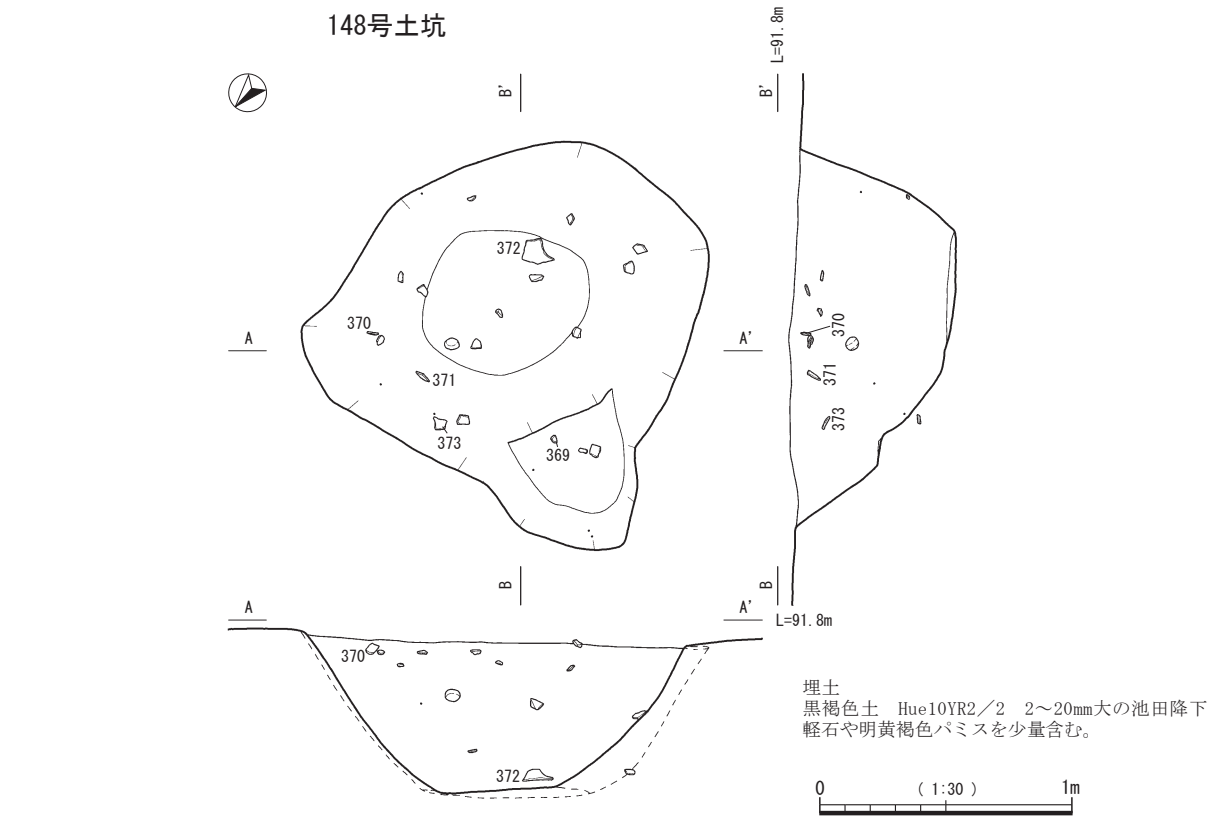


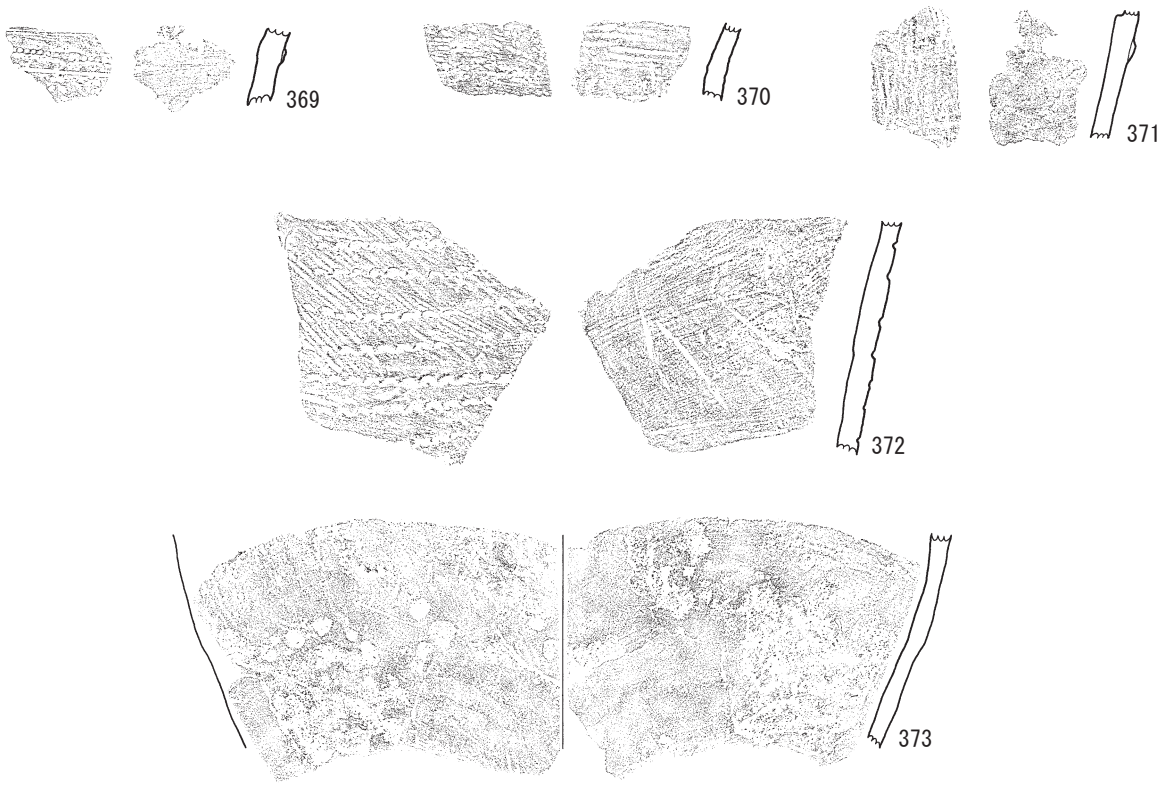
0　（1:3）　10 cm

第103図　土坑82（143号・144号）

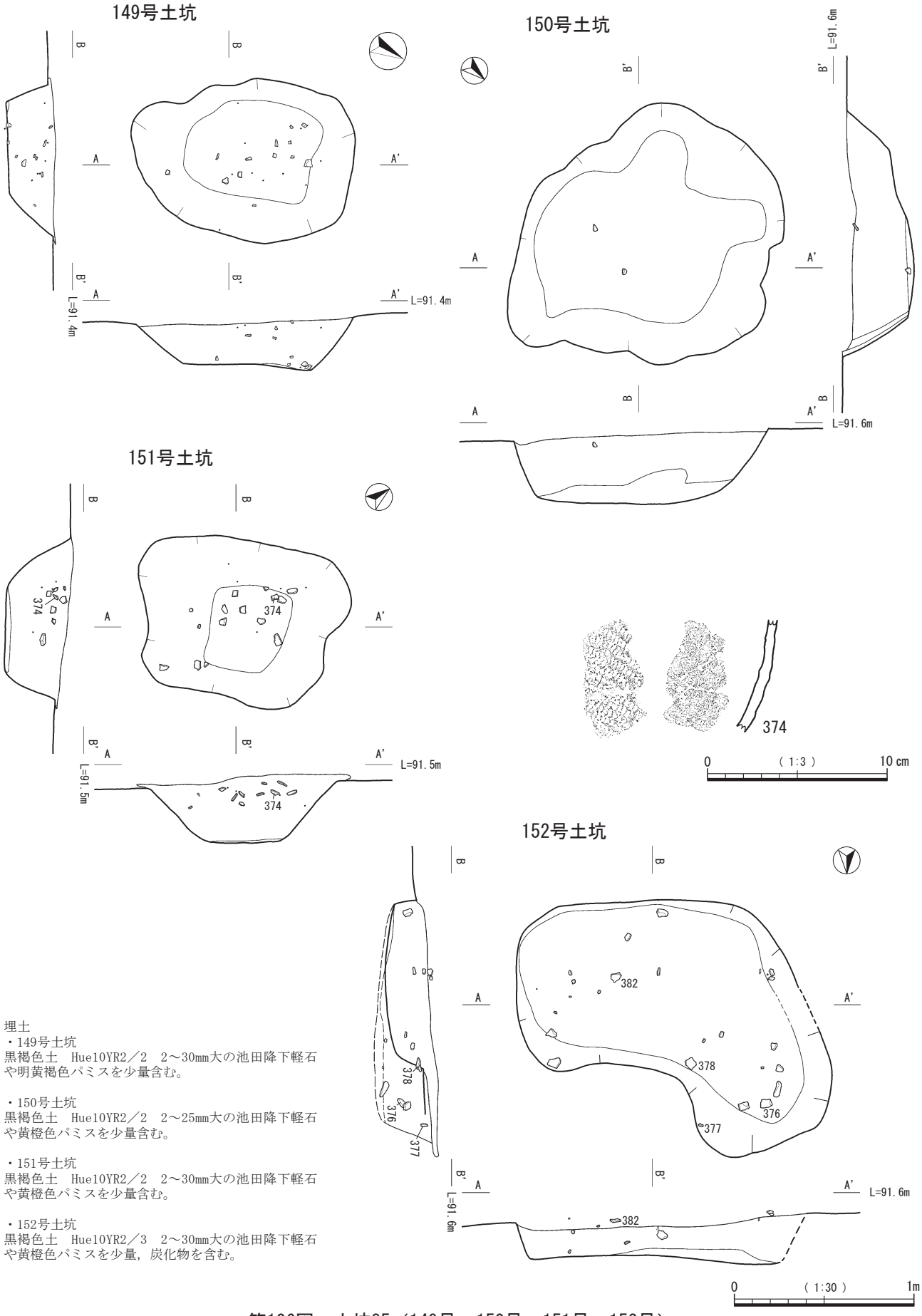


第104図　土坑83（145号・146号・147号）





第105図　土坑84（148号）



埋土
・149号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石や明黄褐色パミスを少量含む。

・150号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～25mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

・151号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量含む。

・152号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～30mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

第106図　土坑85（149号・150号・151号・152号）

けている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。356は底部に近い胴下半部付近である。外面はナデを行っており，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。357は外面に斜位の微隆線状の突帯を貼り付けている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。358は胴部である。外面に縦位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。359は底面は欠損しているものの，丸底の底部と考えられる。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。360は黒曜石Ⅱ類製の石鏃である。脚部の先端は尖らせており，基部の抉りは浅い。361は黒曜石Ⅱ類の石核である。約５㎝大の亜角礫を素材とする。

142号土坑（第102図）

Ｅ－22区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸198㎝，短軸151㎝，検出面からの深さは22㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器17点，石器３点，フレーク・チップ10点，礫６点が出土した。362は胴部であり，内外面ともナデを行っている。瘤痕状の剥落が確認できる。Ⅲ類土器である。363は尖底気味の安定を欠く丸底である。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。瘤痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。

（４）Ⅳ類　不定形

143号土坑（第103図）

Ｈ－15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸250㎝，短軸130㎝，検出面からの深さは50㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器９点，フレーク・チップ19点，礫５点が出土した。364は胴部である。外面に断面形態が三角形状の突帯を横位に施す。内面はナデを行っている。胎土に金色の雲母を含む。Ⅱ－１－②類土器である。

144号土坑（第103図）

Ｈ－15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸201㎝，短軸141㎝，検出面からの深さは53㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器30点，石器２点，フレーク・チップ30点，礫11点が出土した。365は口縁部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。366・367は胴部である。366は外面に突帯を横位に施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。367は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内面は瘤痕状の剥落が多く確認できる。Ⅲ類土器である。

145号土坑（第104図）

Ｇ・Ｈ－15・16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸132㎝，短軸106㎝，検出面からの深さは44㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器10点，石器１点，フレーク・チップ９点，礫３点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

146号土坑（第104図）

Ｈ－15区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸120㎝，短軸118㎝，検出面からの深さは50㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器２点，石器１点，フレーク３点が出土した。368は頁岩Ⅰ類製の石鏃である。裏面は主要剥離面を大きく残し，両側辺部は部分的に押圧剥離を施す。脚部の先端は丸く作り出す。

147号土坑（第104図）

Ｈ－15・16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸207㎝，短軸96㎝，検出面からの深さは52㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器２点，フレーク・チップ５点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

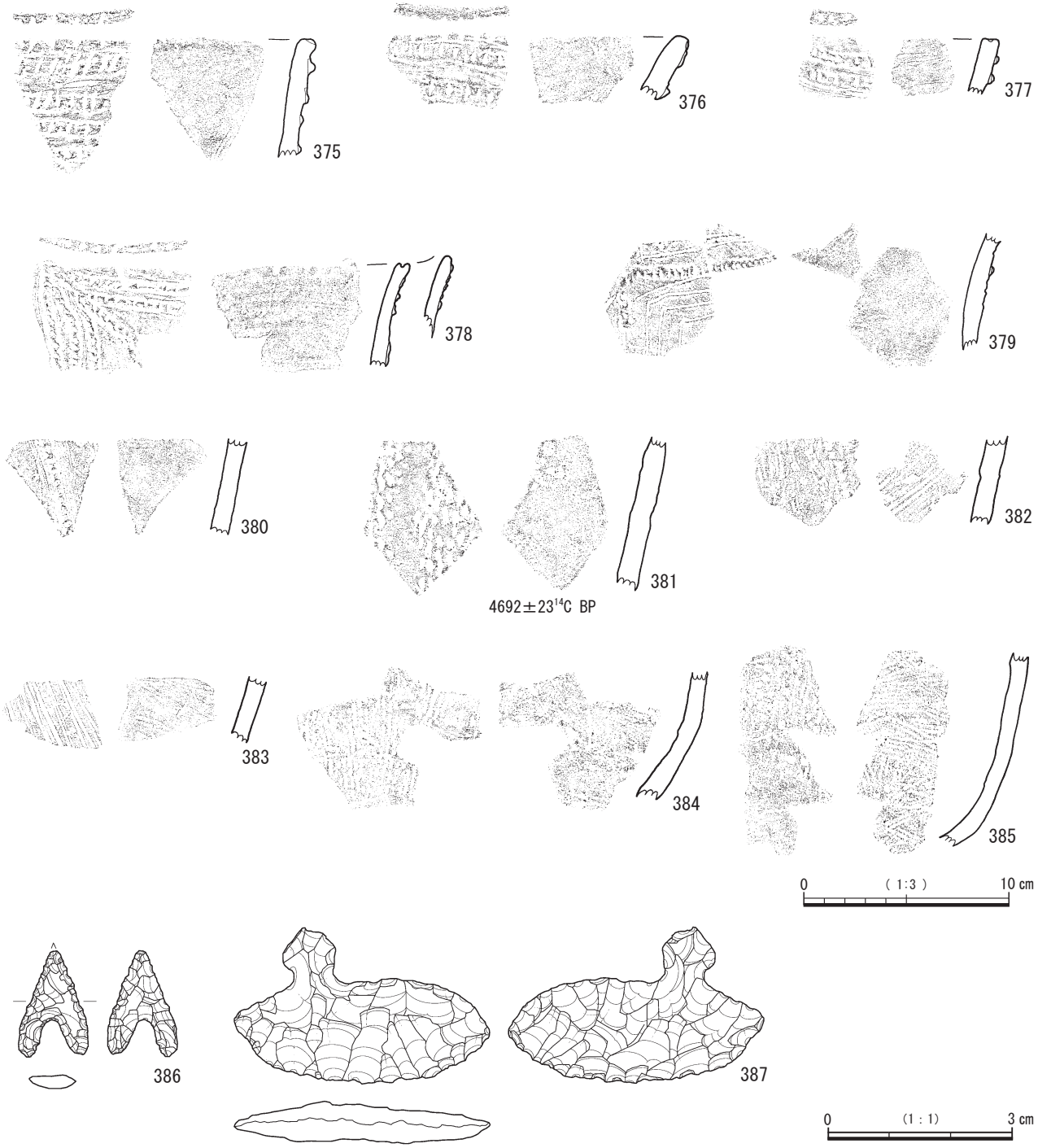
148号土坑（第105図）

Ｈ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸160㎝，短軸139㎝，検出面からの深さは62㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器16点，石器２点，フレーク・チップ５点，礫３点が出土した。369～373は胴部である。369は外面に微隆線状の突帯を横位に貼り付け，浅い刻目を入れている。突帯下には横位の沈線と刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。370は外面に微隆線状の突帯を部分的に貼り付ける。貝殻腹縁を使用した相交弧文も施す。胎土に軽石を含む。Ⅱ－１－②類土器である。371は外面に縦位，横位の突帯を貼り付ける。内面はナデを行っている。胎土に赤色粒子を含む。Ⅱ－１－②類土器である。372は外面に斜位の条痕を施した後，横位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。373は137号土坑の出土土器と接合した。内外面とも丁寧なナデを行っている。Ⅲ類土器である。

149号土坑（第106図）

Ｈ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸125㎝，



第107図　土坑86（152号出土遺物）

短軸90cm，検出面からの深さは27cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器10点，石器１点，フレーク・チップ10点，礫３点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

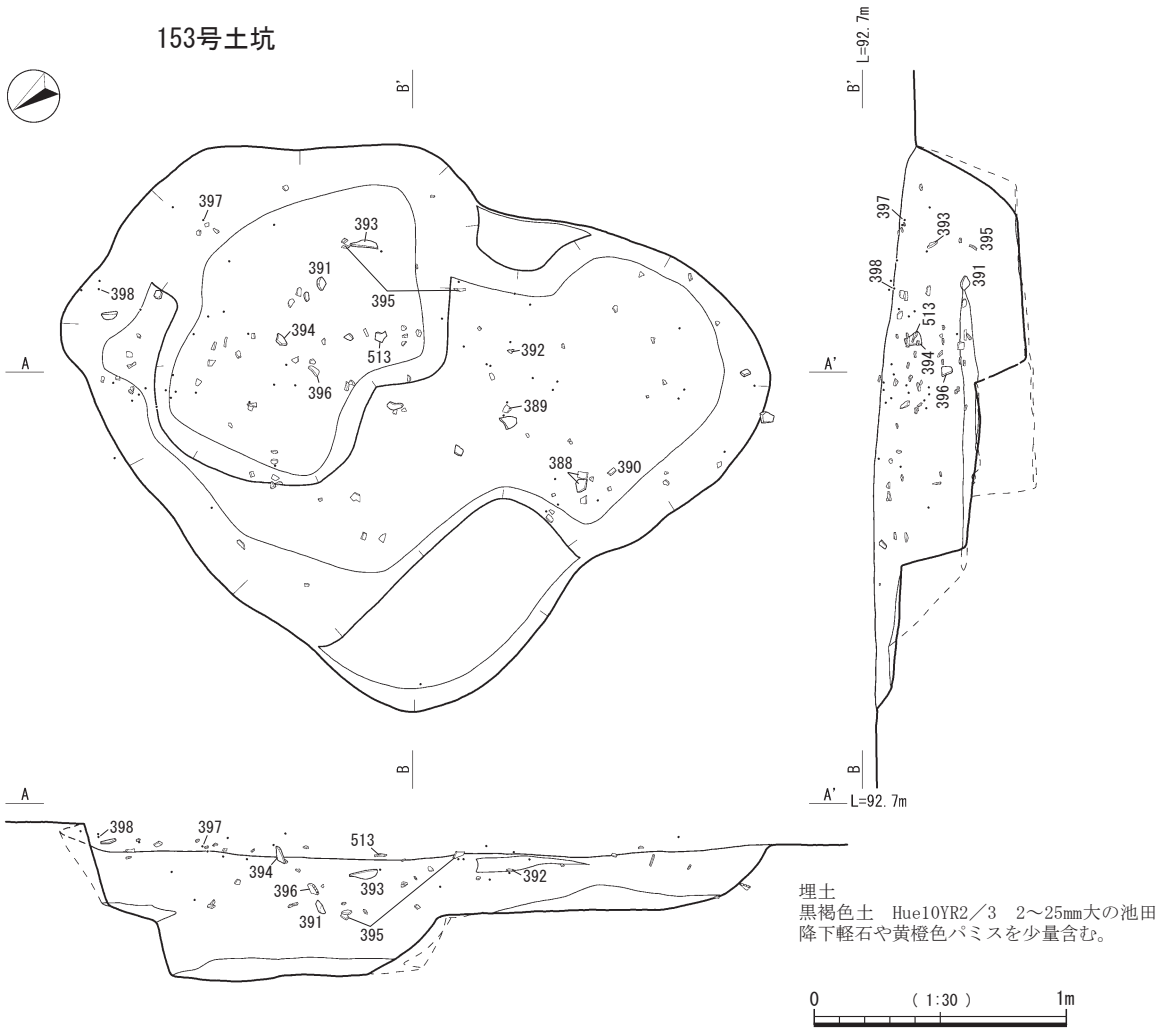
150号土坑（第106図）

Ｈ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸166cm，短軸132cm，検出面からの深さは38cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位及び下位から土器１点，礫１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

151号土坑（第106図）

Ｈ－16区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸119cm，短軸95cm，検出面からの深さは33cmを測る。断面形状は



第108図　土坑87（153号）

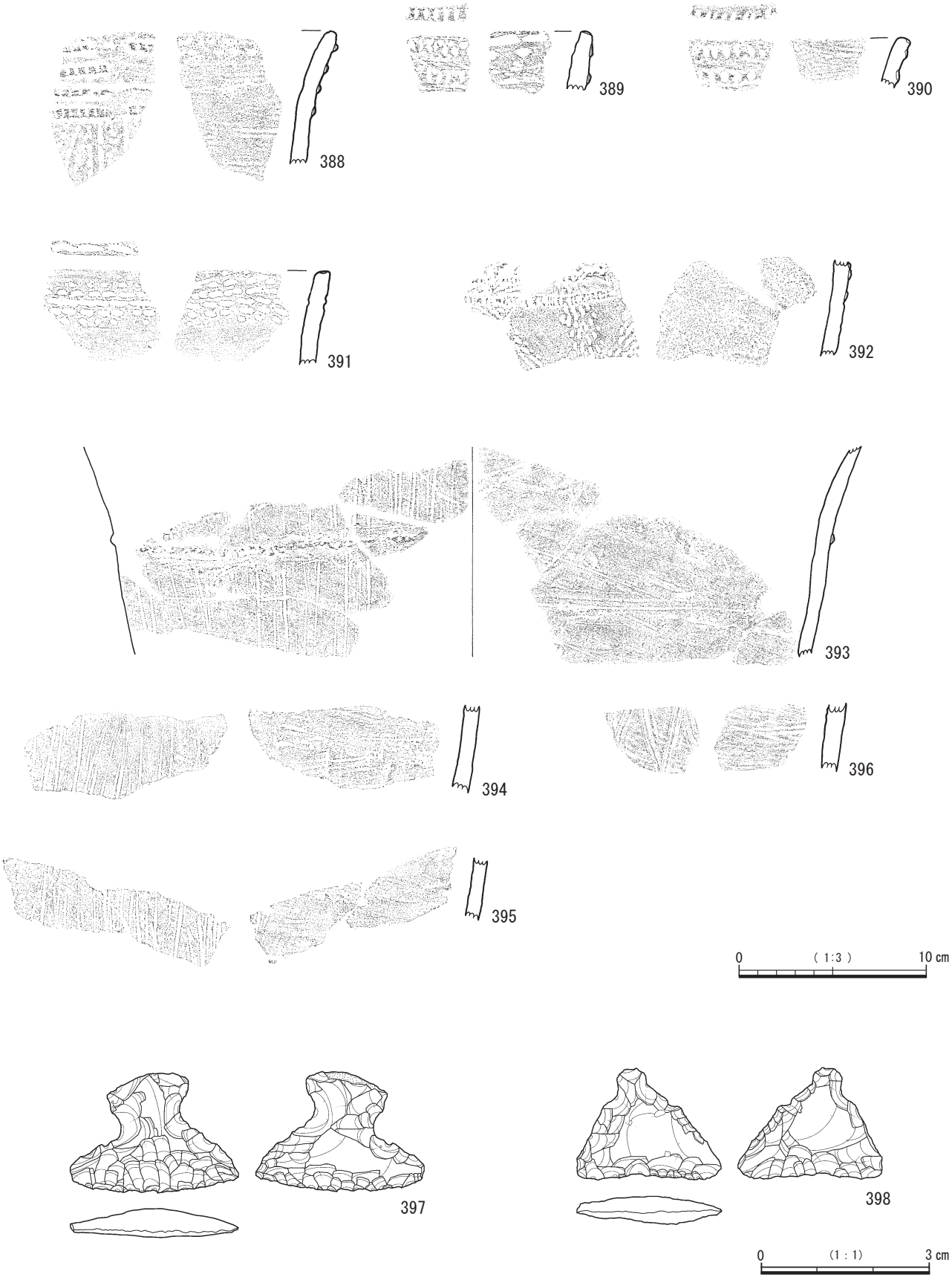
鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器13点，石器１点，フレーク４点，礫２点が出土した。374は胴部である。外面は単節縄文ＲＬを横位に施している。内面はナデを行っている。Ⅳ類土器である。

152号土坑（第106・107図）

Ｈ－17区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸188㎝，短軸98㎝，検出面からの深さは28㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器17点，フレーク１点，礫５点，炭化物１点が出土した。375～378は口縁部である。375は口唇部直下から口縁部外面にかけて横位の突帯を５段貼り付け，ヘラ状工具で器面に及ぶような深い縦長の刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。376は外面に横位の刻目突帯を施している。口唇部外端に刻目を入れている。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。377は外面に横位の刻目突帯を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。378は137号土坑の出土土器と接合した。緩やかな波状口縁を呈する。波頂部より縦位の突帯を貼り付けた後，横位，斜位の突帯を貼り付け，刻目を入れている。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。379～383は胴部である。379は外面に横位，縦位の刻目突帯を施し，浅い沈線で方形のモチーフを描いている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。380は外面に縦位の刻目突帯を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。381は外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。382は外面に間隔の短い斜位の押引状の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に砂粒，金色の雲母を含む。Ⅱ－２－①類土器である。383は外面に斜位の沈線を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。384・385



第109図　土坑88（153号出土遺物）

は胴部下半から底部付近である。外面は縦位の刺突を施し，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。386はチャート製の石鏃である。側縁部は細かい鋸歯状になる。脚部の先端は丸く作り出し，基部の抉りもやや深い。387はチャート製の石匙である。刃部は弧状となる。なお，386・387は遺構内一括遺物である。

また，埋土中から出土した381の土器付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4692±23^{14}C BPの値が得られた（YU-9997）。

153号土坑（第108・109図）

Ｇ・Ｈ－18区Ｖa～Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸226㎝，短軸186㎝，検出面からの深さは59㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器82点，石器６点，フレーク・チップ47点，軽石製品１点，礫９点が出土した。388～391は口縁部である。388は外面に横位の刻目突帯を施した後，縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。389は外面に横位の刻目突帯を施し，口唇部には刻目を入れている。内面には押引状の長い刺突と短い刺突を横位に施す。Ⅱ－１－①類土器である。390は外面に突帯を貼り付け，器面に及ぶような深い刻目を入れている。口唇部外端に刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。391は内外面とも横位の相交弧文を施す。口唇部には棒状工具で長めの刺突を施している。Ⅱ－２－①類土器である。392～395は胴部である。392は外面に突帯を貼り付け，器面に及ぶような深い刻目を入れている。口唇部外端に刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。393～395は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。また，393は62号土坑の出土土器と接合した。外面は縦位の沈線を施した後，横位の微隆線状の突帯に刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。396は内外面とも貝殻条痕を施した後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。397・398は黒曜石Ｖ類製の石匙である。397は刃部に対してつまみ部が大きい。398は表裏面とも主要剥離面を残し，刃部は直線的である。

154号土坑（第110図）

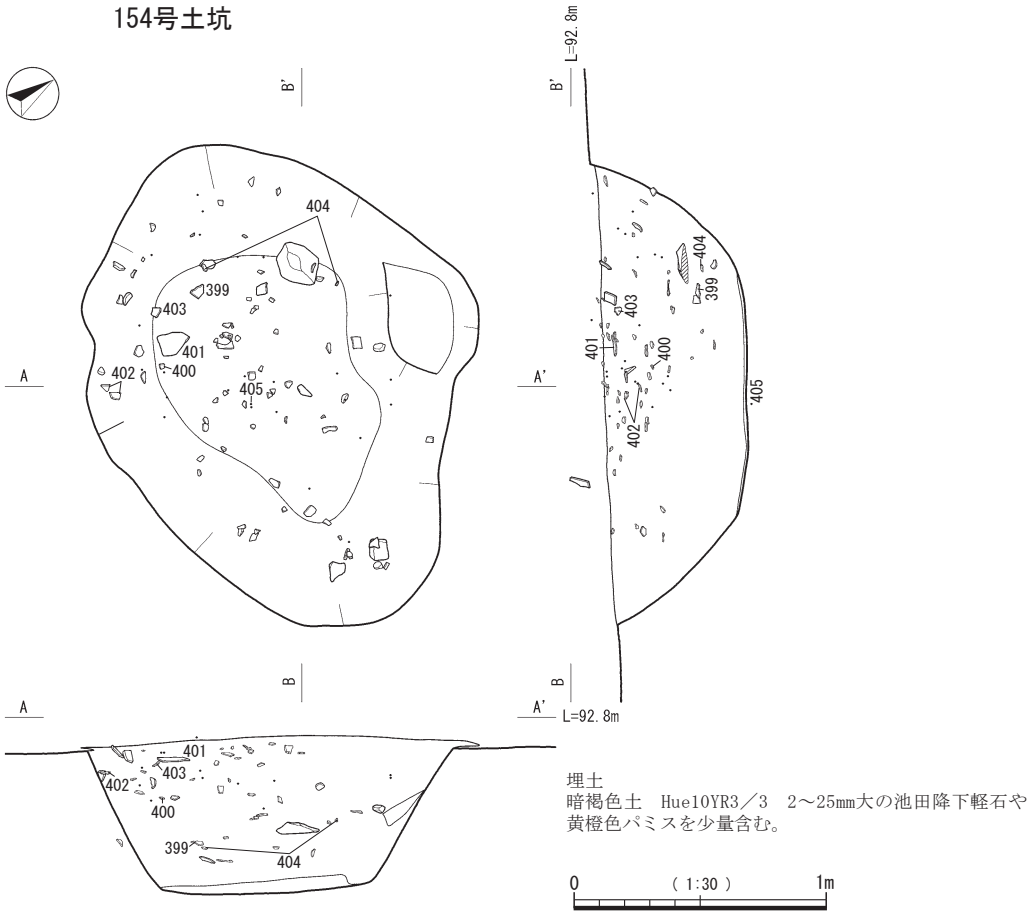
Ｇ・Ｈ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸201㎝，短軸154㎝，検出面からの深さは57㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

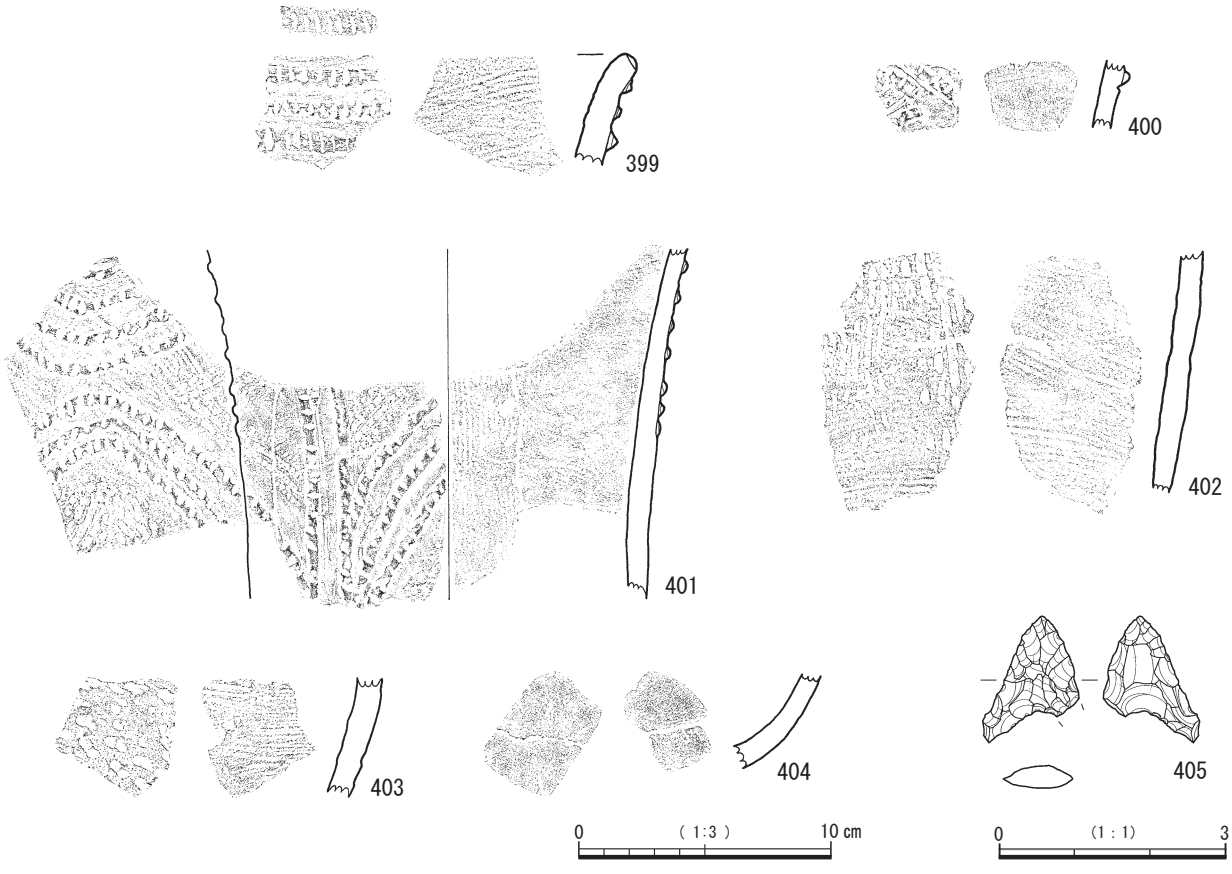
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器61点，石器８点，フレーク・チップ24点，軽石製品２点，礫13点が出土した。399は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部外端に縦長の刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。400～403は胴部である。400は外面に斜位の刻目突帯を施す。内面はナデを行っている。胎土に白色粒子のほか，ガラス質で黒色を呈する，黒曜石のような粒を含む。Ⅱ－１－①類土器である。401は外面には縦位の突帯を２列貼り付けて，器面を割り付けた後，突帯を重弧状に上下対称となるように貼り付け，刻目を入れている。重弧状の刻目突帯付近には，斜位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。402・403は外面に縦位，斜位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。404は底面は欠損しているものの，丸底の底部と考えられる。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。405は玉髄Ⅰ類製の石鏃である。脚部の先端は方形に作り出し，基部の抉りは三角形状を呈する。

155号土坑（第111・112図）

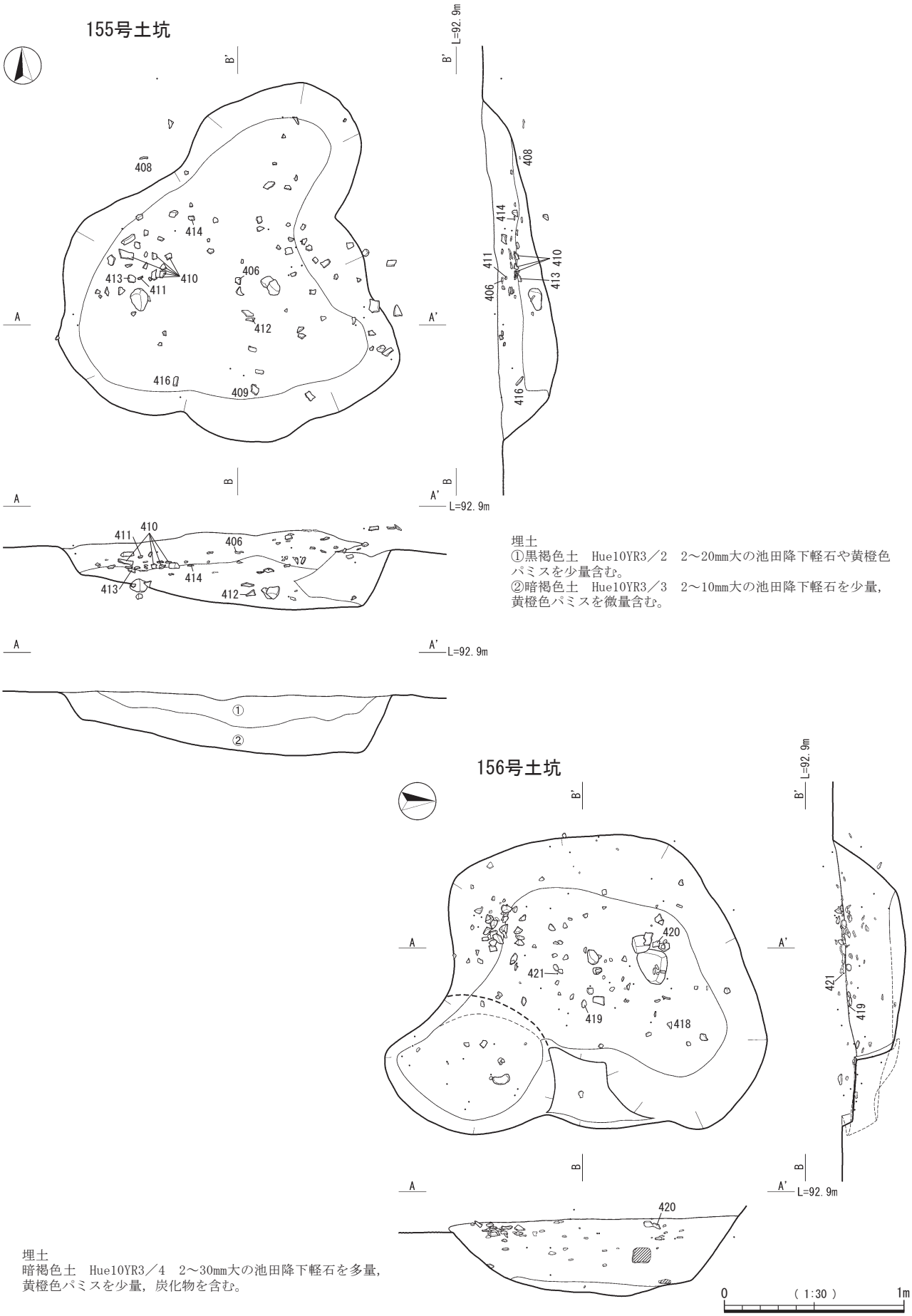
Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。156号土坑に隣接する。複数の土坑の切り合いが想定されるが，埋土から判別できなかった。大きさは長軸208㎝，短軸180㎝，検出面からの深さは33㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器64点，石器１点，フレーク・チップ21点，軽石製品１点，礫20点が出土した。406・407は口縁部である。406は外面に横位の刻目突帯を施している。口唇部には刻目を入れている。内面は横位の刺突を施している。Ⅱ－１－①類土器である。407は外面に横位の刻目突帯を施している。口唇部外端には刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。408～417は胴部である。408は外面に２本１単位の縦位の刻目突帯を施した後，斜位の刻目突帯を施す。刻目突帯に沿って沈線も施される。内面は横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。409・410は外面に横位の刻目突帯を施した後，縦位の沈線を施している。内面は409はナデを行っており，410は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。411は縦位の刻目突帯を施した後，斜位の沈線を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。412～415は外面に縦位や斜位の刺突を施す。器面調整はナデもしくは，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。416は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。417は外面に沈線を格子状に施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。





第110図　土坑89（154号）



第111図　土坑90（155号・156号）

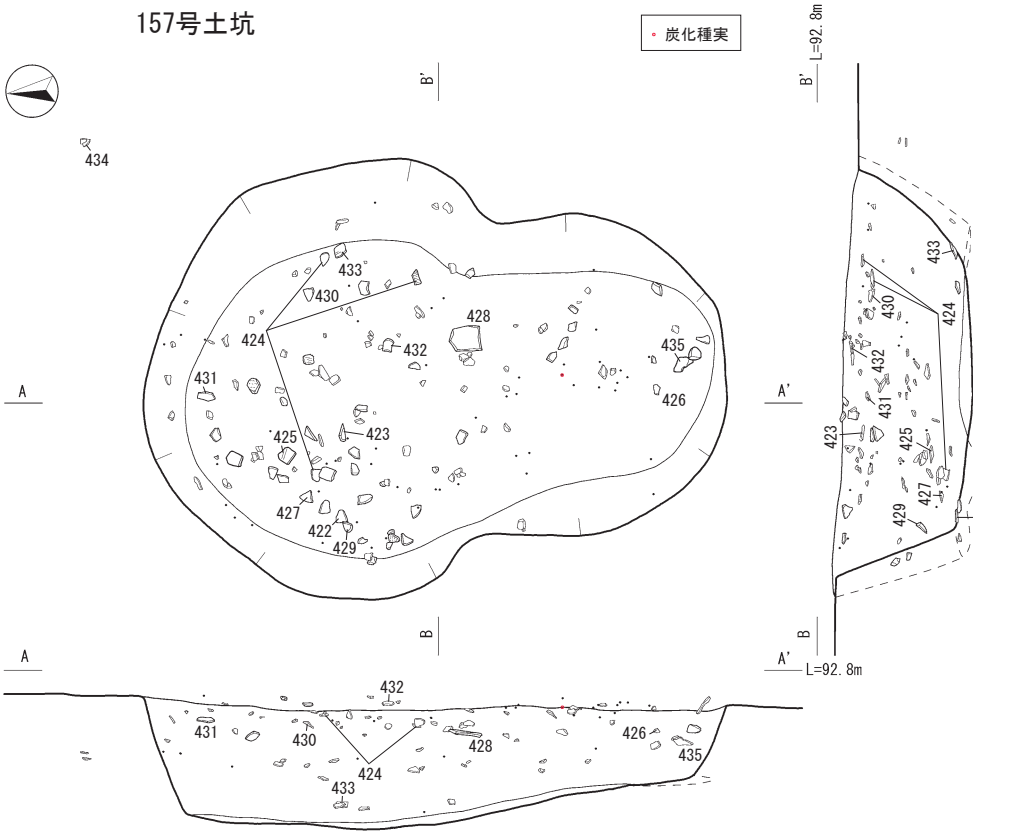


第112図　土坑91（155号・156号出土遺物）

156号土坑（第111・112図）

Ｇ・Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。155号土坑に隣接する。複数の土坑の切り合いが想定され，破線で区切っている南東側は，北西側と比べるとやや掘り込みが浅いため，南東側と北西側の２つの土坑の切り合いの可能性もあるが，埋土から判別できなかった。大きさは長軸201㎝，短軸173㎝，検出面からの深さは43㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器66点，石器４点，フレーク・チップ53点，軽石製品２点，礫39点，炭化物２点が出土した。418～420は胴部である。418は外面は横位の刻目突帯を施している。内面はナデを行っている。内外面とも痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。419は外面に縦位の突帯を貼り付けている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。420は外面に斜位の刺突を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。421は黒曜石Ｖ類製の石匙である。刃部に対してつまみ部が大きく，刃部は弧状となる。また，156号土坑からは頁岩Ⅳ類の剥片が28点出土し，土坑の南西側に集中していた。



埋土
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石を多量，
黄橙色パミス少量を含む。

第113図　土坑92（157号）

157号土坑（第113・114図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸230cm，短軸174cm，検出面からの深さは51cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器102点，石器５点，フレーク・チップ35点，礫23点，炭化物３点が出土した。422・423は口縁部である。422は外面に横位の刻目突帯を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。423は85号土坑及び166号土坑の出土土器と接合した。外面に横位の刺突を施した後，縦位，斜位の刺突を施したと考えられる。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は横位の刺突を施している。Ⅱ－２－①類土器である。424～435は胴部である。424は外面に，縦位の刻目突帯を中心に縦長の円弧状の刻目突帯を施し，内部を沈線で充填している。内面には横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。425～427は外面に横位や縦位，弧状の刻目突帯を施し，刻目突帯に沿って沈線を施している。内面はナデを行っており，426は横位の刺突を施す。外面から穿孔を加えた補修孔を確認できるが，貫通していない。Ⅱ－１－①類土器である。428は18号土器集中の出土土器や包含層出土土器と接合した。外面に横位の刻目突帯を施し，胴半部にかけて，縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。429は外面に微隆線状の突帯を縦位に貼り付け，突帯に沿って沈線を施す。部分的に刺突も確認できる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。430は外面に縦位の突帯を貼り付けた後，沈線を横位，縦位に施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。431～433は外面に縦位や斜位の刺突を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。434は外面に竹管による刺突を行っている。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。435は外面に条痕を斜格子状に施している。内面はナデを行っている。Ⅲ類土器である。

埋土上位から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，コナラ属の子葉が確認された。

158号土坑（第115・116図）

Ｈ－19区Ｖa層上面で検出した。複数の土坑の切り合

いが想定されるが，埋土から判別できなかった。大きさは長軸403cm，短軸270cm，検出面からの深さは26cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器73点，石器７点，フレーク・チップ55点，礫12点，炭化物７点が出土した。436は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。口縁部内面に横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。437～442は胴部である。437は外面に横位の刻目突帯，刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。438は外面に２本１単位の縦位の刻目突帯を施した後，横位の刻目突帯を施す。縦位の刻目突帯下から縦位の刺突を施し，その左右に斜位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。437・438はⅡ－１－①類土器である。439～441は外面に縦位や斜位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。442は外面に斜位の条痕を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。443は尖底気味の安定を欠く丸底である。外面は縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。444は黒曜石Ⅱ類製の二次加工剥片である。445はホルンフェルス製の敲石である。長さ約13cmの柱状の円礫を素材とする。

159号土坑（第115・116図）

Ｈ－19・20区Ｖb層上面で検出した。大きさは長軸205cm，短軸130cm，検出面からの深さは72cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器38点，フレーク・チップ19点，礫13点，炭化物１点が出土した。446は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。447～451は胴部である。447は外面に横位の突帯を貼り付け，器面に及ぶような深い縦長の刻目を入れている。内面は横位の刺突を施している。Ⅱ－１－①類土器である。448～450は外面に縦位や斜位の刺突を施し，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。449は痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。451は外面に貝殻の腹縁部を器面に対して水平に当て，刺突線文状の刺突を縦位に施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土にガラス質で黒色を呈する，黒曜石のような粒を含む。Ⅱ－２－②類土器である。

160号土坑（第117図）

Ｈ・Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸171cm，短軸159cm，検出面からの深さは46cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器54点，石器４点，フレーク・チップ15点，礫19点が出土した。452は62号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。452は口縁部であり，外面に縦位の刺突を施し，口唇部外端に刻目を入れている。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。453～458は胴部である。453は外面に横位の刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。454は外面に横位の刻目突帯を施した後，斜位の刺突を施している。内面はナデを行っている。453・454はⅡ－１－①類土器である。455・456は外面に微隆線状の突帯を縦位に貼り付け，内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。457は外面に斜位の刺突を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。458は胴部下半付近である。内外面とも条痕を不規則に施している。内面には指おさえ痕が確認できる。Ⅲ類土器である。459は尖底気味の安定を欠く丸底である。外面は縦位，斜位の条痕を施す。内面はナデを行っている。Ⅲ類土器である。460は外面に単節縄文ＲＬを縦方向に施している。内面はナデを行っている。Ⅳ類土器である。

161号土坑（第118図）

Ｉ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸128cm，短軸120cm，検出面からの深さは59cmを測る。遺構の南西側は先行トレンチにより削平されている為，上端の推定線を破線で表す。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土中位から土器９点，フレーク４点，礫１点，炭化物11点が出土した。461は胴部である。外面に微隆線状の突帯を縦位に施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

162号土坑（第118図）

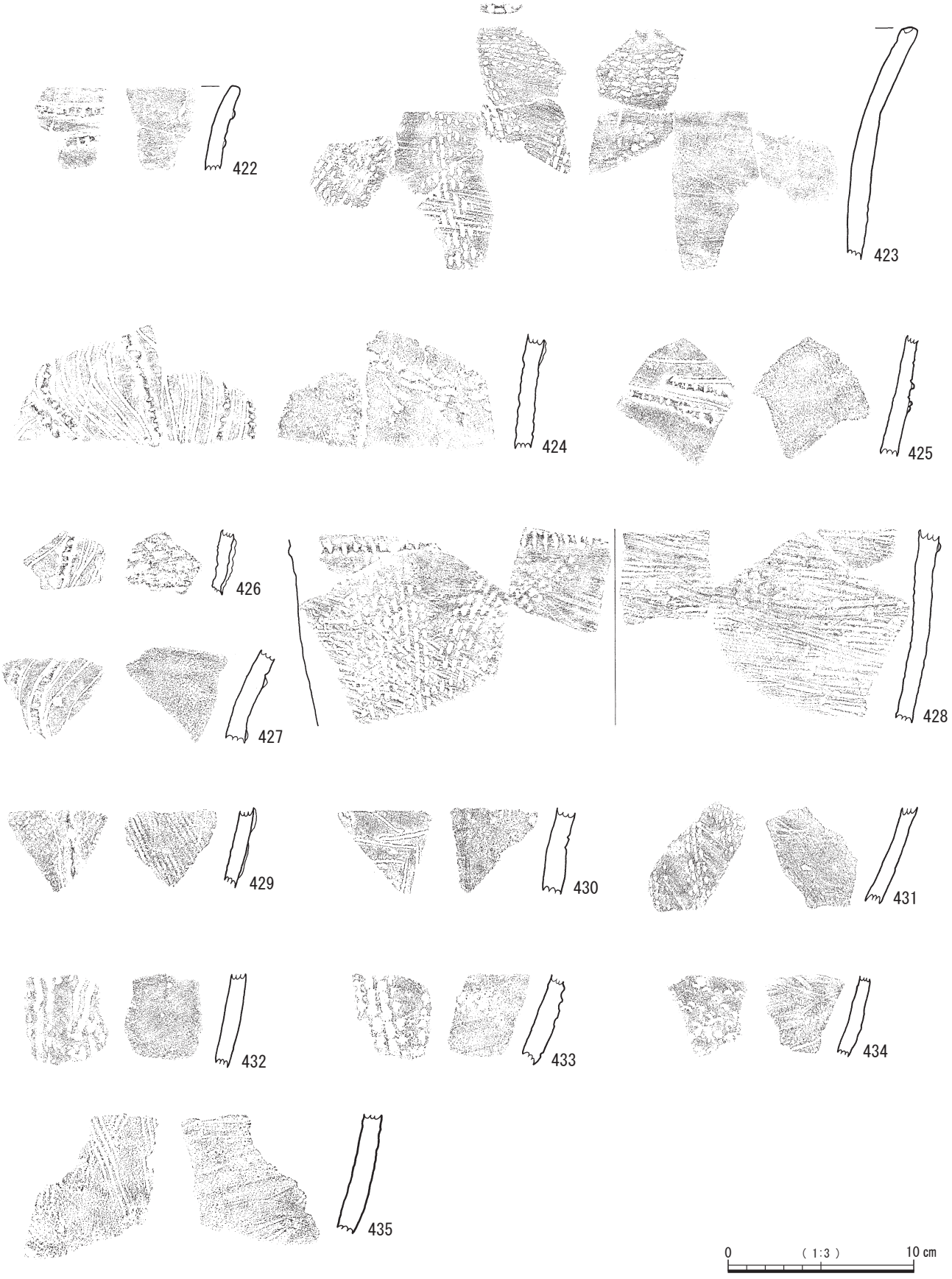
Ｉ・Ｊ－18区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸125cm，短軸108cm，検出面からの深さは12cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器７点，石器１点，フレーク・チップ２点，礫１点が出土した。462は胴部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

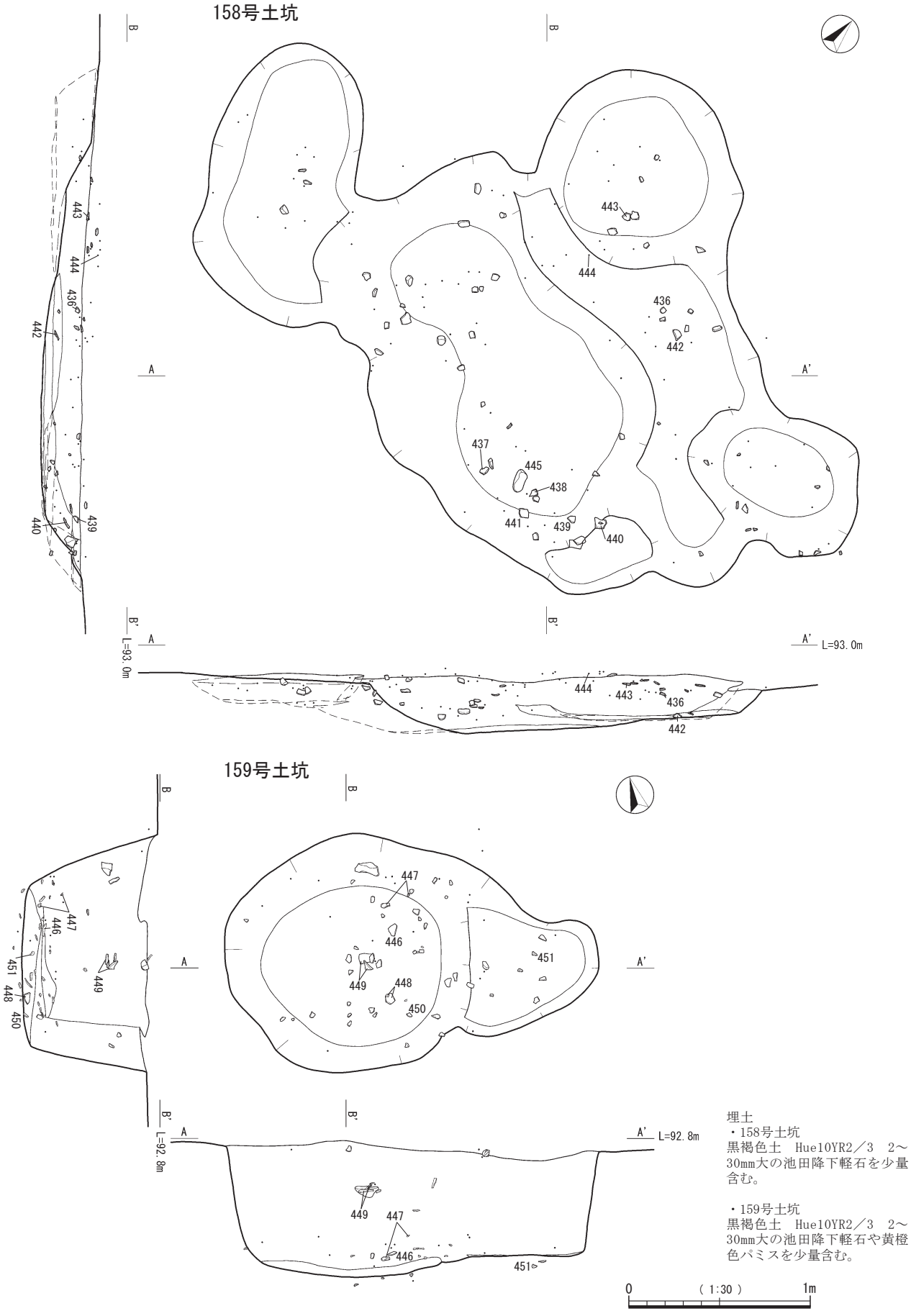
163号土坑（第119図）

Ｉ－19区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸143cm，短軸73cm，検出面からの深さは15cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

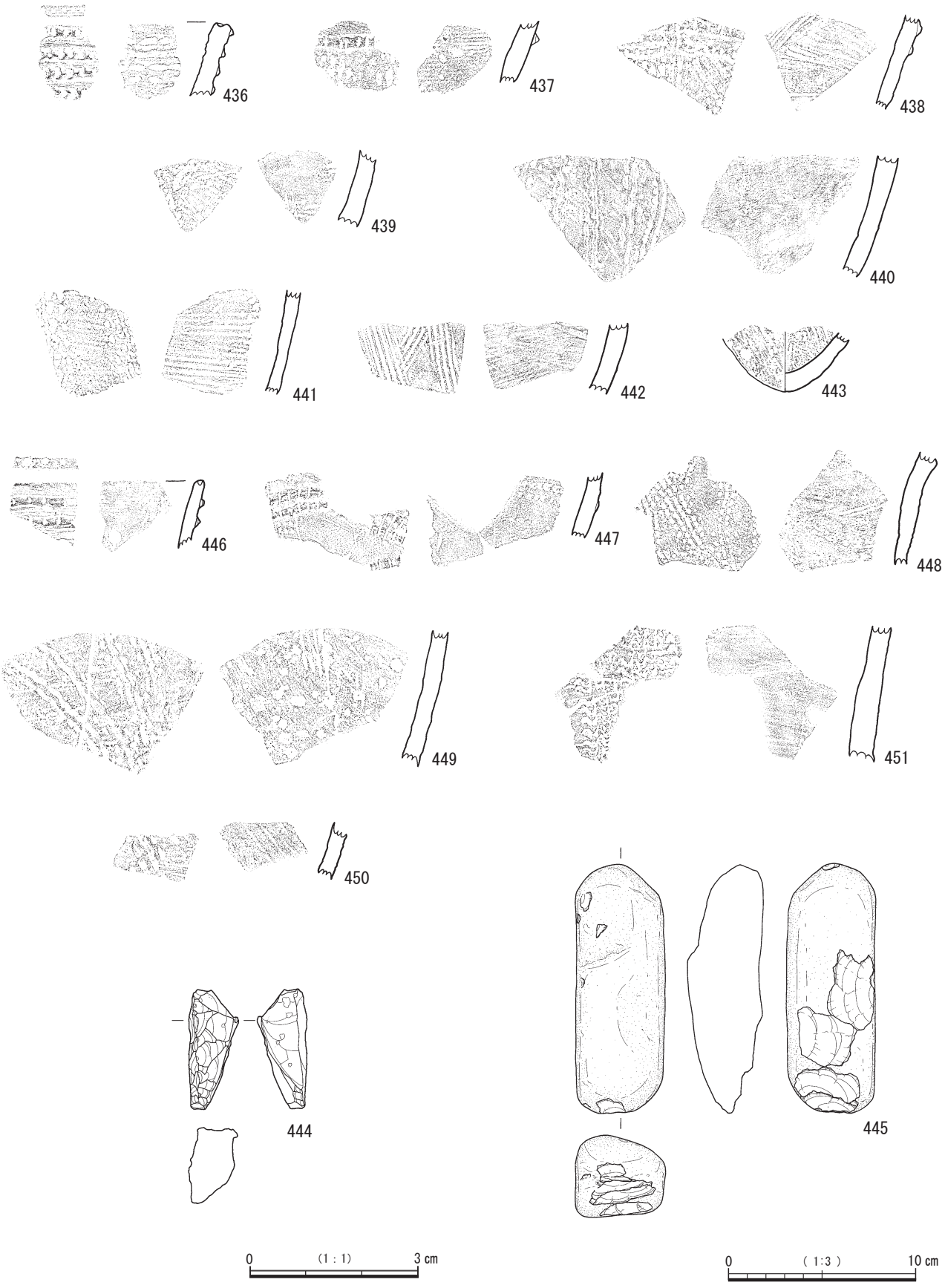
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器11点，石器１点，フレーク・チップ14点，礫６点，炭化物１点が出土した。463は胴部である。外面に微隆線状の突帯を斜位



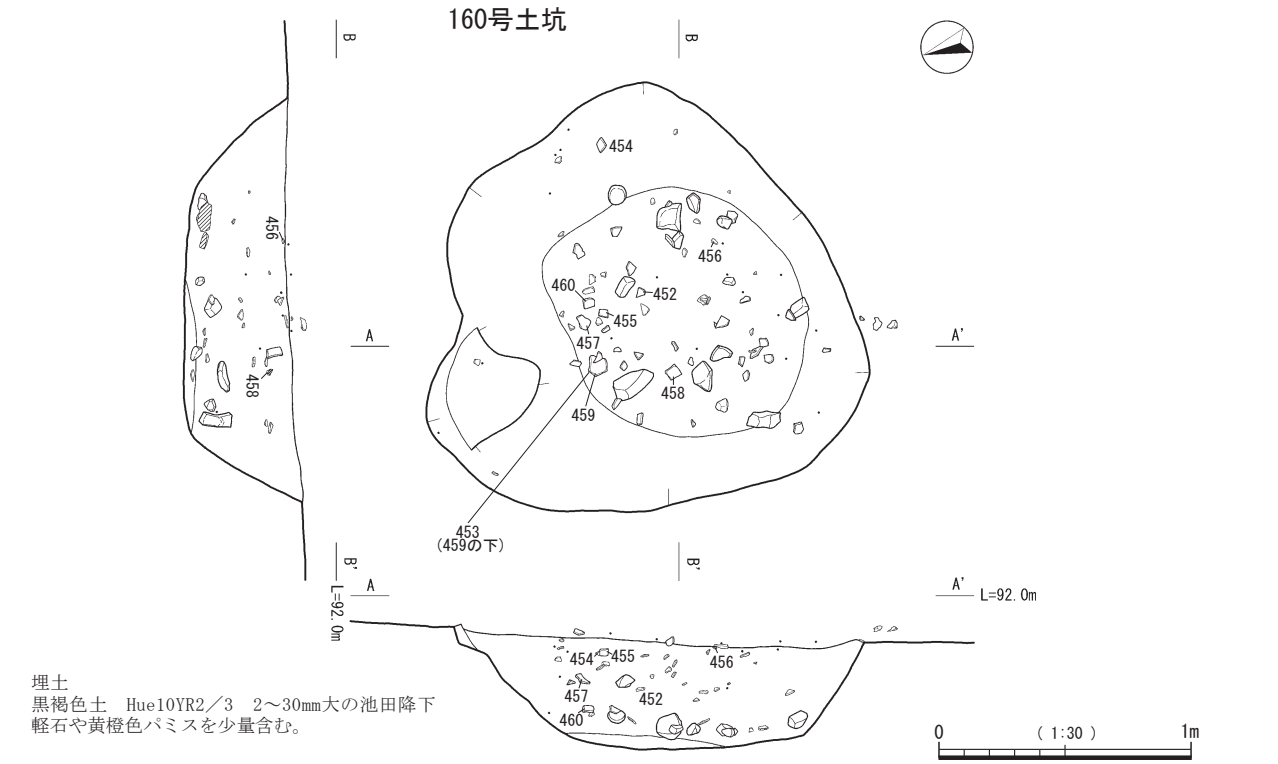
第114図　土坑93（157号出土遺物）

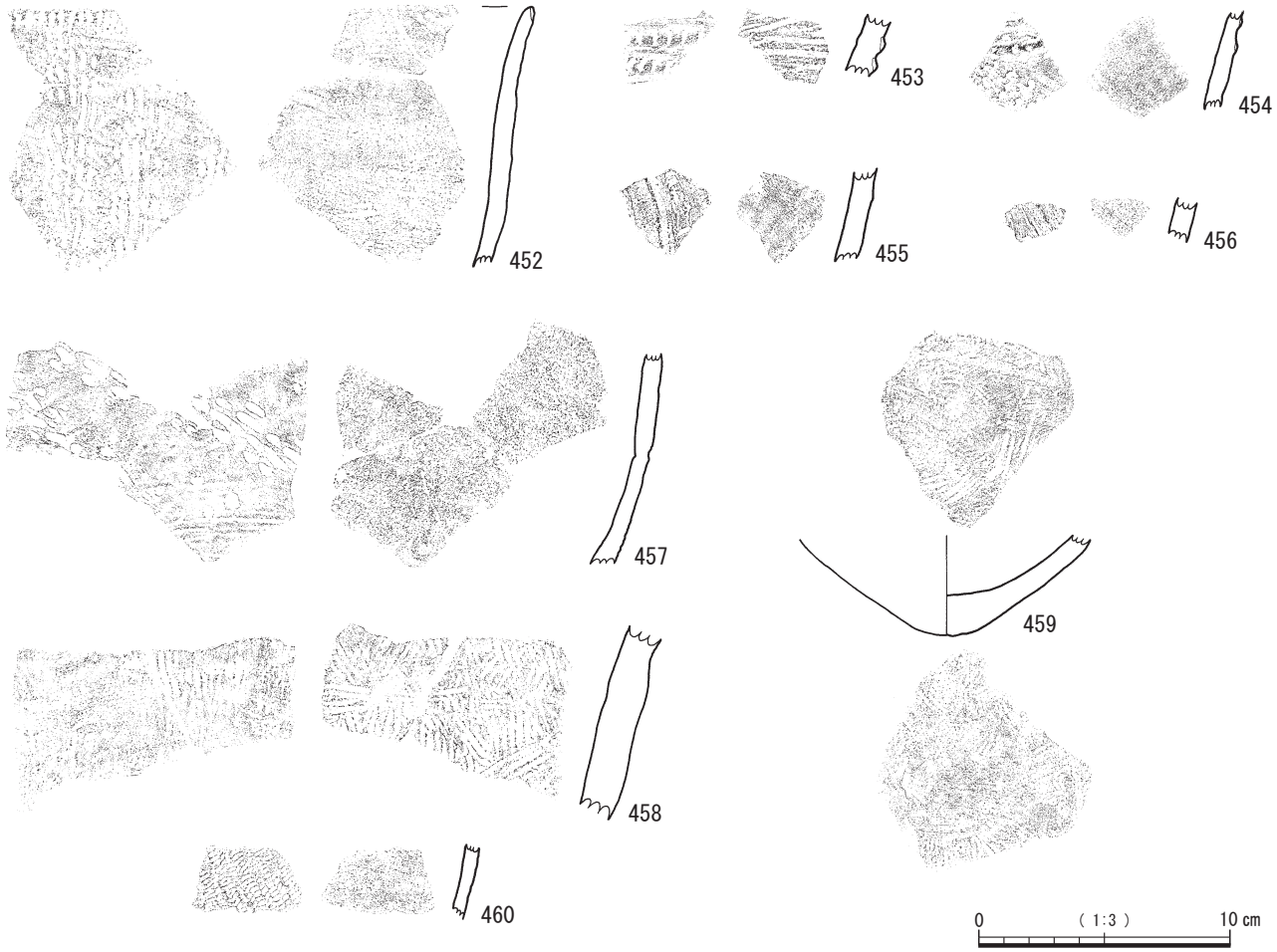


第115図　土坑94（158号・159号）

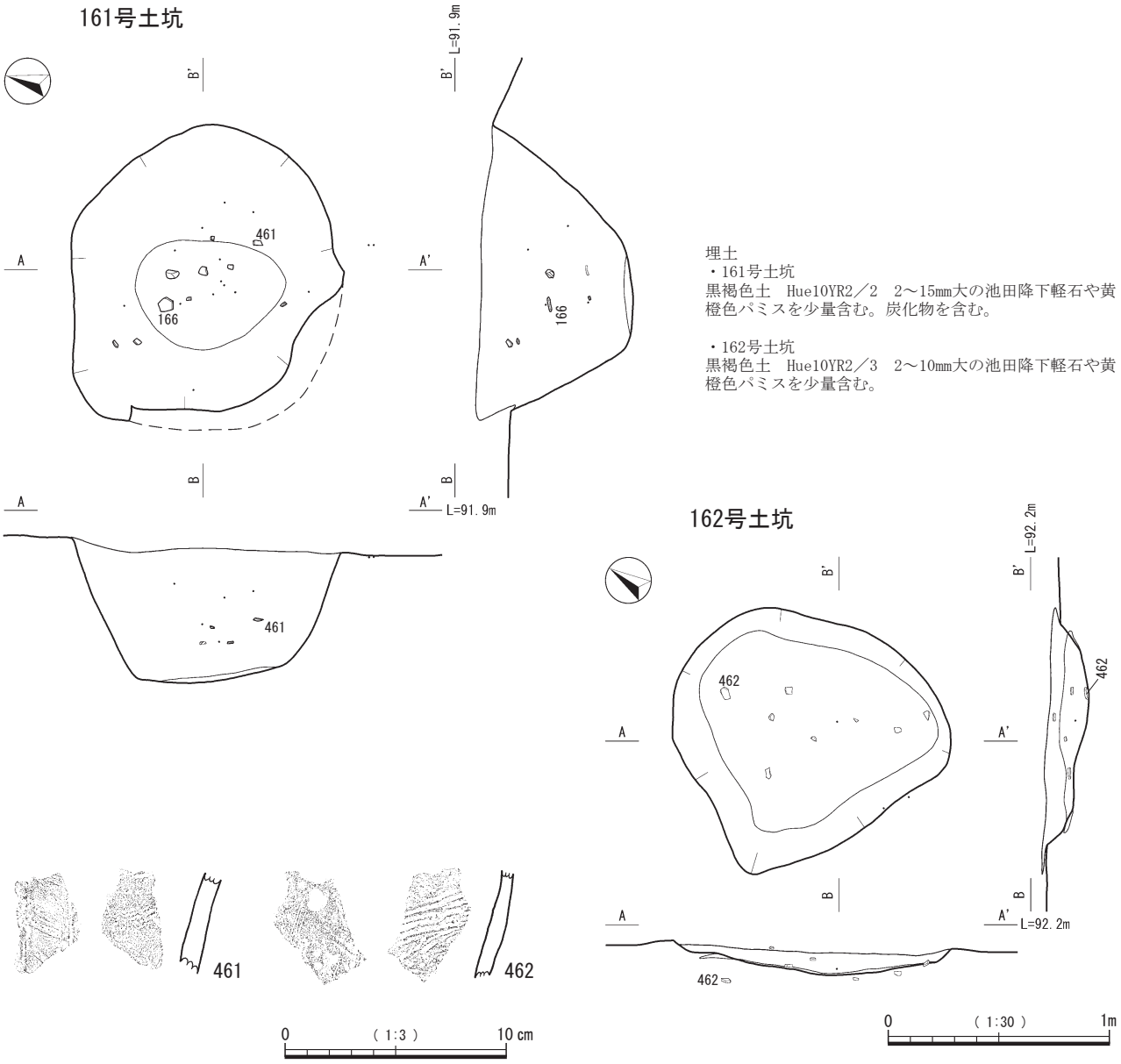


第116図　土坑95（158号・159号出土遺物）





第117図　土坑96（160号）



第118図　土坑97（161号・162号）

に施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

164号土坑（第119図）

Ⅰ－19区Ⅴb層上面で検出した。２基の土坑の切り合いが想定されるが，埋土から判別できなかった。大きさは長軸127cm，短軸119cm，検出面からの深さは35cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器11点，石器１点，フレーク・チップ11点，礫２点が出土した。464～466は胴部である。464は外面に横位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。465は外面に縦位の相交弧文を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。466は外面に単節縄文ＲＬを縦方向に施した後，頸部付近に竹管による横位の刺突を行っている。内面はナデを行っている。Ⅳ－４類土器である。467は玉髄Ⅰ類製の石匙である。刃部は弧状を呈する。

165号土坑（第119図）

Ⅰ－19区Ⅴb層上面で検出した。大きさは長軸100cm，短軸79cm，検出面からの深さは10cmを測る。底面は掘りすぎの為，破線で表す。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器４点，フレーク・チップ５点，礫１点が出土した。468は胴部である。外面に縦位の刻目突帯を施している。内面は上端に刺突が確認でき，器面調整は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

166号土坑（第120図）

Ⅰ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸265㎝，短軸182㎝，検出面からの深さは40㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器35点，フレーク・チップ23点，礫３点が出土した。469は口縁部である。外面に横位の突帯を貼り付け，ヘラ状工具で器面に及ぶような深い刻目を入れている。刻目突帯下には斜位の刺突を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。470～472は胴部である。470は外面に斜位の刻目突帯，相交弧文を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。471は外面には，縦位の微隆線状の突帯と浅い沈線を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。472は154号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。胴下半部であり，外面は縦位の刺突を施し，底部に近い箇所は横位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。473は底面は欠損しているものの，丸底の底部と考えられる。外面に沈線を不規則に施している。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。

167号土坑（第121図）

Ⅰ・Ｊ－19区Ⅴa層上面で検出した。遺構の南東側は168号土坑に切られている。長軸側が168号土坑に切られているため，残存部分の大きさは長軸77㎝，短軸83㎝，検出面からの深さは12㎝を測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて礫１点，炭化物８点が出土した。

埋土中から出土した炭化物の種実同定を行ったところ，イチイガシの子葉及びコナラ属の子葉が確認された。

168号土坑（第121図）

Ⅰ・Ｊ－19区Ⅴa層上面で検出した。遺構の南西側は167号土坑を切っている。大きさは長軸143㎝，短軸136㎝，検出面からの深さは34㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器20点，石器３点，チップ４点，礫４点，炭化物132点が出土した。474は波状口縁の波頂部である。波頂部に粘土紐を円形に貼り付けた後，棒状工具で刺突を入れている。外面には，波頂部より縦位の刺突を施した後，斜位の刺突を施している。内面には横位の刺突を施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。475～478は胴部である。475・476は外面に斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。475は胎土に金色の雲母を含む。Ⅱ－２－①類土器である。477は胴下半付近である。外面に横位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。478は頸部から胴下半付近と考えられる。外面は縦位，斜位の刺突を施した後，縦位，斜位の刺突間を埋めるように，蛇行する刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。479は丸底の底部である。外面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内面は貝殻条痕調整後，丁寧なナデで条痕をナデ消している。Ⅲ類土器である。480は安山岩Ⅲ類製の磨・敲石である。表裏面にも敲打による凹みが見られる。

また，底面近くから出土した炭化種実で年代測定を実施したところ，未補正で4641±31^{14}C BP，及び4550±29^{14}C BPの値が得られた。

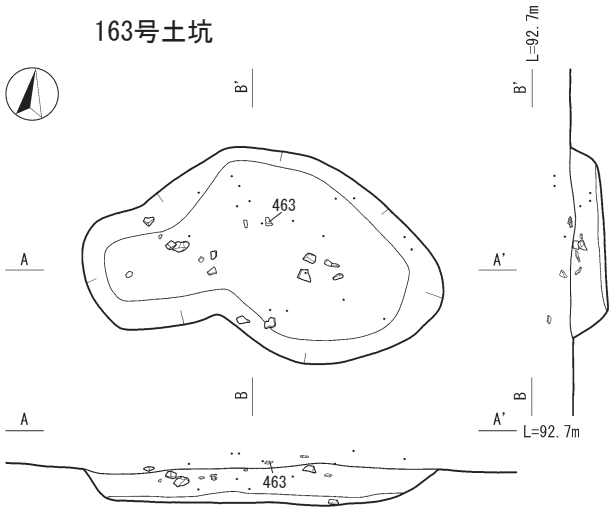
埋土中から多くの炭化種実が出土した為，１点ずつ取り上げたものについて種実同定を行ったところ，イチイガシの子葉やコナラ属の子葉，アカガシ亜属（イチイガシ？）の果実が確認された。

169号土坑（第122～125図）

Ⅰ－18・19区Ⅴa層上面で検出した。複数の土坑の切り合いが想定されるが，埋土から判別できなかった。遺構の南西側は平面形状から170号土坑を検出した。170号土坑とも切り合いが想定されるが，埋土からは判別できなかった。大きさは長軸358㎝，短軸337㎝，検出面からの深さは44㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

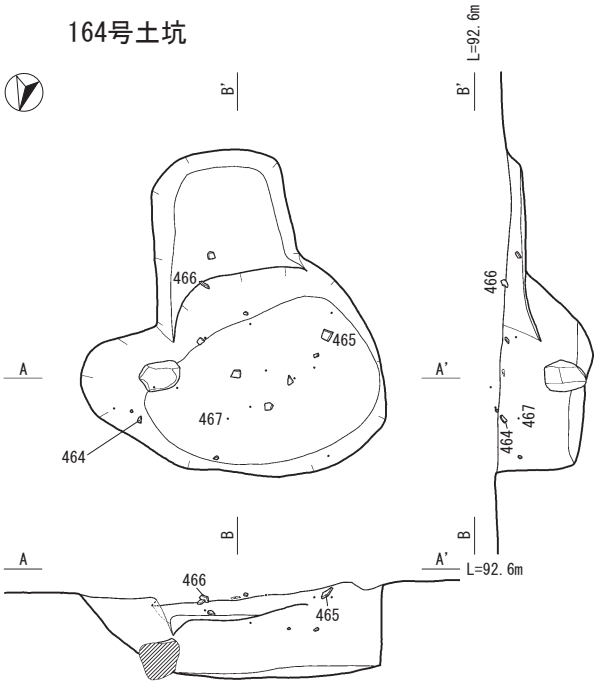
出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器117点，石器２点，フレーク・チップ29点，礫22点，炭化物10点が出土した。481は口縁部から胴部まで復元できた。76号土坑の出土土器と接合した。口径30.6㎝であり，口縁部は直口する。外面は，口縁部に横位の刻目突帯を施し，胴部に斜位の刺突を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。482～494は口縁部である。482～488は外面に横位の刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。482は胴部外面に斜位の刺突を施しており，口唇部外端に刻目を入れている。口縁部内面に横位の刺突を施す。483～485は口唇部外端に刻目を入れている。内面には横位の刺突を施す。486は胴部外面に縦位，斜位の刺

163号土坑



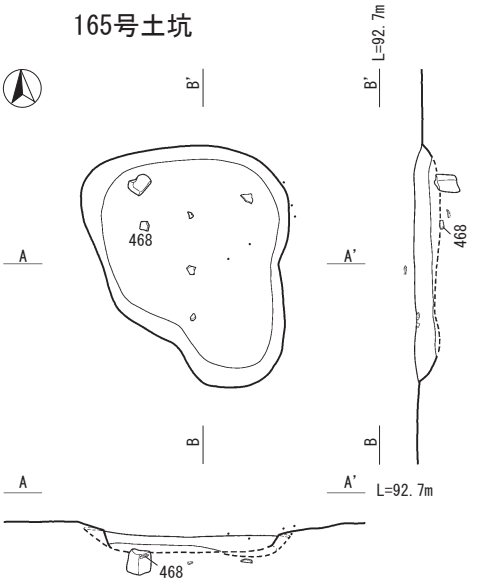
埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～20mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

164号土坑



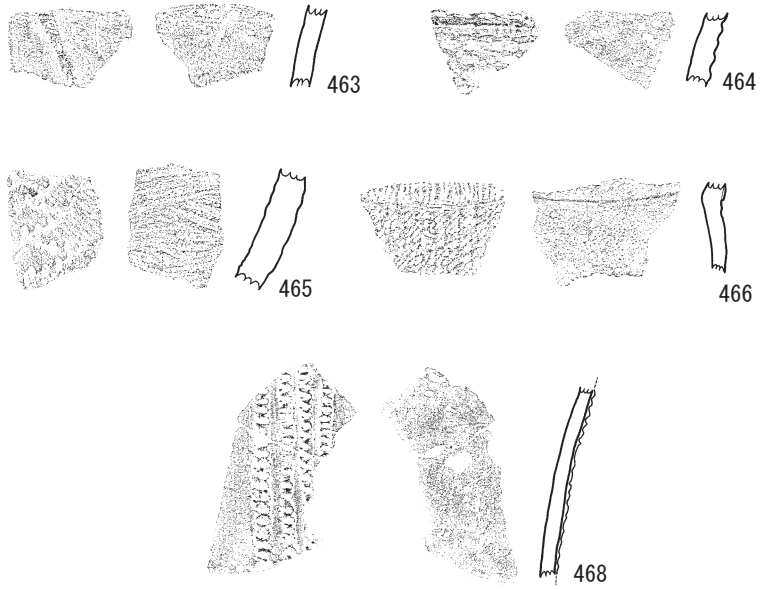
埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～10mm大の池田降下軽石を少量，
黄橙色パミスを中量含む。炭化物を含む。

165号土坑

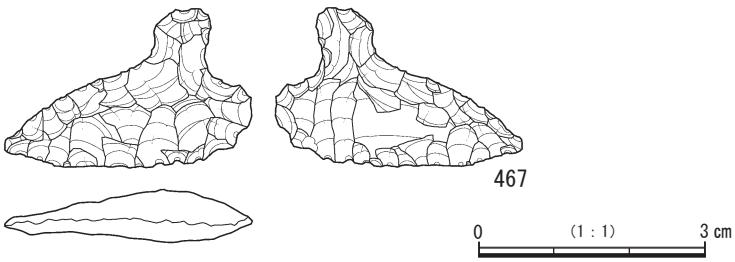


埋土
黒褐色土　Hue10YR3／3　2～50mm大の池田降下軽石を
多量，黄橙色パミスを少量含む。

0　（1:30）　1m

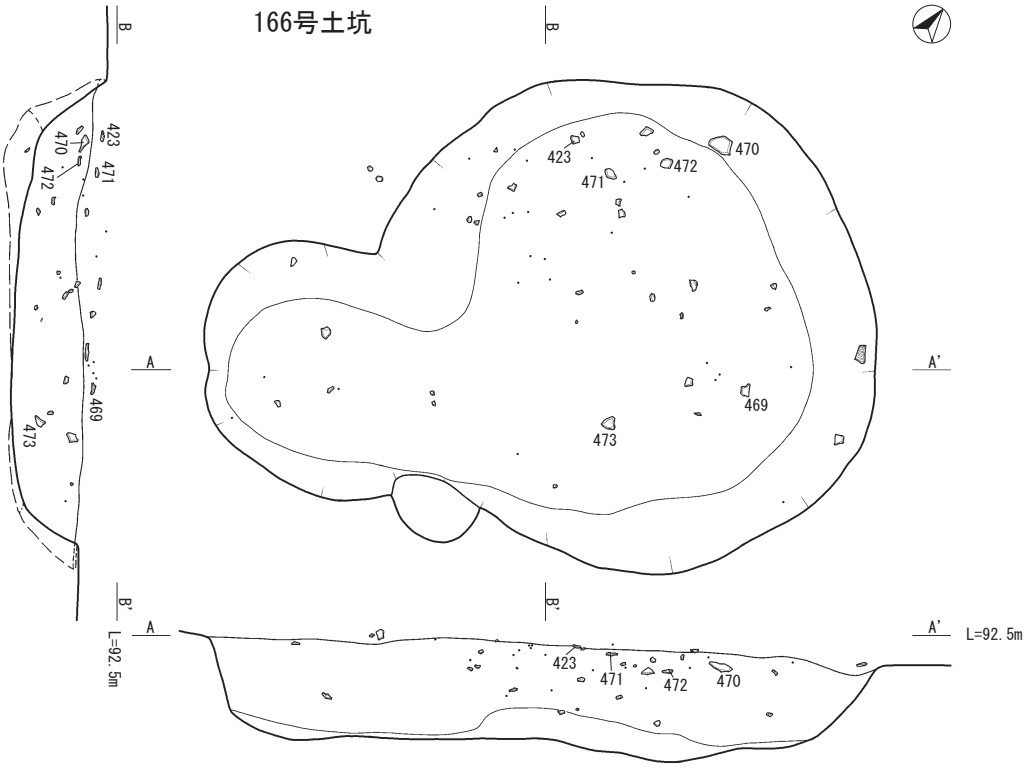


0　（1:3）　10 cm



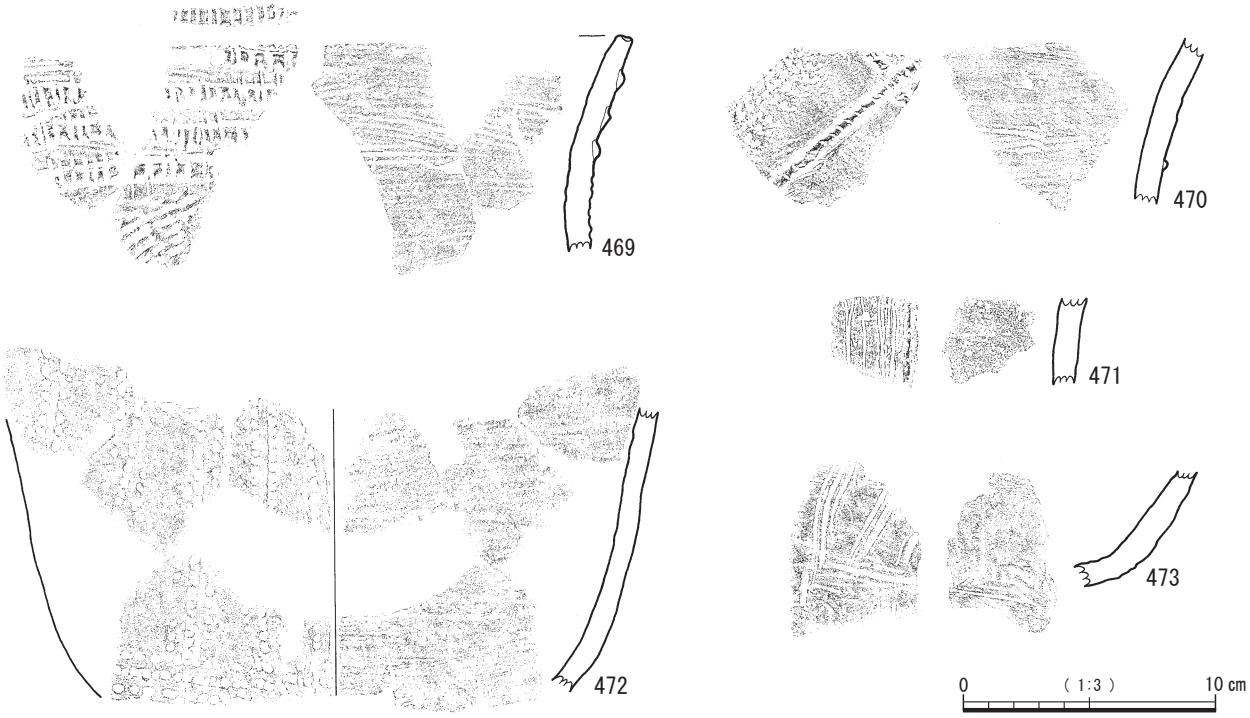
0　（1:1）　3 cm

第119図　土坑98（163号・164号・165号）

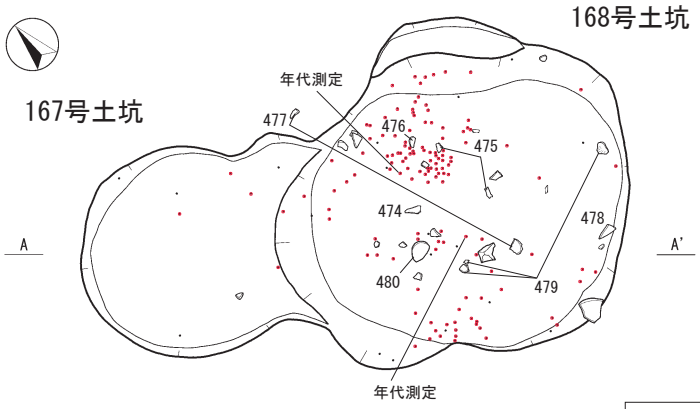


埋土
黒褐色土　Hue10YR2／3　2～35mm大の池田降下軽石や
黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。

0　(1:30)　1m

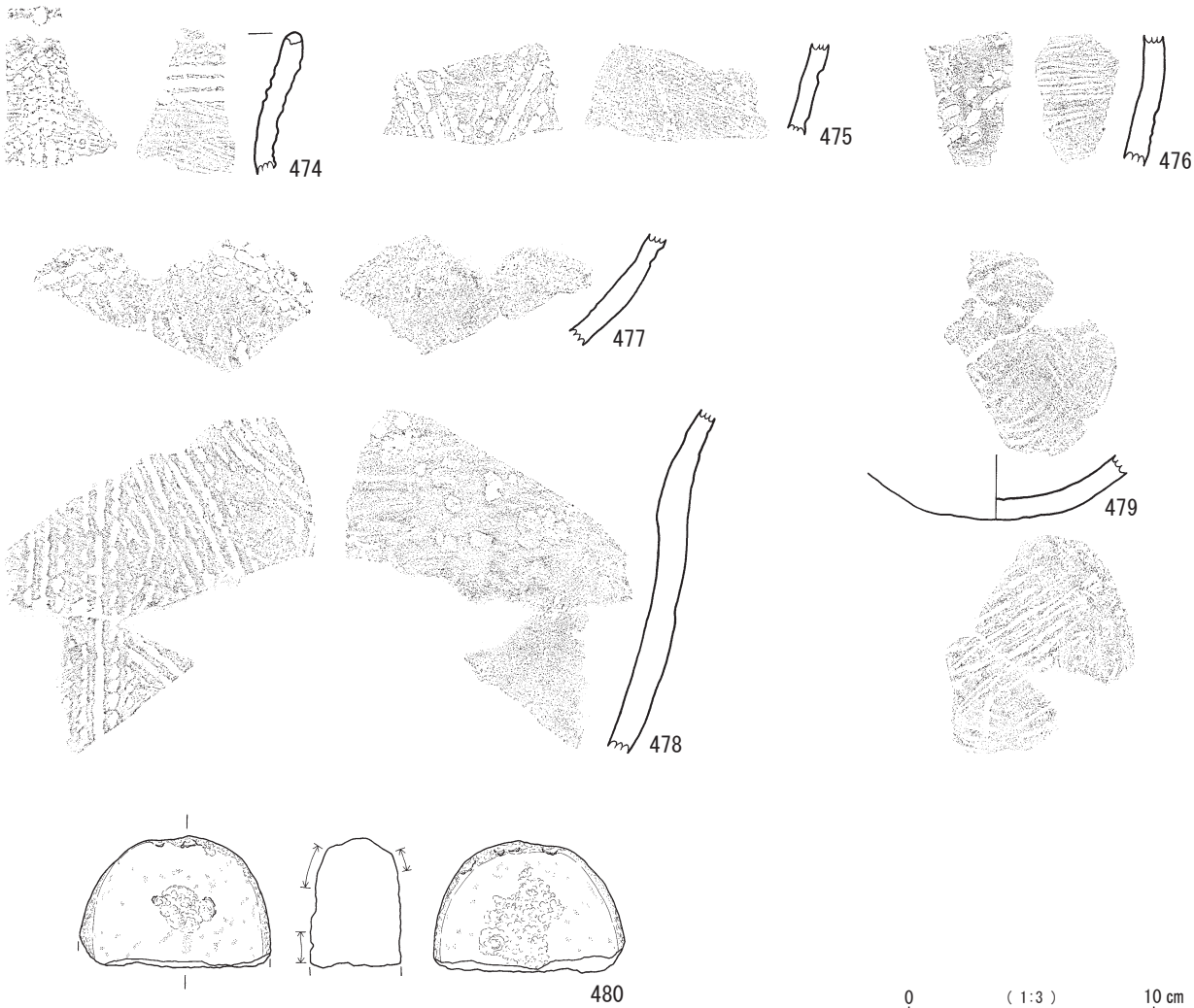


第120図　土坑99（166号）



埋土
・167号土坑
暗褐色土　Hue10YR3／3　下位はやや軟質。2～30mm大の池田降下軽石を多量，黄橙色パミスを少量含む。

・168号土坑
①黒褐色土　Hue10YR3／2　やや硬質。5～20mm大の池田降下軽石を多量，褐色パミスを微量含む。
②暗褐色土　Hue10YR3／3　やや粘性あり。褐色パミスを微量含む。



第121図　土坑100（167号・168号）

突を施し，口縁部内面にも横位の刺突を施す。内外面から穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。487は波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面は横位の突帯に器面に及ぶように深い刻目を入れている。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れている。口縁部内面に横位の刺突を施す。488は口唇部に刻目を入れている。489・490は口縁部外面に縦位の刻目突帯を施す。489は外面に縦位の突帯を２列貼り付けた後，口唇部に沿って横位の突帯を，その間に斜位の突帯を貼り付け，刻目を入れている。内面はナデを行っている。490は外面に縦位の突帯を２列貼り付けた後，横位の刻目突帯を施し，刻目突帯間に斜位の沈線を施す。内面は横位の刺突を施す。481～490はⅡ－１－①類土器である。491は外面に斜位の微隆線状の突帯と刺突を施す。内面は横位の刺突を施す。492・493は外面に微隆線状の突帯を縦位や横位に施す。内面は丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。494は外面に横位の沈線，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。495～502は胴部である。495は外面に横位の刻目突帯を施し，内面は横位の刺突を施す。外面には赤色顔料が塗布されている。496は外面に横位の刻目突帯を施した後，縦位，斜位の刺突を施している。内面はナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。497～504は外面に刺突を施し，内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。497～500は外面に斜位の刺突を施す。501は胴部下半付近と考えらる。外面に横位の刺突を施す。502は外面に縦位の刺突を施す。503は底部に近い胴部下半付近である。外面に斜位の刺突を施す。504は丸底の底部である。外面に縦位，斜位の刺突を施す。Ⅱ－２－①類土器である。505は黒曜石Ⅲ類製の石鏃未製品である。表面は剥離調整が行われるが，裏面は外皮面が残り，体部に厚みが残る。506は砂製の石錘である。長さ９㎝，幅７㎝の扁平な亜円礫を素材とし，両側辺部に打ち欠き痕が残る。

507～510は接合はしていないが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。507は75号土坑及び76号土坑の出土土器，包含層出土土器と接合した。507は頸部から胴部である。外面は縦位，斜位の刺突を行い，頸部付近にＸ字状の刻目突帯を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。底部へ向けて窄まるように成形した際の指おさえ痕が確認できる。508は75号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。508は胴部中央付近で屈曲し，底部に向けて曲線的に窄まる器形である。外面は縦位，斜位の刺突を行っている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。輪積み痕や底部へ向けて窄まるように成形した際の指おさえ痕が確認できる。509は76号土坑の出土土器である。509は底部に近い胴下半部付近であり，内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。510は75号土坑の出土土器と接合した。510は底面は欠損しているものの，安定した丸底を呈すると考えられる。外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

また，埋土中から出土した481の付着炭化物及び炭化種実で年代測定を実施したところ，未補正で481は4623±22^{14}C BPの値（YU-9991）が，炭化種実は4626±30^{14}C BPの値が得られた。

埋土中から出土した炭化種実の種実同定を行ったところ，イチイガシの子葉及びコナラ属の子葉が確認された。

170号土坑（第122～126図）

Ⅰ－19区Ⅴa層上面で検出した。遺構の東側は169号土坑と切り合いが想定されるが，埋土からは判別できなかった。その為，平面形の推定線を破線で表す。大きさは長軸125㎝，短軸121㎝，検出面からの深さは39㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器11点，フレーク・チップ７点，礫９点，炭化物22点が出土した。511は緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面には横位の刻目突帯を３段施した後，縦位の刺突を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面に横位の刺突を施す。外面より先に穿孔したと考えられる一対の補修孔が確認できる。512は波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面は横位の突帯に器面に及ぶように深い刻目を入れている。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れている。内面はナデを行っている。どちらもⅡ－１－①類土器である。

また，埋土中から出土した炭化種実で年代測定を実施したところ，未補正で4659±29^{14}C BPの値が得られた。

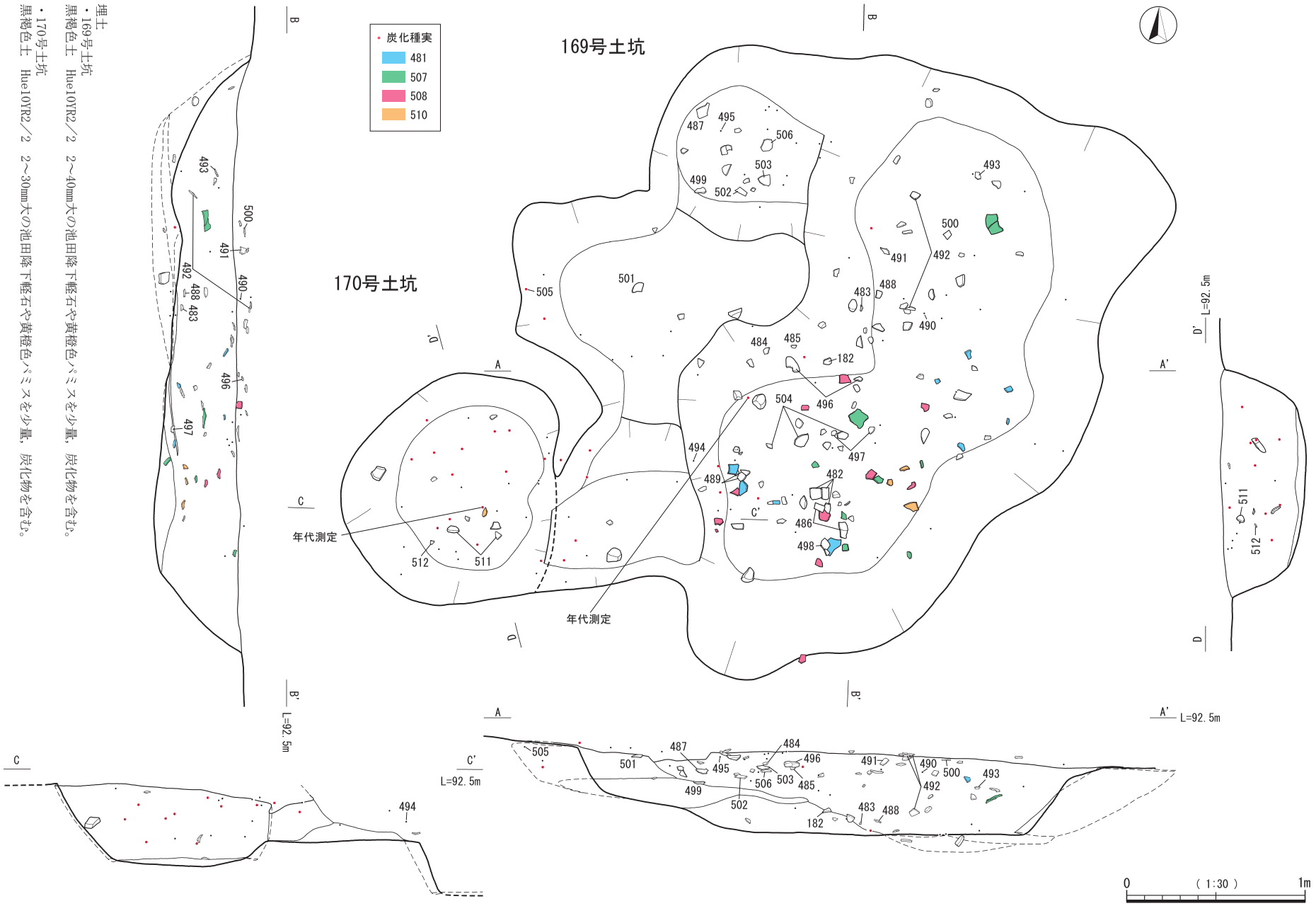
埋土中から出土した炭化種実の種実同定を行ったところ，イチイガシの子葉及びコナラ属の子葉が確認された。

171号土坑（第127図）

Ⅰ－19区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸136㎝，短軸126㎝，検出面からの深さは44㎝を測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。遺構の南東側に169号土坑が近接するが，切り合い関係は判別できなかった。その為，南東側の上端は推定線を破線で表す。

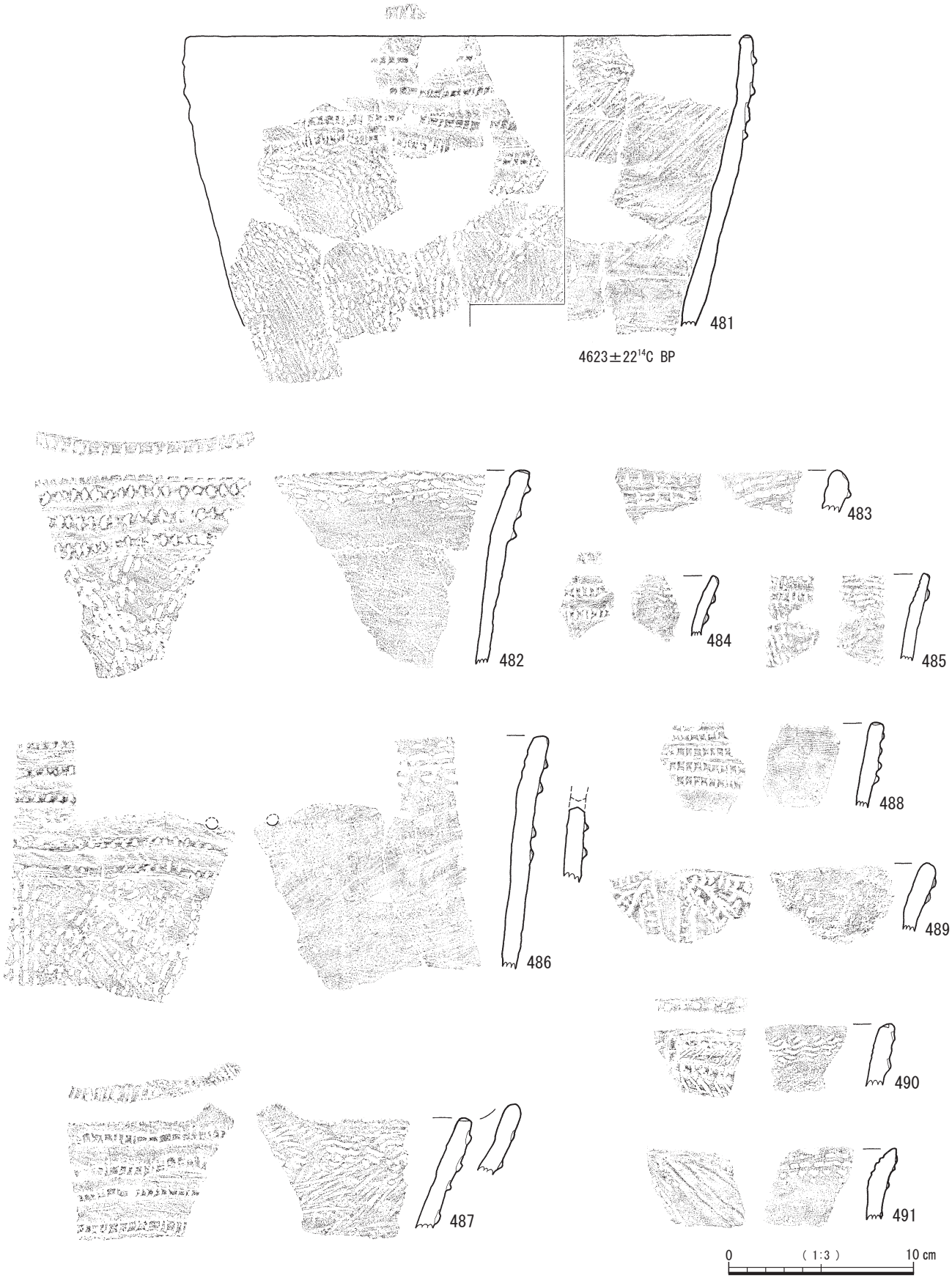
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器12点，石器チップ３点，礫１点，炭化物２点が出土した。513は153号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。口縁部であり，外面には横位の刻目突帯を３段施した後，斜位の刺突を施す。口唇部外端に刻目を入れている。内面に横位の刺突を施す。Ⅱ－１－①類土器である。514は胴部である。外面に斜位の刺突を施し，内面はナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

埋土中から出土した炭化種実の種実同定を行ったとこ

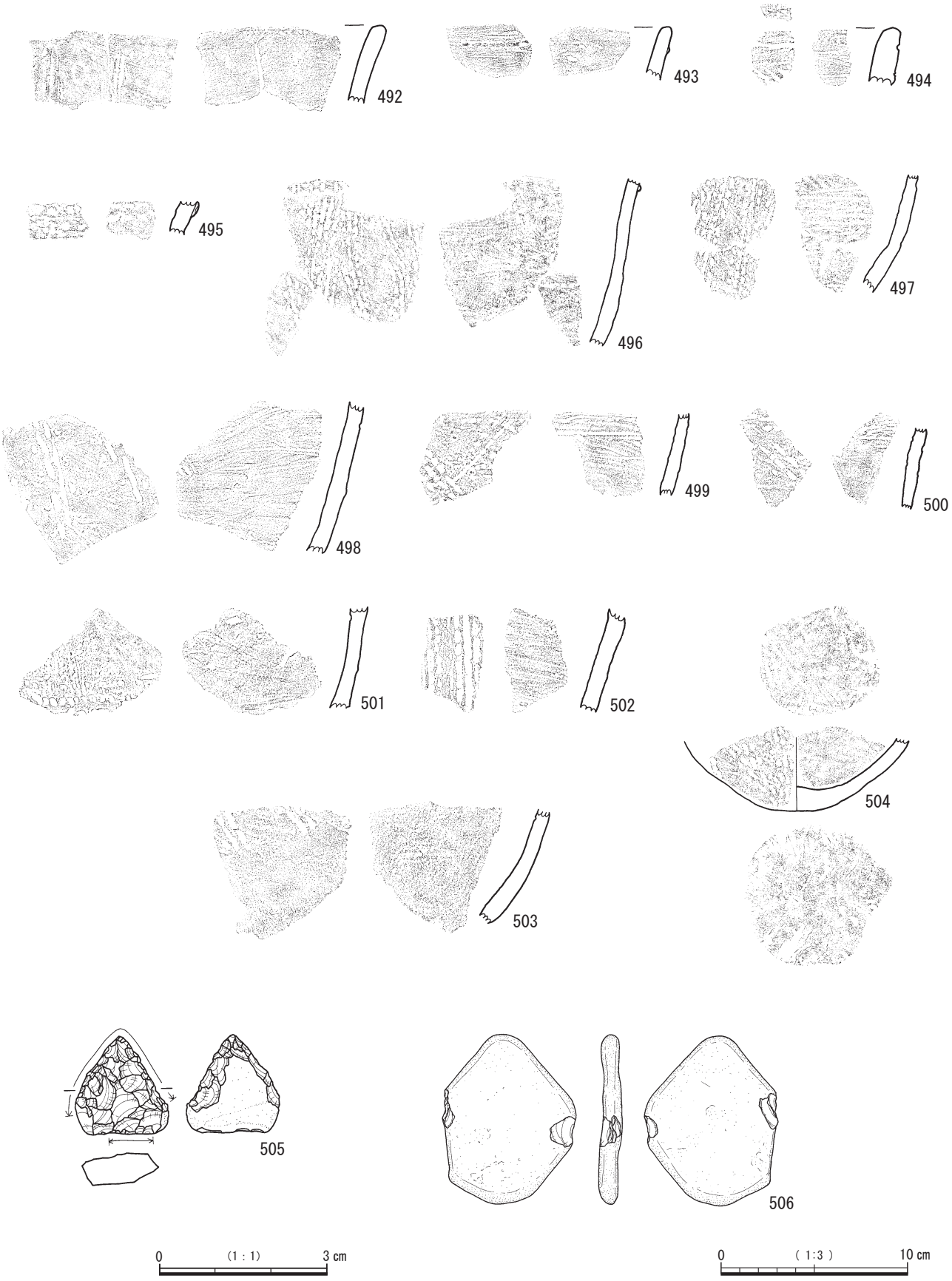


第122図　土坑101（169号・170号）

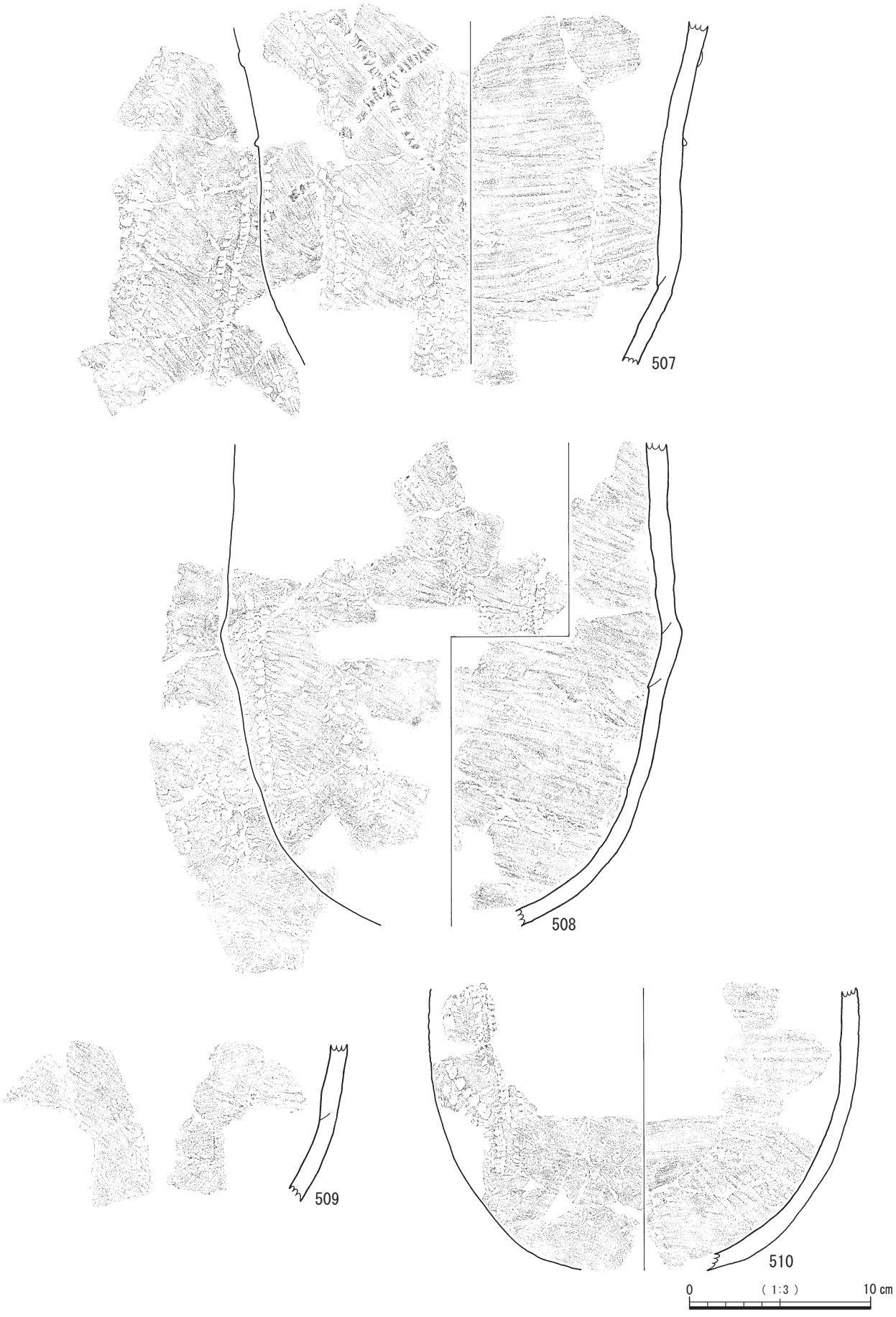
埋土
・169号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～40mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。
・170号土坑
黒褐色土　Hue10YR2／2　2～30mm大の池田降下軽石や黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。



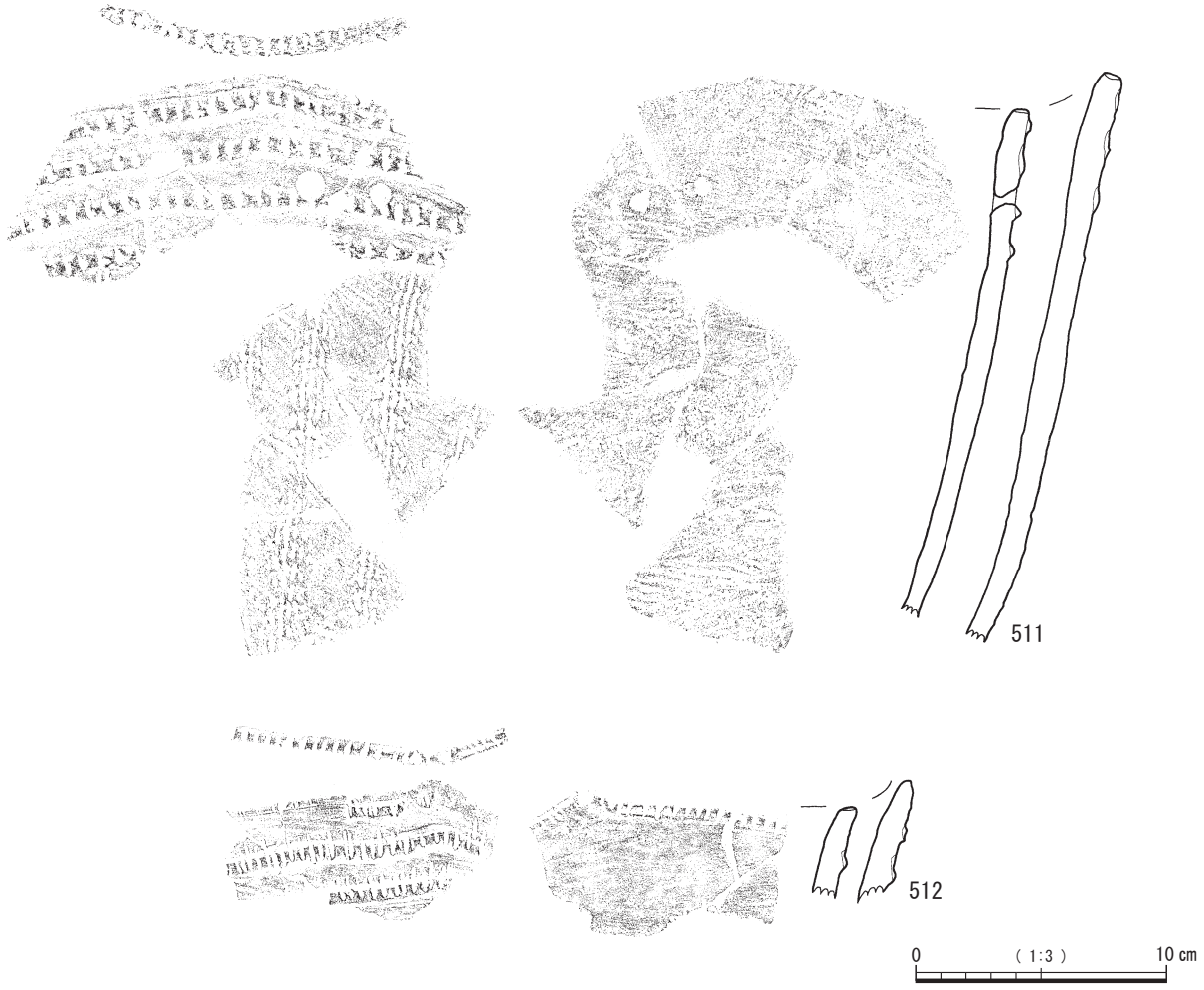
第123図　土坑102（169号・170号出土遺物①）



第124図　土坑103（169号・170号出土遺物②）



第125図　土坑104（169号・170号出土遺物③）



第126図　土坑105（169号・170号出土遺物④）

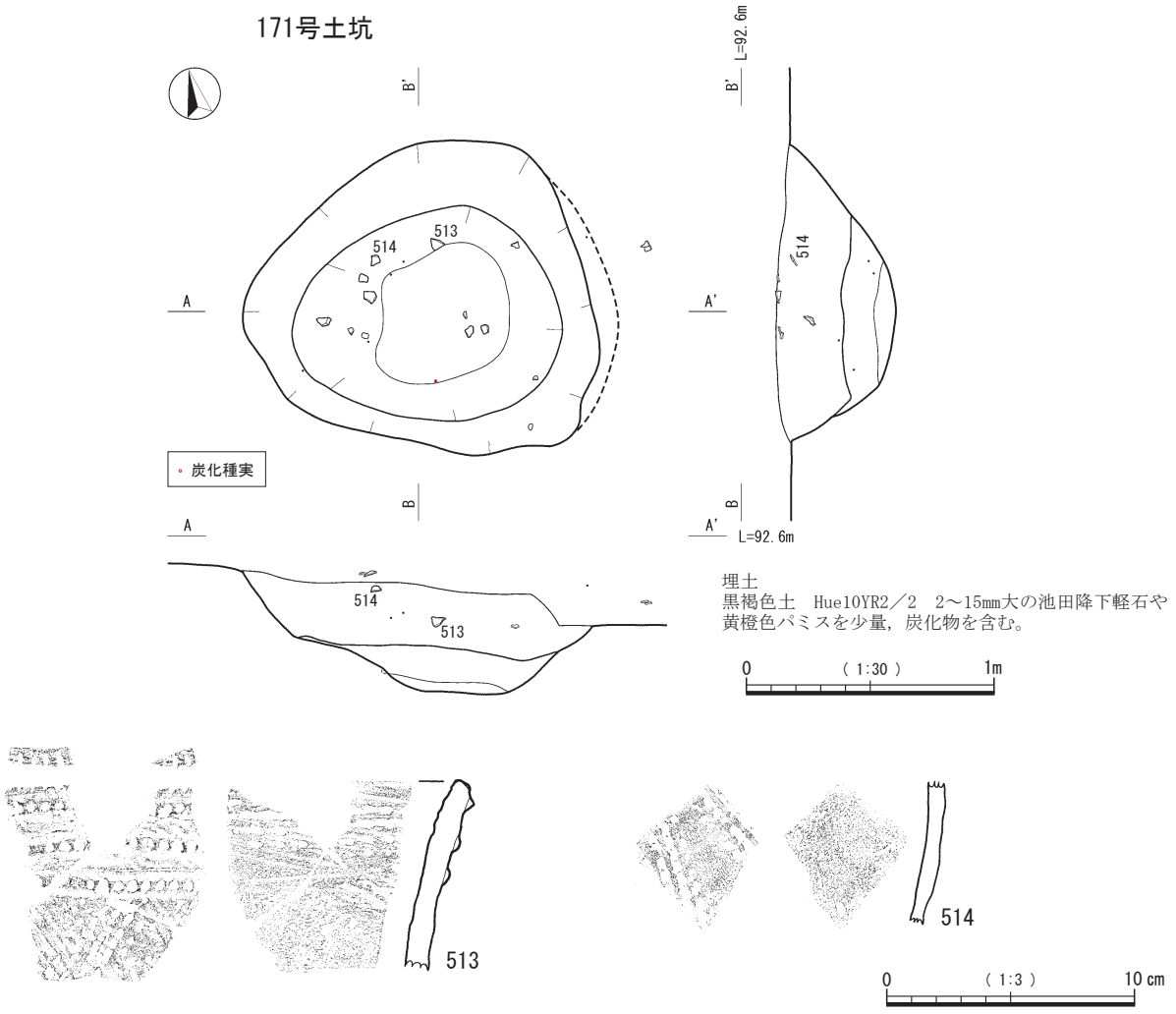
ろ，コナラ属の子葉が確認された。

172号土坑（第128～130図）

Ｇ－21区Ｖa層上面で検出した。大きさは長軸286cm，短軸196cm，検出面からの深さは47cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器101点，石器14点，フレーク・チップ８点，礫33が出土した。515は口縁部から胴部上半である。口径28cmであり，口縁部は外反する。外面には，口縁部に横位の刻目突帯を４段施し，胴部に縦位の刺突を施す。また，外面には炭化物が付着している。口唇部外端には先端が割れている工具で刻目を入れている。内面には，口縁部に刺突を施し，器面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。516～523は口縁部である。516は外面には刻目突帯を施した後，斜位の刺突を施す。口縁部内面に横位の刺突を施す。517は緩やかな波状口縁を呈する。波頂部には２つの山形突起を貼り付ける。外面に２段の刻目突帯を波状に施す。口唇部には刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。518は外面にやや間隔を空けて刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っているが，痘痕状の剥落が確認できる。519は口縁部が大きく外反する器形である。口径15cmであり，緩やかな波状口縁を呈し，波頂部には粘土を貼り付け，山形突起を作り出している。外面には，口縁部に横位の刻目突帯を３段施し，その間を２本１組の鋸歯状の沈線で充填する。胴部は鋸歯状の沈線，縦位の押引状の刺突を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面はナデを行っている。520は外面に縦位の刻目突帯を施した後，横位の刻目突帯を施す。口唇部外端には刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。

521は外面に縦位の突帯を２列貼り付けた後，口唇部に沿って横位の突帯を２段，その間に斜位の突帯を貼り付け，刻目を入れている。縦位の刻目突帯間には，斜位の沈線を，横位と斜位の刻目突帯間には刺突を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は横位の刺突を施している。516～521はすべてⅡ－１－①類土器である。522・523は内外面とも貝殻条痕調整後，ナ



第127図　土坑106（171号）

デを行っている。523は口唇部に刻目を施す。522は胎土に白色粒子，金色の雲母を含む。Ⅲ類土器である。524～530は胴部である。524は外面に縦位，斜位の刻目突帯を施し，刻目突帯間に棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。525は外面に縦位の刻目突帯を施し，刻目突帯間に沈線を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。526は外面に斜位の刻目突帯を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。痘痕状の剥落が確認できる。524～526はⅡ－１－①類土器である。527～530は外面に縦位，横位，斜位の刺突を施す。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。531・532は丸底の底部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

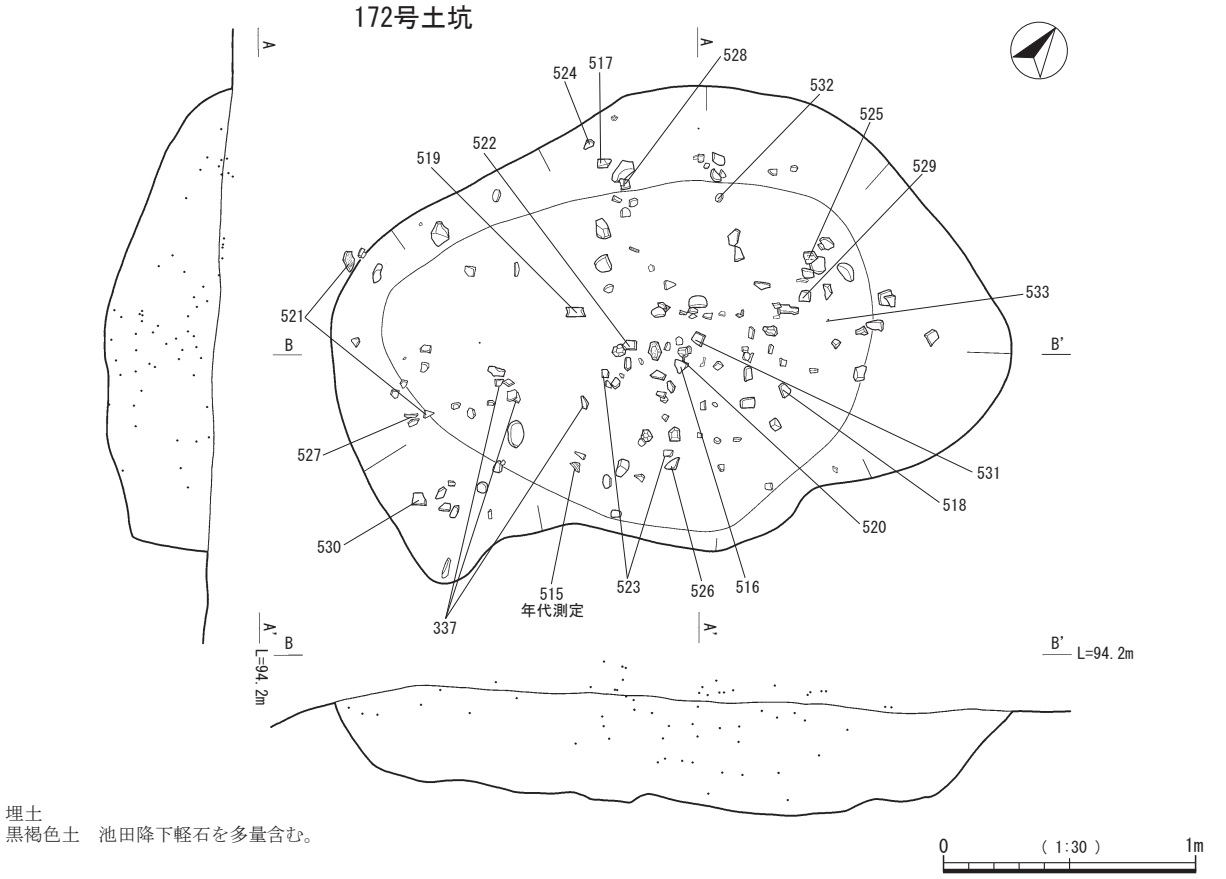
533は玉髄Ⅰ類製，534は黒曜石Ⅴ類，535は黒曜石Ⅳ類製の石鏃である。533は脚部の先端を尖らせ，基部の抉りは浅い。534は左脚部及び右脚部の先端を欠損する。先端部は鋭く尖る。535は基部を欠損するが，側縁部から先端部にかけて丁寧な押圧剥離が施される。536は玉髄Ⅰ類製のスクレイパーである。横長剥片を使用し，側辺部に両面から刃部を作り出す。534～536は遺構内一括遺物である。

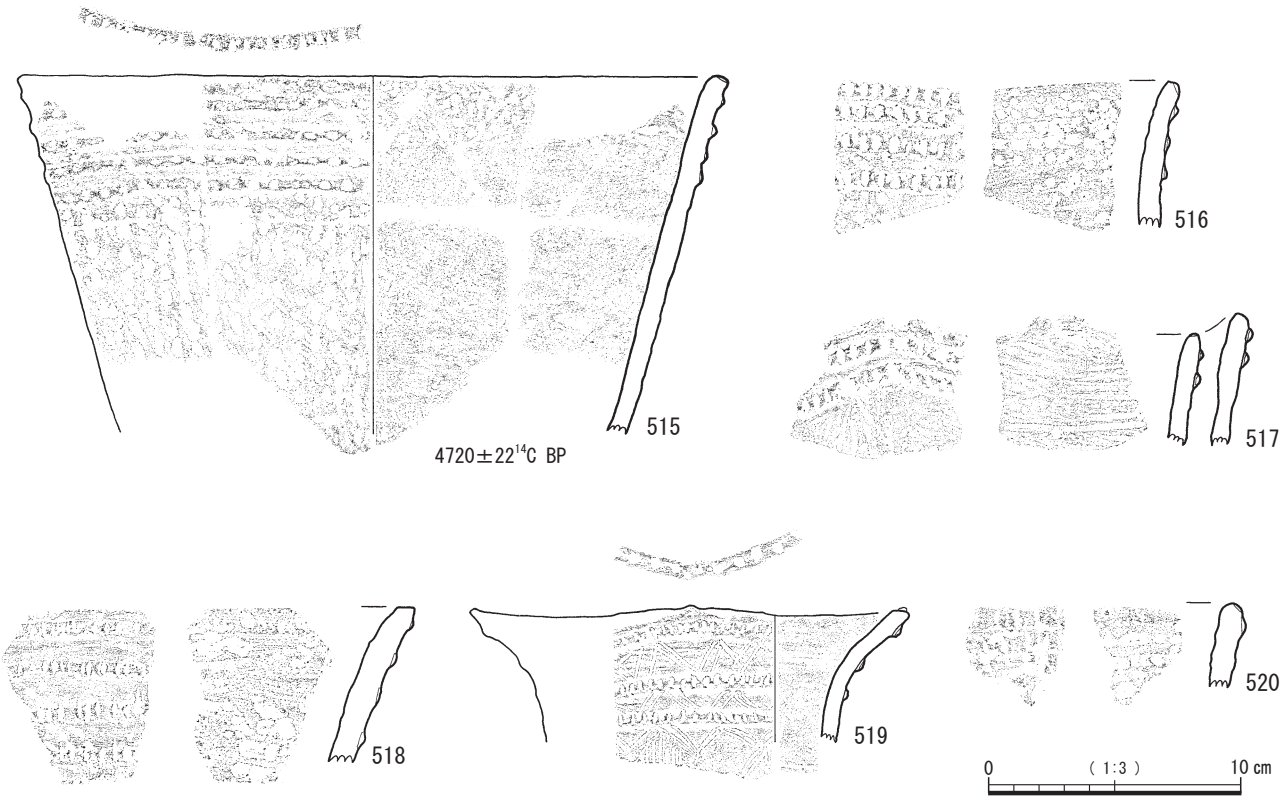
また，埋土中から出土した515の付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4720±22^{14}C BPの値が得られた（YU-9996）。

173号土坑（第131図）

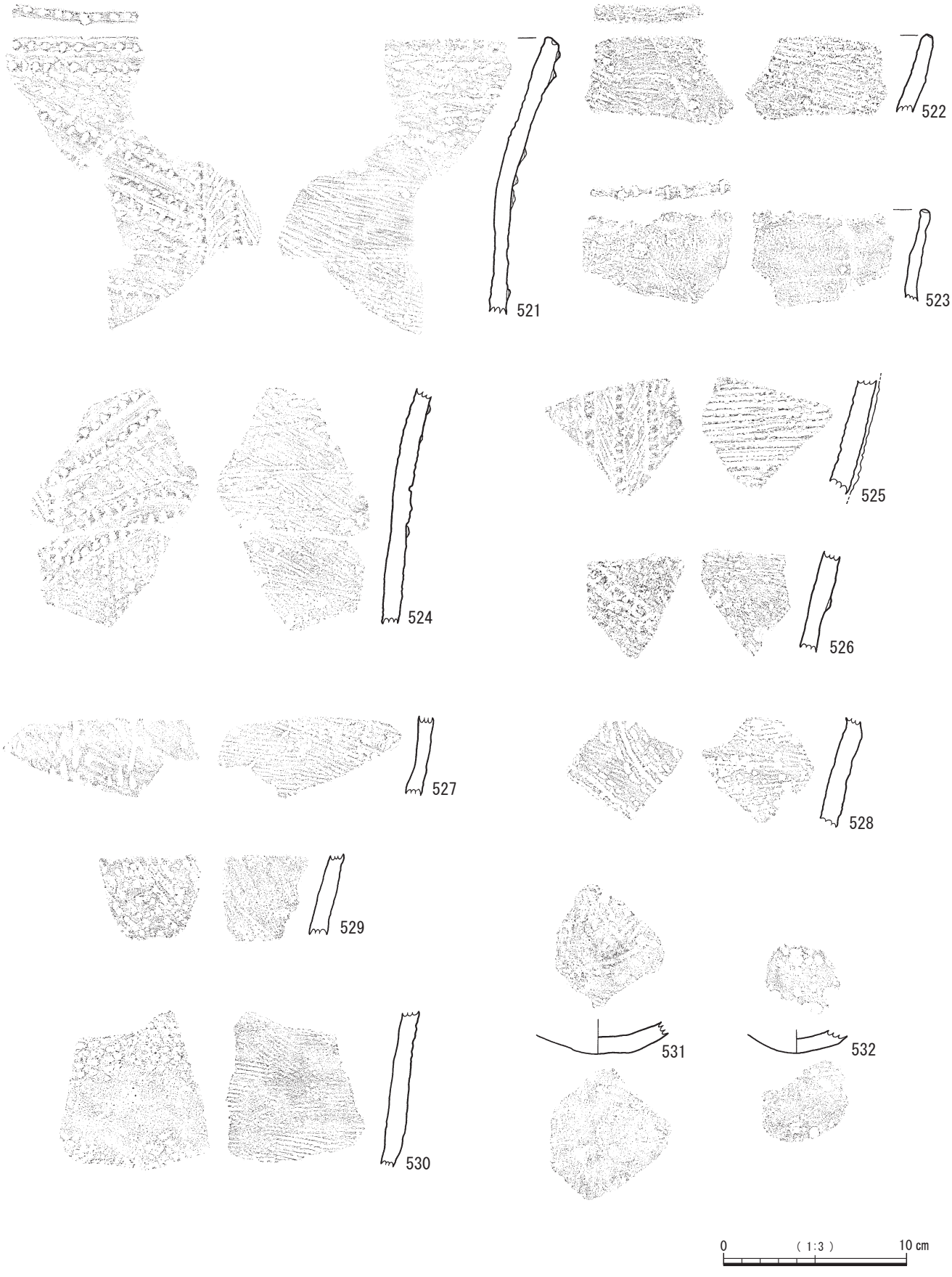
Ｇ－21区Ⅴa層上面で検出した。大きさは長軸125cm，短軸117cm，検出面からの深さは28cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器25点，石器２点，フレーク・チップ４点，礫４点が出土した。537は口縁部である。外面に横位の刻目突帯を施す。口唇部に刻目を入れている。内面はナデを行っている。538～540は胴部である。538は外面に横位の刻目突帯を施した後，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。539は外面

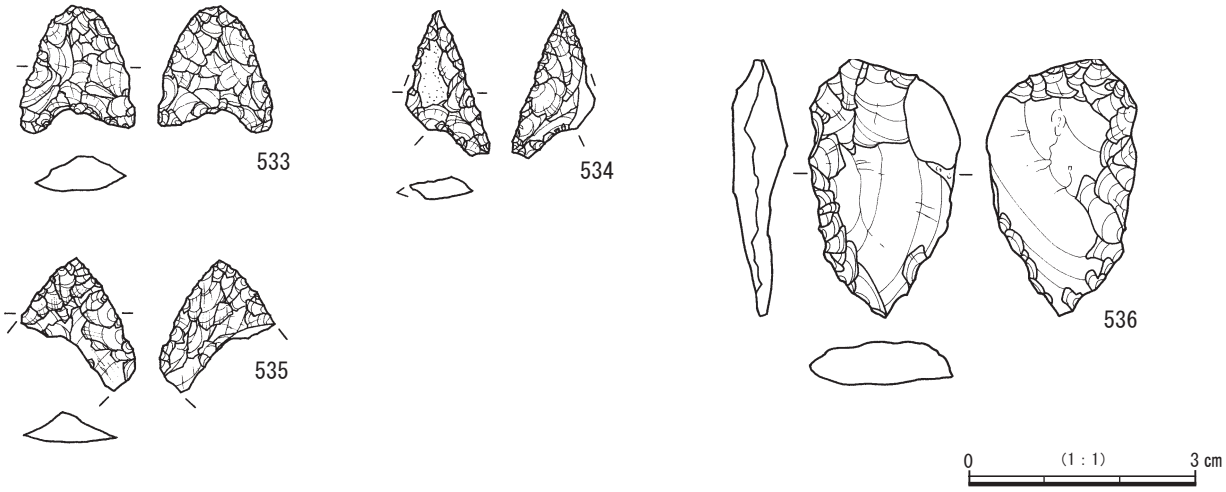




第128図　土坑107（172号）



第129図　土坑108（172号出土遺物①）



第130図　土坑109（172号出土遺物②）

に横位の刻目突帯を施した後，斜位の条線を施す。537～539はⅡ－１－①類土器である。540は外面に単節縄文ＲＬを横方向に施している。内面はナデを行っている。Ⅳ類土器である。

174号土坑（第131図）

Ｇ－22区Ⅳ層で検出した。大きさは長軸145cm，短軸115cm，検出面からの深さは24cmを測る。断面形状は皿状を呈し，埋土は単層である。

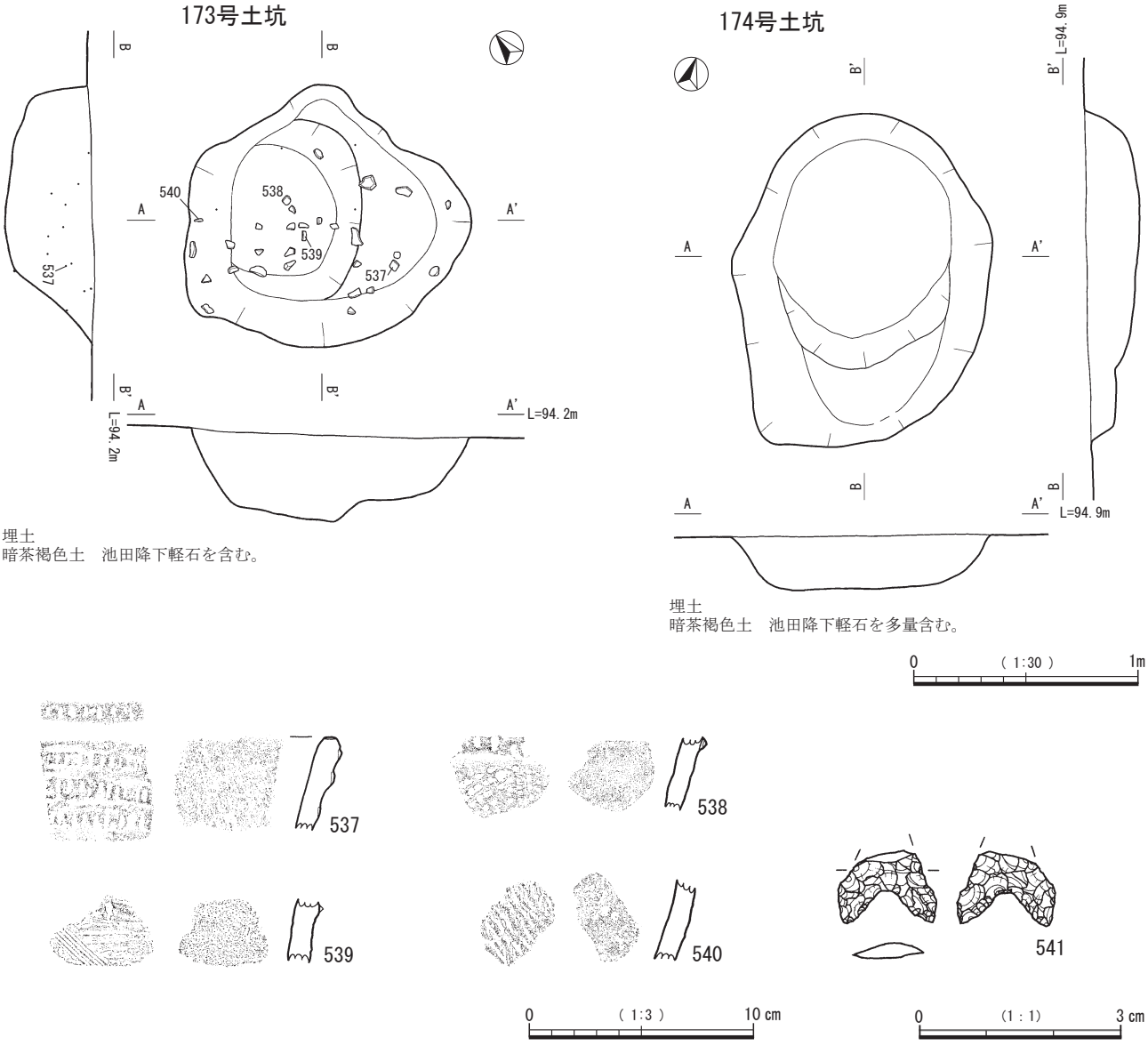
出土遺物は埋土中から石器が出土した。541は遺構内一括遺物であり，玉髄Ｉ類製の石鏃である。脚部の先端は尖らせており，基部の抉りは三角形状を呈する。

175号土坑（第132・133図）

Ｄ－19区Ⅳ層下で検出した。大きさは長軸161cm，短軸118cm，検出面からの深さは27cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は埋土上位から下位にかけて土器115点，石器１点，フレーク・チップ49点，礫13点，炭化物１点が出土した。542・543は口縁部である。542は外面に刻目突帯を間隔を空けて横位に施した後，刺突を弧状に施す。口唇部外端には刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。543は外面に刻目突帯を横位に施し，突帯間に刺突を施す。口唇部外端に刻目を入れている。内面に半截竹管で横位のＣ字状の刺突を施す。542・543はⅡ－１－①類土器である。544は波状口縁を呈する。口径21.5cmであり，外面には貝殻を器面に対して垂直に当てた刺突線文を，波頂部下より横位に施文している。口唇部外端に刻目を入れている。内面は横位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－②類土器である。545～551は胴部である。545は外面に縦位，斜位の刻目突帯を施し，刻目突帯に沿うように縦位，斜位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。546は外面に縦位，横位の刻目突帯を施すが，痘痕状の剥落が多く，文様が判然としない。内面はナデを行っている。547は外面に縦位の刻目突帯を施した後，その両側にくの字状の刻目突帯を施している。その他にも斜位の刻目突帯が確認できる。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。545～547はⅡ－１－①類土器である。548・549は外面に縦位や斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。550は外面に横位，縦位の押引状の刺突を施している。内面はナデを行っている。548～550はⅡ－２－①類土器である。551は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に赤色粒子を含む。Ⅲ類土器である。552は底面は欠損しているものの丸底の底部である。内外面ともにナデを行っている。Ⅲ類土器である。

また，埋土上位から出土した炭化材で年代測定を実施したところ，未補正で4674±28^{14}C BPの値が得られた。



第131図　土坑110（173号・174号）

（５）Ｖ類　全形状が把握できないもの

176号土坑（第134図）

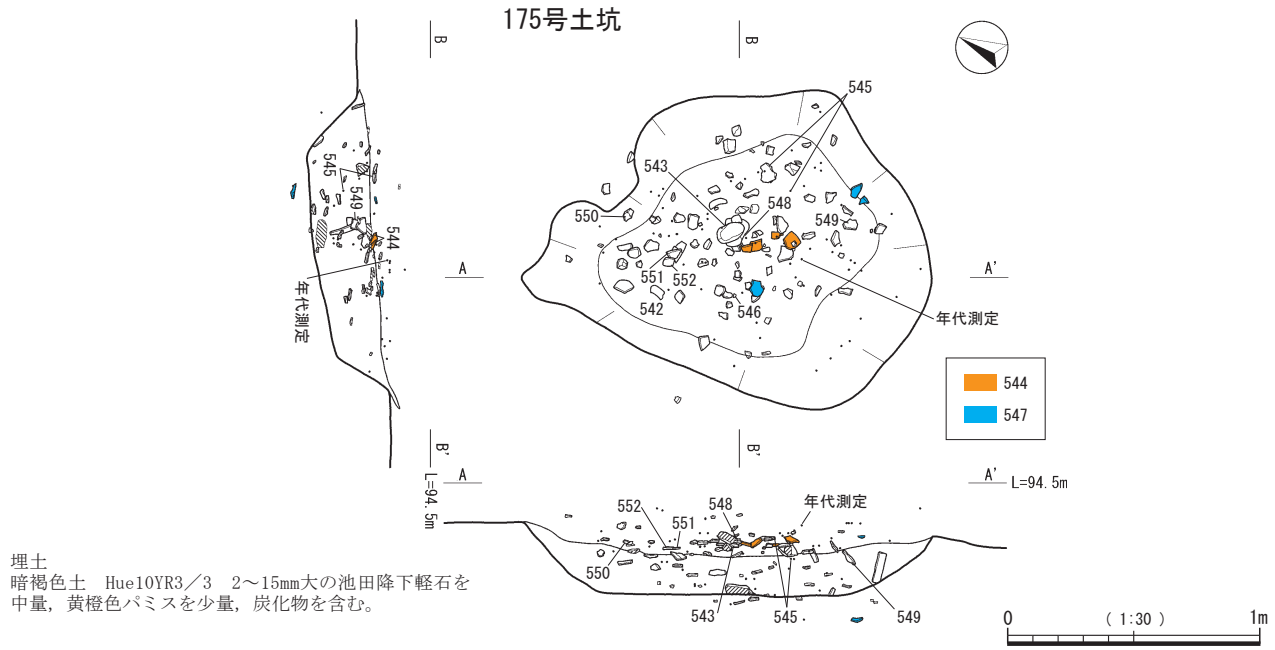
Ｉ－12区Ｖa層上面で検出した。調査範囲の境界から検出された為，遺構の北側半分のみ確認できた。大きさは長軸97cm，短軸39cm，検出面からの深さは37cmを測る。調査範囲の壁面で確認できた断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

出土遺物は確認できなかった。

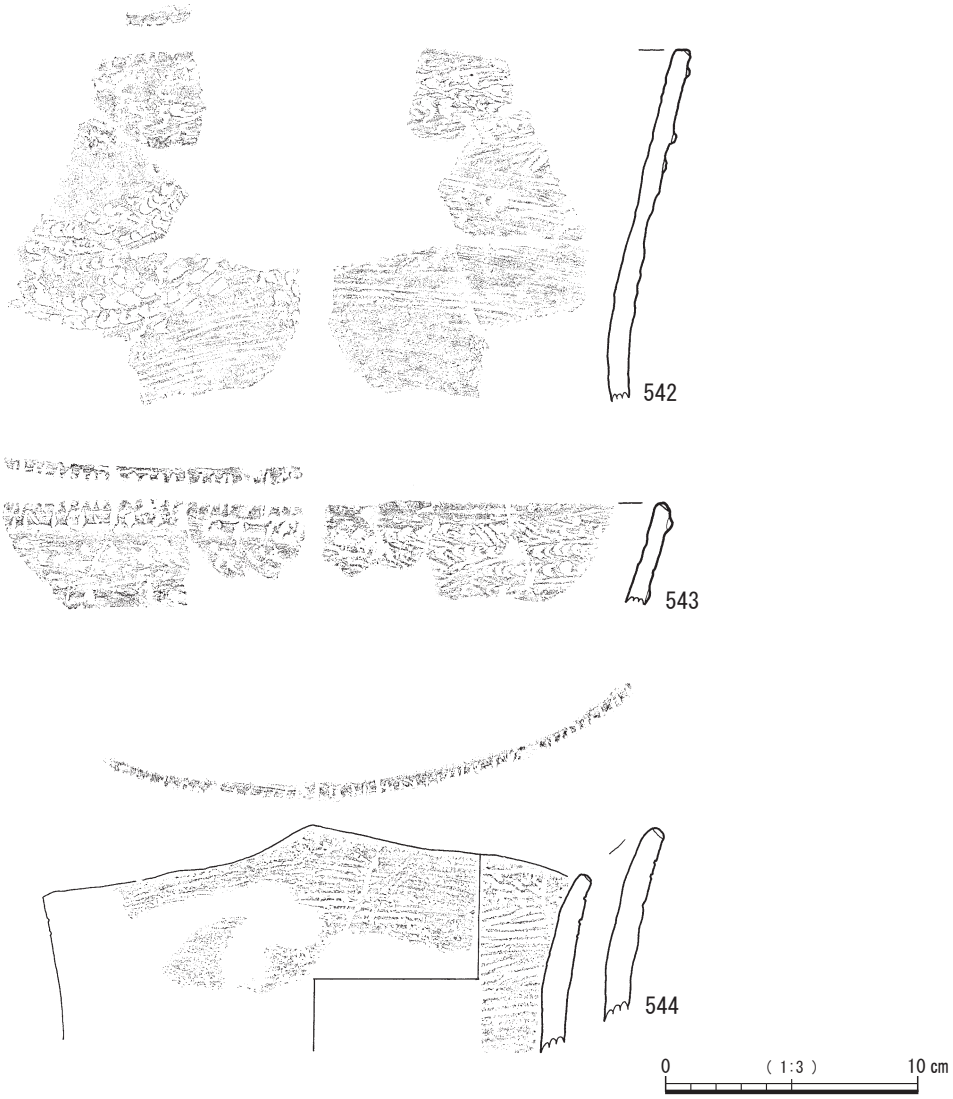
177号土坑（第134図）

Ｈ－20区Ｖa層上面で検出した。遺構の東側は溝状遺構に切られており，残存部分は遺構のおよそ半分程と考えられる。大きさは長軸197cm，短軸74cm，検出面からの深さは30cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は２つに分層した。

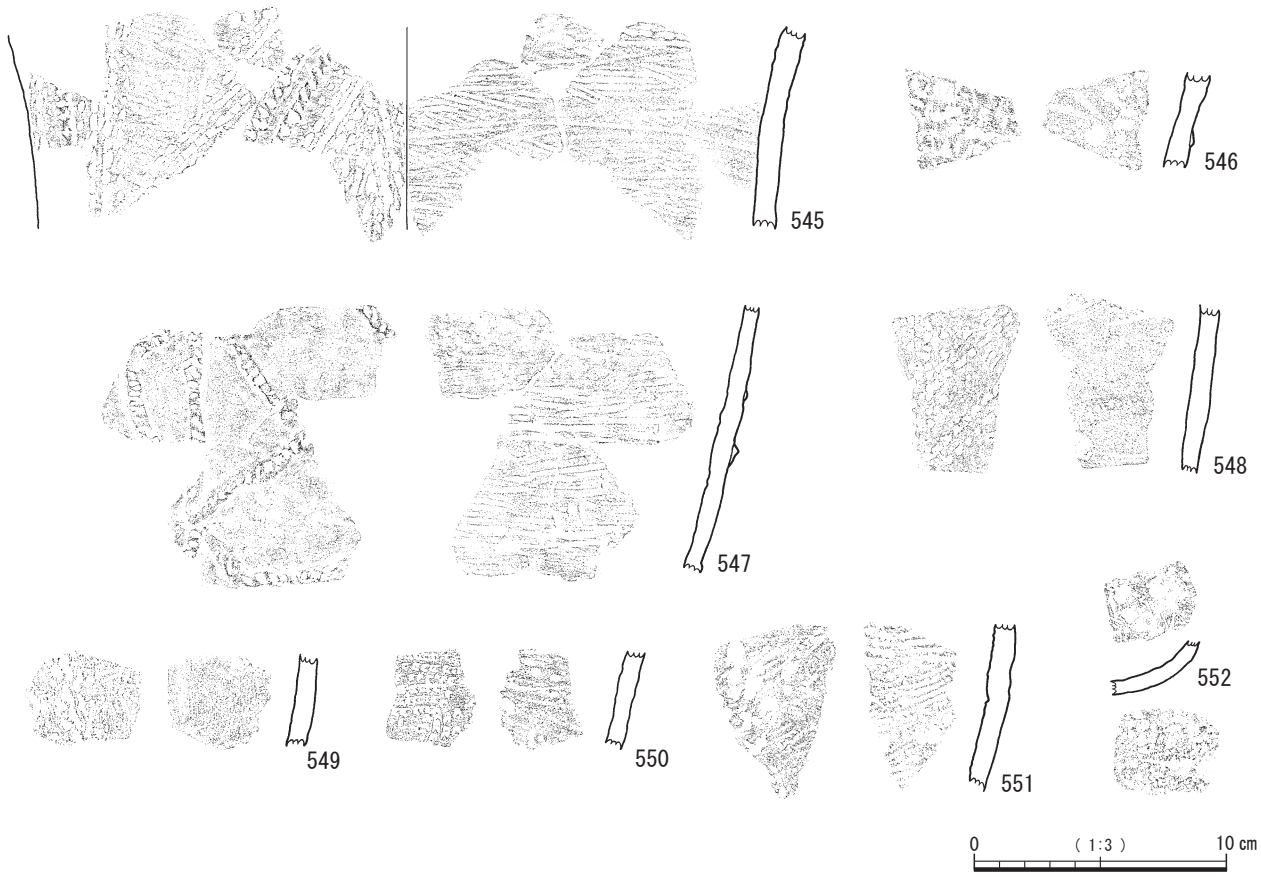
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器12点，石器１点，礫１点が出土した。553は胴部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。554は底部に近い胴部下半である。胴部中央付近で屈曲し，底部に向けて窄まる器形と考えられる。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。555は底部に近い胴部下半である。底部に向けて緩やかに窄まる器形と考えられる。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。556は尖底の底部である。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。すべてⅢ類土器である。



埋土
暗褐色土　Hue10YR3／3　2～15mm大の池田降下軽石を中量，黄橙色パミスを少量，炭化物を含む。



第132図　土坑111（175号）

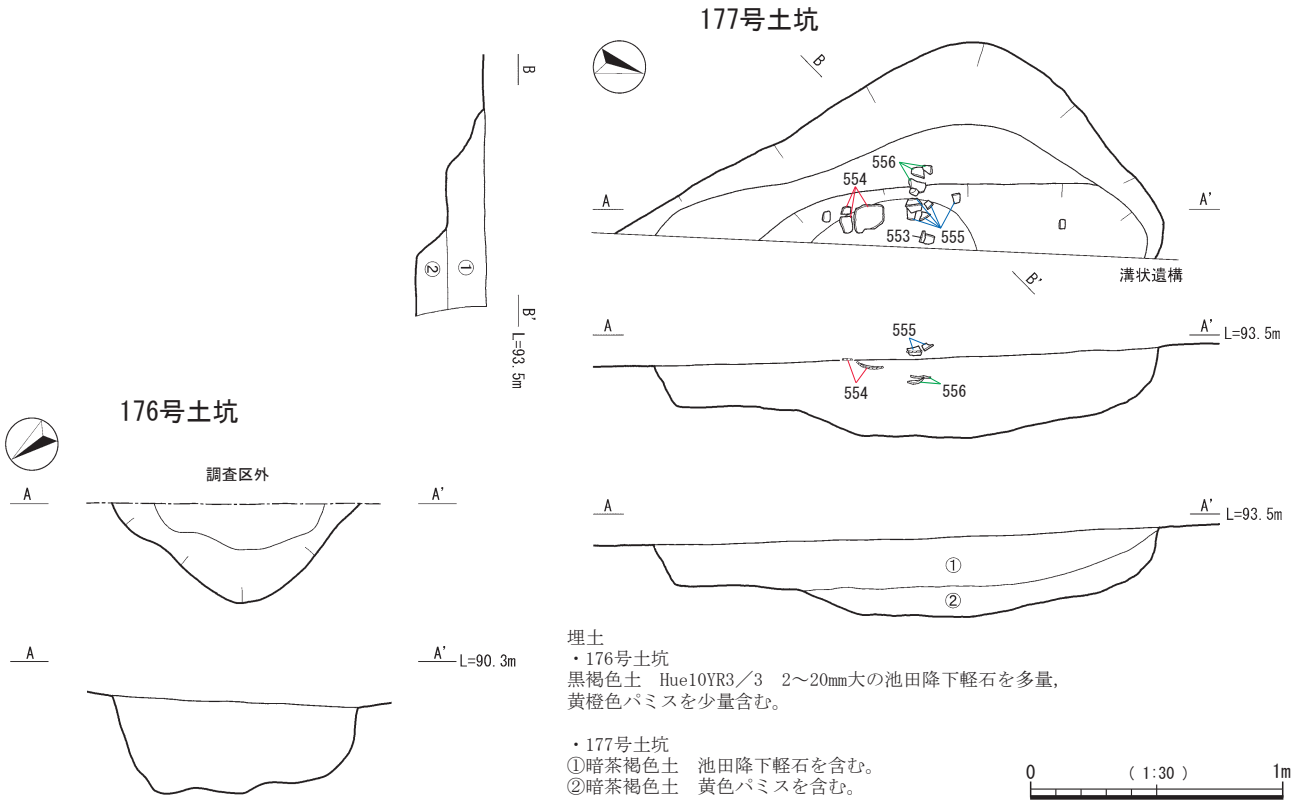


第133図　土坑112（175号出土遺物）

178号土坑（第135図）

Ｈ－21区Ｖa層上面で検出した。遺構の東側は溝状遺構に切られており，遺構の約３分の２が残存していると考えられる。大きさは長軸119cm，短軸100cm，検出面からの深さは52cmを測る。断面形状は鉢状を呈し，埋土は単層である。

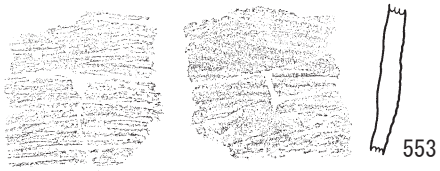
出土遺物は埋土上位から中位にかけて土器14点，石器１点，フレーク・チップ５点，礫４点が出土した。557・558は口縁部である。557は85号土坑の出土土器や包含層出土土器と接合した。外面に横位の刻目突帯を施した後，斜位の刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。558は外面に横位の刻目突帯を施した後，縦位の刺突を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。どちらもⅡ－１－①類土器である。559は遺構内一括遺物であり，頁岩Ⅰ類製のスクレイパーである。不定形剥片の周縁に剥離調整を行い，刃部を作り出している。裏面には礫皮面が残る。560は黒曜石Ⅶ類の石核である。裏面に礫皮面が残る。

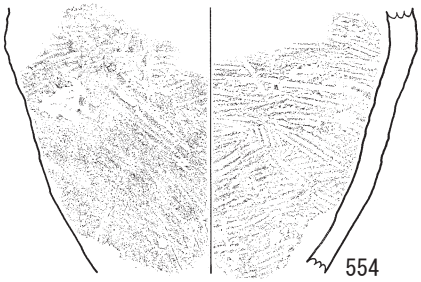


埋土
・176号土坑
黒褐色土　Hue10YR3／3　2～20㎜大の池田降下軽石を多量,
黄橙色パミスを少量含む。

・177号土坑
①暗茶褐色土　池田降下軽石を含む。
②暗茶褐色土　黄色パミスを含む。

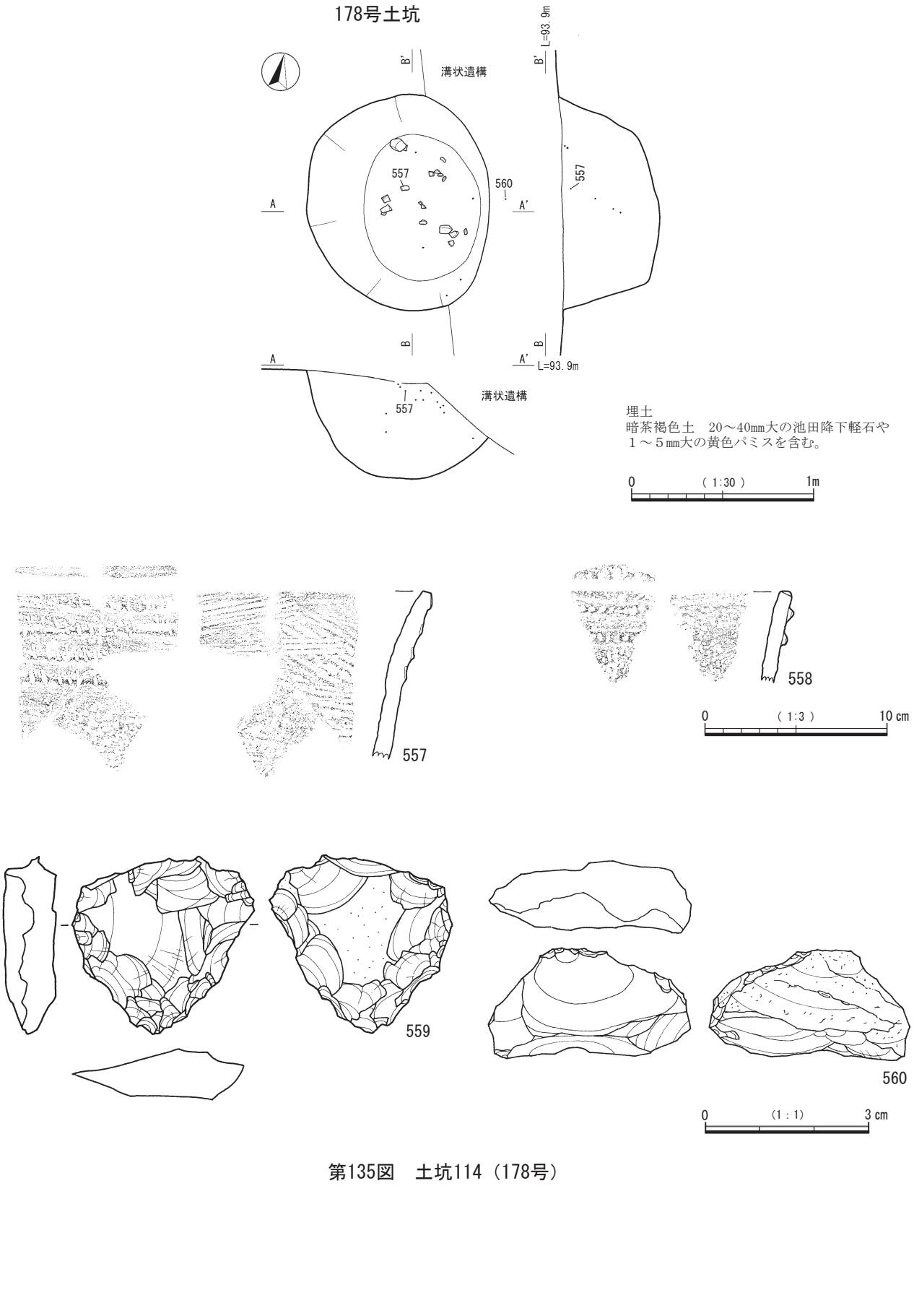
0　（1:30）　1m







第134図　土坑113（176号・177号）



第135図　土坑114（178号）

第５表　土坑計測表１

挿図番号	遺構名	調査時の遺構番号	出土区	検出面	規模（cm）			形状		自然科学分析結果
					長軸	短軸	深さ	平面	断面	
22	１号土坑	SK074	H-12	Va上面	120	116	82	円形	円筒状	
	２号土坑	SK205	H-16	Va上面	150	140	87	円形	円筒状	
23	３号土坑	SK206	H-16・17	Va上面	152	143	60	円形	鉢状	（炭化物）4057±28
	４号土坑	SK175	H-17	Va上面	127	121	54	円形	鉢状	
24	５号土坑	SK037	H・I-21	Va上面	101	96	55	円形	鉢状	
25	６号土坑	SK216	H・I-14	Va上面	96	87	49	円形	鉢状	（炭化物）4567±31
	７号土坑	SK217	I-14	Va上面	112	103	42	円形	鉢状	
	８号土坑	SK170	H-17	Vb上面	87	82	45	円形	鉢状	
26	９号土坑	SK204	H-17	Va上面	102	100	33	円形	鉢状	
27	10号土坑	SK168	G-18	Vb上面	111	103	47	円形	鉢状	
	11号土坑	SK236	H-18	Ⅵ上面	150	145	38	円形	鉢状	
28	12号土坑	SK107	H-18	Va上面	147	142	43	円形	鉢状	
	13号土坑	SK105	I-18	Va上面	88	86	44	円形	鉢状	
	14号土坑	SK208	I-18	Va上面	102	99	32	円形	鉢状	
	15号土坑	SK092	I-18	Va上面	123	121	36	円形	鉢状	
29	16号土坑	SK117	I-19	Va上面	99	99	39	円形	鉢状	（土器）4701±22
	17号土坑	SK047	H-20	Va上面	100	93	35	円形	鉢状	
30	18号土坑	SK034	G-22	Va上面	128	121	43	円形	鉢状	
31	19号土坑	SK071	G-22	Va上面	162	153	37	円形	鉢状	（炭化物）4825±31
32	20号土坑	SK232	I-15	Va上面	107	99	20	円形	皿状	
	21号土坑	SK195	G-16	Va上面	95	85	28	円形	鉢状	
	22号土坑	SK160	H-18	Va上面	85	79	16	円形	皿状	
33	23号土坑	SK097	G-19	Vb～Ⅵ上面	105	95	20	円形	皿状	
	24号土坑	SK099	H-19	Va上面	106	103	20	円形	皿状	
34	25号土坑	SK142	H-19	Va上面	89	85	25	円形	皿状	
	26号土坑	SK143	H-19	Va上面	75	70	18	円形	皿状	
	27号土坑	SK123	I-19	Va上面	136	130	17	円形	皿状	
	28号土坑	SK083	I-19	Vb上面	78	74	16	円形	皿状	
35	29号土坑	SK039	H-22	Va上面	100	96	28	円形	鉢状	
	30号土坑	SK153	E-19	Vb上面	88	85	17	円形	皿状	
	31号土坑	DS09	D-20	Va上面	110	108	23	円形	皿状	
38	32号土坑	SK145	G-13	Va上面	95	63	104	楕円形	袋状	
	33号土坑	SK075	H-13	Va上面	123	93	64	楕円形	袋状	
39	34号土坑	SK146	H-11	Va上面	110	84	70	楕円形	円筒状	
	35号土坑	SK081	H-13	Va上面	106	89	59	楕円形	円筒状	（炭化物）4487±29
	36号土坑	SK144	H-13	Va上面	106	70	103	楕円形	円筒状	
40	37号土坑	SK077	G-13	Va上面	107	75	62	楕円形	円筒状	
	38号土坑	SK194	H-14	Va上面	97	84	56	楕円形	円筒状	
	39号土坑	SK215	I-14	Va上面	105	96	67	楕円形	鉢状	
41	40号土坑	SK226	H-15	Va上面	93	89	31	楕円形	鉢状	
	41号土坑	SK193	H-14・15	Va上面	125	114	30	楕円形	鉢状	
	42号土坑	SK228	I-15	Va上面	116	91	69	楕円形	円筒状	
42	43号土坑	SK231	I-15	Va上面	173	91	60	楕円形	鉢状	
	44号土坑	SK191	H-15	Va上面	138	126	84	楕円形	鉢状	
44	45号土坑	SK220	G-15	Va上面	136	119	49	楕円形	鉢状	
	46号土坑	SK222	G-15	Va上面	154	90	64	楕円形	鉢状	
45	47号土坑	SK196	G-16	Va上面	144	75	42	楕円形	鉢状	（炭化物）4584±31
	48号土坑	SK190	G-16	Vb上面	135	98	54	楕円形	鉢状	
	49号土坑	SK189	G-16	Va上面	138	121	47	楕円形	鉢状	
46	50号土坑	SK212	I-15・16	Va上面	167	153	54	楕円形	鉢状	
	51号土坑	SK182	I-16	Va上面	158	127	53	楕円形	鉢状	
48	52号土坑	SK211	I-16	Va上面	117	87	37	楕円形	鉢状	
	53号土坑	SK210	I-16	Va上面	144	109	82	楕円形	鉢状	
	54号土坑	SK209	I-16	Va上面	155	135	48	楕円形	鉢状	
49	55号土坑	SK167	H-17	Vb上面	110	95	56	楕円形	鉢状	
	56号土坑	SK178	H・I-17	Va上面	132	97	41	楕円形	鉢状	
50	57号土坑	SK172	G-17	Vb上面	178	141	68	楕円形	鉢状	（土器）4486±22
52	58号土坑	SK150	G-17	Va上面	157	117	34	楕円形	鉢状	
53	59号土坑	SK180	G-18	Va上面	140	125	31	楕円形	鉢状	（土器）4632±22
	60号土坑	SK203	G・H-18	Vb上面	163	136	40	楕円形	鉢状	
55	61号土坑	SK202	H-18	Va上面	120	113	43	楕円形	鉢状	（土器）4646±25
56	62号土坑	SK200	H-18	Va上面	211	190	71	楕円形	鉢状	（炭化物）4744±31

第６表　土坑計測表２

挿図番号	遺構名	調査時の遺構番号	出土区	検出面	規模（cm）			形状		自然科学分析結果
					長軸	短軸	深さ	平面	断面	
57	63号土坑	SK108	H-18	Va上面	221	189	43	楕円形	鉢状	
58	64号土坑	SK106	H-18	Va上面	179	160	56	楕円形	鉢状	
	65号土坑	SK109	H-18	Va上面	141	117	51	楕円形	鉢状	
59	66号土坑	SK103	I-18	Va上面	125	110	34	楕円形	鉢状	
	67号土坑	SK110	I-18	Va上面	158	97	30	楕円形	鉢状	
	68号土坑	SK104	I-18	Va上面	115	101	55	楕円形	鉢状	（炭化物）7540±34
60	69号土坑	SK088	I-18	Va上面	155	93	65	楕円形	鉢状	
	70号土坑	SK089	I-18	Va上面	153	105	69	楕円形	鉢状	
61	71号土坑	SK114	I-18	Va上面	167	63	31	楕円形	鉢状	
	72号土坑	SK085	I-18	Va上面	139	112	56	楕円形	鉢状	
	73号土坑	SK084	J-18	Va上面	189	118	40	楕円形	鉢状	
62	74号土坑	SK087	J-18	Va上面	137	107	38	楕円形	鉢状	
63	75号土坑	SK091	I-18	Va上面	162	123	59	楕円形	鉢状	
64	76号土坑	SK116	I-18・19	Va上面	145	119	60	楕円形	鉢状	
66	77号土坑	SK101	G-19	Vb上面	240	155	80	楕円形	鉢状	
68	78号土坑	SK059	H-19	Va上面	132	120	70	楕円形	鉢状	
69	79号土坑	SK156	H-19	Va上面	157	125	47	楕円形	鉢状	（炭化物）4698±30
70	80号土坑	SK098	H-19	Va上面	114	99	43	楕円形	鉢状	
	81号土坑	SK157	H-18・19	Va上面	140	124	34	楕円形	鉢状	
71	82号土坑	SK134	H-19	Va上面	124	106	31	楕円形	鉢状	
	83号土坑	SK137	H-19	Va上面	124	107	31	楕円形	鉢状	
72	84号土坑	SK130	H-19	Va上面	140	115	45	楕円形	鉢状	（炭化物）4641±30 コナラ属？
73	85号土坑	SK055	I-19	Vb上面	137	110	43	楕円形	鉢状	ホルトノキ
	86号土坑	SK126	I-19	Va上面	113	89	35	楕円形	鉢状	
	87号土坑	SK122	I-18・19	Va上面	125	114	34	楕円形	鉢状	
	88号土坑	SK115	J-19	Va上面	100	81	30	楕円形	鉢状	
75	89号土坑	SK012	J-19	Va上面	135	115	56	楕円形	鉢状	（土器）4464±22
76	90号土坑	SK049	J-20	Va上面	133	120	58	楕円形	鉢状	
	91号土坑	SK050	J-20	Va上面	130	121	57	楕円形	鉢状	
77	92号土坑	SK045	H-20	Va上面	110	96	37	楕円形	鉢状	
	93号土坑	SK042	H-21	Va上面	121	104	34	楕円形	鉢状	
	94号土坑	SK043	H・I-21	Va上面	(99)	80	45	楕円形	鉢状	
78	95号土坑	SK040	H・I-22	Va上面	175	137	40	楕円形	鉢状	
80	96号土坑	SK026	G-21	Va上面	135	107	(35)	楕円形	鉢状	
	97号土坑	SK007	G-21	Va上面	81	52	34	楕円形	鉢状	
81	98号土坑	SK031	G-21	Va上面	107	101	30	楕円形	鉢状	
	99号土坑	SK029	G-21	Va上面	132	89	44	楕円形	鉢状	
82	100号土坑	SK024	F-21	Va上面	133	100	45	楕円形	鉢状	
	101号土坑	SK033	G-22	Va上面	104	94	40	楕円形	鉢状	
83	102号土坑	SK234	G-18	Ⅵ上面	122	112	40	楕円形	鉢状	
	103号土坑	SK233	G-18	Ⅵ上面	(126)	74	10	楕円形	皿状	
84	104号土坑	SK235	G-18	Ⅵ上面	100	91	34	楕円形	鉢状	
	105号土坑	SK238	G-18	Ⅵ上面	126	(89)	21	楕円形	皿状	
85	106号土坑	SK237	H-18	Vb～Ⅵ上面	120	107	28	楕円形	鉢状	
	107号土坑	SK239	H-19	Ⅵ上面	118	97	32	楕円形	鉢状	
86	108号土坑	SK076-1	I-13	Va上面	84	67	46	楕円形	鉢状	
	109号土坑	SK076-2	I-13	Va上面	75	67	8	楕円形	皿状	
	110号土坑	SK221	G-14	Va上面	108	83	18	楕円形	皿状	
87	111号土坑	SK173	G-17	Vb上面	100	70	14	楕円形	皿状	
	112号土坑	SK171	G-17	Va～Vb上面	124	68	23	楕円形	皿状	
	113号土坑	SK169	G-17	Va上面	132	93	19	楕円形	皿状	
	114号土坑	SK207	H-17	Va上面	120	75	29	楕円形	鉢状	
88	115号土坑	SK177	H・I-17	Va上面	261	201	18	楕円形	皿状	
	116号土坑	SK179	I-17	Va上面	93	74	22	楕円形	皿状	
89	117号土坑	SK093	I-18	Va上面	121	109	17	楕円形	皿状	
	118号土坑	SK094	I-18	Va上面	135	86	11	楕円形	皿状	
90	119号土坑	SK162	H-18	Va上面	139	125	28	楕円形	鉢状	
92	120号土坑	SK135	G-19	Vb上面	90	69	18	楕円形	皿状	
92	121号土坑	SK136	G-18	Vb上面	114	98	16	楕円形	皿状	
	122号土坑	SK100	H-19	Va上面	108	91	15	楕円形	皿状	
	123号土坑	SK095	H-20	Vb上面	98	84	24	楕円形	皿状	

第７表　土坑計測表３

挿図番号	遺構名	調査時の遺構番号	出土区	検出面	規模（cm）			形状		自然科学分析結果
					長軸	短軸	深さ	平面	断面	
93	124号土坑	SK128	I-19	Va上面	111	65	25	楕円形	皿状	
	125号土坑	SK127	I-19	Va上面	106	89	27	楕円形	鉢状	コナラ属？
	126号土坑	SK053	I-19	Vb上面	126	94	25	楕円形	鉢状	コナラ属
	127号土坑	SK054	I-19	Vb～VI上面	74	51	15	楕円形	皿状	
	128号土坑	SK014	I-19	Va～VI上面	85	60	21	楕円形	皿状	
94	129号土坑	SK065-1	I-20	Va上面	128	106	23	楕円形	皿状	
	130号土坑	SK065-2	I-20	Va上面	99	80	22	楕円形	皿状	
95	131号土坑	SK066	I-20	Va上面	149	103	15	楕円形	皿状	
	132号土坑	SK067	H-20・21	Va上面	93	79	28	楕円形	鉢状	（炭化物）3856±30
96	133号土坑	SK027	G-21	Va上面	172	151	26	楕円形	鉢状	
97	134号土坑	SK035	G-22	Va上面	245	120	23	楕円形	皿状	
98	135号土坑	SK213	D-21	Vb上面	113	101	15	楕円形	皿状	
	136号土坑	SK154	D-18	IV下	116	83	15	楕円形	皿状	
99	137号土坑	SK188	H-16	Va上面	155	135	51	隅丸方形	鉢状	
	138号土坑	SK111	I・J-18	Va上面	110	66	24	隅丸方形	皿状	
	139号土坑	SK112	I・J-18	Va上面	106	91	43	隅丸方形	鉢状	
100	140号土坑	SK096	H-19	Vb上面	138	109	35	隅丸方形	鉢状	
	141号土坑	SK018	F-22	Vb	130	115	43	隅丸方形	鉢状	
102	142号土坑	SK051	E-22	Va上面	198	151	22	隅丸方形	皿状	
103	143号土坑	SK225	H-15	Va上面	250	130	50	不定形	鉢状	
	144号土坑	SK192	H-15	Va上面	201	141	53	不定形	鉢状	
104	145号土坑	SK223	G・H-15・16	Va上面	132	106	44	不定形	鉢状	
	146号土坑	SK219	H-15	Va上面	120	118	50	不定形	鉢状	
	147号土坑	SK218	H-15・16	Va上面	207	96	52	不定形	鉢状	
105	148号土坑	SK187	H-16	Va上面	160	139	62	不定形	鉢状	
106	149号土坑	SK214	H-16	Va上面	125	90	27	不定形	鉢状	
	150号土坑	SK184	H-16	Va上面	166	132	38	不定形	鉢状	
	151号土坑	SK183	H-16	Va上面	119	95	33	不定形	鉢状	
	152号土坑	SK165	H-17	Vb上面	188	98	28	不定形	鉢状	（土器）4692±23
108	153号土坑	SK201	G・H-18	Va～Vb上面	226	186	59	不定形	鉢状	
110	154号土坑	SK166	G・H-18	Va上面	201	154	57	不定形	鉢状	
111	155号土坑	SK017_131	H-19	Va上面	208	180	33	不定形	鉢状	
	156号土坑	SK132_133	G・H-19	Va上面	201	173	43	不定形	鉢状	
113	157号土坑	SK016	H-19	Va上面	230	174	51	不定形	鉢状	コナラ属
115	158号土坑	SK058	H-19	Va上面	403	270	26	不定形	鉢状	
	159号土坑	SK057	H-19・20	Vb上面	205	130	72	不定形	鉢状	
117	160号土坑	SK176	H・I-18	Va上面	171	159	46	不定形	鉢状	
118	161号土坑	SK090	I-18	Va上面	128	120	59	不定形	鉢状	
	162号土坑	SK113	I・J-18	Va上面	125	108	12	不定形	皿状	
119	163号土坑	SK129	I-19	Va上面	143	73	15	不定形	皿状	
	164号土坑	SK056	I-19	Vb上面	127	119	35	不定形	鉢状	
	165号土坑	SK086	I-19	Vb上面	100	79	10	不定形	皿状	
120	166号土坑	SK124	I-19	Va上面	265	182	40	不定形	鉢状	
121	167号土坑	SK013	I・J-19	Va上面	(77)	83	12	不定形	皿状	イチイガシ，コナラ属
	168号土坑	SK060	I・J-19	Va上面	143	136	34	不定形	鉢状	（炭化種実）4641±31，4550±29 アカガシ亜属，イチイガシ，コナラ属
122	169号土坑	SK118	I-18・19	Va上面	358	337	44	不定形	鉢状	（炭化種実）4626±30， （土器）4623±22 イチイガシ，コナラ属
	170号土坑	SK119	I-19	Va上面	125	(121)	39	不定形	鉢状	（炭化種実）4659±29 イチイガシ，コナラ属
127	171号土坑	SK121	I-19	Va上面	(136)	126	44	不定形	鉢状	コナラ属
128	172号土坑	SK052	G-21	Va上面	286	196	47	不定形	鉢状	（土器）4720±22
131	173号土坑	SK028	G-21	Va上面	125	117	28	不定形	鉢状	
	174号土坑	SK011	G-22	IV	145	115	24	不定形	皿状	
132	175号土坑	SK159	D-19	IV下	161	118	27	不定形	鉢状	（炭化物）4674±28
134	176号土坑	SK080	I-12	Va上面	(97)	(39)	(37)	-	鉢状	
	177号土坑	SK044	H-20	Va上面	(197)	(74)	(30)	-	鉢状	
135	178号土坑	SK041	H-21	Va上面	119	(100)	52	-	鉢状	

第８表　土坑出土土器観察表１

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
22	1	H-12/-/SK074-004, 005, 008, 013, 014	Ⅲ	胴～底部		(11.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○		○	○		黒曜石	297
	2	H-16･17/-/SK205-004	Ⅲ	胴部		(3.5)	黒褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ ナデ		○			○	○			14
	3	H-16･17/-/SK205-002	Ⅲ	胴部		(5.1)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕	ナデ	○	○	○						41
23	4	H-16･17/-/SK206-007	Ⅱ－１－②	胴部		(3.0)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕	ナデ	○				○	○		黒曜石	11
	5	H-17/-/SK175-013	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.3)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○		○	○			22
	6	H-17/-/SK175一括	Ⅱ－２－①	口縁部		(2.3)	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	○		○						6
	7	H-17/-/SK175-005 H-17/Ⅳ/25124, 31021	Ⅱ－１－①	胴部		(4.3)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○		○	○			45
24	8	I-21/-/SK037-010	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.9)	明褐	明褐	ナデ	－	○			○	○	○			16
	9	I-21/-/SK037-006, 一括	Ⅱ－１－①	胴部		(6.7)	黒褐	灰黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○		○	○	○		35
	10	I-21/-/SK037一括	Ⅱ－１－①	胴部		(2.1)	橙	橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○							補修孔 赤色顔料	10
	11	I-21/-/SK037-030	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	黒褐	橙	ナデ	－	○		○		○	○		黒曜石	37
	12	I-21/-/SK037-007, 020	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	明赤褐	にぶい橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○		○	○			75
	13	I-21/-/SK037-028	Ⅱ－２－①	胴部		(3.8)	にぶい褐	にぶい橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○				○	○			38
	14	I-21/-/SK037一括	Ⅱ－２－①	胴部		(3.7)	明赤褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○			○	○	○			22
25	15	I-14/-/SK216-014 H-17/Ⅳ/38627	Ⅱ－１－①	胴部		(4.0)	灰黄褐	褐灰	ナデ	ナデ	○				○	○			19
	16	H-17/-/SK170一括	Ⅱ－１－①	口縁部		(1.9)	にぶい褐	灰褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			6
26	17	H-17/-/SK204-002 H-18/Ⅳ/DS15-004 H-18/Ⅳ/39579	Ⅱ－１－①	口縁～ 胴部		(11.0)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○						69
	18	H-17/-/SK204-005	Ⅱ－１－①	胴部		(5.5)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○						45
	19	H-17/-/SK204-009	Ⅱ－２－①	胴部		(4.0)	黄灰	褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○				○	○			15
	20	H-17/-/SK204-008 I-15・16/Ⅲ/DS18-067 H-14/Ⅳ/32076, 39885 H-15/Ⅲ/19033, 19044 H-15/Ⅳ/36655, 53461 I-15/Ⅱb/15203	Ⅱ－１－①	胴部		(10.9)	明赤褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○		○	○	○		255
27	21	G-18/-/SK168-004	Ⅱ－１－②	口縁部		(3.1)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○						9
	24	H-18/-/SK236-005	Ⅱ－１－②	胴部		(4.3)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○	○			○	○			15
	25	H-18/-/SK236-008	Ⅱ－２－①	胴部		(5.9)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○	○			○	○		黒曜石	53
	26	H-18/-/SK236-012	Ⅱ－２－③	胴部		(3.7)	褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			27
28	27	H-18/-/SK107-038	Ⅲ	胴部		(2.3)	褐	にぶい橙	ナデ	貝殻条痕→ ナデ					○	○			8
	28	I-18/-/SK105-013	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.5)	褐灰	灰黄褐	ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○						6
	29	I-18/-/SK092-009	Ⅱ－１－①	胴部		(4.8)	にぶい褐	黒褐	貝殻条痕→ ナデ	ナデ	○	○	○						22
29	30	I-19/-/SK117-005, 007	Ⅱ－１－①	胴部		(7.9)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ ナデ	ナデ	○		○		○	○			49
	31	I-19/-/SK117-002	Ⅱ－２－②	胴部		(6.5)	にぶい黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕			○		○	○			41
	32	I-19/-/SK117-006	Ⅱ－２－①	胴部		(3.3)	にぶい橙	にぶい褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○		○	○		炭化物 付着	20
30	33	G-22/-/SK034-012	Ⅱ－１－②	口縁部		(3.6)	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ			○		○	○			15
	34	G-22/-/SK034一括 G-22/Ⅳ/8519	Ⅱ－１－①	胴部		(8.3)	褐	褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○				○	○			55
31	37	G-22/-/SK071-079 G-22/Ⅳ/11209	Ⅱ－２－①	口縁～ 胴部		(10.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○		○	○			113
	38	G-22/-/SK071-161	Ⅱ－２－①	口縁部		(4.9)	明赤褐	にぶい褐	ナデ	－			○		○	○			26
	39	G-22/-/SK071-094	Ⅱ－１－②	胴部		(3.4)	灰褐	灰褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			18
	40	G-22/-/SK071-035	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	にぶい黄橙	橙	ナデ	ナデ			○				○		29
32	42	G-16/-/SK195-005	Ⅲ	胴部		(3.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕			○		○	○			7
33	44	G-19/-/SK097-007 H-17/Ⅱ/16132	Ⅱ－１－①	胴部		(3.5)	黒褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			30
	45	G-19/-/SK097-010 D-20/Ⅳ/5234	Ⅱ－１－②	胴部		(7.4)	黒褐	にぶい褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ			○		○	○	○		45
	46	G-19/-/SK097-011	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	にぶい橙	灰褐	ナデ	ナデ					○	○			28
	47	H-19/-/SK099-006	Ⅱ－２－①	胴部		(4.8)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ ナデ	貝殻条痕→ ナデ	○		○		○	○			36
34	48	H-19/-/SK142-002	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	褐	褐	ナデ	貝殻条痕	○		○		○	○			26
	49	H-19/-/SK143-006	Ⅱ－１－②	胴部		(3.1)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ ナデ					○	○			13
	50	I-19/-/SK123-001 I-18/Ⅳ/42115	Ⅲ	胴部		(3.6)	にぶい黄褐	黄褐	ナデ	ナデ			○	○			○		41

第９表　土坑出土土器観察表２

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
35	51	E-19/-/SK153-009	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.3)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			15
	52	E-19/-/SK153-030	Ⅱ－１－①	胴部		(5.4)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			22
	53	E-19/-/SK153-001	Ⅱ－２－①	胴部		(2.9)	明赤褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕			○						12
	54	E-19/-/SK153-010	Ⅱ－２－①	胴部		(2.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			8
	55	E-19/-/SK153-028	Ⅳ	胴部		(3.4)	明黄褐	黒褐	-	ナデ	○								5
36	56	D-20/-/DS09-056 D-20/Ⅳ下/DS25-002 D-19/Ⅴ/23946 D-20/Ⅳ/68,7915 ,50677 D-19/Ⅳ/一括 D-20/Ⅰ/一括 ---/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～底部	18.8	(23.5)	にぶい赤褐	赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○			○	○			665
37	57	D-20/-/DS09-012,013	Ⅱ－１－①	口縁部		(6.1)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		41
	58	D-20/-/DS09-009	Ⅱ－２－②	口縁部		(10.5)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			180
	59	D-20/-/DS09-005 D-20/Ⅳ /3497,7399,7400,7821,7832 F-21/Ⅳ/3654 D-21/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(17.0)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			518
	60	D-20/-/DS09- 015,019,023,059 ---/Ⅳ/一括	Ⅱ－２－①	胴部		(7.4)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	-	○		○		○	○			110
38	61	H-13/-/SK075-013	Ⅱ－１－②	口縁部		(4.2)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		21
39	62	H-13/-/SK144-001	Ⅲ	胴部		(5.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕	ナデ			○		○	○			34
40	63	G-13/-/SK077-005	Ⅱ－１－②	胴部		(4.7)	にぶい黄褐	黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			28
	64	I-14/-/SK215-002,004,006	Ⅱ－１－②	口縁～胴部		(13.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕	貝殻条痕			○		○	○			155
41	65	H-14・15/-/SK193-008	Ⅲ	底部		(5.0)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			42
43	66	H-15/-/SK191-033 H-15/Ⅲ/20998 H-15/Ⅳ /40289,36795,33314,34901 I-15/Ⅱa/15439 H-16/Ⅳ/41256 I-16/Ⅳ/36555 H-17/Ⅱ/16102 G-16/Ⅰ/一括 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部		(14.8)	にぶい橙	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○				○	○			280
	67	H-15/-/SK191-038,039	Ⅲ	胴部		(11.0)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			162
	68	H-15/-/SK191-054 H-15/Ⅳ/39735 I-15/Ⅱa/15071 H-16/Ⅳ/32956,31255 I-16/Ⅳ/38136 I-17/Ⅳ/30890 I-18/Ⅳ/42219	Ⅲ	胴部		(15.8)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			1026
	69	H-15/-/SK191-055	Ⅲ	底部		(2.3)	浅黄	黄褐	ナデ	ナデ			○						18
44	70	G-15/-/SK220-012,013	Ⅱ－１－②	口縁部		(7.4)	灰褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			44
	71	G-15/-/SK220-026	Ⅱ－１－②	胴部		(2.8)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○		補修孔 赤色顔料	11
	74	G-15/-/SK222-014	Ⅱ－１－②	胴部		(3.9)	にぶい褐	明褐	ナデ	ナデ	○			○	○	○			18
	75	G-15/-/SK222-004	Ⅲ	胴部		(6.0)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○								55
45	76	G-16/-/SK190一括	Ⅱ－２－①	口縁部		(3.3)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						17
	77	G-16/-/SK189-001	Ⅱ－１－①	口縁部		(6.7)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			49
	78	G-16/-/SK189-030	Ⅱ－１－②	口縁部		(4.0)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			15
46	79	I-15・16/-/SK212-043 I-15/Ⅲ/19111	Ⅱ－１－①	胴部		(3.6)	にぶい黄橙	黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		52
	80	I-15・16/-/SK212-022	Ⅱ－２－①	胴部		(2.1)	にぶい橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			14
	82	I-16/-/SK182-024	Ⅱ－１－②	胴部		(3.4)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	条痕				○	○	○			13
48	91	I-16/-/SK211-002	Ⅲ	胴部		(5.4)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			29
	92	I-16/-/SK210-006	Ⅱ－２－②	胴部		(3.0)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			24
49	93	H-17/-/SK167-006 H-17/Ⅳ/45170	Ⅱ－２－①	胴部		(8.5)	にぶい黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			83
	94	H-17/-/SK167-005	Ⅱ－１－②	胴部		(4.0)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			22
	95	H･I-17/-/SK178-009	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.1)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○						23

第10表　土坑出土土器観察表３

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
50	96	G-17/-/SK172- 018, 019, 045, 072, 082, 092 G-17/Ⅳ/14711, 14918	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	36.0	(12.6)	にぶい黄褐	黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○		補修孔	243
	97	G-17/-/SK172- 038, 044, 107, 109	Ⅱ－１－①	胴部		(11.4)	にぶい褐	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			84
	98	G-17/-/SK172- 017, 147, 157, 158, 159	Ⅱ－１－①	胴部		(12.0)	にぶい橙	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			96
	99	G-17/-/SK172-110	Ⅱ－１－①	胴部		(6.9)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			29
	100	G-17/-/SK172-073	Ⅱ－１－①	胴部		(3.6)	褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			17
	101	G-17/-/SK172-032	Ⅱ－１－①	胴部		(3.3)	褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			17
51	102	G-17/-/SK172-036	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						11
	103	G-17/-/SK172-058	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.3)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			21
	104	G-17/-/SK172-049	Ⅱ－２－①	口縁部		(9.5)	褐	褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○		177
	105	G-17/-/SK172一括	Ⅱ－２－②	口縁部		(4.8)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○	○	○						26
	106	G-17/-/SK172-115	Ⅱ－１－①	胴部		(4.9)	明赤褐	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		38
	107	G-17/-/SK172-021	Ⅱ－１－②	胴部		(2.9)	にぶい橙＋すす	にぶい褐	ナデ	ナデ			○		○	○		黒曜石	19
	108	G-17/-/SK172-139	Ⅱ－１－②	胴部		(3.3)	褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			20
	109	G-17/-/SK172-085	Ⅱ－１－②	胴部		(4.8)	褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			38
	110	G-17/-/SK172-040, 041	Ⅱ－２－①	胴部		(8.4)	褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			103
	111	G-17/-/SK172一括 G-17/Ⅳ/14710, 16230	Ⅱ－２－①	胴部		(8.5)	褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			113
	112	G-17/-/SK172-056, 083	Ⅲ	胴部		(7.3)	にぶい黄褐	明赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○	炭化物付着	68
	113	G-17/-/SK172-074 H-18/Ⅰ/一括	Ⅲ	底部		(3.4)	にぶい黄褐	明黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			111
52	115	G-17/-/SK150-057	Ⅱ－１－②	口縁部		(2.9)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			9
	116	G-17/-/SK150-019	Ⅱ－１－②	胴部		(2.6)	にぶい黄褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ			○		○	○			13
	117	G-17/-/SK150一括	Ⅱ－２－①	胴部		(3.0)	にぶい黄橙	黒褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			11
	118	G-17/-/SK150-073	Ⅱ－１－②	胴部		(3.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			16
53	122	G-18/-/SK180-006, 007	Ⅱ－２－①	胴部		(8.8)	黒褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			41
	123	G-18/-/SK180-003	Ⅱ－２－①	胴部		(4.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○	炭化物付着	28
	124	G-18/-/SK180-024, 026	Ⅲ	胴部		(5.6)	橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○			23
54	125	G･H-18/-/SK203-005 H-18/Ⅳ/45033	Ⅱ－１－①	口縁部		(7.6)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		88
	126	G･H-18/-/SK203-021	Ⅱ－１－②	口縁部		(2.5)	にぶい褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			9
	127	G･H-18/-/SK203-010 H-18/-/SK236-006, 014	Ⅱ－２－①	胴部		(14.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○	黒曜石	181
	128	G･H-18/-/SK203-022	Ⅱ－２－①	胴部		(5.8)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			88
	129	G･H-18/-/SK203-006, 009	Ⅱ－２－①	胴部		(5.8)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		55
	130	G･H-18/-/SK203-046 G-18/-/一括	Ⅱ－２－②	胴部		(4.8)	にぶい赤褐	明赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			31
	131	G･H-18/-/SK203-089 E-20/Ⅳ/15644	Ⅱ－２－②	胴部		(5.8)	にぶい褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○		○	○			72
	132	G･H-18/-/SK203-051, 060	Ⅱ－２－③	胴部		(4.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			27
	133	G･H-18/-/SK203-073, 074	Ⅱ－２－③	胴部		(6.7)	にぶい橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			66
	134	G･H-18/-/SK203- 031, 062, 063, 064, 068, 079	Ⅱ－２－③	胴部		(11.8)	にぶい橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			225
	135	G･H-18/-/SK203-059	Ⅱ－２－③	胴部		(2.4)	にぶい赤褐	明赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			8
55	137	H-18/-/SK202-024	Ⅱ－１－②	胴部		(2.9)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			16
	138	H-18/-/SK202-015	Ⅱ－２－①	胴部		(3.5)	黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○		炭化物付着	17
	139	H-18/-/SK202-022	Ⅱ－２－①	胴部		(2.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○						13
	140	H-18/-/SK202-044	Ⅱ－２－①	胴部		(4.3)	にぶい黄褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			25
	141	H-18/-/SK202-021, 039, 041	Ⅱ－２－①	胴部		(12.3)	にぶい褐	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○			○	○		補修孔	142
	142	H-18/-/SK202-005, 045 H-18/Ⅳ/14563	Ⅲ	底部		(3.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			121
56	144	H-18/-/SK200-023	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○				○		19
	145	H-18/-/SK200-083	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.2)	褐	褐	ナデ	ナデ					○	○			9

第11表　土坑出土土器観察表４

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
56	146	H-18/-/SK200-107	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.5)	褐	にぶい赤褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			22
	147	H-18/-/SK200-100 H-18/Ⅳ/42583	Ⅱ－１－②	胴部		(3.3)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ			○		○	○			27
	148	H-18/-/SK200-081	Ⅱ－１－②	胴部		(3.1)	にぶい黄褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○		○	○			9
	149	H-18/-/SK200-087	Ⅱ－１－②	胴部		(3.6)	にぶい橙	灰褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			9
	150	H-18/-/SK200-031 H-18/Ⅲ/44150	Ⅱ－２－①	胴部		(8.7)	にぶい褐	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○							71
	151	H-18/-/SK200-092	Ⅱ－２－①	胴部		(4.9)	にぶい赤褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						29
	152	H-18/-/SK200-068	Ⅱ－２－①	胴部		(3.7)	黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○			○					35
57	154	H-18/-/SK108-045 H-18/-/SK162-049 H-16/Ⅳ/28123 H-17/Ⅳ/26525,41131 I-17/Ⅳ/33608 H-18/Ⅳ/16737,37292 H-17/Ⅰ/一括 H-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	37.6	(11.5)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○	補修孔	265
	155	H-18/-/SK108-032 I-17/Ⅲ/21899 H-18/Ⅳ/43857 I-18/Ⅱb/11819	Ⅱ－１－①	胴部		(5.2)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			95
58	157	H-18/-/SK106-055	Ⅱ－１－②	胴部		(6.4)	にぶい橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			71
	158	H-18/-/SK109-029	Ⅱ－２－①	胴部		(3.7)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○		○	○	○	○	黒曜石	38
59	160	I-18/-/SK103-026	Ⅱ－２－①	胴部		(7.0)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○						95
	161	I-18/-/SK104-018	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			21
	162	I-18/-/SK104-007 H-18/-/SK200-047	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		29
	163	I-18/-/SK104-014	Ⅱ－２－①	胴部		(2.9)	にぶい橙	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			29
60	164	I-18/-/SK103-001 I-18/-/SK088-015	Ⅱ－１－②	口縁部		(8.5)	暗褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	○	○			○	○			57
	165	I-18/-/SK088-021	Ⅱ－２－①	胴部		(3.9)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ		○	○						20
	166	I-18/-/SK089- 012,013,014,021 I-18/-/SK090-003	Ⅲ	胴部		(9.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			181
61	168	I-18/-/SK114-007	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.8)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			12
	169	I-18/-/SK085-013	Ⅱ－１－②	胴部		(3.2)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ					○	○	○	黒曜石	18
	170	I-18/-/SK085-012	Ⅱ－２－②	胴部		(4.6)	褐	褐	ナデ	ナデ	○	○	○						41
	171	J-18/-/SK084-024	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.6)	褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○			○	○	○		18
62	173	I-18/-/SK089-025 J-18/-/SK087-038 I-18/Ⅱb/一括	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			50
	174	J-18/-/SK087- 017,024,022,021 J-18/Ⅳ/34411,34412	Ⅱ－２－①	口縁～胴部	27.0	(16.1)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			299
	175	J-18/-/SK087-030	Ⅱ－１－②	胴部		(3.6)	灰褐	にぶい褐	ナデ	ナデ		○	○						16
	176	J-18/-/SK087-033	Ⅱ－２－①	胴部		(5.8)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			38
63	177	I-18/-/SK091-031 F-22/Ⅳ/8448	Ⅱ－２－①	口縁部		(4.3)	暗褐	黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			46
	178	I-18/-/SK091-025 I-17/Ⅳ/34473	Ⅱ－２－①	胴部		(6.3)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			54
	179	I-18/-/SK091-018 G･H-17･18/-/DS23-034 G-17/Ⅳ/43401	Ⅱ－２－①	胴部		(8.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			122
64	180	I-18･19/-/SK116-109	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			15
	181	I-18･19/-/SK116-163	Ⅱ－１－②	口縁部		(4.6)	暗褐	暗褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			14
	182	I-18･19/-/SK116-103 I-18･19/-/SK118-147	Ⅱ－１－①	胴部		(6.1)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○			○	○			28
	183	I-18･19/-/SK116-187	Ⅱ－１－①	胴部		(6.1)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			35
	184	I-18･19/-/SK116-162	Ⅱ－１－②	胴部		(6.2)	にぶい黄褐	暗褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○					29
	185	I-18･19/-/SK116-112	Ⅱ－１－②	胴部		(3.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	-	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			23
	186	I-18/-/SK091-029 I-18･19/-/SK116-064	Ⅱ－２－①	胴部		(7.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			172
	187	I-18･19/-/SK116-042	Ⅱ－２－①	胴部		(3.0)	にぶい赤褐	にぶい橙	ナデ	ナデ					○	○			16
	188	I-18･19/-/SK116-036	Ⅲ	底部		(2.7)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			21
	189	I-18･19/-/SK116-151	Ⅳ－５	胴部		(7.9)	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○	○		133
67	192	G-19/-/SK101-063	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			18

第12表　土坑出土土器観察表５

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
67	193	G-19/-/SK101-135	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	－	貝殻条痕→ナデ	○								20
	194	G-19/-/SK101-023	Ⅱ－２－①	口縁部		(4.1)	橙	橙	ナデ	ナデ					○	○			23
	195	G-19/-/SK101-015,016 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(6.8)	暗褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			150
	196	G-19/-/SK101-039	Ⅱ－１－①	胴部		(5.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○						37
	197	G-19/-/SK101-123	Ⅱ－２－①	胴部		(5.5)	にぶい橙	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			31
	198	G-19/-/SK101-034	Ⅲ	胴部		(2.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○							赤色顔料	7
	199	G-19/-/SK101-124	Ⅲ	底部		(2.1)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○			181
68	202	H-19/-/SK059-038,039	Ⅱ－１－①	口縁部		(7.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			78
	203	H-19/-/SK059-030	Ⅱ－２－①	口縁部		(4.9)	にぶい褐	にぶい橙	ナデ	ナデ			○		○	○			21
	204	H-19/-/SK059-013	Ⅱ－１－①	胴部		(5.5)	にぶい褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		36
	205	H-19/-/SK059-009,026,040 I-17/Ⅳ/36062	Ⅱ－１－①	胴部		(13.4)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			156
	206	H-19/-/SK059-001	Ⅱ－２－①	胴部		(4.9)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ			○		○	○			30
69	208	H-19/-/SK156- 010,014,017,023,026,028, 048,050,062,066	Ⅱ－１－②	口縁～胴部		(14.0)	黄褐	橙	ナデ	ナデ	○				○	○			164
	209	H-19/-/SK156-012	Ⅱ－１－②	口縁部		(5.3)	にぶい褐	橙	ナデ	ナデ	○				○	○	○		25
	210	H-19/-/SK156-038	Ⅱ－１－①	胴部		(3.2)	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ					○	○			15
	211	H-19/-/SK156-081	Ⅱ－１－②	胴部		(3.7)	灰褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			12
	212	H-19/-/SK156-056	Ⅱ－２－①	胴部		(4.7)	にぶい褐	赤褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○					42
	213	H-19/-/SK156-034	Ⅱ－２－①	胴部		(4.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○		○	○	○	○		31
	214	H-19/-/SK156-054	Ⅱ－２－①	胴部		(4.2)	にぶい褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			22
	215	H-19/-/SK156-004	Ⅱ－２－①	胴部		(3.9)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○			○		19
	216	H-19/-/SK156-053	Ⅱ－２－①	胴部		(3.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○					19
	217	H-19/-/SK156一括	Ⅳ－４	胴部		(3.9)	にぶい黄	にぶい黄	ナデ	ナデ	○				○		○		20
70	219	H-19/-/SK098-024	Ⅱ－１－①	胴部		(3.9)	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○	○		24
	220	H-19/-/SK098-007	Ⅱ－２－①	胴部		(3.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			14
	221	H-19/-/SK156-047 H-18/-/SK157-006 H-18/-/SK200-064 H-18/Ⅳ/11310,41989,43246	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	14.0	(9.3)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○			○		77
	222	H-18･19/-/SK157-046 I-18/Ⅳ/38397	Ⅱ－１－②	口縁部		(3.5)	にぶい黄褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○			○	○			24
	223	H-18･19/-/SK157-040	Ⅱ－２－①	胴部		(7.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○			51
71	224	H-19/-/SK134-004	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－					○	○			23
	225	H-19/-/SK134-027	Ⅱ－２－①	胴部		(4.0)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			14
	226	H-19/-/SK137-007 G-15/Ⅳ/41519	Ⅱ－２－①	胴部		(5.6)	褐	にぶい褐	ナデ	ナデ			○						53
	227	H-19/-/SK137-036	Ⅱ－２－①	胴部		(5.2)	にぶい褐	灰褐	ナデ	ナデ			○		○	○			32
	228	H-19/-/SK137-041	Ⅱ－２－①	胴部		(5.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			39
72	229	H-19/-/SK130-020,027	Ⅱ－１－①	口縁部	30.0	(6.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○		○	○	○			123
	230	H-19/-/SK130-009	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.4)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ			○		○	○			27
	231	H-19/-/SK130-025	Ⅱ－２－②	胴部		(7.8)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ			○		○	○			99
	232	H-19/-/SK130-039	Ⅲ	胴部		(4.3)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			40
74	234	I-19/-/SK055一括 J-20/Ⅳ/10555	Ⅱ－１－①	胴部		(4.3)	にぶい赤褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			38
	235	I-19/-/SK055-002	Ⅱ－２－①	胴部		(11.0)	にぶい褐	にぶい褐	－	ナデ			○		○	○			134
	236	I-19/-/SK126-009	Ⅱ－１－①	胴部		(4.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			17
	237	I-19/-/SK126-008	Ⅱ－１－①	胴部		(4.3)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ		○	○		○	○			21
	238	I-18･19/-/SK122-012	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						35
	239	I-18･19/-/SK122-011 I-18/Ⅱb/12105,14540 I-19/Ⅵ/54227 G-16/Ⅰ/一括	Ⅱ－２－②	胴部		(7.3)	にぶい橙	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			90
	240	J-19/-/SK115-002	Ⅱ－２－①	胴部		(5.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			23

第13表　土坑出土土器観察表６

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
75	241	J-19/-/SK012-148 I-19/-/SK053-001	Ⅱ－１－①	口縁部		(9.0)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			71
	242	J-19/-/SK012-068	Ⅱ－１－②	口縁部		(2.5)	暗褐	暗褐	ナデ	ナデ	○			○					8
	243	J-19/-/SK012-021	Ⅱ－１－①	胴部		(4.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			19
	244	J-19/-/SK012-107	Ⅱ－２－①	胴部		(3.3)	灰黄褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			25
	245	J-19/-/SK012-133	Ⅲ	胴部		(5.2)	暗褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○				炭化物付着	42
	246	J-19/-/SK012- 098, 114, 115, 116, 117, 118, 119	Ⅲ	胴部		(16.1)	褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			686
76	247	J-20/-/SK049-003 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(6.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			95
	248	J-20/-/SK049-015	Ⅱ－１－①	胴部		(5.1)	褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			16
	249	J-20/-/SK049-002 H-21/Ⅳ/4537	Ⅱ－１－①	胴部		(4.5)	灰黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	○	○		○	○	○			68
	250	J-20/-/SK049-005	Ⅱ－２－①	胴部		(3.4)	にぶい赤褐	明赤褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			22
77	255	H-20/-/SK045-002 I-18/Ⅳ/35585	Ⅱ－１－①	胴部		(6.2)	にぶい赤褐	赤褐	ナデ	ナデ			○		○	○			76
	256	H-20/-/SK045-007 H-21/Ⅳ/一括	Ⅱ－２－①	胴部		(3.0)	黒褐	黒褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○								19
	257	H-21/-/SK042一括	Ⅱ－２－①	胴部		(3.7)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			21
	258	H-21/-/SK043-003	Ⅲ	底部		(5.1)	にぶい褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			66
78	262	H-22/-/SK040-020	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.5)	褐	褐	ナデ	－	○			○	○	○			26
	263	H-22/-/SK040-016	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	黒褐	明赤褐	貝殻条痕→ナデ	－	○		○		○	○			24
	264	H-22/-/SK040- 043, 052, 054, 055, 056	Ⅱ－１－①	胴部		(13.2)	にぶい橙	にぶい黄橙	－	－	○			○	○	○			172
	265	H-22/-/SK040-007, 039, 053, 一括	Ⅱ－１－①	胴部		(7.4)	にぶい赤褐	にぶい橙	－	－	○			○	○	○		黒曜石	145
79	266	H-22/-/SK040- 013, 021, 059, 061	Ⅱ－１－①	胴部		(11.2)	にぶい褐	橙	－	－	○			○	○	○	○		146
	267	H-22/-/SK040-060, 062	Ⅱ－１－①	胴部		(5.6)	にぶい褐	橙	－	－	○			○	○	○			56
	268	H-22/-/SK040-002	Ⅲ	胴部		(4.0)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			24
80	270	G-21/-/SK026-025	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○		黒曜石	16
	271	G-21/-/SK026-003	Ⅱ－１－①	口縁部		(10.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○	黒曜石	63
	272	G-21/-/SK026-022	Ⅱ－２－①	胴部		(7.0)	黒褐	黒褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			56
	273	G-21/-/SK026-007	Ⅱ－２－①	胴部		(3.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			28
81	277	G-21/-/SK031-001	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.4)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○			12
	278	G-21/-/SK031-004	Ⅱ－２－①	口縁部		(5.4)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		34
	279	G-21/-/SK031-018	Ⅱ－１－①	胴部		(5.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		52
	280	G-21/-/SK031-015	Ⅱ－２－①	胴部		(6.2)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			23
	281	G-21/-/SK021-003 G-21/-/SK031-016	Ⅱ－２－②	胴部		(7.2)	橙	黒褐	ナデ	ナデ			○		○	○			48
	282	G-21/-/SK031-019	Ⅲ	胴部		(4.4)	褐	灰褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ				○	○	○			20
	283	G-21/-/SK031-012	Ⅲ	底部		(1.8)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			15
	286	G-21/-/SK029-005	Ⅱ－２－①	胴部		(2.4)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ		○	○		○	○			14
	287	G-21/-/SK029一括	Ⅱ－２－①	胴部		(2.0)	にぶい黄褐	褐	ナデ	ナデ		○			○	○			14
82	291	F-21/-/SK024-014	Ⅱ－１－①	胴部		(6.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○						20
	292	F-21/-/SK024-015	Ⅱ－２－①	胴部		(5.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			33
	293	F-21/-/SK024-005	Ⅱ－２－①	胴部		(4.6)	褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			22
	294	F-21/-/SK024-017	Ⅲ	胴部		(5.6)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			91
	297	G-22/-/SK033一括	Ⅲ	胴部		(3.0)	灰黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○			○					12
83	298	G-18/-/SK234-016	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.6)	褐	にぶい黄褐	－	ナデ	○				○	○			40
	299	G-18/-/SK234-018	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.9)	褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○			○	○	○			32
	300	G-18/-/SK234-018	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.1)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○			○	○	○			11
	301	G-18/-/SK234-001	Ⅲ	口縁部		(3.9)	にぶい褐	灰褐	ナデ	ナデ	○				○	○			10
	302	G-18/-/SK234-031	Ⅱ－１－①	胴部		(3.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ					○	○			13
	303	G-18/-/SK234-019, 020, 021	Ⅲ	胴部		(10.2)	にぶい褐	明褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			196

第14表　土坑出土土器観察表７

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
84	305	G-18/-/SK235-012 G-17/Ⅳ/45194 G-17/Ⅵ/53755	Ⅱ－１－①	口縁部		(7.4)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			83
	306	G-18/-/SK238-009,010 D-18/Ⅳ下/51466,51467	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	32.9	(14.3)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			275
86	308	G-14/-/SK221-006	Ⅱ－１－②	胴部		(7.0)	暗褐	にぶい黄橙	貝殻条痕	貝殻条痕	○		○		○	○			94
87	310	G-17/-/SK169一括	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			13
	311	G-17/-/SK169一括	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	褐	灰褐	ナデ	ナデ	○								35
	312	G-17/-/SK169一括 G-17/Ⅳ/49148,49150	Ⅱ－２－①	胴部		(6.8)	にぶい褐	灰褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			104
	313	G-17/-/SK169一括 G-17/Ⅳ/40437,40765	Ⅱ－２－①	胴部		(7.3)	暗褐	にぶい褐	ナデ	ナデ		○			○	○			66
88	315	I-17/-/SK179-017	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	にぶい黄褐	橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		22
	316	I-17/-/SK179-007	Ⅳ－５	胴部		(2.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○	○		6
90	317	H-18/-/SK162-039 H-14/Ⅳ/DS20-009 H-16/Ⅲ/20033 H-18/Ⅲ/43490 H-18/Ⅳ /11253,16610,34000,42494 H-17/Ⅰ/一括 H-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－２－①	胴部	44.9	(31.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			890
	318	H-18/-/SK162-035 H-18/Ⅳ/16819 I-18/Ⅲ/17009	Ⅱ－２－①	胴部		(6.4)	灰黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			84
	319	H-18/-/SK162-027,050	Ⅱ－２－①	胴部		(2.4)	褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			15
91	320	H-18/-/SK162-042 H-16･17/-/SK205-017 I-14/Ⅳ/32280 G-16/Ⅳ/53654,40863 H-16/Ⅲ/18814 I-16/Ⅳ/32202 H-17/Ⅲ/43619 H-17/Ⅳ /38700,12469,40013,41952 H-17/Ⅵ/54491 H-18/Ⅳ/43994,54477,43998 H-18/Ⅱ/43618 H-16/Ⅳ/一括 H-17/Ⅰ/一括,D-22/Ⅰ/一括	Ⅱ－２－②	口縁～胴部	31.0	(30.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○	○		840
	321	H-18/-/SK162-015,043 H-17/Ⅳ/41957 H-18/Ⅳ/43856	Ⅱ－２－②	胴部		(11.1)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			161
	322	H-18/-/SK162-007,037,038 H-17/Ⅳ/37631	Ⅵ	胴部		(5.3)	にぶい褐	黒褐	ナデ	ナデ					○	○			48
92	323	G-19/-/SK135-006	Ⅱ－２－①	胴部		(4.8)	褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ					○	○			27
	324	G-18/-/SK136-018	Ⅱ－２－①	胴部		(4.2)	褐	褐	ナデ	ナデ	○				○	○			32
	325	H-19/-/SK100-014	Ⅱ－１－①	胴部		(2.8)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		15
93	326	I-19/-/SK128-001	Ⅱ－２－①	胴部		(3.6)	黄褐	灰黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						12
	327	I-19/-/SK127-001	Ⅱ－２－①	胴部		(2.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○	○		8
94	328	I-20/-/SK065-026	Ⅱ－２－①	胴部		(3.2)	にぶい褐	黄褐	ナデ	ナデ		○	○		○	○			21
	329	I-20/-/SK065-021	Ⅲ	底部		(3.5)	黄褐	黒褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			41
	330	I-20/-/SK065-057	Ⅱ－１－①	胴部		(2.2)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			10
95	333	I-20/-/SK066-025	Ⅱ－１－①	胴部		(2.5)	橙	黄褐	ナデ	ナデ		○	○						8
96	334	G-21/-/SK027-001	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.0)	褐	にぶい黄褐	ナデ	-			○		○	○			23
	335	G-21/-/SK027-002	Ⅱ－１－①	胴部		(4.4)	褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○			31
	336	G-21/-/SK027-003	Ⅱ－１－①	胴部		(5.2)	橙	橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○			23
	337	G-21/-/SK027-009 G-21/-/SK052-072,077,102	Ⅱ－２－①	胴部		(6.6)	にぶい橙	黒褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			121
97	340	G-22/-/SK035-009	Ⅱ－１－②	口縁部		(6.6)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			66
	341	G-22/-/SK035一括 G-22/Ⅳ/837,3981	Ⅱ－２－①	胴部		(6.7)	灰黄	灰黄	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			44
98	344	D-21/-/SK213-011	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			26
	345	D-21/-/SK213-022	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.5)	明赤褐	にぶい褐	-	ナデ	○			○	○	○			52
	346	D-21/-/SK213-031	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○								7
99	347	H-16/-/SK188-008	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ			○		○	○			31

第15表　土坑出土土器観察表８

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
99	348	H-16/-/SK188一括	Ⅱ－１－②	胴部		(4.5)	にぶい黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ			○						13
	349	H-16/-/SK188-012,023	Ⅲ	胴部		(6.5)	にぶい褐	黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			54
	350	I・J-18/-/SK112-015	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.6)	灰褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			41
100	351	H-19/-/SK096-003	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.8)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○			8
	352	H-19/-/SK096-044	Ⅱ－２－①	胴部		(4.1)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			15
	353	F-22/-/SK018-025	Ⅱ－１－②	口縁部		(6.5)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			108
	354	F-22/-/SK018-018,020～022	Ⅱ－１－②	胴部		(11.9)	灰黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○		補修孔	207
101	355	F-22/-/SK018-017～019,029,030	Ⅱ－１－②	胴部		(14.0)	にぶい赤褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			226
	356	F-22/-/SK018-027,028	Ⅱ－１－②	胴部		(12.1)	赤褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ				○	○	○			302
	357	F-22/-/SK018-023,035	Ⅱ－１－②	胴部		(10.9)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ					○	○	○		72
	358	F-22/-/SK018-010	Ⅱ－２－①	胴部		(7.9)	褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			141
	359	F-22/-/SK018一括	Ⅲ	底部		(3.2)	にぶい黄橙	黒褐	ナデ	ナデ					○	○			8
102	362	E-22/-/SK051-011,017	Ⅲ	胴部		(7.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			58
	363	E-22/-/SK051-020	Ⅱ－２－①	底部		(6.0)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ					○	○			107
103	364	H-15/-/SK225-027	Ⅱ－１－②	胴部		(3.8)	褐	褐	ナデ	ナデ	○			○					12
	365	H-15/-/SK192-016	Ⅲ	口縁部		(3.7)	黄褐	黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			12
	366	H-15/-/SK192-020	Ⅱ－１－②	胴部		(3.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			12
	367	H-15/-/SK192-055	Ⅲ	胴部		(5.4)	橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			53
105	369	H-16/-/SK187-002	Ⅱ－１－①	胴部		(2.7)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			16
	370	H-16/-/SK187-013	Ⅱ－１－②	胴部		(2.9)	にぶい黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○	○	軽石	19
	371	H-16/-/SK187-014	Ⅱ－１－②	胴部		(5.0)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○	○	○		○	○	○		22
	372	H-16/-/SK187-024	Ⅱ－２－①	胴部		(9.2)	灰黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○				○	○			104
	373	H-16/-/SK187-015 H-16/-/SK188-009,013 H-16/Ⅳ/53386	Ⅲ	胴部		(8.5)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ					○	○			209
106	374	H-16/-/SK183-014 H-16/Ⅳ/36375	Ⅳ	胴部		(6.1)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○		19
107	375	H-17/-/SK165一括	Ⅱ－１－①	口縁部		(6.0)	にぶい黄褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			38
	376	H-17/-/SK165-020	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.0)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			27
	377	H-17/-/SK165-024	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			14
	378	H-16/-/SK188-029 H-17/-/SK165-012	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.4)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○				○	○			35
	379	H-17/-/SK165一括 H-17/Ⅳ/43889	Ⅱ－１－①	胴部		(5.0)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			45
	380	H-17/-/SK165一括	Ⅱ－１－①	胴部		(4.5)	にぶい褐	黒褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			20
	381	H-17/-/SK165一括	Ⅱ－２－①	胴部		(7.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○	炭化物付着	43
	382	H-17/-/SK165-008	Ⅱ－２－①	胴部		(4.3)	黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			26
	383	H-17/-/SK165一括	Ⅱ－２－③	胴部		(3.0)	灰黄褐	にぶい褐	条痕	ナデ			○		○	○			18
	384	H-17/-/SK165一括 H-18/Ⅳ/11347,16627,34026	Ⅱ－２－①	胴部		(6.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			48
	385	H-17/-/SK165一括	Ⅱ－２－①	胴部		(9.1)	にぶい黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			47
109	388	G・H-18/-/SK201-008,009	Ⅱ－１－①	口縁部		(7.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		44
	389	G・H-18/-/SK201-085	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.2)	にぶい黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○	黒曜石	17
	390	G・H-18/-/SK201-003	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						12
	391	G・H-18/-/SK201-064	Ⅱ－２－①	口縁部		(4.9)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			47
	392	G・H-18/-/SK201-044 H-18/Ⅳ/16700	Ⅱ－１－①	胴部		(5.0)	にぶい黄褐	黒褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			49
	393	H-18/-/SK200-096,102,103 G・H-18/-/SK201-145 I-16/Ⅳ/29506	Ⅱ－１－①	胴部		(11.1)	灰褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			160
	394	G・H-18/-/SK201-139	Ⅱ－１－①	胴部		(4.6)	にぶい黄褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			52
	395	G・H-18/-/SK201-052,107	Ⅱ－１－①	胴部		(3.2)	にぶい黄褐	にぶい褐	ナデ	ナデ			○		○	○			44
	396	G・H-18/-/SK201-121	Ⅲ	胴部		(3.6)	にぶい黄褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			26

第16表　土坑出土土器観察表９

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
110	399	G･H-18/-/SK166-080	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.4)	褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			41
	400	G･H-18/-/SK166-097	Ⅱ－１－①	胴部		(2.5)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○		黒曜石	12
	401	G･H-18/-/SK166-009 G-18/Ⅳ/43122	Ⅱ－１－①	胴部		(13.8)	灰黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			192
	402	G･H-18/-/SK166-020,084 H-18/Ⅳ/48790	Ⅱ－２－①	胴部		(9.6)	にぶい黄褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			69
	403	G･H-18/-/SK166-007	Ⅱ－２－①	胴部		(4.7)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			28
	404	G･H-18/-/SK166-076,081	Ⅲ	底部		(3.6)	にぶい褐	黒褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			17
112	406	H-19/-/SK17･131-020	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ					○	○			13
	407	H-19/-/SK17･131-100	Ⅱ－１－①	口縁部		(2.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ				○			○		13
	408	H-19/-/SK17･131-033	Ⅱ－１－①	胴部		(2.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			14
	409	H-19/-/SK17･131-082	Ⅱ－１－①	胴部		(3.8)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○			30
	410	H-19/-/SK17・131- 006,012,013, 014,015,016	Ⅱ－１－①	胴部		(14.4)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			86
	411	H-19/-/SK17･131-051	Ⅱ－１－①	胴部		(4.3)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			18
	412	H-19/-/SK17･131-074	Ⅱ－２－①	胴部		(3.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			17
	413	H-19/-/SK17･131-005	Ⅱ－２－①	胴部		(4.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			17
	414	H-19/-/SK17･131-024	Ⅱ－２－①	胴部		(4.6)	明黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			21
	415	H-19/-/SK17･131- 085,089,090	Ⅱ－２－①	胴部		(10.4)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			126
	416	H-19/-/SK17･131-050	Ⅲ	胴部		(3.0)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			21
	417	H-19/-/SK17･131-102	Ⅱ－２－③	胴部		(2.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			15
	418	G･H-19/-/SK132･133-097	Ⅱ－１－①	胴部		(3.5)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			23
	419	G･H-19/-/SK132･133-103	Ⅱ－１－②	胴部		(2.8)	暗褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			15
	420	G･H-19/-/SK132･133-114	Ⅱ－１－①	胴部		(3.3)	にぶい黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○		黒曜石	17
114	422	H-19/-/SK016-133	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.4)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ		○			○	○			18
	423	H-19/-/SK016-029 I-19/-/SK055-008 I-19/-/SK124-027 H-17/Ⅲ/43615 G-21/Ⅳ/1027	Ⅱ－２－①	口縁部		(12.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			130
	424	H-19/-/SK016-062,098,166	Ⅱ－１－①	胴部		(5.8)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○			○	○	○		88
	425	H-19/-/SK016-126	Ⅱ－２－①	胴部		(6.3)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			40
	426	H-19/-/SK016-150	Ⅱ－２－①	胴部		(3.3)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			13
	427	H-19/-/SK016-131	Ⅱ－２－①	胴部		(4.5)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○	○	補修孔	30
	428	H-19/-/SK016-068 G・H-17・18/-/DS23-021 I-19/Ⅳ/53625	Ⅱ－１－①	胴部		(10.0)	にぶい褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○		○	○			181
	429	H-19/-/SK016/086	Ⅱ－１－②	胴部		(4.5)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		22
	430	H-19/-/SK016-097	Ⅱ－１－②	胴部		(4.4)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○		26
	431	H-19/-/SK016-116	Ⅱ－２－①	胴部		(5.2)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			30
	432	H-19/-/SK016-056	Ⅱ－２－①	胴部		(5.0)	にぶい橙	黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			25
	433	H-19/-/SK016-154	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	黒褐	にぶい褐	ナデ	ナデ			○		○	○			30
	434	H-19/-/SK016-164	Ⅱ－２－①	胴部		(4.2)	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			19
	435	H-19/-/SK016-151	Ⅲ	胴部		(6.4)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕	ナデ			○		○	○			66
116	436	H-19/-/SK058-115	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						19
	437	H-19/-/SK058-090	Ⅱ－１－①	胴部		(3.3)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○	○		22
	438	H-19/-/SK058-119	Ⅱ－１－①	胴部		(4.8)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			27
	439	H-19/-/SK058-083	Ⅱ－２－①	胴部		(3.6)	にぶい橙	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			20
	440	H-19/-/SK058-112	Ⅱ－２－①	胴部		(6.4)	橙	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			57
	441	H-19/-/SK058-088	Ⅱ－２－①	胴部		(5.4)	暗褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			32
	442	H-19/-/SK058-136	Ⅲ	胴部		(3.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	条痕	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			31
	443	H-19/-/SK058-073	Ⅱ－２－①	底部		(2.8)	にぶい黄褐	黒褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ					○	○			22
	446	H-19・20/-/SK057-004	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○						14

第17表　土坑出土土器観察表10

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
116	447	H-19・20/-/SK057-044, 045	Ⅱ－1－①	胴部		(3.5)	褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			28
	448	H-19・20/-/SK057-011, 024	Ⅱ－2－①	胴部		(5.6)	黒褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		34
	449	H-19・20/-/SK057-060, 070	Ⅱ－2－①	胴部		(7.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			81
	450	H-19・20/-/SK057-050	Ⅱ－2－①	胴部		(2.4)	暗褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			14
	451	H-19・20/-/SK057-025 H-16/Ⅲ/18602 H-16/Ⅳ/36440	Ⅱ－2－②	胴部		(7.7)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○					黒曜石	50
117	452	H・I-18/-/SK176-054 H-18/-/SK200-010 I-17/Ⅳ/42904	Ⅱ－2－①	口縁～胴部		(10.0)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			73
	453	H・I-18/-/SK176-090	Ⅱ－1－①	胴部		(2.2)	灰黄褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						13
	454	H・I-18/-/SK176-029	Ⅱ－1－①	胴部		(3.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			13
	455	H・I-18/-/SK176-017	Ⅱ－1－②	胴部		(3.6)	橙	橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○			14
	456	H・I-18/-/SK176-063	Ⅱ－1－②	胴部		(1.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○								5
	457	H・I-18/-/SK176-069 I-18/Ⅱb/11942 I-18/Ⅲ/16995	Ⅱ－2－①	胴部		(8.3)	明赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			81
	458	H・I-18/-/SK176-009 I-18/Ⅳ/39673	Ⅲ	胴部		(7.2)	にぶい黄橙	褐灰	条痕	条痕	○				○	○			115
	459	H・I-18/-/SK176-064	Ⅲ	底部		(3.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕	条痕・ナデ			○		○	○			70
	460	H・I-18/-/SK176-051	Ⅳ	胴部		(2.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○						10
118	461	I-18/-/SK090-007	Ⅱ－1－②	胴部		(4.5)	暗褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○						15
	462	I・J-18/-/SK113-001	Ⅲ	胴部		(4.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						13
119	463	I-19/-/SK129-011	Ⅱ－1－②	胴部		(3.1)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			18
	464	I-19/-/SK056-004	Ⅱ－2－①	胴部		(2.9)	暗褐	褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			11
	465	I-19/-/SK056-018	Ⅱ－2－②	胴部		(4.5)	明赤褐	橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			34
	466	I-19/-/SK056-022	Ⅳ－4	胴部		(3.5)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			22
	468	I-19/-/SK086-004 H-21/Ⅳ/4417	Ⅱ－1－①	胴部		(7.4)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			33
120	469	I-19/-/SK124-012 H-18/Ⅳ/34051, 39550	Ⅱ－1－①	口縁部		(8.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			88
	470	I-19/-/SK124-026	Ⅱ－1－①	胴部		(5.9)	褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			50
	471	I-19/-/SK124-029	Ⅱ－1－②	胴部		(3.3)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○	○		18
	472	I-19/-/SK124-024 G・H-18/-/SK166-048 I-16/Ⅳ/39409 G-17/Ⅳ/14755, 53745 I-17/Ⅲ/43469	Ⅱ－2－①	胴部		(11.0)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			185
	473	I-19/-/SK124-009	Ⅱ－2－③	底部		(4.5)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			38
121	474	I・J-19/-/SK060-025	Ⅱ－2－①	口縁部		(5.5)	暗褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			24
	475	I・J-19/-/SK060-008, 015, 一括	Ⅱ－2－①	胴部		(3.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			25
	476	I・J-19/-/SK060-012	Ⅱ－2－①	胴部		(5.3)	褐	褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			22
	477	I・J-19/-/SK060-004, 027	Ⅱ－2－①	胴部		(5.5)	黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○	○	○	○			47
	478	I・J-19/-/SK060-020 I-19/Ⅳ/46662	Ⅱ－2－①	胴部		(14.7)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			146
	479	I・J-19/-/SK060-001, 005	Ⅲ	底部		(1.9)	にぶい黄橙	にぶい黄	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			59
123	481	I-18・19/-/SK116-102 I-18・19/-/SK118-036, 055, 091, 094, 110, 112, 121, 139, 158, 170 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－1－①	口縁～胴部	30.6	(15.6)	灰黄褐	黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○	○	炭化物付着	320
	482	I-18・19/-/SK118-106, 107, 156	Ⅱ－1－①	口縁～胴部		(10.4)	暗褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			112
	483	I-18・19/-/SK118-163	Ⅱ－1－①	口縁部		(2.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			13
	484	I-18・19/-/SK118-150	Ⅱ－1－①	口縁部		(3.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			7
	485	I-18・19/-/SK118-148 I-19/Ⅳ/42375	Ⅱ－1－①	口縁部		(4.7)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			10
	486	I-18・19/-/SK118-053, 114 I-17/Ⅳ/24320 I-19/Ⅳ/42401	Ⅱ－1－①	口縁～胴部		(12.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○		補修孔	171
	487	I-18・19/-/SK118-079	Ⅱ－1－①	口縁部		(6.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			71
	488	I-18・19/-/SK118-133	Ⅱ－1－①	口縁部		(4.6)	にぶい黄褐	黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			23
	489	I-18・19/-/SK118-159, 160	Ⅱ－1－①	口縁部		(3.7)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			33
	490	I-18・19/-/SK118-052	Ⅱ－1－①	口縁部		(3.3)	明赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○				○	○			26

第18表　土坑出土土器観察表11

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
123	491	I-18・19/-/SK118-131	Ⅱ－1－②	口縁部		(3.9)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○			22
124	492	I-18・19/-/SK118-046 I-19/Ⅳ/11687	Ⅱ－1－②	口縁部		(4.2)	にぶい褐	灰黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			43
	493	I-18・19/-/SK118-043	Ⅱ－1－②	口縁部		(2.9)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ			○						13
	494	I-18・19/-/SK118-057	Ⅱ－2－③	口縁部		(3.1)	にぶい褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○			○	○	○			12
	495	I-18・19/-/SK118-080	Ⅱ－1－①	胴部		(1.8)	赤褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ					○	○		赤色顔料	7
	496	I-18・19/-/SK118-141, 149	Ⅱ－1－①	胴部		(8.7)	にぶい黄褐	暗灰黄	ナデ	ナデ			○		○	○			52
	497	I-18・19/-/SK118-104, 143	Ⅱ－2－①	胴部		(6.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			22
	498	I-18・19/-/SK118-026	Ⅱ－2－①	胴部		(7.8)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			66
	499	I-18・19/-/SK118-088	Ⅱ－2－①	胴部		(4.4)	褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			23
	500	I-18・19/-/SK118-045	Ⅱ－2－①	胴部		(4.3)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						13
	501	I-18・19/-/SK118-065	Ⅱ－2－①	胴部		(5.4)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			36
	502	I-18・19/-/SK118-075	Ⅱ－2－①	胴部		(5.1)	黒褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○		24
	503	I-18・19/-/SK118-074	Ⅱ－2－①	胴部		(5.9)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			44
	504	I-18・19/-/SK118- 030, 061, 063, 103 I-19/Ⅳ/42388	Ⅱ－2－①	底部		(3.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			124
125	507	I-18/-/SK091-009, 016 I-18・19/-/SK118- 029, 040, 041, 059, 100, 115, 142, 162, 169 I-18・19/-/SK116-171 I-19/Ⅳ/11699, 42402	Ⅱ－1－①	胴部		(18.5)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			630
	508	I-18/-/SK091-002, 010, 022 I-18・19/-/SK118-023, 024, 031, 038, 102, 105, 117, 118, 126, 144, 154, 157 I-18/Ⅳ/11405, 11406 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－1－①	胴部		(26.5)	にぶい褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○			○	○			455
	509	I-18・19/-/SK116-157 I-18/Ⅳ/37540 I-19/Ⅳ/14628	Ⅱ－1－①	胴部		(8.6)	にぶい赤褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○						50
	510	I-18/-/SK091- 006, 021, 026, 032 I-18・19/-/SK118- 025, 098, 099, 145	Ⅱ－1－①	胴～底部		(15.5)	にぶい赤褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○		○	○			175
126	511	I-19/-/SK119-013, 027 I-19/Ⅳ /11697, 42390, 42403, 54254, 54351, 54417 I-19/Ⅰ/一括	Ⅱ－1－①	口縁～胴部	31.5	(22.7)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○	○	補修孔	330
	512	I-19/-/SK119-021 H-18/Ⅳ/42513 I-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－1－①	口縁部		(4.7)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○		○	○			66
127	513	I-19/-/SK121-016 G・H-18/-/SK201-056 H-18/Ⅳ/35913	Ⅱ－1－①	口縁部		(7.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						71
	514	I-19/-/SK121-001	Ⅱ－2－①	胴部		(5.0)	褐	褐	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○			17
128	515	G-21/-/SK052-074 G-17/Ⅲ/43361 H-17/Ⅳ /44064, 44066, 45173, 45181	Ⅱ－1－①	口縁～胴部	28.0	(14.1)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○		炭化物付着	200
	516	G-21/-/SK052-118	Ⅱ－1－①	口縁部		(5.8)	暗褐	橙	ナデ	ナデ	○		○		○	○			39
	517	G-21/-/SK052-032	Ⅱ－1－①	口縁部		(5.2)	橙	橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○			○	○			39
	518	G-21/-/SK052-051	Ⅱ－1－①	口縁部		(6.1)	橙	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○	○		56
	519	G-21/-/SK052-039 G-17/Ⅵ/53894	Ⅱ－1－①	口縁部	15.0	(6.0)	灰黄褐	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			67
	520	G-21/-/SK052-097	Ⅱ－1－①	口縁部		(3.4)	にぶい橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ			○		○	○			15
129	521	G-21/-/SK052-046, 084 G-21/Ⅰ/一括	Ⅱ－1－①	口縁～胴部		(15.1)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			145
	522	G-21/-/SK052-125	Ⅲ	口縁部		(4.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○	○	○			44
	523	G-21/-/SK052-067, 124	Ⅲ	口縁部		(5.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○	○		37
	524	G-21/-/SK052-093 G-21/Ⅳ/1363	Ⅱ－1－①	胴部		(12.5)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			125
	525	G-21/-/SK052-007	Ⅱ－1－①	胴部		(6.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			51
	526	G-21/-/SK052-141	Ⅱ－1－①	胴部		(5.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○						29
	527	G-21/-/SK052-103 G-21/Ⅳ/一括	Ⅱ－2－①	胴部		(4.2)	灰黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			40
	528	G-21/-/SK052-034	Ⅱ－2－①	胴部		(5.8)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ					○	○			35

第19表　土坑出土土器観察表12

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
129	529	G-21/-/SK052-005	Ⅱ－２－①	胴部		(4.4)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○		34
	530	G-21/-/SK052-152	Ⅱ－２－①	胴部		(8.5)	灰黄褐	暗褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			75
	531	G-21/-/SK052-140	Ⅲ	底部		(1.9)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○						36
	532	G-21/-/SK052-017	Ⅲ	底部		(1.3)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○		○	○			24
131	537	G-21/-/SK028-003	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.2)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○				○	○			28
	538	G-21/-/SK028-034	Ⅱ－１－①	胴部		(3.3)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ			○						17
	539	G-21/-/SK028-012	Ⅱ－１－①	胴部		(2.7)	暗褐	褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○		○		○	○			19
	540	G-21/-/SK028-022	Ⅳ	胴部		(3.3)	黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○						14
132	542	D-19/-/SK159-098 D-19/Ⅰ/一括 D-20/Ⅳ/3418	Ⅱ－１－①	口縁～胴部		(13.7)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			125
	543	D-19/-/SK159-089 D-19/Ⅳ/13505 /一括 D-20/Ⅳ/170, 7831, 9863	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			64
	544	D-19/-/SK159- 137, 159, 160, 161	Ⅱ－２－②	口縁部	21.5	(7.3)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			167
133	545	D-19/-/SK159-046, 051 DIV19/Ⅳ/5677, 9876	Ⅱ－１－①	胴部		(7.7)	にぶい赤褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○			○	○			150
	546	D-19/-/SK159-129	Ⅱ－１－①	胴部		(3.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	ナデ			○		○	○			8
	547	D-19/-/SK159-014, 032, 106 D-19/Ⅳ/5587 D-19/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(10.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			92
	548	D-19/-/SK159-141	Ⅱ－２－①	胴部		(6.5)	褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○		35
	549	D-19/-/SK159-036	Ⅱ－２－①	胴部		(3.5)	にぶい褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○				○	○			18
	550	D-19/-/SK159-067	Ⅱ－２－①	胴部		(3.9)	黒褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	○		○		○	○	○		15
	551	D-19/-/SK159-150	Ⅲ	胴部		(6.6)	にぶい褐	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○		○	○			28
	552	D-19/-/SK159-151	Ⅲ	底部		(2.0)	にぶい褐	灰褐	ナデ	ナデ			○		○	○			10
134	553	H-20/-/SK044-010, 一括	Ⅲ	胴部		(5.7)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○				○	○			39
	554	H-20/-/SK044-011, 012, 013	Ⅲ	胴部		(10.4)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○	○	○			169
	555	H-20/-/SK044- 002, 003, 004, 006, 007, 008, 一括 H-20/Ⅳ/1737, 8947, 8948, 10695, 10792	Ⅲ	胴部		(15.9)	にぶい褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○	○	黒曜石	350
	556	H-20/-/SK044-012	Ⅲ	底部		(5.5)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○	○			135
135	557	H-21/-/SK041-019 I-19/-/SK055-003 G-21/Ⅳ/11180	Ⅱ－１－①	口縁部		(9.1)	明赤褐	明赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			96
	558	H-21/-/SK041一括	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.0)	にぶい褐	にぶい橙	－	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			22

第20表　土坑出土石器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	遺構名	出土区	石材	法量（cm）			重量（g）	取上番号	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
27	22	石鏃	10号土坑	G-18	OB1	(1.8)	1.4	0.3	0.4	土坑168-13	
	23	二次加工剥片		G-18	OB4	2.0	1.8	0.8	1.9	土坑168-9	
30	35	石鏃	18号土坑	G-22	OB1	2.1	1.7	0.5	1.1	土坑34-8	
	36	石鏃		G-22	OB5	2.3	(1.3)	0.2	0.5	土坑34一括	
31	41	磨・敲石	19号土坑	G-22	AN3	18.0	9.5	5.4	1464	土坑71-84	
32	43	石鏃	22号土坑	H-18	OB5	(1.3)	1.2	0.3	0.2	土坑160-5	
44	72	石鏃	45号土坑	G-15	OB5	(1.3)	1.1	0.3	0.2	土坑220-69	
	73	二次加工剥片		G-15	SH4	1.3	2.9	0.5	1.1	土坑220-44	
46	81	石鏃	50号土坑	I-15･16	CC1	2.5	1.4	0.4	0.8	土坑212-27	
	83	石鏃未製品	51号土坑	I-16	CC1	2.2	1.9	0.4	1.5	土坑182-40	
47	84	石核	51号土坑	I-16	OB2	3.8	4.8	3.7	67.9	土坑182-19	
	85	石核		I-16	OB2	4.2	5.9	3.1	77.5	土坑182-14	
	86	石核		I-16	OB2	4.3	3.7	3.2	47.8	土坑182-33	
	87	原石		I-16	OB2	4.1	5.6	3.1	75	土坑182-18	
	88	原石		I-16	OB2	4.1	5.6	3.1	47.1	土坑182-29	
	89	原石		I-16	OB2	2.9	3.5	1.9	20.3	土坑182-20	
	90	原石		I-16	OB2	2.5	3.2	2.3	18.6	土坑182-43	
51	114	石鏃	57号土坑	G-17	CC1	(2.1)	1.5	0.4	0.6	土坑172-8	
52	119	石鏃	58号土坑	G-17	CC1	(1.0)	1.1	0.2	0.2	土坑150-29	
	120	石鏃		G-17	SH1	(1.5)	1.3	0.3	0.2	土坑150-49	
	121	石鏃		G-17	CC1	(1.7)	1.6	0.4	0.5	土坑150-45	
54	136	石鏃	60号土坑	G･H-18	OB1	1.2	1.0	0.4	0.2	土坑203-82	
55	143	石鏃	61号土坑	H-18	CC1	1.6	1.7	0.4	0.5	土坑202-23	
56	153	石錘	62号土坑	H-18	AN3	5.1	6.4	2.6	104.5	土坑200-101	
57	156	石鏃	63号土坑	H-18	OB5	1.7	1.5	0.3	0.4	土坑108-75	
58	159	石鏃	65号土坑	H-18	AN2	1.7	1.3	0.3	0.3	土坑109-7	
60	167	二次加工剥片	70号土坑	I-18	SH3	2.1	2.3	0.7	2.5	土坑89-3	
61	172	石匙	73号土坑	J-18	SH3	1.5	1.5	0.5	0.8	土坑84-5	
65	190	石鏃	76号土坑	I-18･19	SH1	(1.6)	1.5	0.4	0.5	土坑116-92	
	191	磨・敲石		I-18･19	GR	11.0	10.5	4.2	750	土坑116-185	
67	200	石鏃	77号土坑	G-19	CC1	1.3	1.3	0.5	0.8	土坑101-18	
	201	磨・敲石		G-19	AN3	10.5	9.0	6.9	958	土坑101-96	
68	207	石鏃	78号土坑	H-19	OB2	1.3	1.4	0.3	0.4	土坑59-32	
69	218	石錐	79号土坑	H-19	CH	2.1	0.9	0.8	1.0	土坑156-80	
72	233	玦状耳飾	84号土坑	H-19	蛇紋岩	3.6	2.0	0.3	3.0	土坑130	
76	251	石鏃	90号土坑	J-20	OB3	1.2	1.2	0.3	0.2	土坑49-19	
	252	石鏃		J-20	OB7	1.4	1.3	0.3	0.2	土坑49一括	
	253	石鏃未製品		J-20	CC1	2.3	1.6	0.5	1.0	土坑49-21	
	254	石核	91号土坑	J-20	OB2	2.9	4.7	2.2	30.8	土坑50-2	
77	259	石鏃	94号土坑	H･I-21	SH2	1.9	1.4	0.4	0.6	土坑43-6	
	260	石核		H･I-21	CC1	2.8	3.8	1.9	14.9	土坑43-10	
	261	石核		H･I-21	CC1	3.0	3.6	1.6	12.5	土坑43一括	
79	269	石鏃未製品	95号土坑	H･I-22	CC1	2.2	1.5	0.5	1.4	土坑40一括	
80	274	石鏃未製品	96号土坑	G-21	CH	1.8	1.7	0.6	1.3	土坑26-32	
	275	石核		G-21	OB2	3.0	3.5	1.5	9.6	土坑26-21	
	276	石核		G-21	CC1	2.6	2.5	2.2	11.9	土坑26-15	
81	284	石鏃	98号土坑	G-21	SH2	1.4	1.6	0.2	0.4	土坑31一括	
	285	石鏃		G-21	SH3	2.0	1.5	0.5	0.9	土坑31一括	
	288	石鏃	99号土坑	G-21	OB5	1.6	1.2	0.2	0.4	土坑29-17	
	289	石鏃		G-21	CH	2.3	(1.5)	0.3	0.7	土坑29一括	
	290	石核		G-21	OB4	2.2	2.0	2.1	9.2	土坑29一括	
82	295	石鏃	100号土坑	F-21	CC1	1.8	(1.5)	0.5	0.6	土坑24一括	
	296	石鏃		F-21	OB5	(1.5)	0.9	0.4	0.4	土坑24一括	
83	304	石鏃	102号土坑	G-18	SH4	1.7	1.7	0.4	0.5	土坑234-40	
85	307	石匙	106号土坑	H-18	CC1	(1.9)	3.2	0.7	2.8	土坑237-11	
87	309	石鏃	112号土坑	G-17	CC1	(2.1)	1.8	0.3	0.8	土坑171-1	
88	314	石鏃	115号土坑	H･I-17	OB5	1.7	1.1	0.3	0.3	土坑177一括	
94	331	二次加工剥片	130号土坑	I-20	OB5	1.6	1.8	1.0	2.6	土坑65-11	
	332	石匙		I-20	CH	2.4	3.9	0.5	2.7	土坑65-9	
96	338	石鏃	133号土坑	G-21	SH1	1.5	1.2	0.3	0.5	土坑27-21	
	339	石鏃		G-21	SH4	1.8	1.5	0.3	0.5	土坑27-20	
97	342	石鏃	134号土坑	G-22	CC1	1.3	1.6	0.3	0.4	土坑35一括	
	343	石鏃		G-22	CH	1.9	1.7	0.4	0.9	土坑35-15	
101	360	石鏃	141号土坑	F-22	OB2	2.1	(1.6)	0.7	1.5	土坑18-9	
	361	石核		F-22	OB2	4.8	5.5	3.8	100.2	土坑18-5	
104	368	石鏃	146号土坑	H-15	SH1	1.8	1.5	0.3	0.7	土坑219-3	
107	386	石鏃	152号土坑	H-17	CH	(1.7)	1.1	0.2	0.3	土坑165一括	
	387	石匙		H-17	CH	2.5	4.2	0.7	4.7	土坑165一括	
109	397	石匙	153号土坑	G･H-18	OB5	2.1	3.0	0.5	2.3	土坑201-99	

第21表　土坑出土石器観察表２

挿図番号	掲載番号	器種	遺構名	出土区	石材	法量（cm）			重量（g）	取上番号	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
109	398	石匙	153号土坑	G･H-18	OB5	2.0	2.6	0.5	1.7	土坑201-97	
110	405	石鏃	154号土坑	G･H-18	CC1	1.7	1.3	0.3	0.4	土坑166-101	
112	421	石匙	156号土坑	G･H-19	OB5	2.0	2.2	0.7	2.0	土坑132・133-113-1	
116	444	二次加工剥片	158号土坑	H-19	OB2	2.1	0.9	1.3	2.7	土坑58-12	
	445	敲石		H-19	HF	13.3	4.8	4.4	417	土坑58-89	
119	467	石匙	164号土坑	I-19	CC1	2.1	3.2	0.7	2.9	土坑56-7	
121	480	磨・敲石	168号土坑	I･J-19	AN3	5.4	7.8	3.7	226	土坑60-26	
124	505	石鏃未製品	169号土坑	I-18･19	OB3	1.8	1.6	0.5	1.8	土坑118-8	
	506	石錘		I-18･19	SA	9.0	7.1	1.2	95.2	土坑118-82	
130	533	石鏃	172号土坑	G-21	CC1	1.7	1.5	0.5	1.1	土坑52-130	
	534	石鏃		G-21	OB5	1.9	(1.1)	0.3	0.5	土坑52一括	
	535	石鏃		G-21	OB4	1.8	(1.5)	0.4	0.5	土坑52一括	
	536	スクレイパー		G-21	CC1	3.4	2.0	0.7	4.0	土坑52一括	
131	541	石鏃	174号土坑	G-22	CC1	(1.0)	1.4	0.2	0.3	土坑11一括	
135	559	スクレイパー	178号土坑	H-21	SH1	3.2	3.3	1.0	10.0	土坑41一括	
	560	石核		H-21	OB7	2.0	3.7	1.3	7.9	土坑41-17	

２　土器集中

土器集中は18か所検出された。調査区の北西部にあたるＣ・Ｄ－19～21区が最も多く，南西側のＨ－21・22区や南側のＧ～Ｉ－14～18区からも検出されている。ほぼ１個体からなるものや複数個体からなるものなど検出状況が異なるため，遺構が集中しているエリアをＡ～Ｃの３つに分け，Ｃ・Ｄ－19～21区をＡエリア，Ｈ－21・22区をＢエリア，Ｇ～Ｉ－14～18区をＣエリアとした（第136・137図）。以下，エリア毎に遺構の特徴を述べる。

（１）Ａエリア（Ｃ・Ｄ－19～21区）

Ｃ・Ｄ－19～21区は調査区内の北西部に位置し，最も標高の高い北西端から南西側に向けて徐々に低くなっていく。土器集中は１個体からなるものが４か所，複数個体からなるものが５か所検出されている。

１号土器集中（第138・139図）

Ｃ・Ｄ－20区のⅣ層で検出された。範囲はおよそ直径0.6mに収まる形で，本集中域からは561が出土した。出土した土器片はほぼ１個体を構成するが，集中域の東側は外面上向き，西側は内面上向きでの出土状況が見られる。集中域の土器は口縁部から胴部にかけての部位にあたり，口縁部は南側に位置する。また，多くの包含層出土土器と接合している。Ａエリアの１個体からなる土器集中の中で，最も標高の高い位置にある。

561は，完形に復元できた。口径は29.5㎝，器高は37.4㎝である。口唇部は平坦に成形し，平口縁を呈する。口縁部は外反し，胴部は僅かに膨らみ，底部は丸底となる。口縁部外面は，横位の刻目突帯で器面の割り付けを行っている。横位の刻目突帯を口縁部上位と口縁部下位から胴部の境付近に１段ずつ貼り付け，突帯で区画された内部に斜位の刻目突帯を組み合わせてＸ字状のモチーフを描く。また，１箇所のみ半円状の刻目突帯も貼り付けている。突帯は断面形態が三角形状を呈し，ヘラ状工具を用いた縦長の刻目は器面にまで及ぶものもある。胴部から底部にかけて，３列もしくは４列１単位の刺突列を縦位，弧状に施す。器面調整は丁寧なナデである。口縁部内面には，４段１単位の刺突列を横位に施す。器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。胎土に小礫，白色粒子，褐色粒子，石英を含む。Ⅱ－１－①類土器である。

２号土器集中（第138・139図）

Ｃ－20区のⅣ層で検出された。１号土器集中の北東方向に位置し，範囲はおよそ直径0.4mに収まる。集中域はほぼ１個体からなり，土器片はほとんどが内面上向きの状態で出土している。土器の西側に樹根があり，影響を受けている可能性がある。

562は，波頂部に２つの山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口径は33.7㎝であり，外面には，波頂部より丸みを帯びた突帯を縦位に２列施した後，口縁部に縦位の突帯間に横位の突帯を３段施す。波頂部下の縦位の突帯間には，突帯をＶ字状に貼り付ける。口縁部下位から胴部にかけて，波頂部の延長線上と波頂部の中間付近に縦位の刺突を施し，その間に刺突で蛇行状に垂下するモチーフを描いている。内面は，口縁部に横位の刺突を施し，胴部は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。なお，562に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，未較正で4475±24^{14}C BPの値が得られた（PLD-30458）。

３号土器集中（第138・140図）

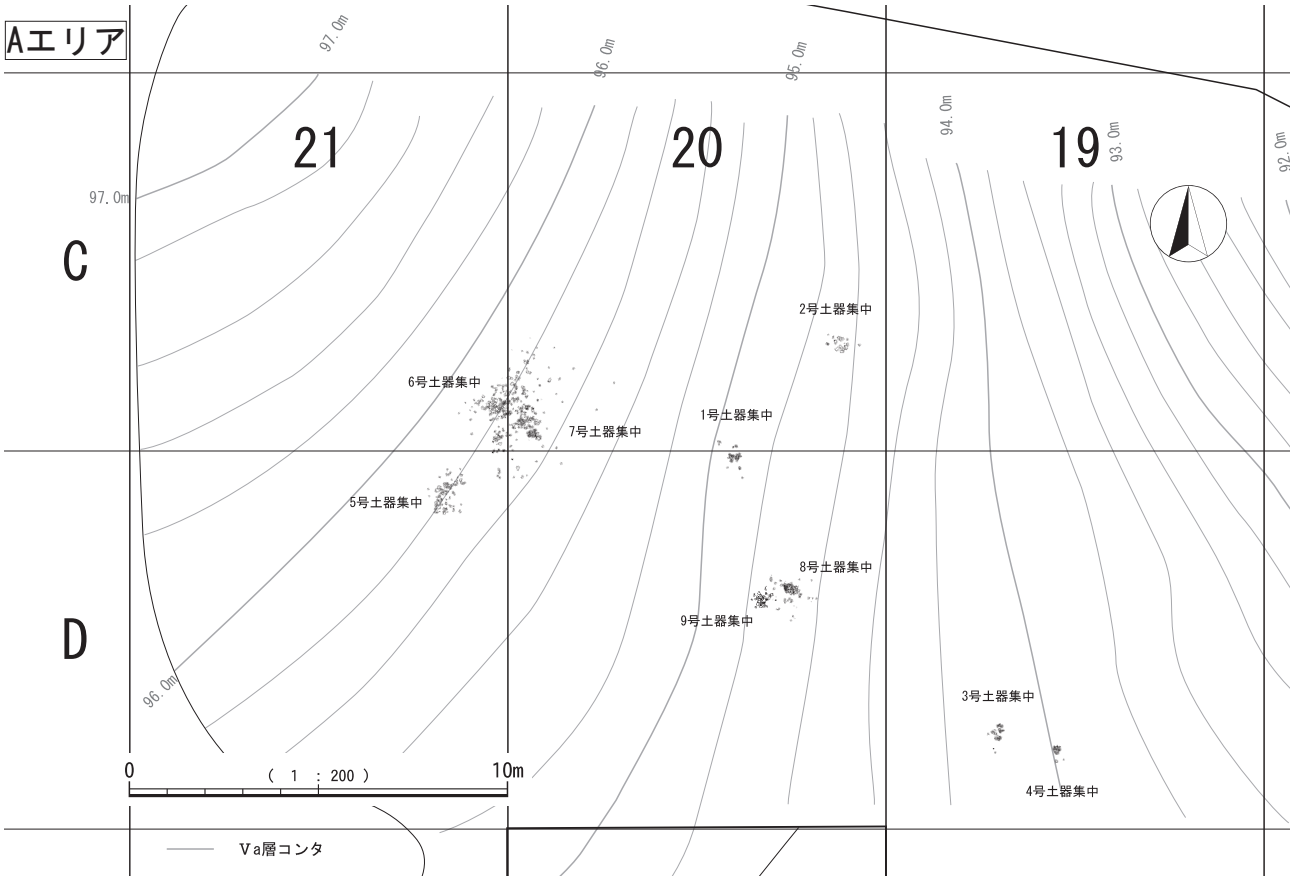
Ｄ－19区のⅣ層で検出された。１号土器集中から南西方向に標高0.8mほど下がった部分で，範囲はおよそ直径0.5mほどである。集中域はほぼ１個体からなる。北側に外面上向きの土器片が集中し，南側に内面上向きの集中域が見られる。

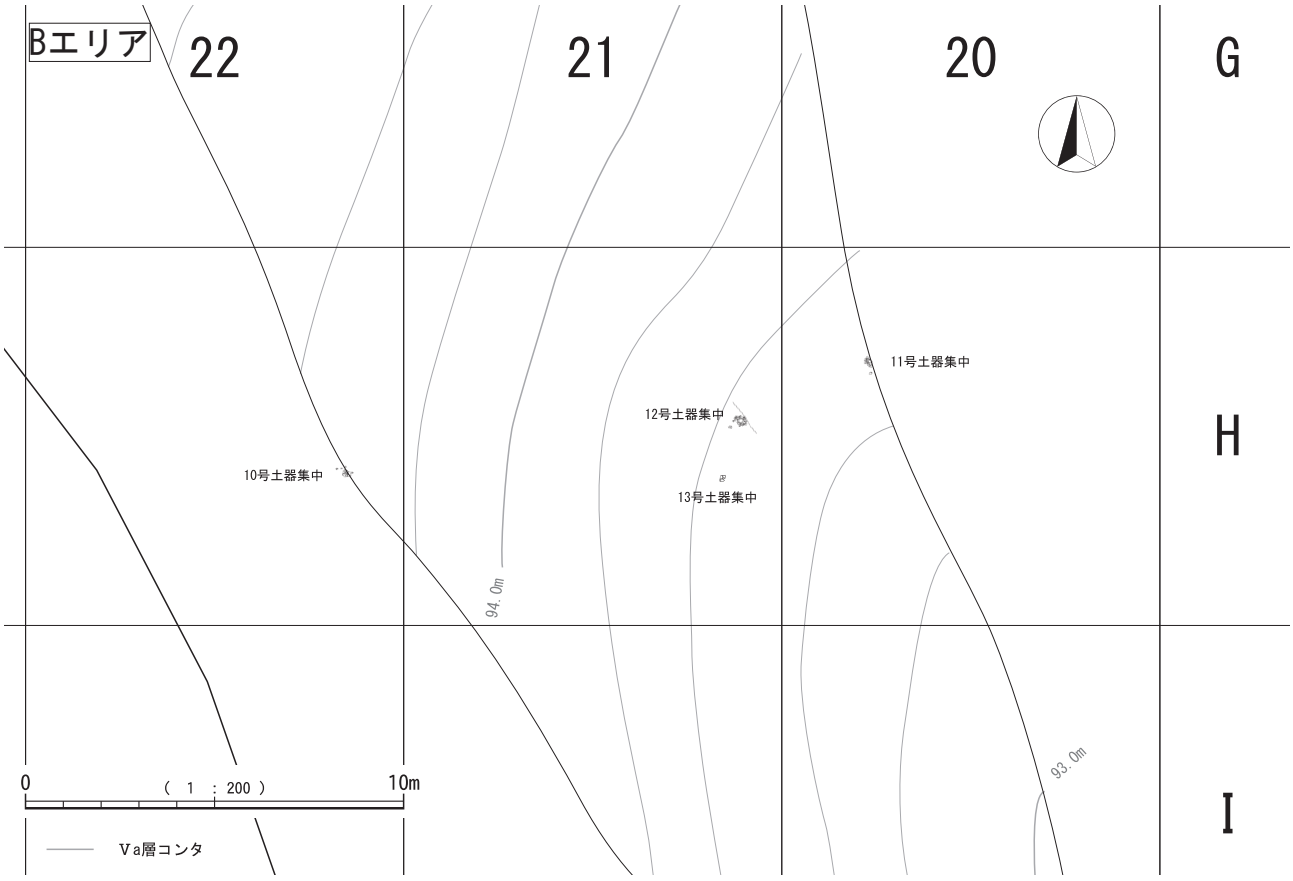
563・564は文様，調整，胎土が類似することから同一個体と考えられる。563は底部を除きほぼ完形に復元することができた。頸部が僅かに括れるものの，砲弾形の器形を呈し，底部は丸底になると考えられる。平口縁ではあるが，４単位の山形突起をもつと考えられる。口径は23.8㎝であり，外面には，口縁部から頸部にかけて横位の刺突を，胴部から底部にかけて縦位，斜位の刺突を施す。内面には，口縁部に横位の刺突を施し，胴部から底部にかけては，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。564は外面には，口縁部から頸部にかけて横位の刺突を，胴部から底部にかけて縦位，斜位の刺突を施す。内面には，口縁部に横位の刺突を施し，胴部から底部にかけては，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

４号土器集中（第138・141図）

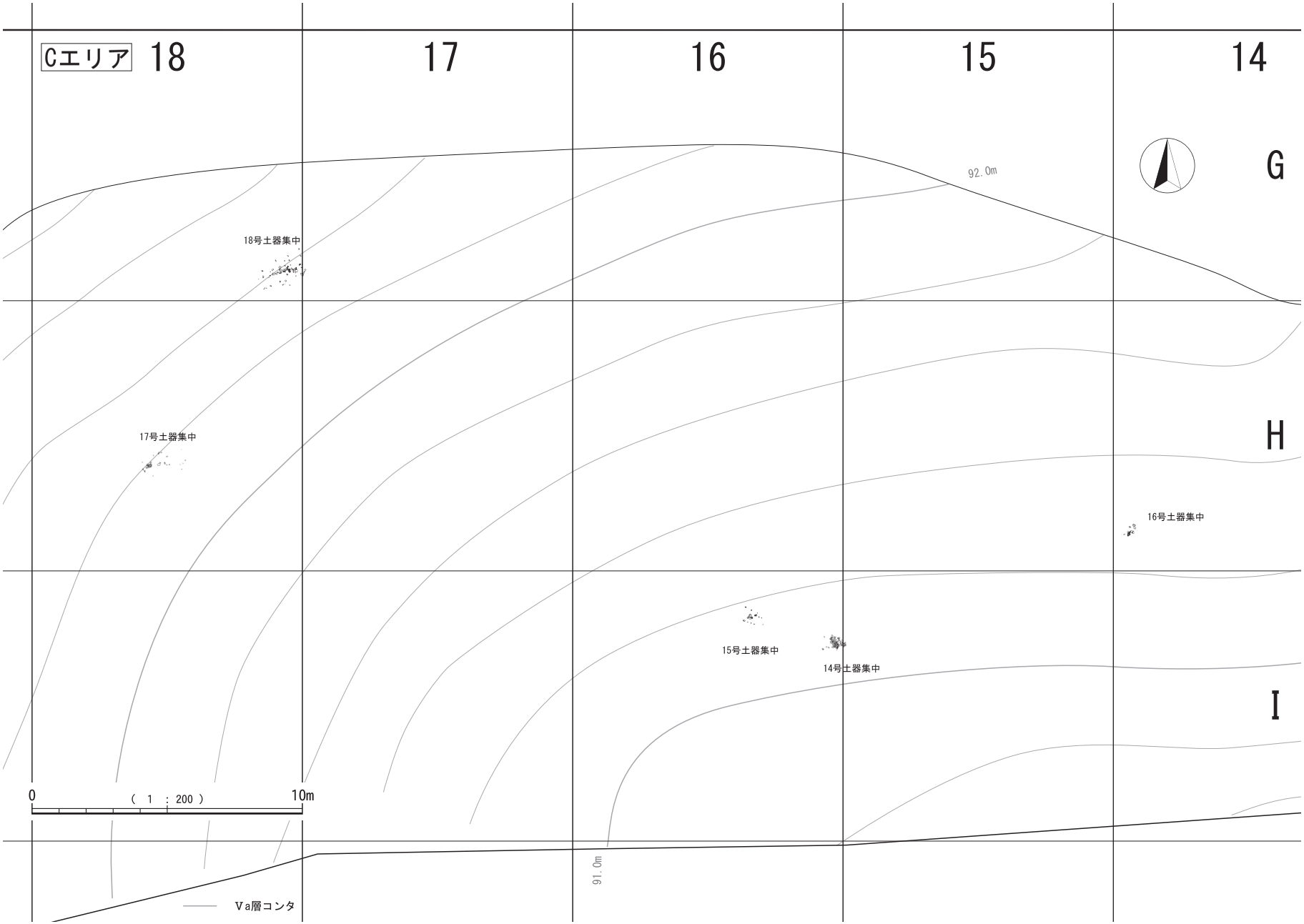
Ｄ－19区のⅣ層で検出された。３号土器集中から東に標高0.1mほど下がった部分で，Ａエリアの１個体からなる土器集中の中では最も標高が低い。範囲はおよそ直径0.4mに収まる。土器片は口縁部が西向きで，ほとんどが内面上向きで出土している。

565は，底部を除きほぼ完形に復元できた。口唇部に粘土紐を円形に貼り付けた突起で，非常に低い波頂部を作り出している。口径は17㎝であり，外面には，波頂部より縦位の沈線を断続的に施し，器面の割り付けをおおよそ行い，その左右に斜位の沈線で縦長の菱形のモチーフを幾重にも描いている。口唇部には刻目を入れている。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－③類土器である。

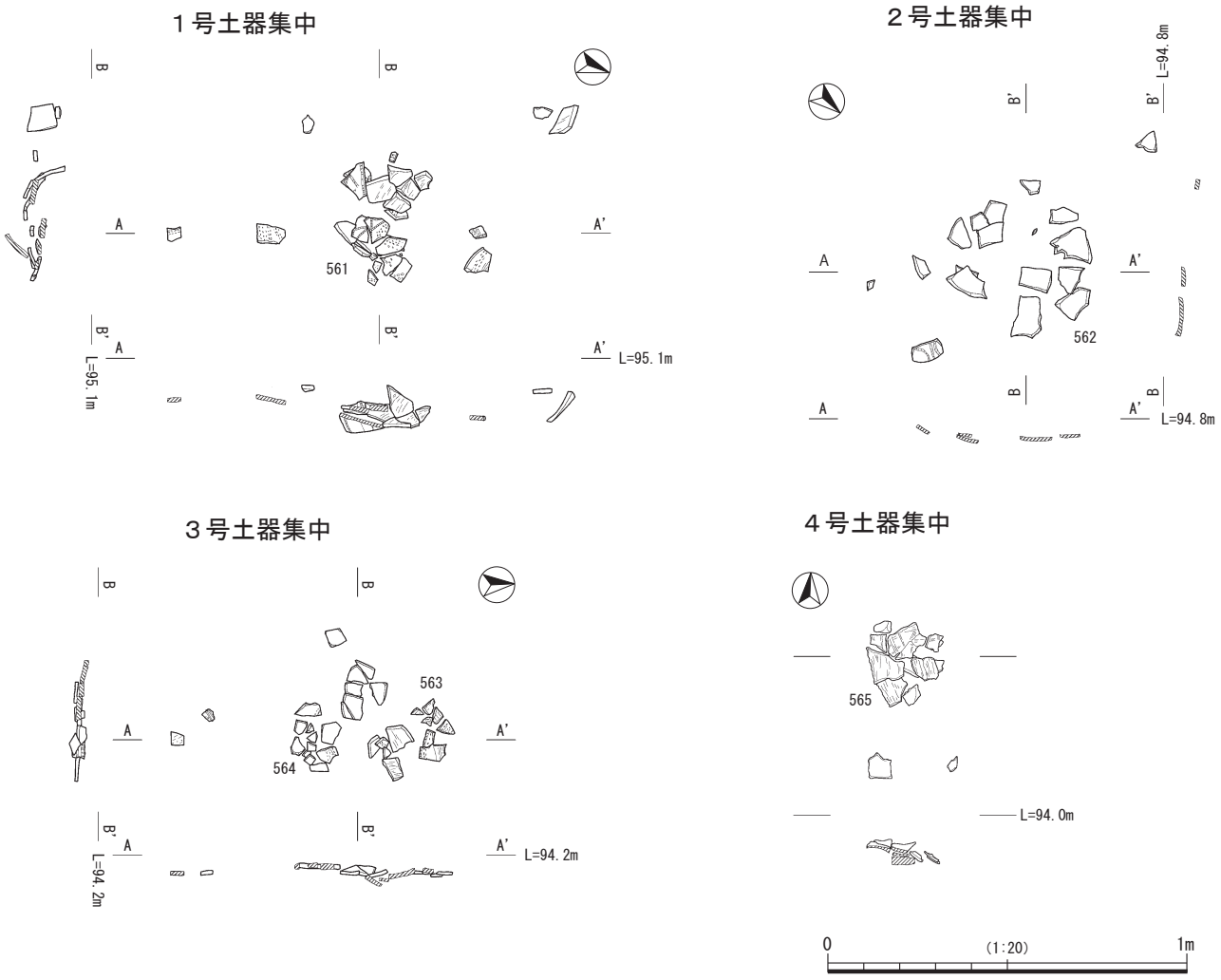




第136図　土器集中エリア別配置図１



第137図　土器集中エリア別配置図２



第138図　土器集中１（１～４号土器集中）

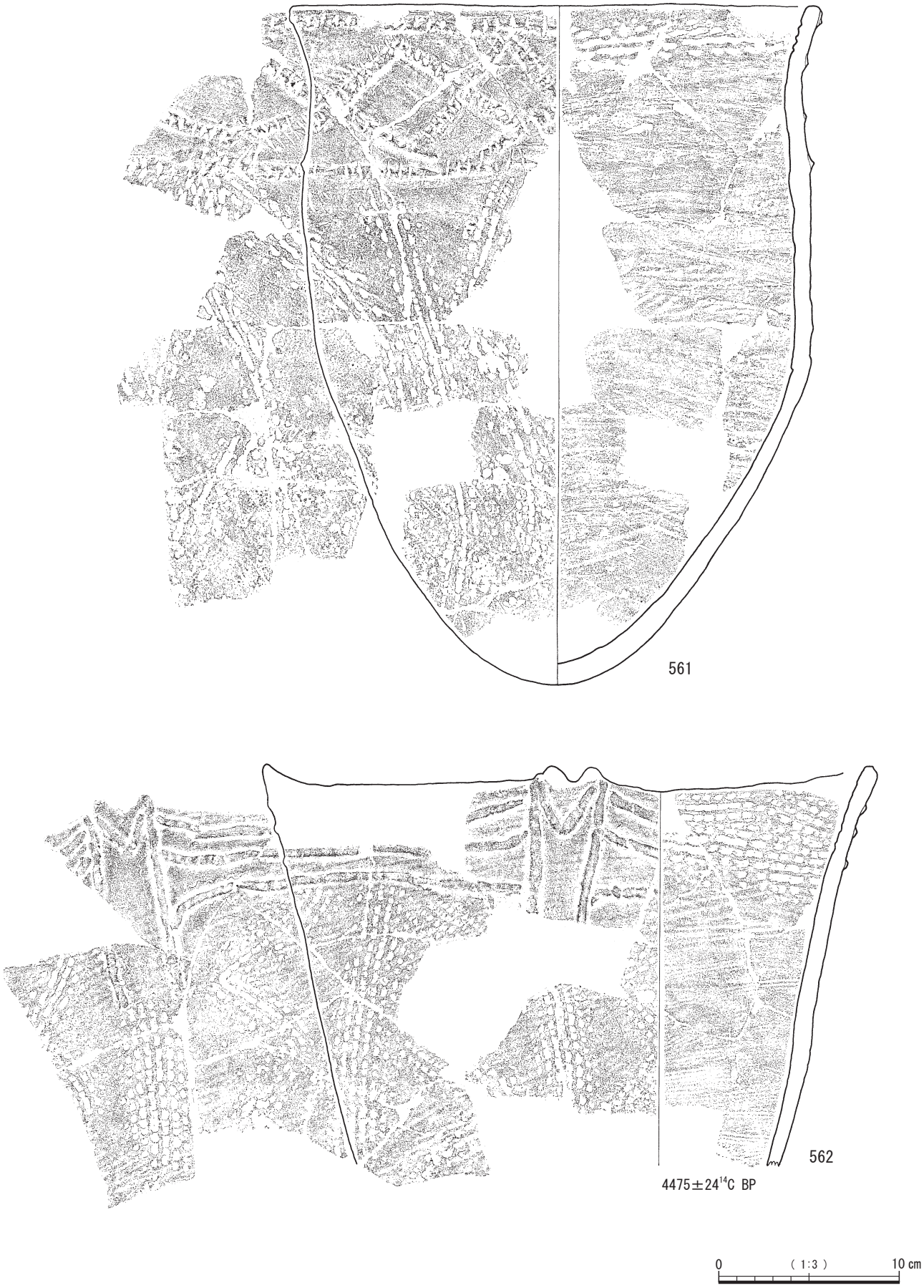
５号土器集中（第142～145図）

Ｄ－21区のⅣ層で検出された。６号土器集中や７号土器集中と同様に，本エリアの土器集中の中で最も標高の高い位置にある。範囲はおよそ直径1.4mほどに収まり，566～574が出土している。集中域は北東に向けて延びており，内面上向きの破片が多い。

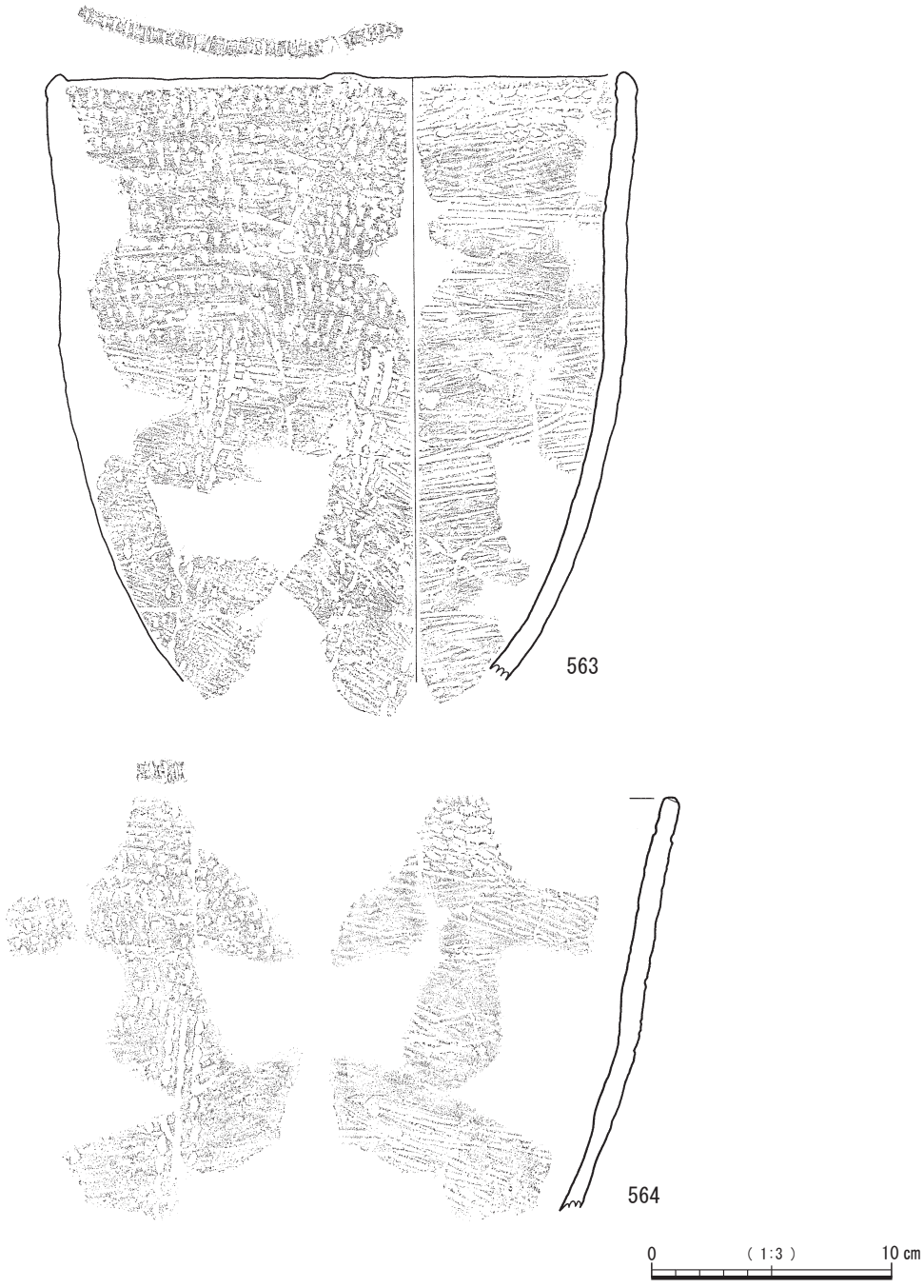
566は，完形に復元できた。口縁部は直口し，口縁部から胴部までは直線的であり，胴部下半から底部へかけて窄まり，底部は底面がやや平坦気味な丸底を呈する。口径は34.9㎝であり，４単位の山形突起をもつと考えられる。山形突起は口唇部に粘土紐を円形に貼り付け作り出されている。外面には，口縁部に横位の刻目突帯を５段施し，胴部には縦位の刺突を２もしくは３列施した後，その間を斜位の刺突で縦位に蛇行するモチーフを描いている。胴部下半～底部にかけて，痘痕状の剥落が目立つ。口唇部に刻目を入れている。内面には，口縁部に横位の刺突列を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

567は，底面を除き，ほぼ完形に復元することができた。４単位の緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。口径は30㎝であり，口縁部が外反し，頸部で緩やかに括れ，胴部中央付近で曲線的に膨らみ，底部に向けて，直線的に窄まる器形であると考えられる。外面は，底部付近まで縦位，斜位の刺突を施した後，その間を斜位の刺突で充填している。内面には，痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。568～573は胴部である。568は，外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面はナデを行っている。569は，外面に横位，縦位，斜位の刺突を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

570・571は，外面に縦位や斜位の刺突を施す。内外面とも痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－２－①類土器である。572・573は内外面ともナデを行っている。内面には痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅲ類土器である。574は底面を除き，ほぼ完形に復元することができた。口径18.8㎝であり，口縁部が外反し，丸底と考えられる底部



第139図　土器集中２（１・２号土器集中出土土器）



第140図　土器集中３（３号土器集中出土土器）

に向けて，直線的に窄まる器形である。内外面ともナデを行っている。口唇部には棒状工具で刺突を施している。Ⅲ類土器である。

６号土器集中（第142・146～148図）

Ｃ－20・21区のⅣ層で検出された。本エリアの土器集中の中で，最も標高の高い位置にある。７号土器集中に隣接しており，６・７号土器集中間で接合する個体もある。土器片は集中部から北東方向に散らばっており，範囲はおよそ直径2.5mほどに及ぶ。575～583が出土している。575は，集中部の南側で胴部，北側で口縁部が多く出土しているが，口縁部より北で出土している胴部片や７号土器集中付近から出土している破片もあり，廃棄時の状況は想定できない。

575は，完形に復元することができた。隣接する７号土器集中のほか，５号土器集中や包含層出土土器と接合した。本遺跡から出土したⅡ類土器の中で，最も大型の土器であり，口径46.3㎝，器高49.5㎝である。口縁部が僅かに外反し，頸部でくの字状に括れ，胴部中央付近で膨らみ，丸底の底部に向けて窄まる器形である。４単位

の波頂部をもつ緩やかな波状口縁を呈する。外面は，波頂部より縦位の突帯を３列貼り付け，その後，口縁部上位に横位に２段の突帯，胴部中央に１段の突帯を貼り付け，器面の割り付けを行っている。３列の縦位の突帯は口縁部内面から口唇部を跨いで口縁部外面に貼り付けられる。区画された内部に２本１単位の突帯を斜位にＸ字状に貼り付けている。空白部には，横長の楕円状に突帯を貼り付けた後，各突帯に刻目を入れたと考えられる。口縁部上位には，縦位，斜位の浅い沈線を，口縁部下位から胴部にかけて縦位の刺突を施している。口唇部外端に刻目を入れている。内面には，口縁部に横位の刺突を１列施し，横位，斜位の貝殻条痕を施した後，ナデを行っている。内外面とも胴部下位から底部にかけて，痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。

576は口縁部である。外面に縦位の刻目突帯を２列施し，口縁部上位と下位に横位の刻目突帯をそれぞれ１段施している。区画された内部にＸ字状に刻目突帯を施し，さらにその内部に刻目突帯で円形の浮文を施す。空白部には刺突で充填している。口唇部には，刻目を入れている。口縁部内面は，横位の刺突を施す。胴部内面は，横位，斜位の貝殻条痕を施した後，ナデを行っている。577・578は口縁部付近で，横位の刻目突帯が確認できる。576～578は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。Ⅱ－１－①類土器である。579は，口唇部直下に横位の刻目突帯が１段，その下の口縁部外面に刻目突帯をＸ字状に貼り付けている。横位・Ｘ字状の刻目突帯を施した後，突帯間に縦位の相交弧文を施す。口唇部外端に刻目を入れている。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。580は後述する７号土器集中の584及び包含層出土の685と文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。波頂部に山形突起をもつ，波状口縁を呈すると考えられ，口縁部外面には４段の刻目突帯を横位に貼り付けている。その直下には，半円状の粘土紐を貼り付けている。刻目はヘラ状工具を用いており，同様の工具で口唇部にも刻目を入れている。口縁部内面には，斜位から横位の３段１単位の刺突列を２単位施す。Ⅱ－１－①類土器である。

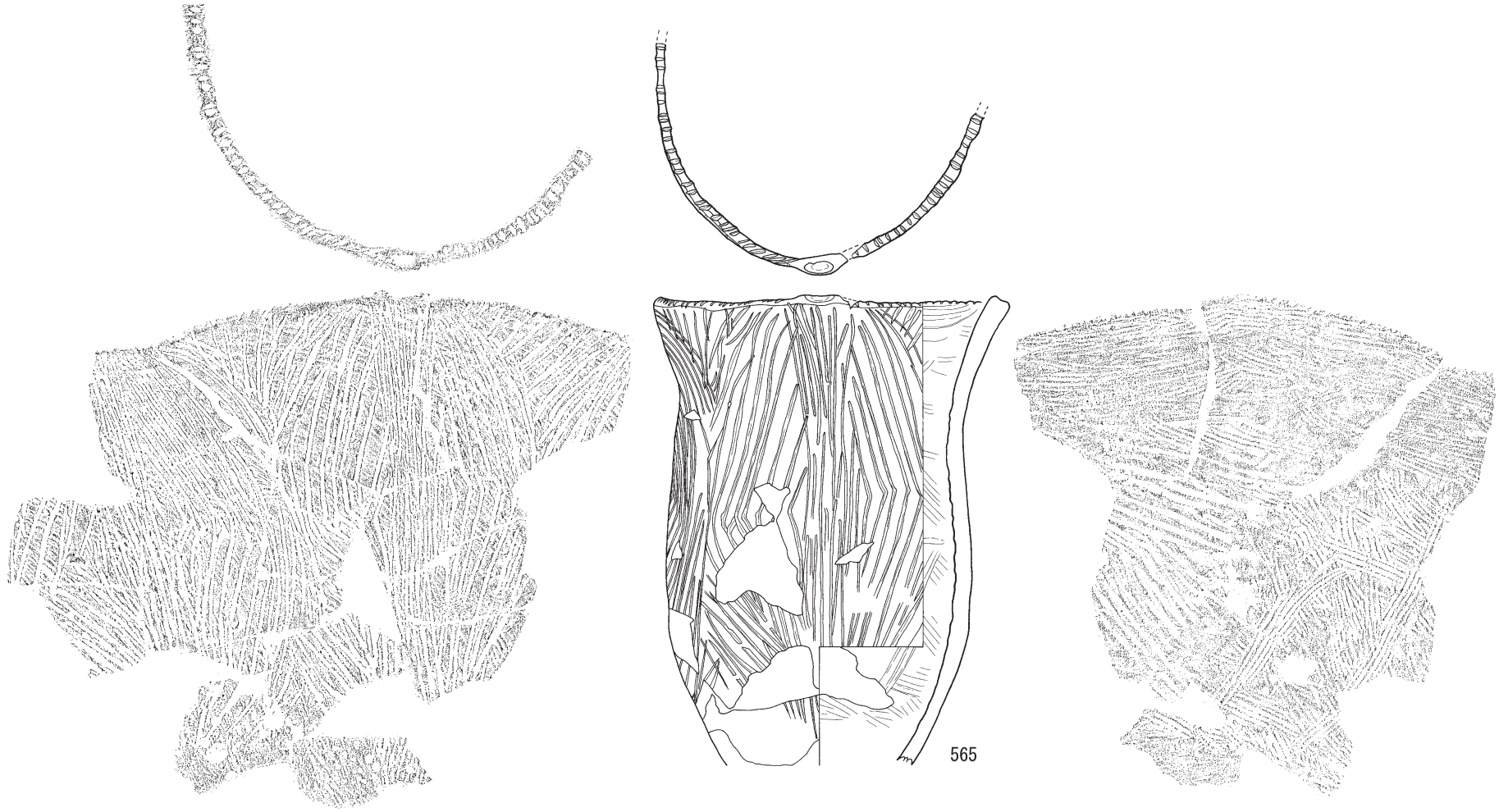
581・582は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。582は７号土器集中の出土土器と接合した。581・582は緩やかに膨らむ胴部である。外面には，口縁部から垂下する縦位の刻目突帯を２列と，横位に蛇行する２段の刻目突帯を貼り付ける。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，丁寧なナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。583は，口径28.3㎝であり，口縁部が外反する。外面には，横位の刺突を施した後，縦位，斜位の刺突を施す。口唇部には棒状工具で刺突を施している。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。

７号土器集中（第149～152図）

Ｃ・Ｄ－20・21区のⅣ層で検出された。５号土器集中と６号土器集中に次いで標高の高い位置にあるが，傾斜はやや急である。土器片が広範囲に散らばっており，その範囲はおよそ直径3.8mほどに及ぶ。出土遺物については複数個体が想定されるが，遺物取上時の記録がないため確認することができなかった。

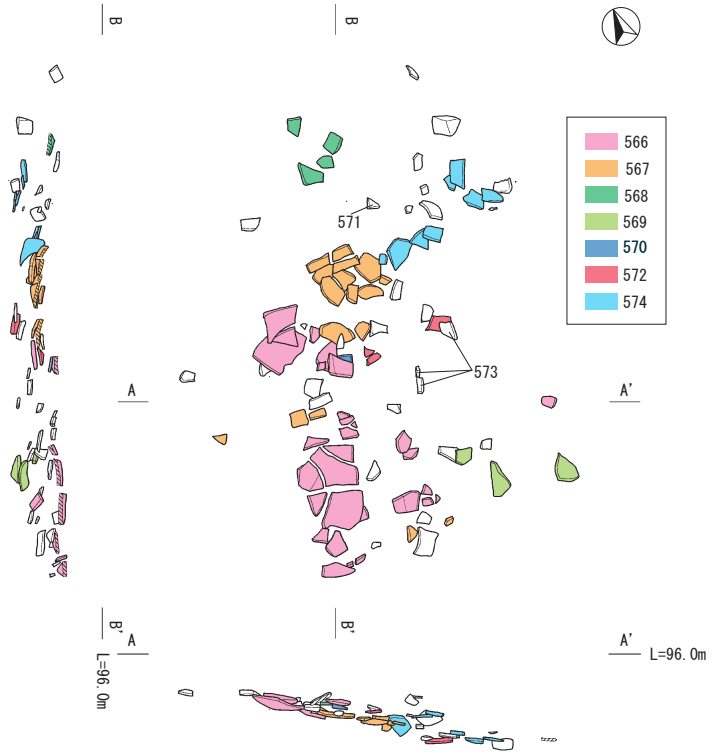
584は６号土器集中の580及び包含層出土の685と同一個体と考えられる。口縁部外面には，４段の刻目突帯を横位に貼り付けている。刻目はヘラ状工具を用いており，同様の工具で口唇部にも刻目を入れている。胴部には，３本１単位の刺突列を縦位に施す。口縁部内面には，斜位から横位の３本１単位の刺突列を２単位施す。Ⅱ－１－①類土器である。585・586は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられるが，器形がやや異なる。585は，緩やかな波状口縁を呈し，頸部で曲線状に括れ，胴部中央付近で膨らみ，底部に向けて直線的に窄まるキャリパー状の器形と考えられる。外面は，口縁部から頸部に横位，斜位の微隆線状の突帯を貼り付け，浅い刻目を入れている。刻目突帯間には，縦位の浅い沈線を施している。胴部外面や口縁部内面に，二枚貝の腹縁部を器面に対して垂直にあて，横位に押圧を行っている。胴部内面は，ナデを行っている。外面の胴下半部には，痘痕状の剥落が多く確認できる。586は，緩やかな波状口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部はやや膨らむ。外面は，口縁部から頸部に横位，縦位，斜位の微隆線状の突帯を貼り付け，浅い刻目を入れている。刻目突帯で区画された内部には，斜位の浅い沈線を施している。胴部外面や口縁部内面に，二枚貝の腹縁部を器面に対して垂直にあて，横位に押圧を行っている。胴部内面は，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

587は，波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面に横位の刻目突帯を４段施し，頸部には横位，胴部には横位，縦位の刺突を施す。刻目突帯や横位の刺突間には，浅い沈線で鋸歯状のモチーフを描いている。口唇部には棒状工具で刺突を施す。内面は，ナデを行っている。588・589は，波頂部に山形突起をもつ波状口縁を呈すると考えられる。口縁部外面に，横位の突帯を２段貼り付け，刻目を入れている。刻目突帯より下は，588は斜位の沈線，刺突を，589は斜位の沈線を施している。内面には，痘痕状の剥落が確認できる。590・591は口縁部である。外面に横位の突帯を２段貼り付け，刻目を入れている。内面には，痘痕状の剥落が確認できる。592～599は胴部である。592～594は，外面に横位の刻目突帯や斜位の浅い沈線，縦位の刺突を施している。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が多く確認できる。

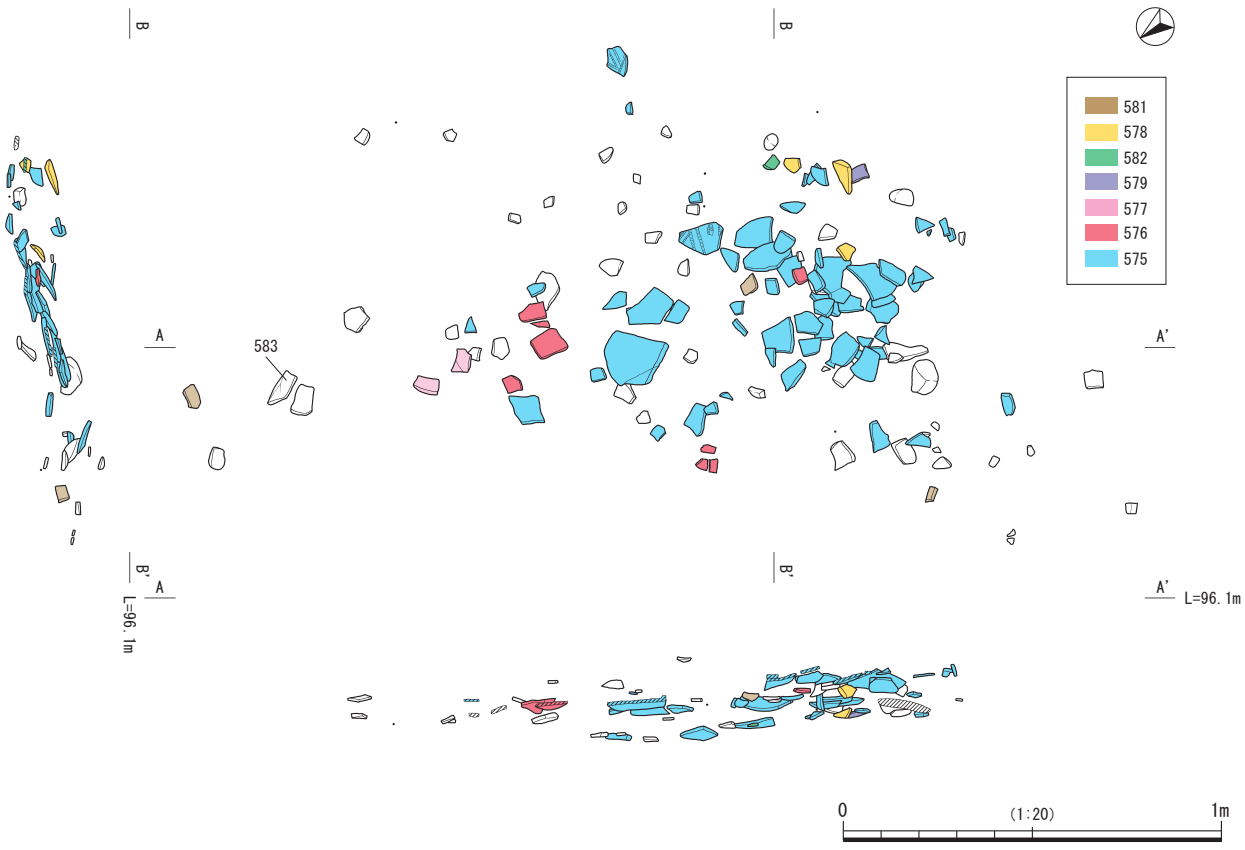


第141図　土器集中４（４号土器集中出土土器）

５号土器集中



６号土器集中



第142図　土器集中５（５・６号土器集中）



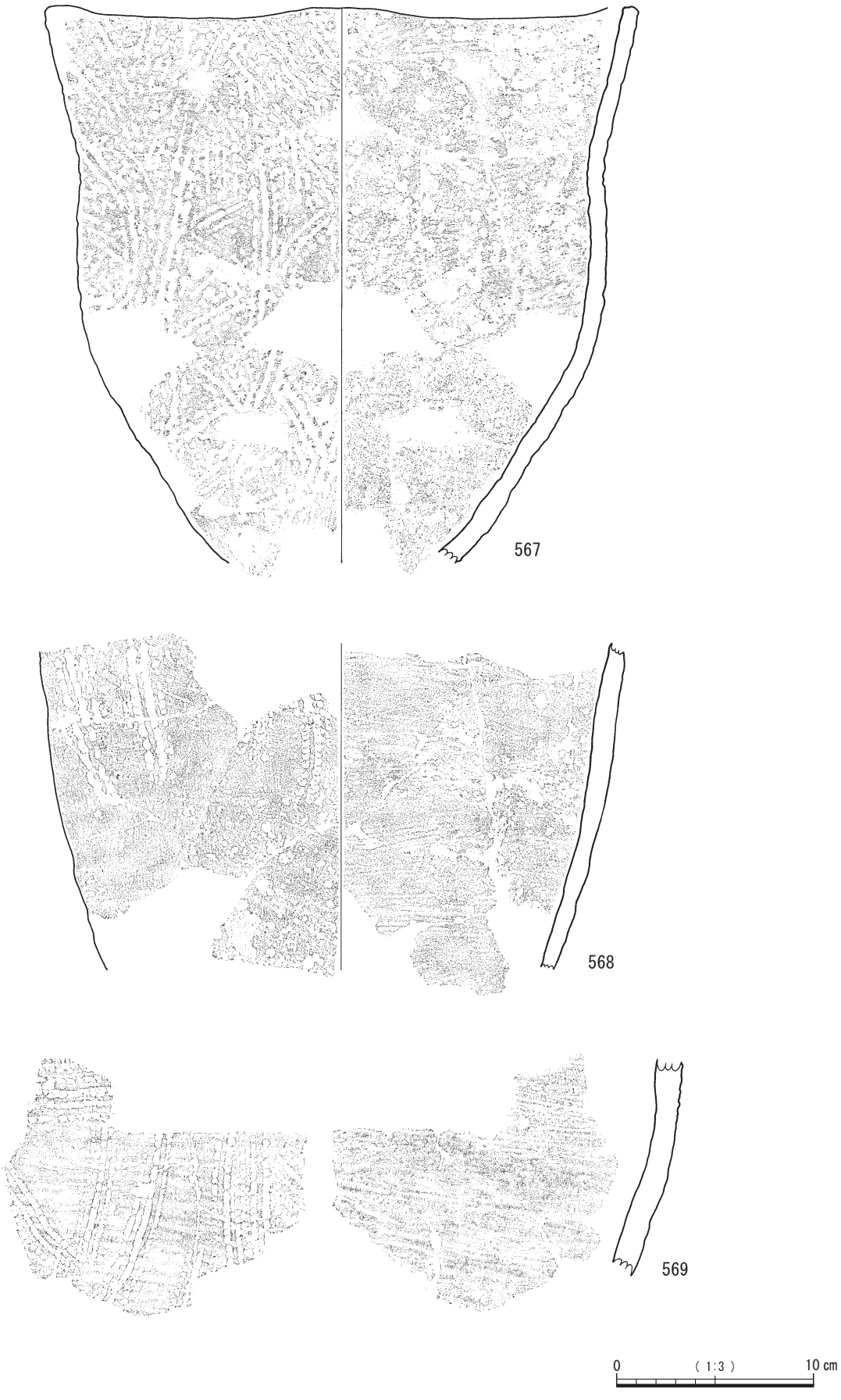
第143図　土器集中６（５号土器集中出土土器①）

595～599は外面に縦位，斜位の刺突を施す。内面には，痘痕状の剥落が多く確認できる。587～599は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。Ⅱ－１－①類土器である。

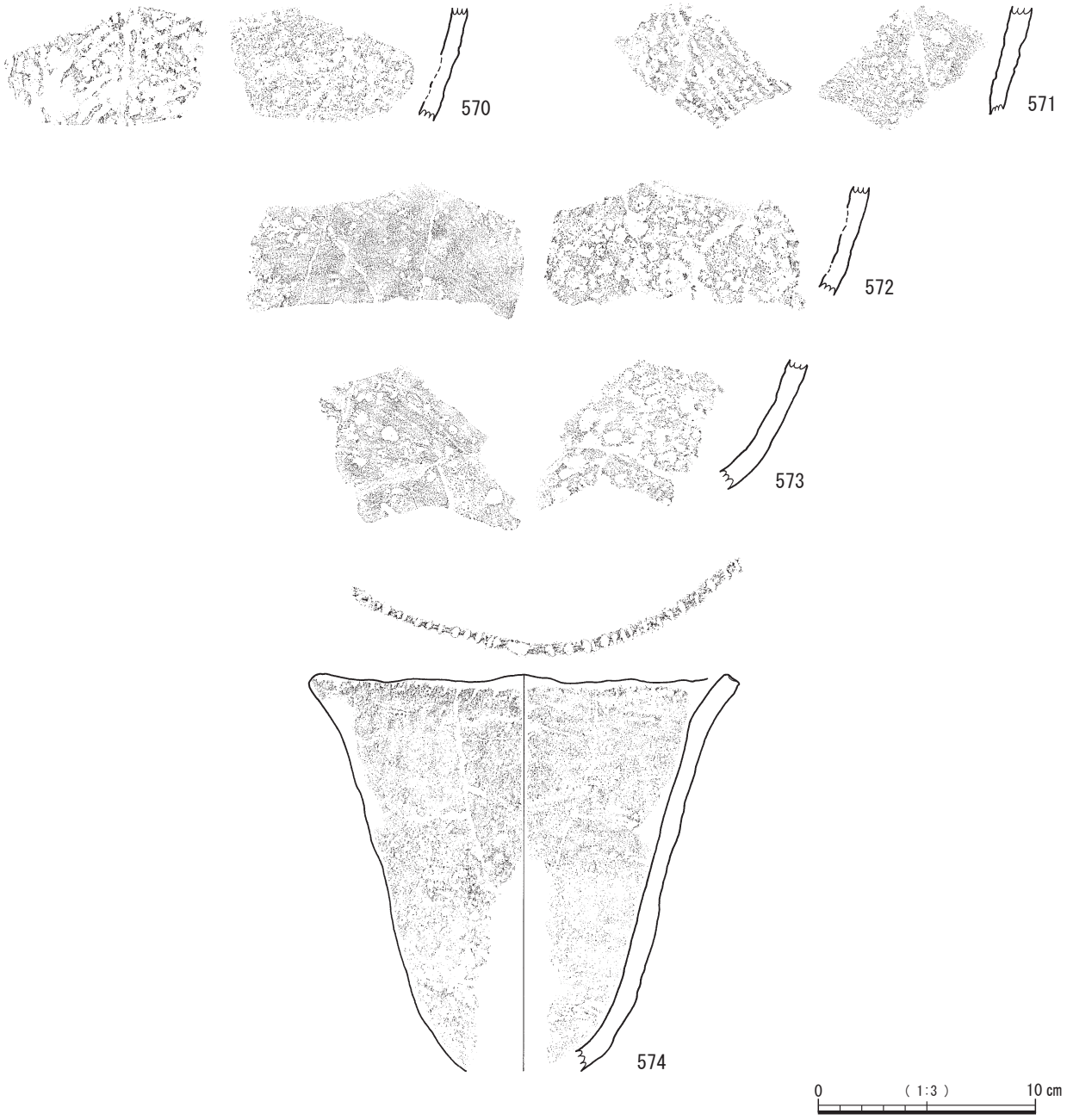
600は，底部を除き，ほぼ完形に復元することができた。口径14.6㎝であり，口縁部は直口し，頸部が僅かに括れ，胴下半部付近で膨らみ，底部に向けて曲線的に窄まる器形である。４単位の山形突起をもつと考えられ，口唇部に粘土紐を貼り付け，２つの山形突起を作り出している。外面は，口縁部上位に横位の刻目突帯を１段施し，刻目突帯下には横位の刺突を施している。口唇部外端には刻み目を入れており，口唇部内端にも部分的に施される。内面には，口縁部に横位の刺突を施し，胴部から底部にかけては，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。

８号土器集中（第153～155図）

Ｄ－20区のⅣ層で検出された。９号土器集中とほぼ同じ標高にある。範囲およそ直径1.5ｍに及ぶ集中域の下から，ほぼ１個体からなる，範囲およそ直径0.5ｍの集中域



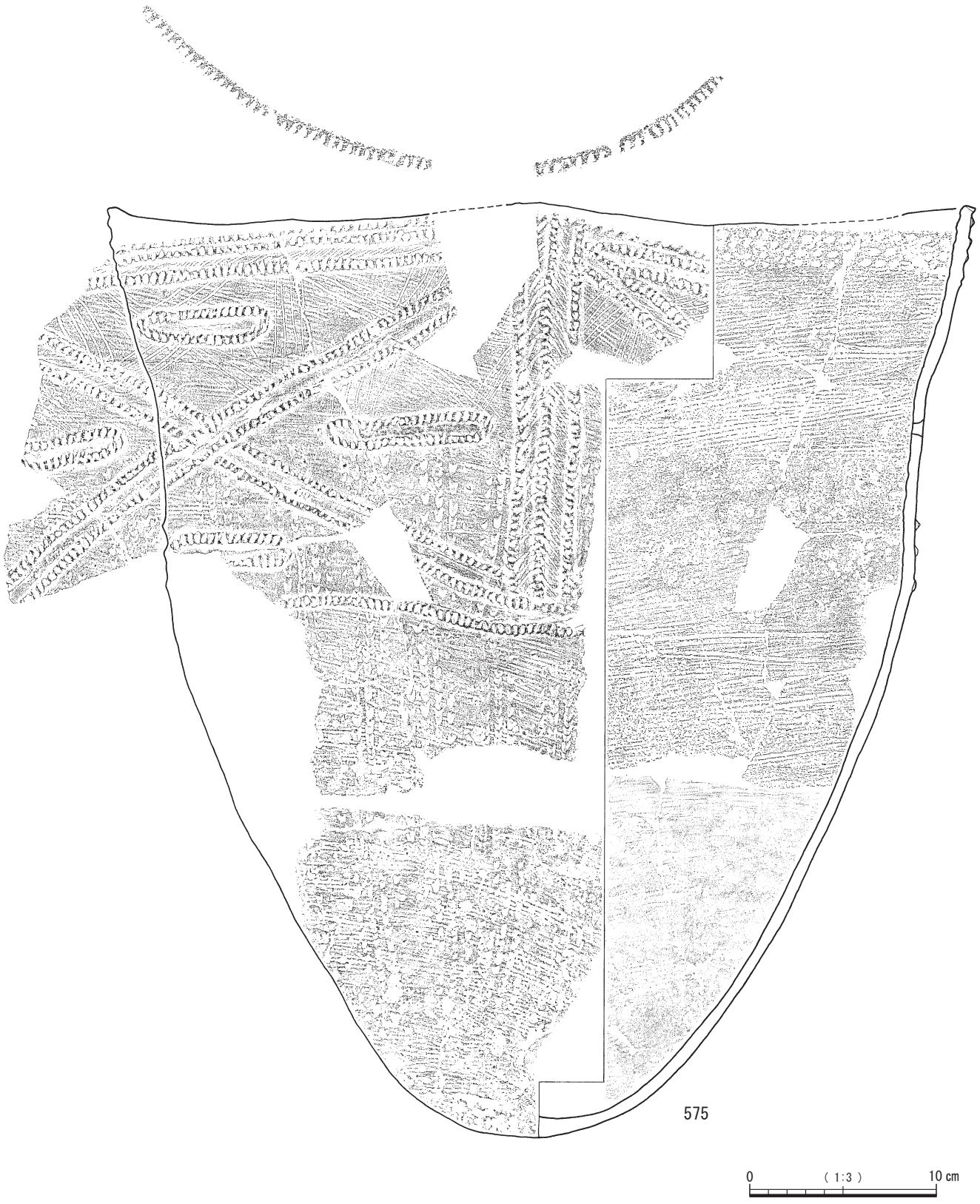
第144図　土器集中７（５号土器集中出土土器②）



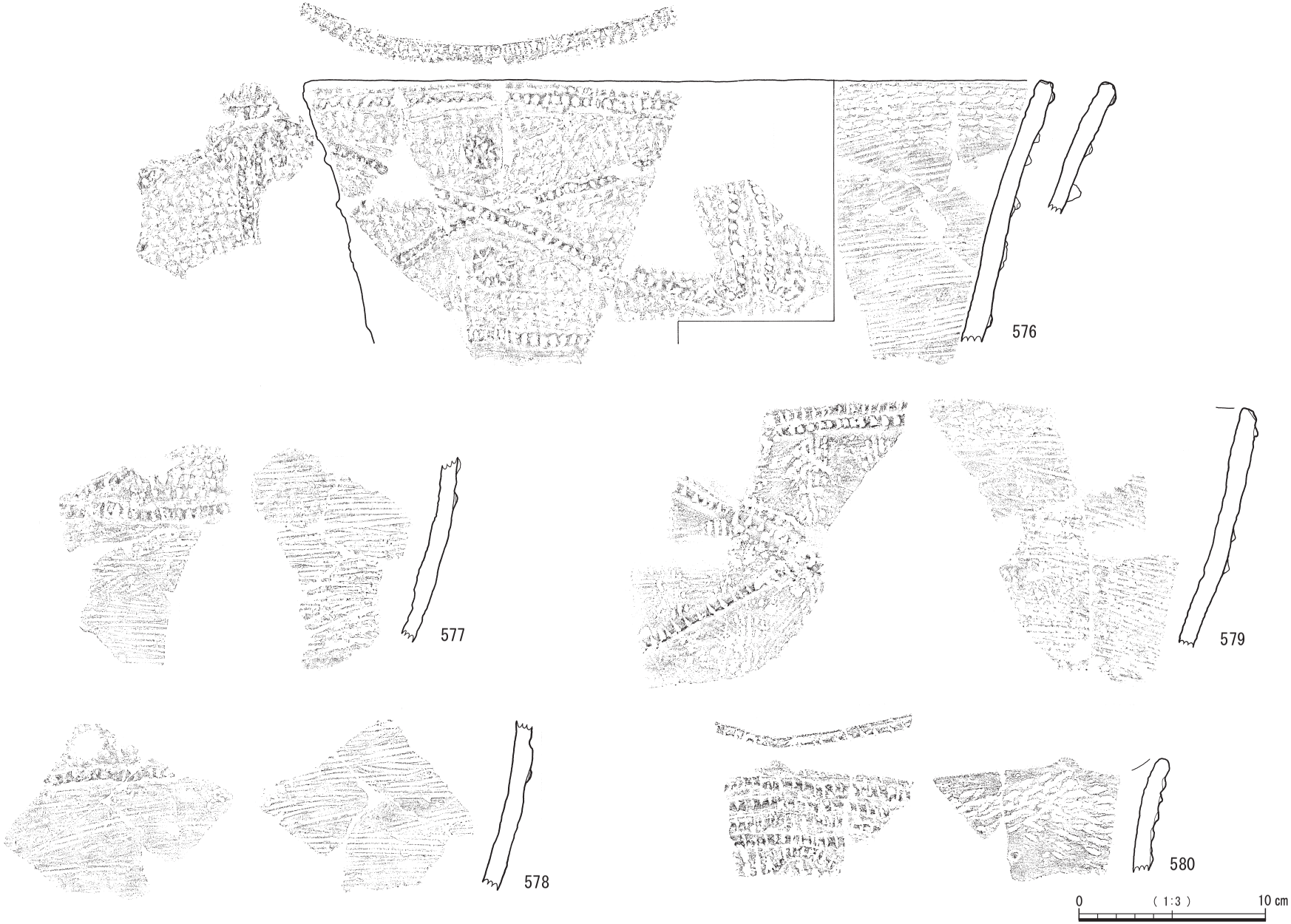
第145図　土器集中８（５号土器集中出土土器③）

が検出された。出土遺物については複数個体が想定されるが，遺物取上時の記録がないため確認することができなかった。

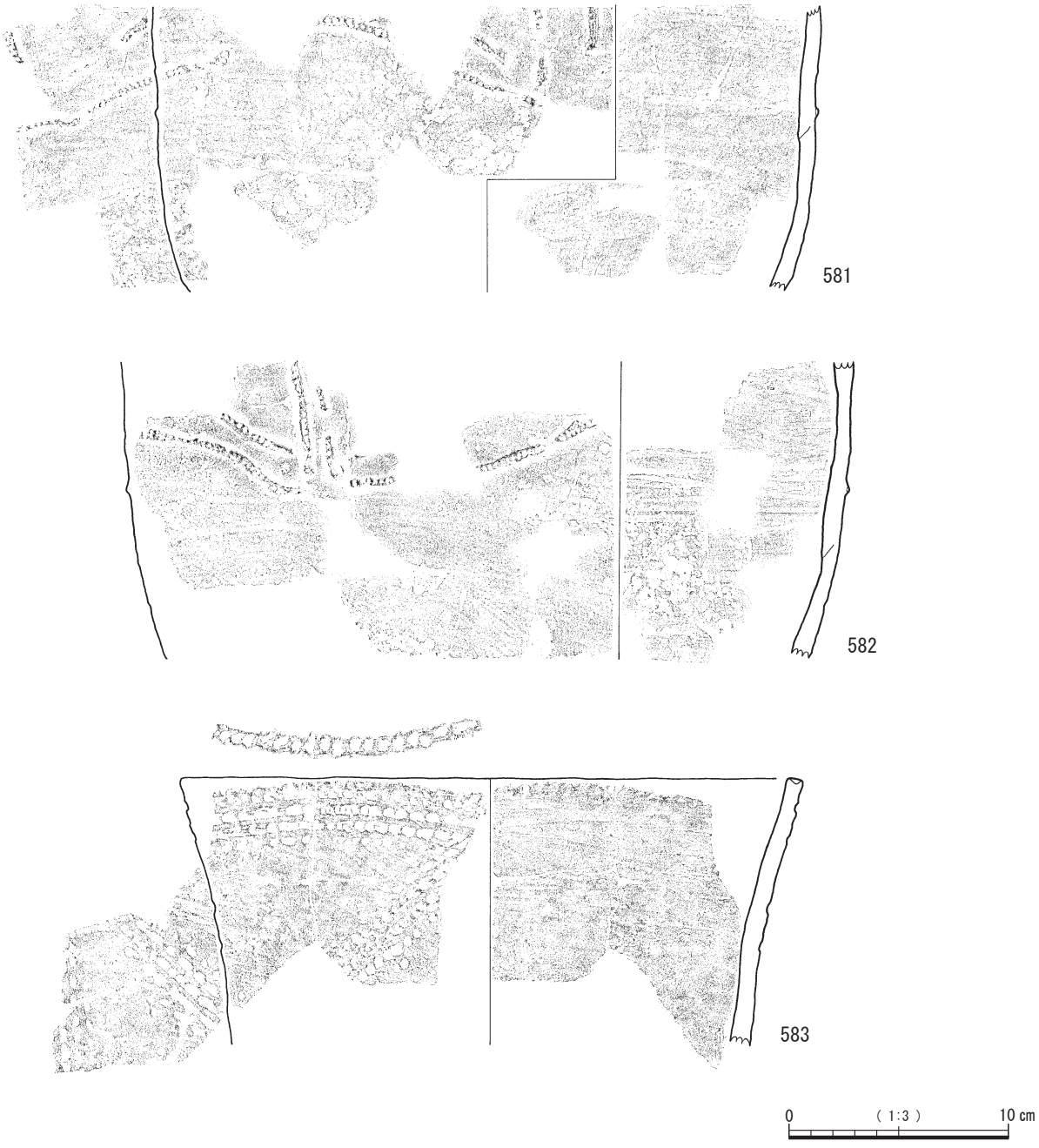
601は，完形に復元できた。口縁部は外反し，胴部はやや膨らみ，底部は丸底を呈する。口径は22.4㎝，器高は27.8㎝であり，４単位の波頂部に２つの山形突起を貼り付ける，波状口縁を呈する。口唇部は平坦に成形し，上面から棒状工具により刺突を行っている。口縁部外面には，先ず波頂部から２本１単位の縦位の刻目突帯を貼り付ける。その後，縦位の刻目突帯間に２段１単位の横位の刻目突帯，２本１単位の半円状の刻目突帯，複数の円形の突帯を貼り付ける。上位の半円状の刻目突帯の端部は蕨状を呈し，下位の半円状の刻目突帯の端部には，豆粒状の突起が貼り付けられる。また，下位の半円状の刻目突帯の中央にも，豆粒状の突起が２つ貼り付けられる。刻み目は棒状工具を用いて施し，米粒状を呈する。横位，半円状の刻目突帯間は，縦位の刺突で充填する。縦位の刻目突帯下から３本１単位の刺突列を縦位に２本施し，縦位の刺突列間を弧状の刺突列で充填する。器面調整は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。口縁部内



第146図　土器集中９（６号土器集中出土土器①）



第147図　土器集中10（６号土器集中出土土器②）



第148図　土器集中11（６号土器集中出土土器③）

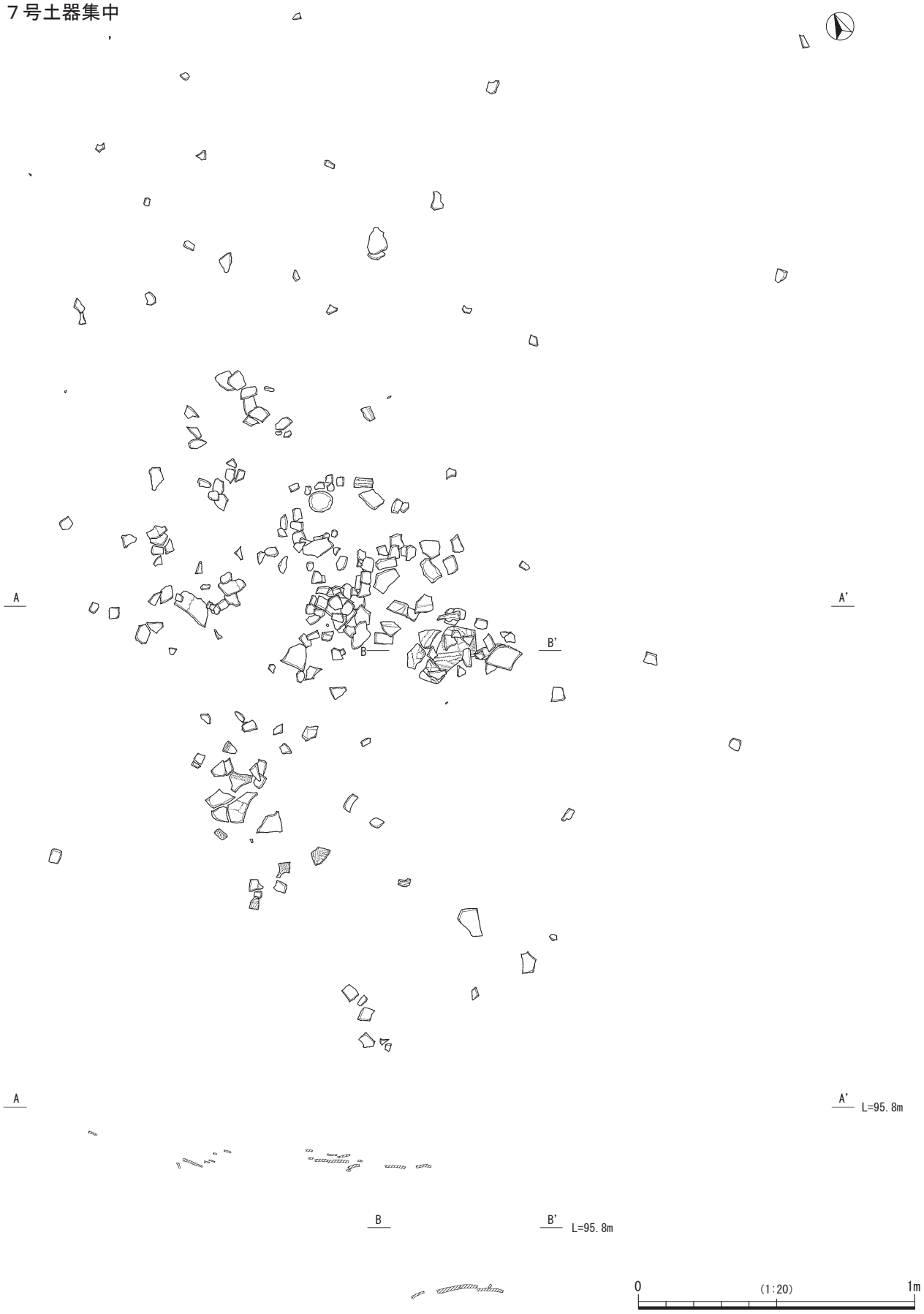
面には，押し引き状の刺突と短い刺突を横位に施す。貝殻条痕調整が明瞭に残る。Ⅱ－１－①類土器である。

９号土器集中（第153・156・157図）

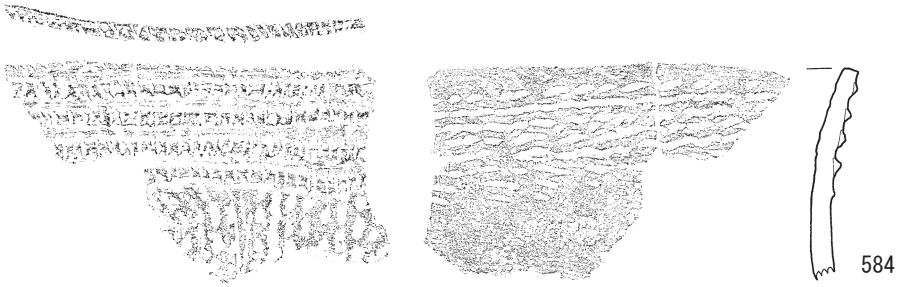
Ｄ－20区のⅣ層で検出された。８号土器集中の西側にある。範囲およそ直径0.7mの集中域の下から，ほぼ１個体からなる，範囲およそ0.6mの集中域が検出された。集中域は樹痕が多く，根の間に土器片がはまっている状況が見られた。

602は，完形に復元することができる。口縁部は外反し，頸部で僅かに括れ，胴部中央付近で膨らみ，丸底の底部に向けて曲線的に窄まる器形である。口径は24.6㎝，器高は28.7㎝である。外面は，刻目突帯を口縁部上位に横位に３段，頸部と胴部との境付近に横位に１段施し，その内部は刻目突帯で縦長の菱形のモチーフを描いている。さらに菱形の内部には，縦位の刻目突帯や円形の浮文や浅い沈線を施している。口唇部には棒状工具で刺突を施している。胴部には，二枚貝の腹縁部を器面に対して垂直にあて，縦位や斜位に押圧を行っている。内面は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内外面とも

７号土器集中

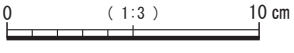


第149図　土器集中12（７号土器集中）

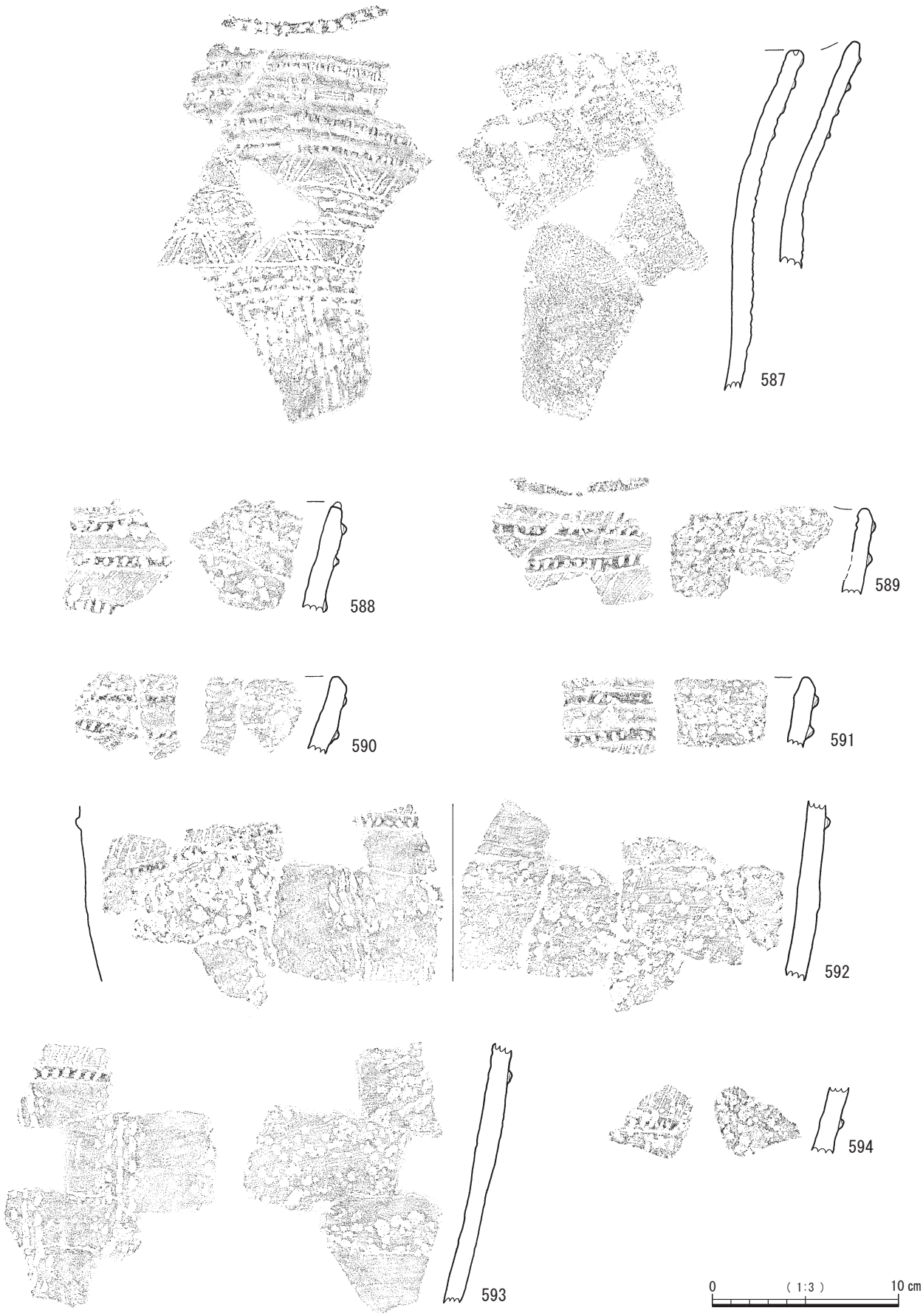




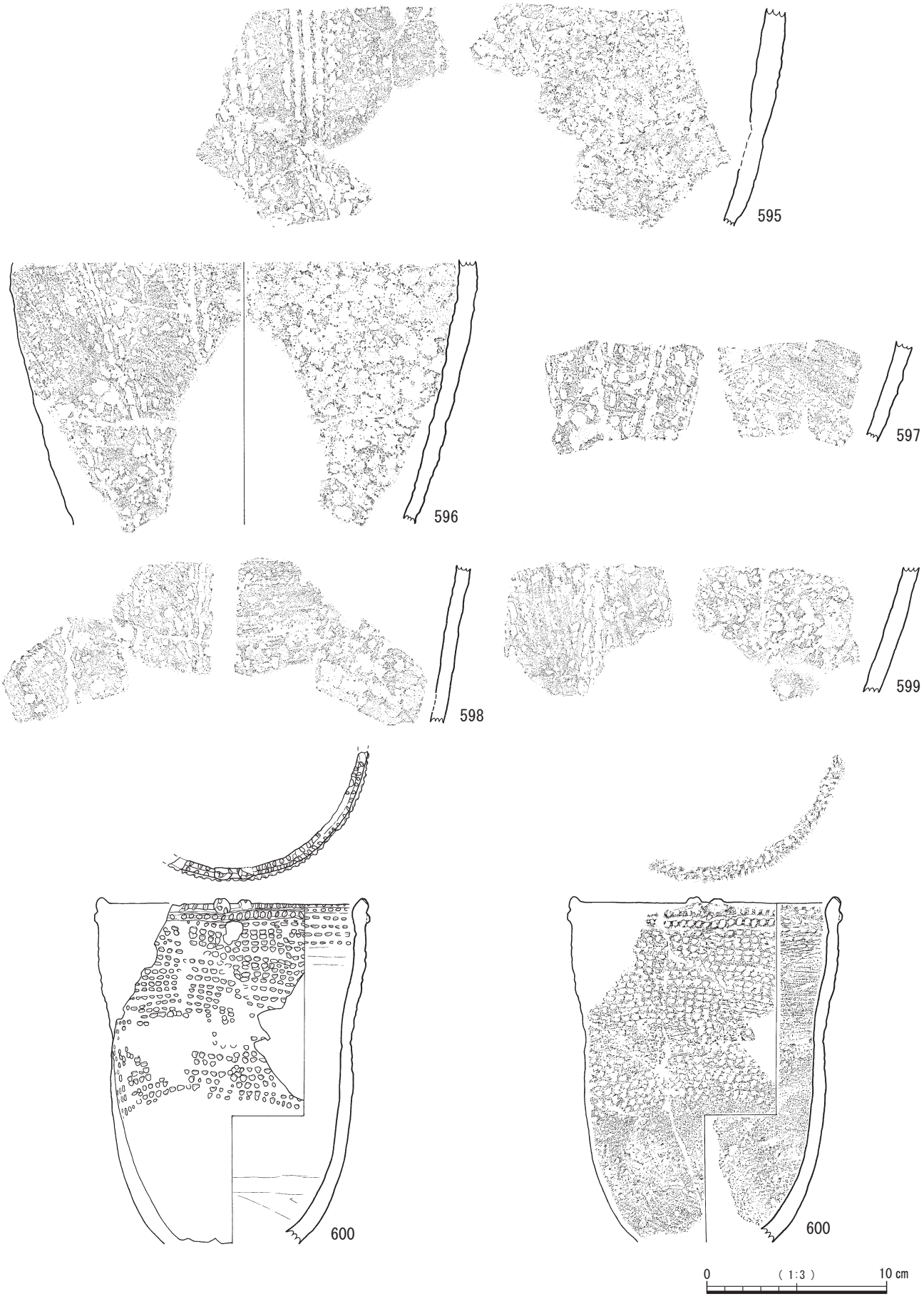




第150図　土器集中13（７号土器集中出土土器①）

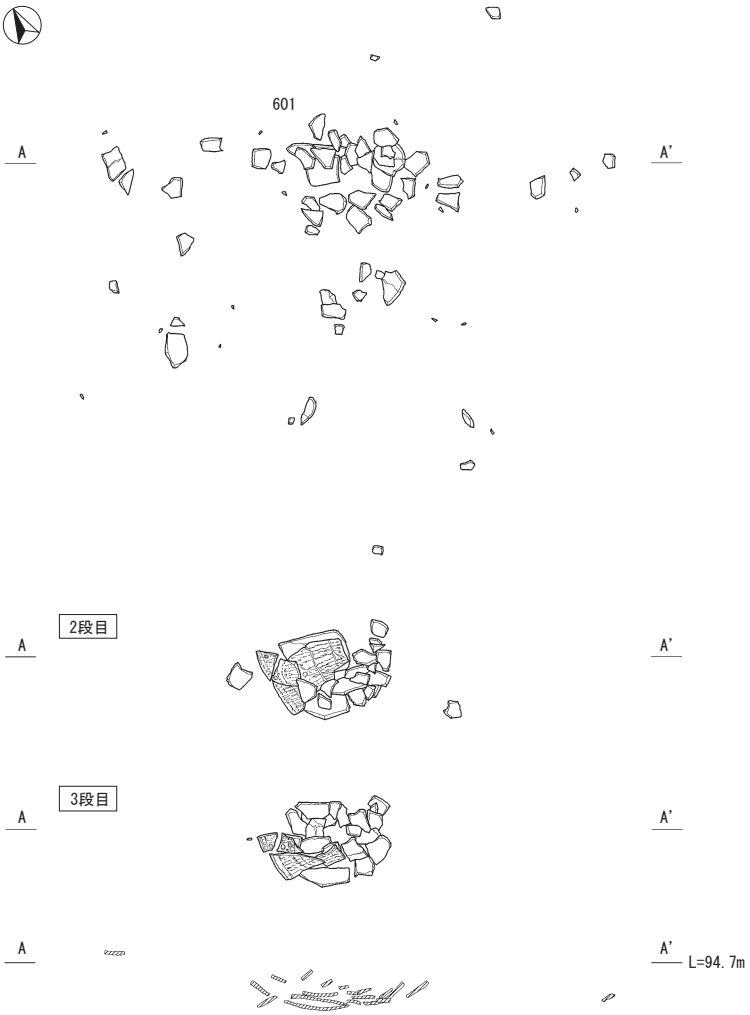


第151図　土器集中14（７号土器集中出土土器②）

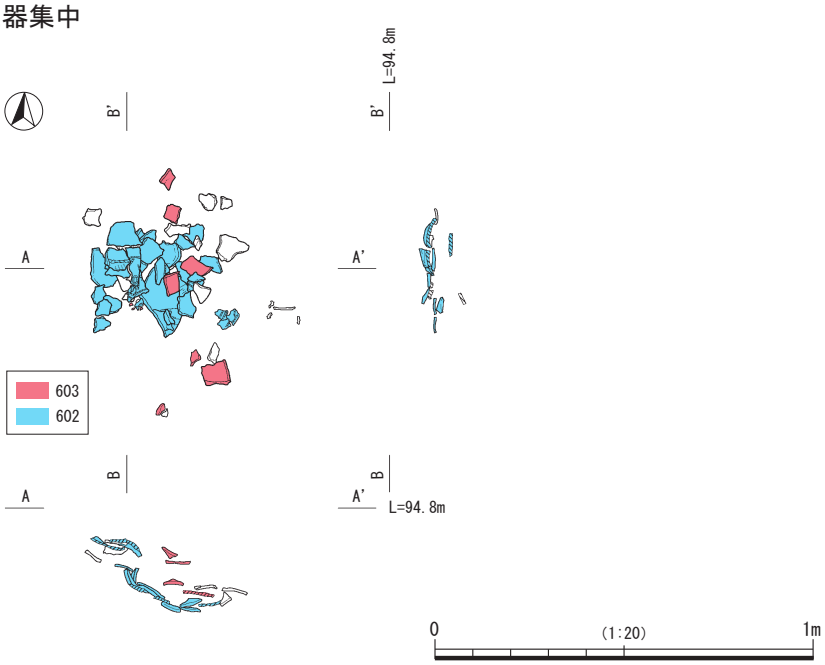


第152図　土器集中15（７号土器集中出土土器③）

８号土器集中



９号土器集中



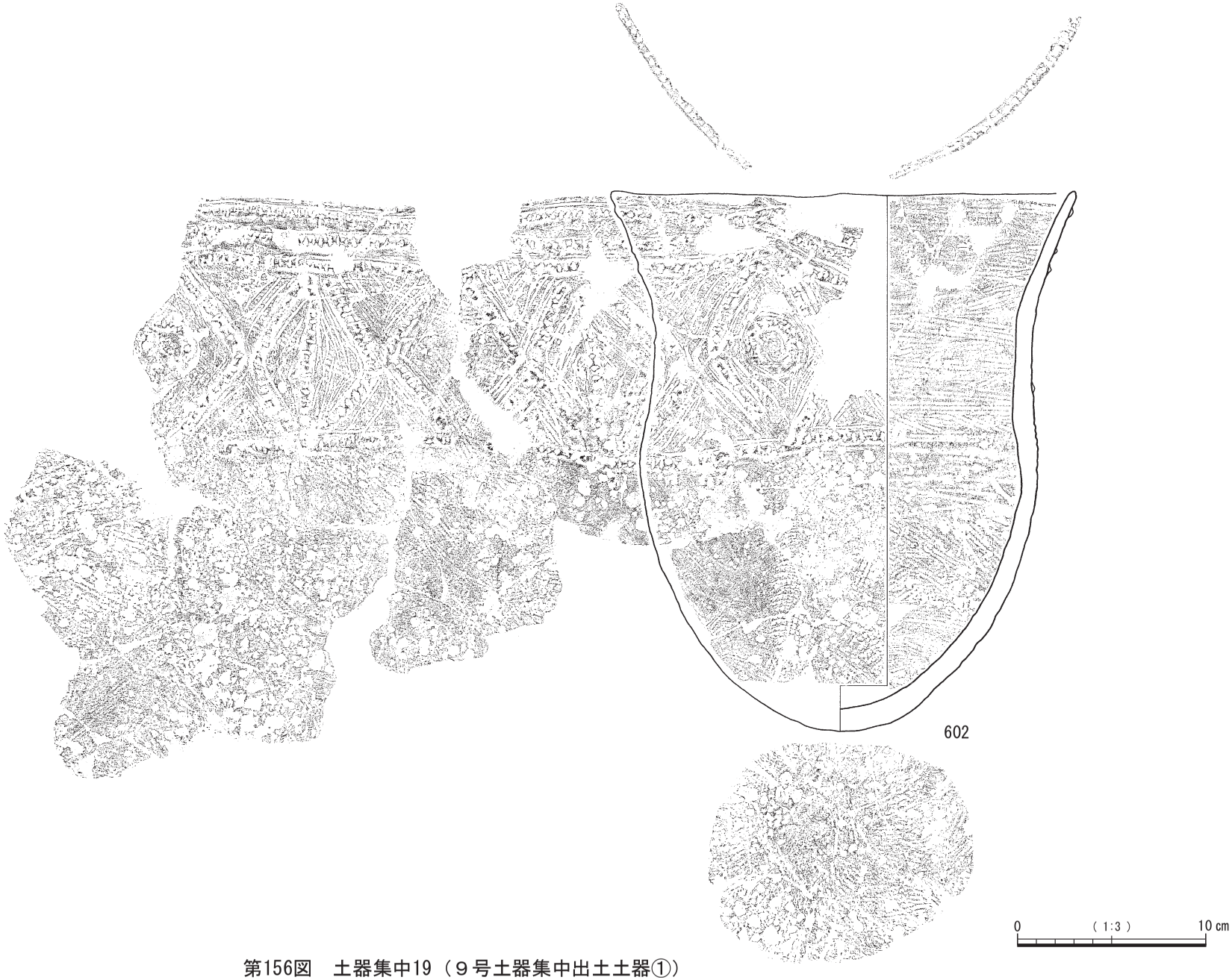
第153図　土器集中16（８・９号土器集中）



第154図　土器集中17（８号土器集中出土土器①）



第155図　土器集中18（８号土器集中出土土器②）



第156図　土器集中19（９号土器集中出土土器①）



第157図　土器集中20（９号土器集中出土土器②）

痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。

603は，丸底の底部である。外面には，貝殻の腹縁部による押圧を縦位や斜位に施している。内面は横位の貝殻条痕調整後，ナデを行っている。内外面とも痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－２－②類土器である。

（２）Ｂエリア（Ｈ－21・22区）

Ｈ－21・22区は調査区内の南西側で，Ａエリアより若干緩やかな傾斜が南東方向に続く地形をなす。土器集中遺構は１個体からなるものが４か所検出されている。

10号土器集中（第158・159図）

Ｈ－22区のⅣ層で検出された。本エリアの最も標高の高い場所に位置し，範囲はおよそ直径0.6mに収まる。集中域から出土した土器片はほぼ１個体である。

604は胴部片であり，外面には，単節縄文ＲＬを横位に施す。内面は，ナデを行っている。Ⅳ類土器である。

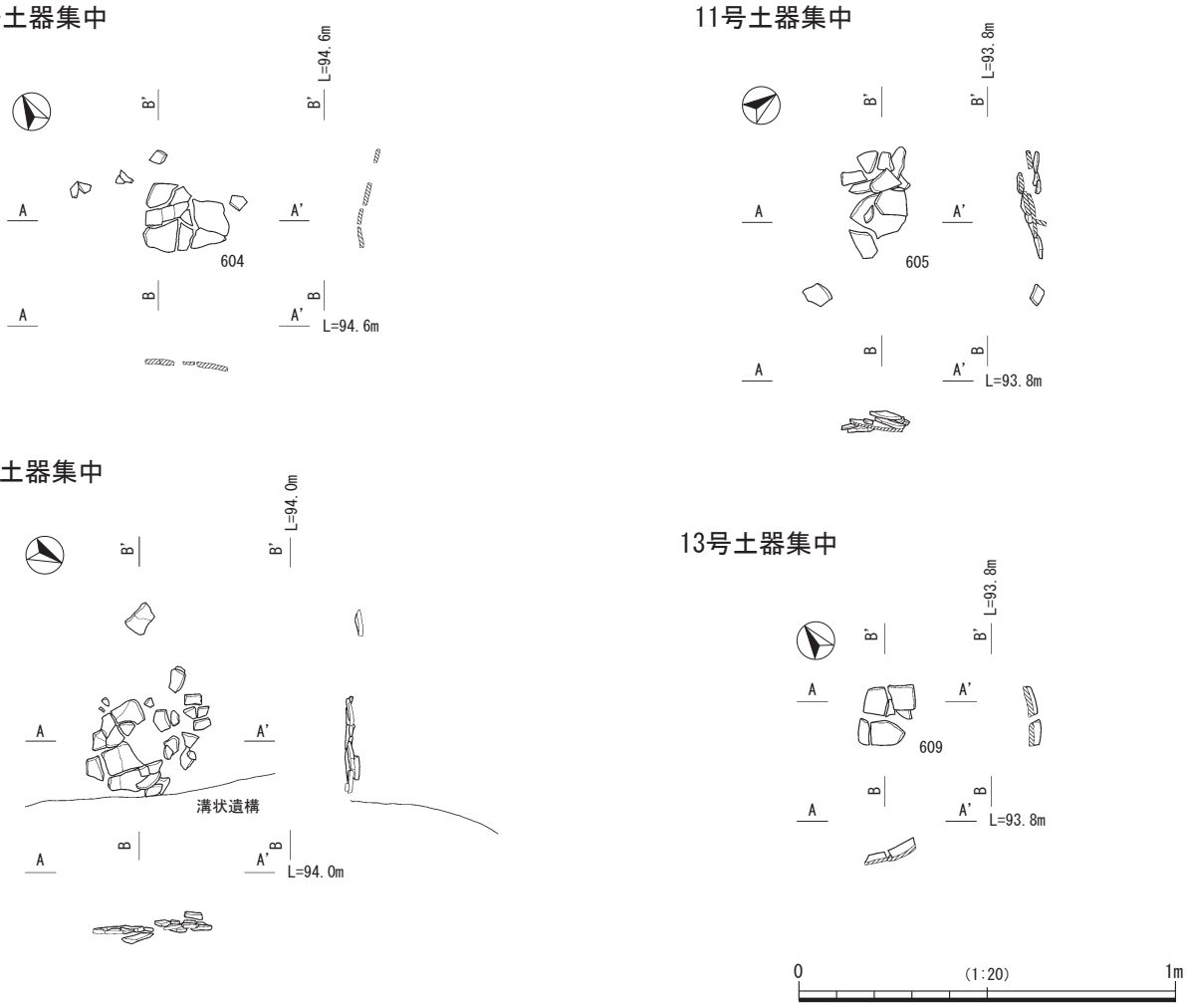
11号土器集中（第158・159図）

Ｈ－20区のⅣ層で検出された。12・13号土器集中より北方向に位置し，２つの土器集中より標高は0.1mほど高い。時期不明の溝状遺構（『細山田段遺跡１』で報告済み）のすぐ東側で検出され，範囲はおよそ直径0.5mに収まる。集中域から出土した土器片は，ほぼ１個体からなる。

605は，波頂部に円形の山形突起をもつ４単位の波状口縁を呈すると考えられる。口径は31.8㎝であり，外面は口縁部上位に刻目突帯を横位に２段施し，口縁部下位から胴下半部にかけて，縦位，斜位の刺突を施す。内面は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。痘痕状の剥落が確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。

12号土器集中（第158・160図）

Ｈ－21区のⅣ層で検出された。13号土器集中とともに本エリアの土器集中の中で最も標高の低い位置にあり，範囲はおよそ直径0.6mに収まる。時期不明の溝状遺構による削平のすぐそばで検出され，集中域の周辺にも土器や石器が散乱している。



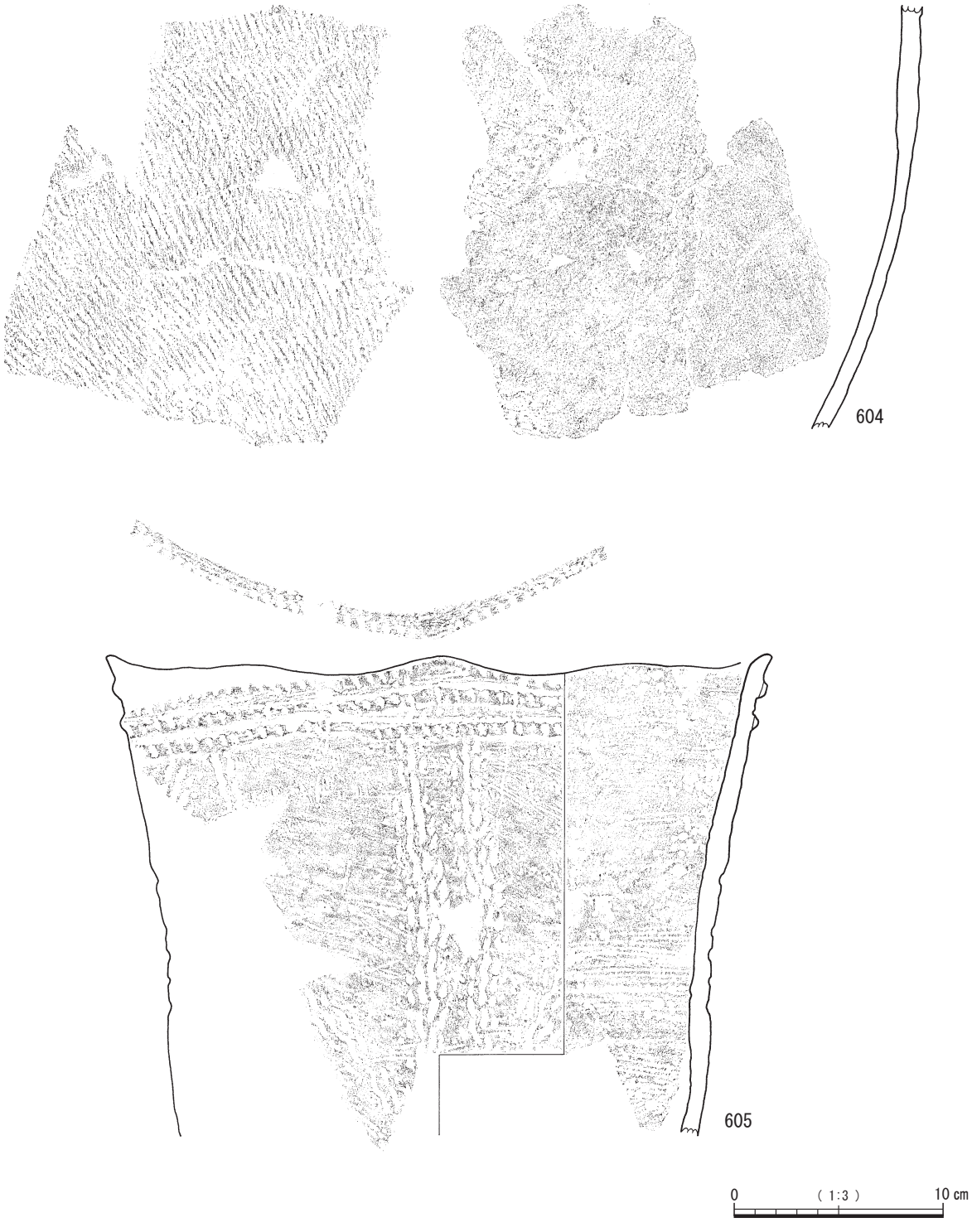
第158図　土器集中21（10～13号土器集中）

606～608は文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。606は口縁部である。外面には横位の突帯を施す。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っており，痘痕状の剥落が確認できる。607は胴部である。外面に横位の突帯を貼り付ける。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。608は，底部に近い胴下半部である。外面には，横位，斜位の貝殻条痕を施している。内面はナデを行っている。痘痕状の剥落が多く確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。

13号土器集中（第158・160図）

Ｈ－21区のⅣ層で検出された。12号土器集中とともに本エリアの土器集中の中で最も標高の低い位置にあり，範囲はおよそ直径0.2mに収まる。集中域からは，ほぼ１個体と想定される土器片が，内面上向きの状態で出土している。

609は，緩やかな波状口縁を呈する。外面は，縦位の沈線を密接に施し，口縁部上位には微隆線状の突帯を連弧状に貼り付け，波頂部より垂下したと考えられる縦位の突帯を施している。内面は，丁寧なナデを行っている。補修孔が１箇所確認できる。Ⅱ－１－②類土器である。



第159図　土器集中22（10・11号土器集中出土土器）



第160図　土器集中23（12・13号土器集中出土土器）

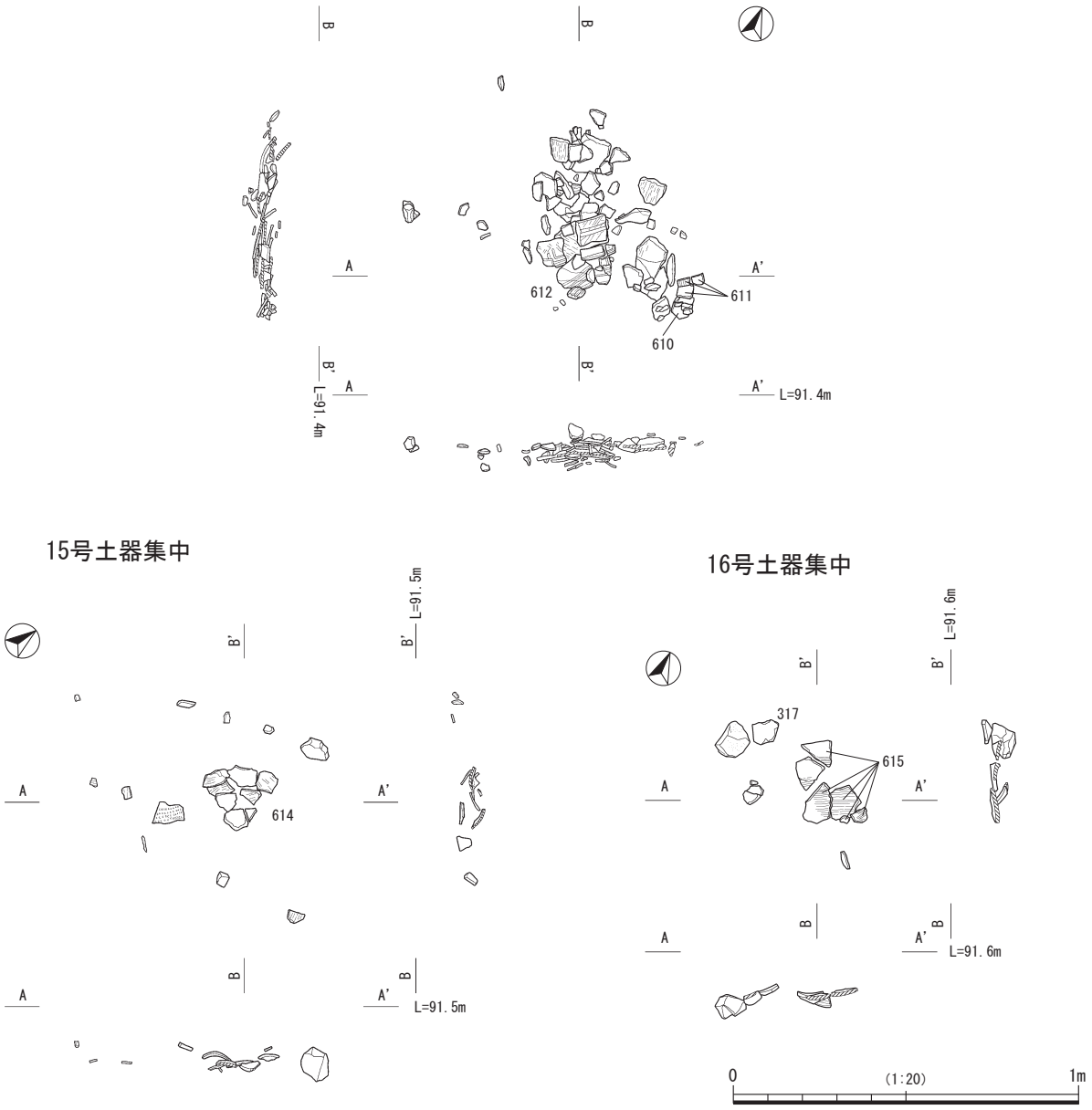
（３）Ｃエリア（Ｇ～Ｉ－14～18区）

Ｇ～Ｉ－14～18区は調査区内の南側で，北西側から南西側に向けて緩斜面が続く。本エリアの北側は大規模な削平が見られる。土器集中遺構は１個体からなるものが３か所，複数個体からなるものが２か所検出されている。

14号土器集中（第161・162図）

Ｉ－15・16区Ⅳ層で検出された。本エリアの土器集中の中で最も標高の低い位置にあり，範囲はおよそ直径0.8ｍに収まる。集中域の土器片は北側が内面上向き，南側は外面上向きの傾向が見られ，ほぼ１個体を構成する。

610～613は，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。610は口縁部である。外面に縦位の突帯を２本施した後，縦位の突帯の上端から横位の突帯を貼り付けている。突帯は断面形態が三角形もしくはカマボコ状を呈する。内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。611・612も610と同様に，縦位，横位の突帯を施している。613は口唇部は欠損するものの，ほぼ完形に復元できた。口縁部はやや外反し，胴部はやや膨らみながら胴下半部で屈曲して尖底の底部に至る。口縁部には断面形態が三角形状からカマボコ状を



第161図　土器集中24（14～16号土器集中）

呈する突帯を施す。縦位の突帯は欠損している部分が多いが，５本並んでいる。横位の突帯も５段施しており，最下段の突帯の端部は垂下する。内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。

15号土器集中（第161・163図）

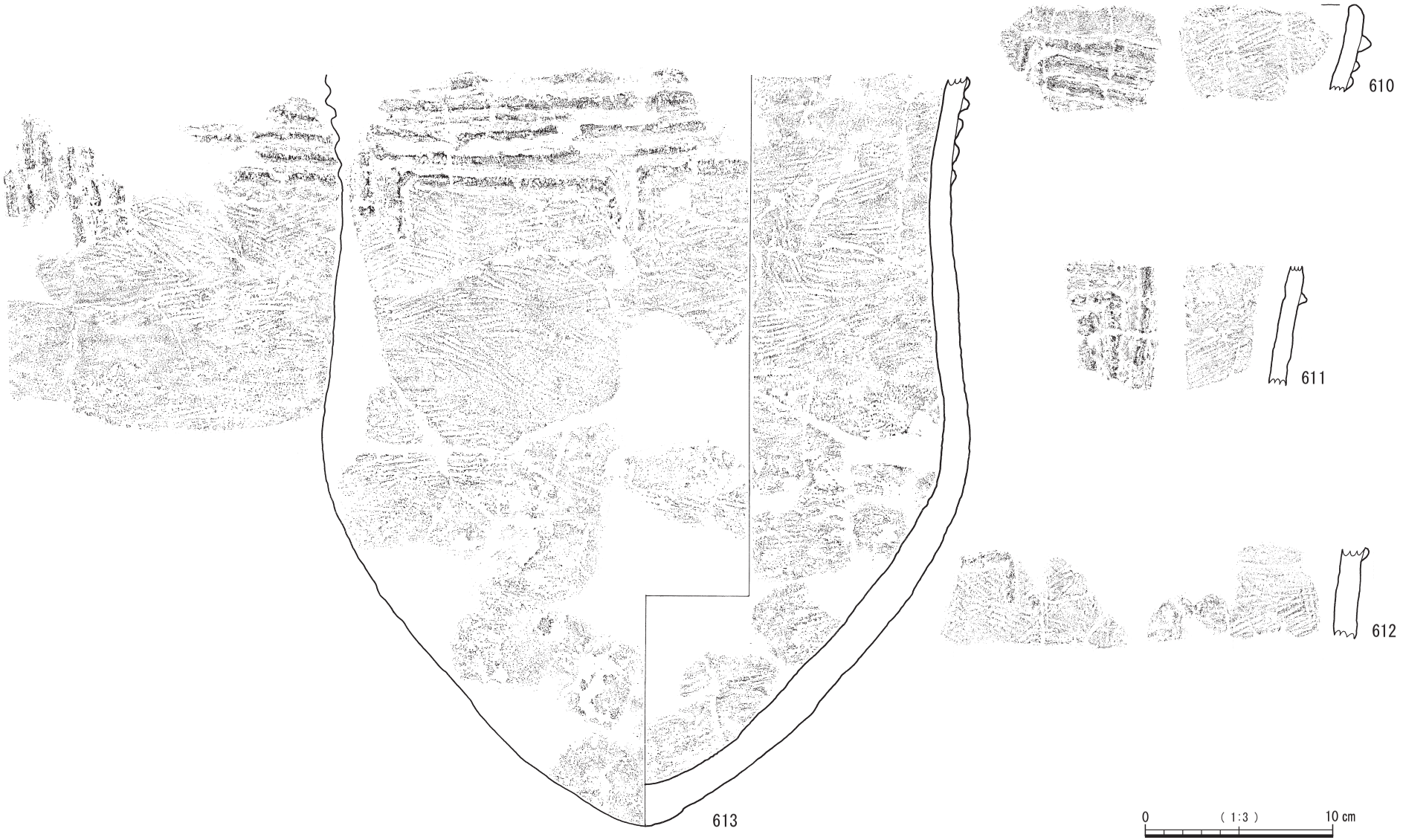
Ⅰ－16区のⅣ層で検出された。14号土器集中より若干標高が高い位置にあり，範囲はおよそ直径0.7ｍに収まる。集中域の土器片は西側が外面上向き，東側が内面上向きの傾向が見られ，ほぼ１個体を構成する。

614は，胴下半部で屈曲し，尖底の底部に向けて直線的に窄まる器形である。内外面ともに，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅲ類土器である。

16号土器集中（第161・163図）

Ｈ－14区のⅣ層で検出された。本エリアの１個体からなる土器集中の中では最も標高が高い位置にあり，範囲はおよそ直径0.5ｍに収まる。集中域の土器片はほとんどが内面上向きである。

615は，緩やかに外傾する口縁部であり，口径は30㎝である。口縁部外面に横位の突帯を４段施す。最下段の突帯は端部が垂下する。外面は斜位に，内面は横位に貝



第162図　土器集中25（14号土器集中出土土器）



第163図　土器集中26（15・16号土器集中出土土器）

殻条痕を施した後，ナデを行っている。Ⅱ－１－②類土器である。615に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4514±29^{14}C BPの値が得られた（IAAA-190550）。

17号土器集中（第164・165図）

Ｈ－18区のⅢ層で検出された。土器片の出土が広範囲に渡っており，範囲はおよそ直径1.7ｍに及ぶ。集中域の中央付近に口縁部と想定される外面上向きの大きな破片があり，その周囲に小さな破片が散らばっている。

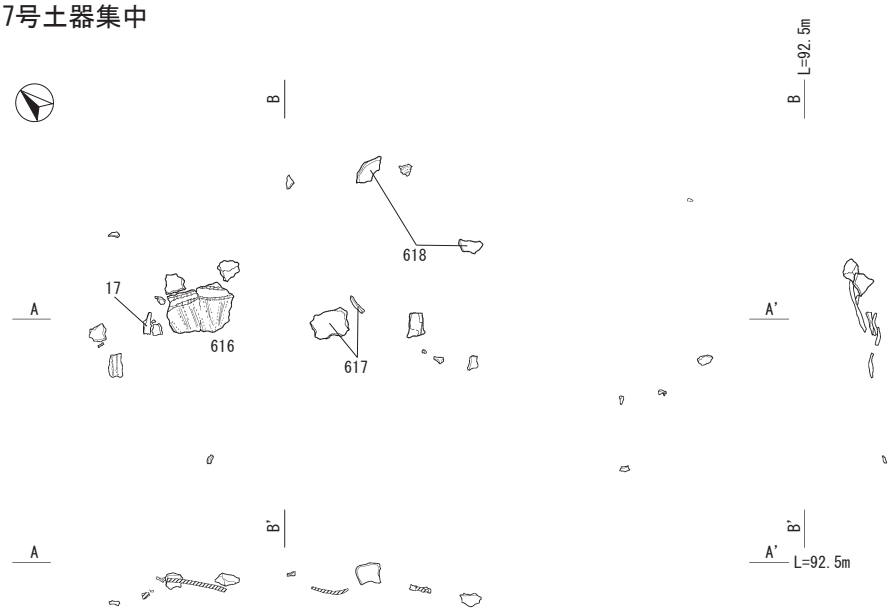
616は，波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口径は35.8㎝であり，口縁部外面に横位の刻目突帯を４段施し，胴部に縦位の刺突を施した後，その左右に刺突で重弧状のモチーフを描いている。内面は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。補修孔が１箇所確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。617は，胴部である。外面は，縦位の刺突を施し，内面は斜位の貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－２－①類土器である。618は，平底の底部である。底面から胴部にかけて緩やかに立ち上がる。内外面ともナデを行っている。Ⅲ類土器である。

18号土器集中（第164・166・167図）

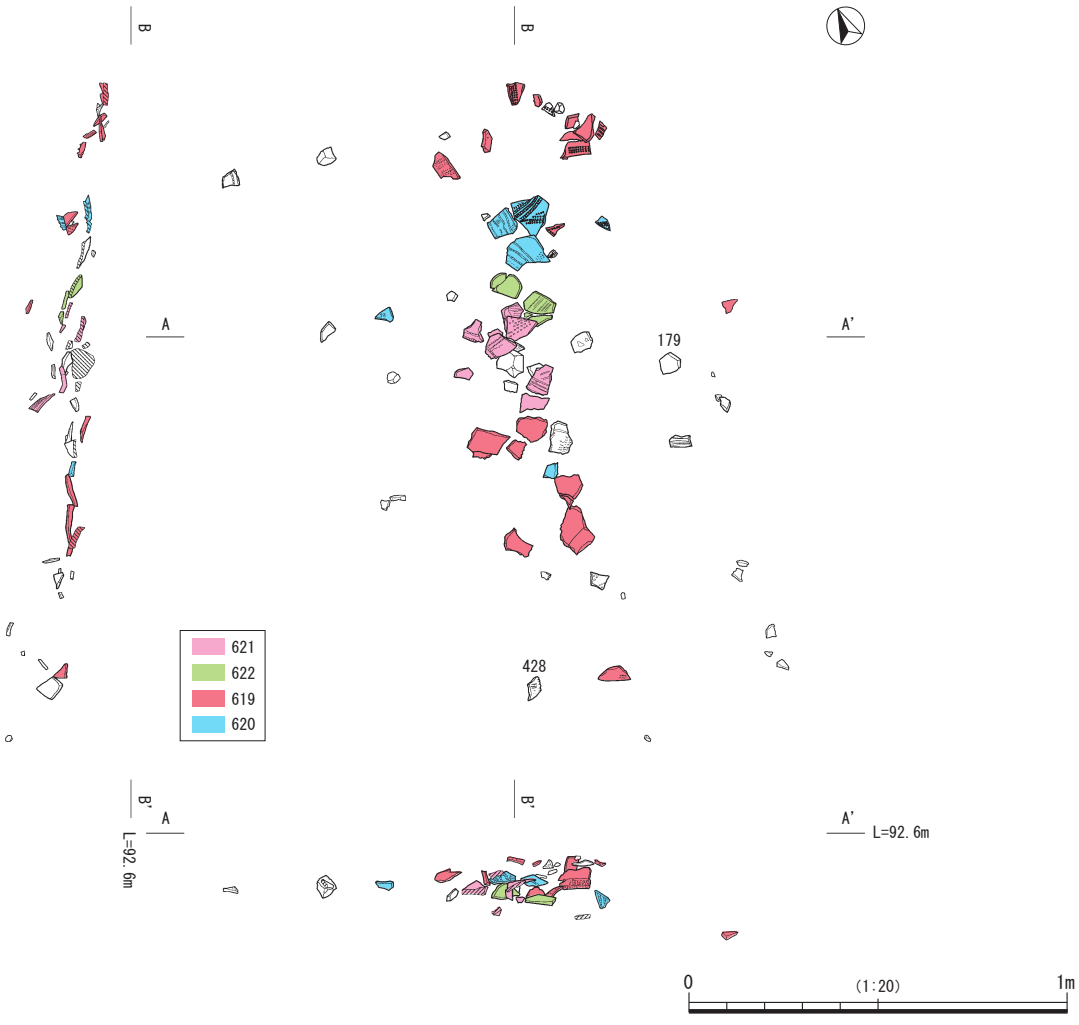
Ｇ・Ｈ－17・18区のⅣ層で検出された。本エリアの土器集中の中で最も標高の高い位置にある。集中域は南北に広がっており，北側は外面上向き，南側は内面上向きの傾向が見られる。範囲はおよそ直径1.8ｍに及ぶ。

619・620は接合はしなかったが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。619は口縁部から胴部下半まで復元できた。口縁部は外反し，頸部で緩やかに屈曲し，底部に向かって窄まる器形である。口径は32.8㎝であり，波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面に横位の刻目突帯を４段施し，胴部に縦位の刺突を施した後，その左右に刺突で縦長の菱形のモチーフを描いている。口唇部には棒状工具で刺突を施している。口縁部内面は，

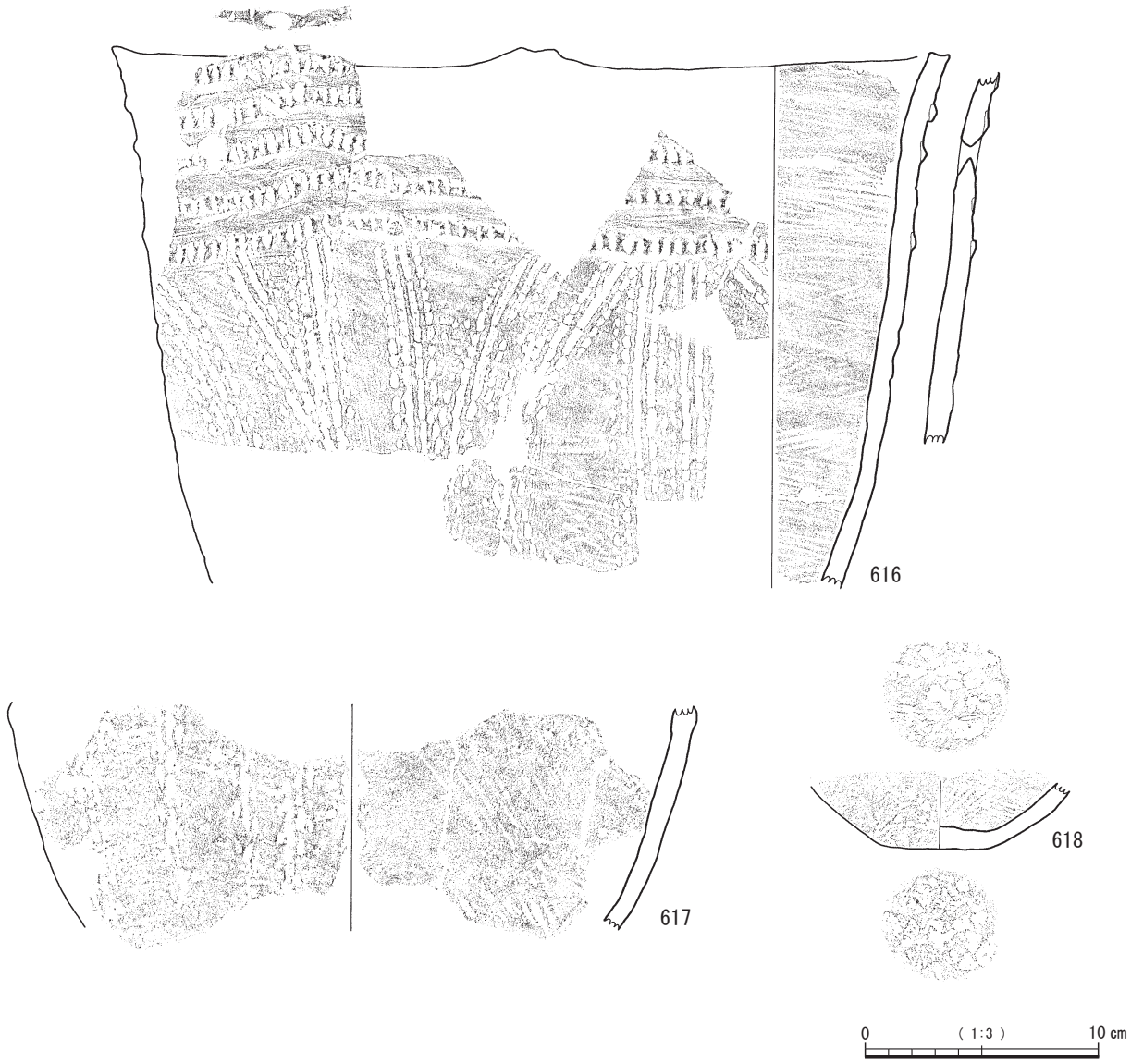
17号土器集中



18号土器集中



第164図　土器集中27（17・18号土器集中）



第165図　土器集中28（17号土器集中出土土器）

横位の刺突を施し，胴部内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。対となる外面より先に穿孔したと考えられる補修孔が確認できる。620は波頂部に山形突起をもつ緩やかな波状口縁を呈する。山形突起は，粘土紐を円形に貼り付けることにより作り出している。口縁部外面に横位の刻目突帯を４段施し，胴部に縦位の刺突を施した後，その左右に刺突で縦長の菱形のモチーフを描いている。口唇部には棒状工具で刺突を施している。口縁部内面は，横位の刺突を施し，胴部内面は貝殻条痕調整後，ナデを行っている。補修孔が１箇所確認できる。Ⅱ－１－①類土器である。620に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で4657±24^{14}C BPの値が得られた（PLD-30457）。

621・622は接合はしなかったが，文様，胎土，焼成等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。621は底部を除き完形に復元することができた。砲弾形の器形である。丸底の底部と考えられる。緩やかな波状口縁を呈し，口径は25.3㎝である。口縁部外面に横位の突帯を貼り付け，縦長の刻目を入れている。底部に近い胴下半部に横位の刺突を施す。刻目突帯と横位の刺突で割り付けられた胴部中央には，斜位の沈線や刺突を施している。内面は，貝殻条痕調整後，ナデを行っている。622は丸底の底部である。外面には，横位の刺突を施し，内面は横位の貝殻条痕調整後，ナデを行っている。Ⅱ－１－①類土器である。



第166図　土器集中29（18号土器集中出土土器①）



第167図　土器集中30（18号土器集中出土土器②）

第22表　土器集中出土土器観察表１

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
139	561	D-20/Ⅳ/DS08-001～003, 005, 006, 008～026 C-19/Ⅳ/13597 D-19/Ⅳ/2560, C-20/Ⅳ/9840 D-20/Ⅳ/2094, 2095, 2155, 3472, 3619, 3620, 3621, 5100, 5198, 5205, 5207, 5208, 5214, 5231, 5435, 5437, 5473, 5479, 5530, 7886 D-20/Ⅳ下/39081, 49903, 50062 D-19/Ⅰ/一括, D-20/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	完形	29.5	37.4	褐	にぶい赤褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○		○	○	○	○		2885
	562	C-20/Ⅳ/DS11-001, 003～009, 011, 013～015 C-18/Ⅳ/9368, 9533, 9538 C-19/Ⅳ/2655, 9560, 9600, 10493, 13598, 13599, 13601, 13602, 15771, 30817, 30818, 30821, 30825 D-19/Ⅳ/5629, 44390 D-19/Ⅳ下/45937, 45942 C-20/Ⅳ/1942, D-19/Ⅰ/一括 C-20/Ⅰ/一括, D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－②	口縁～胴部	33.7	(22.1)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		炭化物付着	2605
140	563	D-19/Ⅳ/DS10-001～005, 009 D-19/Ⅳ/2451, 2460, 5694, 7093, 7096, 7098, 7335～7337, 9913, 29170, 一括	Ⅱ－２－①	口縁～胴部	23.8	(25.3)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			620
	564	D-19/Ⅳ/DS10-005～007 D-19/Ⅳ/5695, 一括	Ⅱ－２－①	口縁～胴部		(17.0)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○			○			155
141	565	D-19/Ⅳ/DS17-005～007, 009～016 D-19/Ⅳ下/45105, 47842 D-20/Ⅳ/5346, 5393 E-19/Ⅰ/一括	Ⅱ－２－③	口縁～胴部	17.0	(22.7)	にぶい黄褐～黒褐	にぶい黄褐～黒褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			625
143	566	D-21/Ⅳ/DS03-001, 002, 004～010, 015～019, 025, 026, 031, 032, 042, 044, 045, 058, 061, 062 D-20/Ⅳ/2131, 3273, 5070, 5468, 9632	Ⅱ－１－①	完形	34.9	37.6	黒褐	黒褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○			1545
144	567	D-21/Ⅳ/DS03-027, 028, 038, 041, 047～049, 051～053, 057, 063 D-20/-/DS12-013～015, 018 D-21/-/SK213-015, 016, 023, 025 D-20/Ⅳ/7963, 10125 D-21/Ⅳ/3236, 3272, 3275, 4961, 4989, 7686, 7702 D-21/Ⅳ下/46007, D-21/Ⅴ/49278	Ⅱ－２－①	口縁～胴部	30.0	(28.2)	にぶい黄褐	明黄褐	－	－	○	○	○			○	○		1123
	568	D-21/Ⅳ/DS03-072～075 D-21/Ⅳ/3231, 3235, 4988 D-20/Ⅳ/1963	Ⅱ－２－①	胴部		(16.0)	にぶい橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○	○	○			○	○		559
	569	D-21/Ⅳ/DS03-020, 022, 024 D-21/Ⅳ/3260, 3296	Ⅱ－２－①	胴部		(10.8)	にぶい黄褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○			210
145	570	D-21/Ⅳ/DS03-039	Ⅱ－２－①	胴部		(5.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	－	－	○		○			○		軽石	45
	571	D-21/Ⅳ/DS03-070 D-20/Ⅳ/7784	Ⅱ－２－①	胴部		(4.7)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			35
	572	D-21/Ⅳ/DS03-036, 059	Ⅲ	胴部		(5.0)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○	○		83
	573	D-21/Ⅳ/DS03-033～035	Ⅲ	胴部		(5.7)	黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			56
	574	D-21/Ⅳ/DS03-050, 053～056 D-21/Ⅳ/9638	Ⅲ	口縁～胴部	18.8	(18.1)	赤褐	にぶい黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○			○		○	○		395
146	575	C-21/Ⅳ/DS07-007, 010, 011, 016, 019～021, 024, 025, 028, 029, 033, 035, 036, 038, 040, 042～050, 052, 054, 065, 067, 068, 070～073, 075, 076, 078, 080～082, 084, 086, 089, 090, 092, 095, 097, 099～103, 108, 109 C-20/-/DS12-045, 094, 095, 098, 109, 125, 130, 171, 206 D-21/Ⅳ/DS03-029 C-18/Ⅳ/2711, 9330, C-20/Ⅳ/1894 C-20/Ⅵ/52048, C-20/Ⅴ/52044, 52049 D-20/Ⅳ/2038, 3254, 5359, 7962, 一括 D-21/Ⅳ/1798, 1836, 3134, 3224, 3268, 3276, 3278, 3299, 4947, H-16/Ⅲ/19364 D-19/Ⅳ/一括, C･D-20/Ⅳ/一括 D-20/Ⅰ/一括, D-21/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	完形	46.3	49.5	にぶい橙	にぶい橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○	○	黒曜石	4100

第23表　土器集中出土土器観察表２

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
147	576	C-21/Ⅳ/DS07-008, 012, 013, 030, 031, 039 C-20/-/DS12-107, 108, 210 D-20/Ⅳ/2072 C-20/Ⅳ/一括, C・D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	40.0	(13.9)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○			○			497
	577	C-21/Ⅳ/DS07-006, 112 C-20/Ⅳ/9807	Ⅱ－１－①	胴部		(10.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ						○			95
	578	C-21/Ⅳ/DS-07-079, 085, 087	Ⅱ－１－①	胴部		(809.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○			100
	579	C-21/Ⅳ/DS07-098 D-20/Ⅳ/2067, 3201, 10126 D-21/Ⅳ/4974	Ⅱ－１－①	口縁部		(12.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○						180
	580	C-21/Ⅳ/DS07-060 G-22/Ⅳ/4081	Ⅱ－１－①	口縁部		(6.0)	灰褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ			○			○			73
148	581	C-21/Ⅳ/DS07-001, 037, 057 C-19/Ⅳ/9571, C-20/Ⅵ/9712, 52039 C-21/Ⅳ/9660, D-21/Ⅳ/3264 C-20/Ⅰ/一括, C･D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(13.0)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			260
	582	C-20/-/DS12-066, 104～106, 173 C-21/Ⅳ/DS07-088, 117, 一括 C-20/Ⅳ/1889, 9793, 一括 C-21/Ⅳ/9665 D-20/Ⅳ/2037, 7790	Ⅱ－１－①	胴部		(13.2)	黒褐	黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		軽石	360
	583	C-21/Ⅳ/DS07-004 C-18/Ⅳ/10102 C-20/Ⅳ/9736, 9826 D-20/Ⅳ/5167	Ⅱ－２－①	口縁～胴部	28.3	(12.1)	褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ			○			○			196
150	584	C-20/-/DS12-032 D-21/Ⅳ/1787, 3311	Ⅱ－１－①	口縁部		(8.4)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○			143
	585	C-20/-/DS12-048, 049, 074, 157, 163 D-19/Ⅳ/2543 D-20/Ⅳ/2021 C・D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	28.8	(27.7)	にぶい褐	褐	ナデ	ナデ	○		○			○	○	黒曜石	280
	586	C-20/-/DS12-020, 039, 041, 043, 052, 055～058, 061, 062, 160, 164, 166, 168, 170, 192, 205 C-20/Ⅳ/10119 C･D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	36.2	(16.5)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○			505
151	587	D-20/-/DS12-009 D-20/Ⅳ/3582, 7788, 7957, 7958	Ⅱ－１－①	口縁～胴部		(18.4)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○		黒曜石,軽石	250
	588	C-20/-/DS12-149	Ⅱ－１－①	口縁部		(5.8)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○	○		40
	589	C-20/-/DS12-179, 207	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			50
	590	C-20/-/DS12-078, 207	Ⅱ－１－①	口縁部		(4.1)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○			55
	591	C-20/-/DS12-200	Ⅱ－１－①	口縁部		(3.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			28
	592	C-20/-/DS12-115, 131, 132, 201, 一括 C･D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(9.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			217
	593	C-20/-/DS12-133, 136, 137 C･D-20/Ⅳ/一括	Ⅱ－１－①	胴部		(14.0)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	○		○			○			150
	594	C-20/-/DS12-181	Ⅱ－１－①	胴部		(3.7)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○			19
152	595	C-20/-/DS12-180, 182～184	Ⅱ－１－①	胴部		(12.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	－	○		○			○		軽石	204
	596	C-20/-/DS12-085, 086, 092, 185, 186, 189, 190, 205	Ⅱ－１－①	胴部		(14.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	－	○		○			○	○	黒曜石	257
	597	C-20/-/DS12-191, 192, 194	Ⅱ－１－①	胴部		(5.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○				○		55
	598	C-20/-/DS12-087, 088, 090 D-20/-/DS12-010	Ⅱ－１－①	胴部		(5.9)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○		○			○			90
	599	C-20/-/DS12-134, 135	Ⅱ－１－①	胴部		(7.0)	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	○	○	○			○	○		70
	600	C-20/-/DS12-022～026, 030, 031, 161 D-21/Ⅳ/3092	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	14.6	(19.2)	黒褐～にぶい黄橙	黒褐	貝殻条痕→ナデ	ナデ	○					○			305
154 155	601	D-20/-/DS13-021, 024, 025, 027～029, 031～033, 037, 069, 070, 074 D-20/Ⅳ下/DS22-041, 一括	Ⅱ－１－①	完形	22.4	27.8	褐灰	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			1515
156	602	D-20/Ⅳ下/DS22-009, 011～019, 021, 023～025, 028, 042～044, 047, 048, 050～052, 056～067 D-20/-/DS13-042 D-20/Ⅳ/7522, 7541, 45495	Ⅱ－１－①	完形	24.6	28.7	にぶい赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			1798

第24表　土器集中出土土器観察表３

挿図番号	掲載番号	区/層/取上番号	分類	部位	法量(cm)		色調		調整		胎土							備考	重量(g)
					口径	器高	外面	内面	外面	内面	白色粒子	赤色粒子	角閃石	雲母	石英	長石	小礫		
157	603	D-20/-/DS13-010, 021, 022, 038, 070 D-20/Ⅳ下/DS22-001, 020, 031, 049 D-20/Ⅳ下/DS25-006, 008 D-20/Ⅳ/5459, 5525, 5541, 5542, 7552, 7853, 7898, 7899 D-20/Ⅳ下/39070, 49901	Ⅱ－２－②	胴～底部		(17.8)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			820
159	604	H-22/Ⅳ/DS02一括	Ⅳ	胴部		(20.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○	○		425
	605	H-20/-/DS05一括 H-20/Ⅳ/6404	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	31.8	(22.9)	赤褐	赤褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			575
160	606	H-21/Ⅳ/DS01一括	Ⅱ－１－②	口縁部		(7.8)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			30
	607	H-21/Ⅳ/DS01一括	Ⅱ－１－②	胴部		(6.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		黒曜石	37
	608	H-21/Ⅳ/DS01一括, 1692	Ⅱ－１－②	胴～底部付近		(11.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	貝殻条痕	ナデ	○		○			○		黒曜石	240
	609	H-21/-/DS06一括 H-21/Ⅳ/9444, H-22/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－②	口縁部		(14.1)	褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○		黒曜石, 補修孔	275
162	610	I-15・16/Ⅲ/DS18-060	Ⅱ－１－②	口縁部		(4.5)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			48
	611	I-15・16/Ⅲ/DS18-058, 064, 065	Ⅱ－１－②	胴部		(6.4)	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○	○		35
	612	I-15・16/Ⅲ/DS18-006	Ⅱ－１－②	胴部		(4.9)	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○		○	○			61
	613	I-15・16/Ⅲ/DS18-001～003, 007, 010～014, 016, 018～022, 025～028, 030～038, 041, 043～045, 050, 051, 053～055, 059, 063, 064, 070, 071, 073～075, 077, 078, 081～085, 087～091, 098～100 H-17/Ⅳ/25279 I-15/Ⅲ/20638 I-15/Ⅳ/23127, 40350, 41295 I-16/Ⅲ/18263 I-16/Ⅳ/27936, 27937, 41335, 41336, 41340, 41342, 41802, 43290	Ⅱ－１－②	胴～底部		(39.8)	にぶい黄橙	灰黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		黒曜石	2375
163	614	I-16/Ⅳ/DS19-003～008, 012～014, 29431, 36605	Ⅲ	胴～底部		(12.3)	にぶい褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○	○		○			340
	615	H-14/Ⅳ/DS20-001, 003～005	Ⅱ－１－②	口縁部	30.0	(18.9)	灰黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○	○	黒曜石, 炭化物付着	320
165	616	H-18/Ⅳ/DS15-001～003, 005 H-17/-/SK165一括 G-18/-/SK180-022 D-20/Ⅳ/5550 G-21/Ⅳ/10656, 一括 H-17/Ⅳ/42864 H-18/Ⅳ/11242 I-17/Ⅱ/17756 H-17/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	35.8	(23.0)	灰褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○		補修孔	720
	617	H-18/Ⅳ/DS15-016, 038 H-18/Ⅳ/48555	Ⅱ－２－①	胴部		(9.7)	にぶい橙	にぶい黄橙	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		軽石	140
	618	H-18/Ⅳ/DS15-017, 022	Ⅲ	底部		(2.9)	にぶい褐	黄褐	ナデ	ナデ	○		○			○			106
166	619	G・H-17・18/-/DS23-001, 007, 008, 010, 012, 015, 016, 022, 047, 049, 059, 064, 065, 069, 073～077, 101, 一括 G-18/Ⅳ/43101, 43106, 44924, 44925, 45579～45581, 45586, 45649, 46284, 48211 H-18/Ⅳ/11260, 45651 G-18/Ⅰ/一括, H-18/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	32.8	(34.8)	にぶい橙	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			○		補修孔	1375
	620	G・H-17・18/-/DS23-014, 040, 052～054, 067 H-18/-/SK236-009 I-17/Ⅳ/24355 G-18/Ⅳ/43102, 44922, 45643, 54470 G-18/Ⅵ/54488, H-18/Ⅳ/45006, 一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	32.8	(20.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○		補修孔, 炭化物付着	585
167	621	G・H-17・18/-/DS23-002, 035, 037, 038, 057, 062, 091, 100 H-17/Ⅳ/46118, I-17/Ⅲ/43506 G-18/Ⅳ/45037, H-17/Ⅰ/一括	Ⅱ－１－①	口縁～胴部	25.3	(24.4)	褐	にぶい褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			665
	622	G・H-17・18/-/DS23-056, 063	Ⅱ－１－①	胴～底部		(10.0)	褐	褐	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○		○			○			146

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（35）
東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

細 山 田 段 遺 跡 2（第1分冊）

縄文時代前・中期編

発 行 年 月　2021年３月
編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番1号
ＴＥＬ　0995-70-0574　　ＦＡＸ　0995-70-0576
印　　刷　株式会社イースト朝日
〒891-0122　鹿児島県鹿児島市南栄３丁目30-7
ＴＥＬ　099-266-5522　　ＦＡＸ　099-266-5523


鹿児島県